

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-108658

(P2020-108658A)

(43) 公開日 令和2年7月16日(2020.7.16)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 F 5/04 (2006.01) A 6 3 F 5/04 6 2 0 2 C 0 8 2
 A 6 3 F 5/04 6 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 338 頁)

(21) 出願番号	特願2019-410 (P2019-410)	(71) 出願人	598098526
(22) 出願日	平成31年1月7日 (2019.1.7)		株式会社ユニバーサルエンターテインメント
			東京都江東区有明三丁目7番26号 有明フロンティアビルA棟
		(74) 代理人	100145698
			弁理士 清水 俊介
		(72) 発明者	大瀬良 宏明
			東京都江東区有明3丁目7番26号
		Fターム(参考)	2C082 AB04 AB06 AB12 AB16 AB32
			AB56 AB70 AC14 AC23 AC27
			AC30 AC32 AC34 AC38 AC47
			AC52 AC55 AC64 AC65 AC74
			AC75 AC77 AC82 BA13 BA17
			BB02 BB16 BB55 BB78 BB80
			BB93 BB94

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】 (修正有)

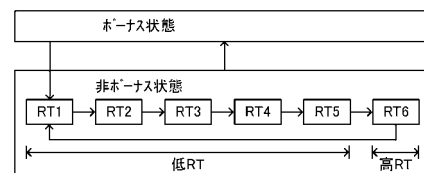
【課題】終了時に関連する情報がリセットされてしまう状態が複数回終了した場合に救済措置としての天井を発動可能な遊技機を提供する。

【解決手段】通常区間において有利区間への移行抽籤を行っており、この移行抽籤に当籤すると有利区間のCZに移行する。また、有利区間のCZにおいて、ARTへの移行抽籤を行っており、この移行抽籤に当籤すると有利区間のARTに移行する一方で、有利区間のCZにおいて終了条件を満たすとARTに移行することなく有利区間を終了する。また、有利区間の終了に伴い有利区間に関する情報をリセットするが、通常区間から有利区間に移行するたびにRT状態を変化させていくことで、RT状態からCZのスルー回数を把握し、スルー回数に基づく天井を発動可能にする。

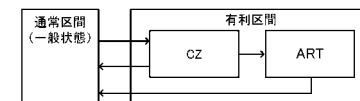
【選択図】図103

有利区間移行を用いた天井制御

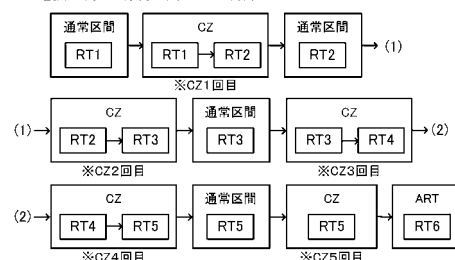
(A) RT状態の遷移フロー



(B) 報知状態(有利区間)の遷移フロー



(C) 遊技の流れ(有利区間の天井制御)



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段と、を備える遊技機であって、

再遊技役が当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として複数段階の R T 状態を有するとともに、

遊技に関する遊技状態として、通常状態と、第 1 所定状態及び当該第 1 所定状態よりも遊技者にとって有利な第 2 所定状態とを少なくとも含む所定状態と、を有し、

現在の R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行可能な R T 制御手段と、

R T 状態を移行させるために必要な情報を報知可能な報知手段と、

前記通常状態において第 1 条件が満たされると、前記第 1 所定状態に遊技状態を移行可能な第 1 状態制御手段と、

を更に備え、

前記報知手段は、前記第 1 状態制御手段により前記遊技状態が前記第 1 所定状態に移行すると、R T 状態を現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な情報を報知可能であり、

前記第 1 所定状態において第 2 条件が満たされると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行可能、かつ、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行可能な第 2 状態制御手段、

を更に備え、

前記第 2 状態制御手段は、

所定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行する一方で、

所定段階目よりも先の特定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされない場合であっても、前記通常状態に遊技状態を移行することなく、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行する、

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記第 2 状態制御手段は、

前記所定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に所定期間が経過すると、前記終了条件が満たされたとして、前記通常状態に遊技状態を移行し、

前記特定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記所定期間又は前記所定期間よりも短い特定期間が経過すると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行する、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

全遊技期間における前記所定状態中の期間が所定割合になるように遊技状態が制御される遊技機であって、

前記第 1 状態制御手段は、前記通常状態において、遊技状態を前記第 1 所定状態に移行すると所定の確率で決定すると、前記第 1 条件が満たされたとして、前記第 1 所定状態に遊技状態を移行する、

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

【 0 0 0 1 】

本発明は、遊技機に関する。

【 背景技術 】

【 0 0 0 2 】

従来、遊技者により、メダルやコインなどの遊技媒体が投入（以下、「投入操作」という。）され、スタートレバーが操作（以下、「開始操作」という。）されると、複数の図柄がそれぞれの表面に配された複数のリールの回転が開始し、ストップボタンが操作（以下、「停止操作」という。）されると、複数のリールの回転が停止し、その結果表示された図柄の組合せに応じて特典が付与される、いわゆるパチスロ機と称される遊技機が知られている。

10

【 0 0 0 3 】

このような遊技機においては、開始操作をスタートスイッチにより検出すると、乱数値を抽出して抽籤を行う（以下、この抽籤の結果を「内部当籤役」という。）とともに、ステッピングモータを駆動制御して複数のリールの回転を開始させる制御を行い、停止操作をストップスイッチにより検出すると、ステッピングモータを駆動制御し、内部当籤役に基づいて複数のリールの回転を停止させる制御を行う。

【 0 0 0 4 】

また、近年、内部当籤役に決定された役を取りこぼすことがないように、内部当籤役を成立させるための情報など遊技者にとって有利な情報を、遊技者に対して報知する遊技機が知られている。なお、このように遊技者が有利となるような情報を報知することを、一般にナビする（ナビを行う）などといい、ナビが行われる期間を A T (assist time) という。

20

【 0 0 0 5 】

このような A T 機能を有する遊技機において、長期間にわたって A T 機能が発動しない場合には、遊技者は著しく不利な状況に陥り、遊技に対する興味を失ってしまう。そこで、A T 機能が発動しないまま一定期間が経過した場合に、救済措置として A T 抽籤の結果に関係なく A T 機能を発動する遊技機（所謂、天井）が知られており、例えば、特許文献 1 には、天井に到達するまでの期間を固定せず変化をつけることで、稼働の向上を狙った遊技機が記載されている。

【 0 0 0 6 】

30

このような救済措置としての天井を発動させる場合、天井に到達するまでの期間は任意に設定することができ、例えば、所定回数の遊技が行われた場合に天井を発動させるゲーム数天井や、A T 抽籤が優遇されるチャンスゾーン（C Z）を所定回数行ったにもかかわらず A T 機能が発動しない場合に天井を発動させるスルー回数天井といった方法などが知られている。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 7 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 1 7 - 0 6 4 5 3 9 号 公 報

【 発明の概要 】

40

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 8 】

ところで、近年の遊技機では、通常区間よりも遊技者にとって有利な状態（所謂、有利区間）を終了させる場合、終了させる有利な状態に関する全ての情報をリセット（初期化）しなければならない、このような遊技機では、有利区間（C Z）をスルーした回数を把握することができず、従来のスルー回数天井のような有利区間のスルー回数に基づく天井制御が困難になってしまうという問題があった。

【 0 0 0 9 】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、終了時に関連する情報がリセットされてしまう状態が複数回終了した場合に救済措置としての天井を発動可能な遊技機を

50

提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R ）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、を備える遊技機であって、再遊技役が当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として複数段階の R T 状態（例えば、R T 1 ~ R T 6 ）を有するとともに、遊技に関する遊技状態として、通常状態（例えば、通常区間）と、第 1 所定状態（例えば、有利区間中の C Z ）及び当該第 1 所定状態よりも遊技者にとって有利な第 2 所定状態（例えば、有利区間中の A R T ）とを少なくとも含む所定状態（例えば、有利区間）と、を有し、現在の R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行可能な R T 制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、 R T 状態を移行させるために必要な情報を報知可能な報知手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記通常状態において第 1 条件（例えば、有利区間への移行抽籤に当籤）が満たされると、前記第 1 所定状態に遊技状態を移行可能な第 1 状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、を更に備え、前記報知手段は、前記第 1 状態制御手段により前記遊技状態が前記第 1 所定状態に移行すると、 R T 状態を現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な情報を報知可能であり、前記第 1 所定状態において第 2 条件（例えば、A R T への移行抽籤に当籤）が満たされると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行可能、かつ、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行可能な第 2 状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）、を更に備え、前記第 2 状態制御手段は、所定段階目の R T 状態（例えば、R T 1 ~ R T 4 ）における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行する一方で、所定段階目よりも先の特定段階目の R T 状態（例えば、R T 5 ）における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされない場合であっても、前記通常状態に遊技状態を移行することなく、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行することの特徴とする。

【0011】

このような遊技機によれば、通常状態から第 1 所定状態（例えば、C Z ）に移行すると、 R T 状態が先の段階に進むため、第 2 所定状態への移行条件（第 2 条件）を満たすことなく第 1 所定状態が終了した場合であっても、第 1 所定状態の前後において R T 状態が異なる（先の段階に進む）ことになる。ここで通常の遊技機では、第 1 所定状態の終了時に、所定状態に関する情報を初期化した場合、第 2 所定状態に移行することなく終了した第 1 所定状態の回数（スルー回数）を把握することができないものの、本発明に係る遊技機では、第 1 所定状態の前後において R T 状態を異ならせることで、所定状態とは別の R T 状態に関する情報（ R T 状態の段階）から第 1 所定状態のスルー回数を把握することができる。そして、本発明に係る遊技機では、特定段階目の R T 状態において第 1 所定状態に移行した場合には、第 2 所定条件への移行条件（第 2 条件）の成立の有無に関係なく、遊技状態を第 2 所定状態（例えば、A R T ）へ移行することで、第 1 所定状態のスルー回数に基づき、第 2 所定状態の天井を発動することができる。

【0012】

また、本発明に係る遊技機において、前記第 2 状態制御手段は、前記所定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に所定期間（例えば、1 0 0 回の遊技）が経過すると、前記終了条件が満たされたとして、前記通常状態に遊技状態を移行し、前記特定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記所定期間又は前記所定期間よりも短い所定期間（例えば、3 0 回の遊技）が経過すると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行することの特徴とする。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 3 】

このような遊技機によれば、天井到達前の第 1 所定状態では、第 1 所定状態を所定期間継続させた後に通常状態に遊技状態を移行させるため、天井到達までに要する遊技期間を一定量（＝所定期間×スルー回数（RT 状態の段階数））確保することができる。その結果、通常状態から第 1 所定状態への移行が運良く高頻度で行われてしまった場合であっても、天井到達までには必ず一定期間以上の遊技が行われることになるため、必要以上に早期に天井到達になってしまうことを防止でき、遊技者の利益／不利益のバランスを調整することができる。

【 0 0 1 4 】

また、本発明に係る遊技機は、全遊技期間における前記所定状態中の期間が所定割合になるように遊技状態が制御される遊技機であって、前記第 1 状態制御手段は、前記通常状態において、遊技状態を前記第 1 所定状態に移行すると所定の確率で決定すると、前記第 1 条件が満たされたとして、前記第 1 所定状態に遊技状態を移行することの特徴とする。

10

【 0 0 1 5 】

近年の遊技機では、遊技者に過度な利益を付与してしまうことを防止するため、全遊技期間における所定状態中の期間が所定割合になるように遊技状態を制御することが求められている。この点、本発明に係る遊技機では、天井到達までに要する所定状態以外（通常状態）の遊技期間を一定量（＝所定の確率に当籤するまでに要する期間×スルー回数（RT 状態の段階数））確保することができる。その結果、天井到達後に継続可能な第 2 所定状態の期間を十分に確保しつつ、全遊技期間における所定状態中の期間を所定割合に収めることができる。

20

【 発明の効果 】

【 0 0 1 6 】

本発明によれば、終了時に関連する情報がリセットされてしまう状態のスルー回数天井を実現することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 7 】

【 図 1 】 本発明の一実施形態における遊技機の機能フローを説明するための図である。

【 図 2 】 本発明の一実施形態における遊技機の外觀構造を示す斜視図である。

【 図 3 】 本発明の一実施形態における遊技機の内部構造を示す図である。

30

【 図 4 】 本発明の一実施形態における遊技機の内部構造を示す図である。

【 図 5 】 本発明の一実施形態の遊技機が備えるセレクタの構造を示す図である。

【 図 6 】 本発明の一実施形態の遊技機が備える回路の全体構成を示すブロック図である。

【 図 7 】 本発明の一実施形態における主制御回路の内部構成を示すブロック図である。

【 図 8 】 本発明の一実施形態におけるマイクロプロセッサの内部構成を示すブロック図である。

【 図 9 】 本発明の一実施形態における副制御回路の内部構成を示すブロック図である。

【 図 1 0 】 本発明の一実施形態におけるメイン CPU が有する各種レジスタの構成図である。

【 図 1 1 】 本発明の一実施形態における主制御回路のメモリマップを示す図である。

40

【 図 1 2 】 本発明の一実施形態における主制御回路のセキュリティモードを説明する図である。

【 図 1 3 】 本発明の一実施形態におけるパチスロのボーナス状態及び非ボーナス状態間における遊技状態の遷移フローを示す図である。

【 図 1 4 】 本発明の一実施形態における遊技機の非有利区間、通常有利区間及び有利区間における遊技状態の遷移フローを示す図である。

【 図 1 5 】 本発明の一実施形態における図柄配置テーブルの一例を示す図である。

【 図 1 6 】 本発明の一実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【 図 1 7 】 本発明の一実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【 図 1 8 】 本発明の一実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

50

- 【図 19】本発明の一実施形態における図柄組合せテーブルの一例を示す図である。
- 【図 20】本発明の一実施形態における図柄組合せテーブルの一例を示す図である。
- 【図 21】本発明の一実施形態における図柄組合せテーブルの一例を示す図である。
- 【図 22】本発明の一実施形態における図柄組合せテーブルの一例を示す図である。
- 【図 23】本発明の一実施形態における内部当籤役と停止操作順序（打順）と表示役等との対応関係を示す図である。
- 【図 24】本発明の一実施形態における内部当籤役と停止操作順序（打順）と表示役等との対応関係を示す図である。
- 【図 25】本発明の一実施形態における当り要求フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域の構成を示す図である。
- 【図 26】本発明の一実施形態における持越役格納領域の構成を示す図である。
- 【図 27】本発明の一実施形態における遊技状態フラグ格納領域の構成を示す図である。
- 【図 28】本発明の一実施形態における作動ストップボタン格納領域の構成を示す図である。
- 【図 29】本発明の一実施形態における押下順序格納領域の構成を示す図である。
- 【図 30】本発明の一実施形態における図柄コード格納領域の構成を示す図である。
- 【図 31】本発明の一実施形態における内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係を示す図である。
- 【図 32】本発明の一実施形態における内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係を示す図である。
- 【図 33】本発明の一実施形態における非有利区間中の遊技の流れを説明するための図である。
- 【図 34】本発明の一実施形態における通常有利区間中の遊技の流れを説明するための図である。
- 【図 35】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態中の遊技の流れを説明するための図である。
- 【図 36】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態で参照される各種テーブルの一例を示す図である。
- 【図 37】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態の表示装置の表示例を示す図である。
- 【図 38】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態の表示装置の表示例を示す図である。
- 【図 39】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態の表示装置の表示例を示す図である。
- 【図 40】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態の表示装置の表示例を示す図である。
- 【図 41】本発明の一実施形態におけるラインバトル状態の表示装置の表示例を示す図である。
- 【図 42】本発明の一実施形態における権利獲得抽籤状態及び権利獲得状態中の遊技の流れを説明するための図である。
- 【図 43】本発明の一実施形態におけるエンディング 1 状態及びエンディング 2 状態中の遊技の流れを説明するための図である。
- 【図 44】本発明の一実施形態におけるエンディング 1 状態及びエンディング 2 状態中に行われるエンディング演出を説明するための図である。
- 【図 45】本発明の一実施形態における各遊技状態と内部当籤役とナビデータとの対応関係を示す図である。
- 【図 46】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行される電源投入（リセット割込み）時処理の例を示すフローチャートである。
- 【図 47】本発明の一実施形態における遊技復帰処理の例を示すフローチャートである。
- 【図 48】本発明の一実施形態における設定変更確認処理の例を示すフローチャートであ

10

20

30

40

50

る。

【図 4 9】本発明の一実施形態における設定変更コマンド生成格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 5 0】本発明の一実施形態における通信データ格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 5 1】本発明の一実施形態における通信データポインタ更新処理の例を示すフローチャートである。

【図 5 2】本発明の一実施形態における電断時（外部）処理の例を示すフローチャートである。

【図 5 3】本発明の一実施形態におけるチェックサム生成処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

10

【図 5 4】本発明の一実施形態におけるサムチェック処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 5 5】本発明の一実施形態におけるサムチェック処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 5 6】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行されるメイン処理（主要動作処理）の例を示すフローチャートである。

【図 5 7】本発明の一実施形態におけるメダル受付・スタートチェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 5 8】本発明の一実施形態におけるメダル受付・スタートチェック処理の例を示すフローチャートである。

20

【図 5 9】本発明の一実施形態におけるメダル投入処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 0】本発明の一実施形態におけるメダル投入チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 1】本発明の一実施形態におけるメダル投入チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 2】本発明の一実施形態におけるエラー処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 3】本発明の一実施形態における乱数値取得処理の例を示すフローチャートである。

30

【図 6 4】本発明の一実施形態における内部抽籤処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 5】本発明の一実施形態における図柄設定処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 6】本発明の一実施形態における圧縮データ格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 7】本発明の一実施形態における引込優先順位格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 8】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 9】本発明の一実施形態における論理積演算処理の例を示すフローチャートである。

40

【図 7 0】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 1】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 2】本発明の一実施形態におけるリール停止制御処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 3】本発明の一実施形態における入賞検索処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 4】本発明の一実施形態におけるイリーガルヒットチェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 5】本発明の一実施形態における入賞チェック・メダル払出処理の例を示すフロー

50

チャートである。

【図 7 6】本発明の一実施形態におけるメダル払出枚数チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 7】本発明の一実施形態における B B チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 8】本発明の一実施形態における R T チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 9】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行される割込処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 0】本発明の一実施形態における通信データ送信処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 1】本発明の一実施形態における W D T 設定処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 2】本発明の一実施形態における 7 セグ L E D 駆動処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 3】本発明の一実施形態における 7 セグ表示データ生成処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 4】本発明の一実施形態におけるタイマー更新処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 5】本発明の一実施形態における遊技機の電源投入時の動作の例を示すタイミングチャートである。

【図 8 6】本発明の一実施形態における遊技機のメダル投入時の動作の例を示すタイミングチャートである。

【図 8 7】本発明の一実施形態における遊技機のボーナス役当籤報知演出の演出例（その 1）を説明するための図である。

【図 8 8】本発明の一実施形態における遊技機のボーナス役当籤報知演出の演出例（その 1）を説明するための図である。

【図 8 9】本発明の一実施形態における遊技機のボーナス役当籤報知演出の演出例（その 2）を説明するための図である。

【図 9 0】本発明の一実施形態における遊技機のボーナス役当籤報知演出の演出例（その 2）を説明するための図である。

【図 9 1】本発明の一実施形態における遊技機のボーナス役当籤報知演出の演出例（その 3）を説明するための図である。

【図 9 2】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1）を説明するための図である。

【図 9 3】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1）を説明するための図である。

【図 9 4】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 2）を説明するための図である。

【図 9 5】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 3）を説明するための図である。

【図 9 6】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 4）を説明するための図である。

【図 9 7】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 5）を説明するための図である。

【図 9 8】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 6）を説明するための図である。

【図 9 9】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 6）を説明するための図である。

【図 1 0 0】本発明の一実施形態における遊技機の有利区間のリミッタの別例を示す図で

10

20

30

40

50

ある。

【図 1 0 1】本発明の一実施形態における遊技機の枚数リミッタの制御方法を示す図である。

【図 1 0 2】本発明の一実施形態における遊技機の枚数リミッタの調整打法を示す図である。

【図 1 0 3】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 7）を説明するための図である。

【図 1 0 4】遊技性（その 7）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 0 5】遊技性（その 7）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 0 6】遊技性（その 7）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 0 7】遊技性（その 7）による制御と他の制御との比較例を示す図である。

【図 1 0 8】遊技性（その 7）を実現可能な他の仕様例を説明するための図である。

【図 1 0 9】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 8）を説明するための図である。

【図 1 1 0】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 9）を説明するための図である。

【図 1 1 1】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1 0）を説明するための図である。

【図 1 1 2】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1 1）を説明するための図である。

【図 1 1 3】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1 2）を説明するための図である。

【図 1 1 4】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1 2）を説明するための図である。

【図 1 1 5】本発明の一実施形態における遊技機の遊技性の他の例（その 1 3）を説明するための図である。

【図 1 1 6】遊技性（その 1 3）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 1 7】遊技性（その 1 3）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 1 8】遊技性（その 1 3）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【図 1 1 9】遊技性（その 1 3）において用いる各種のデータテーブルを示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0 0 1 8】

以下、本発明の一実施形態に係る遊技機としてパチスロを例に挙げ、図面を参照しながら、その構成及び動作について説明する。なお、本実施形態では、ボーナス作動機能、ART機能及びART機能を備えたパチスロについて説明する。

【0 0 1 9】

< 機能フロー >

まず、図 1 を参照して、パチスロの機能フローについて説明する。本実施形態のパチスロでは、遊技を行うための遊技媒体としてメダルを用いる。なお、遊技媒体としては、メダル以外にも、例えば、コイン、遊技球、遊技用のポイントデータ又はトークン等を適用することもできる。また、遊技媒体は、「遊技価値」、あるいは「遊技用価値」と称されることもある。

【0 0 2 0】

遊技者によりパチスロにメダルが投入され、スタートレバーが操作されると、予め定められた数値範囲（例えば、0 ~ 6 5 5 3 5）の乱数から 1 つの値（以下、乱数値という）が抽出される。

【0 0 2 1】

内部抽籤手段は、抽出された乱数値に基づいて抽籤を行い、内部当籤役を決定する。この内部抽籤手段は、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の 1 つである。内部当籤役の決定により、後述の有効ライン（入賞判定ライン）に沿って表示を行うこと

10

20

30

40

50

を許可する図柄の組合せが事前に決定される。なお、図柄の組合せの種別としては、メダルの払い出し、再遊技（リプレイ）の作動、ボーナスの作動等といった特典が遊技者に与えられる「入賞」に係るものと、それ以外のいわゆる「はずれ」に係るものとが設けられる。なお、以下では、メダルの払い出しに係る役を「小役」と称し、再遊技（リプレイ）の作動に係る役を「リプレイ役」と称する。また、ボーナスの作動（ボーナスゲーム）に係る役を「ボーナス役」ともいう。また、内部当籤し得る役（すなわち、成立が許可される図柄の組合せ）は、単に「役」と称されることがあり、内部当籤役は、「当籤役」、「事前決定結果」、あるいは「導出許容条件」と称されることがある。また、内部抽籤手段は、「役決定手段」、「当籤役決定手段」、「事前決定手段」、あるいは「導出許容条件決定手段」と称されることがある。

10

【0022】

また、スタートレバーが操作されると、複数のリールの回転が行われる。その後、遊技者により所定のリールに対応するストップボタンが押されると、リール停止制御手段は、内部当籤役とストップボタンが押されたタイミングとに基づいて、該当するリールの回転を停止する制御を行う。このリール停止制御手段は、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の1つである。なお、開始操作を行うための操作手段は、スタートレバーのようにレバー形状をしたものに限られず、遊技者が開始操作を行うことが可能であれば、どのような操作手段であってもよい。また、停止操作を行うための操作手段は、ストップボタンのようにボタン形状をしたものに限られず、遊技者が停止操作を行うことが可能であれば、どのような操作手段であってもよい。

20

【0023】

パチスロでは、基本的に、ストップボタンが押されたときから規定時間（190 msec）内に、該当するリールの回転を停止する制御が行われる。本実施形態では、この規定時間内にリールの回転に伴って移動する図柄の数を「滑り駒数」という。そして、本実施形態では、規定期間が190 msecである場合には、滑り駒数の最大数（最大滑り駒数）を図柄4個分に定める。

【0024】

リール停止制御手段は、入賞に係る図柄の組合せ表示を許可する内部当籤役が決定されているときは、通常、190 msec（図柄4駒分）の規定時間内に、その図柄の組合せが有効ラインに沿って極力表示されるようにリールの回転を停止させる。また、リール停止制御手段は、規定時間を利用して、内部当籤役によってその表示が許可されていない図柄の組合せが有効ラインに沿って表示されないようにリールの回転を停止させる。なお、リールの回転が停止したときに表示された図柄は、「停止表示」、あるいは「表示結果」と称されることがある。また、リールの回転が停止したときに有効ラインに図柄が表示されることを、「停止表示の導出」、あるいは「表示結果の導出」と表現する場合がある。

30

【0025】

また、リール停止制御手段は、リールが回転してから、予め定められた自動停止時間が経過した場合には、遊技者が停止操作を行っていない場合でも、自動的に各リールを停止させる自動停止制御を行うようにしてもよい。この場合には、遊技者の停止操作を介さずにリールが停止することとなるため、いずれかの内部当籤役が決定されている場合であっても、いずれの入賞に係る図柄の組合せも有効ラインに沿って表示されないようにリールの回転を停止させることが望ましい。

40

【0026】

このようにして、複数のリールの回転が全て停止されると、入賞判定手段は、有効ラインに沿って表示された図柄の組合せが、入賞に係るもの（あるいは、その他予め定められたもの）であるか否かの判定を行う。すなわち、入賞に係る図柄の組合せ（あるいは、その他予め定められた図柄の組合せ）が成立したか否かの判定を行う。この入賞判定手段もまた、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の1つである。そして、表示された図柄の組合せが、入賞判定手段により入賞に係るもの（あるいは、その他予め定め

50

られたもの)である(すなわち、入賞に係る図柄の組合せ(あるいは、その他予め定められた図柄の組合せ)が成立した)と判定されると、メダルの払い出し等の特典が遊技者に与えられ、あるいは、それを契機として各種の制御が行われる。パチスロでは、以上のようない連の流れが1回の遊技(単位遊技)として行われる。

【0027】

なお、入賞判定手段は、有効ラインに沿って表示された図柄の組合せが、単に予め定められた複数の図柄の組合せのうちのいずれかの図柄の組合せに該当するか否かを判定するものであってもよいし、内部抽籤手段によって決定された内部当籤役に係る図柄の組合せに該当するか否かを判定するものであってもよい。すなわち、前者では、内部当籤役と切り離して、入賞に係る図柄の組合せであるか否かを判定するものであってもよい。この場合、10
リール停止制御手段によって適切に停止制御が行われる限り、誤入賞の発生の防止は十分に担保され得ることから、誤入賞検知に係る制御負担を低減させることが可能となる。一方、後者では、入賞に係る図柄の組合せが、入賞が許可されていた図柄の組合せであるか否かも判定可能とすることで、リールの不具合等により誤入賞が発生した場合に、その誤入賞を検知することができるため、セキュリティ性を向上させることが可能となる。

【0028】

また、パチスロでは、前述した一連の遊技動作の流れの中で、表示装置などによる映像の表示、各種ランプによる光の出力、スピーカによる音の出力、或いは、これらの組合せを利用して様々な演出が行われる。

【0029】

具体的には、スタートレバーが操作されると、上述した内部当籤役の決定に用いられた乱数値とは別に、演出用の乱数値が抽出される。演出用の乱数値が抽出されると、演出内容決定手段は、内部当籤役に対応づけられた複数種類の演出内容の中から今回実行する演出を抽籤により決定する。この演出内容決定手段は、後述の副制御回路が備える各種処理手段(処理機能)の1つである。また、後述の主制御回路が演出内容を決定する場合には、この演出内容決定手段を、後述の主制御回路が備える各種処理手段(処理機能)の1つとすることもできる。20

【0030】

次いで、演出内容決定手段により演出内容が決定されると、演出実行手段は、リールの回転開始時、各リールの回転停止時、入賞の有無の判定時等の各契機に連動させて対応する演出を実行する。このように、パチスロでは、例えば、内部当籤役に対応づけられた演出内容を実行することによって、決定された内部当籤役(言い換えると、狙うべき図柄の組合せ)を知る機会又は予想する機会が遊技者に提供され、遊技者の興味の向上を図ることができる。30

【0031】

<パチスロの構造>

次に、図2～図5を参照して、本発明の一実施形態に係るパチスロの構造について説明する。

【0032】

[外観構造]

図2は、パチスロ1の外部構造を示す斜視図である。

【0033】

パチスロ1は、図2に示すように、外装体(遊技機本体)2を備える。外装体2は、リールや回路基板等を収容するキャビネット(筐体)2aと、キャビネット2aの開口を開閉可能に取り付けられるフロントドア(前面扉)2bと、を有する。

【0034】

キャビネット2aの内部には、3つのリール3L, 3C, 3R(変動表示手段、表示列)が横一列に並べて設けられている。以下、各リール3L, 3C, 3R(メインリール)を、それぞれ左リール3L、中リール3C、右リール3Rともいう。各リール3L, 3C, 3Rは、円筒状に形成されたリール本体と、リール本体の周面に装着された透光性のシ50

ート材を有する。そして、シート材の表面には、複数（例えば20個）の図柄が周方向（リールの回転方向）に沿って所定の間隔をあけて描かれている。なお、各リール3L, 3C, 3Rは、「図柄表示手段」、「可変表示手段」、あるいは「可変表示器」などと表現される場合もある。また、これらの構成要素として、後述の図柄表示領域4を含む場合もある。また、「図柄」は、遊技者が視認により識別可能な情報であればよく、その意味において「識別情報」などと表現される場合もある。

【0035】

フロントドア2bは、ドア本体9と、フロントパネル10と、腰部パネル12と、台座部13とを備える。ドア本体9は、ヒンジ（不図示）を用いてキャビネット2aに開閉可能に取り付けられる。ヒンジは、パチスロ1の前方側（遊技者側）から見て、ドア本体9の左側の側端部に設けられる。なお、キャビネット2aは、単に「箱体」と称することもできるし、フロントドア2bは、単に「扉」、あるいは「前面扉」と称することもできる。また、キャビネット2aは、フロントドア2bを支持、あるいは固定する枠体として機能するため、「支持体」、「支持枠」、あるいは「固定枠」と表現される場合もある。また、フロントドア2bは、複数の扉部材によって構成されるものであってもよい。例えば、キャビネット2aの開口の上方側に取り付けられる上扉部材と、キャビネット2aの開口の下方側に取り付けられる下扉部材とによって構成されるものであってもよいし、遊技機の前面側からみて、キャビネット2aの開口側に取り付けられる内側扉部材と、遊技機の前面側に取り付けられる外側扉部材とによって構成されるものであってもよい。

【0036】

フロントパネル10は、ドア本体9の上部に設けられている。このフロントパネル10は、開口10aを有する枠状部材で構成される。フロントパネル10の開口10aは、表示装置カバー30によって塞がれ、表示装置カバー30は、キャビネット2aの内部に配置された後述の表示装置11と対向して配置される。

【0037】

表示装置カバー30は、黒色の半透明な合成樹脂により形成される。それゆえ、遊技者は、後述の表示装置11により表示された映像（画像）を、表示装置カバー30を介して視認することができる。また、本実施形態では、表示装置カバー30を黒色の半透明な合成樹脂で形成することにより、キャビネット2a内への外光の入り込みを抑制して、表示装置11により表示された映像（画像）を鮮明に視認できるようにしている。

【0038】

フロントパネル10には、ランプ群21が設けられている。ランプ群21は、例えば、遊技者側から見て、フロントパネル10の上部に設けられたランプ21a、21bを含む。ランプ群21を構成する各ランプは、LED（Light Emitting Diode）等で構成され（後述の図6中のLED群85参照）、演出内容に対応するパターンで、光を点灯及び消灯する。

【0039】

腰部パネル12は、ドア本体9の略中央部に設けられる。腰部パネル12は、任意の画像が描かれた装飾パネルと、この装飾パネルを背面側から照明するための光を出射する光源（後述のLED群85に含まれるLED）とを有する。

【0040】

台座部13は、フロントパネル10と腰部パネル12との間に設けられる。台座部13には、図柄表示領域4と、遊技者による操作の対象となる各種装置（メダル投入口14、MAXベットボタン15a、1ベットボタン15b、スタートレバー16、3つのストップボタン17L, 17C, 17R、精算ボタン（不図示）等）とが設けられる。

【0041】

図柄表示領域4は、正面から見て、3つのリール3L, 3C, 3Rに重畳する領域で、かつ、3つのリール3L, 3C, 3Rより遊技者側の位置に配置されており、3つのリール3L, 3C, 3Rにおける所定領域を視認可能とする。この図柄表示領域4は、表示窓としての機能を果たすものであり、その背後に設けられた各リール3L, 3C, 3Rを視

認することが可能な構成になっている。以下、図柄表示領域 4 を、リール表示窓 4 という。

【 0 0 4 2 】

リール表示窓 4 は、その背後に設けられた 3 つのリール 3 L , 3 C , 3 R の回転が停止されたとき、各リールの周面に設けられた複数の図柄のうち、連続して配置された 3 つの図柄がその枠内に表示されるように構成されている。すなわち、3 つのリール 3 L , 3 C , 3 R の回転が停止されたとき、リール表示窓 4 の枠内には、リール毎に上段、中段及び下段の各領域にそれぞれ 1 個の図柄（合計で 3 個）が表示される（リール表示窓 4 の枠内には、3 行 × 3 列の態様で図柄が表示される）。

【 0 0 4 3 】

そして、本実施形態では、リール表示窓 4 の枠内において、左リール 3 L の中段領域、中リール 3 C の中段領域、及び、右リール 3 R の中段領域を結ぶライン（センターライン）、左リール 3 L の上段領域、中リール 3 C の上段領域、及び、右リール 3 R の上段領域を結ぶライン（トップライン）、並びに、左リール 3 L の下段領域、中リール 3 C の下段領域、及び、右リール 3 R の下段領域を結ぶライン（ボトムライン）を、入賞か否かの判定を行う有効ラインとして定義（規定）する。なお、有効ラインは、「入賞ライン」、あるいは「判定ライン」とも称されることがある。

【 0 0 4 4 】

なお、本実施形態では、他のライン、例えば、左リール 3 L の下段領域、中リール 3 C の中段領域、及び、右リール 3 R の上段領域を結ぶライン（クロスアップライン）、並びに、左リール 3 L の上段領域、中リール 3 C の中段領域、及び、右リール 3 R の下段領域を結ぶライン（クロスダウンライン）を、さらに有効ラインとして定義してもよい。また、本実施形態では、有効ラインは上述の 3 つのラインである（あるいは、ここで説明したように 5 つのラインであってもよい）が、そのライン数は適宜増減できるものとする。例えば、センターラインの 1 つのラインのみを有効ラインとしてもよいし、トップライン及びボトムラインの 2 つのラインのみを有効ラインとしてもよい。また、有効ラインを定義する際には、上述した図柄が一直線に並ぶ各ラインに替えて、あるいはこれとともに、図柄が一直線に並ばないラインを有効ラインとして定義することもできる。すなわち、各列（左リール 3 L , 中リール 3 C , 右リール 3 R ）ごとのいずれか一の図柄（の領域）を通るラインであれば、直線又は折れ線で結んで構成される一又は複数のラインを有効ラインとして設定可能である。

【 0 0 4 5 】

例えば、左リール 3 L の中段領域、中リール 3 C の下段領域、及び、右リール 3 R の上段領域を結ぶライン（変則ライン）などを有効ラインとして定義するようにしてもよい。すなわち、本実施形態では、リール表示窓 4 の枠内に、3 行 × 3 列の態様で図柄が表示されるようになっていことから、27 通りの有効ラインを定義することが可能であり、そのうち少なくともいずれか 1 つのラインが有効ラインとして定義されるようにすればよい。

【 0 0 4 6 】

リール表示窓 4 は、台座部 1 3 に設けられた枠部材 3 1 の開口により形成される。また、リール表示窓 4 を画成する枠部材 3 1 の下方には、略水平面の台座領域が設けられる。そして、遊技者側から見て、台座領域の右側にはメダル投入口 1 4 が設けられ、左側には MAX ベットボタン 1 5 a 及び 1 ベットボタン 1 5 b が設けられる。

【 0 0 4 7 】

メダル投入口 1 4 は、遊技者によって外部からパチスロ 1 に投下されるメダルを受け入れるために設けられる。メダル投入口 1 4 から受け入れられたメダルは、予め設定された所定枚数（例えば 3 枚）を上限として 1 回の遊技に使用され、所定枚数を越えたメダルの枚数分は、パチスロ 1 の内部に預けることができる（いわゆるクレジット機能（遊技媒体貯留手段））。

【 0 0 4 8 】

MAXベットボタン15a及び1ベットボタン15bは、キャビネット2aの内部に預けられているメダルから1回の遊技に使用する枚数を決定するために設けられる。なお、MAXベットボタン15aの内部には、メダル投入が可能な時に点灯するベットボタンLED（不図示）が設けられている。また、精算ボタンは、パチスロ1の内部に預けられているメダルを外部に引き出す（排出する）ために設けられる。

【0049】

なお、遊技者がMAXベットボタン15aを押下操作すると、単位遊技のベット枚数（3枚）のメダルが投入され、有効ラインが有効化される。一方、1ベットボタン15bが1回、押下操作される度に1枚のメダルが投入される。1ベットボタン15bが3回操作されると、単位遊技のベット枚数（3枚）のメダルが投入され、有効ラインが有効化される。

10

【0050】

なお、以下では、MAXベットボタン15aの操作、1ベットボタン15bの操作及びメダル投入口14にメダルを投入する操作（遊技を行うためにメダルを投入する操作）をいずれも「投入操作」という。

【0051】

スタートレバー16は、全てのリール（3L, 3C, 3R）の回転を開始するために設けられる。ストップボタン17L, 17C, 17Rは、それぞれ、左リール3L、中リール3C、右リール3Rに対応づけて設けられ、各ストップボタンは対応するリールの回転を停止するために設けられる。以下、ストップボタン17L, 17C, 17Rを、それぞれ左ストップボタン17L、中ストップボタン17C、右ストップボタン17Rともいう。

20

【0052】

また、リール表示窓4の下方の略水平面の台座領域の略中央には、情報表示器6が設けられる。なお、情報表示器6は、透明の窓カバー（不図示）によって覆われている。

【0053】

情報表示器6には、特典として遊技者に対して払い出されるメダルの枚数（以下、「払出枚数」という）の情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグメントLED（以下、「7セグLED」という）や、パチスロ1の内部に預けられているメダルの枚数（以下、「クレジット枚数」という）などの情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグLEDが設けられる。なお、本実施形態では、メダルの払出枚数表示用の2桁の7セグLEDは、エラー発生及びエラー種別の情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグLEDとしても用いられる。それゆえ、エラー発生時には、メダルの払出枚数表示用の2桁の7セグLEDの表示態様は、払出枚数の表示態様からエラー種別の情報の表示態様に切り替わる。

30

【0054】

また、情報表示器6には、内部当籤役として決定された役に応じた図柄組合せを有効ラインに沿って表示するために必要な停止操作の情報を報知する指示モニタ（不図示）が設けられている。指示モニタ（指示表示器）は、例えば、2桁の7セグLEDにより構成される。そして、指示モニタでは、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で、2桁の7セグLEDが点灯、点滅又は消灯することにより、遊技者に対して必要な停止操作の情報を報知する。

40

【0055】

なお、ここでいう、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様とは、例えば、押し順「1st（第1停止操作を左リール3Lに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「1」を表示し、押し順「2nd（第1停止操作を中リール3Cに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「2」を表示し、押し順「3rd（第1停止操作を右リール3Rに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「3」を表示するなどの態様のことである。なお、指示モニタにおける停止操作の情報の報知態様（後述のメイン側で決定されるナビデータ）については、後述の図45等を参照し

50

ながら後で詳述する。

【0056】

また、情報表示器6には、遊技者にとって有利な有利区間（後述の「通常有利区間」及び「有利区間」を含む。後述の図14参照）であること報知する状態表示器（不図示）が設けられている。状態表示器は、例えば、7セグLEDにより構成される。状態表示器は、原則として、有利区間に移行することが決定された遊技中の所定のタイミング（例えば、遊技開始時～遊技終了時までのいずれかのタイミング）で点灯し、有利区間が継続している間はその点灯が継続する。そして、有利区間が終了したときにその点灯が終了し、消灯するようになっている。これにより、遊技者にとって有利な有利区間が開始すること、当該有利区間中であること、及び当該有利区間が終了することが全ての遊技者に報知されるため、遊技の公平性が担保される。

10

【0057】

情報表示器6は、後述の図6に示すように、ドア中継端子板68及び遊技動作表示基板81を介して主制御基板71に電氣的に接続され、情報表示器6の表示動作は、主制御基板71内の後述の主制御回路90により制御される。また、上述した各種7セグLEDの制御方式は、ダイナミック点灯制御である。

【0058】

なお、本実施形態のパチスロ1では、主制御基板71により制御される指示モニタに加えて、副制御基板72により制御される他の手段を用いて停止操作の情報を報知する構成を設ける。具体的には、後述のプロジェクト機構211及び表示ユニット212（図3及び後述の図6参照）により構成される後述の表示装置11により停止操作の情報を報知する。

20

【0059】

このような構成を適用した場合、指示モニタにおける報知の態様と、副制御基板72により制御されるその他の手段における報知の態様とは、互いに異なる態様であってもよい。すなわち、指示モニタでは、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で報知すればよく、必ずしも、停止操作の情報を直接的に報知する必要はない（例えば、指示モニタにおいて数値「1」が表示されたとしても、遊技者によっては報知内容を特定できない可能性もあり、直接的な報知とはいえない）。一方、後述の表示装置11等のその他の手段によるサブ側（副制御基板側）での報知では、停止操作の情報を直接的に報知してもよい。例えば、押し順「1st」を報知する場合、指示モニタでは報知する押し順と一義的に対応する数値「1」を表示するが、その他の手段（例えば、表示装置11等）では、左リール3Lに対して第1停止操作を行わせるための指示情報を直接的に報知してもよい。

30

【0060】

このような構成のパチスロ1では、副制御基板72の制御だけでなく、主制御基板71の制御によっても、内部当籤役に応じた必要な停止操作の情報を報知することができる。また、このような停止操作の情報の報知の有無は、遊技状態に応じて制御することができる。例えば、後述の通常区間における遊技状態（通常状態）では停止操作の情報が報知されずに、後述の通常有利区間及び有利区間における各遊技状態では停止操作の情報が報知され得るようにすることができる。

40

【0061】

また、遊技者側から見て、リール表示窓4の左方には、サブ表示装置18が設けられる。サブ表示装置18は、図2に示すように、ドア本体9の前面部のうち、台座部13の略水平面の台座領域から略垂直に立設するように設けられる。サブ表示装置18は、液晶ディスプレイや有機EL（Electro-Luminescence）ディスプレイで構成され、各種情報を表示する。

【0062】

また、サブ表示装置18の表示面上には、タッチセンサ19が設けられている（後述の図6参照）。タッチセンサ19は、静電容量方式などの所定の動作原理に従い動作し、遊技者の操作を受け付けると、タッチ入力情報として当該操作に応じた信号を出力する。そ

50

して、本実施形態のパチスロ１は、タッチセンサ１９を介して受け付けた遊技者の操作（タッチセンサ１９から出力されるタッチ入力情報）に応じて、サブ表示装置１８の表示を切り替え可能にする機能を有する。なお、サブ表示装置１８は、タッチセンサ１９から出力されるタッチ入力情報に基づいて後述の副制御基板７２（後述の図６参照）により制御される。

【００６３】

ドア本体９の下部には、メダル払出口２４、メダル受皿２５、２つのスピーカ用孔２０Ｌ、２０Ｒ等が設けられる。メダル払出口２４は、後述のホッパー装置５１（メダル払出装置）の駆動により排出されるメダルを外部に導く。メダル受皿２５は、メダル払出口２４から排出されたメダルを貯める。また、２つのスピーカ用孔２０Ｌ、２０Ｒからは、演出内容に対応する効果音や楽曲等の音声出力される。

10

【００６４】

[内部構造]

次に、パチスロ１の内部構造を、図３～図５を参照しながら説明する。図３は、キャビネット２ａの内部構造を示す図であり、図４は、フロントドア２ｂの裏面側の内部構造を示す図であり、図５は、フロントドア２ｂの裏面側に設けられた後述のセレクト６６の構造を示す図である。

【００６５】

キャビネット２ａは、図３に示すように、上面板２７ａと、底面板２７ｂと、左右の側面板２７ｃ、２７ｄと、背面板２７ｅとを有する。そして、キャビネット２ａ内の上部には、表示装置１１が配設される。

20

【００６６】

表示装置１１は、プロジェクタ機構２１１と、プロジェクタ機構２１１から投射された映像光が投影される箱状の被投影部材２１２ａとを有し、プロジェクションマッピングによる映像表示を行う。具体的には、表示装置１１では、立体物となる被投影部材２１２ａの位置（投影距離や角度など）や形状に基づいて映像光を生成し、その映像光が、プロジェクタ機構２１１により被投影部材２１２ａの表面に投影される。このような演出機能を設けることにより、高度で且つ迫力のある演出を行うことができる。また、図３には示さないが、箱状の被投影部材２１２ａの裏側には、表示面が湾曲した別の被投影部材が設けられ、遊技状態に応じて、どちらか一方の被投影部材が、映像光が投影されるスクリーンとして使用される。それゆえ、キャビネット２ａ内は、遊技状態に応じて、被投影部材を切り換える機能（不図示）も設けられる。なお、表示装置１１は、遊技者にとって画像を表示可能な装置であれば、他の種々の表示装置（例えば、液晶表示装置）を用いることもできる。

30

【００６７】

キャビネット２ａ内の下部には、メダル払出装置（以下、ホッパー装置という）５１と、メダル補助収納庫５２と、電源装置５３とが配設される。

【００６８】

ホッパー装置５１は、キャビネット２ａにおける底面板２７ｂの中央部に取り付けられる。このホッパー装置５１は、多量のメダルを収容可能で、それらを１枚ずつ排出可能な構造を有する。ホッパー装置５１は、貯留されたメダルが例えば５０枚を超えたとき、又は、精算ボタンが押下されてメダルの精算が実行されるときに、メダルを払い出す。そして、ホッパー装置５１によって払い出されたメダルは、メダル払出口２４（図２参照）から排出される。

40

【００６９】

メダル補助収納庫５２は、ホッパー装置５１から溢れ出たメダルを収納する。このメダル補助収納庫５２は、キャビネット２ａ内部を正面から見て、ホッパー装置５１の右側に配置される。また、メダル補助収納庫５２は、キャビネット２ａの底面板２７ｂに対して着脱可能に取り付けられている。

【００７０】

50

電源装置 5 3 は、電源スイッチ 5 3 a と、電源基板 5 3 b（電源供給手段）とを有している（後述の図 6 参照）。この電源装置 5 3 は、キャビネット 2 a 内部を正面から見て、ホッパー装置 5 1 の左側に配置されており、左側面板 2 7 c に取り付けられている。電源装置 5 3 は、サブ電源装置（不図示）から供給された交流電圧 1 0 0 V の電力を各部に必要な直流電圧の電力に変換して、変換した電力を各部へ供給する。

【 0 0 7 1 】

また、キャビネット 2 a 内の電源装置 5 3 の上方には、副制御基板 7 2（後述の図 6 参照）を収容する副制御基板ケース 5 7 が配設される。副制御基板ケース 5 7 に収納された副制御基板 7 2 には、後述の副制御回路 2 0 0（後述の図 9 参照）が搭載されている。この副制御回路 2 0 0 は、映像の表示等による演出の実行を制御する回路である。副制御回路 2 0 0 の具体的な構成については後述する。

10

【 0 0 7 2 】

キャビネット 2 a 内の副制御基板ケース 5 7 の上方には、副中継基板 6 1 が配設される。この副中継基板 6 1 は、副制御基板 7 2 と後述の主制御基板 7 1 とを接続する配線が実装された中継基板である。また、副中継基板 6 1 は、副制御基板 7 2 と副制御基板 7 2 の周辺に配設された基板や各種装置部（ユニット）などとを接続する配線が実装された中継基板である。

【 0 0 7 3 】

また、図 3 には示さないが、キャビネット 2 a 内には、キャビネット側中継基板 4 4（後述の図 6 参照）が配設される。このキャビネット側中継基板 4 4 は、主制御基板 7 1（後述の図 6 参照）と、ホッパー装置 5 1、メダル補助収納庫スイッチ 7 5（後述の図 6 参照）及びメダル払出カウントスイッチ（不図示）のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。

20

【 0 0 7 4 】

フロントドア 2 b の裏面側の中央部には、図 4 に示すように、ミドルドア 4 1 が、配設され、リール表示窓 4（図 2 参照）を裏側から開閉可能に取り付けられている。また、図 4 には示さないが、ミドルドア 4 1 のリール表示窓 4 側には、3 つのリール 3 L，3 C，3 R が取り付けられ、ミドルドア 4 1 のリール表示窓 4 側とは反対側には、主制御基板 7 1（後述の図 6 参照）が収納された主制御基板ケース 5 5 が取り付けられている。なお、3 つのリール 3 L，3 C，3 R には、所定の減速比をもったギアを介してステッピングモータ（不図示）が接続されている。

30

【 0 0 7 5 】

主制御基板ケース 5 5 に収納された主制御基板 7 1 は、後述する主制御回路 9 0（後述の図 7 及び図 8 参照）を有する。主制御回路 9 0（主制御手段）は、内部当籤役の決定、各リール 3 L，3 C，3 R の回転及び停止、入賞の有無の判定といった、パチスロ 1 における遊技の主な流れを制御する回路である。また、本実施形態では、例えば、A T あるいは A R T に関する決定に係る処理、ナビ情報の指示モニタへの表示処理、各種試験信号の送信処理などの制御も主制御回路 9 0 により行われる。なお、主制御回路 9 0 の具体的な構成は後述する。

【 0 0 7 6 】

フロントドア 2 b の裏面側において、ミドルドア 4 1 の下方には、スピーカ 6 5 L，6 5 R が配設される。スピーカ 6 5 L，6 5 R は、それぞれスピーカ用孔 2 0 L，2 0 R（図 2 参照）と対向する位置に配置されている。

40

【 0 0 7 7 】

また、スピーカ 6 5 L の上方には、セレクトア 6 6 と、ドア開閉監視スイッチ 6 7 とが配設される。セレクトア 6 6 は、メダル投入口 1 4 に投入されたメダルを検出する装置であるとともに、投入されたメダルが適正なメダルであるか否かを選別する装置であり、適正なメダルであると選別される場合には、そのメダルがホッパー装置 5 1 側へと案内されてホッパー装置 5 1 内に収容されるように駆動し、適正なメダルでないと選別される場合には、そのメダルがメダル払出口 2 4 側へと案内されてメダル払出口 2 4 から排出されるよう

50

に駆動する。すなわち、セクタ 66 は、メダル投入口 14 に投入されたメダルを、ホッパー装置 51 側又はメダル払出口 24 側に振り分ける装置でもある。

【0078】

図 5 に示すように、セクタ 66 は、メダルが通過するメダルレール（メダル通路）802 が形成されたベース 803 と、投入されたメダルをホッパー装置 51 側又はメダル払出口 24 側に案内するセレクトプレート 804 と、投入されたメダルが適正なメダルでない場合にそのメダルをメダル払出口 24 側に押し出すメダルブッシャ 805 と、投入されたメダルをメダルレール 802 の上流側で検出する上流側メダルセンサ（第 1 メダルセンサ）806 と、投入されたメダルをメダルレール 802 の下流側で検出する下流側メダルセンサ（第 2 メダルセンサ）807 と、を備える。

10

【0079】

また、図 5 には示さないが、セクタ 66 には、セレクトプレート 804 によってメダルがホッパー装置 51 側に案内される場合に、セクタ 66 からホッパー装置 51 へのメダルの流路を形成するメダルガイド（不図示）と、セレクトプレート 804 によってメダルがメダル払出口 24 側にされる場合に、セクタ 66 からメダル払出口 24 へのメダルの流路を形成するキャンセルシュート（不図示）と、が着脱可能に取り付けられている。

【0080】

セレクトプレート 804 は、セクタ 66 が備えるソレノイド（不図示）によって駆動する。セレクトプレート 804 は、ソレノイドが駆動しているときには、通過するメダルをホッパー装置 51 側に案内するガイド位置に移動する一方、ソレノイドが駆動していないときには、通過するメダルをホッパー装置 51 側に案内しない（すなわち、メダル払出口 24 側に案内する）排出位置に移動する。具体的には、ソレノイドが駆動しているとき、セレクトプレート 804 はパチスロ 1 の後側方向に移動してメダルの上方をガイドする一方、ソレノイドが駆動していないとき、セレクトプレート 804 はパチスロ 1 の前側方向に移動してメダルの上方をガイドしないようになっている。なお、セレクトプレート 804 によるメダルのガイド手法はこれに限られるものでなく、例えば、パチスロ 1 の上下方向に移動可能な機構とすることで、ガイド位置及び排出位置の移動を可能とするものであってもよい。すなわち、セレクトプレート 804 は、ソレノイドあるいはその他の駆動源により、メダルレール 802 上において、通過するメダルがホッパー装置 51 側に移動することを妨げないガイド位置と、通過するメダルがホッパー装置 51 側に移動することを妨げてメダル払出口 24 側に案内する排出位置との間で変移可能とする機構であれば、いずれの機構を採用することもできる。

20

30

【0081】

メダルブッシャ 805 は、例えば、セレクトプレート 804 がガイド位置に移動している場合には、パチスロ 1 の後側方向に突出しないように動作し、セレクトプレート 804 がガイド位置に移動していない（排出位置に移動している）場合には、パチスロ 1 の後側方向に突出するように動作する。すなわち、メダルブッシャ 805 が、パチスロ 1 の後側方向に突出しない位置にあるときには、通過するメダルをホッパー装置 51 側に案内するガイド位置となり、パチスロ 1 の後側方向に突出する位置にあるときには、通過するメダルをホッパー装置 51 側に案内しない（すなわち、メダル払出口 24 側に案内する）排出位置となる。

40

【0082】

上流側メダルセンサ 806 及び下流側メダルセンサ 807 は、メダルが通過したことを検出する遊技媒体検出手段を構成する。各メダルセンサは、例えば、一対の、あるいは複数対の発光素子及び受光素子から構成される反射型センサで構成され、発光素子からメダルに対して光を照射し、メダルから反射された反射光を受光素子が受光することでメダルの通過を検出する。なお、センサの構成は適宜変更可能であり、例えば、透過型センサ等を採用することもできる。また、上流側メダルセンサ 806 を設けることなく、下流側メダルセンサ 807 のみによってメダルの通過を検出するようにしてもよい。また、各メダルセンサの検出結果（メダルセンサ入力状態）に基づく具体的な制御については後述する

50

。

【0083】

ドア開閉監視スイッチ67は、フロントドア2bを裏面側から見て、セクタ66の左斜め下に配置される。このドア開閉監視スイッチ67は、フロントドア2bの開閉を報知するためのセキュリティ信号をパチスロ1の外部に出力する。

【0084】

また、図4には示さないが、フロントドア2bを裏面において、ミドルドア41により開閉された領域であり且つリール表示窓4の下方には、ドア中継端子板68が配設される(後述の図6参照)。このドア中継端子板68は、主制御基板ケース55内の主制御基板71と、各種のボタンやスイッチ、副中継基板61、セクタ66、遊技動作表示基板81、試験機用第1インターフェースボード301及び試験機用第2インターフェースボード302のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。なお、各種のボタン及びスイッチとしては、例えば、MAXベットボタン15a、1ベットボタン15b、ドア開閉監視スイッチ67、後述のBETスイッチ77、スタートスイッチ79等が挙げられる。

【0085】

<パチスロが備える制御系>

次に、パチスロ1が備える制御系について、図6を参照して説明する。図6は、パチスロ1の制御系の構成を示す回路ブロック図である。

【0086】

パチスロ1は、ミドルドア41に設けられた主制御基板71と、フロントドア2bに設けられた副制御基板72とを有する。また、パチスロ1は、主制御基板71に接続された、リール中継端子板74、設定用鍵型スイッチ54(設定スイッチ)及びキャビネット側中継基板44を有する。さらに、パチスロ1は、キャビネット側中継基板44を介して主制御基板71に接続された外部集中端子板47、ホッパー装置51、メダル補助収納庫スイッチ75、リセットスイッチ76及び電源装置53を有する。なお、ホッパー装置51の構成については上述したので、ここでは、その説明を省略する。

【0087】

リール中継端子板74は、各リール3L, 3C, 3Rのリール本体の内側に配設されている。リール中継端子板74は、各リール3L, 3C, 3Rのステッピングモータ(不図示)に電氣的に接続されており、主制御基板71からステッピングモータに出力される信号を中継する。

【0088】

設定用鍵型スイッチ54は、主制御基板ケース55に設けられる。設定用鍵型スイッチ54は、パチスロ1の設定値(設定1~設定6)を変更するとき、もしくは、パチスロ1の設定を確認するとき使用される。なお、設定値は、遊技に関する遊技者の有利さの度合いを示すものであり、通常は、設定値が低いほど(例えば、設定1に近いほど)遊技者の有利さの度合いが相対的に低くなり、設定値が高いほど(例えば、設定6に近いほど)遊技者の有利さの度合いが相対的に高くなる。なお、本実施形態では、設定値が高いほど後述のボーナス役の当籤確率が高まるようにして遊技者の有利さの度合いを変動させることもできるし、設定値が高いほど後述のATやARTに係る抽籤の当籤確率が高まるようにして遊技者の有利さの度合いを変動させることもできる。

【0089】

キャビネット側中継基板44は、主制御基板71と、外部集中端子板47、ホッパー装置51、メダル補助収納庫スイッチ75、リセットスイッチ76及び電源装置53のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。外部集中端子板47は、メダル投入信号、メダル払出信号及びセキュリティ信号などの信号をパチスロ1の外部へ出力するために設けられる。メダル補助収納庫スイッチ75は、メダル補助収納庫52に設けられ、メダル補助収納庫52がメダルで満杯になっているか否かを検出する。リセットスイッチ76は、例えば、パチスロ1の設定を変更する際に用いられる。

【0090】

電源装置53は、電源基板53bと、電源基板53bに接続された電源スイッチ53aとを有する。電源スイッチ53aは、パチスロ1に必要な電源を供給するときに押下される。電源基板53bは、キャビネット側中継基板44を介して主制御基板71に接続されるとともに、副中継基板61を介して副制御基板72にも接続される。

【0091】

また、パチスロ1は、ドア中継端子板68、並びに、該ドア中継端子板68を介して、主制御基板71に接続された、セクタ66、ドア開閉監視スイッチ67、BETスイッチ77、精算スイッチ78、スタートスイッチ79、ストップスイッチ基板80、遊技動作表示基板81、副中継基板61、試験機用第1インターフェースボード301及び試験機用第2インターフェースボード302を有する。なお、セクタ66、ドア開閉監視スイッチ67及び副中継基板61については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

10

【0092】

BETスイッチ77（投入操作検出手段）は、MAXベットボタン15a又は1ベットボタン15bが遊技者により押下されたことを検出する。精算スイッチ78は、精算ボタン（不図示）が遊技者により押下されたことを検出する。スタートスイッチ79（開始操作検出手段）は、スタートレバー16が遊技者により操作されたこと（開始操作）を検出する。

【0093】

20

ストップスイッチ基板80（停止操作検出手段）は、回転しているメインリールを停止させるための回路と、停止可能なメインリールをLEDなどにより表示するための回路とを備える。また、ストップスイッチ基板80には、ストップスイッチ（不図示）が設けられる。ストップスイッチは、各ストップボタン17L、17C、17Rが遊技者により押下されたこと（停止操作）を検出する。

【0094】

遊技動作表示基板81は、情報表示器（7セグ表示器）6及びLED82に接続される。LED82には、例えば、今回の遊技に投入されたメダルの枚数（以下、「投入枚数」という）に対応して点灯する、メダル投入枚数表示用の3つのLED（以下、「第1LED」～「第3LED」という）や、遊技動作表示基板81から入力される信号に基づいて、メダル投入が可能であることを表示するマーク、遊技開始を表示するマーク、再遊技を行うマークなどを点灯させるLEDなどが含まれる。第1LED～第3LED（表示手段）では、メダルが1枚投入されると、第1LEDが点灯し、メダルが2枚投入されると、第1及び第2LEDが点灯し、メダルが3枚（遊技開始可能枚数）投入されると、第1LED～第3LEDが点灯する。なお、情報表示器6については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

30

【0095】

試験機用第1インターフェースボード301及び試験機用第2インターフェースボード302はともに、パチスロ1の検定試験（試射試験）において、遊技に関する各種信号を試験機に出力する際に用いられる中継基板である（なお、販売用のリリース製品としてのパチスロ1にはこれらの中継基板は搭載されていないので、販売用の主制御基板71の主制御回路90には、試験機用第1インターフェースボード301及び試験機用第2インターフェースボード302に接続するために必要な各種電子部品もまた実装されていない）。例えば、遊技に係る主要な動作（例えば、内部抽籤、リール停止制御等）を制御するための試験信号は、試験機用第1インターフェースボード301を介して出力され、例えば、主制御基板71で決定された押し順ナビに係る試験信号などは、試験機用第2インターフェースボード302を介して出力される。

40

【0096】

副制御基板72は、ドア中継端子板68及び副中継基板61を介して主制御基板71に接続される。また、パチスロ1は、副中継基板61を介して副制御基板72に接続された

50

、スピーカ群 8 4、LED 群 8 5、2 4 h ドア開閉監視ユニット 6 3、タッチセンサ 1 9 及び表示ユニット 2 1 2 を有する。なお、タッチセンサ 1 9 については、上述したので、ここでは、その説明を省略する。

【0097】

スピーカ群 8 4 は、スピーカ 6 5 L、6 5 R や図示しない各種スピーカを含んで構成される。LED 群 8 5 は、フロントパネル 1 0 に設けられたランプ群 2 1 や、腰部パネル 1 2 の装飾パネルを背面側から照明するための光を出射する光源などを含んで構成される。2 4 h ドア開閉監視ユニット 6 3 は、ミドルドア 4 1 の開閉の履歴情報を保存する。また、2 4 h ドア開閉監視ユニット 6 3 は、ミドルドア 4 1 が開放されたときに、表示装置 1 1 によりエラー表示を行うための信号を副制御基板 7 2 (副制御回路 2 0 0) に出力する。表示ユニット 2 1 2 は、例えば、表示装置 1 1 を構成する被投影部材 2 1 2 a、及び、被投影部材 2 1 2 a の裏側に設けられた表示面が湾曲した別の被投影部材を含んで構成される。

10

【0098】

また、パチスロ 1 は、副制御基板 7 2 に接続された、ロムカートリッジ基板 8 6 及び液晶中継基板 8 7 を有する。なお、ロムカートリッジ基板 8 6 及び液晶中継基板 8 7 は、副制御基板 7 2 とともに副制御基板 ケース 5 7 に収納されている。

【0099】

ロムカートリッジ基板 8 6 は、サブ CPU 2 0 1 により実行される各種制御プログラムと、演出用の画像 (映像)、音声 (スピーカ群 8 4)、光 (LED 群 8 5) 及び通信のデータを管理するための基板である。液晶中継基板 8 7 は、副制御基板 7 2 と、表示装置 1 1 を構成するプロジェクタ機構 2 1 1、及び、サブ表示装置 1 8 との間の接続配線を中継する基板である。なお、プロジェクタ機構 2 1 1 及びサブ表示装置 1 8 については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

20

【0100】

<主制御回路>

次に、図 7 を参照して、主制御基板 7 1 に実装される主制御回路 9 0 の構成について説明する。図 7 は、パチスロ 1 の主制御回路 9 0 の構成例を示すブロック図である。

【0101】

主制御回路 9 0 は、遊技動作を制御する遊技制御部として機能し、マイクロプロセッサ 9 1 と、クロックパルス発生回路 9 2 と、電源管理回路 9 3 と、スイッチングレギュレータ 9 4 (電源供給手段) と、役比モニタ (不図示) とを備える。

30

【0102】

マイクロプロセッサ 9 1 は、遊技機用のセキュリティ機能付きマイクロプロセッサである。なお、本実施形態のマイクロプロセッサ 9 1 では、プログラム上で規定可能な該マイクロプロセッサ 9 1 に特有の様々な命令コード (以下、「メイン CPU 1 0 1 専用命令コード」という) が設けられている。本実施形態では、このメイン CPU 1 0 1 専用命令コードを用いることにより、処理の効率化やプログラム容量の削減などを実現している。マイクロプロセッサ 9 1 の内部構成については、後述の図 8 を参照して詳述し、マイクロプロセッサ 9 1 に設けられているメイン CPU 1 0 1 専用命令コードについては、後述の主制御回路が実行する各種処理において詳述する。

40

【0103】

クロックパルス発生回路 9 2 は、メイン CPU 作動用のクロックパルス信号を生成し、該生成したクロックパルス信号をマイクロプロセッサ 9 1 に出力する。マイクロプロセッサ 9 1 は、入力されたクロックパルス信号に基づいて、制御プログラムを実行する。

【0104】

電源管理回路 9 3 は、電源基板 5 3 b (図 6 参照) から供給される直流 1 2 V の電源電圧の変動を管理する。そして、電源管理回路 9 3 は、例えば、電源が投入された際 (電源電圧が 0 V から起動電圧値 (1 0 V) を上回った際) には、リセット信号をマイクロプロセッサ 9 1 の「X S R S T」端子に出力し、電断が発生した際 (電源電圧が 1 2 V から停

50

電圧値（１０．５Ｖ）を下回った際には、電断検知信号をマイクロプロセッサ９１の「XINT」端子に出力する。すなわち、電源管理回路９３は、電源投入時に、マイクロプロセッサ９１にリセット信号（起動信号）を出力する手段（起動手段）、及び、電断発生時に、マイクロプロセッサ９１に電断検知信号（停電信号）を出力する手段（停電手段）も兼ねる。

【０１０５】

スイッチングレギュレータ９４は、ＤＣ／ＤＣ変換回路であり、マイクロプロセッサ９１の直流駆動電圧（直流５Ｖの電源電圧）を生成し、該生成した直流駆動電圧をマイクロプロセッサ９１の「VCC」端子に出力する。

【０１０６】

役比モニタ（不図示）は、例えば、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成され、後述のメインＣＰＵ１０１によって集計された遊技情報に関する集計結果に対して、後述の演算回路１０７が所定の比率計算を行い、その比率計算の結果を比率情報として表示する。本実施形態では、複数種類の比率計算が行われ、役比モニタは、その結果に基づいて、複数種類の比率情報を順次表示する。

【０１０７】

なお、役比モニタの上位２桁には、その比率情報の種別を示す種別情報である「略記」が表示され、下位２桁には、その種別情報に対応する比率情報である「比率」が表示されるようになっている。例えば、役比モニタの第１の桁（略記１０の位）に「７」が表示され、第２の桁（略記１の位）に「Ｕ」が表示される場合（すなわち、略記「７Ｕ」が表示される場合）、役比モニタの下位２桁には、比率情報として、所定の総遊技数（１７５０００回）の間に占める、ＡＲＴ機能が作動した（すなわち、遊技者にとって有利な停止操作の手順が報知されていた有利区間の）遊技数の比率（有利区間比率）が表示される。具体的には、有効区間比率が１０％である場合、第３の桁（比率１０の位）には「１」が表示され、第４の桁（比率１の位）には「０」が表示される。なお、有利区間比率は、ＡＴ機能及びＡＲＴ機能が作動した遊技数の比率を表示するものであってもよい。

【０１０８】

また、例えば、役比モニタの第１の桁（略記１０の位）に「６」が表示され、第２の桁（略記１の位）に「Ｙ」が表示される場合（すなわち、略記「６Ｙ」が表示される場合）、役比モニタの下位２桁には、比率情報として、特定の総遊技数（６０００回）の間に払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、役物連続作動装置（本実施形態ではＢＢ。なお、第２種特別役物（ＣＢ）が連続で作動する役物連続作動装置（ＭＢ）が搭載されている場合には、それを含む。以下同じ）が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率（中時間連役比率）が表示される。具体的には、中時間連役比率が５９％である場合、第３の桁（比率１０の位）には「５」が表示され、第４の桁（比率１の位）には「９」が表示される。

【０１０９】

また、例えば、役比モニタの第１の桁（略記１０の位）に「７」が表示され、第２の桁（略記１の位）に「Ｙ」が表示される場合（すなわち、略記「７Ｙ」が表示される場合）、役比モニタの下位２桁には、比率情報として、特定の総遊技数（６０００回）の間に払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、全ての役物（本実施形態ではＢＢ。なお、上述のＭＢの他、上述の第一種特別役物（ＲＢ）が単独で搭載されている場合、上述の第２種特別役物（ＣＢ）が単独で搭載されている場合、普通役物（ＳＢ）が搭載されている場合には、それら全てを含む。以下同じ）が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率（中時間役物比率）が表示される。具体的には、中時間役物比率が５９％である場合、第３の桁（比率１０の位）には「５」が表示され、第４の桁（比率１の位）には「９」が表示される。

【０１１０】

また、例えば、役比モニタの第１の桁（略記１０の位）に「６」が表示され、第２の桁（略記１の位）に「Ａ」が表示される場合（すなわち、略記「６Ａ」が表示される場合）

、役比モニタの下位2桁には、比率情報として、所定の総遊技数(175000回)の間で払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、役物連続作動装置が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率(総連役比率)が表示される。具体的には、総連役比率が25%である場合、第3の桁(比率10の位)には「2」が表示され、第4の桁(比率1の位)には「5」が表示される。

【0111】

また、例えば、役比モニタの第1の桁(略記10の位)に「7」が表示され、第2の桁(略記1の位)に「A」が表示される場合(すなわち、略記「7A」が表示される場合)、役比モニタの下位2桁には、比率情報として、所定の総遊技数(175000回)の間で払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、全ての役物が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率(総役物比率)が表示される。具体的には、総役物比率が25%である場合、第3の桁(比率10の位)には「2」が表示され、第4の桁(比率1の位)には「5」が表示される。

【0112】

なお、本実施形態では、主制御回路90が直接的に役比モニタを備える構成を例に挙げて説明しているが、役比モニタは、主制御回路90によってその表示内容が制御され、また、必要なとき(例えば、主制御基板ケース55を視認したとき)にその表示内容を認識可能であれば足り、主制御回路90が直接的に備えない構成を採用することもできる。例えば、役比モニタが遊技動作表示基板81に接続され、主制御回路90が遊技動作表示基板81を介してその表示内容を制御するようにしてもよい。また、この場合、役比モニタが、情報表示器6、LED82、又は指示モニタ(指示表示器)と兼用されるようにし、それらのうち、一又は複数をを用いて所定の比率情報が表示されるようにしてもよい。

【0113】

また、本実施形態では、役比モニタに表示される所定の比率情報として、有利区間比率、中時間連役比率、中時間役物比率、総連役比率、及び総役物比率を例に挙げて説明しているが、これら以外の比率情報を表示可能としてもよい。例えば、所定の総遊技数(175000回)の間で払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、ART機能が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率(総有利区間獲得比率)、特定の総遊技数(6000回)の間で払い出された遊技媒体の払出枚数に占める、ART機能が作動して払い出された遊技媒体の払出枚数の比率(中時間有利区間獲得比率)、特定の総遊技数(6000回)の間に占める、役物連続作動装置が作動した遊技数の比率(中時間連役区間比率)、特定の総遊技数(6000回)の間に占める、全ての役物が作動した遊技数の比率(中時間役物区間比率)、所定の総遊技数(175000回)の間に占める、役物連続作動装置が作動した遊技数の比率(総連役区間比率)、所定の総遊技数(175000回)の間に占める、全ての役物が作動した遊技数の比率(総役物区間比率)等も所定の比率計算を行って表示することができる。

【0114】

また、本実施形態では、役比モニタに表示される所定の比率情報の母数(分母)として、所定の総遊技数を「175000回」とし、特定の総遊技数を「6000回」として説明しているが、所定の総遊技数及び特定の総遊技数はこれに限られない。例えば、上述した各種比率のうち、一部又は全部を算出するための母数(分母)として、所定の総遊技数を「175000回」とし、特定の総遊技数を「3000回」としてもよい。もっとも、遊技店では様々な種類の遊技機が設置され運用されており、比率計算に最適な遊技数も異なる場合もあること等から、上述した各種比率を算出するための各遊技数は、上述したものに限られず適宜変更可能である。なお、この場合、各種比率のうち、一部又は全部を算出するための母数(分母)及び子数(分子)となりうる遊技数を、遊技店側で任意に設定可能とするようにしてもよい。

【0115】

また、本実施形態では、中時間役物比率及び総役物比率において対象としている全ての役物の中に、ART機能の作動を含ませないようにしているが、ART機能の作動を役物

10

20

30

40

50

の作動としてとらえ、中時間役物比率及び総役物比率の比率計算を行うようにすることもできる。また、上述したもの以外であっても、それが有益な情報である限り、2つの値を集計して比率計算を行い、その比率計算の結果を比率情報として表示可能であることはいうまでもない。また、役比モニタの説明において、「ART機能が作動」として説明している箇所については、「AT機能の作動」が含まれるようにしてもよいし、除かれるようにしてもよい。

【0116】

<マイクロプロセッサ>

次に、図8を参照して、マイクロプロセッサ91の内部構成について説明する。図8は、マイクロプロセッサ91の内部構成を示すブロック図である。

10

【0117】

マイクロプロセッサ91は、メインCPU101（演算処理部）と、メインROM102（第1記憶部）と、メインRAM103（第2記憶部）と、外部バスインターフェース104と、クロック回路105と、リセットコントローラ106と、演算回路107と、乱数回路110と、パラレルポート111と、割込みコントローラ112と、タイマー回路113と、第1シリアル通信回路114と、第2シリアル通信回路115と、を有する。そして、マイクロプロセッサ91を構成するこれらの各部は信号バス116を介して互いに接続されている。

【0118】

メインCPU101は、クロック回路105で生成されたクロックパルスに基づいて、各種制御プログラムを実行して、遊技動作全般に係る制御を行う。ここで、メインCPU101の制御動作の一例としてリール停止制御について説明する。

20

【0119】

メインCPU101は、リールインデックスを検出してから各リール3L, 3C, 3R（メインリール）のステッピングモータに対してパルスを出力した回数をカウントする。これにより、メインCPU101は、各リールの回転角度（主に、リールが図柄何個分だけ回転したか）を管理する。なお、リールインデックスとは、リールが一回転したことを示す情報である。このリールインデックスは、例えば、発光部及び受光部を有する光センサと、各リールの所定の位置に設けられ、各メインリールの回転により発光部と受光部との間に介在される検知片とを備えたリール位置検出部（不図示）により検出される。

30

【0120】

ここで、各リール3L, 3C, 3R（メインリール）の回転角度の管理について、具体的に説明する。ステッピングモータに対して出力されたパルスの数は、メインRAM103に設けられたパルスカウンタによって計数される。そして、図柄1つ分の回転に必要な所定回数のパルスの出力がパルスカウンタで計数される毎に、メインRAM103に設けられた図柄カウンタが1ずつ加算される。図柄カウンタは、各リールに応じて設けられている。図柄カウンタの値は、リール位置検出部（不図示）によってリールインデックスが検出されるとクリアされる。

【0121】

すなわち、本実施形態では、図柄カウンタを管理することにより、リールインデックスが検出されてから図柄何個分の回転が行われたのかを管理する。したがって、各リールの各図柄の位置は、リールインデックスが検出される位置を基準として検出される。

40

【0122】

メインROM102には、メインCPU101により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、副制御回路200に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等が記憶される。メインRAM103には、制御プログラムの実行により決定された内部当籤役等の各種データを格納する格納領域が設けられる。なお、メインROM102及びメインRAM103の内部構成（メモリマップ）については、後述の図11を参照して詳述する。

【0123】

50

外部バスインターフェース 104 は、マイクロプロセッサ 91 の外部に設けられた各種構成部（例えば、各リール等）が接続された外部信号バス（不図示）と、マイクロプロセッサ 91 とを電氣的に接続するためのインターフェース回路である。クロック回路 105 は、例えば分周器（不図示）等を含んで構成され、クロックパルス発生回路 92 から入力された CPU 作動用のクロックパルス信号を、その他の構成部（例えば、タイマー回路 113）で使用される周波数のクロックパルス信号に変換する。なお、クロック回路 105 で生成されたクロックパルス信号は、リセットコントローラ 106 にも出力される。

【0124】

リセットコントローラ 106 は、電源管理回路 93 から入力されたりセット信号に基づいて、IAT（Illegal Address Trap）や WDT（watchdog timer）のリセットを行う。演算回路 107 は、乗算回路及び除算回路を含んで構成される。例えば、プログラム上において、「MUL（乗算）」命令を実行するときには、演算回路 107 がこの「MUL」命令に基づく乗算処理を実行する。

【0125】

乱数回路 110 は、予め定められた範囲の乱数（例えば、0～65535 又は 0～255）を発生させる。また、図示しないが、乱数回路 110 は、2 バイトのハードラッチ乱数を得るための乱数レジスタ 0 と、2 バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ 1 と、1 バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ 2～7 とで構成されている。なお、メイン CPU 101 は、乱数回路 110 で発生させた所定範囲の乱数の中から 1 つの値を、例えば内部抽籤用の乱数値として抽出する。パラレルポート 111 は、マイクロプロセッサ 91 と、マイクロプロセッサ 91 の外部に設けられた各種回路（例えば、電源管理回路 93 等）との間で入出力される信号のポート（メモリーマップ I/O）である。また、パラレルポート 111 は、乱数回路 110 及び割込みコントローラ 112 にも接続される。スタートスイッチ 79 はパラレルポート 111 の P I 0～P I 4 のいずれかの入力ポートにも接続され、スタートスイッチ 79 がオン状態になったタイミング（オンエッジ）で、パラレルポート 111 から乱数回路 110 の乱数レジスタ 0 ヘラッチ信号が出力される。そして、乱数回路 110 では、ラッチ信号が入力されることにより乱数レジスタ 0 がラッチされ、2 バイトのハードラッチ乱数が取得される。

【0126】

割込みコントローラ 112 は、パラレルポート 111 を介して電源管理回路 93 から入力される電断検知信号、又は、タイマー回路 113 から 1.1172 ms 周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メイン CPU 101 による割込処理の実行タイミングを制御する。電源管理回路 93 から電断検知信号が入力された場合、又は、タイマー回路 113 からタイムアウト信号が入力された場合には、割込みコントローラ 112 は、割込処理開始指令を示す割込要求信号をメイン CPU 101 に出力する。メイン CPU 101 は、タイマー回路 113 からのタイムアウト信号に応じて割込みコントローラ 112 から入力される割込要求信号に基づいて、入力ポートチェック処理、リール制御処理、通信データ送信処理、7 セグ L E D 駆動処理、タイマー更新処理等の各種割込処理（後述の図 79 参照）を行う。

【0127】

タイマー回路 113（PTC）は、クロック回路 105 で生成されたクロックパルス信号（メイン CPU 作動用のクロックパルス信号を分周器（不図示）で分周された周波数のクロックパルス信号）で動作する（経過時間をカウントする）。そして、タイマー回路 113 は、1.1172 msec の周期で割込みコントローラ 112 にタイムアウト信号（トリガー信号）を出力する。

【0128】

第 1 シリアル通信回路 114 は、主制御基板 71 から副制御基板 72 にデータ（各種制御指令（コマンド））を送信する際のシリアル送信動作を制御する回路である。第 2 シリアル通信回路 115 は、主制御基板 71 から試験機用第 2 インターフェースボード 302 にデータを送信する際のシリアル送信動作を制御する回路である。

【 0 1 2 9 】

< 副制御回路 >

次に、図 9 を参照して、副制御基板 7 2 に実装される副制御回路 2 0 0 (副制御手段) の構成について説明する。図 9 は、パチスロ 1 の副制御回路 2 0 0 の構成例を示すブロック図である。

【 0 1 3 0 】

副制御回路 2 0 0 は、主制御回路 9 0 と電氣的に接続されており、主制御回路 9 0 から送信されるコマンドに基づいて演出内容の決定や実行等の処理を行う。副制御回路 2 0 0 は、演出動作を制御する演出制御部として機能し、基本的に、サブ CPU 2 0 1、サブ RAM 2 0 2、レンダリングプロセッサ 2 0 3、描画用 RAM 2 0 4、ドライバ 2 0 5 を含

10

【 0 1 3 1 】

なお、サブ CPU 2 0 1 は、ロムカートリッジ基板 8 6 に接続される。ドライバ 2 0 5 は、液晶中継基板 8 7 に接続される。すなわち、ドライバ 2 0 5 は、液晶中継基板 8 7 を介してプロジェクタ機構 2 1 1 及びサブ表示装置 1 8 に接続される。

【 0 1 3 2 】

サブ CPU 2 0 1 は、主制御回路 9 0 から送信されたコマンドに応じて、ロムカートリッジ基板 8 6 に記憶されている制御プログラムに従い、映像、音、光の出力の制御を行う。ロムカートリッジ基板 8 6 は、基本的に、プログラム記憶領域とデータ記憶領域とによって構成される。

20

【 0 1 3 3 】

プログラム記憶領域には、サブ CPU 2 0 1 が実行する制御プログラムが記憶される。例えば、制御プログラムには、主制御回路 9 0 との通信を制御するための主基板通信タスクや、演出用の乱数値を抽出し、演出内容 (演出データ) の決定及び登録を行うための演出登録タスクを実行するための各種プログラムが含まれる。また、制御プログラムには、決定した演出内容に基づいて表示装置 1 1 による映像の表示を制御する描画制御タスク、LED 群 8 5 等の光源による光の出力を制御するランプ制御タスク、スピーカ群 8 4 による音の出力を制御する音声制御タスク等を実行するための各種プログラムも含まれる。

【 0 1 3 4 】

データ記憶領域には、各種データテーブルを記憶する記憶領域、各演出内容を構成する演出データを記憶する記憶領域、映像の作成に関するアニメーションデータを記憶する記憶領域が含まれる。また、データ記憶領域には、BGM や効果音に関するサウンドデータを記憶する記憶領域、光の点消灯のパターンに関するランプデータを記憶する記憶領域等も含まれる。

30

【 0 1 3 5 】

サブ RAM 2 0 2 には、決定された演出内容や演出データを登録する格納領域や、主制御回路 9 0 から送信されるサブフラグ (内部当籤役) 等の各種データを格納する格納領域が設けられる。

【 0 1 3 6 】

サブ CPU 2 0 1、レンダリングプロセッサ 2 0 3、描画用 RAM (フレームバッファを含む) 2 0 4 及びドライバ 2 0 5 は、演出内容により指定されたアニメーションデータに従って映像を作成し、作成した映像を表示装置 1 1 (プロジェクタ機構 2 1 1) 及び / 又はサブ表示装置 1 8 に表示させる。なお、表示装置 1 1 (プロジェクタ機構 2 1 1) 及びサブ表示装置 1 8 は、副制御基板 7 2 により、それぞれ個別に制御される。

40

【 0 1 3 7 】

また、サブ CPU 2 0 1 は、演出内容により指定されたサウンドデータに従って BGM などの音をスピーカ群 8 4 により出力させる。また、サブ CPU 2 0 1 は、演出内容により指定されたランプデータに従って LED 群 8 5 の点灯及び消灯を制御する。

【 0 1 3 8 】

< メイン CPU が有する各種レジスタ >

50

次に、図10を参照しながら、メインCPU101が有する各種レジスタについて説明する。なお、図10は、メインCPU101に含まれる各種レジスタの概略構成図である。

【0139】

メインCPU101は、メイン・レジスタとして、アキュムレータA（以下、「Aレジスタ」という）、フラグ・レジスタF（フラグレジスタ）、汎用レジスタB（以下、「Bレジスタ」という）、汎用レジスタC（以下、「Cレジスタ」という）、汎用レジスタD（以下、「Dレジスタ」という）、汎用レジスタE（以下、「Eレジスタ」という）、汎用レジスタH（以下、「Hレジスタ」という）及び汎用レジスタL（以下、「Lレジスタ」という）を有する。また、メインCPU101は、サブ・レジスタとして、アキュムレータA、フラグ・レジスタF、汎用レジスタB、汎用レジスタC、汎用レジスタD、汎用レジスタE、汎用レジスタH及び汎用レジスタLを汎用レジスタとして有する。なお、各レジスタは、1バイトのレジスタで構成される。

10

【0140】

また、本実施形態では、BレジスタとCレジスタとをペアレジスタ（以下、「BCレジスタ」という）として用い、DレジスタとEレジスタとをペアレジスタ（以下、「DEレジスタ」という）として用いる。さらに、本実施形態では、HレジスタとLレジスタとをペアレジスタ（以下、「HLレジスタ」という）として用いる。

【0141】

フラグ・レジスタF、Fの各ビットには、図10に示すように、演算処理の結果等を示す所定のフラグ情報がセットされる。例えばビット6（D6）には、演算結果の判定処理において演算結果が「0」であるか否かを示すデータ（ゼロフラグ）がセットされる。具体的には、演算結果が「0」である場合、ビット6にデータ「1」がセットされ、演算結果が「0」でない場合には、ビット6にデータ「0」がセットされる。そして、演算結果の判定処理では、メインCPU101は、ビット6のデータ「0」/「1」を参照して判定（YES/NO）を行う。

20

【0142】

また、メインCPU101は、拡張レジスタQ（以下、「Qレジスタ」という）を有する。Qレジスタは、1バイトのレジスタで構成される。なお、本実施形態では、後述の各種処理フローの中で説明するように、プログラム上において、このQレジスタを用いてアドレス指定を行う各種メインCPU101専用命令コードが設けられており、この命令コードの使用により、処理の効率化やメインROM102の容量削減などを実現している。なお、Qレジスタを用いてアドレス指定を行う各種メインCPU101専用命令コードでは、Qレジスタには、アドレスの上位側のアドレスデータ（アドレス値）が格納される。なお、Qレジスタには、メインCPU101のリセット直後に、初期値として「F0H」がセットされる。また、Qレジスタを用いた「LDQ, n（8ビットデータ）」命令において、「n」に任意の1バイトのデータをセットして該命令を実行することにより、Qレジスタの値を変更することができる。

30

【0143】

さらに、メインCPU101は、1バイトのレジスタで構成された、インタラプト・ページアドレス・レジスタI及びメモリ・リフレッシュ・レジスタR、並びに、2バイトのレジスタで構成された、インデックス・レジスタIX、インデックス・レジスタIY、スタックポインタSP及びプログラムカウンタPCを専用レジスタとして有する。

40

【0144】

<メインROM及びメインRAMの内部構成（メモリマップ）>

次に、図11A～図11Cを参照しながら、主制御回路90（マイクロプロセッサ91）に含まれるメインROM102及びメインRAM103の内部構成（以下「メモリマップ」という）について説明する。なお、図11Aは、メモリ全体のメモリマップを示す図であり、図11Bは、メインROM102のメモリマップを示す図であり、図11Cは、メインRAM103のメモリマップを示す図である。

50

【 0 1 4 5 】

主制御回路 9 0 (マイクロプロセッサ 9 1) が備えるメモリ全体のメモリマップでは、図 1 1 A に示すように、アドレスの先頭 (0 0 0 0 H) 側から、メイン R O M 1 0 2 のメモリ領域、メイン R A M 1 0 3 のメモリ領域、内蔵レジスタエリア及び X C S デコードエリアが、不使用領域を間に挟んでこの順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【 0 1 4 6 】

メイン R O M 1 0 2 のメモリマップでは、図 1 1 B に示すように、メイン R O M 1 0 2 のアドレスの先頭 (0 0 0 0 H) 側から、プログラムエリア、データエリア、規定外エリア、商標記録エリア、プログラム管理エリア及びセキュリティ設定エリアが、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

10

【 0 1 4 7 】

なお、プログラムエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メイン C P U 1 0 1 により実行される各種処理の制御プログラムが記憶される。データエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メイン C P U 1 0 1 により使用される各種データ (例えば、内部抽籤テーブル等のデータテーブル、副制御回路 2 0 0 に対して各種制御指令 (コマンド) を送信するためのデータ等) が記憶される。すなわち、プログラムエリアとデータエリアとからなる遊技用 R O M 領域 (遊技用記憶領域) には、遊技店で遊技者が実際に行う遊技の遊技性に関連する制御処理 (遊技性に関する処理) に必要な各種プログラム及び各種データが格納される。

20

【 0 1 4 8 】

また、規定外エリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理 (遊技性に影響を与えない処理) の制御プログラム及びデータが記憶される。例えば、パチスロ 1 の検定試験 (試射試験) で使用されるプログラム及びデータ、電断時のチェックサム生成処理や電源復帰時のサムチェック処理などで使用される制御プログラム及びデータ、並びに、不正対策プログラム及びそれに必要なデータ等が、規定外エリアに格納される。

【 0 1 4 9 】

また、プログラム管理エリア及びセキュリティ設定エリアには、制御プログラムの実行、あるいは、セキュリティ機能に関する各種の設定及び管理情報が記憶される。例えば、プログラムエリアに記憶された制御プログラムの開始アドレス及び終了アドレス (すなわち、データ範囲) の設定及び管理情報、読み出し可能な R A M 領域のアドレス数の設定及び管理情報、W D T のリセット設定及び管理情報、割込み設定及び管理情報、プログラムエリアに記憶された制御プログラムの読み出しの許可 / 不許可の設定及び管理情報、乱数回路 1 1 0 の起動、更新方法等に関する設定及び管理情報、並びに、後述のセキュリティモードの設定及び管理情報等が、プログラム管理エリア及びセキュリティ設定エリアに格納される。なお、本実施形態では、プログラム管理エリアにセキュリティ機能に関連しないその他の設定及び管理情報が記憶され、セキュリティ設定エリアにセキュリティ機能に関連する設定及び管理情報が記憶されるものとしているが、これに限られるものでなく、例えば、単一の管理エリアとしてこれらの設定及び管理情報が記憶されるようにしてもよい。

30

40

【 0 1 5 0 】

メイン R A M 1 0 3 のメモリマップでは、図 1 1 C に示すように、メイン R A M 1 0 3 のアドレスの先頭 (F 0 0 0 H) 側から、遊技用 R A M 領域 (所定格納領域、遊技用一時記憶領域) 及び規定外 R A M 領域 (規定外一時記憶領域) が、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【 0 1 5 1 】

遊技用 R A M 領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する制御プログラムの実行により決定された例えば内部当籤役等の各種データを一時的に格納する作業領域及びスタックエリアが設けられる。そして、各種データのそれぞれは、遊技用 R A M 領域

50

内の所定アドレスの作業領域に格納される。

【0152】

また、規定外RAM領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理の作業領域となる規定外作業領域と、規定外スタックとが設けられる。本実施形態では、この規定外RAM領域を使用して、例えばサムチェック処理等の遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理が実行される。

【0153】

上述のように、本実施形態のパチスロ1では、メインROM102内において、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理に使用される各種プログラム及び各種データ(テーブル)を、遊技用ROM領域とは異なるアドレスに配置された規定外ROM領域(規定外記憶領域)に格納する。また、そのような遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理は、メインRAM103内において、遊技用RAM領域とは異なるアドレスに配置された規定外RAM領域を使用して行われる。

【0154】

このようなメインROM102の構成では、従来の規則上においてプログラム等の配置不可とされていたROM領域(規定外ROM領域)に、遊技者が実際に行う遊技そのものには不要なプログラム及びデータを配置することができる。それゆえ、本実施形態では、遊技用ROM領域の容量の圧迫を回避することができる。

【0155】

<セキュリティモード>

次に、図12を参照しながら、主制御回路90(マイクロプロセッサ91)が有するセキュリティ機能の一部である、セキュリティモードについて説明する。なお、図12は、セキュリティモードを説明するための図である。

【0156】

セキュリティモードは、例えば、パチスロ1の電源が投入され、電源管理回路93からリセット信号が入力されたときに、マイクロプロセッサ91が動作する動作状態である。このセキュリティモード中は、セキュリティ設定エリアに記憶された設定に応じた期間、メインCPU101の起動を遅延させる(すなわち、メインCPU101によって電源投入時の処理(後述の図46参照)の実行が開始されることを遅延させる)。このセキュリティモードを経てメインCPU101が起動することにより、マイクロプロセッサ91のセキュリティ性を担保し、また、電源投入時の起動制御に必要な時間を確保してメインCPU101を安定的に起動させる。

【0157】

なお、本実施形態では、例えば、リセットコントローラ106が、電源投入時に入力されたリセット信号を所定期間遅延させることによって、メインCPU101の起動を遅延させるようにすることもできるし、割込みコントローラ112が、電源投入時のリセット割込処理(後述の図46参照)の割込許可を所定期間遅延させることによって、メインCPU101の起動を遅延させるようにすることもできる。また、各コントローラが協働してメインCPU101の起動を遅延させるようにすることもできる。また、例えば、マイクロプロセッサ91内(あるいは、リセットコントローラ106若しくは割込みコントローラ112内)に、遅延回路を設け、この遅延回路によってメインCPU101の起動を遅延させるようにすることもできる。すなわち、マイクロプロセッサ91内でセキュリティ機能を実行する構成(セキュリティ部)は、その仕様に応じて適宜変形して適用することができる。

【0158】

図12に示すように、セキュリティモード中の遅延期間は、固定延長時間(固定期間)とランダム延長時間(可変期間)とが設定可能となっている。本実施形態では、例えば、各々異なる固定延長時間が対応付けられたモード1~モード8のうち、いずれかのモードを選択して設定することで、複数の固定延長時間の中から一の固定延長時間が設定可能となっているとともに、各々異なるランダム延長時間の範囲が対応付けられたモード1~モ

10

20

30

40

50

ード4のうち、いずれかのモードを選択して設定することで、複数のランダム延長時間の範囲中から一のランダム延長時間の範囲が設定可能となっている。

【0159】

例えば、固定延長時間として「モード4」、ランダム延長時間として「モード4」が選択され、セキュリティ設定エリアにこれらの設定が記憶されている場合、マイクロプロセッサ91は、パチスロ1の電源が投入され、電源管理回路93からリセット信号が入力されたときに、まず、固定延長時間として約4秒(4000ms)、メインCPU101の起動を遅延させ、次に、ランダム延長時間として0~500msの範囲の中からランダムに一の延長時間が選択され、当該選択された時間、メインCPU101の起動を遅延させる。

10

【0160】

なお、固定延長時間及びランダム延長時間の範囲は適宜設定可能であるが、本実施形態では、パチスロ1の電源投入時に設定変更が可能となるまでの時間を短縮する観点より、ランダム延長時間の範囲としてランダム延長時間が必ず「0」となる「モード1」が設定されることが望ましい。

【0161】

<遊技状態の遷移フロー>

次に、図13及び図14を参照しながら、本実施形態のパチスロ1の主制御回路90(メインCPU101)により管理される各種遊技状態及びその遷移フローについて説明する。なお、図13は、パチスロ1の基本的な遊技状態の遷移フロー図であり、図14は、報知(AT・ART)機能の作動の有無を考慮した(すなわち、遊技の区間として、通常区間と有利区間とを区別した)遊技状態の遷移フロー図である。

20

【0162】

[基本的な遊技状態の遷移フロー]

本実施形態のパチスロ1では、ボーナスゲームの種類として、ビッグボーナス(以下、「BB」と記す)が設けられる。BBは、第一種特別役物と呼ばれるレギュラーボーナス(以下、「RB」と記す)に係る役物連続作動装置であり、RBを連続して作動させる。

【0163】

それゆえ、本実施形態では、主制御回路90は、ボーナス役の当籤/作動(入賞)の有無に基づいて遊技状態を管理する。具体的には、図13に示すように、主制御回路90は、ボーナス役(後述の名称「F__BB1」、「F__BB2」、「F__BB3」、「F__BB4」の内部当籤役)の当籤/作動(入賞)の有無に基づいて、「ボーナス非当籤状態」、「フラグ間状態」及び「ボーナス状態」と称する3種類の遊技状態を管理する。

30

【0164】

なお、ボーナス非当籤状態は、ボーナスに非当籤であり、かつ、ボーナスが作動(入賞)していない状態であり、ボーナス状態は、ボーナスが作動している状態である。また、本実施形態では、ボーナス役が内部当籤役として決定されると、ボーナスが入賞するまで複数回の遊技に渡りボーナス役が内部当籤役として持ち越された状態が発生する。フラグ間状態は、ボーナス役が内部当籤役として持ち越されている状態、すなわち、ボーナス役が当籤し、かつ、ボーナスが作動していない状態である。

40

【0165】

なお、ボーナス役の当籤の有無は、メインRAM103に設けられる後述の当り要求フラグ格納領域(後述の図25参照)及び持越役格納領域(後述の図26参照)に格納されるデータに基づいて管理される。また、ボーナスの作動(入賞)の有無は、メインRAM103に設けられる後述の遊技状態フラグ格納領域(後述の図27参照)に格納されるデータに基づいて管理される。

【0166】

また、本実施形態では、図13に示すように、ボーナスが作動していない遊技状態(ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態)において、リプレイに係る内部当籤役の種別及びその当籤確率が互いに異なる、RT0遊技状態~RT5遊技状態の6種類の状態(以下、そ

50

れぞれ「R T 0 状態」～「R T 5 状態」という)が設けられる。なお、R T 1 状態及び R T 4 状態は、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が低確率となる遊技状態であり、R T 5 状態はリプレイ役が内部当籤役として決定される確率が中程度の中確率となる遊技状態である。また、R T 0 状態、R T 2 状態及び R T 3 状態は、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が高確率となる遊技状態である。なお、本実施形態では、ボーナス非当籤状態の R T 状態は、R T 0 状態～R T 4 状態のいずれかとなり、フラグ間状態の R T 状態は R T 5 状態となる。

【0167】

それゆえ、本実施形態では、主制御回路 90 は、ボーナスが作動していない遊技状態(ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態)において、さらに、リプレイに係る内部当籤役の種別及びその当籤確率に基づいて、R T 0 状態～R T 5 状態の 6 種類の状態も管理する。

【0168】

なお、R T 0 状態～R T 5 状態は、メイン R A M 103 に設けられる後述の遊技状態フラグ格納領域(後述の図 27 参照)に格納されるデータに基づいて管理される。具体的には、本実施形態のパチスロ 1 では、R T 0 状態フラグ～R T 5 状態フラグの 6 つの R T 状態を示すフラグが設けられ、これらのフラグのオン/オフ状態をメイン R A M 103 により管理することにより R T 状態が管理される。そして、主制御回路 90 は、オン状態である R T 状態フラグに対応する R T 状態を現在の R T 状態として特定する。なお、R T 0 状態フラグを設けないようにし、全ての R T 状態フラグがオフ状態である場合には、主制御回路 90 は、現在の R T 状態が R T 0 状態であると特定するようにしてもよい。

【0169】

図 13 に示すように、ボーナス非当籤状態(R T 0 ～R T 4 状態)においてボーナス役(後述の名称「F__B B 1」,「F__B B 2」,「F__B B 3」,「F__B B 4」の内部当籤役)が内部当籤役として決定されると(図 13 中、「ボーナス当籤」、主制御回路 90 は、遊技状態をボーナス非当籤状態からフラグ間状態(R T 5 状態)に移行させる。また、フラグ間状態においてボーナス役が入賞すると(図 13 中、「ボーナス成立」、主制御回路 90 は、遊技状態をフラグ間状態からボーナス状態に移行させる。

【0170】

ここで、ボーナス状態としては、B B 1 遊技状態(B B 1 状態)、B B 2 遊技状態(B B 2 状態)、B B 3 遊技状態(B B 3 状態)、及び B B 4 遊技状態(B B 4 状態)が設けられる。なお、主制御回路 90 は、R T 状態と同様に、後述の遊技状態フラグ格納領域(後述の図 27 参照)に格納される B B 1 状態フラグ、B B 2 状態フラグ、B B 3 状態フラグ、及び B B 4 状態フラグのオン/オフ状態によってボーナス状態を管理する。また、後述するように、B B 1 ～B B 4 状態中は常に R B 遊技状態(R B 状態)となることから、これも同様に、後述の遊技状態フラグ格納領域(後述の図 27 参照)に格納される R B 状態フラグのオン/オフ状態によって管理する。

【0171】

ボーナス非当籤状態において、後述の名称「F__B B 1」が内部当籤役として決定され、フラグ間状態において、対応する図柄の組合せ「C__赤同色 B B」が有効ライン上に表示されると、主制御回路 90 は、遊技状態をフラグ間状態から B B 1 状態に移行させる。B B 1 状態では、常に R B 状態となり、B B 1 状態において規定枚数「240」枚を超えるメダルが払い出されると、B B 1 状態が終了し(図 13 中、「ボーナス終了」、主制御回路 90 は、遊技状態をボーナス状態から R T 4 状態に移行させる。

【0172】

また、ボーナス非当籤状態において、後述の名称「F__B B 2」が内部当籤役として決定され、フラグ間状態において、対応する図柄の組合せ「C__青同色 B B」が有効ライン上に表示されると、主制御回路 90 は、遊技状態をフラグ間状態から B B 2 状態に移行させる。B B 2 状態では、常に R B 状態となり、B B 2 状態において規定枚数「240」枚を超えるメダルが払い出されると、B B 2 状態が終了し(図 13 中、「ボーナス終了」、主制御回路 90 は、遊技状態をボーナス状態から R T 4 状態に移行させる。

【 0 1 7 3 】

また、ボーナス非当籤状態において、後述の名称「F __ B B 3」が内部当籤役として決定され、フラグ間状態において、対応する図柄の組合せ「C __ 赤異色 B B」が有効ライン上に表示されると、主制御回路 9 0 は、遊技状態をフラグ間状態から B B 3 状態に移行させる。B B 3 状態では、常に R B 状態となり、B B 3 状態において規定枚数「1 6 5」枚を超えるメダルが払い出されると、B B 3 状態が終了し（図 1 3 中、「ボーナス終了」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス状態から R T 4 状態に移行させる。

【 0 1 7 4 】

また、ボーナス非当籤状態において、後述の名称「F __ B B 4」が内部当籤役として決定され、フラグ間状態において、対応する図柄の組合せ「C __ 青異色 B B」が有効ライン上に表示されると、主制御回路 9 0 は、遊技状態をフラグ間状態から B B 4 状態に移行させる。B B 4 状態では、常に R B 状態となり、B B 4 状態において規定枚数「1 6 5」枚を超えるメダルが払い出されると、B B 4 状態が終了し（図 1 3 中、「ボーナス終了」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス状態から R T 4 状態に移行させる。

【 0 1 7 5 】

R T 4 状態において、後述の図柄の組合せ「R __ R T 1 移行目」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 1 移行目成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 4 状態から R T 1 状態に移行させる。また、R T 4 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 3 移行目」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 3 移行目成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 4 状態から R T 3 状態に移行させる。

【 0 1 7 6 】

R T 1 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 3 移行目」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 3 移行目成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 1 状態から R T 3 状態に移行させる。また、R T 1 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 0 移行リブ」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 0 移行リブ成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 1 状態から R T 0 状態に移行させる。

【 0 1 7 7 】

R T 0 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 3 移行目」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 3 移行目成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 0 状態から R T 3 状態に移行させる。また、R T 0 状態において、後述の図柄の組合せ「R __ R T 1 移行目」が有効ライン上に表示されるか、後述の図柄の組合せ「S __ R T 1 移行リブ」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 1 移行目 R T 1 移行リブ成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 0 状態から R T 1 状態に移行させる。また、R T 0 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 2 移行リブ」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 2 移行リブ成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 0 状態から R T 2 状態に移行させる。なお、設定値が変更された場合、あるいは後述の「R A M 異常」などの初期化条件が成立した場合（図 1 3 中、「設定変更・初期化条件成立」）には、初期状態として、遊技状態が R T 0 状態となる。

【 0 1 7 8 】

R T 2 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 3 移行目」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 3 移行目成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 2 状態から R T 3 状態に移行させる。また、R T 2 状態において、後述の図柄の組合せ「R __ R T 1 移行目」が有効ライン上に表示されるか、後述の図柄の組合せ「S __ R T 1 移行リブ」が有効ライン上に表示されると（図 1 3 中、「R T 1 移行目 R T 1 移行リブ成立」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 2 状態から R T 1 状態に移行させる。

【 0 1 7 9 】

R T 3 状態において、予め定められた期間（本実施形態では、「8」ゲーム。すなわち、8 回の遊技の間）の遊技が行われると（図 1 3 中、「8 ゲーム消化」）、主制御回路 9 0 は、遊技状態を R T 3 状態から R T 0 状態に移行させる。なお、R T 3 状態が継続する期間は適宜設定可能である。また、R T 3 状態が継続する期間を特に定めないものとして

10

20

30

40

50

もよい。この場合、R T 3 状態において、後述の図柄の組合せ「S __ R T 0 移行リブ」が有効ライン上に表示され得る内部当籤役が所定の確率で決定されるようにすればよい。

【0180】

[報知 (A T ・ A R T) 機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー]

本実施形態では、主制御回路 90 (メイン C P U 101) により、遊技者にとって有利な停止操作を報知する機能 (A T ・ A R T 機能) の作動の有無が決定される。それゆえ、本実施形態では、上述したボーナス非当籤状態、フラグ間状態、及びボーナス状態のみならず、A T ・ A R T 機能の作動 / 非作動状態も遊技状態として管理する。なお、本実施形態では、A T 機能が作動している遊技の区間を「通常有利区間」と称し、A R T 機能が作動している遊技の区間を「有利区間」と称し、A T 機能及び A R T 機能のいずれも作動していない遊技の区間を「非有利区間」あるいは「通常区間」と称する。

10

【0181】

また、本実施形態では、有利区間 (「通常有利区間」及び「有利区間」を含む) においてボーナス状態となった場合、遊技者にとって一連の有利な遊技の区間であるとして、当該ボーナス状態は有利区間に含まれ、上述した状態表示器の点灯が継続する期間 (有利区間中報知期間) となるとともに、有利区間が強制的に終了される (継続が規制される) ための遊技回数が計数される期間 (規制監視期間) (本実施形態では、「1500」回の遊技) ともなる。もっとも、後述するように、「非有利区間」においてボーナス状態となった場合、当該ボーナス状態の終了後に「通常有利区間」や「有利区間」に移行する場合があります、この場合には、当該ボーナス状態は上述した期間に含まれるものとする。なお、非有利区間においてボーナス状態となった場合、当該ボーナス状態の終了後に「通常有利区間」や「有利区間」に移行しない場合 (「非有利区間」が継続する場合) には、遊技者にとって一連の有利な遊技の区間でないとして、当該ボーナス状態は有利区間に含まれず、当該ボーナス状態は上述した期間に含まれないものとする。もっとも、ボーナス状態はそれ自体で遊技者にとって有利な遊技状態であることから、その前後で「通常有利区間」や「有利区間」となっているか否かにかかわらず、ボーナス状態は常に有利区間に含まれ、上述した期間に含まれるようにすることもできる。

20

【0182】

本実施形態のパチスロ 1 では、図 14 に示すように、主制御回路 90 は、非有利区間 (通常区間) の遊技状態として「通常状態」、通常有利区間の遊技状態として「高確 1 状態」～「高確 4 状態」及び「本前兆状態」、有利区間の遊技状態として「ラインバトル準備状態」、「ラインバトル状態」、「権利獲得抽籤準備状態」、「権利獲得抽籤状態」、「権利獲得状態」、「エンディング準備状態」、「エンディング 1 状態」及び「エンディング 2 状態」を管理する。

30

【0183】

(非有利区間 (通常区間) の遊技状態)

非有利区間 (通常区間) の遊技状態である通常状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態 (非 A T ・ 非 A R T) であり、遊技者にとって不利な遊技状態である。通常状態において、通常有利区間に移行することが決定されると (図 14 中、「通常有利区間移行当籤」) 、主制御回路 90 は、その決定契機に応じて、遊技状態を通常有利区間のいずれかの遊技状態に移行させる。なお、通常状態における遊技の流れの詳細は、後述の図 33 を参照しながら後で説明する。

40

【0184】

なお、本実施形態では、通常状態のボーナス非当籤状態において、ボーナス役以外の特定役 (後述の図 33 参照) に当籤した場合、通常有利区間のいずれかの遊技状態 (高確 4 状態以外) に移行することが決定され、各設定値間で同一の当籤確率が設定されているボーナス役を含む内部当籤役 (「 F __ B B 3 + F __ スイカ 2 」 及び 「 F __ B B 4 + F __ スイカ 2 」 以外) に当籤した場合、通常有利区間の高確 4 状態に移行することが決定され、また、当該ボーナス役に基づくボーナス状態の終了後、有利区間に移行することが決定されている場合には有利区間のラインバトル状態に移行することが決定され、有利区間に移行

50

することが決定されていない場合には通常有利区間の高確4状態が所定期間(32ゲーム)継続するようになっている。

【0185】

また、通常状態のボーナス非当籤状態において、各設定値間で異なる当籤確率が設定されているボーナス役を含む内部当籤役(「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」)に当籤した場合、通常有利区間に移行することは決定されず、当該ボーナス役に基づくボーナス状態の終了後、非有利区間の通常状態が継続する。また、通常状態のフラグ間状態においては、いずれの役が内部当籤役として決定された場合にも、通常有利区間に移行することは決定されない。

【0186】

また、本実施形態では、非有利区間の通常状態から通常有利区間のいずれかの遊技状態に移行した場合、上述した有利区間中報知期間が開始される(すなわち、状態表示器の点灯が開始される)とともに、上述した規制監視期間が開始される(すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数が開始される)。

【0187】

(通常有利区間の遊技状態)

通常有利区間の各遊技状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知され得る遊技状態(AT)であり、通常状態と比較して、遊技者にとって有利な遊技状態である。通常有利区間の各遊技状態において、有利区間に移行することが決定された場合(通常状態においてすでに有利区間に移行することが決定されている場合を含む)であって、通常有利区間が終了した場合(図14中、「通常有利区間終了 有利区間移行当籤」)、主制御回路90は、その決定契機に応じて、遊技状態を有利区間のいずれかの遊技状態に移行させる。また、通常有利区間の各遊技状態において、有利区間に移行することが決定されていない場合であって、通常有利区間が終了した場合(図14中、「通常有利区間終了 有利区間移行非当籤」)、主制御回路90は、遊技状態を非有利区間の通常状態に移行させる。なお、通常有利区間の各遊技状態における遊技の流れの詳細は、後述の図34を参照しながら後で説明する。

【0188】

通常有利区間の各遊技状態では、主制御回路90は、押し順小役(後述の「F__上段左ベル1」,「F__上段左ベル2」,「F__上段中ベル1」,「F__上段中ベル2」,「F__上段右左ベル1」,「F__上段右左ベル2」,「F__上段右中ベル1」,「F__上段右中ベル2」,「F__中段左ベル1」,「F__中段左ベル2」,「F__中段中ベル1」,「F__中段中ベル2」,「F__中段右左ベル1」,「F__中段右左ベル2」,「F__中段右中ベル1」,「F__中段右中ベル2」,「F__下段中ベル1」,「F__下段中ベル2」,「F__下段右左ベル1」,「F__下段右左ベル2」,「F__下段右中ベル1」,「F__下段右中ベル2」の内部当籤役)のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知するか否かの決定を行い、報知することが決定された場合、遊技者にとって有利な停止操作の情報(すなわち、遊技者が最も多くメダルを得ることができる停止操作の情報)を報知する(後述の図45参照)。

【0189】

また、通常有利区間の各遊技状態では、主制御回路90は、押し順リプレイ(後述の「F__RT0中リプレイ1」~「F__RT0中リプレイ6」,「F__RT1中リプレイ1」~「F__RT1中リプレイ6」,「F__RT2中リプレイ1」~「F__RT2中リプレイ3」の内部当籤役)のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知するか否かの決定を行わず、遊技者にとって有利な停止操作の情報(すなわち、遊技者にとって有利なRT状態に移行させ、あるいは当該有利なRT状態を維持することができる停止操作の情報)を報知しない(後述の図45参照)。この意味において、RT機能は作動せず(偶発的に押し順が正解したときを除く)、AT機能のみが作動する状態(AT遊技状態)となっている。

【0190】

10

20

30

40

50

ここで、本実施形態では、通常有利区間の各遊技状態において、R T 3 状態又は R T 5 状態であるとき（すなわち、後述の R T 3 移行目が表示されてから 8 ゲームの間、あるいはフラグ間状態であるとき）には、通常有利区間が終了するまで、押し順小役の押し順報知が行われるようになっている。一方、通常有利区間の各遊技状態において、R T 3 状態及び R T 5 状態以外の R T 状態であるときには、1 回に限り、押し順小役の押し順報知が行われるようになっている。したがって、同じ通常有利区間の遊技状態であっても、R T 状態が異なれば、押し順小役の押し順報知が行われる回数も変動するため、それに基づく遊技者の利益も変動するようになっている。

【0191】

また、本実施形態では、通常有利区間の各遊技状態においてボーナス状態となったとき（より詳細には、通常有利区間中にボーナス役に当籤したとき）には、通常状態においてボーナス状態となったとき（より詳細には、非有利区間中にボーナス役に当籤したとき）と同様、当該ボーナス状態においては、遊技者にとって有利な停止操作の情報（すなわち、遊技者が最も多くメダルを得ることができる停止操作の情報）を報知しない（後述の図 4 5 参照）。具体的には、ボーナス状態の押し順小役（後述の「F __ J A C 1 __ 1」～「F __ J A C 1 __ 6」の内部当籤役）のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知するか否かの決定を行わない。

【0192】

なお、本実施形態では、通常有利区間の各遊技状態のボーナス非当籤状態において、ボーナス役以外の特定役（後述の図 3 4 参照）に当籤した場合、通常有利区間中の各遊技状態間でも遊技状態の移行が行われ、また、通常有利区間が継続する期間（ゲーム数）も変動するようになっている。また、ボーナス役に当籤した場合、すでに有利区間に移行することが決定されていなければ、有利区間に移行するか否かが決定され、有利区間に移行することが決定されている場合には有利区間のラインバトル状態に移行することが決定され、有利区間に移行することが決定されていない場合には通常有利区間の高確 4 状態が継続するようになっている。

【0193】

ここで、通常有利区間の各遊技状態では、ボーナス役が、各設定値間で同一の当籤確率が設定されているボーナス役を含む内部当籤役（「F __ B B 3 + F __ スイカ 2」及び「F __ B B 4 + F __ スイカ 2」以外）に当籤したことに基づいて当籤した場合のみならず、各設定値間で異なる当籤確率が設定されているボーナス役を含む内部当籤役（「F __ B B 3 + F __ スイカ 2」及び「F __ B B 4 + F __ スイカ 2」）に当籤したことに基づいて当籤した場合であっても、有利区間に移行する否かが決定されるようになっている。すなわち、通常有利区間においては、通常有利区間中の共通処理として、当籤確率に設定差のあるボーナス役を含む内部当籤役が決定されたか否かにかかわらず、ボーナス役に当籤した場合には、有利区間に移行するか否かが決定されるようになっている。この意味においても、通常有利区間の各遊技状態は、非有利区間の遊技状態よりも有利な遊技状態となっている。

【0194】

また、本実施形態では、通常有利区間の各遊技状態は、上述した有利区間中報知期間中である（すなわち、状態表示器の点灯中である）とともに、上述した規制監視期間中でもある（すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数中である）状態となっている。もっとも、有利区間に移行することなく、通常有利区間が終了した場合には、上述した有利区間中報知期間が終了される（すなわち、状態表示器の点灯が終了され、消灯される）とともに、上述した規制監視期間が終了される（すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数が終了され、計数結果が初期化（クリア）される）。

【0195】

（有利区間の遊技状態）

有利区間の各遊技状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知され得る遊技状

態（ART）であり、通常状態及び通常有利区間の各遊技状態と比較して、遊技者にとって有利な遊技状態である。有利区間の各遊技状態では、主制御回路90は、基本的に、上述した押し順小役及び押し順リプレイのいずれかが内部当籤役として決定された場合に、遊技者にとって有利な停止操作の情報（すなわち、遊技者が最も多くメダルを得ることができ、遊技者にとって有利なRT状態に移行させ、あるいは当該有利なRT状態を維持することができる停止操作の情報）を報知する（後述の図45参照）。この意味において、ART機能が作動する状態（ART遊技状態）となっている。なお、有利区間の各遊技状態において、有利区間が延長（継続）することなく終了した場合（後述の有利区間が強制的に終了される場合を含む）（図14中、「有利区間終了」）、主制御回路90は、遊技状態を非有利区間の通常状態に移行させる。

10

【0196】

ここで、有利区間の各遊技状態では、上述した押し順小役及び押し順リプレイの押し順報知が行われる結果、基本的なRT状態としてはRT2状態が対応する（維持される）ようになっている。また、ボーナス状態終了後のRT4状態、後述のRT3移行目が表示されたことに基づくRT3状態、RT3状態終了後のRT0状態を除き、通常有利区間の各遊技状態から有利区間の各遊技状態に移行する場合には、ほとんどの場合、通常有利区間の各遊技状態におけるRT状態がRT1状態に対応するようになっている。したがって、有利区間の遊技状態であるラインバトル準備状態、権利獲得抽籤準備状態、及びエンディング準備状態は、それぞれ、ラインバトル状態、権利獲得抽籤状態、及びエンディング1状態若しくはエンディング2状態に移行することが決定されていて、かつ、RT状態がRT2状態でない場合に、RT状態をRT2状態まで上昇させるための準備状態として位置付けられる。

20

【0197】

主制御回路90は、基本的に、ラインバトル準備状態、権利獲得抽籤準備状態、及びエンディング準備状態において、RT状態がRT2状態に移行すると、遊技状態をそれぞれ、ラインバトル状態、権利獲得抽籤状態、及びエンディング1状態若しくはエンディング2状態に移行させる。なお、有利区間の各遊技状態における遊技の流れの詳細は、後述の図35～図44を参照しながら後で説明する。

【0198】

ここで、本実施形態では、有利区間の各遊技状態においてボーナス状態となったとき（より詳細には、有利区間中にボーナス役に当籤したとき）には、非有利区間及び通常有利区間とは異なり、当該ボーナス状態においては、遊技者にとって有利な停止操作の情報（すなわち、遊技者が最も多くメダルを得ることができる停止操作の情報）を報知する（後述の図45参照）。具体的には、ボーナス状態の押し順小役（後述の「F__」AC1__1」～「F__」AC1__6」の内部当籤役）のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、遊技者にとって有利な停止操作の情報が必ず報知される。それゆえ、有利区間においてボーナス状態となったときには、非有利区間及び通常有利区間においてボーナス状態となったときよりも、遊技者に付与される利益が多くなる。この意味においても、有利区間の各遊技状態は、非有利区間及び通常有利区間の各遊技状態よりも有利な遊技状態となっている。

30

40

【0199】

また、本実施形態では、有利区間の各遊技状態は、上述した有利区間中報知期間中である（すなわち、状態表示器の点灯中である）とともに、上述した規制監視期間中でもある（すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数中である）状態となっている。なお、有利区間中（ボーナス状態中を含む）の遊技回数が上限の「1500」回に達することなく、有利区間が終了した場合には、上述した有利区間中報知期間が終了される（すなわち、状態表示器の点灯が終了され、消灯される）とともに、上述した規制監視期間が終了される（すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数が終了され、計数結果が初期化（クリア）される）。また、有利区間中（ボーナス状態中を含む）の遊技回数が上限の「150

50

0」回に達した場合には、有利区間が強制的に終了され（ボーナス状態中である場合には、ボーナス状態のみが継続する）、この場合にも、上述した有利区間中報知期間が終了される（すなわち、状態表示器の点灯が終了され、消灯される）とともに、上述した規制監視期間が終了される（すなわち、一連の有利な遊技の区間が継続する上限となる「1500」回の遊技回数の計数が終了され、計数結果が初期化（クリア）される）。

【0200】

なお、本実施形態では、有利区間中（ボーナス状態中を含む）の遊技回数が上限の「1500」回に達したに基づいて、有利区間が強制的に終了される場合、例えば、有利区間中の各遊技状態を継続させることが決定され（継続させるための権利が付与され）、あるいは、有利区間中の各遊技状態の残りの遊技回数が残存している場合であっても、それらは全て初期化（クリア）された上で、非有利区間の通常状態に移行するようになっている。また、有利区間のボーナス状態中であるときに、有利区間が強制的に終了された場合には、当該ボーナス状態における上述した押し順小役の押し順報知も直ちに終了されるようになっている。もっとも、この場合には、例外的に、当該ボーナス状態が終了するまで上述した押し順小役の押し順報知が行われるようにしてもよい。また、規制監視期間に対応する遊技回数も「1500」回に限られず、その値は適宜変更可能である。

【0201】

また、本実施形態では、基本的に、上述した通常有利区間及び有利区間に対応する各遊技状態が継続する期間、あるいは各遊技状態が延長される期間（継続する期間）を遊技回数（ゲーム数）により管理しているが、各遊技状態の期間を管理する手法はこれに限られない。例えば、上述した通常有利区間及び有利区間に対応する各遊技状態のうち、一又は複数の遊技状態の期間を、その期間中に払い出されたメダルの払出枚数や、そこからメダルの投入枚数を減じた差枚数（純増数）により管理してもよいし、メダルの払い出しに影響を与える報知（すなわち、上述した押し順小役が当籤した場合の報知）を行った回数（報知回数）により管理してもよい。

【0202】

<メインROMに記憶されているデータテーブルの構成>

次に、図15～図22を参照して、メインROM102に記憶されている各種データテーブルの構成について説明する。なお、図14で説明した遊技性に係る各遊技状態で行われる各種抽籤で用いられる各種データテーブルについては、別途、各遊技性の説明と一緒に後述する。

【0203】

[図柄配置テーブル]

まず、図15を参照して、図柄配置テーブルについて説明する。図柄配置テーブルは、左リール3L、中リール3C及び右リール3Rのそれぞれの回転方向における各図柄の位置と、各位置に配置された図柄の種類を特定するデータ（以下、図柄コード（図15中の図柄コード表を参照）という）との対応関係を規定する。

【0204】

図柄配置テーブルでは、リールインデックスが検出されたときに、リール表示窓4の枠内における各リールの中段領域に位置する図柄の位置を「0」と規定する。そして、各リールにおいて、図柄位置「0」を基準としてリールの回転方向（図15中の図柄位置「19」から図柄位置「0」に向かう方向）に進む順に、図柄カウンタの値に対応する「0」～「19」が、図柄位置として、各図柄に割り当てられる。

【0205】

すなわち、図柄カウンタの値（「0」～「19」）と、図柄配置テーブルとを参照することにより、リール表示窓4の枠内における各リールの上段領域、中段領域及び下段領域に表示されている図柄の種類を特定することができる。なお、本実施形態では、図柄として、「赤7」、「青7」、「BAR」、「チェリー1」、「チェリー2」、「ベル」、「スイカ」、「リプレイ」及び「blank」の9種類の図柄を用いる。

【0206】

また、本実施形態では、図柄コード表に示すように、図柄「赤 7」（図柄コード 1）には、データとして「0 0 0 0 0 0 0 1」が割り当てられ、図柄「青 7」（図柄コード 2）には、データとして「0 0 0 0 0 0 1 0」が割り当てられている。図柄「BAR」（図柄コード 3）には、データとして「0 0 0 0 0 0 1 1」が割り当てられ、図柄「チェリー 1」（図柄コード 4）には、データとして「0 0 0 0 0 1 0 0」が割り当てられ、図柄「チェリー 2」（図柄コード 5）には、データとして「0 0 0 0 0 1 0 1」が割り当てられている。

【0207】

図柄「ベル」（図柄コード 6）には、データとして「0 0 0 0 0 1 1 0」が割り当てられている。図柄「スイカ」（図柄コード 7）には、データとして「0 0 0 0 0 1 1 1」が割り当てられ、図柄「リプレイ」（図柄コード 8）には、データとして「0 0 0 0 1 0 0 0」が割り当てられ、図柄「blank」（図柄コード 9）には、データとして「0 0 0 0 1 0 0 1」が割り当てられている。

【0208】

[内部抽籤テーブル]

次に、図 16 ~ 図 18 を参照して、内部当籤役を決定する際に参照される内部抽籤テーブルについて説明する。なお、図 16 及び図 17 は、RT0 状態 ~ RT5 状態のそれぞれにおいて参照される内部抽籤テーブルである。また、図 18 は、ボーナス状態において参照される内部抽籤テーブルである。

【0209】

内部抽籤テーブルは、遊技状態（図 13 参照）毎に設けられ、各種内部当籤役と、各内部当籤役が決定されときの抽籤値との対応関係を規定する。なお、抽籤値は、予め設定されたボーナス役や小役等の内部当籤の期待値を調整するための設定値（設定 1 ~ 6）毎に規定される。この設定は、例えば、リセットスイッチ 76 及び設定用鍵型スイッチ 54（図 7 参照）を用いて変更される。

【0210】

本実施形態の内部抽籤処理では、まず、乱数回路 110 の乱数レジスタ 0 により、予め定められた数値の範囲（例えば、0 ~ 65535）から抽出される乱数値を、各内部当籤役に対応して規定された抽籤値で順次加算する。次いで、抽籤結果（抽籤値 + 乱数値）が 65535 を超えたか否か（抽籤結果がオーバーフローしたか否か）の判定を行う。そして、所定の内部当籤役において、抽籤結果が 65535 を超えた場合、該内部当籤役が当籤したと判定される。なお、本実施形態の内部抽籤処理では、抽出した乱数値に抽籤値を加算して抽籤を行う例を説明したが、本発明はこれに限定されず、乱数値から抽籤値を減算して、減算結果（抽籤結果）が「0」を下回ったか否か（抽籤結果がアンダーフローしたか否か）を判定して、内部抽籤の当籤 / 非当籤を決定してもよい。

【0211】

それゆえ、本実施形態の内部抽籤処理では、抽籤値として規定されている数値が大きい内部当籤役ほど、決定される確率が高い。なお、各内部当籤役の当籤確率は、「各当籤番号に規定された抽籤値 / 抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：65536）」によって表すことができる。

【0212】

RT0 状態 ~ RT5 状態のそれぞれにおいて参照される内部抽籤テーブルでは、図 16 に示すように、基本的には、RT 状態の種別に応じて、内部当籤役として決定されるリプレイ役の種別及び当籤確率が変化する。例えば、名称「F__RT0 中リプレイ 1（No. 40）」 ~ 「F__RT0 中リプレイ 6（No. 45）」に係るリプレイ役は、RT0 状態以外では内部当籤役として決定されることなく、RT0 状態で内部当籤役として決定される。

【0213】

図 16 及び図 17 において、「No. 1」 ~ 「No. 38」が示す内部当籤役は、ボーナス役とリプレイ役又は小役とが重複して当籤する内部当籤役となっている。例えば、「

F__BB1 + F__確定リブ (No. 1)」は、ボーナス役「F__BB1」と、リプレイ役「F__確定リブ」とが重複して当籤し、ボーナス役「F__BB1」に対応する図柄の組合せ「BB01」（後述の図19～図22参照）と、リプレイ役「F__確定リブ」に対応する図柄の組合せ「REP01」～「REP09」（後述の図19～図22参照）の導出が許容される（入賞が許可される）内部当籤役となっている。

【0214】

また、図16及び図17において、「No. 39」～「No. 60」が示す内部当籤役は、リプレイ役が当籤する内部当籤役となっている。例えば、「F__維持リブ (No. 40)」は、リプレイ役「F__維持リブ」が当籤し、リプレイ役「F__維持リブ」に対応する図柄の組合せ「REP02」（後述の図19～図22参照）の導出が許容される（入賞が許可される）内部当籤役となっている。

10

【0215】

また、図16及び図17において、「No. 61」～「No. 98」が示す内部当籤役は、小役が当籤する内部当籤役となっている。例えば、「F__チャンス目A1 (No. 61)」は、小役「F__チャンス目A1」が当籤し、小役「F__チャンス目A1」に対応する図柄の組合せ「NML14」、「NML22」、「NML26」及び「NML30」（後述の図19～図22参照）の導出が許容される（入賞が許可される）内部当籤役となっている。

【0216】

なお、図示は省略しているが、「F__チャンス目A1 (No. 61)」～「F__チャンス目B4 (No. 68)」が内部当籤役として決定された場合、後述の「NZR01」（後述の図19～図22参照）の導出も許容される（停止表示が許可される）ようになる。ここで、「HZR01」は、入賞に係る図柄の組合せではなくはずれの図柄の組合せの一部であるが、遊技状態を他のRT状態からRT3状態に移行させる図柄の組合せ（RT3移行目）として規定された図柄の組合せであり、基本的に「No. 61」～「No. 68」が示す内部当籤役のうちのいずれかが決定された場合以外には導出が許容されることがない。それゆえ、「NZR01」は、「No. 61」～「No. 68」が示す内部当籤役に対応する図柄の組合せであるともいい得る。

20

【0217】

また、同様に、「F__上段左ベル1 (No. 77)」～「F__下段右中ベル2 (No. 98)」が内部当籤役として決定された場合、後述の「NZR02」（後述の図19～図22参照）の導出も許容される（停止表示が許可される）ようになる。ここで、「HZR02」は、入賞に係る図柄の組合せではなくはずれの図柄の組合せの一部であるが、遊技状態を他のRT状態からRT1状態に移行させる図柄の組合せ（RT1移行目）として規定された図柄の組合せであり、基本的に「No. 77」～「No. 98」が示す内部当籤役のうちのいずれかが決定された場合以外には導出が許容されることがない。それゆえ、「NZR02」は、「No. 77」～「No. 98」が示す内部当籤役に対応する図柄の組合せであるともいい得る。

30

【0218】

なお、本実施形態では、フラグ間状態（RT5状態）、すなわち、すでにボーナス役が内部当籤役として決定されている（持ち越されている）状態では、さらに、ボーナス役が決定されることはない。それゆえ、図16及び図17に示す内部抽籤テーブルにおいて、フラグ間状態（RT5状態）における「No. 1」～「No. 38」が示す内部当籤役の抽籤値には「0」が設定されている。もっとも、フラグ間状態（RT5状態）とボーナス非当籤状態（RT0～RT4状態）とで小役の当籤確率の変動しないように、「No. 2」～「No. 10」、「No. 12」～「No. 38」が示す内部当籤役において割り当てられていた小役に係る抽籤値は、その分がフラグ間状態（RT5状態）における「No. 61」～「No. 68」、「No. 72」及び「No. 73」が示す内部当籤役の抽籤値に加算されるようになっている。すなわち、「No. 61」～「No. 68」、「No. 72」及び「No. 73」が示す内部当籤役は、フラグ間状態（RT5状態）において

40

50

当籤確率が高くなるのではなく、ボーナス状態以外の遊技状態間で同一の確率となるようになっている。

【0219】

また、図16及び図17において、「No. 0」は、規定されたいずれの図柄の組合せ（後述の図19～図22参照）の導出も許容されない「はずれ」を示すものであり、この「はずれ」の割り当て（抽籤値）が高いほど、遊技者にとっては不利となる。なお、RT0状態及びRT2状態では、「はずれ」が決定される場合はない。また、RT5状態では、「はずれ」が決定される確率が「22289 / 65536」として表記しているが、実際には、いずれかのボーナス役がすでに内部当籤役として決定されている（持ち越されている）状態であることから、その意味において「はずれ」が決定される場合はない。

10

【0220】

なお、図16及び図17では、設定値が「1」（設定1）の場合の内部抽籤テーブルを例に挙げて説明しているが、「No. 21」、「No. 30」、「No. 39」及び「No. 74」に示す内部当籤役以外の内部当籤役については、各設定値間で共通の抽籤値が設定されている。すなわち、同一の当籤確率となっている。一方、「No. 21」、「No. 30」、「No. 39」及び「No. 74」に示す内部当籤役については、各設定値間（あるいは、所定の設定値と特定の設定値との間）で異なる抽籤値が設定されている。すなわち、異なる当籤確率となっている（図16及び図17中、（1）、（2）及び（3）参照）。

【0221】

20

具体的には、例えば、「No. 21」及び「No. 30」に示す内部当籤役は、設定値が「1」の場合、各々「22」という抽籤値が設定されているのに対し、設定値が「6」の場合、各々「77」という抽籤値が設定される（すなわち、設定値が高くなるのにしたがって、「No. 21」及び「No. 30」に示す内部当籤役では抽籤値が「11」ずつ増加している）。なお、図示は省略しているが、フラグ間状態（RT5状態）では、「No. 21」、及び「No. 30」に示す内部当籤役に設定される抽籤値が増加するのにしたがって、「No. 72」に示す内部当籤役に設定される抽籤値も増加する。

【0222】

また、例えば、「No. 74」に示す内部当籤役は、設定値が「1」、「3」及び「5」の場合よりも、設定値が「2」、「4」及び「6」の場合のほうが相対的に抽籤値が高くなるように設定されるとともに、設定値が高くなるのにしたがって抽籤値が増加するように設定される。

30

【0223】

また、例えば、「No. 39」に示す内部当籤役は、設定値が「1」、「3」及び「5」の場合よりも、設定値が「2」、「4」及び「6」の場合のほうが相対的に抽籤値が低くなるように設定されるとともに、設定値が高くなるのにしたがって抽籤値が減少するように設定される。これは、「No. 21」、「No. 30」及び「No. 74」に示す内部当籤役の抽籤値の増加分を調整するためである。したがって、例えば、RT0状態及びRT2状態において、「はずれ」が決定される確率が変動することなく「0」が維持される。なお、これらは、設定値間で、特定の内部当籤役の当籤確率を異ならせる一例である。

40

【0224】

図18において、「No. 1」～「No. 7」が示す内部当籤役は、小役が当籤する内部当籤役となっており、当籤した場合には、図18に示した対応する図柄の組合せの導出が許容される（入賞が許可される）ようになる。なお、本実施形態では、RB状態（すなわち、BB1～BB4状態）において、リプレイ役が内部当籤役として決定されないように構成されているが、図16及び図17に示したリプレイ役のうち、一又は複数のリプレイ役が内部当籤役として決定されるようにしてもよい。

【0225】

[図柄組合せテーブル]

50

次に、図 19 ~ 図 22 を参照して、本実施形態における入賞等に係る図柄の組合せを規定する図柄組合せテーブルについて説明する。なお、本実施形態では、複数の図柄の組合せを予め規定するデータとして、図柄組合せテーブルを設けることを例に挙げて説明しているが、主制御回路 90 側で表示される図柄の組合せが識別可能な態様であれば、他の手法によってデータを規定することもできる。例えば、図柄コードの組合せを定め、これにより表示される図柄の組合せを識別可能としてもよい。

【0226】

図柄組合せテーブルは、図 19 ~ 図 22 に示すように、複数の図柄の組合せを予め規定しており、これらの図柄の組合せの種別を示すデータを、表示役（入賞作動フラグ）として規定している。また、図柄組合せテーブルは、当り要求フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域（後述の図 25 参照）、及び図柄コード格納領域（後述の図 30 参照）と対応するように、9 バイトのデータで構成されるとともに、各格納領域の各ビットに異なる表示役（入賞作動フラグ）を示すデータを規定している。

10

【0227】

なお、図 19 ~ 図 22 においては、規定される図柄の組合せ内で「/」が付された箇所があるが、これは、表記された図柄のうちいずれの図柄でもその図柄の組合せを構成することを示す。例えば、「H Z R 0 1」の組合せは、左リールの図柄が「チェリー 1」、中リールの図柄が「チェリー 1」、右リールの図柄が「チェリー 1」である図柄の組合せ（すなわち、「チェリー 1 - チェリー 1 - チェリー 1」）と、左リールの図柄が「チェリー 2」、中リールの図柄が「チェリー 1」、右リールの図柄が「チェリー 1」である図柄の組合せ（すなわち、「チェリー 2 - チェリー 1 - チェリー 1」）と、が対応する図柄の組合せであることを示している。

20

【0228】

表示役（入賞作動フラグ）「H Z R 0 1」は、はずれの図柄組合せであるが、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、R T 状態を他の R T 状態から R T 3 状態に移行させる図柄の組合せ（「R T 3 移行目」）として規定された図柄の組合せである。

【0229】

表示役（入賞作動フラグ）「H Z R 0 2」は、はずれの図柄組合せであるが、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、R T 状態を他の R T 状態から R T 1 状態に移行させる図柄の組合せ（「R T 1 移行目」）として規定された図柄の組合せである。

30

【0230】

表示役（入賞作動フラグ）「B B 0 1」、「B B 0 2」、「B B 0 3」及び「B B 0 4」は、ボーナス役に係る図柄の組合せであり、各々の図柄の組合せが表示有効ライン上に表示された場合に、対応するボーナス状態を作動させる。

【0231】

表示役（入賞作動フラグ）「R E P 0 1」~「R E P 0 6」は、リプレイ役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、再遊技を作動させる。なお、「R E P 0 1」の図柄の組合せは、「平行リブ」あるいは「直線リブ」と称することができ、「R E P 0 2」の図柄の組合せは、「通常リブ」と称することができ、「R E P 0 3」の図柄の組合せは、「被弾リブ」と称することができ、「R E P 0 4」の図柄の組合せは、「特殊リブ」と称することができ、「R E P 0 5」の図柄の組合せは、「フェイクリブ」と称することができ、「R E P 0 6」の図柄の組合せは、「B A R 揃いリブ」と称することができる。

40

【0232】

表示役（入賞作動フラグ）「R E P 0 7」は、リプレイ役に係る図柄の組合せであり、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、再遊技を作動させるとともに、R T 状態を他の R T 状態（例えば、R T 1 状態）から R T 0 状態に移行させる図柄の組合せ（「R T 0 移行リブ」）として規定された図柄の組合せである。

【0233】

表示役（入賞作動フラグ）「R E P 0 8」は、リプレイ役に係る図柄の組合せであり、

50

当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、再遊技を作動させるとともに、R T状態を他のR T状態（例えば、R T 0状態及びR T 2状態）からR T 1状態に移行させる図柄の組合せ（「R T 1移行リブ」）として規定された図柄の組合せである。

【0234】

表示役（入賞作動フラグ）「R E P 0 9」は、リプレイ役に係る図柄の組合せであり、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、再遊技を作動させるとともに、R T状態を他のR T状態（例えば、R T 0状態）からR T 2状態に移行させる図柄の組合せ（「R T 2移行リブ」）として規定された図柄の組合せである。

【0235】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 0 1」は、小役に係る図柄の組合せであり、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、8枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 0 1」の図柄の組合せは、「ベル」の図柄の組合せと称することができる。

10

【0236】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 0 2」～「N M L 1 3」は、小役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、1枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 0 2」～「N M L 1 3」の図柄の組合せは、「打順役」の図柄の組合せと総称することができる。

【0237】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 1 4」～「N M L 3 0」は、小役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、1枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 1 4」～「N M L 3 0」の図柄の組合せは、「チャンス役」の図柄の組合せと総称することができる。

20

【0238】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 3 1」～「N M L 3 3」は、小役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、5枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 3 1」～「N M L 3 3」の図柄の組合せは、「特殊役」の図柄の組合せと総称することができる。

【0239】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 3 4」は、小役に係る図柄の組合せであり、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、8枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 3 4」の図柄の組合せは、「クロスダウンベル」の図柄の組合せと称することができる。

30

【0240】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 3 5」は、小役に係る図柄の組合せであり、当該図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、5枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 3 5」の図柄の組合せは、「スイカ」の図柄の組合せと称することができる。

【0241】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 3 6」及び「N M L 3 7」は、小役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、8枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 3 6」及び「N M L 3 7」の図柄の組合せは、「J A C A」の図柄の組合せと総称することができる。

40

【0242】

表示役（入賞作動フラグ）「N M L 3 8」～「N M L 4 0」は、小役に係る図柄の組合せであり、これらのうちのいずれかの図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、2枚のメダルが払い出される。なお、「N M L 3 8」～「N M L 4 0」の図柄の組合せは、「J A C B」の図柄の組合せと総称することができる。

【0243】

なお、本実施形態では、一の表示役（入賞作動フラグ）を示すデータとして、複数の図柄の組合せ（コンビネーション）が割り当てられるものが含まれる例について説明しているが、一の表示役（入賞作動フラグ）を示すデータには、一の図柄の組合せ（コンビネー

50

ション)のみが割り当てられるようにデータを構成することもできる。

【0244】

[内部当籤役と停止操作順序(打順)と表示役等との対応関係]

次に、図23及び図24を参照して、内部当籤役と停止操作順序(打順)と表示役等との対応について説明する。

【0245】

本実施形態のパチスロ1では、遊技者の停止操作順序(押し順)に応じて表示される図柄組合せが異なる役、いわゆる「押し順役」(例えば、上述した「押し順小役」や「押し順リプレイ」)を設ける。なお、リール3L, 3C, 3Rに対応するストップボタン17L, 17C, 17Rが設けられているため、最大6通りの停止操作順序(押し順)がある。

10

【0246】

図23及び図24においては、停止操作順序(押し順)が「左、中、右」の順であることを「打順1」として示し、停止操作順序(押し順)が「左、右、中」の順であることを「打順2」として示し、停止操作順序(押し順)が「中、左、右」の順であることを「打順3」として示し、停止操作順序(押し順)が「中、右、左」の順であることを「打順4」として示し、停止操作順序(押し順)が「右、左、中」の順であることを「打順5」として示し、停止操作順序(押し順)が「右、中、左」の順であることを「打順6」として示している。

【0247】

20

図23及び図24に示すように、「F__確定リブ」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「特殊リブ」が成立する。なお、停止操作のタイミングに応じて、当籤しているその他のリプレイ役のうちいずれかが成立するようにしてもよい。

【0248】

ここで、「停止操作のタイミングにかかわらず」とは、有効ラインを「センターライン」、「トップライン」及び「ボトムライン」の3ラインとし、最大滑り駒数を「4」としたときに、最大滑り駒数の範囲内で、対応する図柄がいずれかの有効ライン上に停止表示可能となるように配置されている(例えば、図柄5個分の範囲内で配置されている)ことを意味するものである。なお、例えば、左リール3Lにおいて、「チェリー1」の図柄は、最大滑り駒数の範囲内で停止表示されない箇所(例えば、図柄位置「10」~「12」が中段にあるタイミングで停止操作が行われたとき)もあるが、その箇所で停止操作が行われた場合には「チェリー2」の図柄が停止表示され得るように、図柄位置「13」に「チェリー2」の図柄が配置されている。したがって、内部当籤役が決定される際に、これに対応する図柄の組合せを構成する図柄として、例えば、「チェリー1」と「チェリー2」の図柄が停止表示されることを重複して許可することにより、全体としては最大滑り駒数の範囲内で、対応する図柄がいずれかの有効ライン上に停止表示可能となっている場合も、「停止操作のタイミングにかかわらず」当該図柄の組合せが成立するといえる。以下、他の表示役(入賞作動フラグ)等においても同様である。もっとも、押し順役にあっては、停止操作順序に基づいて優先的に停止制御される図柄の組合せが変動することから、上述したように図柄が配置されていたとしても、停止操作順序の種別によってその図柄が有効ライン上に停止表示されない場合もある。

30

40

【0249】

「F__維持リブ」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「通常リブ」のうちいずれかが成立する。

【0250】

「F__RT0中リプレイ1」は、押し順役であり、RT0状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順1」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「RT2移行リブ」が成立し、RT状態がRT2状態に移行する。一方、停止操

50

作順序が「打順 1」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0251】

「F__R T 0 中リプレイ 2」は、押し順役であり、R T 0 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 2」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 2 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 2 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 2」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0252】

「F__R T 0 中リプレイ 3」は、押し順役であり、R T 0 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 3」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 2 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 2 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 3」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0253】

「F__R T 0 中リプレイ 4」は、押し順役であり、R T 0 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 4」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 2 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 2 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 4」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0254】

「F__R T 0 中リプレイ 5」は、押し順役であり、R T 0 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 5」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 2 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 2 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 5」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0255】

「F__R T 0 中リプレイ 6」は、押し順役であり、R T 0 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 6」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 2 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 2 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 6」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【0256】

「F__R T 1 中リプレイ 1」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 1」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。なお、停止操作順序が「打順 5」及び「打順 6」のとき、他の「維持リブ」よりも「フェイクリブ」が優先的に停止するように停止制御が行われる。すなわち、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば「フェイクリブ」が成立し、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ他の「維持リブ」が成立するようになっている。これは、「F__R T 1 中リプレイ 2」及び「F__R T 1 中リプレイ 3」においても同様である。

【0257】

「F__R T 1 中リプレイ 2」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 2」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 2」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移

10

20

30

40

50

行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。

【 0 2 5 8 】

「 F _ R T 1 中リプレイ 3 」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 3 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 3 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。

【 0 2 5 9 】

「 F _ R T 1 中リプレイ 4 」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 4 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 4 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。

【 0 2 6 0 】

「 F _ R T 1 中リプレイ 5 」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 5 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 5 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。

【 0 2 6 1 】

「 F _ R T 1 中リプレイ 6 」は、押し順役であり、R T 1 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 6 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 0 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行する。一方、停止操作順序が「打順 6 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 0 移行リブ」以外のリプレイ役のうちいずれかが成立し、R T 状態が R T 0 状態に移行せず、R T 1 状態が維持される（維持リブ）。

【 0 2 6 2 】

なお、本実施形態では、「R T 0 移行リブ」が成立するとき、同時に「R T 1 移行リブ」も成立する場合があるが、この場合、主制御回路 9 0 は、「R T 0 移行リブ」の成立を「R T 1 移行リブ」の成立よりも優先して判断する。すなわち、「R T 0 移行リブ」と「R T 1 移行リブ」が同時に成立した場合には、「R T 0 移行リブ」が成立したと判断して R T 状態を R T 0 状態に移行させ、「R T 1 移行リブ」が成立したとは判断しない。

【 0 2 6 3 】

「 F _ R T 2 中リプレイ 1 」は、押し順役であり、R T 2 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1 」及び「打順 2 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 1 移行リブ」以外のリプレイ役（例えば、「通常リブ」）が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行せず、R T 2 状態が維持される（維持リブ）。一方、停止操作順序が「打順 1 」及び「打順 2 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する。

【 0 2 6 4 】

「 F _ R T 2 中リプレイ 2 」は、押し順役であり、R T 2 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 3 」及び「打順 4 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「R T 1 移行リブ」以外のリプレイ役（例えば、「通常リブ」）が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行せず、R T 2 状態が維持される（維持リブ）。一方、停止操作順序が「打順 3 」及び「打順 4 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「R T 1 移行リブ」が成立し、R T 状態が R T 1 状態に移行する

。

【 0 2 6 5 】

「 F __ R T 2 中リプレイ 3 」は、押し順役であり、 R T 2 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 5 」及び「打順 6 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「 R T 1 移行リブ」以外のリプレイ役（例えば、「通常リブ」）が成立し、 R T 状態が R T 1 状態に移行せず、 R T 2 状態が維持される（維持リブ）。一方、停止操作順序が「打順 5 」及び「打順 6 」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「 R T 1 移行リブ」が成立し、 R T 状態が R T 1 状態に移行する。

。

【 0 2 6 6 】

「 F __ 上段リブ 」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「平行リブ」がトップラインで成立する（すなわち、「リプレイ」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段リブ」となる）。

【 0 2 6 7 】

「 F __ 中段リブ 1 」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「平行リブ」がセンターラインで成立する（すなわち、「リプレイ」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段リブ」となる）。

【 0 2 6 8 】

「 F __ 中段リブ 2 」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1 」～「打順 4 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「中段リブ」が成立し、停止操作順序が「打順 1 」～「打順 4 」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば「フェイクリブ」が成立し、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ「中段リブ」が成立する。なお、いずれのリプレイ役が成立しても遊技状態の移行は行われないことから、「 F __ 中段リブ 2 」は、押し順役であるが、停止操作順序によって遊技者の利益は変動しない内部当籤役である。

【 0 2 6 9 】

「 F __ 中段リブ 3 」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1 」及び「打順 2 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「中段リブ」が成立し、停止操作順序が「打順 1 」及び「打順 2 」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば「 B A R 揃いリブ」が成立し、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ「中段リブ」が成立する。なお、いずれのリプレイ役が成立しても遊技状態の移行は行われないことから、「 F __ 中段リブ 3 」は、押し順役であるが、停止操作順序によって遊技者の利益は変動しない内部当籤役である。

【 0 2 7 0 】

「 F __ 下段リブ 」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「平行リブ」がボトムラインで成立する（すなわち、「リプレイ」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段リブ」となる）。

【 0 2 7 1 】

「 F __ 被弾リブ 」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「被弾リブ」がセンターラインで成立する（すなわち、「リプレイ」の図柄が左リール 3 L 及び中リール 3 C の中段に一直線に表示されるものの、右リール 3 R では中段に表示されないように成立する）。

【 0 2 7 2 】

「 F __ J A C 1 __ 1 」は、押し順役であり、 R B 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1 」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「 J A C A 」のうちいずれかが成立し、 1 5 枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順 1 」以外であれば、停止操作のタイミングにかか

10

20

30

40

50

ならず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

【0273】

なお、「ベル」と「JACA」は、それぞれ8枚のメダルが払い出される図柄の組合せとなっているため、上述のように同時に成立した場合、本来は「8 + 8 = 16枚」のメダルが払い出されることになるが、本実施形態では、1回の遊技で払出可能なメダルの上限を「15」枚として定め、15枚を超える分の入賞が発生した場合であっても15枚のメダルを払い出すようにしている。これは、「F__JAC1__2」～「F__JAC1__6」においても同様である。

【0274】

「F__JAC1__2」は、押し順役であり、RB状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順2」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「JACA」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順2」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

【0275】

「F__JAC1__3」は、押し順役であり、RB状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順3」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「JACA」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順3」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

【0276】

「F__JAC1__4」は、押し順役であり、RB状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順4」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「JACA」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順4」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

【0277】

「F__JAC1__5」は、押し順役であり、RB状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順5」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「JACA」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順5」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

【0278】

「F__JAC1__6」は、押し順役であり、RB状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順6」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「JACA」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順6」以外であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「JACB」全てが成立し（すなわち、「S__JACB1」、「C__JACB2」及び「S__JACB3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、6枚のメダルが払い出される。

10

20

30

40

50

【0279】

なお、本実施形態では、R B 状態において、押し順が正解した場合（遊技者に有利な停止操作の手順で停止操作が行われた場合）に、「ベル」と「J A C A」が重複して入賞することで15枚のメダルが払い出されるようにしているが、これに限られず、例えば、「J A C A」のメダルの払出枚数を「15」枚として定め、押し順が正解した場合に、当籤している「J A C A」のうちいずれかが成立することで、15枚のメダルが払い出されるようにしてもよい。

【0280】

また、本実施形態では、R B 状態において、押し順が正解しなかった場合（遊技者に有利な停止操作の手順で停止操作が行われなかった場合）に、複数の「J A C B」が重複して入賞することで6枚（2枚×3ライン）のメダルが払い出されるようにしているが、これに限られず、例えば、「J A C B」のメダルの払出枚数を「6」枚として定め、押し順が正解しなかった場合に、当籤している「J A C B」のうちいずれかが成立することで、6枚のメダルが払い出されるようにしてもよい。

【0281】

「F __ J A C 2」は、押し順役でなく、R B 状態において内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」及び当籤している「J A C A」のうちいずれかが成立し、15枚のメダルが払い出される。なお、これも同様に、例えば、「J A C A」のメダルの払出枚数を「15」枚として定め、当籤している「J A C A」のうちいずれかが成立することで、15枚のメダルが払い出されるようにしてもよい。

【0282】

「F __ チャンス目 A 1」～「F __ チャンス目 A 4」及び「F __ チャンス目 B 1」～「F __ チャンス目 B 4」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、「チャンス役」の取りこぼしが発生し、「R T 3 移行目」が有効ライン上に表示される。この場合、メダルの払い出しはないが、R T 状態が R T 3 状態に移行する可能性があるため、「チャンス役」を取りこぼして「R T 3 移行目」を表示させる停止操作を行ったほうが遊技者にとって有利となる可能性が高い。ここでは、その意味において、「チャンス役」の取りこぼしを発生させたほうが「適切な」停止操作のタイミングであると説明している。一方、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、当籤している「チャンス役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出されるものの、R T 状態は R T 3 状態に移行することはない。

【0283】

ここで、「F __ チャンス目 A 1」～「F __ チャンス目 A 4」及び「F __ チャンス目 B 1」～「F __ チャンス目 B 4」のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、停止操作のタイミングが適切なタイミングであるか否かは、例えば、第3停止操作時の停止操作のタイミングに基づいて定められる。具体的には、第3停止操作時における全ての停止操作のタイミングのうちの3/4のタイミングが適切なタイミングとして定められ、当該タイミングで停止操作がなされた場合には「R T 3 移行目」が成立し、残りの1/4のタイミングで停止操作がなされた場合には、停止操作のタイミングが適切でないとして「チャンス役」が成立するようになっている。なお、このような停止操作のタイミングは、原則として、「F __ チャンス目 A 1」～「F __ チャンス目 A 4」及び「F __ チャンス目 B 1」～「F __ チャンス目 B 4」間で少なくとも一部が異なるようになっているものを含んでいる。したがって、どの内部当籤役に当籤したかによって、適切なタイミングも異ならせることができ、停止操作に関する遊技の興趣を向上させることが可能となっている。

【0284】

なお、本実施形態では、「F __ チャンス目 A 1」～「F __ チャンス目 A 4」及び「F __ チャンス目 B 1」～「F __ チャンス目 B 4」が内部当籤役として決定された場合、停止操作のタイミングに応じて、「R T 3 移行目」又は「チャンス役」が成立するものとしているが、これに限られない。例えば、正解となる押し順で停止操作が行われた場合に「R T

3 移行目」が成立し、正解となる押し順で停止操作が行われなかった場合に「チャンス役」が成立するようにしてもよい。また、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「RT3 移行目」が成立するようにしてもよい。この場合、「RT3 移行目」をメダルの払い出しがある（例えば、1 枚のメダルが払い出される）図柄の組合せとして定義するようにしてもよい。

【0285】

「F__弱レア役A」及び「F__弱レア役B」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「チャンス役」のうちいずれかが成立し、1 枚のメダルが払い出される。なお、「F__チャンス目A1」～「F__チャンス目A4」及び「F__チャンス目B1」～「F__チャンス目B4」と同様に、停止操作のタイミングに応じて「チャンス役」の取りこぼしが発生し得るようにしてもよい。この場合、「RT3 移行目」が表示されないようにすればよい。本実施形態では、「F__チャンス目A1」～「F__チャンス目A4」及び「F__チャンス目B1」～「F__チャンス目B4」のいずれかに当籤した場合であって、停止操作のタイミングが適切でなく「チャンス役」が表示される場合と、「F__弱レア役A」及び「F__弱レア役B」のいずれかに当籤した場合であって、「チャンス役」が表示される場合と、があることから、内部当籤役及び停止操作態様によって、ボーナス役重複当籤の期待感やRT3 移行の期待感を変動させることができ、遊技の興趣を向上させることが可能となっている。

【0286】

「F__スイカ1」及び「F__スイカ2」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「スイカ」が成立し、5 枚のメダルが払い出される。なお、停止操作のタイミングに応じて「スイカ」の取りこぼしが発生し得るようにしてもよい。

【0287】

「F__確定役」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、当籤している「特殊役」全てが成立し（すなわち、「S__特殊役1」、「C__特殊役2」及び「S__特殊役3」のそれぞれが同時に有効ライン上に表示され）、15 枚のメダルが払い出される。なお、例えば、「特殊役」のメダルの払出枚数を「15」枚として定め、当籤している「特殊役」のうちいずれかが成立することで、15 枚のメダルが払い出されるようにしてもよい。

【0288】

「F__特殊ベル」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「クロスダウンベル」が成立し、8 枚のメダルが払い出される。

【0289】

「F__上段共通ベル」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。

【0290】

「F__中段共通ベル」は、押し順役でなく、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。

【0291】

なお、本実施形態では、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がボトムラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される、例えば、「F__下段共通ベル」の内部当籤役を設けていないが、この「F__

下段共通ベル」の内部当籤役を設け、ボーナス状態以外の遊技状態において、所定の確率で当籤するように構成することもできる。

【0292】

「F__上段左ベル1」及び「F__上段左ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順1」及び「打順2」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり）、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順1」及び「打順2」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し（RT1移行）、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

10

【0293】

「F__上段中ベル1」及び「F__上段中ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順3」及び「打順4」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり）、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順3」及び「打順4」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し（RT1移行）、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

20

【0294】

「F__上段右左ベル1」及び「F__上段右左ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順5」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり）、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順5」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し（RT1移行）、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

30

【0295】

「F__上段右中ベル1」及び「F__上段右中ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順6」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり）、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順6」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し（RT1移行）、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

40

【0296】

なお、本実施形態では、押し順が正解したときに「上段ベル」となる押し順小役として、「打順1」及び「打順2」（すなわち、左第1停止）が正解となる「F__上段左ベル1」及び「F__上段左ベル2」と、「打順3」及び「打順4」（すなわち、中第1停止）が正解となる「F__上段中ベル1」及び「F__上段中ベル2」と、「打順5」が正解となる「F__上段右左ベル1」及び「F__上段右左ベル2」と、「打順6」が正解となる「F__上段右中ベル1」及び「F__上段右中ベル2」と、が設けられている。すなわち、最大6通り（6択）の押し順のうちで、正解となる押し順が4通り（4択）となるように規定さ

50

れているが、これは、押し順小役において正解となる押し順の一例であり、正解となる押し順のパターン（択数）はこれに限られない。

【 0 2 9 7 】

例えば、正解となる押し順が 6 通り（ 6 択）となるように規定してもよいし、3 通り（ 3 択）となるように規定してもよい。3 通り（ 3 択）とする場合には、左第 1 停止（「打順 1」及び「打順 2」）、中第 1 停止（「打順 3」及び「打順 4」）、及び右第 1 停止（「打順 5」及び「打順 6」）のうちいずれかが正解の押し順となるように、「上段ベル」に係る内部当籤役を構成すればよい。上述した「R T 0 移行リブ」～「R T 2 移行リブ」に係る内部当籤役、以下に示す、「中段ベル」に係る内部当籤役、及び「下段ベル」に係る内部当籤役についても同様である。すなわち、押し順役において、正解となる押し順のパターン（択数）は適宜設定することができ、そのパターン（択数）は、図 2 3 及び図 2 4 で説明したものに限られない。

10

【 0 2 9 8 】

「F __ 中段左ベル 1」及び「F __ 中段左ベル 2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 1」及び「打順 2」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順 1」及び「打順 2」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1 枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「R T 1 移行目」が成立し（R T 1 移行）、メダルは払い出されない。この場合、R T 状態が R T 0 状態、R T 2 状態及び R T 4 状態であれば、R T 1 状態に移行する。

20

【 0 2 9 9 】

「F __ 中段中ベル 1」及び「F __ 中段中ベル 2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 3」及び「打順 4」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順 3」及び「打順 4」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1 枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「R T 1 移行目」が成立し（R T 1 移行）、メダルは払い出されない。この場合、R T 状態が R T 0 状態、R T 2 状態及び R T 4 状態であれば、R T 1 状態に移行する。

30

【 0 3 0 0 】

「F __ 中段右左ベル 1」及び「F __ 中段右左ベル 2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 5」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順 5」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1 枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「R T 1 移行目」が成立し（R T 1 移行）、メダルは払い出されない。この場合、R T 状態が R T 0 状態、R T 2 状態及び R T 4 状態であれば、R T 1 状態に移行する。

40

【 0 3 0 1 】

「F __ 中段右中ベル 1」及び「F __ 中段右中ベル 2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順 6」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し（すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示される「中段ベル」となり）、8 枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順 6」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1 枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「R T 1 移行目」が成立し（R T 1

50

移行)、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

【0302】

「F__下段中ベル1」及び「F__下段中ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順3」及び「打順4」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がボトムラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順3」及び「打順4」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し(RT1移行)、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

10

【0303】

「F__下段右左ベル1」及び「F__下段右左ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順5」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がボトムラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順5」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し(RT1移行)、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

20

【0304】

「F__下段右中ベル1」及び「F__下段右中ベル2」は、押し順役であり、内部当籤役として決定された場合に、停止操作順序が「打順6」であれば、停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がボトムラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。一方、停止操作順序が「打順6」以外であり、停止操作のタイミングが適切なタイミングであれば、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、1枚のメダルが払い出され、停止操作のタイミングが適切なタイミングでなければ、「RT1移行目」が成立し(RT1移行)、メダルは払い出されない。この場合、RT状態がRT0状態、RT2状態及びRT4状態であれば、RT1状態に移行する。

30

【0305】

なお、本実施形態では、「F__上段左ベル1」～「F__下段右中ベル2」のいずれかが内部当籤役として決定された場合であって、正解となる押し順で停止操作が行われなかった場合に、停止操作のタイミングが適切なタイミングであるか否かは、例えば、第3停止操作時の停止操作のタイミングに基づいて定められる。具体的には、第3停止操作時ににおける全ての停止操作のタイミングのうちの1/2のタイミングが適切なタイミングとして定められ、当該タイミングで停止操作がなされた場合には、当籤している「打順役」のうちいずれかが成立し、残りの1/2のタイミングで停止操作がなされた場合には、停止操作のタイミングが適切でないとして「RT1移行目」が成立するようになっている。

40

【0306】

また、本実施形態では、「F__上段左ベル1」～「F__上段右中ベル2」のいずれかが内部当籤役として決定された場合であって、フラグ間状態(RT5状態)であるときには、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がトップラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの上段に一直線に表示される「上段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。また、「F__中段左ベル1」～「F__中段右中ベル2」のいずれかが内部当籤役として決定された場合であって、フラグ間状態(RT5状態)であるときには、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がセンターラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの中段に一直線に表示

50

される「中段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。また、「F__下段中ベル1」～「F__下段右中ベル2」のいずれかが内部当籤役として決定された場合であって、フラグ間状態(RT5状態)であるときには、停止操作順序、及び停止操作のタイミングにかかわらず、「ベル」がボトムラインで成立し(すなわち、「ベル」の図柄が各リールの下段に一直線に表示される「下段ベル」となり)、8枚のメダルが払い出される。

【0307】

すなわち、フラグ間状態(RT5状態)であるときには、押し順小役が押し順役ではなくなる(押し順役が不問となる)ようになっている。もっとも、必ずしもこのように構成する必要はなく、フラグ間状態(RT5状態)であるときにも、上述したように正解となる押し順であれば8枚のメダルが払い出される図柄の組合せ(「上段ベル」、「中段ベル」又は「下段ベル」)が停止表示され、正解となる押し順でなければ、停止操作のタイミングが適切であれば1枚のメダルが払い出される「打順役」が停止表示され、停止操作のタイミングが適切でなければ取りこぼしが発生するようにしてもよい。この場合、「RT1移行目」が表示されても遊技状態がRT1状態には移行しないことから、「RT1移行目」を表示させないようにしてもよい。

【0308】

また、本実施形態では、リプレイ役又は小役とボーナス役とが重複して内部当籤役として決定される場合(ボーナス役が持ち越されている場合を含む)、ボーナス役よりもリプレイ役又は小役を優先的に成立させる停止制御が行われるが、リプレイ役又は小役よりもボーナス役を優先的に成立させる停止制御が行われるようにしてもよい。

【0309】

ここで、本実施形態のパチスロ1におけるリールの停止制御(停止図柄位置の決定手法)について簡単に説明する。本実施形態では、ストップスイッチにより停止操作が検出された後、該当するリールの回転が190ms以内で停止するようにリールの停止制御が行われる。具体的には、停止操作が検出されたときの該当リールに応じた図柄カウンタの値に、滑り駒数「0」～「4」のうちの何れかを加算し、得られた値に対応する図柄位置を、リールの回転が停止する図柄位置(以下、「停止予定位置」という)として決定する。なお、停止操作が検出されたときの該当リールに応じた図柄カウンタの値に対応する図柄位置は、リールの回転の停止が開始される図柄位置(以下、「停止開始位置」という)である。

【0310】

すなわち、滑り駒数は、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから該当するリールの回転が停止するまでのリールの回転量である。言い換えれば、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから該当するリールの回転が停止するまでの期間において、リール表示窓4の該当するリールの中段領域を通過する図柄の数である。これは、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから更新された図柄カウンタの値により把握される。

【0311】

図示しない停止テーブルを参照すると、各リールの停止開始位置に応じて滑り駒数が取得される。なお、本実施形態では、停止テーブルに基づいて滑り駒数が取得されるが、これは仮のものであり、取得した滑り駒数が直ちにリールの停止予定位置が決定されるものではない。本実施形態では、停止テーブルに基づいて取得された滑り駒数(以下、「滑り駒数決定データ」という)より適切な滑り駒数が存在する場合には、図示しない引込優先順位テーブルを参照して滑り駒数を変更する。そして、滑り駒数決定データは、停止開始位置から最大滑り駒数である4個先の図柄位置までの各図柄について、優先順位の比較を行う際の検索順序を決定するために参照される。

【0312】

本実施形態のリール停止制御では、まず、停止テーブル(不図示)に基づいて滑り駒数が取得される。しかしながら、優先順位に基づいて、この滑り駒数の他に、より適切な滑り駒数が存在する場合には、その適切な滑り駒数に変更する。すなわち、本実施形態では

、停止テーブルにより取得された滑り駒数に関係なく、内部当籤役によって停止表示を許可する図柄組合せの優先順位に基づいて、より適切な滑り駒数を決定する。

【0313】

＜メインRAMに設けられている格納領域の構成＞

次に、図25～図30を参照して、メインRAM103に設けられる各種格納領域の構成について説明する。

【0314】

[当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域]

まず、図25を参照して、当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）及び入賞作動フラグ格納領域（表示役格納領域）の構成について説明する。なお、本実施形態では、当り要求フラグ格納領域（フラグデータ格納領域、当籤フラグデータ格納領域）と、入賞作動フラグ格納領域（入賞フラグデータ格納領域）とは、互いに同じ構成を有する。

【0315】

本実施形態では、当り要求フラグ格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される当り要求格納領域1～9で構成され、入賞作動フラグ格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される入賞作動格納領域1～9で構成される。なお、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域の各格納領域に格納されるデータは、図25中の「データ」欄の1バイトデータのみであるが、図25では、説明の便宜上、各格納領域のビットに対応付けられた、各リールの図柄組合せを示す「コンビネーション」（図中では、左リール3Lの図柄、中リール3Cの図柄及び右リール3Rの図柄の順で記載）、及びその内容（図19～図22参照）も併せて記載する。

【0316】

当り要求フラグ格納領域1～9のそれぞれにおいて、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する内部当籤役が内部当籤したことを示す。また、入賞作動格納領域1～9のそれぞれにおいて、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する表示役（入賞作動フラグ）が入賞したことを示す。すなわち、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する内部当籤役の各種図柄組合せが有効ライン上に表示されたことを示す。

【0317】

なお、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域では、各格納領域内の1つのビット（フラグ）に対して、複数の図柄の組合せ（コンビネーション）が割り当てられるものを含むが、上述したように、各格納領域内の1つのビット（フラグ）に対して、1つの図柄の組合せ（コンビネーション）が割り当てられるようにしてもよい。

【0318】

[持越役格納領域]

次に、図26を参照して、持越役格納領域の構成について説明する。本実施形態では、持越役格納領域は、1バイトのデータ格納領域で構成される。

【0319】

内部抽籤の結果、内部当籤役「F__BB1」、「F__BB2」、「F__BB3」又は「F__BB4」が決定されたときには、その内部当籤役（BB役）は、持越役として持越役格納領域に格納される。持越役格納領域に格納された持越役は、対応する図柄組合せが有効ライン上に表示されるまでクリアされずに保持される。また、持越役格納領域に持越役が格納されている間、内部抽籤によって決定された内部当籤役に加えて、持越役が当り要求格納領域に格納される。

【0320】

[遊技状態フラグ格納領域]

次に、図27を参照して、遊技状態フラグ格納領域の構成について説明する。遊技状態フラグ格納領域は、2バイトのデータ格納領域で構成される。本実施形態では、図27に示すように、遊技状態フラグ格納領域の各ビットに対して固有のボーナスの種別又はRTの種別が割り当てられる。

【 0 3 2 1 】

遊技状態フラグ格納領域において、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに該当するボーナス状態又はRT状態の作動が行われていることを示す。例えば、遊技状態フラグ格納領域1のビット0に「1」が格納されているときには、遊技状態がBB1状態であることを示す。また、例えば、遊技状態フラグ格納領域2のビット0に「1」が格納されているときは、遊技状態がRT3状態であることを示す。

【 0 3 2 2 】

[作動ストップボタン格納領域]

次に、図28を参照して、作動ストップボタン格納領域の構成について説明する。作動ストップボタン格納領域は、1バイトのデータ格納領域で構成され、1バイトからなる作動ストップボタンフラグを格納する。作動ストップボタンフラグにおいて、各ビットには、ストップボタンの操作状態が割り当てられる。

【 0 3 2 3 】

例えば、左ストップボタン17Lが今回押されたストップボタン、つまり、作動ストップボタンである場合には、作動ストップボタン格納領域のビット0に「1」が格納される。また、例えば、左ストップボタン17Lが未だに押されていないストップボタン、つまり、有効ストップボタンである場合には、ビット4に「1」が格納される。メインCPU101は、作動ストップボタン格納領域に格納されているデータに基づいて、今回押されたストップボタンと未だに押されていないストップボタンとを識別する。

【 0 3 2 4 】

[押下順序格納領域]

次に、図29を参照して、押下順序格納領域の構成について説明する。押下順序格納領域は、1バイトのデータ格納領域で構成され、1バイトからなる押下順序フラグを格納する。

【 0 3 2 5 】

押下順序フラグにおいて、各ビットには、ストップボタンの押下順序の種別が割り当てられる。例えば、ストップボタンの押下順序が「左、中、右」である場合には、押下順序格納領域のビット0に「1」が格納される。

【 0 3 2 6 】

[図柄コード格納領域]

次に、図30を参照して、図柄コード格納領域の構成について説明する。本実施形態では、図柄コード格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される図柄コード格納領域1～9で構成される。なお、図柄コード格納領域は、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域（図25参照）と同様の構成となる。

【 0 3 2 7 】

図柄コード格納領域では、有効ライン上に停止可能な図柄の組合せ（コンビネーション）に対応するビットに「1」が格納される。なお、全てのリールが停止後、図柄コード格納領域1～9には、表示役（入賞作動フラグ）に対応する図柄コードが格納される。

【 0 3 2 8 】

[内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との関係]

上述した遊技性に関する各種遊技状態において、主制御回路90による各種抽籤では各種データテーブルを参照するが、この際に用いるパラメータとして、本実施形態では、内部当籤役だけでなく、内部当籤役に対応する別の名称の各パラメータ（以下、「抽籤番号」という）も用いる。抽籤番号は、主制御回路90による遊技性に関する各種抽籤において、同様の役割（抽籤対象役であるかや当籤確率など）を担う内部当籤役をグループ化して同じ抽籤番号を割り当てることで、そのグループを識別可能とするための情報である。これにより、本実施形態では、内部当籤役ごとに（例えば、図16及び図17に示す、「No.0」～「No.98」のそれぞれについて）各種データテーブルを設ける必要がなく、抽籤番号ごとに各種データテーブルを設ければよいため、データ量を圧縮することができ、遊技用ROM領域の容量の圧迫を回避することができる。

10

20

30

40

50

【0329】

また、本実施形態では、内部当籤役について、副制御回路200側で今回の単位遊技における内部当籤役を識別させるための別の名称の各パラメータ（以下、「当籤役番号」という）も用いる。当籤役番号は、遊技状態（より詳細には、非有利区間であるか、通常有利区間及び有利区間であるか）に応じて、内部当籤役のうち少なくとも一部の内部当籤役をグループ化して同じ当籤役番号を割り当てることで、そのグループを認識可能とするための情報である。これにより、本実施形態では、内部当籤役ごとに（例えば、図16及び図17に示す、「No.0」～「No.98」のそれぞれについて）、それを識別させるための固有の情報を副制御回路200側に送信する必要がなくなるため、データ量を圧縮することができ、制御負担を低減することができるのみならず、遊技状態に応じて適切な情報を送信することができる。

10

【0330】

ここで、図31及び図32を参照して、内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係について説明する。図31及び図32は、内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との基本的な対応関係の一例を示す図である。

【0331】

図31に示すように、ボーナス役とリプレイ役又は小役とが同時に当籤する（ボーナス役を含む）内部当籤役（図16及び図17に示した「No.1」～「No.38」が示す内部当籤役）については、各設定値間で異なる当籤確率となっている「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」を除き、抽籤番号「13」が割り当てられている。また、「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」については抽籤番号「0」が割り当てられている。

20

【0332】

なお、本実施形態では、非有利区間（図31及び図32中、「通常」。以下同じ）と、通常有利区間及び有利区間（図31及び図32中、「有利」。以下同じ）と、で抽籤番号を異ならせていないが、例えば、「通常」と「有利」とで異なる抽籤や処理が行われる場合には、「通常」と「有利」とで異なる抽籤番号を割り当てることもできる。例えば、非有利区間においては、「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」に当籤した場合、ART抽籤は行われず、通常有利区間に移行することも決定されないが、通常有利区間及び有利区間においては、「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」が当籤した場合にも、他のボーナス役を含む内部当籤役と同様の抽籤が行われるため、「通常」においては上述のように抽籤番号を割り当て、「有利」においては共通の抽籤番号「13」を割り当てるようにしてもよい。

30

【0333】

また、図31に示すように、ボーナス役を含む内部当籤役では、そのボーナス役の種別と同時に当籤するリプレイ役又は小役の種別とに応じて、当籤役番号「28」～「41」のいずれかの当籤役番号が割り当てられている。これにより、副制御回路200側では、当籤したボーナス役の種別、及び当籤したリプレイ役又は小役の種別に応じて、異なる演出を実行することが可能となる。

【0334】

また、図32に示すように、リプレイ又は小役の内部当籤役（図16及び図17に示した「No.39」～「No.98」が示す内部当籤役、図18に示した「No.1」～「No.7」が示す内部当籤役）については、それぞれ「0」～「12」のいずれかの抽籤番号が割り当てられている。

40

【0335】

ここで、例えば、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が高確率となる遊技状態であるRT0状態及びRT2状態で当籤する「F__RT0中リプレイ1」～「F__RT0中リプレイ6」及び「F__RT2中リプレイ1」～「F__RT2中リプレイ3」には、同じ抽籤番号「1」が割り当てられている。また、例えば、RT5状態以外のRT状態において、RT3状態に移行する可能性があり、また、非有利区間から通常有利区間に移行

50

することとなる「F__チャンス目A1」～「F__チャンス目B4」には、同じ抽籤番号「6」が割り当てられている。

【0336】

また、例えば、同じ「上段ベル」が表示される可能性がある「F__上段共通ベル」及び「F__上段左ベル1」～「F__上段右中ベル2」には、同じ抽籤番号「10」が割り当てられ、同じ「中段ベル」が表示される可能性がある「F__中段共通ベル」及び「F__中段左ベル1」～「F__中段右中ベル2」には、同じ抽籤番号「11」が割り当てられ、同じ「下段ベル」が表示される可能性がある「F__下段中ベル1」～「F__下段右中ベル2」には、同じ抽籤番号「12」が割り当てられている。

【0337】

また、図32に示すように、リプレイ又は小役の内部当籤役（図16及び図17に示した「No.39」～「No.98」が示す内部当籤役、図18に示した「No.1」～「No.7」が示す内部当籤役）については、「通常」又は「有利」においてそれぞれ「0」～「27」のいずれかの当籤役番号が割り当てられている。

【0338】

ここで、「F__上段左ベル1」～「F__下段右中ベル2」に割り当てられた当籤役番号に着目すると、「通常」においては、それぞれ同じ当籤役番号「22」が割り当てられているのに対し、「有利」においては、「F__上段左ベル1」～「F__上段右中ベル2」について当籤役番号「23」が割り当てられ、「F__中段左ベル1」～「F__中段右中ベル2」について当籤役番号「24」が割り当てられ、「F__下段中ベル1」～「F__下段右中ベル2」について当籤役番号「25」が割り当てられている点で異なっている。

【0339】

すなわち、本実施形態では、有利区間のラインバトル状態（後述の図35参照）において、これらの内部当籤役に当籤した場合、各リールの中段に「ベル」の図柄が並ぶ場合（「中段ベル」が成立する場合）と、各リールの上段に「ベル」の図柄が並ぶ場合（「上段ベル」が成立する場合）と、各リールの下段に「ベル」の図柄が並ぶ場合（「下段ベル」が成立する場合）と、でいずれもメダルの払出枚数は同じであるが、ラインバトル状態の継続度合いが変動する場合があることから、上述したように、通常有利区間及び有利区間である場合に、「F__上段左ベル1」～「F__上段右中ベル2」と、「F__中段左ベル1」～「F__中段右中ベル2」と、「F__下段中ベル1」～「F__下段右中ベル2」と、で異なる当籤番号を割り当てることにより、副制御回路200側で、図柄の停止表示前（停止操作前）に、いずれの有効ライン上に「ベル」の図柄が並ぶ可能性があるのかを認識させることができ、ラインバトル状態において、この当籤役番号を受信したに基づき期待度の異なる演出を行わせることができる。なお、ラインバトル状態における演出の一例については、後述の図37～図41を用いて、後で説明する。

【0340】

なお、同様の観点より、例えば、「F__上段リブ」、「F__中段リブ1」～「F__中段リブ3」及び「F__下段リブ」について、「通常」においては、それぞれ同じ当籤役番号が割り当てられ、「有利」においては、それぞれ異なる当籤役番号が割り当てられるようにしてもよい。

【0341】

また、本実施形態では、主制御回路90により、内部当籤役に関する情報として、当籤役番号がスタートコマンドの通信パラメータにセットされ、主制御回路90から副制御回路200に送信されるとともに、後述のナビデータ（後述の図45参照）に相当する情報がスタートコマンド（あるいは、他のコマンドであってもよい）の通信パラメータにセットされ、主制御回路90から副制御回路200に送信されるようになっているが、副制御回路200側で、内部当籤役あるいはナビデータを認識可能な情報を送信する態様はこれに限られない。

【0342】

例えば、「F__RT0中リプレイ1」～「F__RT0中リプレイ6」について、非有利

10

20

30

40

50

区間及び通常有利区間においては、同じ当籤役番号が割り当てられ、有利区間においては、それぞれ異なる当籤役番号が割り当てられるようにしてもよい。また、「F__RT1中リプレイ1」～「F__RT1中リプレイ6」について、非有利区間及び通常有利区間においては、同じ当籤役番号が割り当てられ、有利区間においては、それぞれ異なる当籤役番号が割り当てられるようにしてもよい。また、「F__RT2中リプレイ1」～「F__RT2中リプレイ3」について、非有利区間及び通常有利区間においては、同じ当籤役番号が割り当てられ、有利区間においては、それぞれ異なる当籤役番号が割り当てられるようにしてもよい。すなわち、押し順リプレイについて、遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得る各遊技状態（有利区間）においては、内部当籤役が特定可能な情報として当籤役番号を送信し、遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得ない各遊技状態（非有利区間及び通常有利区間）においては、内部当籤役が特定不可能な情報として当籤役番号を送信するようにしてもよい。

10

【0343】

これは、押し順小役についても同様である。この場合、非有利区間においては、同じ当籤役番号が割り当てられ、通常有利区間及び有利区間においては、それぞれ異なる当籤役番号が割り当てられるようにすればよい。そして、通常有利区間及び有利区間における当籤役番号の割り当てについては、例えば、「ベル」の図柄がいずれの有効ライン上に表示される可能性があるかと、遊技者に有利な停止操作の種別の双方が特定可能となるように、当籤役番号をさらに細分化して割り当てるようにすればよい。

【0344】

20

このように、例えば、押し順小役や押し順リプレイについて、遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得る各遊技状態では、内部当籤役が特定可能な情報として当籤役番号を送信し、遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得ない各遊技状態においては、内部当籤役が特定不可能な情報として当籤役番号を送信するようにすれば、後述のナビデータ（後述の図45参照）に相当する情報を副制御回路200に送信する必要がなくなる可能性がある。この場合には、後述のナビデータ（後述の図45参照）に相当する情報を副制御回路200に送信する処理を省略することができ、制御負担を軽減することが可能となる。

【0345】

30

なお、図32においては、内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係の一例として、ボーナス役の当籤（持ち越し）の有無を考慮しないものとして説明しているが、ボーナス役が持ち越されているか否かに応じて、内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係を変更するようにしてもよい。例えば、フラグ間状態では、基本的に遊技性に関する各種の抽籤が行われなくなるため、フラグ間状態では、抽籤番号を全て「0」に割り当てるようにしてもよい。

【0346】

< 非有利区間（通常状態）中の遊技性 >

次に、図33を参照して、非有利区間（通常状態）の遊技の流れについて説明する。なお、図33では、通常状態において、同図に示す各内部当籤役に当籤した場合に、遷移される遊技状態の概要を示している。

40

【0347】

（弱レア役当籤時）

非有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、弱レア役（「F__弱レア役A」及び「F__弱レア役B」）に当籤した場合、メインCPU101は、遊技状態を高確1状態（通常有利区間）に移行させるとともに、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームをセットする。これにより、次回遊技から少なくとも9回の遊技の間、次回遊技から高確1状態に制御される。

【0348】

（チャンス目当籤時）

非有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、チャンス目（「F__チャンス目

50

A 1」～「F__チャンス目 A 4」及び「F__チャンス目 B 1」～「F__チャンス目 B 4」)に当籤した場合、メインCPU 101は、遊技状態を高確2状態(通常有利区間)に移行させるとともに、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームをセットする。これにより、次回遊技から少なくとも9回の遊技の間、高確2状態に制御される。

【0349】

このとき、遊技者の停止操作の結果、「RT3移行目」が表示されてRT状態がRT3状態に移行する場合と、「RT3移行目」が表示されずRT状態がRT3状態に移行しない場合(すなわち、RT3状態以外のRT状態が継続する場合)がある。いずれも高確2状態に移行することにはかわりはないものの、RT状態がRT3状態であるほうが遊技者に有利となる。この点は、後で詳述する。

10

【0350】

なお、チャンス目は、ボーナス役と重複して当籤し得る内部当籤役であるが、ボーナス役と重複して当籤した場合には、そのボーナス役に係る処理(後述の「ボーナス役当籤時」参照)が優先されるため、高確2状態に移行させる制御は行われない。

【0351】

(スイカ1当籤時)

非有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、スイカ1(「F__スイカ1」)に当籤した場合、メインCPU 101は、ART抽籤を行う。具体的には、例えば、8/256の確率で、通常有利区間の本前兆状態を経由して有利区間のエンディング1状態に移行させることを決定し(すなわち、ART当籤を決定し)、248/256の確率で、通常有利区間の高確3状態に移行させるが、有利区間には移行させないことを決定する(すなわち、ART非当籤を決定する)。なお、この場合、さらに、所定の確率で、通常有利区間の本前兆状態を経由して有利区間のラインバトル状態に移行させることを決定可能としてもよい。

20

【0352】

ART当籤が決定された場合、及びART非当籤が決定された場合、いずれの場合にも、メインCPU 101は、スイカ1当籤に基づいて移行する通常有利区間の遊技期間(前兆期間)を決定するための抽籤を行う。具体的には、例えば、前兆期間「9」～「16」ゲームのうちのいずれか一の前兆期間を抽籤により決定する。この場合、例えば、前兆期間「9」ゲームが決定されると、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームがセットされ、前兆期間「16」ゲームが決定されると、通常有利区間の遊技期間に「16」ゲームがセットされる。なお、この場合、移行先が本前兆状態であるか、高確3状態であるかに応じて、異なる確率で一ゲーム数が決定されるようにすればよい。例えば、本前兆状態に移行する場合には、高確3状態に移行する場合よりも相対的に長い前兆期間が決定されやすいように抽籤確率を設定することができる。

30

【0353】

このように、スイカ1に当籤した場合、ART当籤が決定されれば、次回遊技から少なくとも前兆期間抽籤で決定された回数の遊技の間、通常有利区間の本前兆状態に制御され、本前兆状態の終了後は、有利区間のエンディング準備状態に制御される(後述の図34参照)。また、ART非当籤が決定されれば、次回遊技から少なくとも前兆期間抽籤で決定された回数の遊技の間、通常有利区間の高確3状態に制御される。

40

【0354】

(ボーナス役当籤時)

非有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、ボーナス役(「F__BB1」、「F__BB2」、「F__BB3」及び「F__BB4」)に当籤した場合、メインCPU 101は、ART抽籤を行う。なお、各設定値間で当籤確率の異なる「F__BB3+F__スイカ2」又は「F__BB4+F__スイカ2」が内部当籤役として決定された場合には、ART抽籤は行われない。すなわち、「F__BB3+F__スイカ2」又は「F__BB4+F__スイカ2」が内部当籤役として決定された場合には、通常有利区間の各遊技状態に移行することなく、非有利区間(通常状態)のフラグ間状態となり、その後非有利区間(通常

50

状態)のボーナス状態となり、当該ボーナス状態が終了すると、非有利区間(通常状態)のボーナス非当籤状態に戻る。

【0355】

ボーナス役当籤時のART抽籤では、具体的には、例えば、64/256の確率で、ボーナス状態の終了後に有利区間のラインバトル準備状態を経由して有利区間のラインバトル状態に移行させることを決定し(すなわち、ART当籤を決定し)、192/256の確率で、通常有利区間の高確4状態に移行させるが、有利区間には移行させないことを決定する(すなわち、ART非当籤を決定する)。なお、この場合、さらに、所定の確率で、ボーナス状態の終了後に有利区間のエンディング準備状態を経由して有利区間のエンディング1状態に移行させることを決定可能としてもよい。

10

【0356】

ART当籤が決定された場合、及びART非当籤が決定された場合、いずれの場合にも、メインCPU101は、まず、遊技状態を高確4状態(通常有利区間)に移行させる。これにより、次回遊技から高確4状態に制御される。なお、フラグ間状態において高確4状態が継続する期間は、フラグ間状態からボーナス状態に移行するまで(持ち越されたボーナス役が成立するまで)としてもよいし、高確4状態となってから「9」ゲームの間(すなわち、高確1状態や高確2状態と同様)としてもよい。また、ART当籤が決定された場合には、フラグ間状態を、高確4状態でなく、本前兆状態(通常有利区間)に移行させるようにしてもよい。また、フラグ間状態では、実際には高確4状態としての各種の抽籤は行われないことから、このフラグ間状態を、通常有利区間であるが、高確1~高確4

20

【0357】

そして、ボーナス状態となった後、当該ボーナス状態が終了したとき、メインCPU101は、ART当籤が決定されていれば、有利区間のラインバトル準備状態に移行させ、ART非当籤が決定されていれば、通常有利区間の高確4状態を継続させるとともに、通常有利区間の遊技期間に「32」ゲームをセットする。これにより、ボーナス終了後から少なくとも32回の遊技の間、高確4状態に制御される。

【0358】

30

<通常有利区間中の遊技性>

次に、図34を参照して、通常有利区間中の遊技の流れについて説明する。なお、図34では、通常有利区間中の遊技の流れの概要を示している。本実施形態では、上述したように、非有利区間の通常状態において、弱レア役に当籤したことに基づいて移行される高確1状態、チャンス目に当籤したことに基づいて移行される高確2状態、スイカ1に当籤したことに基づいて移行される高確3状態、ボーナス役に当籤したことに基づいて移行される高確4状態、及び有利区間(ART)に移行することが決定されている本前兆状態を有する。

【0359】

まず、メインCPU101は、フラグ間状態(RT5状態)又はボーナス状態である場合、及びボーナス非当籤状態であって本前兆状態である場合(すなわち、すでに有利区間に移行することが決定されている場合)を除き、単位遊技ごとにART移行可能状態抽籤を行う。このART移行可能状態抽籤では、通常有利区間においてボーナス役に当籤した場合に、有利区間に移行することが決定される状態(ART移行可能状態)であるか否かが決定される。このART移行可能状態抽籤において、ART移行可能状態とすることが決定されている場合(ART移行可能状態抽籤に当籤している場合)に、ボーナス役が当籤した場合には、そのボーナス役に基づくボーナス状態の終了後に有利区間に移行させることが決定され、ART移行可能状態とすることが決定されていない場合(ART移行可能状態抽籤に当籤していない場合)に、ボーナス役が当籤した場合には、そのボーナス役に基づくボーナス状態の終了後に有利区間に移行させず、通常有利区間(より詳細には、

40

50

高確 4 状態) が継続することが決定される。

【0360】

A R T 移行可能状態抽籤では、具体的には、例えば、高確 1 状態及び高確 2 状態であれば、6 4 / 2 5 6 の確率で、A R T 移行可能状態を設定し (A R T 移行可能状態に当籤させ)、1 9 2 / 2 5 6 の確率で、A R T 移行可能状態を設定しない (A R T 移行可能状態に非当籤させる)。また、例えば、高確 3 状態及び高確 4 状態であれば、1 2 8 / 2 5 6 の確率で、A R T 移行可能状態を設定し (A R T 移行可能状態に当籤させ)、1 2 8 / 2 5 6 の確率で、A R T 移行可能状態を設定しない (A R T 移行可能状態に非当籤させる)。なお、A R T 移行可能状態の当籤確率は上述したものに限られず、適宜設定可能である。例えば、高確 1 状態、高確 2 状態、高確 3 状態、高確 4 状態の順に、順次当籤確率が高まるように設定することもできるし、単に、各々の遊技状態で当籤確率が異なるように設定することもできる。

10

【0361】

また、A R T 移行可能状態抽籤は、単位遊技ごとに行われるものとなっているが、通常有利区間において、一度 A R T 移行可能状態が設定された場合には、当該通常有利区間が終了するまで、その A R T 移行可能状態が維持されるようにすることもできる。この場合には、一度 A R T 移行可能状態が設定されると、以降当該通常有利区間が終了するまで、A R T 移行可能状態抽籤を行う必要はない。一方、単位遊技ごとに行なう場合には、単位遊技の開始時であって、ボーナス役に当籤したか否かを判別する前に、まず、当該単位遊技を A R T 移行可能状態とするか否かを抽籤し、その後、当該単位遊技においてボーナス役に当籤したか否かを判別するようにすればよい。

20

【0362】

また、非有利区間では、各設定値間で当籤確率の異なる「F __ B B 3 + F __ スイカ 2」又は「F __ B B 4 + F __ スイカ 2」が内部当籤役として決定された場合には、有利区間に移行するか否かが決定されないようになっていたが、通常有利区間では、「F __ B B 3 + F __ スイカ 2」又は「F __ B B 4 + F __ スイカ 2」が内部当籤役として決定された場合にも、A R T 移行可能状態となっていれば、当該ボーナス役に基づくボーナス状態の終了後に有利区間に移行することが決定される。

【0363】

次に、メイン C P U 1 0 1 は、状態間移行等制御処理を行う。この状態間移行等制御処理では、内部当籤役に基づいて、通常有利区間内における各遊技状態の移行制御を行うとともに、所定の条件にしたがって通常有利区間の遊技期間を再セットするなどの処理を行う。この状態間移行等制御処理の内容については、以下に詳述する。

30

【0364】

(チャンス目当籤時)

通常有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、チャンス目 (「F __ チャンス目 A 1」～「F __ チャンス目 A 4」及び「F __ チャンス目 B 1」～「F __ チャンス目 B 4」) に当籤した場合、メイン C P U 1 0 1 は、現在の状態が高確 1 状態又は高確 2 状態であり、R T 状態が R T 3 状態でなければ、高確 2 状態をセットし、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームを再セットする。例えば、高確 1 状態 (9 ゲーム) で、5 回の遊技を行ったときに、チャンス目に当籤した場合には、「9」ゲームが再セットされることで、実質的には通常有利区間の遊技期間が 5 ゲーム分延長されることとなる。

40

【0365】

また、現在の状態が高確 3 状態であり、R T 状態が R T 3 状態でなければ、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームを再セットする。また、現在の状態が高確 4 状態であり、R T 状態が R T 3 状態でなければ、現在の通常有利区間の遊技期間の残りゲーム数が 8 ゲーム以下であれば、通常有利区間の遊技期間に「9」ゲームを再セットする。すなわち、チャンス目に当籤したことに基づいて通常有利区間の遊技期間が適宜延長される。

【0366】

なお、上記において、R T 状態が R T 3 状態であるとき、チャンス目に当籤しても通常

50

有利区間の遊技期間が再セットされないのは、ＲＴ３状態は、遊技者に有利なプレイ役の当籤確率が設定された遊技状態であるが、基本的に８ゲーム間しか継続しない遊技状態となっており、また、後述するように、通常有利区間のＲＴ３状態では、フラグ間状態（ＲＴ５状態）と同様に、制限なく押し順小役の押し順報知が行われるようになっていることから、通常有利区間の終了とＲＴ３状態の終了とを連動させ、ＲＴ３状態であっても遊技者のボーナス役当籤に対する期待感を損なわないようにするためである。

【０３６７】

もっとも、通常有利区間のＲＴ３状態であるとき、通常有利区間の終了が、ＲＴ３状態の終了よりも必ず１ゲーム遅くなるように、通常有利区間の遊技期間が設定される。すなわち、通常有利区間の遊技期間は、少なくともＲＴ３状態の遊技期間（８ゲーム）よりも長い期間に設定される。本実施形態では、通常有利区間が開始されると状態表示器の点灯が開始され、通常有利区間から有利区間に移行した場合にはその点灯が継続する一方、通常有利区間において有利区間に移行しなかった場合には通常有利区間が終了するときその点灯が終了するようになっている。

10

【０３６８】

したがって、例えば、通常有利区間のＲＴ３状態、あるいは通常有利区間のＲＴ５状態において、同様の期待感演出（ボーナス役当籤、あるいはＡＲＴ当籤を遊技者に期待させる演出）を行う場合、通常有利区間とＲＴ３状態とが同じゲームで終了させるようにした場合には、その期待感演出の実行中に、状態表示器の点灯が終了してしまう場合がある。この場合、期待感演出によって最終的にその当否が報知される前に、非当籤であることが遊技者に認識されてしまうことになる。そこで、本実施形態では、例えば、通常有利区間のＲＴ３状態、及び通常有利区間のＲＴ５状態においては、８ゲーム間にわたって同様の期待感演出を実行し、この期待感演出により、８ゲーム目に最終的な当否を報知するようにしているが、通常有利区間をその後も１ゲーム継続させることで、状態表示器の点灯態様によってはその当否が認識できないようにし、遊技者の興趣の維持を図ることを可能としている。

20

【０３６９】

また、通常有利区間において、ＲＴ３状態が終了した場合であっても、残りの期間（例えば、１ゲーム間）は未だ通常有利区間であるため、ここでの内部当籤役の種別によっては、通常有利区間が延長される場合もあることから、例えば、期待感演出においてボーナス役に当籤していないことが報知された場合であっても、遊技者は通常有利区間の延長を願って遊技を継続しようとする。この意味においても、遊技者の興趣の維持を図ることを可能としている。

30

【０３７０】

なお、実行され得る期待感演出は、例えば、表示装置１１に表示される映像による連続演出であってもよいし、その他演出装置（例えば、スピーカ群８４やＬＥＤ群８５）によって行われる連続演出であってもよい。また、必ずしも連続演出である必要もなく、遊技者の期待感を高めるために行われる演出であれば、どのような演出であってもよい。例えば、通常有利区間のＲＴ３状態、あるいは通常有利区間のＲＴ５状態における所定回数（例えば、８ゲーム目）遊技において、その当否が報知されるものであってもよい。この場合、所定回数目の遊技が何ゲーム目であるかを８ゲームを超えない範囲で任意に、あるいは抽籤により決定するようにしてもよい。

40

【０３７１】

また、ＲＴ状態にかかわらず通常有利区間の本前兆状態にあつては、上述した期待感演出が行われるようにしてもよい。この場合、期待感演出が実行され得る期間は、通常有利区間のＲＴ３状態、あるいはＲＴ５状態と同様としてもよいし、それよりも長い期間にわたって実行されるものとしてもよい。

【０３７２】

また、現在の状態が本前兆状態であり、ＲＴ状態がＲＴ３状態に移行した場合（すなわち、「ＲＴ３移行目」が表示された場合）には、通常有利区間の遊技期間に「８」ゲーム

50

を再セットする。この場合、通常有利区間が終了すると有利区間に移行するため、ＲＴ３状態の終了と通常有利区間の終了を完全に連動させることで、（通常有利区間を残存せず）遊技者により有利な有利区間への移行が優先される。また、この場合、すでに上述した期待感演出が行われている場合には、そのまま当該期待感演出がその終了まで行われるようにしてもよいし、再度新たな期待感演出が８ゲーム間にわたって行われるようにしてもよい。また、ＲＴ状態がＲＴ３状態に移行したことに基づいて期待感演出も延長され得るようにしてもよい。

【０３７３】

（スイカ１当籤時）

通常有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、スイカ１（「Ｆ__スイカ１」）に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、本前兆状態でなければ（すなわち、未だＡＲＴ当籤が決定されていなければ）、非有利区間と同様にＡＲＴ抽籤を行う。

10

【０３７４】

そして、メインＣＰＵ１０１は、現在の状態が高確１～高確３状態のいずれかの状態であり、ＲＴ状態がＲＴ３状態であり、ＡＲＴ非当籤であれば、高確３状態をセットするが、通常有利区間の遊技期間の再セットは行わない。また、現在の状態が高確１～高確４状態のいずれかの状態であり、ＲＴ状態がＲＴ３状態であり、ＡＲＴ当籤であれば、本前兆状態をセットし、ＲＴ３状態の残りゲーム数分のゲーム数を通常有利区間の遊技期間に再セットする。

【０３７５】

20

また、現在の状態が高確１又は高確２状態であり、ＲＴ状態がＲＴ３状態でなく、ＡＲＴ非当籤であれば、高確３状態をセットし、再度上述した前兆期間抽籤を行って再セットされる通常有利区間の遊技期間を決定する。また、現在の状態が高確１～高確４状態のいずれかの状態であり、ＲＴ状態がＲＴ３状態でなく、ＡＲＴ当籤であれば、本前兆状態をセットし、高確１状態、高確２状態又は高確４状態であった場合には、再度上述した前兆期間抽籤を行って再セットされる通常有利区間の遊技期間を決定する。なお、高確３状態であった場合には、通常有利区間の遊技期間の再セットは行わない。

【０３７６】

（ボーナス役当籤時）

通常有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるときに、ボーナス役（「Ｆ__ＢＢ１」、「Ｆ__ＢＢ２」、「Ｆ__ＢＢ３」及び「Ｆ__ＢＢ４」）に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、現在の通常有利区間がＡＲＴ移行可能状態でなければ、高確４状態をセットし、ボーナス状態終了後の高確４状態における通常有利区間の遊技期間に「３２」ゲームを再セットする。また、現在の通常有利区間がＡＲＴ移行可能状態であれば、本前兆状態をセットし、ボーナス状態終了後の本前兆状態における通常有利区間の遊技期間に「０」ゲームを再セットする（すなわち、ボーナス状態終了後、すぐに有利区間のラインバトル準備状態に移行させる）。

30

【０３７７】

通常有利区間であり、ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態であるときに、押し順小役に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、押し順小役の押し順報知を行う。具体的には、指示モニタにおいて、ナビデータに対応する数値を表示するとともに、副制御回路２００側で押し順報知が可能となるように、ナビデータに相当する情報を含むコマンドを送信する。

40

【０３７８】

ここで、本実施形態では、ＲＴ状態がＲＴ３状態又はＲＴ５状態であれば、当該通常有利区間が終了するまで、押し順小役に当籤する度に押し順報知が行われる一方、ＲＴ状態がＲＴ３状態及びＲＴ５状態以外であれば、当該通常有利区間中、１回に限り、押し順小役の押し順報知が行われるようになっている。なお、ＲＴ状態がＲＴ３状態及びＲＴ５状態以外である場合の押し順報知の上限回数は１回に限られるものではなく、適宜設定可能である。例えば、「２回」としてもよいし、「３回」としてもよい。

50

【0379】

また、本実施形態では、RT状態がRT3状態であるとき、当該通常有利区間が終了するまで、押し順小役に当籤する度に押し順報知が行われるものとしているが、例えば、RT状態がRT3状態となって8ゲームが消化された後、RT3状態は終了するが、通常有利区間は継続する場合もある。この場合、一旦RT3状態となった後は、RT3状態の終了後であっても当該通常有利区間が終了するまで押し順小役の押し順報知が継続されるようにしてもよいし、RT3状態が終了したことに連動して押し順小役の押し順報知も終了され、通常有利区間のみが継続するようにしてもよい。すなわち、RT状態がRT3状態である期間のみ、押し順報知が行われるようにすることもできる。

【0380】

また、例えば、RT状態がRT3状態でないときに通常有利区間に移行し、通常有利区間においてRT状態がRT3状態となる場合もある。この場合、すでに1回の押し順報知が行われる場合には、その後のRT3状態でもその上限回数を有効として押し順報知が行われなくともよいし、その後のRT3状態ではその上限回数を無効として押し順報知が行われるようにしてもよい。また、この場合、1回も押し順報知が行われていない場合には、その後のRT3状態でもその上限回数を有効として押し順報知が1回に限って行われるようにしてもよいし、その後のRT3状態ではその上限回数を無効として押し順報知が行われるようにしてもよい。RT状態がRT5状態でないときに通常有利区間に移行し、通常有利区間においてRT状態がRT5状態となる場合も同様である。

【0381】

RT状態がRT3状態及びRT5状態以外である場合の押し順報知の上限回数が1回であるとした場合、通常有利区間において2回以上の押し順報知が行われると、RT状態がRT3状態又はRT5状態であることが確定する。本実施形態では、チャンス目はボーナス役とも重複して当籤可能となっていることから、例えば、非有利区間において、チャンス目に当籤し、RT3移行目が表示されずに通常有利区間に移行していた場合、1回目の押し順報知が行われたときには、ボーナス役に当籤しているか否か（すなわち、フラグ間状態であるRT5状態であるか否か）は認識することは難しい。2回目の押し順報知が行われたときに、RT3状態でないことが確定し、結果としてボーナス役に当籤していることが認識可能になっている。

【0382】

一方、例えば、RT3移行目が表示されて通常有利区間に移行していた場合、押し順報知の回数では、ボーナス役に当籤しているか否か（すなわち、フラグ間状態であるRT5状態であるか否か）は認識することが難しく、例えば、上述した期待感演出の最終的な演出内容などによってボーナス役に当籤していることが認識可能となっている。

【0383】

すなわち、RT3状態は、リプレイ役の当籤確率が高く、また、例えば、RT1移行目やRT1移行リブが表示されてもRT状態の変動がない遊技状態であるとともに、通常有利区間であれば回数に限度なく押し順小役の押し順報知が行われるため、他のRT状態で通常有利区間の遊技を行うよりも、通常有利区間中の遊技を有利に進めることができるが、その一方で、通常有利区間においては、ボーナス役に当籤しているか否かが認識しにくい遊技状態となっている。

【0384】

なお、本実施形態では、有利区間中においてボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が作動した場合、当該ボーナス状態においては、遊技者に有利な停止操作の情報（押し順）が報知されるようになっている一方、非有利区間及び通常有利区間中においてボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が作動した場合、当該ボーナス状態においては、遊技者に有利な停止操作の情報（押し順）が報知されないようになっている。これは、通常有利区間においてART移行可能状態であるときにボーナス役に当籤した場合であっても同様である。この場合、ボーナス状態の終了後は有利区間に移行するものの、当該ボーナス状態中には遊技者に有利な停止操作の情報（押し順）が

10

20

30

40

50

報知されない。押し順報知の具体的内容については、後述の図 4 5 を用いて後で説明する。

【 0 3 8 5 】

また、本実施形態では、図 2 4 で説明したように、フラグ間状態において押し順小役に当籤した場合、ボーナス非当籤状態とは異なり、停止操作順序にかかわらず、「上段ベル」、「中段ベル」又は「下段ベル」が成立し、8 枚のメダルが払い出されるようになっているが、この前提においても、通常有利区間のフラグ間状態（R T 5 状態）中では、通常有利区間が終了するまで、ボーナス非当籤状態と同様の押し順報知がなされる。すなわち、通常有利区間の R T 5 状態においては、押し順役の当籤時に、実際に押し順によって付与される利益が変動するか否かにかかわらず、通常有利区間の R T 3 状態と同様の押し順報知が行われるようになっている。これは、上述したように、ボーナス役に当籤しているか否かを認識しづらくし、その期待感をより継続させようとする観点からなされるものである。

10

【 0 3 8 6 】

なお、上述したように、フラグ間状態において押し順小役に当籤した場合、ボーナス非当籤状態と同様に、停止操作順序に応じて払い出させるメダルの枚数を変動させるようにすることもできる。この場合には、通常有利区間のフラグ間状態（R T 5 状態）中において、押し順報知が行われることにより付与される利益も増加する可能性が高まるようになるので、ボーナス役に当籤しているか否かの期待感を高めるのみならず、付与される利益に関する期待感も高めることができる。

20

【 0 3 8 7 】

また、通常有利区間であり、ボーナス非当籤状態であるとき、メイン CPU 1 0 1 は、単位遊技毎に通常有利区間の遊技期間を更新する。具体的には、通常有利区間の遊技期間の遊技回数を「1」ずつ減算し、続いて、通常有利区間の遊技期間が消化されたか（すなわち、減算結果が「0」となったか）否かを判定する。なお、通常有利区間の遊技期間の更新においては、単位遊技毎に遊技回数を「1」ずつ加算していき、続いて、加算結果が通常有利区間の遊技期間の遊技回数に達したか否かの判定によって、通常有利区間の遊技期間が消化されたか否かを判定するようにしてもよい。

【 0 3 8 8 】

通常有利区間の遊技期間更新の結果、通常有利区間の遊技期間が消化されていない場合（図 3 4 中、「期間未消化」）には、通常有利区間を継続させ、通常有利区間のボーナス非当籤状態における遊技が繰り返されることとなる。

30

【 0 3 8 9 】

また、通常有利区間の遊技期間更新の結果、通常有利区間の遊技期間が消化された場合であって、有利区間に移行することが決定されていない場合（図 3 4 中、「期間消化 A R T 非当籤」）には、通常有利区間を終了させ、非有利区間のボーナス非当籤状態に移行させる。

【 0 3 9 0 】

なお、通常有利区間の遊技期間更新の結果、通常有利区間の遊技期間が消化された場合であっても、通常有利区間において1回も押し順小役の押し順報知が行われなかった場合（すなわち、押し順小役に当籤しなかった場合）には、押し順小役の押し順報知が1回行われるまで、通常有利区間が継続されるようにしてもよい。このようにすれば、通常有利区間において、遊技者が最低限の利益を得ることを保障することができるのみならず、期間消化後押し順小役の押し順報知が行われるまでの間に、例えば、A R T 移行可能状態となってボーナス役に当籤させることができれば、ボーナス状態終了後に有利区間に移行させることも可能となることから、遊技性をより多様なものとし、遊技の興趣を向上させることができる。

40

【 0 3 9 1 】

また、通常有利区間の遊技期間更新の結果、通常有利区間の遊技期間が消化された場合であって、有利区間のラインバトル状態に移行することが決定されている場合（図 3 4 中

50

、「期間消化 ラインバトル当籤」)には、通常有利区間を終了させ、有利区間のラインバトル準備状態(ボーナス非当籤状態)に移行させる。なお、有利区間は基本的にRT2状態に対応するため、本実施形態では、有利区間のラインバトル状態に移行させる前に、RT2状態に移行するまでの準備期間としてラインバトル準備状態に移行させるようにしているが、通常有利区間が終了するときに偶発的にRT2状態となっていれば、ラインバトル準備状態を経由せず直接ラインバトル状態に移行させるようにしてもよい。また、RT0状態とRT2状態とは、ともにリプレイ役の当籤確率が最も高い遊技状態であることから(図16及び図17参照)、通常有利区間が終了するときに偶発的にRT0状態となっていれば(あるいは、RT3状態が終了したことに基づいてRT0状態に移行していれば)、ラインバトル準備状態を経由せず直接ラインバトル状態に移行させるようにしてもよい。

10

【0392】

また、通常有利区間の遊技期間更新の結果、通常有利区間の遊技期間が消化された場合であって、有利区間のエンディング1状態に移行することが決定されている場合(図34中、「期間消化 エンディング1当籤」)には、通常有利区間を終了させ、有利区間のエンディング準備状態(ボーナス非当籤状態)に移行させる。なお、通常有利区間が終了するときに、なお、有利区間は基本的にRT2状態に対応するため、本実施形態では、有利区間のエンディング1状態に移行させる前に、RT2状態に移行するまでの準備期間としてエンディング準備状態に移行させるようにしているが、通常有利区間が終了するときに偶発的にRT2状態となっていれば、エンディング準備状態を経由せず直接エンディング1状態に移行させるようにしてもよい。また、RT0状態とRT2状態とは、ともにリプレイ役の当籤確率が最も高い遊技状態であることから(図16及び図17参照)、通常有利区間が終了するときに偶発的にRT0状態となっていれば(あるいは、RT3状態が終了したことに基づいてRT0状態に移行していれば)、エンディング準備状態を経由せず直接エンディング1状態に移行させるようにしてもよい。

20

【0393】

<非有利区間及び通常有利区間の遊技性のまとめ>

以下では、非有利区間及び通常有利区間中の遊技性(一部、有利区間中の遊技性を含む)について、その要部を簡潔にまとめて説明する。

【0394】

30

(1)「チャンス目」は、ボーナス役と同時に内部当籤役として決定可能となっている。

(2)「チャンス目」に当籤した場合、ボーナス役も同時に内部当籤役として決定されている場合には、RT状態がRT5状態となる。この場合、非有利区間であれば、通常有利区間(例えば、「高確4状態」、あるいは「フラグ間通常有利状態」)に移行させる。

(3)「チャンス目」に当籤した場合、ボーナス役が同時に内部当籤役として決定されていない場合であって、停止操作が特定の態様で行われたことに基づいて「RT3移行目」が表示された場合には、RT状態がRT3状態となる。この場合、「RT3移行目」が表示されたか否かにかかわらず、非有利区間であれば、通常有利区間(例えば、「高確2状態」)に移行させる。

40

(4)「チャンス目」に当籤して移行した通常有利区間(例えば、「高確2状態」)は、少なくともRT3状態が継続する期間(例えば、8ゲーム間)よりも長い期間(例えば、9ゲーム間)、継続可能となっている。

【0395】

(5)非有利区間でボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したとき、ART当籤が決定されていれば、有利区間(例えば、「ラインバトル準備状態」)に移行させる。

(6)非有利区間でボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したとき、ART当籤が決定されていなければ(ART非当籤が決定されていれば)、特定期間(例えば、32ゲーム間)、通常有利区間(例えば、「高確4状態」)に移行する

50

。

(7) 非有利区間でボーナス役に当籤した場合、そのボーナス役が、複数の設定値間で当籤確率が同じであるボーナス役である場合には、有利区間 (A R T) に移行させるか否かが決定されるが、複数の設定値間で当籤確率が異なるボーナス役である場合には、有利区間 (A R T) に移行させるか否かが決定されない。

(8) 通常有利区間でボーナス役に当籤した場合、そのボーナス役が、複数の設定値間で当籤確率が同じであるボーナス役である場合、及び複数の設定値間で当籤確率が異なるボーナス役である場合のいずれの場合であっても、有利区間 (A R T) に移行させるか否かが決定される。

【 0 3 9 6 】

(9) 通常有利区間において、R T 状態が R T 3 状態である場合、通常有利区間が終了するまで、押し順小役の押し順報知が行われる。

(1 0) 通常有利区間において、R T 状態が R T 5 状態である場合、通常有利区間が終了するまで、押し順小役の押し順報知が行われる。

(1 1) 通常有利区間において、R T 状態が R T 3 状態又は R T 5 状態でない場合、所定回数 (例えば、1 回) に限り、押し順小役の押し順報知が行われる。

(1 2) 有利区間でボーナス役に当籤した場合、当該ボーナス役に基づくボーナス状態においては、押し順小役の押し順報知が行われるが、非有利区間及び通常有利区間でボーナス役に当籤した場合、当該ボーナス役に基づくボーナス状態においては、有利区間に移行させることが決定されているか否かにかかわらず、押し順小役の押し順報知は行われない。

【 0 3 9 7 】

このように、本実施形態では、「チャンス目」が内部当籤役として決定された場合に、少なくとも 9 ゲーム間、通常有利区間に制御可能であるとともに、A R T 当籤が決定された場合に、有利区間に制御可能であり、「R T 3 移行目」が表示された場合に、R T 状態を R T 3 状態に変移させることが可能であるとともに、ボーナス役が内部当籤役として決定された場合に、R T 状態を R T 5 状態に変移させることが可能となっている。また、「チャンス目」とボーナス役とを同時に内部当籤役として決定可能となっている。そして、通常有利区間であって R T 3 状態及び R T 5 状態である場合には、押し順小役について、遊技者に有利な停止操作の手順が報知されるようになっている。

【 0 3 9 8 】

これにより、通常有利区間では、非有利区間よりも付与されるメダルの枚数が増加する可能性が高まるとともに、ボーナス状態に遷移するか否かの期待感も高まることから、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【 0 3 9 9 】

また、本実施形態では、通常有利区間が継続可能な期間 (9 ゲーム) が、R T 3 状態が継続可能な期間 (8 ゲーム) よりも長い期間に設定されている。

【 0 4 0 0 】

これにより、特定の遊技状態 (R T 3 状態) が終了するか否かにかかわらず、遊技者の期待感を維持させることが可能となるため、さらに遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【 0 4 0 1 】

また、本実施形態では、「チャンス目」は、停止操作が特定の態様 (例えば、適切なタイミング) で行われた場合に「R T 3 移行目」が表示され、特定の態様で行われなかった場合に「R T 3 移行目」が表示されない内部当籤役であり、通常有利区間であって R T 3 状態及び R T 5 状態である場合には、当該通常有利区間が終了するまで、押し順小役について遊技者に有利な停止操作の手順が報知され、通常有利区間であって R T 3 状態及び R T 5 状態でない場合には、所定回数 (例えば、1 回) に限り、押し順小役について遊技者に有利な停止操作の手順が報知されるようになっている。

【 0 4 0 2 】

これにより、「チャンス目」が当籤したときに、ボーナス役も同時に内部当籤役として決定されているか否かと、「R T 3 移行目」が表示されたか否かと、によって通常有利区間の有利度合いや内容を変動させることができるため、さらに遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【0403】

また、本実施形態では、非有利区間において当籤したボーナス役に基づくボーナス状態が終了した場合に、A R T 当籤が決定されている場合には有利区間に移行させ、A R T 当籤が決定されていない場合には、特定期間（例えば、32ゲーム間）、通常有利区間（例えば、高確4状態）に移行させるようになっている。

【0404】

また、本実施形態では、通常有利区間のいずれかの遊技状態であるとき、複数の設定値間で当籤確率が同じであるボーナス役、及び複数の設定値間で当籤確率が異なるボーナス役のいずれに当籤した場合であっても、有利区間に移行させるか否かが決定されるが、非有利区間であるときには、複数の設定値間で当籤確率が異なるボーナス役に当籤した場合には、有利区間に移行させるか否かが決定されないようになっている。

【0405】

これにより、ボーナス役に当籤したときの遊技状態やその種別によって、その後の遊技状態（遊技区間）の遷移をより多様なものとすることができるため、さらに遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【0406】

また、本実施形態では、通常有利区間及び有利区間では、押し順小役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能であり、有利区間においてボーナス状態に制御された場合にも押し順小役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能であるが、非有利区間及び通常有利区間においてボーナス状態に制御された場合には押し順小役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能としないようになっている。

【0407】

これにより、有利区間に移行する期待度が高まるとともに、付与されるメダルの枚数が増加する可能性も高まる遊技区間である通常有利区間を設けることができるため、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができるとともに、このような遊技区間を設ける場合であっても、遊技者に付与される利益が過度となってしまうことを抑制し、遊技者の射幸心が過度に煽られることを抑制することもできる。

【0408】

<ラインバトル状態中の遊技性>

次に、図35～図41を参照して、有利区間のラインバトル状態中の遊技の流れについて説明する。なお、図35では、有利区間のラインバトル状態中の遊技の流れの概要を示している。また、図36では、少なくとも有利区間のラインバトル準備状態及びラインバトル状態において参照される各種テーブルであって、メインROM102に格納されている各種データテーブルの一例を示している。また、図37～図41では、ラインバトル状態を継続させるか否かの継続度合いが変動する態様について説明するために、表示装置11の表示例を示している。本実施形態では、ラインバトル状態は、インターバル状態、バトル状態、及び継続抽籤状態を有する。また、本実施形態では、ラインバトル状態は、基本的にラインバトル準備状態を経由して移行される遊技状態となっている。

【0409】

（ラインバトル準備状態）

メインCPU101は、非有利区間又は通常有利区間において、ボーナス役に当籤したことに基づいてA R T 当籤が決定された場合、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したときに、ラインバトル準備状態に移行させる。また、有利区間のラインバトル準備状態及びラインバトル状態において、ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したときに、ラインバトル準備状態に移行させる（すなわち、ラインバトル状態に復帰させる）。この場合、ボーナス状態が終了したときのR T 状態はR T 4 状態

10

20

30

40

50

であり（図 13 参照）、R T 状態が R T 2 状態に移行するまでラインバトル準備状態を維持する。

【0410】

なお、この場合、R T 4 状態において「R T 1 移行目」を表示させるため、R T 4 状態において「R T 1 移行目」が表示されるまでは、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知は行われず、R T 状態が R T 1 状態に移行してから、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。また、この場合、R T 4 状態において「R T 3 移行目」が表示されて R T 3 状態に移行した場合にも、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。なお、R T 3 状態に移行したときに、ラインバトル準備状態を終了させ、ラインバトル状態に移行させるようにしてもよい。

10

【0411】

また、上述したように、例えば、非有利区間又は通常有利区間において、ボーナス役以外の特定役（例えば、「スイカ 1」）に当籤したことに基づいて A R T 抽籤が行われる場合に、その当籤結果としてラインバトル状態に移行させることを決定可能とする場合には、通常有利区間が終了したとき、ラインバトル準備状態に移行させる。この場合も、R T 状態が R T 2 状態に移行するまでラインバトル準備状態を維持する。

【0412】

もっとも、例えば、R T 状態が R T 0 状態である場合に、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が行われたにもかかわらず、その押し順報知にしたがわずに停止操作が行われた結果、「R T 1 移行目」や「R T 1 移行リブ」が表示され、R T 状態が R T 1 状態に移行した場合、R T 状態が R T 2 状態とはなっていないくとも、ラインバトル状態に移行させるようにしてもよい。権利獲得抽籤準備状態及びエンディング準備状態においても同様である。すなわち、各準備状態において押し順ミスが発生した場合には、R T 状態が R T 2 状態となっていない場合であっても、対応する遊技状態に移行させるようにしてもよい。

20

【0413】

ラインバトル準備状態では、敵選択テーブル抽籤、味方選択テーブル抽籤、及び味方獲得抽籤が行われる。なお、これらの遊技性に関する抽籤は一例であり、ラインバトル準備状態においては他の抽籤も行うことが可能である。また、これらの遊技性に関する抽籤は、通常有利区間の各遊技状態においても行われるようにすることが可能である。この場合、通常有利区間から有利区間に移行した場合には、通常有利区間における抽籤結果がラインバトル状態において反映され、通常有利区間から有利区間に移行しなかった場合には、通常有利区間における抽籤結果が破棄（クリア）されるようにすればよい。

30

【0414】

敵選択テーブル抽籤では、後述のバトル状態においてバトルの対象となる敵キャラクタに対応する情報を選択するための敵選択テーブルが決定される。具体的には、メイン CPU 101 は、図 36 A に示す敵選択テーブル抽籤テーブルを参照し、敵撃破回数と、抽籤値と、に基づいて、敵選択テーブル 1 ～ 8 のいずれかのテーブルを選択する。ここで、敵撃破回数は、後述のバトル状態において敵 H P が「0」となって権利獲得状態に移行された回数、及び後述の継続抽籤状態においてラインバトル状態が継続することが決定された回数の累計回数（すなわち、ラインバトル状態が継続した回数）として、メイン RAM 103 内の所定領域に記憶された回数を示す。

40

【0415】

図 36 A に示す敵選択テーブル 1 ～ 8 では、それぞれ敵撃破回数に応じて、ラインバトル状態の継続度合いを変動させることが可能となるように、各情報が割り当てられている。図 36 A に示す敵選択テーブル 1 ～ 8 内において、「低」は、ラインバトル状態の継続度合いについて遊技者の有利度合いが相対的に低いことを示し、「中」は、ラインバトル状態の継続度合いについて遊技者の有利度合いが中程度であることを示し、「高」は、ラインバトル状態の継続度合いについて遊技者の有利度合いが高いことを示している。

【0416】

50

本実施形態では、バトルの対象となる敵キャラクタに対応する情報として、「A」（敵キャラクタA）、「B」（敵キャラクタB）、「C」（敵キャラクタC）、及び「D」（敵キャラクタD）が設定されており、後述のバトル突入時敵種別抽籤においてそのいずれかが決定される。ここで、本実施形態では、後述するように、「A」、「B」、「C」、「D」の順にラインバトル状態が継続する期待度が順次高まるようになっている。すなわち、「A」、「B」、「C」、「D」の順で遊技者の有利度合いが順次高まるようになっている。

【0417】

そして、後述のバトル突入時敵種別抽籤では、決定された敵選択テーブルが示す情報が「低」であれば、遊技者の有利度合いが相対的に低い敵キャラクタ（例えば、「A」）が決定されやすく、遊技者の有利度合いが相対的に高い敵キャラクタ（例えば、「D」）は決定されにくく、決定された敵選択テーブルが示す情報が「高」であれば、遊技者の有利度合いが相対的に低い敵キャラクタ（例えば、「A」）は決定されにくく、遊技者の有利度合いが相対的に高い敵キャラクタ（例えば、「D」）が決定されやすくなっている。また、決定された敵選択テーブルが示す情報が「中」であれば、その間の確率となる。このようにして、ラインバトル状態の継続度合いについての遊技者の有利度合いを変動させることが可能となっている。

【0418】

味方選択テーブル抽籤では、後述のバトル状態においてバトルを有利に進めるための味方キャラクタに対応する情報を選択するための味方選択テーブルが決定される。具体的には、メインCPU101は、図36Bに示す味方選択テーブル抽籤テーブルを参照し、敵撃破回数と、抽籤値と、に基づいて、味方選択テーブル1～8のいずれかのテーブルを選択する。なお、敵撃破回数はすでに説明したため、ここでの説明は省略する。

【0419】

本実施形態では、バトルを有利に進めるための味方キャラクタに対応する情報として、「1」（味方キャラクタ1）、「2」（味方キャラクタ2）、「3」（味方キャラクタ3）及び「4」（味方キャラクタ4）が設定されており、後述のバトル突入時味方種別抽籤において、一又は複数の味方キャラクタが付与されるか、あるいは付与されないかが決定される。ここで、本実施形態では、後述するように、付与された味方キャラクタの数が多いほどラインバトル状態が継続する期待度が順次高まるようになっている。すなわち、付与された味方キャラクタの数が多いほどで遊技者の有利度合いが順次高まるようになっている。

【0420】

そして、後述のバトル突入時味方種別抽籤では、決定された味方選択テーブルが示す情報が「激低」であれば、味方キャラクタが付与されることがほとんどなく、決定された味方選択テーブルが示す情報が「低」であれば、味方キャラクタが付与されにくく、また、付与されたとしても1つであり、決定された味方選択テーブルが示す情報が「中」であれば、味方キャラクタが付与されやすいが、複数の味方キャラクタは付与されにくく、決定された味方選択テーブルが示す情報が「高」であれば、味方キャラクタが付与されやすく、複数の味方キャラクタが付与されやすくなっている。このようにして、ラインバトル状態の継続度合いについての遊技者の有利度合いを変動させることが可能となっている。

【0421】

味方獲得抽籤では、後述のバトル突入時味方種別抽籤とは別に、予め味方キャラクタを獲得させるか否かの権利を付与するか否かが決定される。メインCPU101は、例えば、特定役（例えば、「チャンス目」や「スイカ1」）に当籤したことに基づいて、所定確率（例えば、1/2の確率）で味方キャラクタを獲得させるか否かを決定する。なお、味方獲得抽籤において参照されるテーブルについては、図示を省略している。

【0422】

ここで、味方獲得抽籤の結果、当該権利を付与することが決定された場合、バトル状態の突入時において、後述のバトル突入時味方種別抽籤の結果付与されなかった味方キャラ

10

20

30

40

50

クタの番号のうち、最も小さい番号の味方キャラクタが付与される。例えば、後述のバトル突入時味方種別抽籤において、味方キャラクタ「2」が付与されていた場合、当該権利を獲得していれば、さらに味方キャラクタ「1」が付与されるようになる。すなわち、後述のバトル突入時味方種別抽籤では、具体的な味方キャラクタの種別を含めて付与されるか否かが決定されるのに対し、味方獲得抽籤では、少なくともいずれかの味方キャラクタが付与されることを決定するか否かが決定される。

【0423】

なお、味方獲得抽籤の結果付与することが決定された権利は、基本的に、その後のバトル状態が終了したときに消滅し、再度当該権利を得るには再度味方獲得抽籤に当籤する必要がある。この意味において、当該権利は、後述の「永続権利」とは異なる「限定的権利」であるともいい得る。

【0424】

(インターバル状態)

上述したように、ラインバトル準備状態が終了したときに、メインCPU101は、まず、ラインバトル状態開始時のインターバル状態に移行させる。インターバル状態は、3ゲーム間継続する状態となっており、インターバル状態における遊技期間が3ゲームを経過すると、バトル状態に移行する。インターバル状態では、上述した味方獲得抽籤が行われる。

【0425】

インターバル状態が終了したとき、バトル突入時敵種別抽籤、及びバトル突入時味方種別抽籤が行われる。

【0426】

バトル突入時敵種別抽籤では、上述した敵選択テーブル抽籤の結果決定された敵選択テーブル(1~8のいずれか)に基づき、現在の敵撃破回数に応じた期待度の情報(「低」~「高」のいずれか)が参照され、バトルの対象となる敵キャラクタに対応する情報(「A」~「D」のいずれか)が決定される。なお、バトル突入時敵種別抽籤において参照されるテーブルについては、図示を省略している。

【0427】

バトル突入時味方種別抽籤では、上述した味方選択テーブル抽籤の結果決定された味方選択テーブル(1~8のいずれか)に基づき、現在の敵撃破回数に応じた期待度の情報(「激低」~「高」のいずれか)が参照され、バトルを有利に進めるための味方キャラクタに対応する情報が決定される。なお、バトル突入時味方種別抽籤では、例えば、『「1」に当籤』、『「2」に当籤』、『「3」に当籤』、『「4」に当籤』、『「1・2」に当籤』、・・・『「1~4」に当籤』、といったように、複数の味方キャラクタが付与されることが決定され得る一方で、後述の永続権利(あるいは、限定的権利)として「1」が付与されている場合に、『「1」に当籤』が決定された場合には、その抽籤結果は破棄される(反映されない)ようになっている。また、この場合、『「1・2」に当籤』が決定された場合には、そのうちの『「1」に当籤』の部分のみが破棄され(反映されず)、『「2」に当籤』の部分は反映されるようになっている。したがって、味方獲得抽籤で他に権利が付与されていなければ、この場合の味方キャラクタは「1」と「2」となる。なお、バトル突入時味方種別抽籤において参照されるテーブルについては、図示を省略している。

【0428】

また、インターバル状態が終了したとき、敵HPと味方HPとに初期値「32」がセットされる。そして、バトル突入時敵種別抽籤の結果に応じた敵種別がセットされるとともに、バトル突入時味方種別抽籤の結果、味方獲得抽籤の結果に基づき付与された限定的権利の有無、及び後述の永続権利獲得抽籤の結果に基づき付与された永続権利の有無に応じた味方種別がセットされる。

【0429】

(バトル状態)

上述したように、インターバル状態が終了したときに、メインCPU101は、次に、ラインバトル状態中のバトル状態に移行させる。バトル状態は、少なくとも31ゲーム間継続する状態となっており、この間に、味方側が攻撃をすれば、その攻撃のダメージ分敵HPが減少し、敵側が攻撃をすれば、その攻撃のダメージ分味方HPが減少するという遊技性を有する。そして、バトル状態の終了前に敵HPが「0」以下となった場合には、権利獲得抽籤状態に移行させ、バトル状態の終了前に敵HPが「0」以下とならなかった場合には、後述の継続抽籤状態に移行させる。

【0430】

なお、バトル状態では、「弱レア役」又は「チャンス目」に当籤した場合、その当籤した遊技は、バトル状態の遊技期間のカウント対象には含まれないようになっている。すなわち、「弱レア役」又は「チャンス目」に当籤した回数だけ、バトル状態の遊技期間が延長されるようになっている。また、バトル状態では、「チャンス目」に当籤し、「RT3移行目」が表示されてRT状態がRT3状態となった場合、このRT3状態の8ゲーム間は、バトル状態の遊技期間のカウント対象には含まれないようになっている。すなわち、RT3状態が継続する遊技回数分、バトル状態の遊技期間が延長されるようになっている。

10

【0431】

バトル状態では、被弾リブ時カウンター抽籤、カウンター時与ダメージ抽籤、被弾リブ時防御抽籤、被弾リブ时被ダメージ抽籤、及び与ダメージ抽籤が行われ得る。なお、これらの遊技性に関する抽籤は一例であり、バトル状態においては他の抽籤も行うことが可能である。

20

【0432】

ここで、図37～図41も参照しながら、バトル状態で行われる各種の遊技性に関する抽籤と、味方キャラクタに対応する情報との関係性について説明する。

【0433】

図37は、ラインバトル状態（より詳細には、バトル状態）において、味方なしの場合（すなわち、味方キャラクタに対応する情報として、「1」～「4」のいずれもが付与されていない場合）の、表示装置11の表示内容の一例を示す図である。

【0434】

まず、表示装置11は、バトル状態中の基本的な表示内容として、遊技者自身に相当する味方側の自己キャラクタ（図37～図41中、「自分」）の現在の「ステータス」を表示するとともに、上述したバトル突入時敵種別抽籤の結果決定された敵側の敵キャラクタ（図37～図41中、「敵A」。この場合、敵種別「A」が選択されているものとする）の現在の「ステータス」を表示する。

30

【0435】

ステータスは、バトル状態突入時にセットされた、味方HP及び敵HPの残りの数値範囲に対応する情報であり、本実施形態では、味方HP及び敵HPのそれぞれについて、残りの数値範囲が「32～25」であるとき、ステータス「平常」が設定され、残りの数値範囲が「24～17」であるとき、ステータス「小破」が設定され、残りの数値範囲が「16～9」であるとき、ステータス「中破」が設定され、残りの数値範囲が「8～1」であるとき、ステータス「大破」が設定され、残りの数値範囲が「0」以下となったとき、ステータス「撃破」が設定される。なお、敵HPについてはステータス「撃破」が設定される場合があるが、味方HPについてはステータス「撃破」が設定される場合はなく、味方HPの残り数値範囲が「1」以下となるときには、味方HPは「1」に固定され、それ以下に減算されることはない。

40

【0436】

そして、表示装置11は、味方なしの場合、「中段ライン攻撃有効」と表示している。これは、バトル状態において「1」～「4」のいずれの味方キャラクタも付与されていない場合、センターライン（図37～図41中、「DL1」）のみがラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能することを意味している。

50

【0437】

それゆえ、本実施形態では、味方なしの場合、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されるとき（すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき）には、味方側の攻撃となり、後述の与ダメージ抽籤が行われる一方、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されず（すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず）、「被弾リブ」（「F__被弾リブ」）に当籤した場合には、敵側の攻撃となり、後述する与ダメージ抽籤は行われず、後述する被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われるようになっている。

【0438】

図38は、ラインバトル状態（より詳細には、バトル状態）において、味方「1」獲得の場合（すなわち、味方キャラクタに対応する情報として「1」が付与されている場合）の、表示装置11の表示内容の一例を示す図である。なお、基本的な表示内容については、図37におけるものと同一であるため、ここでの説明は省略している。

10

【0439】

表示装置11は、味方「1」獲得の場合、「中段ライン攻撃有効」及び「上段ライン攻撃有効」と表示している。これは、バトル状態において味方キャラクタ「1」が付与されている場合、センターライン（図37～図41中、「DL1」）及びトップライン（図38～図41中、「DL2」）がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能することを意味している。

【0440】

20

それゆえ、本実施形態では、味方「1」獲得の場合、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されるとき（すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき）、及び上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されるとき（すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき）には、味方側の攻撃となり、後述の与ダメージ抽籤が行われる一方、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されず（すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず）、上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されず（すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず）、「被弾リブ」（「F__被弾リブ」）に当籤した場合には、敵側の攻撃となり、後述する与ダメージ抽籤は行われず、後述する被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われるようになっている。

30

【0441】

図39は、ラインバトル状態（より詳細には、バトル状態）において、味方「1」及び「2」獲得の場合（すなわち、味方キャラクタに対応する情報として「1」及び「2」が付与されている場合）の、表示装置11の表示内容の一例を示す図である。なお、基本的な表示内容については、図37におけるものと同一であるため、ここでの説明は省略している。

【0442】

表示装置11は、味方「1」及び「2」獲得の場合、「中段ライン攻撃有効」、「上段ライン攻撃有効」、及び「下段ライン攻撃有効」と表示している。これは、バトル状態において味方キャラクタ「1」及び「2」が付与されている場合、センターライン（図37～図41中、「DL1」）、トップライン（図38～図41中、「DL2」）、及びボトムライン（図39～図41中、「DL3」）がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能することを意味している。

40

【0443】

それゆえ、本実施形態では、味方「1」及び「2」獲得の場合、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されるとき（すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき）、上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されるとき（すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき）、上述した「下段リブ」又は「下段ベル」が表示されるとき（すなわち、「下

50

段リブ」又は「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されたとき)には、味方側の攻撃となり、後述の与ダメージ抽籤が行われる一方、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されず(すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されず(すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「下段リブ」又は「下段ベル」が表示されず(すなわち、「下段リブ」又は「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合には、敵側の攻撃となり、後述する与ダメージ抽籤は行われず、後述する被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われるようになっている。

【0444】

図40は、ラインバトル状態(より詳細には、バトル状態)において、味方「1」~「3」獲得の場合(すなわち、味方キャラクタに対応する情報として「1」~「3」が付与されている場合)の、表示装置11の表示内容の一例を示す図である。なお、基本的な表示内容については、図37におけるものと同一であるため、ここでの説明は省略している。

【0445】

表示装置11は、味方「1」~「3」獲得の場合、「中段ライン攻撃有効」、「上段ライン攻撃有効」、「下段ライン攻撃有効」、及び「カウンターあり」と表示している。これは、バトル状態において味方キャラクタ「1」~「3」が付与されている場合、センターライン(図37~図41中、「DL1」)、トップライン(図38~図41中、「DL2」)、及びボトムライン(図39~図41中、「DL3」)がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するとともに、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、後述の被弾リブ時カウンター抽籤及びカウンター時与ダメージ抽籤が行われ得ることを意味している。

【0446】

それゆえ、本実施形態では、味方「1」~「3」獲得の場合、味方「1」及び「2」獲得の場合と後述の与ダメージ抽籤及び後述の被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われる態様は同じであるが、それに加え、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されず(すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されず(すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「下段リブ」又は「下段ベル」が表示されず(すなわち、「下段リブ」又は「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、後述の被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われる前に、カウンター攻撃を発動させるか否かを決定するための被弾リブ時カウンター抽籤が行われ、これに当籤すると、味方側の攻撃となり、後述のカウンター時与ダメージ抽籤が行われ、後述の被弾リブ時被ダメージ抽籤は行われなくなっている。

【0447】

図41は、ラインバトル状態(より詳細には、バトル状態)において、味方「1」~「4」獲得の場合(すなわち、味方キャラクタに対応する情報として「1」~「4」が付与されている場合)の、表示装置11の表示内容の一例を示す図である。なお、基本的な表示内容については、図37におけるものと同一であるため、ここでの説明は省略している。

【0448】

表示装置11は、味方「1」~「4」獲得の場合、「中段ライン攻撃有効」、「上段ライン攻撃有効」、「下段ライン攻撃有効」、「カウンターあり」、及び「防御あり」と表示している。これは、バトル状態において味方キャラクタ「1」~「4」が付与されている場合、センターライン(図37~図41中、「DL1」)、トップライン(図38~図41中、「DL2」)、及びボトムライン(図39~図41中、「DL3」)がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するとともに、「被弾リブ」

(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、後述の被弾リブ時カウンター抽籤及びカウンター時与ダメージ抽籤が行われ得ること、後述の被弾リブ時カウンター抽籤に当籤しない場合であっても後述の被弾リブ時防御抽籤が行われ得ることを意味している。

【0449】

それゆえ、本実施形態では、味方「1」～「4」獲得の場合、味方「1」及び「2」獲得の場合と後述の与ダメージ抽籤、後述の被弾リブ时被ダメージ抽籤、後述の被弾リブ時カウンター抽籤、及びカウンター時与ダメージ抽籤が行われる態様は同じであるが、それに加え、上述した「中段リブ」又は「中段ベル」が表示されず(すなわち、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「上段リブ」又は「上段ベル」が表示されず(すなわち、「上段リブ」又は「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、上述した「下段リブ」又は「下段ベル」が表示されず(すなわち、「下段リブ」又は「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定されず)、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、後述の被弾リブ时被ダメージ抽籤が行われる前に、カウンター攻撃を発動させるか否かを決定するための被弾リブ時カウンター抽籤が行われ、これに当籤しなかった場合には、被弾リブ時防御抽籤が行われ、これに当籤すると、敵側の攻撃となるが、防御成功となり、後述の被弾リブ时被ダメージ抽籤は行われないようになっている。

【0450】

なお、本実施形態では、判定ラインとして設定されたラインに、実際に「リブレイ」の図柄や「ベル」の図柄が揃った場合にのみ後述の与ダメージ抽籤が行われ、例えば、押し順小役について押し順報知が行われたにもかかわらず、遊技者の押し順ミスによって実際には「ベル」の図柄が揃わなかった場合には後述の与ダメージ抽籤が行われないようにしてもよいし、判定ラインとして設定されたラインに、「リブレイ」の図柄や「ベル」の図柄が揃い得る(表示され得る)内部当籤役が決定された場合には、実際に「リブレイ」の図柄や「ベル」の図柄が揃うか否かにかかわらず後述の与ダメージ抽籤が行われるようにしてもよい。これらの手法のいずれを採用することもできる。後者の手法を採用する場合には、「判定ライン」は実際に「判定」そのものが行われるラインではなくなるものの、例えば、遊技者に与ダメージ抽籤が行われることを報知可能とするといった意義を有するものとなることから、遊技者にとって重要な意味を持つことには変わりがない。

【0451】

また、図37～図41では、味方キャラクタ「1」～「4」が順に増加する例を挙げて説明しているが、味方キャラクタは、バトル突入時味方種別抽籤の結果によっては、例えば、「2」のみ、「3」のみ、「4」のみ、あるいは、「2」及び「3」、「3」及び「4」といったように付与される場合もあり得る。したがって、以下では、味方キャラクタに対応する情報「1」～「4」の機能を再度簡潔に説明する。

【0452】

味方キャラクタに対応する情報「1」が設定されると、センターライン(図37～図41中、「DL1」)に加え、トップライン(図38～図41中、「DL2」)がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するようになる。

【0453】

味方キャラクタに対応する情報「2」が設定されると、センターライン(図37～図41中、「DL1」)に加え、ボトムライン(図39～図41中、「DL3」)がラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するようになる。

【0454】

味方キャラクタに対応する情報「3」が設定されると、本来は敵側の攻撃となって味方HPが減少される場合であっても、逆に味方側の攻撃となって敵HPが減少される場合があるようになる。

【0455】

味方キャラクタに対応する情報「4」が設定されると、本来は敵側の攻撃となって味方HPが減少される場合であっても、味方HPが減少されない場合があるようになる。

【0456】

ここで、味方キャラクタに対応する情報「1」及び「2」のいずれが設定されているか否かにかかわらず、メインCPU101（主制御回路90側）からサブCPU201（副制御回路200側）に対して、当籤役番号「7」、「8」又は「24」が送信された場合（図32参照）、サブCPU201は、例えば、表示装置11において「中段ライン攻撃有効」と表示された箇所を点滅させたり、あるいは強調して表示するなどの処理を行う。これにより、味方側が攻撃することを期待させる演出を行うことができる。

【0457】

また、味方キャラクタに対応する情報「1」が設定されている場合であって、メインCPU101（主制御回路90側）からサブCPU201（副制御回路200側）に対して、当籤役番号「6」又は「23」が送信された場合（図32参照）、サブCPU201は、例えば、表示装置11において「上段ライン攻撃有効」と表示された箇所を点滅させたり、あるいは強調して表示するなどの処理を行う。これにより、味方側が攻撃することを期待させる演出を行うことができる。

【0458】

また、味方キャラクタに対応する情報「2」が設定されている場合であって、メインCPU101（主制御回路90側）からサブCPU201（副制御回路200側）に対して、当籤役番号「10」又は「25」が送信された場合（図32参照）、サブCPU201は、例えば、表示装置11において「下段ライン攻撃有効」と表示された箇所を点滅させたり、あるいは強調して表示したりするなどの処理を行う。これにより、味方側が攻撃することを期待させる演出を行うことができる。

【0459】

もっとも、味方側が攻撃することを期待させる演出の態様はこれに限られない。例えば、その他演出装置（例えば、スピーカ群84やLED群85）によって行われる演出であってもよい。また、上述した対応関係にない内部当籤役の当籤役番号が送信された場合であっても、所定確率で上述した演出のうちいずれかの演出が行われるようにしてもよい。

【0460】

なお、味方キャラクタに対応する情報の種類や機能は、上述したものに限られない。例えば、特定の味方キャラクタに対応する情報（例えば、「5」）が設定されると、後述の与ダメージ抽籤において決定される与ダメージが増加する（例えば、決定された与ダメージが2倍となる）ような機能を持たせてもよい。また、例えば、特定の味方キャラクタに対応する情報（例えば、「6」）が設定されると、後述の被弾リブ時被ダメージ抽籤において決定される被ダメージが減少する（例えば、決定された被ダメージが1/2となる）ような機能を持たせてもよい。

【0461】

また、判定ラインとして機能するラインは、有効ラインに限られない。例えば、特定の味方キャラクタに対応する情報が設定された場合には、有効ラインとは異なるラインであっても、それを特別ラインとし、この特別ラインを判定ラインとして機能させるようにしてもよい。具体的には、例えば、特定の味方キャラクタに対応する情報（例えば、「5」）が設定されると、センターラインに加え、クロスダウンラインがラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するようにしてもよい。また、例えば、特定の味方キャラクタに対応する情報（例えば、「6」）が設定されると、センターラインに加え、クロスアップラインがラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとして機能するようにしてもよい。

【0462】

このような場合、実際の有効ライン上に表示される図柄は、「リプレイ」の図柄揃い、あるいは「ベル」の図柄揃いではないが、このような特別ライン上に表示される図柄が、「リプレイ」の図柄揃い、あるいは「ベル」の図柄揃いとなるように構成されていれば、遊技者は有効ラインと同様に有利さの度合いが変動することを認識できるため、実際の有効ライン数にかかわらず、同様の遊技性を提供することが可能となる。なお、このような

観点からは、ラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインには、必ずしも有効ラインが含まれる必要はなく、例えば、有効ラインがクロスアップラインの1ラインあるとき、ラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインが、センターライン、トップライン、及びボトムラインの最大3ラインから構成されていてもよい。すなわち、ラインバトル状態の継続度合いの変動に関する判定ラインを、有効ラインとは異なる特別ラインのみから構成することも可能である。

【0463】

また、判定ラインを定義する際には、上述した有効ラインと同様に、図柄が一直線に並ぶ各ラインに替えて、あるいはこれとともに、図柄が一直線に並ばないラインを有効ラインとして定義することもできる。すなわち、各列（左リール3L、中リール3C、右リール3R）ごとのいずれか一の図柄（の領域）を通るラインであれば、直線又は折れ線で結んで構成される一又は複数のラインを判定ラインとして設定可能である。

【0464】

例えば、左リール3Lの上段領域、中リール3Cの下段領域、及び、右リール3Rの上段領域を結ぶライン（V時の変則ライン）などを判定ラインとして定義するようにしてもよい。すなわち、本実施形態では、リール表示窓4の枠内に、3行×3列の態様で図柄が表示されるようになっていることから、27通りの判定ラインを定義することが可能であり、そのうち少なくともいずれか1つのラインが判定ラインとして定義されるようにすればよい。

【0465】

ここで、再度バトル状態の説明に戻る。上述したように、味方キャラクタに対応する情報「3」が設定されている場合には、「被弾リブ」（「F__被弾リブ」）に当籤した場合に、被弾リブ時カウンター抽籤が行われる。被弾リブ時カウンター抽籤では、メインCPU101は、所定確率で、カウンター攻撃を発動させること（当籤）、又はカウンター攻撃を発動させないこと（非当籤）のいずれかを決定する。なお、被弾リブ時カウンター抽籤において参照されるテーブルについては、図示を省略している。

【0466】

被弾リブ時カウンター抽籤に当籤した場合には、続いて、カウンター時与ダメージ抽籤が行われる。カウンター時与ダメージ抽籤では、メインCPU101は、図36Cに示すカウンター時与ダメージ抽籤テーブルを参照し、抽籤値に基づいて、いずれか1つの与ダメージの値を決定する。なお、与ダメージの値が決定されると、その値が敵HPの値から減算され、敵HPの値が更新される。また、これにともなって、上述した敵の「ステータス」が適宜更新される。また、この場合には、被弾リブ時被ダメージ抽籤は行われない。

【0467】

一方、被弾リブ時カウンター抽籤に当籤しなかった場合であって、味方キャラクタに対応する情報「4」が設定されている場合、及び味方キャラクタに対応する情報「3」は設定されていないが「4」が設定されている場合には、被弾リブ時防御抽籤が行われる。被弾リブ時カウンター抽籤では、メインCPU101は、所定確率で、防御を発動させること（当籤）、又は防御を発動させないこと（非当籤）のいずれかを決定する。なお、被弾リブ時防御抽籤において参照されるテーブルについては、図示を省略している。

【0468】

被弾リブ時防御抽籤に当籤した場合には、被弾リブ時被ダメージ抽籤は行われない。一方、被弾リブ時防御抽籤に当籤しなかった場合、味方キャラクタに対応する情報「4」は設定されていないが「3」が設定されている場合であって、被弾リブ時カウンター抽籤に当籤しなかった場合、並びに味方キャラクタに対応する情報「3」及び「4」が設定されていない場合であって、「被弾リブ」（「F__被弾リブ」）に当籤した場合には、被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われる。

【0469】

被弾リブ時被ダメージ抽籤では、メインCPU101は、図36Dに示す被弾リブ時被ダメージ抽籤テーブルを参照し、敵種別と、抽籤値と、に基づいて、いずれか1つの被ダ

10

20

30

40

50

メージの値を決定する。なお、被ダメージの値が決定されると、その値が味方HPの値から減算され、味方HPの値が更新される。また、これにともなって、上述した味方の「ステータス」が適宜更新される。

【0470】

味方キャラクタに対応する情報「1」及び「2」が設定されていない場合であって、「中段リブ」又は「中段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定された場合、及びスイカ（この場合、「F__スイカ1」のみであってもよいし、「F__スイカ2」を含んでいてもよい。以下、この項において同じ）が内部当籤役として決定された場合には、与ダメージ抽籤が行われる。

【0471】

味方キャラクタに対応する情報「1」が設定されている場合であって、「中段リブ」若しくは「中段ベル」、又は「上段リブ」若しくは「上段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定された場合、及びスイカが内部当籤役として決定された場合には、与ダメージ抽籤が行われる。

【0472】

味方キャラクタに対応する情報「2」が設定されている場合であって、「中段リブ」若しくは「中段ベル」、又は「下段リブ」若しくは「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定された場合、及びスイカが内部当籤役として決定された場合には、与ダメージ抽籤が行われる。

【0473】

味方キャラクタに対応する情報「1」及び「2」が設定されている場合であって、「中段リブ」若しくは「中段ベル」、「上段リブ」若しくは「上段ベル」、又は「下段リブ」若しくは「下段ベル」が表示され得る内部当籤役が決定された場合、及びスイカが内部当籤役として決定された場合には、与ダメージ抽籤が行われる。

【0474】

与ダメージ抽籤では、メインCPU101は、図36Eに示す与ダメージ抽籤テーブルを参照し、内部当籤役と、抽籤値と、に基づいて、いずれか1つの与ダメージの値を決定する。なお、与ダメージの値が決定されると、その値が敵HPの値から減算され、敵HPの値が更新される。また、これにともなって、上述した敵の「ステータス」が適宜更新される。

【0475】

ここで、RT状態に着目すると、有利区間のラインバトル状態は、基本的にはRT2状態に対応するものであるが、「RT3移行目」が表示された場合にはRT3状態ともなり得る。図16を参照すると、RT2状態では、「F__中段リブ1」の抽籤値が「5000」であり、「F__上段リブ」及び「F__下段リブ」の抽籤値が「2450」であり、「F__被弾リブ」の抽籤値が「8970」であるのに対し、RT3状態では、「F__中段リブ2」の抽籤値が「32768」であり、「F__被弾リブ」の抽籤値は「0」である。

【0476】

すなわち、有利区間のラインバトル状態（より詳細には、バトル状態）において、RT3状態に移行させることができれば、味方キャラクタに対応する情報「1」又は「2」が設定されているか否かにかかわらず、「中段リブ」が表示され得る内部当籤役が高確率で決定される結果、与ダメージ抽籤が高確率で行われるようにすることができるとともに、「被弾リブ」が表示され得る内部当籤役は決定されない結果、被弾リブ時被ダメージ抽籤が行われないようにすることができる。したがって、有利区間のラインバトル状態（より詳細には、バトル状態）では、RT3状態が最も有利なRT状態となっている。

【0477】

バトル状態において、バトル状態が終了する前に敵HPが「0」以下（すなわち、ステータスとして「撃破」）となった場合、メインCPU101は、次回遊技から有利区間の権利付与抽籤状態に移行させる。また、敵HPが「0」以下となっておらず、バトル状態の遊技期間が終了していない場合には、バトル状態を継続させる。また、敵HPが「0」

10

20

30

40

50

以下となっておらず、バトル状態の遊技期間が終了した場合には、次回遊技からラインバトル状態中の継続抽籤状態に移行させる。

【0478】

なお、本実施形態では、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、被弾リブ時カウンター抽籤、被弾リブ時防御抽籤及び被弾リブ时被ダメージ抽籤が行われるものとしているが、バトル状態における抽籤手法はこれに限られない。例えば、与ダメージ抽籤の対象になっていない内部当籤役(但し、「弱レア役」、「チャンス目」、ボーナス役は除く)が決定された場合には、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤したと同様に、被弾リブ時カウンター抽籤、被弾リブ時防御抽籤及び被弾リブ时被ダメージ抽籤が行われるようにしてもよい。

10

【0479】

また、本実施形態では、「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)に当籤した場合に、「被弾リブ」の図柄の組合せがセンターラインに表示されるようになっているが、例えば、複数の異なる内部当籤役として構成し、あるいは「被弾リブ」(「F__被弾リブ」)を押し順リプレイとして構成し、停止操作の手順に応じて、「被弾リブ」の図柄の組合せがトップラインに表示され、あるいはボトムラインに表示される場合があるようにしてもよい。この場合に、トップラインやボトムラインが判定ラインとなっている場合には、被弾リブ時カウンター抽籤、被弾リブ時防御抽籤及び被弾リブ时被ダメージ抽籤が行われるようにしてもよいし、これらの抽籤は行われなくともよい。また、トップラインやボトムラインが判定ラインとなっている場合には、「被弾リブ」の図柄の組合せがトップラインやボトムラインに表示されないように、停止操作の手順が報知されるようにしてもよい。

20

【0480】

(継続抽籤状態)

上述したように、敵HPが「0」以下となっておらず、バトル状態の遊技期間が終了したときに、メインCPU101は、次に、ラインバトル状態中の継続抽籤状態に移行させる。継続抽籤状態は、4ゲーム又は7ゲーム間継続する状態となっており、最終的に、ラインバトル状態から権利獲得抽籤状態に移行させることが決定されている場合には、権利獲得抽籤状態に移行させ、ラインバトル状態を継続させることが決定されている場合には、再度ラインバトル状態中のインターバル状態に移行させ、これらのいずれの決定もなされていない場合には、ラインバトル状態が終了し(すなわち、有利区間が終了し)、非有利区間の通常状態に移行させる。

30

【0481】

継続抽籤状態では、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤及び継続抽籤結果書換抽籤が行われ得る。なお、これらの遊技性に関する抽籤は一例であり、継続抽籤状態においては他の抽籤も行うことが可能である。

【0482】

まず、メインCPU101は、バトル状態から継続抽籤状態に移行する際に、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤を行う。敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤では、メインCPU101は、図36Fに示す継続抽籤テーブルを参照し、敵種別と、ダメージ状態(すなわち、上述した「ステータス」と同義)と、抽籤値と、に基づいて、継続抽籤状態の遊技期間は4ゲームであるが、権利獲得抽籤状態に移行させることもラインバトル状態を継続させることも決定されないこと(「4G敗北」)、継続抽籤状態の遊技期間は7ゲームであるが、権利獲得抽籤状態に移行させることもラインバトル状態を継続させることも決定されないこと(「7G敗北」)、継続抽籤状態の遊技期間は4ゲームであり、ラインバトル状態を継続させることが決定されること(「4G継続」)、継続抽籤状態の遊技期間は7ゲームであり、ラインバトル状態を継続させることが決定されること(「7G継続」)、継続抽籤状態の遊技期間は4ゲームであり、権利獲得抽籤状態に移行させることが決定されること(「4G昇格」)、及び継続抽籤状態の遊技期間は7ゲームであり、権利獲得抽籤状態に移行させることが決定されること(「7G昇格」)、のいずれかが決定される。

40

50

【0483】

なお、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤では、少なくとも有利区間が終了されない抽籤結果（上述した「4G継続」、「7G継続」、「4G昇格」、及び「7G昇格」）が決定される確率が、原則として、敵種別が「A」、「B」、「C」、「D」の順に順次高まるようになっており、また、味方ステータスが「大破」、「中破」、「小破」、「平常」の順に順次高まるようになっており、また、敵ステータスが「平常」、「小破」、「中破」、「大破」の順に順次高まるようになっている。すなわち、敵種別と、味方ステータスと、敵ステータスと、の3つのパラメータが参照され、有利区間が継続するか否かが決定されるようになっている。

【0484】

それゆえ、本実施形態では、バトル状態突入時に、いずれの敵キャラクタに対応する情報が設定されるか、バトル状態中に味方ステータスがどのように変移するか、及びバトル状態中に敵ステータスがどのように変移するかに応じて、ラインバトル状態が継続する継続度合いを変動させることが可能となっている。また、味方ステータス及び敵ステータスの変移に際しては、味方キャラクタに対応する情報の種類（例えば、判定ライン数）が重要となり、これによって、ラインバトル状態が継続する継続度合いが、遊技者に有利な度合いに変動させたり、遊技者に不利な度合いに変動させたりする確率も変動するようになっている。

【0485】

なお、図36Fに示す継続抽籤テーブルでは、味方ステータスが「大破」、及び敵ステータスが「大破」であるときには、例外的に、少なくとも有利区間が終了されない抽籤結果が決定されることが確定するようになっている。このように、味方ステータスが特定のステータスであり、敵ステータスが特定のステータスであるとき、上述した原則に反して、有利区間が継続する確率を高めたり、有利区間が継続する確率を低めたりすることもできる。

【0486】

また、メインCPU101は、バトル状態から継続抽籤状態に移行する際に、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤の抽籤結果が、有利区間が終了される抽籤結果（上述した「4G敗北」及び「7G敗北」）である場合には、継続抽籤状態において、継続抽籤結果書換抽籤を行う。具体的には、継続抽籤状態において、「チャンス目」又はボーナス役に当籤した場合、継続抽籤の抽籤結果として、例えば「4G敗北」が決定されている場合には「4G継続」に書き換え、例えば「7G敗北」が決定されている場合には「7G継続」に書き換える。また、スイカ（この場合、「F__スイカ1」のみであってもよいし、「F__スイカ2」を含んでいてもよい）に当籤した場合、所定確率（例えば、1/2）で、継続抽籤の抽籤結果を書き換えることを決定する。継続抽籤の抽籤結果を書き換えることが決定された場合、上記と同様に継続抽籤の抽籤結果が適宜書き換えられる。

【0487】

なお、本実施形態では、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤が行われた後、継続抽籤結果書換抽籤が行われるが、継続抽籤状態における抽籤手法はこれに限られない。例えば、継続抽籤状態では、まず、継続抽籤結果書換抽籤が行われ（すなわち、内部当籤役に基づいて遊技毎にラインバトル状態を継続させる否かを決定するための抽籤が行われ）、当該抽籤の結果ラインバトル状態を継続させることが決定されなかった場合に、継続抽籤状態が終了するときに、敵種別とダメージ状態に応じた継続抽籤が行われるようにしてもよい。

【0488】

このように、本実施形態では、有利区間のラインバトル状態において、一又は複数のいずれかのライン（有効ラインであるかを問わない）を有利区間の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能とし、ラインバトル状態中のバトル状態において、決定された判定ラインに「リプレイ」又は「ベル」の図柄が並んで表示される場合に、有利区間の継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることを可能とし、ラインバトル状態

10

20

30

40

50

中の継続抽籤状態において、決定された有利区間の継続度合いに基づいて有利区間を継続させるか否かを決定することが可能となっている。

【0489】

これにより、判定ラインの決定結果に応じて有利区間の継続度合いを変動させることができるため、遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

【0490】

また、本実施形態では、ラインバトル状態中のバトル状態において、決定された判定ラインに、例えば、「被弾リブ」の図柄の組合せが表示される場合に、有利区間の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させることが可能となっている。

【0491】

これにより、有利区間中（例えば、ラインバトル状態中のバトル状態中）における緊張感を高めることができ、有利区間中の遊技が単調とならず、さらに遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

【0492】

また、本実施形態では、有利区間のラインバトル状態におけるRT状態をRT2状態に変移させることが可能であるとともに、「RT3移行目」が表示された場合に、有利区間のラインバトル状態におけるRT状態をRT3状態に変移させることが可能となっており、決定された判定ラインに「中段リブ」の図柄の組合せが表示され得る特定の内部当籤役（例えば、「F__中段リブ1」及び「F__中段リブ2」のいずれか）を決定する確率は、RT2状態よりもRT3状態のほうが高くなっている。

【0493】

また、本実施形態では、RT2状態においては、「被弾リブ」の図柄の組合せが表示され得る所定の内部当籤役（例えば、「F__被弾リブ」）を決定可能とし、RT3状態においては、この所定の内部当籤役を決定可能としないようになっている。

【0494】

これにより、有利区間中（例えば、ラインバトル状態中のバトル状態中）においては、いずれのRT状態であるかによって遊技者の有利さの度合いがさらに変動するようになるため、有利区間中の遊技をより多彩なものとし、さらに遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

【0495】

また、本実施形態では、例えば、「打順1」で停止操作が行われた場合に、トップラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__上段左ベル1」と、「打順1」で停止操作が行われた場合に、センターラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__中段左ベル1」と、「打順3」で停止操作が行われた場合に、トップラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__上段中ベル1」と、「打順3」で停止操作が行われた場合に、センターラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__中段中ベル1」と、を少なくとも内部当籤役として決定可能であり、図32に示したように、有利区間において、例えば、「F__上段左ベル1」又は「F__上段中ベル1」が決定された場合には、当籤役番号として「23」を送信し、「F__中段左ベル1」又は「F__中段中ベル1」が決定された場合には、当籤役番号として「24」を送信するようになっている。そして、本実施形態では、送信された当籤役番号に応じて異なる演出を実行することが可能となっている。

【0496】

これにより、例えば、有利区間のラインバトル状態のような図柄が表示されるラインによって遊技者の有利さの度合いが変動するような遊技性を有する場合に、表示される図柄の組合せに関連した演出を行うことができるため、制御負担を増大させることなく、より適切な演出を行うことができる。

【0497】

< 権利獲得抽籤状態及び権利獲得状態中の遊技性 >

次に、図42を参照して、有利区間の権利獲得抽籤状態及び権利獲得状態中の遊技の流

10

20

30

40

50

れについて説明する。なお、図 4 2 では、権利獲得抽籤状態及び権利獲得状態中の遊技の流れの概要を示している。

【 0 4 9 8 】

(権利獲得抽籤準備状態)

メイン CPU 1 0 1 は、有利区間の権利獲得抽籤準備状態、権利獲得抽籤状態、及び権利獲得状態において、ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したときに、権利獲得抽籤準備状態に移行させる（すなわち、これらの状態に復帰させる）。この場合、ボーナス状態が終了したときの R T 状態は R T 4 状態であり（図 1 3 参照）、R T 状態が R T 4 状態から R T 2 状態に移行するまで権利獲得抽籤準備状態を維持する。R T 状態が R T 2 状態に移行したとき、ボーナス役に当籤したのが権利獲得状態であれば権利獲得状態に移行させ、ボーナス役に当籤したのが権利獲得抽籤状態であれば権利獲得抽籤状態に移行させる。

10

【 0 4 9 9 】

なお、この場合、R T 4 状態において「R T 1 移行目」を表示させるため、R T 4 状態において「R T 1 移行目」が表示されるまでは、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知は行われず、R T 状態が R T 1 状態に移行してから、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。また、この場合、R T 4 状態において「R T 3 移行目」が表示されて R T 3 状態に移行した場合にも、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。なお、R T 3 状態に移行したときに、権利獲得抽籤準備状態を終了させ、権利獲得状態に復帰させる場合には権利獲得状態に復帰させ、権利獲得抽籤状態に復帰させる場合には権利獲得抽籤状態に復帰させるようにしてもよい。

20

【 0 5 0 0 】

(権利獲得抽籤状態)

上述したように、権利獲得抽籤準備状態が終了したとき、及びラインバトル状態において権利獲得抽籤状態に移行させることが決定されたときに、メイン CPU 1 0 1 は、権利獲得抽籤状態に移行させる。権利獲得抽籤状態は、2 0 ゲーム間継続する状態となっており、この間にはもちろん遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される。そして、権利獲得状態に移行しない場合であってもラインバトル状態に戻るようになっている。したがって、この権利獲得抽籤状態は、それ自体が有利区間の遊技期間を延長させ得る遊技状態となっている。権利獲得抽籤状態では、権利獲得状態移行抽籤が行われる。

30

【 0 5 0 1 】

権利獲得状態移行抽籤では、例えば、メイン CPU 1 0 1 は、権利獲得抽籤状態において、「チャンス目」又はスイカ（この場合、「F __ スイカ 1」のみであってもよいし、「F __ スイカ 2」を含んでいてもよい）に当籤した場合、次回遊技から権利獲得状態に移行させることを決定する。また、共通ベル（「F __ 上段共通ベル」及び「F __ 中段共通ベル」）に当籤した場合、所定確率（例えば、1 / 4）で、次回遊技から権利獲得状態に移行させることを決定する。なお、権利獲得状態に移行させることが決定された場合であっても、権利獲得状態に移行するのは、権利獲得抽籤状態の遊技期間（2 0 ゲーム）が終了したときであってもよい。また、権利獲得状態に移行させることが決定された場合に、権利獲得抽籤状態の遊技期間の残りゲーム数の範囲で前兆期間を決定し、この前兆期間が経過したときに権利獲得状態に移行させるようにしてもよい。また、権利獲得抽籤状態から権利獲得状態に移行させる際に、権利獲得抽籤状態の遊技期間の残りゲーム数が生じる場合には、その残りゲーム数が、権利獲得状態の遊技期間に付加されるようにしてもよいし、次回（権利獲得状態から権利獲得抽籤状態に戻ったとき）の権利獲得抽籤状態の遊技期間に付加されるようにしてもよい。

40

【 0 5 0 2 】

(権利獲得状態)

上述したように、権利獲得抽籤状態において権利獲得状態に移行させることが決定されたとき、及び権利獲得抽籤準備状態から復帰したときに、メイン CPU 1 0 1 は、権利獲得状態に移行させる。権利獲得状態は、1 0 ゲーム間継続する状態となっており、この間

50

にはもちろん遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される。そして、永続権利を獲得するか否かにかかわらず権利獲得抽籤状態に戻るようになっている。したがって、この権利獲得状態は、それ自体が有利区間の遊技期間を延長させ得る遊技状態となっている。権利獲得状態では、永続権利獲得抽籤が行われる。

【0503】

永続権利獲得抽籤では、後述のバトル突入時味方種別抽籤とは別に、予め味方キャラクタを永続的に（当該有利区間が終了するまで）獲得させるか否かの権利を付与するか否かが決定される。メインCPU101は、例えば、権利獲得状態においてボーナス役に当籤した場合に、永続権利を付与することを決定する。なお、例えば、特定役（例えば、「スイカ1」）に当籤したに基づいて、所定確率（例えば、1/4）で、永続権利を付与することを決定するようにしてもよい。

10

【0504】

ここで、永続権利抽籤の結果、当該永続権利を付与することが決定された場合、バトル状態に突入する度に、バトル突入時味方種別抽籤の結果付与されなかった味方キャラクタの番号のうち、最も小さい番号の味方キャラクタが付与される。例えば、後述のバトル突入時味方種別抽籤において、味方キャラクタ「2」が付与されていた場合、当該永続権利を獲得していれば、さらに味方キャラクタ「1」が付与されるようになる。なお、付与された永続権利の機能はこれに限られない。例えば、永続権利抽籤の結果、当該永続権利を付与することが決定された場合、永続権利が付与されていない味方キャラクタの番号のうち、最も小さい番号の味方キャラクタが固定的に付与されるようにしてもよい。例えば、最初に永続権利が付与された場合、この永続権利の権利内容として味方キャラクタ「1」が付与され、次に永続権利が付与された場合、この永続権利の権利内容として味方キャラクタ「2」が付与されるようにしてもよい。

20

【0505】

なお、本実施形態では、権利獲得状態において、永続権利が付与されるか否かが決定されるようになっているが、これに限られず、権利獲得状態において、上述した限定的権利が付与されるか否かが決定されるようにしてもよい。この場合、例えば、上述した味方獲得抽籤と同様の抽籤が行われるようにしてもよいし、上述した味方獲得抽籤よりも限定的権利が付与される確率が高まるように、上述した限定的権利が付与されるか否が決定されるようにしてもよい。また、例えば、権利獲得状態においては、単位遊技ごとに、内部当籤役にかかわらず所定確率（例えば、1/10）で、上述した限定的権利が付与されるか否が決定されるようにしてもよい。なお、ボーナス役当籤以外の契機で永続権利あるいは限定的権利が付与されるようにした場合には、権利獲得状態において複数個の権利を獲得させることができる。

30

【0506】

この場合、上述したように、例えば、2個の権利が付与された場合（味方キャラクタに対応する情報「1」及び「2」が設定される場合）には、バトル状態において判定ラインが上限数（DL1～DL3）まで設定されることとなる。また、例えば、3個の権利が付与された場合（味方キャラクタに対応する情報「1」～「3」が設定される場合）には、これに加え、バトル状態においてカウンターが発動する場合があるようになる。また、例えば、4個の権利が付与された場合（味方キャラクタに対応する情報「1」～「4」が設定される場合）には、これに加え、バトル状態に防御が発動する場合があるようになる。ここで、例えば、権利獲得状態において5個以上の権利が付与された場合には、4個を超える分の権利については、次のバトル状態まで持ち越されるようにしてもよいし、破棄（クリア）されるようにしてもよい。また、例えば、権利獲得状態において5個以上の権利が付与された場合には、次のバトル状態終了後の継続抽籤状態において、必ず有利区間が継続することが決定されるようにしてもよい。

40

【0507】

また、本実施形態では、権利獲得状態において、有利区間のラインバトル状態が有利に進められるようになる（味方キャラクタに対応する情報が設定され得る）永続権利が付与

50

されるか否かが決定されるようになっているが、権利獲得状態において、付与され得る権利内容はこれに限られない。例えば、ラインバトル状態の継続抽籤状態において、抽籤結果にかかわらず強制的にラインバトル状態が継続することとなる継続権利（すなわち、有利区間を延長させるための権利。「ストック」や「セット数」などと称される場合がある）が付与されるか否かが決定されるようにしてもよいし、権利獲得抽籤状態において、抽籤結果にかかわらず強制的に権利獲得抽籤状態が継続することとなる継続権利（すなわち、有利区間を延長させるための権利。「ストック」や「セット数」などと称される場合がある）が付与されるか否かが決定されるようにしてもよい。すなわち、権利獲得状態において、付与され得る権利内容は、遊技者に特典をもたらすものであれば、適宜設定することができる。

10

【0508】

このように、本実施形態では、有利区間のラインバトル状態において、一又は複数のいずれかのライン（有効ラインであるかを問わない）を有利区間の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能としており、その決定結果は、権利獲得状態において権利が付与されたか否かによって変動するようになっている。すなわち、権利獲得状態において付与された権利に基づいて判定ラインを決定することが可能となっている。

【0509】

また、本実施形態では、権利獲得状態において判定ラインの上限数以上の権利が付与された場合には、まず、上限数分の権利を用いて上限数の判定ラインが決定される。そして、ラインバトル状態中のバトル状態において、決定された判定ラインに、例えば、「被弾リブ」の図柄の組合せが表示される場合に、付与された権利が残存していなければ、有利区間の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させ、付与された権利が残存していれば、有利区間の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させないことが可能となっている。

20

【0510】

また、本実施形態では、永続権利が付与されている場合には、複数の判定ラインが必ず決定され、永続権利が付与されていない場合には、判定ラインを決定するときに、一又は複数のいずれかのラインが判定ラインとして決定されるようになっている。

【0511】

これにより、有利区間中の各遊技状態の役割を多様化させ、また、有利区間が継続する継続度合いを多様に変動させることができるため、遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

30

【0512】

<エンディング1状態及びエンディング2状態中の遊技性>

次に、図43及び図44を参照して、有利区間のエンディング1状態及びエンディング2状態中の遊技の流れについて説明する。なお、図43では、エンディング1状態及びエンディング2状態中の遊技の流れの概要を示している。また、図44では、エンディング1状態及びエンディング2状態中に行われるエンディング演出の概要を示している。

【0513】

（エンディング準備状態）

メインCPU101は、有利区間のエンディング準備状態、エンディング1状態、及びエンディング2状態において、ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了したときに、エンディング準備状態に移行させる（すなわち、これらの状態に復帰させる）。この場合、ボーナス状態が終了したときのRT状態はRT4状態であり（図13参照）、RT状態がRT4状態からRT2状態に移行するまでエンディング状態を維持する。RT状態がRT2状態に移行したとき、ボーナス役に当籤したのがエンディング1状態であればエンディング1状態に移行させ、ボーナス役に当籤したのがエンディング2状態であればエンディング2状態に移行させる。

40

【0514】

なお、この場合、RT4状態において「RT1移行目」を表示させるため、RT4状態

50

において「R T 1 移行目」が表示されるまでは、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知は行われず、R T 状態がR T 1 状態に移行してから、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。また、この場合、R T 4 状態において「R T 3 移行目」が表示されてR T 3 状態に移行した場合にも、押し順小役及び押し順リプレイについての押し順報知が開始される。なお、R T 3 状態に移行したときに、エンディング準備状態を終了させ、エンディング1 状態に復帰させる場合にはエンディング1 状態に復帰させ、エンディング2 状態に復帰させる場合にはエンディング2 状態に復帰させるようにしてもよい。

【0515】

また、メインCPU101は、非有利区間及び通常有利区間において、例えば、スイカ1 当籤時のART抽籤で、エンディング1 状態に移行させることが決定された場合には、通常有利区間の遊技期間が消化されたときに、エンディング準備状態に移行させる（すなわち、R T 2 状態に移行するまでエンディング1 状態への移行を待機する）。

【0516】

（エンディング1 状態）

上述したように、エンディング準備状態が終了したときであってエンディング1 状態に移行（復帰）させる場合、メインCPU101は、エンディング1 状態に移行させる。エンディング1 状態は、100ゲーム間継続する状態となっており、この間にはもちろん遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される。そして、エンディング1 状態が終了したときにはラインバトル状態に移行するようになっている。非有利区間及び通常有利区間から移行する有利区間の遊技状態である点についてはラインバトル状態と同じであるが、ラインバトル状態よりも遊技者に有利な遊技状態となっている。エンディング1 状態では、権利獲得状態と同様に永続権利獲得抽籤が行われる。

【0517】

なお、権利獲得状態における抽籤と同様に、エンディング1 状態では、上述した限定的権利が付与されるか否かが決定されるようにしてもよいし、有利区間を延長させるための継続権利が付与されるか否かが決定されるようにしてもよい

【0518】

また、例えば、エンディング1 状態において、ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了して、エンディング準備状態を経由してエンディング1 状態に復帰された場合、100ゲームの遊技期間は再度最初からカウントされるようにしてもよいし、ボーナス役に当籤した遊技における遊技期間を引き継いでカウントされるようにしてもよい。後者の場合、例えば、エンディング1 状態の10ゲーム目（残り90ゲーム）でボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態が終了して、エンディング準備状態を経由してエンディング1 状態に復帰された場合、当該エンディング1 状態の遊技期間が90ゲームとなるようにすればよい。

【0519】

また、さらに、ボーナス状態中の遊技期間もエンディング1 状態の遊技期間に含まれるようにしてもよい。例えば、エンディング1 状態の10ゲーム目（残り90ゲーム）でボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に基づくボーナス状態の遊技期間が17ゲームであり、当該ボーナス状態が終了して、エンディング準備状態を経由してエンディング1 状態に復帰された場合、当該エンディング1 状態の遊技期間が73ゲームとなるようにすればよい。

【0520】

（エンディング2 状態）

有利区間中の遊技回数が「1200」回以上となった場合であって、ラインバトル状態のインターバル状態が終了したとき、メインCPU101は、エンディング2 状態に移行させる。エンディング2 状態は、131ゲーム間継続する状態となっており、この間にはもちろん遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される。そして、エンディング2 状態が終了したときには有利区間自体も終了し、非有利区間に移行するようになっている。

【0521】

なお、この場合、上述した規制監視期間が「1200」回（あるいは、それよりも多い回数、例えば、「1369」回）の遊技回数となったときに、エンディング2状態に移行させるようにしてもよい。また、この場合、有利区間の他の遊技状態である場合にも、これらの遊技状態からエンディング2状態に移行させるようにしてもよい。また、エンディング2状態における遊技期間のカウントの態様も、エンディング1状態の遊技期間のカウントの態様と同様である。

【0522】

また、本実施形態では、エンディング2状態が終了すると有利区間自体も終了し、非有利区間に移行させるようにしているが、これに限られない。エンディング2状態が終了するとき、上述した規制監視期間が未だ「1500」回となっていなければ、再度ラインバトル状態に移行させるようにしてもよい。あるいは、上述した規制監視期間が「1500」回となるまで、エンディング2状態を継続させるようにしてもよい。

【0523】

（エンディング演出）

次に、図44を参照しながら、エンディング1状態及びエンディング2状態で行われ得るエンディング演出について説明する。

【0524】

エンディング演出は、その字句が示すように、基本的には、有利区間に制御されている期間が「1200」回以上となったときに、当該有利区間がもうじき終了されることを示唆する演出となっている。また、有利区間に制御されている期間が「1200」回以上となる確率を鑑みれば、実行される確率が他の演出よりも低い特別な演出となっている。

【0525】

エンディング演出は、例えば、第1話～第8話及び最終話からなる一連のストーリー演出として構成され、エンディング2状態での遊技期間が進行するのにしたがって、ストーリーの内容も進行するようになっている。なお、上述したように、エンディング2状態が、有利区間に制御されている期間が「1200」回となってから、規制監視期間が「1500」回となるまで継続可能に構成する場合には、規制監視期間が「1500」回となるまでの遊技期間に応じて、ストーリーの内容を進行させるようにすればよい。

【0526】

ここで、本実施形態では、有利区間が開始されるときに、エンディング1状態に移行させることが決定されている場合には、当該有利区間が開始されたばかりであるにもかかわらず、エンディング1状態中はエンディング演出が実行されるようになっている。

【0527】

ただし、エンディング1状態では、上述した一連のストーリー演出のうちの一部が実行され、全部は実行されないようになっている。具体的には、第1話～第8話及び最終話のうちの第1話～第8話は実行されるが、最終話は実行されないようになっている。なお、この場合にも、エンディング2状態と同様、基本的には、エンディング1状態での遊技期間が進行するのにしたがって、ストーリーの内容が進行するようになっている。

【0528】

エンディング1状態において、上述した一連のストーリー演出のうちの一部が実行される具体例を、図44を参照しながら説明する。例えば、エンディング準備状態では、エンディング演出の導入演出が行われる。そして、エンディング1状態が開始されるとき（ART開始）、エンディング演出が開始され、第1話、第2話、・・・第8話といったように、順次ストーリーが進行していく。そして、第8話が終了したとき、表示装置11に「つづく」といった文字が表示され、ストーリーが完結していないことが示される。

【0529】

一方、エンディング2状態では、エンディング2状態が開始されるとき（有利区間1200インターバル状態終了）、エンディング演出が開始され、第1話、第2話、・・・第8話といったように、順次ストーリーが進行していく。そして、第8話が終了すると

10

20

30

40

50

、次に最終話のストーリーが展開され、最終話のストーリーが終了したとき、表示装置 11 に「THE END」といった文字が表示され、ストーリーが完結したことが示される。

【0530】

なお、上述したエンディング演出の演出内容は、複数回数の遊技にわたって実行可能なエンディング演出の演出内容の一例を示すものであり、エンディング演出の演出内容はこれに限られない。遊技者にとって価値を有する演出内容であれば、どのような演出内容であってもよい。

【0531】

例えば、パチスロ 1 のモチーフとして用いられているアニメーションやキャラクタなどがあれば、エンディング 2 状態におけるエンディング演出では、通常は見ることはできないアニメーションの特別映像やキャラクタの特別映像が表示装置 11 に表示されるものとすればよい。この場合、エンディング 1 状態におけるエンディング演出では、これらの映像の内容をエンディング 2 状態におけるエンディング演出よりも短くして（例えば、要約し、その途中までとし、あるいは別内容として）表示装置 11 に表示されるものとすればよい。もっとも、これらに替えて、あるいはこれらとともに、スピーカ群 84 から出力される楽曲や音声、LED 群 85 による発光態様によって各エンディング演出が行われるようにすることもできる。

【0532】

また、エンディング演出は、残りの遊技回数にかかわらず演出内容が進行するものであってもよい。例えば、単位遊技に要する時間を、仮に「6 秒」（この値は任意）と定め、エンディング 2 状態におけるエンディング演出を、「6 秒 × 131 回の遊技 = 786 秒」の一連の演出として定め、エンディング 2 状態に制御されたタイミングでこの一連の演出を開始するようにし、また、エンディング 1 状態におけるエンディング演出を、「6 秒 × 100 回の遊技 = 600 秒」の一連の演出の一部の演出として定め、エンディング 1 状態に制御されたタイミングでこの一連の演出の一部の演出を開始するようにしてもよい。このようにすれば、エンディング演出を遊技回数に合わせて進行させる必要がなくなることから、演出に係る制御負担を軽減することができる。また、この場合、有利区間が終了するよりも前のタイミングで上述した一連の演出の実行が終了した場合には、その終了時の画面がそのまま有利区間が終了するときまで表示されるようにしてもよいし、上述した一連の演出が再度最初から（あるいは、中途から）開始されるようにしてもよい（すなわち、ループして実行されるようにしてもよい）。また、この場合、上述した一連の演出の実行が終了する前のタイミングで有利区間が終了した場合には、上述した一連の演出をその中途であっても強制的に終了させるようにしてもよいし、上述した一連の演出が最後まで実行されるようにしてもよい。

【0533】

また、図 44 においては図示を省略しているが、本実施形態では、有利区間において、当該有利区間における遊技期間が「1200」回の遊技となるまで（あるいは、エンディング 1 状態に移行するまで）、当該有利区間を継続させることが決定される（例えば、ラインバトル状態の継続抽籤状態においてラインバトル状態を継続させることが決定され、あるいは、権利獲得抽籤状態が終了し、その後インターバル状態に移行した）度に、表示装置 11 において、有利区間に制御されている期間の目安を示唆する示唆演出が実行されるようになっている。

【0534】

具体的には、例えば、12 マスに区画されたプログレスバーやマップなどを表示装置 11 内に所定の領域に表示するとともに、有利区間における遊技期間の遊技回数が 100 ゲーム進行する度に、1 マスずつその表示態様を異なるものとしていく、といったような示唆演出が実行される。このようにすれば、有利区間における遊技期間の概数が把握できるようになる。なお、例えば、プログレスバーやマップなどの区画を 15 マスとし、規制監視期間の消化度合いが表示されるようにしてもよい。また、これらは示唆演出の表示内容

の一例であり、その表示内容はこれに限られない。例えば、有利区間における遊技期間の実数の遊技回数が表示されるようにしてもよい。

【0535】

また、示唆演出は、インターバル状態の最初の遊技中のみ表示されるようにしてもよいし、インターバル状態中（3ゲーム間）にわたって表示されるようにしてもよい。また、有利区間が終了する可能性のあるラインバトル状態でのみ表示されるようにしてもよいし、有利区間中の各遊技状態で常に表示されるようにしてもよい。

【0536】

このように、本実施形態では、エンディング2状態となったときに、エンディング演出（特別演出）が実行されることを可能とするとともに、有利区間に移行することが決定された場合に、エンディング1状態に移行させることが決定されている場合には、エンディング1状態において、エンディング演出の一部の演出（特殊演出）が実行されることを可能としている。

10

【0537】

すなわち、本実施形態では、通常、遊技者に有利な状態中の遊技の終盤に実行され得るようになっている特別演出の一部である特殊演出が、所定の実行条件が成立した場合には、遊技者に有利な状態中の遊技の序盤において実行され得るようになっている。これにより、遊技者は特別演出を全て見たいと望みながら遊技を行うようになるため、遊技者の遊技意欲を高め、演出の興趣を向上させることができる。

【0538】

20

また、本実施形態では、エンディング2状態となったときから131ゲームが経過して有利区間が終了するまで、あるいは、エンディング2状態となったときから規制監視期間が「1500」回となって有利区間が終了するまで、エンディング演出（特別演出）が実行されることを可能としている。これにより、遊技媒体の獲得を規制する場合であっても、遊技者の興趣が低下してしまうことを軽減することができる。

【0539】

また、本実施形態では、有利区間における遊技期間が「1200」回の遊技となるまであるいは、エンディング1状態に移行するまで、有利区間を継続させることが決定される度に、有利区間に制御されている期間の目安を示唆する示唆演出を実行可能としている。これにより、特別演出の実行が開始される時期や有利区間が終了する時期などを遊技者が概ね把握できるようになるため、遊技の興趣を高めつつ、遊技者に適切な情報を提供することができる。

30

【0540】

（エンディング制御の他の例）

本実施形態では、有利区間が開始されてから例えば1500Gに達すると、残りゲーム数がたとえ残存していても有利区間を終了するリミット処理を実行するが、リミット処理を将来行うことが確定した段階（例えば、有利区間の消化済みゲーム数と残りゲーム数との合算値が規定値以上になった段階）で、主制御基板71は、出玉状態を「エンディング」（例えば、エンディング2状態）に移行する。一方で、副制御基板72は、メイン側において出玉状態を「エンディング」に移行した場合であっても、直ぐにはサブ側の演出状態を「エンディング（END）」に移行させることなく、所定の条件を契機に演出状態を「エンディング」に移行させる。以下では、特に、副制御基板72が演出状態を「エンディング」に移行させる制御の詳細について説明する。なお、本実施形態では、有利区間が「通常有利区間」などを含む場合があるが、この例では「有利区間」と「ART」とが全く同一の遊技状態であるものとして説明する。

40

【0541】

この例では、有利区間に関連してメイン（主制御基板71）側で計数するメイン側カウンタと、サブ（主制御基板71）側で計数するサブ側カウンタとを設けるものとする。主制御基板71は、第1のカウンタを用いて有利区間中に経過したゲーム数（消化済みゲーム数）を計数するとともに、第2のカウンタを用いて有利区間を継続可能な期間（残りゲ

50

ーム数)を計数する。主制御基板71は、第1のカウンタの値が「1500」に達するとリミット処理を行い、第2のカウンタの値に関係なく有利区間を終了し、第1のカウンタの値が「1500」に達する前に、第2のカウンタの値が「0」になると、有利区間を終了する。

【0542】

一方で、副制御基板72は、第3のカウンタを用いて有利区間中に経過したゲーム数(消化済みゲーム数)を計数するとともに、第4のカウンタを用いて有利区間を継続可能な期間(残りゲーム数)のうちの遊技者に対して報知した期間(報知済みゲーム数)を計数し、また、第5のカウンタを用いて有利区間を継続可能な期間(残りゲーム数)のうちの遊技者に対して未報知の期間(未報知ゲーム数(=潜伏させている上乗せゲーム数))を計数する。なお、副制御基板72は、潜伏させている上乗せゲーム数を報知した場合には、報知したゲーム数分だけ、報知済みゲーム数を加算するとともに、未報知ゲーム数を減算する。

【0543】

メイン・サブの双方において計数する消化済みゲーム数は、基本的には一致するため、メイン側の第1のカウンタの値とサブ側の第3のカウンタの値とは一致する(なお、有利区間と「ART」とが一致しない場合、リミット処理はサブ側では行わないため、サブ側では有利区間の消化済みゲーム数を計数する必要が無く、「ART」中の消化済みゲーム数を計数することになるため、両カウンタの値は完全には一致しないものの、以下に説明する制御には関係が無い)。

【0544】

また、サブ側では、報知済みの残りゲーム数と、未報知のまま保持している残りゲーム数とを個別に計数するため、メイン側の第2のカウンタの値と、サブ側の第4カウンタの値とは一致せず、また、メイン側の第2のカウンタの値と、サブ側の第5カウンタの値とも一致しない。ただし、報知済みの残りゲーム数と未報知のまま保持している残りゲーム数との和は、メイン側で計数する残りゲーム数と一致するため、メイン側の第2のカウンタの値と、サブ側の第4カウンタの値及び第5カウンタの値の和とは、一致する。

【0545】

主制御基板71は、有利区間の消化済みゲーム数と残りゲーム数との合算値に基づいて「エンディング」への移行制御を行っており、例えば、ゲーム数の上乗せが行われた結果、有利区間の消化済みゲーム数と残りゲーム数との合算値が規定値以上になった段階で出玉状態を「エンディング」に移行する。

【0546】

一方で、副制御基板72は、有利区間の消化済みゲーム数と報知済みゲーム数との合算値(すなわち、未報知ゲーム数を除いた合算値)に応じてサブ側の演出状態を「エンディング(END)」に移行させる。ここで、副制御基板72は、例えば、図示しないサブ__エンディング移行抽籤テーブルを参照して演出状態を「エンディング」に移行させる。

【0547】

例えば、サブ__エンディング移行抽籤テーブルは、参照項目として消化済みゲーム数と報知済みゲーム数との合算値を規定し、合算値ごとに「エンディング」に移行させるか否かの抽籤結果(非当籤、当籤)についての抽籤値の情報を規定する。このようなサブ__エンディング移行抽籤テーブルによれば、例えば消化済みゲーム数と報知済みゲーム数との合算値が「1000~1199G」である場合には、24576/32768の確率で「エンディング」への移行抽籤に非当籤し、8192/32768の確率で「エンディング」への移行抽籤に当籤する。

【0548】

また、例えば、副制御基板72は、有利区間の消化済みゲーム数と報知済みゲーム数との合算値が大きくなるほど高い確率で演出状態を「エンディング」に移行させる。そして、副制御基板72は、演出状態を「エンディング」に移行させると、演出ステージを専用の“エンディングステージ”に移行し、有利区間が終了するまで当該“エンディングステ

ージ”のまま維持する。なお、メイン側において出玉状態が「エンディング」に移行していない場合には、サブ側において「エンディング」への移行抽籤を行う必要がないため、副制御基板 72 は、メイン側において出玉状態が「エンディング」に移行した場合（すなわち、メイン側の管理するカウンタにおいて、有利区間の消化済みゲーム数と残りゲーム数との合算値が規定値以上になった場合）に限り、サブ側の演出状態を「エンディング」に移行させるか否かの抽籤を行うこととしてもよい。

【0549】

このように「エンディング」移行時に専用の演出ステージに移行させることで、遊技者は、リミット処理が行われることを予め把握することができる。なお、“エンディングステージ”に移行した後は、リミット処理が行われることが確定しているため、ゲーム数の上乗せ報知演出を行う意味がない。そのため、副制御基板 72 は、“エンディングステージ”に移行した後は、上乗せ報知演出を行わない。

【0550】

また、“エンディングステージ”への移行は、メイン側の合算値が規定値以上に達している状態で、サブ側の合算値（未報知ゲーム数を除く）が大きくなるほど高い確率で行われる。そのため、“エンディングステージ”への移行確率は、未報知のまま保持している上乗せゲーム数（未報知ゲーム数）が少ないほど高い確率となり、未報知のまま保持している上乗せゲーム数が多いほど低い確率となる。

【0551】

また、“エンディングステージ”に移行した後は、原則として有利区間の終了まで“エンディングステージ”の演出を継続し、有利区間が終了するゲームにおいて“エンディングステージ”の演出を終了し、当該ゲームの終了時又は次ゲームの開始時などに通常区間に対応する演出ステージへと移行させる。

【0552】

また、“エンディングステージ”の滞在中は、ボーナスが作動した場合でも依然としてリミット処理が近いうちに行われるという状況に変わりはないため“エンディングステージ”を維持することが望ましい。ここで、有利区間終了の直前のゲーム（例えば、第 1 のカウンタの値が「1499」のゲーム）において BB1～BB4 などのように所定ゲーム数を消化に要するボーナスに当籤し、ボーナスが作動した場合、ボーナスの作動中に第 1 のカウンタが「1500」に達してリミット処理が行われ、有利区間が終了することになる。このとき、出玉が増加する状態であるボーナス作動中にも関わらず“エンディングステージ”を終了させて別の演出ステージ（通常区間に対応する演出ステージやボーナス作動中の演出ステージ）へ移行させると、遊技者に違和感を与える恐れがある。そこで、副制御基板 72 は、ボーナスの作動中にリミット処理により有利区間が終了する場合には、当該ボーナスの終了まで“エンディングステージ”のまま演出ステージを継続し、ボーナスの終了時に（有利区間の終了報知や、のめり込み防止表示などを行って）通常区間に対応する演出ステージへと移行させることとしてもよい。

【0553】

さらに、第 1 のカウンタの値が「1498」～「1500」などリミット処理発動の直前でボーナス役が内部当籤役として決定され、入賞されずに持ち越された場合にも、副制御基板 72 は、“エンディングステージ”を継続して、当該持ち越し中のボーナス役が入賞して作動したボーナスの終了を待って“エンディングステージ”を終了させるというエンディング状態終了の遅延処理を行うことが好ましい。なお、この場合、リミット処理により有利区間が終了し、押し順などの報知を行わない状況（通常区間）となっても“エンディングステージ”が一時的に継続されてしまうため、副制御基板 72 は、このような非有利区間の“エンディングステージ”では有利区間中の“エンディングステージ”と演出を異ならせて、遊技者に機械の故障ではない旨を明示することが好ましい。また、副制御基板 72 は、非有利区間の“エンディングステージ”では、ボーナス役の入賞が可能な遊技（リプレイなどのボーナス役の入賞を阻害する役に当籤していない遊技）でボーナス役の入賞を促す旨の報知や、指示機能が終了しており、ボーナスの終了後に“エンディング

ステージ”が終了する旨の報知などを行って、遊技者に状況を分かり易く伝えることとしてもよい。また、ボーナス作動中にリミット処理により有利区間が終了した場合、又は、ボーナス作動中にリミット処理が行われる可能性が高い場合などは、副制御基板 7 2 は、それ以外のボーナス作動中とは異なる演出（例えば、大量獲得を祝福する演出や設定示唆情報など何らかの有利な情報を含む演出など）を、当該ボーナスの開始時、作動中、ないしは終了時に行うこととしてもよい。

【0554】

また、有利区間が終了する際に、主制御基板 7 1 は、全リールの停止後などに所定時間、遊技操作（例えば、次遊技のメダルの投入操作や再遊技の作動による自動再投入、開始操作など）を受け付けられない有利区間終了時のフリーズ処理を行うこととしてもよい。このとき、副制御基板 7 2 は、有利区間終了時のフリーズの時間を利用して、当該有利区間中に獲得したメダルの枚数、消化ゲーム数、ないしはセット数のように当該有利区間に関する情報を表示することとしてもよく、また、のめり込み防止表示をこれらに合わせて表示することとしてもよい。また、上述のように、リミット処理による有利区間の終了がボーナス作動中に発生する場合は、主制御基板 7 1 は、ボーナスの消化を妨げないようにリミット処理による有利区間の終了時にフリーズを発生させずに、ボーナスの終了時に有利区間終了時のフリーズを行うこととしてもよい。なお、有利区間の終了とは関係なく、ボーナス終了時に有利区間中に獲得したメダルの枚数などの有利区間に関する情報などを表示する表示用の時間を確保するなどの目的で、ボーナス終了時に所定時間のフリーズが設けられている場合は、有利区間の終了がボーナス作動中に発生する場合は、有利区間終了時のフリーズを有利区間終了時にも、ボーナス終了時にも行わず、主制御基板 7 1 は、ボーナス終了時のフリーズのみをボーナス終了時に行い、このボーナス終了時のフリーズ中に副制御基板 7 2 は、有利区間に関する情報やのめり込み防止表示などを表示することとしてもよい。フリーズによる遊技の遅延が複数発生することを抑制することで、遊技のテンポが悪くなってしまうことを防止できる。なお、ここまで説明した内容は、後述する別例のリミット処理によりボーナス作動中に有利区間が終了する場合においても適用することとしてもよく、また、仕様設計者は発動するリミッタの種別により上記の処理を適用するか、不適用とするか演出の流れなどを考慮して任意に決定することができる。

【0555】

（可変リミッタ）

ここまで、有利区間を終了するリミット処理を実行する条件を有利区間が開始されてから例えば 1500G に達した場合など、リミット処理の実行条件が一定の場合を前提として説明を行った。しかし、主制御基板 7 1 によるリミット処理の実行条件は必ずしも一定である必要はなく、少なくとも上限値（例えば有利区間開始から 1500G）を超えて有利区間が継続しないようにすれば十分に過度の射幸性を抑制するという効果を発揮することができる。そこで、主制御基板 7 1 は、第 1 のカウンタ（消化済みゲーム数）が所定の終了条件を満たした場合に、第 1 のカウンタ（消化済みゲーム数）が上限値を超えるより前に有利区間を終了させるリミット処理を行うこととしてもよい。

【0556】

例えば、「ART」が 1 セットあたり 50G 固定のセット数管理タイプのパチスロでは、「通常有利区間」の期間や「ART」中のボーナスなどにより、1 セットのゲーム数に対して中途半端なタイミング（例えば、上限値まで残り 20G である 1480G）で今回のセットの「ART」が終了することがある。このようなケースでは、次セットの「ART」を 1 セット全て（50G）行うことができず、セットの途中でリミット処理を行うことになってしまう。次セットの「ART」が開始されたにも関わらず、直ぐに強制的に終了させられてしまったのでは遊技者が不満を感じる可能性もある。そこで、主制御基板 7 1 は、上限値に達する前ではあるものの、区切りが良い今回のセットの「ART」終了時に、有利区間のリミット処理を行うこととしてもよい。これにより、有利区間（「ART」）は、必ず区切りの良いタイミングで終了することになるため、遊技者が不満を感じる可能性を軽減することができる。

【0557】

また、パチスロによっては、リミット処理を行う場合に所定のエンディング制御を行うことも考えられるため、このようなエンディング制御を行うケースについても説明する。例えば、「ART」が1セットあたり50G固定のセット数管理タイプのパチスロにおいて、有利区間開始からの消化済みゲーム数及び残りゲーム数の値の合計値が1400～1450Gの範囲（所定の終了条件の設定範囲）に達した場合に、主制御基板71は、残りの未消化セット数にかかわらずエンディング用の1セットとして50Gの有利区間（「ART」）を設定し、当該エンディング用の1セットが終了した時点で所定の終了条件を満たしたとしてリミット処理を実行し、有利区間を終了させるものとしてもよい。つまり、リミット処理は有利区間の開始から1400～1450Gの時点で予約され、1450～1500Gまでで実行されることとなる。このようにある程度、リミット処理の実行タイミングに幅を持つことを許容することで、不自然なタイミングで有利区間が終了して遊技者に違和感を与えることを防ぎつつ、射幸性を適切に抑制できる。また、「ART」1セットあたりのゲーム数を固定としても、途中でボーナスの作動や基本のセットと異なる上乘せ特化状態などの消化が加わることで、エンディング用の1セットが決定されるタイミングは必ずしも50の倍数である1400ゲームちょうどとはならないため、所定の終了条件の設定範囲（リミット処理を予約可能である期間）にも幅を持たせることが好ましい。

10

【0558】

なお、後述するようにリミット処理は、ゲーム数に限らず有利区間中に遊技者が獲得したメダルの差枚数やナビの発生回数に基づいて行うことができる（後述の枚数リミット、払出枚数リミット、ナビ回数リミット）。上述の可変リミットの説明は、リミット処理の種類に関係なく適用可能である。すなわち、主制御基板71は、リミット処理の実行タイミングをリミット処理発動用のカウンタ（ゲーム数カウンタ、払出枚数カウンタ、ナビ回数カウンタなど）がリミット発動の閾値（上限値）に達した場合に限らず、所定の終了条件を充足した場合には、リミット発動の閾値に達するよりも前にリミット処理を行うものとしてもよい。なお、所定の終了条件は任意であるが、一例として、セット数管理タイプの「ART」において、次セットの「ART」を開始してしまうと、次セットの「ART」の途中でリミットが発動してしまうことが予測されることを採用することができる（パチスロでは、「ART」中の1ゲームあたりのメダルの増加量やそれぞれの役の当籤確率などが設計仕様から把握することができるため、後述の枚数リミット、払出枚数リミット又はナビ回数リミットを用いる場合であっても、次セットの「ART」の途中でリミットが発動してしまうことを予測することができる）。

20

30

【0559】

この点についての技術的思想を整理すると、以下ようになる。

特定の遊技状態（有利区間）を継続可能な残り期間を示す第2数値（有利区間継続可能な残りゲーム数、差枚数、ナビ回数）が終了閾値（残り0ゲーム、0枚、0回）に達すると前記特定の遊技状態を終了するとともに、少なくとも前記計数手段が計数する前記第1数値（消化済みのゲーム数等）が所定の終了条件（例えば、リミット処理の実行となる有利区間1500ゲーム消化または、変形例のようにリミット処理の実行タイミングに幅が許容される場合は設定された1450～1500までのゲーム数のいずれかの到達等）を満たす場合は前記第2数値の値が前記終了閾値に達していないときであっても前記特定の遊技状態を終了させる特定状態終了手段（主制御基板71）。

40

なお、特定状態終了手段は、「ART」など有利区間の権利がゼロとなったことに基づいて有利区間を終わらせる処理と、リミット処理により有利区間を終わらせる場合の双方についてまとめて記載したが、プログラム上、別の処理として持たせるものとしてもよい。

【0560】

なお、本実施形態では、これまでに説明した各種データテーブル（図示を省略したものを含む）を用いた抽籤（特にテーブルを用いた抽籤として説明していない抽籤を含む）に

50

において、乱数回路 110 の乱数レジスタ 2 ~ 7 により、予め定められた数値の範囲 (0 ~ 255) から抽出される抽籤用乱数値 (演出用乱数値) を、規定された抽籤値で順次減算し、減算の結果が負となったか否か (いわゆる「桁かり」が生じたか否か) の判定を行うことによって内部的な抽籤が行われる。すなわち、抽籤用乱数値から抽籤値を減算して当籤 / 非当籤を判定しているが、抽籤の手法はこれに限定されず、抽出した抽籤用乱数値に抽籤値を加算し、加算結果が 256 を超えたか否か (いわゆる「桁あふれ」が生じたか否か) を判定して、当籤 / 非当籤を決定してもよい。

【0561】

<メイン側の制御による報知機能>

従来のパチスロでは、遊技者に有利な停止操作の情報 (押し順など) を報知するか否かの決定がサブ (副制御基板 72) 側の制御によりなされていた。しかしながら、この報知の有無が遊技者の利益 (いわゆる、出玉) に影響を与えるため、近年では、遊技者の利益を管理するメイン (主制御基板 71) 側で制御することが求められている。そこで、本実施形態のパチスロ 1 では、上述のように、メイン側で制御される情報表示器 6 に停止操作の情報を報知するための指示モニタ (不図示) を設け、メイン側の制御により、リールの停止操作の情報を報知 (指示) する機能が設けられている。

【0562】

ここで、図 45 に、本実施形態のパチスロ 1 において、メイン側で制御される各遊技状態と内部当籤役とナビデータとの対応関係を示す。なお、図 45 に示すナビデータ「1」~「6」は、指示モニタに表示される数値を表すとともに、停止操作の情報の報知内容を表す。また、図 45 に示すナビデータ「0」は、停止操作の情報が報知されないことを表す。また、図 45 では、押し順小役及び押し順リプレイのみを摘記して説明している。もっとも、押し順小役及び押し順リプレイ以外の内部当籤役については、基本的にナビデータが「0」となっている。

【0563】

非有利区間の各遊技状態においては、図 45 に示すいずれの内部当籤役が決定された場合であっても、ナビデータ「0」がセットされ、停止操作の情報は報知されない。なお、ナビデータ「0」がセットされる場合、本実施形態では、指示モニタにいずれの数値も表示しないこととしているが、これに限られず、例えば、指示モニタに「0」の数値を表示するようにしてもよい。また、ナビデータ「0」がセットされる場合、本実施形態では、これに相当する情報をサブ側に送信しないようにしているが、これに限られず、これに相当する情報をサブ側に送信するようにしてもよい。

【0564】

通常有利区間のボーナス非当籤状態及びフラグ間状態において、「F__上段左ベル 1」及び「F__中段左ベル 1」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「1」がセットされる。ナビデータ「1」は、「打順 1」に対応する。また、「F__上段左ベル 2」及び「F__中段左ベル 2」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「2」がセットされる。ナビデータ「2」は、「打順 2」に対応する。

【0565】

また、「F__上段中ベル 1」、「F__中段中ベル 1」、及び「F__下段中ベル 1」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「3」がセットされる。ナビデータ「3」は、「打順 3」に対応する。また、「F__上段中ベル 2」、「F__中段中ベル 2」、及び「F__下段中ベル 2」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「4」がセットされる。ナビデータ「4」は、「打順 4」に対応する。

【0566】

また、「F__上段右左ベル 1」、「F__上段右左ベル 2」、「F__中段右左ベル 1」、「F__中段右左ベル 2」、「F__下段右左ベル 1」、及び「F__下段右左ベル 2」、のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「5」がセットされる。ナビデータ「5」は、「打順 5」に対応する。また、「F__上段右中ベル 1」、「F__上段右中ベル 2」、「F__中段右中ベル 1」、「F__中段右中ベル 2」、「F__下段右中ベル 1」、及び

「F__下段右中ベル2」、のいずれかの内部当籤役が決定された場合、のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「6」がセットされる。ナビデータ「6」は、「打順6」に対応する。

【0567】

なお、本実施形態では、例えば、「F__上段左ベル1」及び「F__上段左ベル2」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、「打順1」又は「打順2」であれば、押し順正解となるため、ナビデータを共通のナビデータとすることもできる。しかしながら、本実施形態では、内部当籤役の構成上、押し順小役について本来であれば最大6択の押し順を設定できるところを4択の押し順として設定していることから、これに対して違和感が生じないように、「F__上段左ベル1」が内部当籤役が決定された場合にはナビデータ「1」をセットし、「F__上段左ベル2」が内部当籤役が決定された場合にはナビデータ「2」をセットするようにしている。他の押し順小役も同様である。

【0568】

また、通常有利区間のボーナス非当籤状態及びフラグ間状態において、押し順リプレイのいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「0」がセットされる。すなわち、通常有利区間のボーナス非当籤状態及びフラグ間状態では、押し順リプレイの押し順報知は行われない。また、通常有利区間のボーナス状態において、押し順小役のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「0」がセットされる。すなわち、通常有利区間のボーナス状態では、押し順小役の押し順報知は行われない。

【0569】

有利区間の各遊技状態において、「F__RT0中リプレイ1」及び「F__RT1中リプレイ1」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「1」がセットされる。ナビデータ「1」は、「打順1」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ1」の内部当籤役が決定された場合であって、抽籤（1/2の確率）によりナビデータ「1」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「1」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「1」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__1」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「1」がセットされる。

【0570】

また、「F__RT0中リプレイ2」及び「F__RT1中リプレイ2」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「2」がセットされる。ナビデータ「2」は、「打順2」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ1」の内部当籤役が決定された場合であって、抽籤（1/2の確率）によりナビデータ「2」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「2」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「2」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__2」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「2」がセットされる。

【0571】

また、「F__RT0中リプレイ3」及び「F__RT1中リプレイ3」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「3」がセットされる。ナビデータ「3」は、「打順3」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ2」の内部当籤役が決定された場合であって、抽籤（1/2の確率）によりナビデータ「3」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「3」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「3」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__3」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「3」がセットされる。

【0572】

また、「F__RT0中リプレイ4」及び「F__RT1中リプレイ4」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「4」がセットされる。ナビデータ「4」は、「打順4」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ2」の内部当籤役が決定された場合で

あって、抽籤（１／２の確率）によりナビデータ「４」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「４」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「４」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__4」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「４」がセットされる。

【０５７３】

また、「F__RT0中リプレイ５」及び「F__RT1中リプレイ５」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「５」がセットされる。ナビデータ「５」は、「打順５」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ３」の内部当籤役が決定された場合であって、抽籤（１／２の確率）によりナビデータ「５」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「５」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「５」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__5」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「５」がセットされる。

【０５７４】

また、「F__RT0中リプレイ６」及び「F__RT1中リプレイ６」のいずれかの内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「６」がセットされる。ナビデータ「６」は、「打順６」に対応する。また、「F__RT2中リプレイ３」の内部当籤役が決定された場合であって、抽籤（１／２の確率）によりナビデータ「６」がセットされることが決定された場合にもナビデータ「６」がセットされる。なお、押し順小役（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、ナビデータ「６」がセットされる態様は、通常有利区間におけるものと同様である。また、ボーナス状態において、「F__JAC1__6」の内部当籤役が決定された場合、ナビデータ「６」がセットされる。

【０５７５】

このように、本実施形態では、メイン（主制御基板７１）側は、指示モニタに「１」～「６」の数値を表示することにより、リールの停止操作の情報を報知する。また、指示モニタに表示されるこの「１」～「６」の数値は、それぞれが報知する停止操作の内容に一義的に対応している。

【０５７６】

なお、メイン側（指示モニタ）で報知する数値「１」～「６」は、報知する停止操作の内容に一義的に対応しているものの、全ての遊技者が、その数値に基づいて、明確に報知内容を把握できるとは限らない。例えば、メイン側で指示モニタに数値「６」を表示しただけでは、遊技者によっては報知内容を把握できない可能性もある。

【０５７７】

そこで、本実施形態のパチスロ１では、メイン側の報知と併せてサブ側でもストップボタンの停止操作に係る情報を報知する。具体的には、サブ側で制御される表示装置１１（プロジェクト機構２１１及び表示ユニット２１２）を用いて、サブ側の制御により停止操作に係る情報の報知を行う。

【０５７８】

例えば、押し順「中、左、右」（打順３）を報知する場合、メイン側で指示モニタに数値「３」を表示するとともに、サブ側では、表示装置１１の表示画面内の中リール３Ｃの上方に数値「１」を表示し、左リール３Ｌの上方に数値「２」を表示し、右リール３Ｒの上方に数値「３」を表示し、この表示により押し順が「中、左、右」の順であることを報知する。

【０５７９】

なお、メイン側で報知を行うタイミングは、少なくとも報知を行う一遊技の期間であれば任意のタイミングに設定することができる。例えば、遊技者の開始操作を検知した（受け付けた）タイミングでメイン側の報知を行ってもよいし、リールの回転開始時にメイン側の報知を行ってもよいし、第１停止操作～第３停止操作のいずれかを検知したタイミングでメイン側の報知を行ってもよい。一方、サブ側で報知を行うタイミングは、少なくと

10

20

30

40

50

も第1停止操作よりも前のタイミングであることが好ましい。それゆえ、本実施形態のパチスロ1では、有利区間中の停止操作の情報を報知する遊技においては、内部抽籤処理（後述の図56のS204参照）の後、リール停止制御処理（後述の図56のS213）が開始される前に、メイン（主制御基板71）側からサブ（副制御基板72）側に、このナビデータ（あるいは、これに相当する情報）をパラメータに含むコマンドを送信するようにすればよい。なお、この場合、既存のコマンド（例えば、スタートコマンド、あるいはリール回転開始コマンド）にナビデータ（あるいは、これに相当する情報）のパラメータを含ませてもよいし、ナビデータ（あるいは、これに相当する情報）を送信するための専用のコマンドを送信してもよい。これにより、メイン側の指示モニタ及びサブ側の表示装置11の双方において停止操作の情報を報知することが可能となる。

10

【0580】

また、別の手法として、有利区間中の停止操作の情報を報知する遊技においては、上述したように、内部当籤役を特定できる情報として当籤役番号をメイン側からサブ側へ送信するものとしてもよい。この手法によれば、ナビデータに相当する情報を送るまでもなく、サブ側は遊技者に有利な停止操作の手順を特定できるため、送信するデータ量を減らすこともできる。

【0581】

<主制御回路の動作説明>

次に、図46～図84を参照して、主制御回路90のメインCPU101が、プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。

20

【0582】

[電源投入（リセット割込）時処理]

まず、メインCPU101の制御により行われるパチスロ1の電源投入（リセット割込）時処理を、図46を参照して説明する。図46は、電源投入（リセット割込）時処理の手順を示すフローチャートである。なお、図46に示す電源投入（リセット割込）時処理は、電源管理回路93が、マイクロプロセッサ91に電源電圧の供給が開始されたことを検知した際に、リセット信号をマイクロプロセッサ91の「XSRST」端子に出力し、セキュリティモードによる遅延動作を経た後、マイクロプロセッサ91の割込みコントローラ112からメインCPU101に出力される割込要求信号に基づいて、実行される。

【0583】

まず、メインCPU101は、タイマー回路113（PTC）の初期化処理を行う（S1）。この処理では、メインCPU101は、タイマー回路113の初期設定を行う。具体的には、メインCPU101は、タイマー用プリスケアラレジスタ（不図示）に分周比をセットし、タイマー用制御レジスタ（不図示）に割り込み可等の設定を行い、タイマー用カウンタ（不図示）の初期カウント値を設定する。

30

【0584】

次いで、メインCPU101は、主制御回路90及び副制御回路200間用の第1シリアル通信回路114（SCU1）の初期化処理、及び、第2インターフェースボード用の第2シリアル通信回路115（SCU2）の初期化処理を行う（S2）。次いで、メインCPU101は、乱数回路110（RDG）の初期化処理を行う（S3）。次いで、メインCPU101は、メインRAM103の書き込みテストを行う（S4）。

40

【0585】

次いで、メインCPU101は、書き込みテストの結果、メインRAM103への書き込みが正常に行われたか否かを判別する（S5）。

【0586】

S5において、メインCPU101が、メインRAM103への書き込みが正常に行われなかったと判別したとき（S5がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS13の処理を行う。一方、S5において、メインCPU101が、メインRAM103への書き込みが正常に行われたと判別したとき（S5がYES判定の場合）、メインCPU101は、タイマー回路113のタイマー用制御レジスタ（不図示）の状態を取得する（

50

S 6)。

【 0 5 8 7 】

次いで、メインCPU 101は、取得したタイマー用制御レジスタの状態に基づいて、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否かを判別する(S 7)。具体的には、メインCPU 101は、取得したタイマー用制御レジスタの状態に基づいて、タイマーカウンタ開始後から1.1172ms経過したか否かを判別する。

【 0 5 8 8 】

なお、本実施形態では、S 2のタイマー回路113の初期化処理によりタイマー時間1.1172msがセットされると、CPU内蔵タイマーのカウント処理が開始される。その後、タイマー用制御レジスタ(不図示)の情報を読み込むことによりタイマー回路113のステータスを取得することができる。そして、本実施形態では、タイマー用制御レジスタに、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否か(タイマー割込状態であるか否か)を判別(参照)可能なビット(判別ビット)が設けられる。

【 0 5 8 9 】

それゆえ、上記S 6の処理では、メインCPU 101は、タイマー用制御レジスタ(不図示)の情報を読み込み、上記S 7の処理では、メインCPU 101は、タイマー用制御レジスタ内の判別ビットのオン/オフ状態(「1」/「0」)を参照することにより、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否かを判別する。なお、タイマー回路113によるカウンタ開始から1.1172ms経過したとき(タイマー回路113のカウント値が0であれば)、該判別ビットはオン状態となる。

【 0 5 9 0 】

S 7において、メインCPU 101が、現在の状態が割込処理の発生タイミングでないと判別したとき(S 7がNO判定の場合)、メインCPU 101は、処理をS 6の処理に戻し、S 6以降の処理を繰り返す。

【 0 5 9 1 】

一方、S 7において、メインCPU 101が、現在の状態が割込処理の発生タイミングであると判別したとき(S 7がYES判定の場合)、メインCPU 101は、コマンド送信開始タイマをセットする(S 8)。コマンド送信開始タイマは、後述の起動遅延期間(後述の図85参照)を管理するためのタイマであり、このコマンド送信開始タイマがセットされてから0となるまでの期間は、主制御回路90(主制御基板71)から副制御回路200(副制御基板72)に対してコマンドデータが送信されないようになっている(後述の図80参照)。これにより、パチスロ1の電源投入時に、サブCPU 201の起動制御に必要な時間(コマンドが受信可能となるまでの時間)が確保される。すなわち、コマンド送信開始タイマがセットされることにより、これに応じた期間、通信データ送信処理による通信データ(コマンドデータ)の送信が遅延される。なお、本実施形態では、S 8において、コマンド送信開始タイマの値として「21801」($21801 \times 1.1172\text{ms} = \text{約}24.3561\text{秒}$)がセットされる。もっとも、コマンド送信開始タイマの値は、同時に搭載される副制御回路200の仕様に応じて、適宜変更することが可能である。

【 0 5 9 2 】

なお、コマンド送信開始タイマは、メインRAM 103の遊技用RAM領域内に2バイトで割り当てられたソフトウェアタイマであり、後述の設定変更確認処理(図48参照)では消去されないアドレスに配置されている。

【 0 5 9 3 】

次いで、メインCPU 101は、サムチェック処理(規定外)を行う(S 9)。この処理では、メインCPU 101は、メインRAM 103のサムチェック処理を行うが、この処理の作業は、メインRAM 103内の規定外作業領域(図11C参照)で行われる。また、このサムチェック処理で用いられるプログラムはメインROM 102内の規定外エリアに格納されている(図11B参照)。なお、サムチェック処理の詳細については、後述の図54及び図55を参照しながら後で説明する。

【 0 5 9 4 】

S 9 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であるか否かを判別する (S 1 0) 。

【 0 5 9 5 】

S 1 0 において、メインCPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であると判別したとき (S 1 0 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、後述の S 1 5 の処理を行う。一方、S 1 0 において、メインCPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態でないと判別したとき (S 1 0 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、S 9 のサムチェック処理の結果に基づいて、サムチェック判定結果が正常であったか否かを判別する (S 1 1) 。

10

【 0 5 9 6 】

S 1 1 において、メインCPU 1 0 1 が、サムチェック判定結果が正常でないと判別したとき (S 1 1 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、後述の S 1 3 の処理を行う。一方、S 1 1 において、メインCPU 1 0 1 が、サムチェック判定結果が正常であると判別したとき (S 1 1 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、遊技復帰処理を行う (S 1 2)。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、遊技の状態を電断検知前の状態に戻す処理を行う。なお、遊技復帰処理の詳細については、後述の図 4 7 を参照しながら後で説明する。

【 0 5 9 7 】

S 5 又は S 1 1 が N O 判定の場合、メインCPU 1 0 1 は、情報表示器 6 (7 セグ L E D 表示器) に、エラー発生を意味する文字列「 8 8 」を表示する (S 1 3)。その後、メインCPU 1 0 1 は、W D T のクリア処理を繰り返す (S 1 4) 。

20

【 0 5 9 8 】

ここで再度、S 1 0 の処理に戻って、S 1 0 が Y E S 判定の場合、メインCPU 1 0 1 は、設定変更確認処理を行う (S 1 5)。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、主に、設定変更開始時における設定変更コマンドの生成格納処理を行う。なお、設定変更確認処理の詳細については、後述の図 4 8 を参照しながら後で説明する。

【 0 5 9 9 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、R A M 初期化処理を行う (S 1 6)。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、図 1 1 C に示すメインR A M 1 0 3 の遊技用R A M 領域内の「 R A M 異常時又は設定変更開始時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用R A M 領域の最終アドレスまでの情報を消去 (クリア) する。そして、S 1 6 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、後述のメイン処理 (後述の図 5 6 参照) を開始する。

30

【 0 6 0 0 】

[遊技復帰処理]

次に、図 4 7 を参照して、電源投入 (リセット割込) 時処理 (図 4 6 参照) 中の S 1 2 で行う遊技復帰処理について説明する。なお、図 4 7 は、遊技復帰処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 6 0 1 】

まず、メインCPU 1 0 1 は、スタックポインタ (S P) に、電断時のスタックポインタをセットする (S 2 1)。次いで、メインCPU 1 0 1 は、コマンド送信開始タイマはカウントアップしたか否かを判別する (S 2 2)。S 2 2 において、メインCPU 1 0 1 が、コマンド送信開始タイマはカウントアップしていないと判別したとき (S 2 2 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、S 2 2 の処理を繰り返す。

40

【 0 6 0 2 】

一方、S 2 2 において、メインCPU 1 0 1 が、コマンド送信開始タイマはカウントアップしたと判別したとき (S 2 2 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、入力ポートの 1 割込処理前のオンエッジデータ、及び、現在セットされているオンエッジデータをクリア (オフ) する (S 2 3)。次いで、メインCPU 1 0 1 は、メインR A M 1 0 3

50

の出力ポートバックアップ格納領域（不図示）から出力ポートのバックアップデータを読み出し、出力ポートにセットする（S 2 4）。次いで、メインCPU 1 0 1は、入力ポートのデータを読み込み、該データを、入力ポートの現在及び1割込処理前のデータ格納領域（入力ポート格納領域1及び入力ポート格納領域2）に保存する（S 2 5）。

【0603】

次いで、メインCPU 1 0 1は、回胴制御データ格納領域のアドレスをセットする（S 2 6）。次いで、メインCPU 1 0 1は、チェックするリール数（本実施形態では「3」）をセットする（S 2 7）。

【0604】

次いで、メインCPU 1 0 1は、セットされた回胴制御データ格納領域のアドレスに基づいて、所定のリールのリール制御管理情報（電断発生時の表示列の変動制御に関するデータ）を取得する（S 2 8）。なお、リール制御管理情報（表示列の変動制御管理情報）は、各リールの制御状態（回転状況）に関する情報であり、電断時には、バックアップされて保存される。

【0605】

次いで、メインCPU 1 0 1は、リール制御管理情報がリールの加速中、定速待ち又は定速中の回転状況に対応する情報であるか否かを判別する（S 2 9）。

【0606】

S 2 9において、メインCPU 1 0 1が、S 2 9の条件を満たさないと判別したとき（S 2 9がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 3 2の処理を行う。一方、S 2 9において、メインCPU 1 0 1が、S 2 9の条件を満たすと判別したとき（S 2 9がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、回胴制御データ（リール制御管理情報）をクリアする（S 3 0）。この処理により、遊技復帰後、リールの回転制御が加速処理から開始される。次いで、メインCPU 1 0 1は、リールの作動タイミング値（回胴制御データの実行開始タイミング「1」）をセットする（S 3 1）。なお、リールの作動タイミングに「1」がセットされると、リール制御処理（後述の図79中のS 9 0 3参照）内で、励磁変更タイミングとなるため、メインCPU 1 0 1は、リールの回転制御を加速処理から開始する。

【0607】

S 3 1の処理後又はS 2 9がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、リール数の値を1減算する（S 3 2）。次いで、メインCPU 1 0 1は、減算後のリール数の値が「0」であるか否かを判別する（S 3 3）。

【0608】

S 3 3において、メインCPU 1 0 1が、減算後のリール数の値が「0」でないと判別したとき（S 3 3がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、チェック対象のリールを変えて、処理をS 2 8の処理に戻し、S 2 8以降の処理を繰り返す。

【0609】

一方、S 3 3において、メインCPU 1 0 1が、減算後のリール数の値が「0」であると判別したとき（S 3 3がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、RAM初期化処理を行う（S 3 4）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、図11Cに示すメインRAM 1 0 3の遊技用RAM領域内の「電源復帰時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。

【0610】

次いで、メインCPU 1 0 1は、電断検知時に退避させた全てのレジスタのデータを全てのレジスタに復帰させる（S 3 5）。そして、S 3 5の処理後、メインCPU 1 0 1は、遊技復帰処理を終了し、処理を電断検知時の処理に戻す。

【0611】

本実施形態では、上述のようにして遊技復帰処理が行われる。本実施形態の遊技復帰処理では、上述のように、電断発生時の各ポートの入出力状態を電源復帰時に担保すると

10

20

30

40

50

もに、電断時にリール回転中の場合には、電源復帰時にリール制御管理情報を取得してリールの再回転開始に必要な処理も行う（S 2 6 ~ S 3 3 の処理参照）。それゆえ、本実施形態では、回胴回転中の電断から復帰したときであっても、安定して、リールの再回転制御を行うことができ、遊技者に不快感を与えることが無くなる。

【 0 6 1 2 】

[設定変更確認処理]

次に、図 4 8 を参照して、電源投入（リセット割込）時処理（図 4 6 参照）中の S 1 5 で行う設定変更確認処理について説明する。図 4 8 は、設定変更確認処理の手順を示すフローチャートである。なお、遊技機の電源投入後に、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態となった場合（すなわち、現在の設定値を確認する「設定確認」の場合）には、後述の S 4 4 からこの設定変更確認処理が開始されるようにすればよい。

10

【 0 6 1 3 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、メイン RAM 1 0 3 内の規定外 RAM 領域の初期化処理を行う（S 4 1）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、1 割り込み待ち処理を行う（S 4 2）。この処理では、コマンド送信開始タイマがカウントアップしている場合、後述の通信データ送信処理（図 8 0 参照）により無操作コマンドが副制御回路 2 0 0 に送信される。なお、コマンド送信開始タイマがカウントアップしていない場合には、いずれのコマンドも副制御回路 2 0 0 に送信されないため、コマンド送信開始タイマがカウントアップしていない場合には、この処理を省略するようにしてもよい。

【 0 6 1 4 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、RAM 初期化処理を行う（S 4 3）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、図 1 1 C に示すメイン RAM 1 0 3 の遊技用 RAM 領域内の「RAM 異常時又は設定変更開始時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用 RAM 領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。

20

【 0 6 1 5 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であるか否かを判別する（S 4 4）。なお、設定用鍵型スイッチ 5 4 に差し込まれる設定キー（不図示）は、パチスロ 1 の設定値（設定 1 ~ 6）を設定するための操作キーであり、設定キーがオンされていると、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態となる。

30

【 0 6 1 6 】

S 4 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態でないと判別したとき（S 4 4 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、設定変更確認処理を終了し、処理を電源投入（リセット割込）時処理（図 4 6 参照）の S 1 6 の処理に移す。一方、S 4 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であると判別したとき（S 4 4 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、メダル受付禁止の処理を行う（S 4 5）。この処理により、セレクト 6 6（図 5 参照）のソレノイドの駆動が行われず、投入されたメダルがメダル払出口 2 4（図 2 参照）から排出される。

【 0 6 1 7 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、レジスタに設定変更開始又は設定確認開始の情報（0 0 5 H：第 1 の値）をセットし、設定変更コマンド（設定変更 / 設定確認開始）の生成格納処理を行う（S 4 6）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、設定変更処理又は設定確認処理の開始時に主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される設定変更コマンドデータ（第 1 のコマンドデータ）を生成し、該コマンドデータをメイン RAM 1 0 3 に設けられた通信データ格納領域に保存する。なお、設定変更コマンド生成格納処理の詳細については、後述の図 4 9 を参照しながら後で説明する。また、通信データ格納領域に保存された設定変更コマンド（設定変更 / 設定確認開始）は、後述の図 8 0 で説明する通信データ送信処理により、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。

40

【 0 6 1 8 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、エラーカウントリレーをオン状態にセットする（S 4

50

7)。次いで、メインCPU101は、設定値の7セグ表示設定処理を行う(S48)。この処理により、現在の設定値が情報表示器6内の7セグLEDで表示可能になる。

【0619】

次いで、メインCPU101は、設定変更及び設定確認のいずれが行われたかを判別する(S49)。S49において、メインCPU101が、設定変更が行われていない(設定確認が行われた)と判別したとき(S49がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS54の処理を行う。

【0620】

一方、S49において、メインCPU101が、設定変更が行われた(設定確認が行われていない)と判別したとき(S49がYES判定の場合)、メインCPU101は、リセットスイッチ76がオン状態であるか否かを判別する(S50)。

【0621】

S50において、メインCPU101が、リセットスイッチ76がオン状態であると判別したとき(S50がYES判定の場合)、メインCPU101は、設定値を更新する(S51)。すなわち、メインCPU101は、リセットスイッチ76が操作される度に、設定値を「1」～「6」の範囲内で順次更新する。S51の処理後、メインCPU101は、処理をS48の処理に戻し、S48以降の処理を繰り返す。一方、S50において、メインCPU101が、リセットスイッチ76がオン状態でないと判別したとき(S50がNO判定の場合)、メインCPU101は、スタートスイッチ79がオン状態であるか否かを判別する(S52)。

【0622】

S52において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態でないと判別したとき(S52がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS48の処理に戻し、S48以降の処理を繰り返す。一方、S52において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態であると判別したとき(S52がYES判定の場合)、メインCPU101は、メインRAM103に設けられた設定値格納領域(不図示)に設定値を格納する(S53)。

【0623】

S49がNO判定の場合又はS53の処理後、メインCPU101は、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態であるか否かを判別する(S54)。

【0624】

S54において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態でないと判別したとき(S54がNO判定の場合)、メインCPU101は、S54の処理を繰り返す。一方、S54において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態であると判別したとき(S54がYES判定の場合)、メインCPU101は、設定変更及び設定確認のいずれが行われたか否かを判別する(S55)。

【0625】

S55において、メインCPU101が、設定変更が行われていない(設定確認が行われた)と判別したとき(S55がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS57の処理を行う。一方、S55において、メインCPU101が、設定変更が行われた(設定確認が行われていない)と判別したとき(S55がYES判定の場合)、メインCPU101は、RAM初期化処理を行う(S56)。この処理では、メインCPU101は、図11Cに示すメインRAM103の遊技用RAM領域内の図示しない「設定変更終了時」のアドレス(設定値格納領域の次のアドレス)を、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去(クリア)する。

【0626】

S56の処理後又はS55がNO判定の場合、メインCPU101は、Lレジスタに設定変更終了又は設定確認終了の情報(004H:第2の値)をセットし、設定変更コマンド(設定変更/設定確認終了)の生成格納処理を行う(S57)。この処理では、メイン

10

20

30

40

50

C P U 1 0 1 は、設定変更処理又は設定確認処理の終了時に主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される設定変更コマンドデータ（第 2 のコマンドデータ）を生成し、該コマンドデータをメイン R A M 1 0 3 に設けられた通信データ格納領域に保存する。なお、設定変更コマンド生成格納処理の詳細については、後述の図 4 9 を参照しながら後で説明する。また、通信データ格納領域に保存された設定変更コマンド（設定変更 / 設定確認終了）は、後述の図 8 0 で説明する通信データ送信処理により、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。そして、S 5 7 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、設定変更確認処理を終了し、処理を電源投入（リセット割込）時処理（図 4 6 参照）の S 1 6 の処理に移す。

【 0 6 2 7 】

10

[設定変更コマンド生成格納処理]

次に、図 4 9 を参照して、設定変更確認処理（図 4 8 参照）中の S 4 6 及び S 5 7 で行う設定変更コマンド生成格納処理について説明する。なお、図 4 9 は、設定変更コマンド生成格納処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 6 2 8 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、設定値（1 ~ 6）の情報を E レジスタにセットする（S 6 1）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、R T 状態の情報を C レジスタにセットする（S 6 2）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、設定変更コマンドのコマンド種別情報（0 2 H）を A レジスタにセットする（S 6 3）。

【 0 6 2 9 】

20

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、通信データ格納処理を行う（S 6 4）。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、S 6 1 ~ S 6 3 で各レジスタにセットされた情報と、S 4 6 又は S 5 8（図 4 8 参照）で L レジスタにセットされた情報（設定ステータスである設定変更開始 / 設定変更終了 / 設定確認開始 / 設定確認終了）とを用いて、設定変更コマンドデータを生成し、該生成されたコマンドデータを通信データ格納領域に保存する。なお、通信データ格納処理の詳細については、後述の図 5 0 を参照しながら後で説明する。

【 0 6 3 0 】

S 6 4 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、設定変更コマンド生成格納処理を終了する。なお、設定変更確認処理（図 4 8 参照）中の S 4 6 で行う設定変更コマンド生成格納処理を終了する際には、メイン C P U 1 0 1 は、S 6 4 の処理後、処理を設定変更確認処理（図 4 8 参照）の S 4 7 の処理に移す。また、設定変更確認処理（図 4 8 参照）中の S 5 7 で行う設定変更コマンド生成格納処理を終了する際には、メイン C P U 1 0 1 は、S 6 4 の処理後、設定変更コマンド生成格納処理を終了するとともに、設定変更確認処理（図 4 8 参照）も終了する。

30

【 0 6 3 1 】

[通信データ格納処理]

次に、図 5 0 を参照して、例えば、設定変更コマンド生成格納処理（図 4 9 参照）中の S 6 4 で行う通信データ格納処理について説明する。なお、通信データ格納処理は、設定変更コマンド生成時だけでなく、他のコマンド生成時にも実行される。図 5 0 は、通信データ格納処理の手順を示すフローチャートである。

40

【 0 6 3 2 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、A レジスタにセットされているデータを通信コマンド種別のデータとして、メイン R A M 1 0 3 内の通信データ一時格納領域（不図示）に格納する（S 7 1）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、H レジスタ及び L レジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ 1 及び 2 として、メイン R A M 1 0 3 内の通信データ一時格納領域に格納する（S 7 2）。

【 0 6 3 3 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、D レジスタ及び E レジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ 3 及び 4 として、メイン R A M 1 0 3 内の通信データ一時格納領域に格納する（S 7 3）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、B レジスタ及

50

びCレジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ5及びRT状態のデータとして、メインRAM103内の通信データ一時格納領域に格納する(S74)。

【0634】

次いで、メインCPU101は、Aレジスタ～Lレジスタにセットされているデータ値から通信コマンドのBCCデータ(サム値)を生成する(S75)。次いで、メインCPU101は、生成したBCCデータをメインRAM103内の通信データ一時格納領域に格納する(S76)。

【0635】

S76の処理後、メインCPU101は、メインRAM103内の通信データ格納領域に空きがあるか否かを判別する(S77)。なお、本実施形態では、通信データ格納領域に最大9個のコマンドデータが格納可能である。

【0636】

S77において、メインCPU101が、通信データ格納領域に空きがないと判別したとき(S77がNO判定の場合)、メインCPU101は、通信データ格納処理を終了するとともに、例えば、設定変更コマンド生成格納処理(図49参照)も終了する。

【0637】

一方、S77において、メインCPU101が、通信データ格納領域に空きがあると判別したとき(S77がYES判定の場合)、メインCPU101は、上述したS71～S76の処理により通信データ一時格納領域に格納された各データを通信データ(コマンドデータ)として、通信データ格納領域に格納(登録)する(S78)。

【0638】

次いで、メインCPU101は、通信データポインタ更新処理を行う(S79)。この処理では、メインCPU101は、主に、通信データ格納領域内における通信データの格納アドレスを示す通信データポインタの更新処理を行う。なお、通信データポインタ更新処理の詳細については、後述の図51を参照しながら後で説明する。

【0639】

そして、S79の処理後、メインCPU101は、通信データ格納処理を終了するとともに、例えば、設定変更コマンド生成格納処理(図49参照)も終了する。

【0640】

上述のように、本実施形態では、1パケット(8バイト)の通信データ(コマンドデータ)を作成する際に、各種パラメータをレジスタから転送して通信データ一時格納領域(通信バッファ)に格納する。このようなコマンドデータの作成手法では、コマンド生成時に各レジスタに格納されているデータがそのままコマンドデータの各種パラメータとして通信データ一時格納領域に格納される。それゆえ、未使用パラメータを含むコマンドデータを作成した時には、作成時毎に、未使用パラメータの値が不定値となる。これにより、通信データの解析を困難にしてゴト等の不正行為を抑止することができるとともに、不必要なゴト対策処理を加える必要がないため、ゴト対策処理の追加による、主制御回路90のプログラム容量の圧迫を抑制することができる。

【0641】

[通信データポインタ更新処理]

次に、図51を参照して、通信データ格納処理(図50参照)中のS79で行う通信データポインタ更新処理について説明する。なお、図51は、通信データポインタ更新処理の手順を示すフローチャートである。

【0642】

まず、メインCPU101は、現在、セットされている通信データポインタの値を取得する(S81)。

【0643】

次いで、メインCPU101は、通信データポインタの値を1パケット分(8バイト)加算更新する(S82)。なお、この処理において、更新後の通信データポインタの値が

10

20

30

40

50

、通信データ格納領域の上限サイズ以上となる場合には、メインCPU101は、更新後の通信データポインタの値を「0」にセットし、これにより、通信データ格納領域に格納されているコマンドデータを全て無効にする（破棄した状態と同様の状態にする）。

【0644】

本実施形態では、1回の送信動作で送信されるデータ量（1パケット）は8バイトである。すなわち、本実施形態では、1つの送信動作で1つのコマンドデータを送信することができる。また、本実施形態では、通信データ格納領域に最大9個のコマンドデータを格納可能であるので、通信データ格納領域の上限サイズは、72バイト（＝8バイト×9）となる。それゆえ、本実施形態では、通信データポインタの範囲を「0」～「71」とし、S82の処理において、更新後（通信データポインタを+8更新した場合）の通信データポインタの値が「71（上限値）」を超えるような値となる場合には、更新後の通信データポインタの値を「0」にセットして（通信データの格納先のアドレスを先頭アドレスに戻して）、通信データ格納領域に格納されているコマンドデータを全て無効にする（破棄した状態と同様の状態にする）。なお、通信データポインタの値を「0」にセットすると、次にコマンドデータを通信データ格納領域に格納する場合には、通信データ格納領域の先頭アドレスから格納されるので、その前に格納されていたコマンドデータは新たなコマンドデータで上書きされることになる。それゆえ、本実施形態では、通信データポインタの値が「71（上限値）」を超えた場合に、通信データ格納領域を初期化（クリア）する必要はない。

【0645】

そして、S82の処理後、メインCPU101は、通信データポインタ更新処理を終了するとともに、通信データ格納処理（図50参照）も終了する。

【0646】

[電断時（外部）処理]

次に、メインCPU101の制御により行われるパチスロ1の電断時（外部）処理を、図52を参照して説明する。図52は、電断時（外部）処理の手順を示すフローチャートである。なお、図52に示す電断時（外部）処理は、電源管理回路93が、マイクロプロセッサ91に供給される電源電圧の低下（電断）を検知した際に、電断検知信号をマイクロプロセッサ91の「XINT」端子に出力し、これにより、マイクロプロセッサ91の割込みコントローラ112からメインCPU101に出力される割込要求信号に基づいて、実行される。

【0647】

まず、メインCPU101は、全てのレジスタにセットされているデータを退避させる（S91）。次いで、メインCPU101は、電断検知ポートにセットされているデータを読み込む（S92）。

【0648】

次いで、メインCPU101は、電断検知ポートがオン状態であるか否かを判別する（S93）。

【0649】

S93において、メインCPU101が、電断検知ポートがオン状態でないと判別したとき（S93がNO判定の場合）、メインCPU101は、割込処理許可をセットする（S94）。そして、S94の処理後、メインCPU101は、電断時（外部）処理を終了する。なお、S93がNO判定である場合に行われるこれらの処理は、電源管理回路93が瞬間的に電断を検知した場合等に発生する瞬停対策の処理に対応する。

【0650】

一方、S93において、メインCPU101が、電断検知ポートがオン状態であると判別したとき（S93がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入不可を設定し、ホッパー装置51の停止を設定する（S95）。

【0651】

次いで、メインCPU101は、現在セットされているスタックポインタ（SP）の値

をメインRAM 103内の遊技用RAM領域のスタックエリアに保存する(S96)。

【0652】

次いで、メインCPU101は、メインRAM103のチェックサム生成処理を行う(S97)。なお、この処理は、メインRAM103内の規定外作業領域(図11C参照)で行われる。また、このチェックサム生成処理で用いられるプログラムはメインROM102内の規定外エリアに格納されている(図11B参照)。なお、チェックサム生成処理の詳細については、後述の図53を参照しながら後で説明する。

【0653】

次いで、メインCPU101は、メインRAM103へのアクセス禁止を設定する(S98)。そして、S98の処理後、電源が停止するまで(電源電圧が、メインCPU101が動作できない電圧に達するまで)無限ループ処理が行われる。

10

【0654】

[チェックサム生成処理(規定外)]

次に、図53を参照して、電断時(外部)処理(図52参照)中のS97で行うチェックサム生成処理について説明する。なお、図53は、チェックサム生成処理の手順を示すフローチャートである。

【0655】

まず、メインCPU101は、現在のスタックポインタ(SP)の値(遊技用RAM領域のスタックエリアの使用アドレス)をメインRAM103の規定外RAM領域の規定外スタックエリアに保存する(S101)。次いで、メインCPU101は、スタックポインタに規定外スタックエリアのアドレスをセットする(S102)。次いで、メインCPU101は、RAMアドレス(規定外スタックエリアのアドレス)の上位側のアドレス値(F0H)をQレジスタにセットする(S103)。次いで、メインCPU101は、電断発生フラグを設定する(S104)。

20

【0656】

次いで、メインCPU101は、スタックポインタに、遊技用RAM領域内のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、サム値の算出対象格納領域のバイト数を「2」で除算した値をセットする(S105)。なお、サム算出カウンタは、サム値算出の終了契機を判定するためのカウンタであり、メインRAM103に設けられる。そして、S105で設定されたサム算出カウンタが「0」になれば、メインRAM103の遊技用RAM領域のサム値算出処理を終了する。

30

【0657】

次いで、メインCPU101は、HLレジスタを0クリア(値「0」をセット)する(S106)。この処理により、サム値の初期値「0」がセットされる。

【0658】

次いで、メインCPU101は、「POP命令」と呼ばれる命令コードを実行し、スタックポインタ(SP)にセットされたメインRAM103の格納領域のアドレスから2バイト分の領域のデータ(保存値)をDEレジスタに読み出す(S107)。

【0659】

なお、「POP」命令が実行されると、スタックポインタで指定されたアドレスの1バイト領域に保存されているデータ(メモリ内容)が、ペアレジスタの下位側のレジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスを1更新したアドレスの1バイト領域に保存されているデータ(メモリ内容)が、ペアレジスタの上位側のレジスタにロードされる。また、「POP」命令が実行されると、スタックポインタ(SP)にセットされたアドレスに対して2バイト分のアドレス更新処理(アドレスを「2」加算する処理)が行われる。

40

【0660】

それゆえ、S107の処理では、スタックポインタで指定されたアドレスに保存されているデータ(メモリ内容)がEレジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスに「1」を加算したアドレスに保存されているデータ(メモリ内容)がDレジスタ

50

にロードされる。

【0661】

S107の処理後、メインCPU101は、サム値の算出処理を行う(S108)。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値にDEレジスタに格納されている値を加算し、該加算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0662】

次いで、メインCPU101は、サム算出カウンタの値を1減算する(S109)。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S110)。

【0663】

S110において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S110がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS107の処理に戻し、S107以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の遊技用RAM領域のサム値算出処理が終了するまで、S107～S110の処理が繰り返される。

【0664】

一方、S110において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」とであると判別したとき(S110がYES判定の場合)、メインCPU101は、DEレジスタに、メインRAM103内の規定外RAM領域のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、規定外用サムカウンタ値をセットする(S111)。なお、規定外用サムカウンタ値は、規定外用格納領域のバイト数となる。それゆえ、S111で設定されたサム算出カウンタが「0」になれば、メインRAM103の規定外RAM領域のサム値算出処理、すなわち、メインRAM103全体のサム値算出処理が終了する。

【0665】

次いで、メインCPU101は、DEレジスタにセットされた規定外RAM領域のアドレスから1バイト分の領域のデータ(保存値)をAレジスタに読み出す(S112)。

【0666】

次いで、メインCPU101は、サム値の算出処理を行う(S113)。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値にAレジスタに格納されている値を加算し、該加算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0667】

次いで、メインCPU101は、DEレジスタに格納されているアドレスを1加算し、サム算出カウンタの値を1減算する(S114)。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S115)。

【0668】

S115において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S115がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS112の処理に戻し、S112以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の規定外RAM領域のサム値を遊技用RAM領域のサム値に加算する処理が終了するまで、S112～S115の処理が繰り返される。

【0669】

一方、S115において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」とであると判別したとき(S115がYES判定の場合)、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値を電源発生時のサム値として、メインRAM103内のサム値格納領域(不図示)に保存する(S116)。次いで、メインCPU101は、S101で規定外スタックエリアに保存されたスタックポインタ(SP)の値をスタックポインタにセットする(S117)。そして、S117の処理後、メインCPU101は、チェックサム生成処理を終了し、処理を電源時(外部)処理(図52参照)のS98の処理に移す。

【0670】

[サムチェック処理(規定外)]

次に、図54及び図55を参照して、電源投入時処理(図46参照)中のS9で行うサ

10

20

30

40

50

ムチェック処理について説明する。なお、図 5 4 及び図 5 5 は、サムチェック処理の手順を示すフローチャートである。

【0671】

まず、メインCPU101は、現在のスタックポインタ（SP）の値を規定外スタックエリアに保存する（S121）。次いで、メインCPU101は、スタックポインタにサム値格納領域のアドレスをセットし、サム算出カウンタに、サム値の算出対象格納領域のバイト数を「2」で除算した値をセットする（S122）。なお、ここでセットされるサム算出カウンタは、サム値算出（サム値の減算処理）の終了契機を判定するためのカウンタであり、メインRAM103に設けられる。次いで、メインCPU101は、サム値格納領域からサム値（チェックサム）を取得する（S123）。この処理により、電断発生時に生成されたチェックサム（減算前の初期値）がHLレジスタに格納される。

10

【0672】

次いで、メインCPU101は、「POP」命令を実行し、スタックポインタ（SP）にセットされたメインRAM103の格納領域のアドレスから2バイト分の領域のデータ（保存値）をDEレジスタに読み出す（S124）。なお、この際、「POP」命令の実行により、スタックポインタで指定されたアドレスの1バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、Eレジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスを1更新したアドレスの1バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、Dレジスタにロードされる。また、「POP」命令が実行されると、スタックポインタ（SP）にセットされたアドレスに対して2バイト分のアドレス更新処理（アドレスを2加算する処理）が行われる。

20

【0673】

次いで、メインCPU101は、サム値の算出（減算）処理を行う（S125）。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値（サム値の初期値又は前回の減算処理後のサム値）からDEレジスタに格納されている値を減算し、該減算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0674】

次いで、メインCPU101は、サム算出カウンタの値を1減算する（S126）。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S127）。

30

【0675】

S127において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S127がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS124の処理に戻し、S124以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の遊技用RAM領域の全域に渡ってサム値の減算処理が終了するまで、S124～S127の処理が繰り返される。

【0676】

一方、S127において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき（S127がYES判定の場合）、メインCPU101は、DEレジスタに、メインRAM103内の規定外RAM領域のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、規定外用サムカウント値をセットする（S128）。なお、規定外用サムカウント値は、規定外RAM領域のバイト数となる。

40

【0677】

次いで、メインCPU101は、DEレジスタにセットされた規定外RAM領域のアドレスから1バイト分の領域のデータ（保存値）をAレジスタに読み出す（S129）。

【0678】

次いで、メインCPU101は、サム値の算出（減算）処理を行う（S130）。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値からAレジスタに格納されている値を減算し、該減算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0679】

50

次いで、メインCPU101は、DEレジスタに格納されているアドレスを1加算し、サム算出カウンタの値を1減算する(S131)。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S132)。

【0680】

S132において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S132がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS129の処理に戻し、S129以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の規定外RAM領域の全域に渡ってサム値の減算処理が終了するまで、S129～S132の処理が繰り返される。

【0681】

一方、S132において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき(S132がYES判定の場合)、メインCPU101は、サムチェック処理の判定結果に「サム異常」をセットする(S133)。次いで、メインCPU101は、算出されたサム値が「0」であるか否かを判別する(S134)。

【0682】

なお、この処理では、メインCPU101は、フラグ・レジスタFのゼロフラグ(ビット6)の状態(1/0)を参照して、サム値が「0」であるか否かを判別する。本実施形態では、S128でセットされたサム算出カウンタの値が「0」になった時点、すなわち、メインRAM103の全域に渡ってサム値の減算処理が終了した時点において、サム値が「0」である場合には、フラグ・レジスタFのゼロフラグには「1」がセットされ、サム値が「0」でない場合には、フラグ・レジスタFのゼロフラグには「0」がセットされている。それゆえ、S134の処理の時点において、フラグ・レジスタFのゼロフラグに「1(オン状態)」がセットされていれば、メインCPU101はサム値が「0」と判定する。

【0683】

S134において、メインCPU101が、算出されたサム値が「0」でないと判別したとき(S134がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS139の処理を行う。一方、S134において、メインCPU101が、算出されたサム値が「0」であると判別したとき(S134がYES判定の場合)、メインCPU101は、判定結果に「電断異常」をセットする(S135)。

【0684】

次いで、メインCPU101は、電断発生フラグを取得する(S136)。次いで、メインCPU101は、電断発生フラグが電断なしの状態(オフ状態)であるか否かを判別する(S137)。

【0685】

S137において、メインCPU101が、電断発生フラグが電断なしの状態であると判別したとき(S137がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS139の処理を行う。一方、S137において、メインCPU101が、電断発生フラグが電断なしの状態でないとき(S137がNO判定の場合)、メインCPU101は、判定結果に「正常」をセットする(S138)。

【0686】

S138の処理後、S134がNO判定の場合、又は、S137がYES判定の場合、メインCPU101は、サムチェック判定結果に判定結果を保存し、電断発生フラグをクリア(オフ)する(S139)。次いで、メインCPU101は、S121で規定外スタックエリアに保存されたスタックポインタ(SP)の値をスタックポインタにセットする(S140)。そして、S140の処理後、メインCPU101は、サムチェック処理を終了し、処理を電源投入時処理(図46参照)のS10の処理に移す。

【0687】

[メインCPUの制御によるパチスロのメイン処理]

次に、図56を参照して、メインCPU101の制御により実行されるパチスロ1のメ

10

20

30

40

50

イン処理（主要動作処理）について説明する。なお、図56は、メイン処理の手順を示すフローチャート（以下、メインフローという）である。

【0688】

まず、メインCPU101は、RAM初期化処理を行う（S201）。この処理では、メインCPU101は、図11Cに示すメインRAM103の遊技用RAM領域内の「一遊技終了時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。なお、この範囲の格納領域は、例えば、内部当籤役格納領域や表示役格納領域などの1回の単位遊技（ゲーム）ごとにデータの消去が必要な格納領域である。

【0689】

次いで、メインCPU101は、メダル受付・スタートチェック処理を行う（S202）。この処理では、メインCPU101は、各メダルセンサ（図5参照）やスタートスイッチ79などの入力チェック処理等を行う。なお、メダル受付・スタートチェック処理の詳細については、後述の図57及び図58を参照しながら後で説明する。

【0690】

次いで、メインCPU101は、乱数値取得処理を行う（S203）。この処理では、メインCPU101は、内部当籤役抽籤用の乱数値（0～65535：ハードラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ0の値）や遊技性に関する各種抽籤で用いられる演出用乱数値（0～65535：ソフトラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ1の値、0～255：ソフトラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ2～7の各値）などを抽出し、該抽出した各種乱数値をメインRAM103に設けられた乱数値格納領域（不図示）に格納する。なお、乱数値取得処理の詳細については、後述の図63を参照しながら後で説明する。

【0691】

次いで、メインCPU101は、内部抽籤処理を行う（S204）。この処理では、メインCPU101は、S203で抽出した乱数値（ハードラッチ乱数）に基づいた抽籤により内部当籤役の決定処理を行う。なお、内部抽籤処理の詳細については、後述の図64を参照しながら後で説明する。

【0692】

次いで、メインCPU101は、図柄設定処理を行う（S205）。この処理では、メインCPU101は、例えば、当り要求フラグステータス（フラグステータス情報）から内部当籤役を生成する処理、当り要求フラグデータの展開処理、当り要求フラグデータを当り要求フラグ格納領域を格納する処理等を行う。なお、図柄設定処理の詳細については、後述の図65を参照しながら後で説明する。

【0693】

次いで、メインCPU101は、スタートコマンド生成格納処理を行う（S206）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するスタートコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたスタートコマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、スタートコマンドは、内部当籤役等を特定するパラメータ（当籤役番号等）を含んで構成される。

【0694】

次いで、メインCPU101は、第2インターフェースボード制御処理を行う（S207）。なお、第2インターフェースボード制御処理は、メインRAM103の規定外用作業領域で実行される。この処理では、メインCPU101は、例えば、主制御基板71で決定された押し順ナビに係る試験信号などを、試験機用第2インターフェースボード302を介して出力するための処理等を行う。

【0695】

次いで、メインCPU101は、遊技開始時状態別制御処理を行う（S208）。この

10

20

30

40

50

処理では、メインCPU101は、図33～図44を用いて説明した、非有利区間の通常状態、通常有利区間の各遊技状態、及び有利区間の各遊技状態における各種制御のうち、遊技開始時に行う必要がある各種制御を行うための各種処理を行う。

【0696】

次いで、メインCPU101は、リール停止初期設定処理を行う(S209)。この処理では、メインCPU101は、リール停止初期設定テーブル(不図示)を参照し、内部当籤役及び遊技状態に基づいて、引込優先順位テーブル選択テーブル番号、引込優先順位テーブル番号、停止テーブル番号を取得する処理や、ストップボタン未作動カウンタに「3」を格納する処理などを行う。

【0697】

次いで、メインCPU101は、リール回転開始処理を行う(S210)。この処理では、メインCPU101は、全リールの回転開始を要求する。そして、全リールの回転開始が要求されると、一定の周期(1.1172msec)で実行される後述の割込処理(後述の図79参照)により、3つのステップモータ(不図示)の駆動が制御され、左リール3L、中リール3C及び右リール3Rの回転が開始される。次いで、各リールは、その回転速度が定速度に達するまで加速制御され、その後、該定速度が維持されるように制御される。

【0698】

次いで、メインCPU101は、リール回転開始コマンド生成格納処理を行う(S211)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するリール回転開始コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたリール回転開始コマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、リール回転開始コマンドは、リールの回転開始動作開始されたことを示すパラメータを含んで構成される。

【0699】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位格納処理を行う(S212)。この処理では、メインCPU101は、引込優先順位データを取得して、引込優先順位データ格納領域に格納する。なお、引込優先順位格納処理の詳細については、後述の図67を参照しながら後で説明する。

【0700】

次いで、メインCPU101は、リール停止制御処理を行う(S213)。この処理では、メインCPU101は、左ストップボタン17L、中ストップボタン17C及び右ストップボタン17Rがそれぞれ押されたタイミングと内部当籤役とに基づいて該当するリールの回転の停止制御を行う。なお、リール停止制御処理の詳細については、後述の図72を参照しながら後で説明する。

【0701】

次いで、メインCPU101は、入賞検索処理を行う(S214)。この処理では、メインCPU101は、図柄コード格納領域(図30参照)のデータを入賞作動フラグ格納領域(図25参照)に格納する。また、この処理では、メインCPU101は、有効ラインに表示役が表示されたか否かを判定し、その判定結果に基づいて、メダルの払出枚数をセットする。なお、入賞検索処理の詳細については、後述の図73を参照しながら後で説明する。

【0702】

次いで、メインCPU101は、イリーガルヒットチェック処理を行う(S215)。この処理では、メインCPU101は、当り要求フラグ(内部当籤役)と入賞作動フラグ(表示役)とを合成し、その合成結果に基づいてイリーガルヒットエラーの有無を判定する。なお、イリーガルヒットチェック処理の詳細については、後述の図74を参照しながら後で説明する。また、リール停止制御処理(後述の図72参照)によって誤入賞が発生することなく各リールが停止される限りにおいては、制御負担軽減の観点からこのイリー

10

20

30

40

50

ガルヒットチェック処理を省略することもできる。

【0703】

次いで、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を行う(S216)。この処理では、メインCPU101は、入賞作動コマンドの生成処理を行う。また、この処理では、メインCPU101は、S214において決定された表示役の払出枚数に基づいて、ホッパー装置51の駆動やクレジット枚数の更新を行い、メダルの払い出し処理を行う。なお、入賞チェック・メダル払出処理の詳細については、後述の図75を参照しながら後で説明する。

【0704】

次いで、メインCPU101は、BBチェック処理を行う(S217)。この処理では、メインCPU101は、ボーナス状態の作動及び終了を制御する。なお、BBチェック処理の詳細については、後述の図77を参照しながら後で説明する。

【0705】

次いで、メインCPU101は、RTチェック処理を行う(S218)。この処理では、メインCPU101は、有効ライン上に停止表示された図柄組合せに基づいてRT状態の移行制御を行う。なお、RTチェック処理の詳細については、後述の図78を参照しながら後で説明する。

【0706】

次いで、メインCPU101は、遊技終了時状態別制御処理を行う(S219)。この処理では、メインCPU101は、図33～図44を用いて説明した、非有利区間の通常状態、通常有利区間の各遊技状態、及び有利区間の各遊技状態における各種制御のうち、遊技終了時に行う必要がある各種制御を行うための各種処理を行う。そして、S219の処理後(一遊技終了後)、メインCPU101は、処理をS201の処理に戻す。

【0707】

[メダル受付・スタートチェック処理]

次に、図57及び図58を参照して、メインフロー(図56参照)中のS202で行うメダル受付・スタートチェック処理について説明する。なお、図57及び図58は、メダル受付・スタートチェック処理の手順を示すフローチャートである。

【0708】

まず、メインCPU101は、自動投入メダルカウンタの値が「0」であるか否か(自動投入要求はあるか否か)を判別する(S221)。なお、この処理において、自動投入メダルカウンタが「1」以上であるときは、メインCPU101は、自動投入要求があると判別する。また、自動投入メダルカウンタは、前回の単位遊技において再遊技(リプレイ)に係る表示役が成立したか否かを識別するためのデータである。再遊技に係る表示役が成立したときには、前回の単位遊技において投入された枚数分のメダルが自動投入メダルカウンタに自動的に投入される。

【0709】

S221において、メインCPU101が、自動投入メダルカウンタの値が「0」であると判別したとき(S221がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS225の処理を行う。

【0710】

一方、S221において、メインCPU101が、自動投入メダルカウンタの値が「0」でないと判別したとき(S221がNO判定の場合)、メインCPU101は、メダル投入処理を行う(S222)。この処理では、メインCPU101は、メダル投入コマンドの生成格納処理やメダル投入枚数のLED点灯制御処理などを行う。なお、メダル投入処理の詳細については、後述の図59を参照しながら後で説明する。

【0711】

次いで、メインCPU101は、自動投入メダルカウンタの値を減算する(S223)。なお、この処理では、メインCPU101は、自動投入メダルカウンタの値を一度に(例えば、「3」を)減算するようにしてよいし、「1」ずつ減算するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

次いで、減算後の自動投入メダルカウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S224）。

【0712】

S224において、メインCPU101が、自動投入メダルカウンタの値が「0」でないと判別したとき（S224がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS222の処理に戻し、S222以降の処理を繰り返す。

【0713】

一方、S224において、メインCPU101が、自動投入メダルカウンタの値が「0」であると判別したとき（S224がYES判定の場合）、又は、S221がYES判定の場合、メインCPU101は、メダル補助収納庫スイッチチェック処理を行う（S225）。この処理では、メインCPU101は、メダル補助収納庫スイッチ75のオン/オフ状態に基づいて、メダル補助収納庫52がメダルで満杯になっているか否かを検出する。

10

【0714】

次いで、メインCPU101は、メダル投入状態チェック処理を行う（S226）。次いで、メインCPU101は、メダル投入状態チェック処理の結果に基づいて、メダル投入可能な状態であるか否かを判別する（S227）。

【0715】

S227において、メインCPU101が、メダル投入可能な状態でないと判別したとき（S227がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS231の処理を行う。

20

【0716】

一方、S227において、メインCPU101が、メダル投入可能な状態であると判別したとき（S227がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入チェック処理を行う（S228）。この処理では、メインCPU101は、例えば、メダルセンサ入力状態に基づいて、メダルが正常に通過したか否かの判定処理や、規定数を超えてメダル投入が行われた場合に該メダルをクレジットする処理などを行う。なお、メダル投入チェック処理の詳細については、後述の図60及び図61を参照しながら後で説明する。

【0717】

次いで、メインCPU101は、メダル投入チェック処理の結果に基づいて、メダル投入又はクレジット可能な状態であるか否かを判別する（S229）。

30

【0718】

S229において、メインCPU101が、メダル投入又はクレジット可能な状態であると判別したとき（S229がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS231の処理を行う。一方、S229において、メインCPU101が、メダル投入又はクレジット可能な状態でないと判別したとき（S229がNO判定の場合）、メインCPU101は、メダル受付禁止の処理を行う（S230）。この処理により、セレクト66（図5参照）のソレノイドの駆動が行われなくなり（励磁されていたソレノイドが消磁され）、セレクトプレート804がガイド位置から排出位置に変移することで、投入されたメダルがメダル払出口24から排出されるようになる。

40

【0719】

S230の処理後、S227がNO判定の場合、又は、S229がYES判定の場合、メインCPU101は、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数であるか否かを判別する（S231）。なお、本実施形態では、遊技状態にかかわらず遊技開始可能枚数は3枚である（すなわち、3枚投入のときのみ遊技を開始することが可能となる）。

【0720】

S231において、メインCPU101が、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数であると判別したとき（S231がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS234の処理を行う。一方、S231において、メインCPU101が、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数でないと判別したとき（S231がNO判定の場合）、

50

メインCPU101は、メダル投入があるか否かを判別する(S232)。

【0721】

S232において、メインCPU101が、メダル投入があると判別したとき(S232がYES判定の場合)、メインCPU101は、処理をS226に戻し、S226以降の処理を繰り返す。一方、S232において、メインCPU101が、メダル投入がないと判別したとき(S232がNO判定の場合)、メインCPU101は、図48で説明した設定変更確認処理を行う(S233)。この処理では、メインCPU101は、設定確認開始時の設定変更コマンドの生成格納処理などを行う。これにより、遊技状態がボーナス状態(特賞作動状態)であるか否かにかかわらず、設定値及びホールメニュー(各種履歴データ(エラー、電断履歴等))を確認することができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。なお、このS233で行われる設定変更確認処理では、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態であっても、少なくとも現在の設定値の情報を含む設定変更コマンド(設定確認開始)の生成格納処理が行われ、該コマンドデータがメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存されるようにしてもよい。これにより、遊技毎に設定値が適切か(設定1~6の範囲内であるか)否かをチェックすることが可能としてもよい。

10

【0722】

S233の処理後又はS231がYES判定の場合、メインCPU101は、スタートスイッチ79がオン状態であるか否かを判別する(S234)。

【0723】

S234において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態でないと判別したとき(S234がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS226に戻し、S226以降の処理を繰り返す。

20

【0724】

一方、S234において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態であると判別したとき(S234がYES判定の場合)、メインCPU101は、メダル受付禁止の処理を行う(S235)。この処理により、セクタ66(図5参照)のソレノイドの駆動が行われなくなり(励磁されていたソレノイドが消磁され)、セレクトプレート804がガイド位置から排出位置に変移することで、投入されたメダルがメダル払出口24から排出されるようになる。

【0725】

30

次いで、メインCPU101は、メダル監視タイマにタイマ値(本実施形態では、「72」)をセットする(S236)。メダル監視タイマは、セクタ66において、励磁されていたソレノイドが消磁完了となるまでの期間(すなわち、セレクトプレート804が、ガイド位置から排出位置に移動するまでの期間)を監視するためのタイマであり(後述の図86参照)、例えば、励磁されていたソレノイドが消磁完了となるまでの期間が80msである場合に、少なくともそれ以上の期間(「約80.44ms」)を計測するためのタイマ値が設定される。すなわち、メダル監視タイマは、遊技可能開始枚数分のメダルが投入されている場合に、スタートレバー16が操作され(スタートスイッチ79がオン状態となり)、メダル受付禁止の制御が開始されてから、実際にメダルの受付が(物理的に)禁止されるまでの特定期間を監視する。これにより、後述のスタートレバーONフラグや、後述のメダル投入チェック2処理等と合わせて、該特定期間においてメダルが投入された場合に、そのメダルが誤って飲み込まれてしまう(すなわち、メダルを投入したが、カウントされることなくホッパー装置51に収容されてしまう)ことを防止している。なお、メダル監視タイマの値は、セクタ66(主にソレノイド)の仕様に応じて、適宜変更することが可能である。また、メダルの飲み込みを防止することが担保される限り、励磁されていたソレノイドが消磁完了となるまでの期間未満の期間に設定することもできる。

40

【0726】

次いで、メインCPU101は、スタートレバーONフラグをオン状態にセットする(S237)。スタートレバーONフラグは、遊技可能開始枚数分のメダルが投入されてい

50

る場合に、スタートレバー 16 が操作された（スタートスイッチ 79 がオン状態となった）か否かを識別するための情報である。

【0727】

次いで、メインCPU 101 は、メダル投入チェック 2 処理を行う（S238）。この処理では、メインCPU 101 は、基本的に、メダル投入チェック処理と同様の処理を行う。なお、メダル投入チェック処理及びメダル投入チェック 2 処理の詳細については、後述の図 60 及び図 61 を参照しながら後で説明する。

【0728】

次いで、メインCPU 101 は、スタートレバー ON フラグがオフ状態であるか否かを判別する（S239）。S239 において、メインCPU 101 が、スタートレバー ON フラグがオフ状態であると判別したとき（S239 が YES 判定の場合）、メインCPU 101 は、処理を S226 に戻し、S226 以降の処理を繰り返す。

【0729】

一方、S239 において、メインCPU 101 が、スタートレバー ON フラグがオフ状態でない（すなわち、オン状態である）と判別したとき（S239 が NO 判定の場合）、メインCPU 101 は、メダル監視タイマは「0」であるか否かを判別する（S240）。S239 において、メインCPU 101 が、メダル監視タイマは「0」でない（すなわち、「1」以上である）と判別したとき（S240 が NO 判定の場合）、メインCPU 101 は、処理を S238 に戻し、S238 以降の処理を繰り返す。

【0730】

一方、S240 において、メインCPU 101 が、メダル監視タイマは「0」であると判別したとき（S240 が YES 判定の場合）、メインCPU 101 は、メダル受付・スタートチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 56 参照）の S203 に移す。

【0731】

[メダル投入処理]

次に、図 59 を参照して、メダル受付・スタートチェック処理（図 57 及び図 58 参照）中の S222、及び後述のメダル投入チェック処理（図 60 及び図 61 参照）中の S265 で行うメダル投入処理について説明する。なお、図 59 は、メダル投入処理の手順を示すフローチャートである。

【0732】

まず、メインCPU 101 は、メダルカウンタの値に「1」を加算する（S241）。なお、メダルカウンタは、メダルの投入枚数をカウント（計数）するためのカウンタであり、メインRAM 103 に設けられる。

【0733】

次いで、メインCPU 101 は、メダル投入コマンド生成格納処理を行う（S242）。この処理では、メインCPU 101 は、副制御回路 200 に送信するメダル投入コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM 103 に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたメダル投入コマンドは、後述の図 80 で説明する通信データ送信処理により、主制御回路 90 から副制御回路 200 に送信される。すなわち、メダル投入コマンドは、メダルが 1 枚投入される度に、主制御回路 90 から副制御回路 200 に送信される。なお、メダル投入コマンドは、投入枚数等を特定するためのパラメータを含んで構成される。

【0734】

次いで、メインCPU 101 は、LED 82（図 6 参照）に含まれるメダル投入枚数表示用の第 1～第 3 LED を消灯させる（S243）。次いで、メインCPU 101 は、メダル投入枚数（メダルカウンタの値）に基づいて、該メダル投入枚数に対応する LED 点灯データ（点灯制御データ）を算出する（S244）。この処理において、例えば、メダル投入枚数が 1 枚である場合には、メダル投入枚数表示用の第 1 LED のみを点灯させる LED 点灯データが算出され、また、例えば、メダル投入枚数が 3 枚である場合には、メダル投入枚数表示用の第 1～第 3 LED の全てを点灯させる LED 点灯データが算出され

10

20

30

40

50

る。なお、このＬＥＤ点灯データの算出手法については、後で詳述する。

【０７３５】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、算出されたＬＥＤ点灯データを用いて、対応するメダル投入枚数表示用のＬＥＤを点灯させる（Ｓ２４５）。そして、Ｓ２４５の処理後、メインＣＰＵ１０１は、メダル投入処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）のＳ２２３、又は後述のメダル投入チェック処理（図６０及び図６１参照）のＳ２５３に移す。

【０７３６】

[メダル投入チェック処理]

次に、図６０及び図６１を参照して、メダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）中のＳ２２８で行うメダル投入チェック処理、及びメダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）中のＳ２３８で行うメダル投入チェック２処理について説明する。図６０及び図６１は、メダル投入チェック処理の手順を示すフローチャートである。なお、メダル投入チェック２処理は、メダル投入チェック処理のＳ２５３から処理が開始されるものであり、Ｓ２５３～Ｓ２６８の処理はメダル投入チェック処理におけるものと同一の処理であることから、以下では、メダル投入チェック処理の手順として説明する。

【０７３７】

まず、メインＣＰＵ１０１は、再遊技中であるか否かを判別する（Ｓ２５１）。

【０７３８】

Ｓ２５１において、メインＣＰＵ１０１が、再遊技中であると判別したとき（Ｓ２５１がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、メダル投入チェック処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）のＳ２２９に移す。

【０７３９】

一方、Ｓ２５１において、メインＣＰＵ１０１が、再遊技中でないと判別したとき（Ｓ２５１がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、メダル受付許可を行う（Ｓ２５２）。この処理では、セクタ６６（図５参照）のソレノイドの駆動が行われ（消磁されていたソレノイドが励磁され）、セレクトプレート８０４が排出位置からガイド位置に変移することで、メダル投入口１４から投入されたメダルが計数され、ホッパー装置５１に収容されるようになる。

【０７４０】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、ベットボタンチェック処理を行う（Ｓ２５３）。この処理では、メインＣＰＵ１０１は、ＢＥＴスイッチ７７のオン／オフ状態に基づいて、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン１５ａ又は１ベットボタン１５ｂ）の操作が行われたか否かを判別する。次いで、メインＣＰＵ１０１は、Ｓ２５３のベットボタンチェック処理の結果に基づいて、ベット動作が完了したか否かを判別する（Ｓ２５４）。

【０７４１】

Ｓ２５４において、メインＣＰＵ１０１が、ベット動作が完了したと判別したとき（Ｓ２５４がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、メダル投入チェック処理（又はメダル投入チェック２処理）を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）のＳ２２９（又はメダル受付・スタートチェック処理（図５７及び図５８参照）のＳ２３９）に移す。

【０７４２】

一方、Ｓ２５４において、メインＣＰＵ１０１が、ベット動作が完了していないと判別したとき（Ｓ２５４がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、現処理時のメダルセンサ入力状態（遊技媒体の受付状態）と、前回処理時のメダルセンサ入力状態とを取得する（Ｓ２５５）。なお、メダルセンサ入力状態は、メダル投入口１４に受け入れられたメダルのセクタ６６内の通過状況を示す情報であり、セクタ６６の各メダルセンサ（図５参照）の検知結果により生成される。

【０７４３】

10

20

30

40

50

本実施形態では、メダルセンサ入力状態は、1バイト(8ビット)のデータで表され、セクタ66の出口にメダルの通過方向に並んで設けられた上流側の第1メダルセンサ806の検知結果がビット0の情報(「0」又は「1」)に対応し、下流側の第2メダルセンサ807の検知結果がビット1の情報(「0」又は「1」)に対応する。第1メダルセンサによりメダルの通過が検知された場合には、ビット0に「1」がセットされ、第2メダルセンサによりメダルの通過が検知された場合には、ビット1に「1」がセットされる。それゆえ、メダルセンサ入力状態「00000000B」は、メダル通過前又は通過後(通過時)の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000001B」は、メダル通過開始時の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000011B」は、メダル通過中の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000010B」は、メダル通過完了直前の状態を示す。

10

【0744】

次いで、メインCPU101は、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化したか否かを判別する(S256)。

【0745】

S256において、メインCPU101が、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化していないと判別したとき(S256がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS262の処理を行う。

【0746】

一方、S256において、メインCPU101が、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化したと判別したとき(S256がYES判定の場合)、メインCPU101は、スタートレバーONフラグがオン状態であれば、スタートレバーONフラグをオフ状態にセットする(S257)。すなわち、この処理では、メインCPU101は、開始操作が行われ、メダル受付禁止の制御が開始されてから、実際にメダルの受付が(物理的に)禁止されるまでの特定期間においてメダルの投入を検知した場合には、該開始操作を無効にする処理を行う。

20

【0747】

次いで、メインCPU101は、前回処理時のメダルセンサ入力状態に基づいて、演算処理により、現処理時で得られるメダルセンサ入力状態の正常値(正常変化値)を生成する(S258)。

30

【0748】

なお、この処理において、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000000B」である場合(第1及び第2メダルセンサがともにメダル未検知である場合)には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000001B」(第1メダルセンサがメダル検知であり、第2メダルセンサがメダル未検知である場合)が生成され、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000001B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000011B」(第1及び第2メダルセンサがともにメダル検知である場合)が生成される。また、この処理において、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000011B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000010B」(第1メダルセンサがメダル未検知であり、第2メダルセンサがメダル検知である場合)が生成され、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000010B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000000B」(第1及び第2メダルセンサがともにメダル未検知である場合)が生成される。

40

【0749】

次いで、メインCPU101は、現処理時のメダルセンサ入力状態がS258で生成された正常変化値と同じであるか否かを判別する(S259)。なお、この判定処理では、メダル逆行エラーの発生の有無が判定され、S259の判定条件が満たされない場合には、メインCPU101は、メダル逆行エラーが発生したと判定する。

【0750】

50

S 2 5 9において、メインCPU 1 0 1が、現処理時のメダルセンサ入力状態がS 2 5 8で生成された正常変化値と同じでないと判別したとき（S 2 5 9がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 2 6 3の処理を行う。

【0751】

一方、S 2 5 9において、メインCPU 1 0 1が、現処理時のメダルセンサ入力状態がS 2 5 8で生成された正常変化値と同じであると判別したとき（S 2 5 9がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態（「000000000B」）であるか否かを判別する（S 2 6 0）。S 2 6 0において、メインCPU 1 0 1が、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態であると判別したとき（S 2 6 0がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 2 6 4

10

【0752】

S 2 6 0において、メインCPU 1 0 1が、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態でないと判別したとき（S 2 6 0がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、メダル通過チェックタイマをセットする（S 2 6 1）。この処理でメダル通過チェックタイマにセットされる時間は、メダルがセクタ66を通過したか否かを判別可能な時間であれば、任意の時間に設定することができる。また、この処理でセットされるタイマ値は、例えば、現処理時のメダルセンサ入力状態に応じて変化させてもよい。

【0753】

S 2 6 1の処理後又はS 2 5 6がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過中の状態（「000000011B」）であり、かつ、メダル通過チェックタイマが停止しているか否かを判別する（S 2 6 2）。この判定処理では、メダル通過エラー（投入メダル通過時間エラー）の発生の有無が判定され、S 2 6 2の判定条件が満たされた場合、メインCPU 1 0 1は、メダル通過エラーが発生したと判定する。

20

【0754】

S 2 6 2において、メインCPU 1 0 1が、S 2 6 2の判定条件が満たされないと判別したとき（S 2 6 2がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、処理をS 2 5 3の処理に戻し、S 2 5 3以降の処理を繰り返す。

【0755】

一方、S 2 6 2において、メインCPU 1 0 1が、S 2 6 2の判定条件が満たされると判別したとき（S 2 6 2がYES判定の場合）、又は、S 2 5 9がNO判定の場合、すなわち、メダル通過エラー又はメダル逆行エラーが発生したと判定された場合、メインCPU 1 0 1は、エラー処理を行う（S 2 6 3）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、例えば、エラーコマンド生成格納処理等のエラー発生時の各種処理を行う。なお、エラー処理の詳細については、後述の図62を参照しながら後で説明する。そして、S 2 6 3の処理後、メインCPU 1 0 1は、処理をS 2 5 3の処理に戻し、S 2 5 3以降の処理を繰り返す。

30

【0756】

ここで再度、S 2 6 0の処理に戻って、S 2 6 0がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、規定数（本実施形態では3枚）のメダルが投入済みの状態であるか否かを判別する（S 2 6 4）。

40

【0757】

S 2 6 4において、メインCPU 1 0 1が、規定数のメダルが投入済みの状態でないと判別したとき（S 2 6 4がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、図59で説明したメダル投入処理を行う（S 2 6 5）。そして、S 2 6 5の処理後、メインCPU 1 0 1は、処理をS 2 5 3の処理に戻し、S 2 5 3以降の処理を繰り返す。

【0758】

一方、S 2 6 4において、メインCPU 1 0 1が、規定数のメダルが投入済みの状態であると判別したとき（S 2 6 4がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、クレジット

50

トカウンタの値に「1」を加算する（S266）。次いで、メインCPU101は、メダル投入コマンド生成格納処理を行う（S267）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するメダル投入コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたメダル投入コマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。

【0759】

次いで、メインCPU101は、クレジットカウンタの値に基づいて、メダルのクレジット枚数が上限値（本実施形態では50枚）であるか否かを判別する（S268）。

【0760】

S268において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数が上限値でないと判別したとき（S268がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS253の処理に戻し、S253以降の処理を繰り返す。一方、S268において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数が上限値であると判別したとき（S268がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入チェック処理（又はメダル投入チェック2処理）を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図57及び図58参照）のS229（又はメダル受付・スタートチェック処理（図57及び図58参照）のS239）に移す。

【0761】

[エラー処理]

次に、図62を参照して、例えば、メダル投入チェック処理（図60及び図61参照）中のS263で行うエラー処理について説明する。図62は、エラー処理の手順を示すフローチャートである。

【0762】

まず、メインCPU101は、メダルソレノイドのオフ処理を行う（S271）。具体的には、メインCPU101は、セクタ66（図5参照）のソレノイドの駆動を停止する。次いで、メインCPU101は、メダルの払出枚数表示データの退避処理を行う（S272）。次いで、メインCPU101は、エラーテーブルのセット処理を行う（S273）。

【0763】

次いで、メインCPU101は、エラー要因を取得する（S274）。なお、この処理で取得されるエラー要因は、現在処理中のエラー処理を読み出した処理に応じて変化する。なお、本実施形態で対象とするエラー要因としては、「ホッパーエンブティエラー」、「ホッパージャムエラー」、「投入メダル通過カウントエラー」、「投入メダル通過チェックエラー」、「投入メダル通過チェックエラー」、「投入メダル通過時間エラー」、「投入メダル逆行エラー」、「投入メダル補助収納庫満杯エラー」、「イリーガルヒットエラー」が規定される。例えば、メダル投入チェック処理中のS259の処理後にエラー処理が読み出された場合には、この処理において、エラー要因として「投入メダル逆行エラー（Cr）」が取得される。また、例えば、メダル投入チェック処理中のS262の処理後にエラー処理が読み出された場合には、この処理において、エラー要因として「投入メダル通過時間エラー（CE）」が取得される。

【0764】

次いで、メインCPU101は、エラーテーブルとエラー要因とから、エラー表示データを取得する（S275）。例えば、エラー要因が「投入メダル逆行エラー（Cr）」である場合、この処理において、2桁の7セグLEDのうち、上位桁の7セグLEDに出力するエラー表示データとして、1バイトデータ「01001110B」が取得され、下位桁の7セグLEDに出力するエラー表示データとして、1バイトデータ「00001001B」が取得される。この場合、2桁の7セグLEDには、「Cr」の2文字がエラー情報として表示される。

【0765】

10

20

30

40

50

次いで、メインCPU101は、エラーコマンド（発生）生成格納処理を行う（S276）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する、エラー発生時のエラーコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたエラー発生時のエラーコマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、エラー発生時のエラーコマンドには、エラー発生を示すパラメータを含んで構成される。

【0766】

次いで、メインCPU101は、1割込時間（1.1172ms）の待機処理を行う（S277）。次いで、メインCPU101は、エラーが解除されたか否かを判別する（S278）。 10

【0767】

S278において、メインCPU101が、エラーが解除されていないと判別したとき（S278がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS277の処理に戻し、S277以降の処理を繰り返す。

【0768】

一方、S278において、メインCPU101が、エラーが解除されたと判別したとき（S278がYES判定の場合）、メインCPU101は、エラー要因のクリア処理を行う（S279）。なお、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域で行われる。次いで、メインCPU101は、S272で退避させたメダルの払出枚数表示データの復帰処理を行う（S280）。 20

【0769】

次いで、メインCPU101は、エラーコマンド（解除）生成格納処理を行う（S281）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する、エラー解除時のエラーコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。通信データ格納領域に保存されたエラー解除時のエラーコマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、エラー解除時のエラーコマンドには、エラー解除を示すパラメータを含んで構成される。そして、S281の処理後、メインCPU101は、エラー処理を終了し、処理を例えばメダル投入チェック処理（図60及び図61参照）中のS253に移す。なお、エラー解除では、発生したエラー要因が解除され、リセットスイッチ76が押下されることにより、エラー状態が解除される。 30

【0770】

[乱数値取得処理]

次に、図63を参照して、メインフロー（図56参照）中のS203で行う乱数値取得処理について説明する。なお、図63は、乱数値取得処理の手順を示すフローチャートである。

【0771】

まず、メインCPU101は、乱数回路の乱数レジスタ0のハードラッチ乱数（0～65535）を取得し、取得した乱数値を内部当籤役抽籤用の乱数値として、メインRAM103内の乱数値格納領域（不図示）に保存する（S291）。 40

【0772】

次いで、メインCPU101は、乱数回路の乱数レジスタ1～7のソフトラッチ乱数（0～65535又は0～255）を生成するためのソフトラッチ乱数取得レジスタのセット処理を行う（S292）。次いで、メインCPU101は、ソフトラッチ乱数の取得個数（例えば、7）をセットする（S293）。なお、取得個数は、一遊技において行われる抽籤の数に応じて適宜増減して設定することができる。

【0773】

次いで、メインCPU101は、取得個数分のソフトラッチ乱数を一括で取得し、取得個数分のソフトラッチ乱数を乱数値格納領域に保存する（S294）。なお、この際、乱 50

数回路 1 1 0 の乱数レジスタ 1 ~ 7 から取得されるソフトラッチ乱数（演出用乱数値）は、乱数値格納領域内において、乱数回路の乱数レジスタ 0 から取得されるハードラッチ乱数（内部当籤役抽籤用の乱数値）が格納された領域とは異なる領域に保存される。そして、S 2 9 4 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、乱数値取得処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）の S 2 0 4 に移す。なお、本実施形態では、1 つの 2 バイト乱数（内部当籤役抽籤用の乱数値）と、6 つの 1 バイト乱数（演出用乱数値）を格納するために、メイン RAM 1 0 3 に 8 バイトの格納領域が乱数格納領域として割り当てられている。また、本実施形態では、2 バイト乱数のソフトラッチ乱数は使用されていない。

【 0 7 7 4 】

[内部抽籤処理]

次に、図 6 4 を参照して、メインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 0 4 で行う内部抽籤処理について説明する。なお、図 6 4 は、内部抽籤処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 7 7 5 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、設定値・メダル投入枚数チェック処理を行う（S 3 0 1）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、現遊技の設定値（1 ~ 6 のいずれか）及びメダル投入枚数（本実施形態では 3 枚）のチェック処理を行う。

【 0 7 7 6 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、一般遊技中用の内部抽籤テーブル（図 1 6 及び図 1 7 に示した「R T 0」状態における内部抽籤テーブル参照）及び抽籤回数（本実施形態では 9 8 回）をセットする（S 3 0 2）。

【 0 7 7 7 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、R B 作動中であるか否かを判別する（S 3 0 3）。S 3 0 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、R B 作動中でないと判別したとき（S 3 0 3 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 3 0 5 の処理を行う。

【 0 7 7 8 】

一方、S 3 0 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、R B 作動中であると判別したとき（S 3 0 3 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R B 中用の内部抽籤テーブル（図 1 8 に示した内部抽籤テーブル参照）及び抽籤回数（本実施形態では 7 回）をセットする（S 3 0 4）。この処理では、S 3 0 2 でセットされた一般遊技中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数を R B 中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数で上書きする。

【 0 7 7 9 】

S 3 0 4 の処理後又は S 3 0 3 が N O 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、セットされている内部抽籤テーブルから抽籤対象役の判定データ（アドレスに関するデータ）を取得し、抽籤テーブルアドレスを更新する（S 3 0 5）。

【 0 7 8 0 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、判定データが R T 状態別データであるか否かを判別する（S 3 0 6）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役が R T 状態に応じて抽籤値が変化する内部当籤役であるか否かを判別する。具体的には、メイン CPU 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役の判定データに規定されているアドレスが、R T 状態別抽籤値選択テーブル（不図示）内のアドレスであるか否かを判別する。

【 0 7 8 1 】

S 3 0 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、判定データが R T 状態別データでないと判別したとき（S 3 0 6 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 3 0 8 の処理を行う。一方、S 3 0 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、判定データが R T 状態別データであると判別したとき（S 3 0 6 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、判定データに基づいて、R T 状態抽籤値選択テーブルから選択データを取得し、該取得した選択データを判定データにセットする（S 3 0 7）。

【 0 7 8 2 】

10

20

30

40

50

S 3 0 7 の処理後又は S 3 0 6 が N O 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤対象役の判定データが設定別データであるか否かを判別する (S 3 0 8)。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役が、設定値に応じて抽籤値が変化する内部当籤役であるか否かを判別する。具体的には、メイン C P U 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役の判定データに規定されているアドレスが、設定別内部抽籤値テーブル (不図示) 内のアドレスであるか否かを判別する。

【 0 7 8 3 】

S 3 0 8 において、メイン C P U 1 0 1 が、判定データが設定別データでないと判別したとき (S 3 0 8 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、後述の S 3 1 0 の処理を行う。一方、S 3 0 8 において、メイン C P U 1 0 1 が、判定データが設定別データであると判別したとき (S 3 0 8 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、判定データに設定値データ (0 ~ 5 のいずれか) を加算し、該加算した値を判定データにセットする (S 3 0 9)。なお、この処理で判定データに加算される設定値データは、設定値に対応付けられたデータであるが、設定値そのものの値ではなく、設定値データ「 0 」 ~ 「 5 」は、それぞれ「設定 1」 ~ 「設定 6」に対応するデータである。

【 0 7 8 4 】

S 3 0 9 の処理後又は S 3 0 8 が N O 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、セットされている判定データ (アドレスデータ) に基づいて、抽籤対象役の抽籤値が格納された領域のアドレスを算出し、該アドレスに格納された抽籤値を取得する (S 3 1 0)。

【 0 7 8 5 】

なお、例えば、その抽籤値が R T 状態及び設定値の両方に応じて変化する内部当籤役の場合には、R T 状態抽籤値選択テーブル及び設定別内部抽籤値テーブルの両方を参照して、抽籤値が取得される。すなわち、例えば、一般遊技状態用の内部抽籤テーブル (図 1 6 及び図 1 7 参照) において、R T 0 状態を基準とし、R T 状態が異なる場合に抽籤値が変動する内部当籤役 (例えば、「F __ 維持リブ」など) については、遊技状態 (R T 1 ~ R T 5 状態) に応じて抽籤値を変動させるとともに、設定値が異なる場合に抽籤値が変動する内部当籤役 (例えば、「F __ 維持リブ」など) については、設定値 (設定 1 ~ 6) に応じて抽籤値を変動させる。

【 0 7 8 6 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、乱数格納領域に格納された内部当籤役抽籤用の乱数値 (0 ~ 6 5 5 3 5 のいずれか) を取得する (S 3 1 1)。

【 0 7 8 7 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤実行処理を行う (S 3 1 2)。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、S 3 1 0 で取得された抽籤値に、S 3 1 1 で取得された乱数値を加算し、その加算結果を抽籤結果 (抽籤対象役の当籤 / 非当籤) とする。なお、この抽籤実行処理において、抽籤値と乱数値との和が 6 5 5 3 5 を超えた場合 (オーバーフローした場合)、抽籤対象役が当籤した (抽籤対象役が内部当籤役として決定された) と判定される。

【 0 7 8 8 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、乱数値に抽籤値を加算した値 (抽籤実行後の乱数値) を新たな乱数値として、乱数格納領域に保存する (S 3 1 3)。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤実行処理で当籤したか否か (オーバーフローが発生したか否か) を判別する (S 3 1 4)。

【 0 7 8 9 】

S 3 1 4 において、メイン C P U 1 0 1 が、抽籤実行処理で当籤したと判別したとき (S 3 1 4 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、内部抽籤テーブルを参照して当籤した内部当籤役に対応する当り要求フラグステータス (例えば、図 1 6 ~ 図 1 8 中「N o .」に対応する、特賞当籤番号 (すなわち、当籤したボーナス役の種別を識別可能な情報) 及び小役当籤番号 (すなわち、当籤した小役又はリプレイ役の種別を識別可能な情報) の値) を取得する (S 3 1 5)。そして、S 3 1 5 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、

10

20

30

40

50

内部抽籤処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）のS205に移す。

【0790】

一方、S314において、メインCPU101が、抽籤実行処理で当籤していないと判別したとき（S314がNO判定の場合）、メインCPU101は、内部抽籤テーブルにおいて抽籤対象役を次の役に更新し、抽籤回数を1減算する（S316）。次いで、メインCPU101は、減算後の抽籤回数が「0」であるか否かを判別する（S317）。

【0791】

S317において、メインCPU101が、減算後の抽籤回数が「0」でないと判別したとき（S317がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS305の処理に戻し、S305以降の処理を繰り返す。

10

【0792】

一方、S317において、メインCPU101が、減算後の抽籤回数が「0」であると判別したとき（S317がYES判定の場合）、すなわち、内部当籤役が「はずれ」である場合、メインCPU101は、ハズレステータスをセットする（S318）。なお、「ハズレステータス」は、特賞当籤番号及び小役当籤番号のいずれもが「0」となる当り要求フラグステータスに対応する。そして、S318の処理後、メインCPU101は、内部抽籤処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）のS205に移す。

【0793】

〔図柄設定処理〕

次に、図65を参照して、メインフロー（図56参照）中のS205で行う図柄設定処理について説明する。なお、図65は、図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。

20

【0794】

まず、メインCPU101は、内部抽籤処理で取得された当り要求フラグステータスに基づいて、特賞当籤番号及び小役当籤番号を抽出し、該抽出された特賞当籤番号及び小役当籤番号をメインRAM103内の当籤番号格納領域（不図示）に保存する（S321）。

【0795】

本実施形態では、特賞当籤番号「1」～「4」には、それぞれ、内部当籤役「F__BB1」、「F__BB2」、「F__BB3」及び「F__BB4」が対応付けられている。また、小役当籤番号「1」～「23」には、それぞれ、内部当籤役「F__確定リブ」～「F__被弾リブ」が対応付けられ（図23参照）、小役当籤番号「24」～「61」には、それぞれ、内部当籤役「F__チャンス目A1」～「F__下段右中ベル2」が対応付けられ（図24参照）、小役当籤番号「62」～「68」には、それぞれ、内部当籤役「F__JAC1__1」～「F__JAC2」が対応付けられている（図23参照）。そして、当り要求フラグステータスの値は、これらの値を示す特賞番号に特賞当籤番号の値を乗算し、小役当籤番号を加算した値で構成される。それゆえ、S321の処理において、当り要求フラグステータスの値から特賞当籤番号及び小役当籤番号を抽出するため、本実施形態では、メインCPU101は、当り要求フラグステータスの値を特賞番号で除算する。なお、これは内部当籤役を識別するためのデータ圧縮の一例であり、特賞当籤番号及び小役当籤番号を抽出可能であれば、その他のデータ構成も適宜採用することができる。

30

40

【0796】

次いで、メインCPU101は、抽出された小役当籤番号に基づいて、小役（又はリプレイ役）が当籤したか否かを判別する（S322）。この処理において、小役当籤番号が1～68のいずれかである場合には、メインCPU101は、小役（又はリプレイ役）が当籤したと判定し、小役当籤番号が0である場合には、メインCPU101は、小役（又はリプレイ役）が当籤しなかったと判定する。

【0797】

S322において、メインCPU101が、小役（又はリプレイ役）が当籤していないと判別したとき（S322がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS331

50

の処理を行う。一方、S 3 2 2において、メインCPU 1 0 1が、小役（又はリプレイ役）が当籤したと判別したとき（S 3 2 2がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、小役当籤番号を減算結果の初期値としてセットする（S 3 2 3）。

【0798】

次いで、メインCPU 1 0 1は、当り要求フラグテーブル（不図示）をセットする（S 3 2 4）。次いで、メインCPU 1 0 1は、減算結果を1減算し、該減算結果を更新する（S 3 2 5）。次いで、メインCPU 1 0 1は、減算結果が「0」未満であるか否かを判別する（S 3 2 6）。

【0799】

S 3 2 6において、メインCPU 1 0 1が、減算結果が「0」未満でないと判別したとき（S 3 2 6がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ビット数算出処理を行う（S 3 2 7）。なお、S 3 2 7のビット数算出処理では、当り要求フラグテーブルに規定されている、小役当籤番号に対応する当り要求フラグデータの格納領域のブロック数を取得する。

10

【0800】

次いで、メインCPU 1 0 1は、ビット数算出処理を行う（S 3 2 8）。なお、S 3 2 8のビット数算出処理では、当り要求フラグテーブルにおいて規定されるブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数を算出する。

【0801】

なお、上述したS 3 2 5～S 3 2 8の処理は、小役当籤番号の回数だけ繰り返される。また、S 3 2 5～S 3 2 8の処理が複数回繰り返される場合には、S 3 2 7及びS 3 2 8のビット数算出処理でそれぞれ取得されるブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数は、別の格納領域に保存される。また、上述したS 3 2 5～S 3 2 8の処理により得られたブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数は、当り要求フラグデータの格納先を指定する情報（オンビット情報）となる。

20

【0802】

ここで再度、S 3 2 6の処理に戻って、S 3 2 6において、メインCPU 1 0 1が、減算結果が「0」未満であると判別したとき（S 3 2 6がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）のセット処理を行う（S 3 2 9）。この際、メインCPU 1 0 1は、上述したS 3 2 5～S 3 2 8の処理により得られたブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数（オンビット情報）に基づいて、チェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域のみをセットする。具体的には、チェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域のアドレスをDEレジスタに格納する。

30

【0803】

次いで、メインCPU 1 0 1は、圧縮データ格納処理を行う（S 3 3 0）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、主に、当り要求フラグデータをチェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域内の所定の格納領域に転送（展開）する処理を行う。圧縮データ格納処理の詳細については、後述の図66を参照しながら後で説明する。

【0804】

40

S 3 3 0の処理後又はS 3 2 2がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、持越役格納領域（図26参照）を参照して、持越役があるか否かを判別する（S 3 3 1）。S 3 3 1において、メインCPU 1 0 1が、持越役があると判別したとき（S 3 3 1がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 3 3 4の処理を行う。

【0805】

一方、S 3 3 1において、メインCPU 1 0 1が、持越役がないと判別したとき（S 3 3 1がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、S 3 2 1の処理で抽出された特賞当籤番号に基づいて、ボーナス役（BB 1～BB 4）が当籤したか否かを判別する（S 3 3 2）。

【0806】

50

S 3 3 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、ボーナス役が当籤していないと判別したとき (S 3 3 2 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、図柄設定処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 参照) の S 2 0 6 に移す。

【 0 8 0 7 】

一方、S 3 3 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、ボーナス役が当籤したと判別したとき (S 3 3 2 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、当籤した特賞当籤番号を持越役格納領域に格納する (S 3 3 3)。

【 0 8 0 8 】

S 3 3 3 の処理後又は S 3 3 1 が N O 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、特賞当籤番号を当籤番号格納領域 (不図示) にセットし、当り要求フラグ格納領域に当り要求フラグデータをセットし、R T 状態を R T 5 状態にセットする (S 3 3 4)。そして、S 3 3 4 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、図柄設定処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 参照) の S 2 0 6 に移す。

【 0 8 0 9 】

[圧縮データ格納処理]

次に、図 6 6 を参照して、例えば、図柄設定処理 (図 6 5 参照) 中の S 3 3 0 で行う圧縮データ処理について説明する。図 6 6 は、圧縮データ格納処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 8 1 0 】

なお、図 6 6 に示す圧縮データ格納処理は、図柄設定処理 (図 6 5 参照) 中の S 3 3 0 だけでなく、後述の図柄コード取得処理 (後述の図 6 8 参照) 中の S 6 4 9 においても実行される。図柄設定処理 (図 6 5 参照) 中の S 3 3 0 で実行される圧縮データ格納処理では、処理対象となるフラグデータは当り要求フラグデータ (当籤役に係るフラグデータ) となるが、後述の図柄コード取得処理 (後述の図 6 8 参照) 中の S 6 4 9 で実行される圧縮データ格納処理では、処理対象となるフラグデータは入賞作動フラグデータ (入賞役に係るフラグデータ) である。そして、処理対象となるフラグデータの種別が異なること以外は、両者の処理は同じ処理になる。

【 0 8 1 1 】

それゆえ、図 6 6 のフローチャートでは、処理対象とするフラグデータを「処理対象フラグデータ」と記し、処理対象となるフラグテーブルを「処理対象フラグテーブル」と記す。また、この記載に合わせて、以下の圧縮データ格納処理の説明においても、当り要求フラグデータ又は入賞作動フラグデータを「処理対象フラグデータ」と称し、当り要求フラグテーブル又は後述の図柄対応入賞作動テーブル (不図示) を「処理対象フラグテーブル」と称す。

【 0 8 1 2 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、格納先チェックビットをセットする (S 3 4 1)。この処理では、格納先チェックビットは A レジスタ以外のレジスタに格納される。

【 0 8 1 3 】

格納先チェックビットは、処理対象フラグデータの格納先 (転送先) となるブロックを指定するための 1 バイトのデータである。本実施形態では、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域はともに、2 つのブロック (格納領域 1 ~ 8 のブロック及び格納領域 9 のブロック) で構成される。そして、例えば、内部当籤役「F __ J A C 1 __ 1」が決定された場合には、格納先のブロック数が「2」になるので、S 3 4 1 の処理では、格納先チェックビットとして、「0 0 0 0 0 0 1 1 B」がセットされる。なお、この 1 バイトのデータのビット 0 の値 (1 / 0) が格納領域 1 ~ 8 のブロック内の格納先の有無に対応し、ビット 1 の値 (1 / 0) が格納領域 9 のブロック内の格納先の有無に対応する。

【 0 8 1 4 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、バイト単位の転送カウンタの値を「8」にセットする (S 3 4 2)。本実施形態では、少なくとも 1 つのブロックのバイト数が「8」であるので、転送カウンタの初期値には「8」がセットされる。

【0815】

次いで、格納先チェックビットから転送指示ビットの値を抽出する（S343）。なお、転送指示ビットは、格納先チェックビット内のビット0のデータに対応し、S343の処理では、1バイトのレジスタに格納されている格納先チェックビットを1回（1ビット分）右シフトすることにより、転送指示ビットが抽出される。具体的には、格納先チェックビットが格納された1バイトのレジスタ（Aレジスタ以外のレジスタ）を1回右シフトすると、ビット7～ビット1に格納されているデータがそれぞれビット6～ビット0に移動するとともに、シフト前のビット0のデータが出力される。そして、このシフト処理により出力されたデータが転送指示ビットの値となる。

【0816】

次いで、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値に基づいて、転送指示があるか否かを判別する（S344）。この処理では、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値が「1」である場合に転送指示があると判定する。例えば、格納先チェックビットとして、「00000011B」がセットされた場合、1回目（格納領域の1ブロック目に対応）及び2回目（格納領域の2ブロック目に対応）のS344の判定処理で、転送指示ありの判定となる。

【0817】

S344において、メインCPU101が、転送指示がないと判別したとき（S344がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS354の処理を行う。

【0818】

一方、S344において、メインCPU101が、転送指示があると判別したとき（S344がYES判定の場合）、メインCPU101は、処理対象フラグテーブルからバイト単位格納先指定情報を取得する（S345）。この処理では、バイト単位格納先指定情報として、処理対象フラグテーブル内の処理対象役（当籤役又は入賞役）のフラグデータが格納された領域の先頭アドレスに格納されている、転送先を示す1バイトのデータが取得される。

【0819】

次いで、メインCPU101は、処理対象フラグテーブル内で参照するアドレスの更新処理（アドレスを1加算する処理）を行う（S346）。また、この処理では、メインCPU101は、処理対象フラグデータの格納（転送）先となるブロックの先頭格納領域を指定するアドレスを初期アドレスとしてセットする。例えば、1ブロック目の処理では、S346の処理において、初期アドレスとして格納領域1のアドレスがセットされ、2ブロック目の処理では、S346の処理において、初期アドレスとして格納領域9のアドレスがセットされる。

【0820】

次いで、メインCPU101は、バイト単位格納先指定情報から転送指示ビットの値を抽出する（S347）。なお、ここでいう転送指示ビットは、バイト単位格納先指定情報のビット0に対応し、S347の処理では、1バイトのレジスタに格納されているバイト単位格納先指定情報を1回右シフトすることにより、転送指示ビットの値を抽出する（ビット0のデータを出力する）。

【0821】

次いで、メインCPU101は、S347の処理で抽出された転送指示ビットの値に基づいて、転送指示があるか否かを判別する（S348）。この処理では、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値が「1」である場合、転送指示があると判定する。例えば、バイト単位格納先指定情報として、「00000001B」がセットされた場合、1回目（1ブロック目の格納領域1又は2ブロック目の格納領域9）のS347の処理でビット1のデータ「1」が転送指示ビットの値として出力され転送指示ありの判定となるが、2～8回目のS347の処理では、転送指示なしの判定となる。

【0822】

S348において、メインCPU101が、転送指示がないと判別したとき（S348

10

20

30

40

50

がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS351の処理を行う。

【0823】

一方、S348において、メインCPU101が、転送指示があると判別したとき(S348がYES判定の場合)、メインCPU101は、現在セットされている処理対象フラグテーブル内のアドレスに格納されている処理対象フラグデータ(当り要求フラグデータ又は入賞作動フラグデータ)を、指定された格納領域に転送(コピー)する(S349)。

【0824】

次いで、メインCPU101は、処理対象フラグテーブル内で参照するアドレスの更新処理(アドレスを1加算する処理)を行う(S350)。

10

【0825】

S350の処理後又はS348がNO判定の場合、メインCPU101は、処理対象フラグデータの格納先となる格納領域を指定するアドレスの更新処理(アドレスを1加算する処理)を行う(S351)。次いで、メインCPU101は、転送カウンタの値を1減算する(S352)。

【0826】

次いで、メインCPU101は、転送カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S353)。S353において、メインCPU101が、転送カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S353がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS347の処理に戻し、S347以降の処理を繰り返す。

20

【0827】

一方、S353において、メインCPU101が、転送カウンタの値が「0」であると判別したとき(S353がYES判定の場合)、メインCPU101は、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っているか否かを判別する(S354)。この処理では、メインCPU101は、現処理時点において、格納先チェックビット内に「1」が格納されているビットが残っているか否かを判別する。そして、メインCPU101は、格納先チェックビット内に「1」が格納されているビットが残っている場合、すなわち、処理対象となるブロックが存在する場合には、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていると判定する。

【0828】

30

S354において、メインCPU101が、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていると判別したとき(S354がYES判定の場合)、メインCPU101は、処理をS342の処理に戻し、S342以降の処理を繰り返す。一方、S354において、メインCPU101が、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていないと判別したとき(S354がNO判定の場合)、メインCPU101は、圧縮データ格納処理を終了し、処理を例えば図柄設定処理(図65参照)中のS331に移す。

【0829】

[引込優先順位格納処理]

次に、図67を参照して、メインフロー(図56参照)中のS212で行う引込優先順位格納処理について説明する。図67は、引込優先順位格納処理の手順を示すフローチャートである。

40

【0830】

まず、メインCPU101は、検索リール数に「3」をセットする(S621)。次いで、メインCPU101は、引込優先順位テーブル選択処理を行う(S622)。この処理では、内部当籤役及び作動ストップボタンに基づいて、引込優先順位テーブル(不図示)が選択される。

【0831】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位格納領域選択処理を行う(S623)。この処理では、検索対象のリールの引込優先順位データ格納領域が選択される。次いで、メインCPU101は、図柄チェック数(回数)として「20」をセットする(S624

50

）。

【0832】

次いで、メインCPU101は、図柄コード取得処理を行う（S625）。この処理では、図柄チェック数に対応した入賞作動フラグ格納領域及び図柄コード格納領域を参照して、図柄コードを取得する。なお、図柄コード取得処理の詳細については、後述の図68を参照しながら後で説明する。

【0833】

次いで、メインCPU101は、論理積演算処理を行う（S626）。この処理では、メインCPU101は、入賞作動フラグデータの生成処理を行う。論理積演算処理の詳細については、後述の図69を参照しながら後で説明する。

10

【0834】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位取得処理を行う（S627）。この処理では、メインCPU101は、入賞作動フラグ（入賞役）格納領域（図25参照）内においてビットが「1」にセットされており、かつ、当り要求フラグ格納領域でビットが「1」にされている役について、引込優先順位テーブル（不図示）を参照して、引込優先順位データを取得する。なお、引込優先順位取得処理の詳細については、後述の図70及び図71を参照しながら後で説明する。

【0835】

次いで、メインCPU101は、取得した引込優先順位データをメインRAM103内の引込優先順位データ格納領域（不図示）に格納する（S628）。この際、引込優先順位データは、各優先順位の値と、格納領域のビットとが対応するように引込優先順位データ格納領域に格納される。

20

【0836】

なお、引込優先順位データ格納領域には、メインリールの種類毎に優先順位データの格納領域が設けられる。各引込優先順位データ格納領域には、対応するメインリールの各図柄位置「0」～「19」に応じて決定された引込優先順位データが格納される。本実施形態では、この引込優先順位データ格納領域を参照することにより、停止テーブルに基づいて決定された滑り駒数の他に、より適切な滑り駒数が存在するか否かを検索する。

【0837】

引込優先順位データ格納領域に格納される優先順位引込データの内容は、引込優先順位データを決定する際に参照された引込優先順位テーブル内の引込優先順位テーブル番号の種類によって異なる。また、引込優先順位データは、その値が大きいほど優先順位が高いことを表す。引込優先順位データを参照することにより、メインリールの周面に配された各図柄間における優先順位の相対的な評価が可能となる。すなわち、引込優先順位データとして最も大きい値が決定されている図柄が最も優先順位の高い図柄となる。したがって、引込優先順位データは、メインリールの周面に配された各図柄間の順位を示すものともいえる。なお、引込優先順位データの値が等しい図柄が複数存在する場合には、優先順序テーブルが規定する優先順序に従って1つの図柄が決定される。

30

【0838】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位格納領域の更新処理を行う（S629）。この処理では、メインCPU101は、次のチェック図柄の引込優先順位データ格納領域をセットする。次いで、メインCPU101は、図柄チェック数を1減算する（S630）。次いで、メインCPU101は、図柄チェック数が「0」であるか否かを判別する（S631）。

40

【0839】

S631において、メインCPU101が、図柄チェック数が「0」でないと判別したとき（S631がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS625の処理に戻し、S625以降の処理を繰り返す。一方、S631において、メインCPU101が、図柄チェック数が「0」であると判別したとき（S631がYES判定の場合）、メインCPU101は、検索対象リールの変更処理を行う（S632）。

50

【 0 8 4 0 】

次いで、メインCPU101は、検索リール数を1減算する(S633)。次いで、メインCPU101は、検索リール数が「0」であるか否か、すなわち、全てのメインリールに対して上述した一連の処理が行われたか否かを判別する(S634)。

【 0 8 4 1 】

S634において、メインCPU101が、検索リール数が「0」でないと判別したとき(S634がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS622の処理に戻し、S622以降の処理を繰り返す。一方、S634において、メインCPU101が、検索リール数が「0」であると判別したとき(S634がYES判定の場合)、メインCPU101は、引込優先順位格納処理を終了し、処理をメインフロー(図56参照)のS213に移す。

【 0 8 4 2 】

[図柄コード取得処理]

次に、図68を参照して、引込優先順位格納処理(図67参照)中のS625で行う図柄コード取得処理について説明する。図68は、図柄コード取得処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 8 4 3 】

まず、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域のクリア処理を行う(S641)。この処理では、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域(図25参照)内の全ての格納領域に「0」をセットする。次いで、メインCPU101は、第1リール図柄配置テーブル(不図示)をセットする(S642)。

【 0 8 4 4 】

次いで、メインCPU101は、第1リール(左リール3L)の停止時であるか否かを判別する(S643)。

【 0 8 4 5 】

S643において、メインCPU101が、第1リール(左リール3L)の停止時であると判別したとき(S643がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS647の処理を行う。一方、S643において、メインCPU101が、第1リール(左リール3L)の停止時でないと判別したとき(S643がNO判定の場合)、メインCPU101は、第2リール図柄配置テーブル(不図示)をセットする(S644)。この処理では、S642の処理でセットされた第1リール図柄配置テーブルが、第2リール図柄配置テーブルで上書きされる。

【 0 8 4 6 】

次いで、メインCPU101は、第2リール(中リール3C)の停止時であるか否かを判別する(S645)。

【 0 8 4 7 】

S645において、メインCPU101が、第2リール(中リール3C)の停止時であると判別したとき(S645がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS647の処理を行う。一方、S645において、メインCPU101が、第2リール(中リール3C)の停止時でないと判別したとき(S645がNO判定の場合)、メインCPU101は、第3リール図柄配置テーブル(不図示)をセットする(S646)。この処理では、S644の処理でセットされた第2リール図柄配置テーブルが、第3リール図柄配置テーブルで上書きされる。

【 0 8 4 8 】

S646の処理後、又は、S643或いはS645がYES判定の場合、メインCPU101は、停止制御対象のリールに対する停止操作実行時の図柄チェック処理を行い、図柄チェック処理により取得された図柄に対応する図柄対応入賞作動テーブル(不図示)を取得する(S647)。図柄対応入賞作動テーブルは、停止制御対象のリールにおいて、対応する図柄が有効ライン上に停止したならば入賞となり得る入賞役(図柄組合せ)の種別を識別可能とするためのテーブルである。

10

20

30

40

50

【 0 8 4 9 】

次いで、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域をセットする（S648）。次いで、メインCPU101は、図66で説明した圧縮データ格納処理を行う（S649）。この処理では、メインCPU101は、主に、図柄対応入賞作動テーブルに格納された入賞可能な入賞作動フラグデータを、入賞作動フラグ格納領域内の対応する格納領域に転送（展開）する処理を行う。

【 0 8 5 0 】

例えば、第1リール（左リール3L）停止時であり、停止操作時に有効ライン上に位置する図柄が「blank」である場合には、入賞可能な図柄組合せ（コンビネーション）は、図19～図22に示すように、「S__XDリブ」、「S__パーリブ2」、「S__RT1移行リブ」、及び「S__特殊役1」である。

【 0 8 5 1 】

S649の処理後、メインCPU101は、圧縮データ格納処理により更新された入賞作動フラグ格納領域をセットし、図柄コード格納領域をセットし、入賞作動フラグ格納領域のデータ長（本実施形態では9バイト）をセットする（S650）。そして、S650の処理後、メインCPU101は、図柄コード取得処理を終了し、処理を引込優先順位格納処理（図67参照）のS626に移す。

【 0 8 5 2 】

[論理積演算処理]

次に、図69を参照して、例えば、引込優先順位格納処理（図67参照）中のS626で行う論理積演算処理について説明する。図69は、論理積演算処理の手順を示すフローチャートである。なお、図69に示す論理積演算処理は、引込優先順位格納処理（図67参照）中のS626だけでなく、後述の引込優先順位取得処理（後述の図70及び図71参照）中のS686においても実行される。

【 0 8 5 3 】

引込優先順位格納処理（図67参照）中のS626で実行される論理積演算処理において、論理積演算される2つのデータは、上述した図柄コード取得処理中のS650でセットされた入賞作動フラグ格納領域のデータ、及び、図柄コード格納領域のデータである。そして、前者のデータが後述の「論理積先データ」に対応し、後者のデータが後述の「論理積元データ」に対応する。また、この場合、上述した図柄コード取得処理中のS650でセットされたデータ長（9バイト）のバイト数「9」が後述の「論理積回数」に対応する。

【 0 8 5 4 】

一方、後述の引込優先順位取得処理（後述の図70及び図71参照）中のS686で実行される論理積演算処理において、論理積演算される2つのデータは、当り（引込）要求フラグ格納領域のデータ、及び、入賞作動フラグ格納領域のデータである。そして、前者のデータが後述の「論理積先データ」に対応し、後者のデータが後述の「論理積元データ」に対応する。また、この場合、後述のRT作動組み合わせ表示フラグのデータ長（1バイト）のバイト数「1」が後述の「論理積回数」に対応する。

【 0 8 5 5 】

まず、メインCPU101は、論理積元データ（例えば、図柄コード格納領域のデータ）を取得する（S661）。次いで、メインCPU101は、論理積元データと論理積先データ（例えば、入賞作動フラグ格納領域のデータ）との論理積演算を行い、その演算結果を論理積先データとして保存する（S662）。

【 0 8 5 6 】

次いで、メインCPU101は、取得する論理積元データのアドレスを1加算する（S663）。次いで、メインCPU101は、参照する論理積先データのアドレスを1加算する（S664）。

【 0 8 5 7 】

次いで、メインCPU101は、論理積回数を1減算する（S665）。次いで、メイ

10

20

30

40

50

ンCPU101は、論理積回数が「0」であるか否かを判別する（S666）。

【0858】

S666において、メインCPU101が、論理積回数が「0」でないと判別したとき（S666がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS661の処理に戻し、S661以降の処理を繰り返す。一方、S666において、メインCPU101が、論理積回数が「0」であると判別したとき（S666がYES判定の場合）、メインCPU101は、論理積演算処理を終了し、処理を例えば引込優先順位格納処理（図67参照）のS627に移す。

【0859】

[引込優先順位取得処理]

次に、図70及び図71を参照して、引込優先順位格納処理（図67参照）中のS627で行う引込優先順位取得処理について説明する。なお、図70及び図71は、引込優先順位取得処理の手順を示すフローチャートである。

【0860】

まず、メインCPU101は、右リール3R（特定の表示列）のチェック時であるか否かを判別する（S671）。

【0861】

S671において、メインCPU101が、右リール3Rのチェック時でないと判別したとき（S671がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS674の処理を行う。一方、S671において、メインCPU101が、右リール3Rのチェック時であると判別したとき（S671がYES判定の場合）、メインCPU101は、内部当籤役に係る図柄組合せ（入賞役）に「ANY役」（所定の図柄の組合せ）が含まれるか否かを判別する（S672）。なお、ここでいう「ANY役」とは、少なくとも右リール3Rの停止図柄に関係なく入賞が確定する役（少なくとも右リール3Rの停止図柄が任意の図柄である入賞役）のことをいう。もっとも、本実施形態では、「ANY役」は規定されていない。

【0862】

S672において、メインCPU101が、内部当籤役に係る図柄組合せに「ANY役」が含まれないと判別したとき（S672がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS674の処理を行う。一方、S672において、メインCPU101が、内部当籤役に係る図柄組合せに「ANY役」が含まれると判別したとき（S672がYES判定の場合）、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域内の「ANY役」に対応する格納領域をマスクする（S673）。具体的には、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域内の「ANY役」に対応するビットに「1」をセットする。なお、内部当籤役に係る図柄組合せ（入賞役）に「ANY役」を規定しない場合には、S671～S673の処理を不要としてもよい。また、「ANY役」が、左リール3L又は中リール3Cの停止図柄を任意の図柄として規定する場合には、左リール3L又は中リール3Cのチェック時である場合にもS672及びS673の処理を行うようにすればよい（後述のS681～S683の処理も同様）。

【0863】

S673の処理後、又は、S671或いはS672がNO判定の場合、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域（図25参照）のアドレスとして、その最後尾の格納領域のアドレスに「1」を加算したアドレスをセットし、停止禁止データをセットし、入賞作動フラグデータ長（入賞作動フラグ格納領域のデータ長：本実施形態では、9バイト）をセットする（S674）。次いで、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値、及び、ストップボタン作動状態を取得する（S675）。なお、ストップボタン作動カウンタは、停止操作が検出されているストップボタンの数を管理するためのカウンタである。また、ストップボタン作動状態は、作動ストップボタン格納領域（図28参照）を参照することにより取得される。

【0864】

次いで、メインCPU101は、セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスを1減算（-1更新）する（S676）。次いで、メインCPU101は、セットされている入賞作動フラグ格納領域とそれに対応する当り要求フラグ格納領域（図25参照）とから当り要求フラグデータを生成し、該生成された当り要求フラグデータに基づいて禁止入賞作動位置を生成する（S677）。

【0865】

次いで、メインCPU101は、停止操作位置が禁止入賞作動位置であるか否かを判別する（S678）。

【0866】

S678において、メインCPU101が、停止操作位置が禁止入賞作動位置でないと判別したとき（S678がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS684の処理を行う。一方、S678において、メインCPU101が、停止操作位置が禁止入賞作動位置であると判別したとき（S678がYES判定の場合）、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値であるか否かを判別する（S679）。

10

【0867】

S679において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値であると判別したとき（S679がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS705の処理を行う。一方、S679において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値でないと判別したとき（S679がNO判定の場合）、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値であるか否かを判別する（S680）。

20

【0868】

S680において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値でないと判別したとき（S680がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS684の処理を行う。一方、S680において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値であると判別したとき（S680がYES判定の場合）、メインCPU101は、右リール3Rの停止後であるか否かを判別する（S681）。

【0869】

S681において、メインCPU101が、右リール3Rの停止後であると判別したとき（S681がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS684の処理を行う。一方、S681において、メインCPU101が、右リール3Rの停止後でないと判別したとき（S681がNO判定の場合）、メインCPU101は、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグでないか否か（内部当籤役に係る図柄組合せ（入賞役）に「ANY役」が含まれないか否か）を判別する（S682）。

30

【0870】

S682において、メインCPU101が、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグでないと判別したとき（S682がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS684の処理を行う。一方、S682において、メインCPU101が、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグであると判別したとき（S682がNO判定の場合）、メインCPU101は、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時であるか否かを判別する（S683）。

40

【0871】

S683において、メインCPU101が、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時であると判別したとき（S683がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS705の処理を行う。

【0872】

一方、S683において、メインCPU101が、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時でないと判別したとき（S683がNO判定の場合）、S67

50

8 或いは S 6 8 0 が N O 判定の場合、又は、S 6 8 1 或いは S 6 8 2 が Y E S 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、入賞作動フラグデータ長を 1 減算する (S 6 8 4)。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、入賞作動フラグデータ長が「 0 」であるか否かを判別する (S 6 8 5)。

【 0 8 7 3 】

S 6 8 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、入賞作動フラグデータ長が「 0 」でないと判別したとき (S 6 8 5 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、処理を S 6 7 6 の処理に戻し、S 6 7 6 以降の処理を繰り返す。

【 0 8 7 4 】

一方、S 6 8 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、入賞作動フラグデータ長が「 0 」であると判別したとき (S 6 8 5 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、停止制御用引込要求フラグ設定処理を行う (S 6 8 6)。この処理では、例えば、メイン C P U 1 0 1 は、図 6 9 で説明した論理積演算処理を行う。なお、S 6 8 6 の処理内で実行される論理積演算処理では、上述のように、当り (引込) 要求フラグ格納領域のデータが「論理積先データ」にセットされ、入賞作動フラグ格納領域のデータが「論理積元データ」にセットされ、「論理積回数」には、R T 作動組み合わせ表示フラグのデータ長 (1 バイト) のバイト数「 1 」がセットされる。R T 作動組み合わせ表示フラグは、入賞作動フラグ格納領域において、R T 移行に係る図柄組合せが規定された格納領域のことであり、本実施形態では、図 2 5 に示すように格納領域 1 のみとなる。

【 0 8 7 5 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、引込優先順位テーブルアドレス格納領域を参照して、引込優先順位テーブルを取得する (S 6 8 7)。この処理では、現在セットされているアドレスに、引込優先順位データの初期値「 1 (0 0 1 H) 」が設定されるとともに、いずれかの引込優先順位テーブルが取得される。

【 0 8 7 6 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコード (0 0 0 H) であるか否かを判別する (S 6 8 8)。

【 0 8 7 7 】

S 6 8 8 において、メイン C P U 1 0 1 が、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコードであると判別したとき (S 6 8 8 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、後述の S 7 0 5 の処理を行う。一方、S 6 8 8 において、メイン C P U 1 0 1 が、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコードでないと判別したとき (S 6 8 8 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、入賞作動フラグ格納領域をセットする (S 6 8 9)。

【 0 8 7 8 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルに基づいて、引込優先順位データを取得する (S 6 9 0)。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、引込優先順位テーブルのブロックカウンタをセットする (S 6 9 1)。

【 0 8 7 9 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、引込優先順位テーブルのチェック回数をセットし、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを 1 加算 (+ 1 更新) する (S 6 9 2)。

【 0 8 8 0 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、更新された引込優先順位テーブルのアドレスに基づいて、チェックデータを取得し、チェックデータからチェックビットを抽出する (S 6 9 3)。

【 0 8 8 1 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、抽出されたチェックビットの値が「 1 」であるか否か

10

20

30

40

50

を判別する (S 6 9 4)。

【0882】

S 6 9 4において、メインCPU101が、抽出されたチェックビットの値が「1」でないと判別したとき (S 6 9 4がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 6 9 9の処理を行う。一方、S 6 9 4において、メインCPU101が、抽出されたチェックビットの値が「1」とであると判別したとき (S 6 9 4がYES判定の場合)、メインCPU101は、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを1加算 (+ 1更新) し、更新後のアドレスに基づいて、引込優先順位テーブルから判定データを取得する (S 6 9 5)。

【0883】

次いで、メインCPU101は、S 6 9 5で取得した判定データに基づいて、現在取得されている入賞作動フラグデータが判定対象であるか否かを判別する (S 6 9 6)。この処理では、メインCPU101は、現在取得されている入賞作動フラグデータと、判定データとを比較し、前者が後者に対応するものである否かを判定し、前者が後者に対応するものである場合には、現在取得されている入賞作動フラグデータが判定対象であると判定する。

【0884】

S 6 9 6において、メインCPU101が、入賞作動フラグデータが判定対象でないと判別したとき (S 6 9 6がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 6 9 9の処理を行う。一方、S 6 9 6において、メインCPU101が、入賞作動フラグデータが判定対象であると判別したとき (S 6 9 6がYES判定の場合)、メインCPU101は、引込優先順位データの更新処理を行う (S 6 9 7)。この処理では、メインCPU101は、S 6 9 7で取得した判定データに対応付けられた引込優先順位データで、現在セットされている引込優先順位データを更新 (上書き) する。

【0885】

次いで、メインCPU101は、チェックデータの更新処理を行う (S 6 9 8)。この処理では、メインCPU101は、チェックデータを1ビットだけ右方向 (ビット7からビット0に向かう方向) にシフトする。なお、この処理において、シフト後のチェックデータのビット7には、「0」がセットされる。

【0886】

S 6 9 8の処理後、又は、S 6 9 4或いはS 6 9 6がNO判定の場合、メインCPU101は、チェックデータにチェック対象のビット (「1」がセットされているビット) があるか否かを判別する (S 6 9 9)。

【0887】

S 6 9 9において、メインCPU101が、チェックデータにチェック対象のビットがないと判別したとき (S 6 9 9がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 7 0 2の処理を行う。一方、S 6 9 9において、メインCPU101が、チェックデータにチェック対象のビットがあると判別したとき (S 6 9 9がYES判定の場合)、メインCPU101は、チェックする入賞作動フラグ格納領域のアドレスを1加算 (+ 1更新) し、チェック回数を1減算する (S 7 0 0)。

【0888】

次いで、メインCPU101は、チェック回数が「0」であるか否かを判別する (S 7 0 1)。S 7 0 1において、メインCPU101が、チェック回数が「0」でないと判別したとき (S 7 0 1がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS 6 9 8の処理に戻し、S 6 9 8以降の処理を繰り返す。

【0889】

一方、S 7 0 1において、メインCPU101が、チェック回数が「0」とであると判別したとき (S 7 0 1がYES判定の場合)、メインCPU101は、現在参照している入賞作動フラグ格納領域のアドレスにチェック回数を加算して入賞作動フラグ格納領域のアドレスを更新し、ブロックカウンタの値を1減算する (S 7 0 2)。次いで、メインCPU

10

20

30

40

50

U 1 0 1 は、ブロックカウンタの値が「 0 」であるか否かを判別する (S 7 0 3)。

【 0 8 9 0 】

S 7 0 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、ブロックカウンタの値が「 0 」でないと判別したとき (S 7 0 3 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、処理を S 6 9 2 の処理に戻し、S 6 9 2 以降の処理を繰り返す。

【 0 8 9 1 】

一方、S 7 0 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、ブロックカウンタの値が「 0 」であると判別したとき (S 7 0 3 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを 1 加算 (+ 1 更新) する (S 7 0 4)。そして、S 7 0 4 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、処理を S 6 8 8 の処理に戻し、S 6 8 8 以降の処理を繰り返す。

10

【 0 8 9 2 】

ここで再度、S 6 7 9、S 6 8 3 又は S 6 8 8 の処理に戻って、S 6 7 9、S 6 8 3 又は S 6 8 8 が Y E S 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、この時点でセットされている引込順位データを、最終的な引込優先順位データとしてセットする (S 7 0 5)。なお、S 6 7 9 又は S 6 8 3 が Y E S 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、最終的な引込優先順位データとして「 0 (0 0 H) 」をセットする。この場合、引込優先順位データ「 0 (0 0 H) 」にはエンドコードが割り付けられているので、引込データ無し (停止禁止) がセットされる。そして、S 7 0 5 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、引込優先順位取得処理を終了し、処理を引込優先順位格納処理 (図 6 7 参照) の S 6 2 8 に移す。

20

【 0 8 9 3 】

[リール停止制御処理]

次に、図 7 2 を参照して、メインフロー (図 5 6 参照) 中の S 2 1 3 で行うリール停止制御処理について説明する。なお、図 7 2 は、リール停止制御処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 8 9 4 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、リール停止可能信号 O F F 処理を行う (S 7 1 1)。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、主に、リール停止可能信号 O F F データのポート出力処理を行う。また、この処理は、メイン R A M 1 0 3 の規定外作業領域を使用して行われる。

30

【 0 8 9 5 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、全リールの回転速度が所定の一定速度に到達したか否か (「定速」になったか否か) を判別する (S 7 1 2)。S 7 1 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、全リールの回転速度が「定速」になっていないと判別したとき (S 7 1 2 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、S 7 1 2 の処理を繰り返す。

【 0 8 9 6 】

一方、S 7 1 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、全リールの回転速度が「定速」になったと判別したとき (S 7 1 2 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、リール停止可能信号 O N 処理を行う (S 7 1 3)。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、主に、リール停止可能信号 O N データのポート出力処理を行う。また、この処理は、メイン R A M 1 0 3 の規定外作業領域を使用して行われる。

40

【 0 8 9 7 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、有効なストップボタンが押されたか否かを判別する (S 7 1 4)。

【 0 8 9 8 】

S 7 1 4 において、メイン C P U 1 0 1 が、有効なストップボタンが押されていないと判別したとき (S 7 1 4 が N O 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、処理を S 7 1 3 の処理に戻し、S 7 1 3 以降の処理を繰り返す。一方、S 7 1 4 において、メイン C P U 1 0 1 が、有効なストップボタンが押されたと判別したとき (S 7 1 4 が Y E S 判定の場合)、メイン C P U 1 0 1 は、作動ストップボタン格納領域 (図 2 8 参照) を更新し、スト

50

ストップボタン未作動カウンタの値を1減算する(S715)。

【0899】

次いで、メインCPU101は、作動ストップボタンから検索対象リールを決定する(S716)。また、この処理では、検索対象リールのリール制御管理情報が格納される回胴制御データ格納領域のアドレス(先頭アドレス)セット処理も行われる。

【0900】

次いで、メインCPU101は、リール停止可能信号OFF処理を行う(S717)。この処理は、上記S711と同様に、メインRAM103の規定外作業領域を使用して行われる。次いで、メインCPU101は、図柄カウンタの値に基づいて停止開始位置をメインRAM103に格納する(S718)。

10

【0901】

次いで、メインCPU101は、リール停止選択処理を行う(S719)。詳細な説明は省略するが、この処理では、メインCPU101は、滑り駒数の選択処理を行う。

【0902】

次いで、メインCPU101は、停止開始位置と、S719で決定された滑り駒数とに基づいて停止予定位置を決定し、該決定した停止予定位置をメインRAM103に格納する(S720)。この処理では、メインCPU101は、停止開始位置に滑り駒数を加算し、その加算結果を停止予定位置とする。

【0903】

次いで、メインCPU101は、図柄コード格納処理を実行する(S721)。この処理では、停止予定位置に対応する図柄コードが図柄コード格納領域に格納される。次いで、メインCPU101は、制御対象のリールが最終停止(第3停止)のリールであるか否かを判別する(S722)。この処理では、メインCPU101は、ストップボタン未作動カウンタの値に基づいて、制御対象のリールが最終停止(第3停止)のリールであるか否かを判別し、ストップボタン未作動カウンタの値が「0」であるときには、制御対象のリールが最終停止のリールであると判定する。

20

【0904】

S722において、メインCPU101が、制御対象のリールが最終停止のリールでないと判別したとき(S722がNO判定の場合)、メインCPU101は、制御変更処理を行う(S723)。この処理では、特定の停止位置にあった場合に、リールの停止に用いる停止情報群が更新される。次いで、メインCPU101は、図67で説明した引込優先順位格納処理を行う(S724)。

30

【0905】

次いで、メインCPU101は、停止間隔残時間待機処理を行う(S725)。この処理では、メインCPU101は、予め設定された所定のリール停止間隔時間が経過するまで、待機処理を行う。そして、S725の処理後、メインCPU101は、処理をS711の処理に戻し、S711以降の処理を繰り返す。

【0906】

ここで再度、S722の処理に戻って、S722において、メインCPU101が、制御対象のリールが最終停止のリールであると判別したとき(S722がYES判定の場合)、メインCPU101は、全リールの励磁が停止状態であるか否かを判別する(S726)。S726において、メインCPU101が、全リールの励磁が停止状態でないと判別したとき(S726がNO判定の場合)、メインCPU101は、S726の処理を繰り返す。

40

【0907】

一方、S726において、メインCPU101が、全リールの励磁が停止状態であると判別したとき(S726がYES判定の場合)、メインCPU101は、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままである(ストップボタンが放されていない)か否かを判別する(S727)。S727において、メインCPU101が、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままであると判別したとき(S727がYES判定の場合

50

）、メインCPU101は、S727の処理を繰り返す。一方、S727において、メインCPU101が、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままでないと判別したとき（S727がNO判定の場合）、メインCPU101は、リール停止制御処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）のS214に移す。

【0908】

[入賞検索処理]

次に、図73を参照して、メインフロー（図56参照）中のS214で行う入賞検索処理について説明する。なお、図73は、入賞検索処理の手順を示すフローチャートである。

【0909】

まず、メインCPU101は、図柄コード格納領域（図30参照）に格納された各格納領域のデータを、入賞作動フラグ格納領域（図25参照）の対応する格納領域に転送して保存する（S761）。そして、この処理終了時点では、DEレジスタに入賞作動フラグ格納領域の最後尾のアドレスがセットされる。

【0910】

次いで、メインCPU101は、入賞役（図柄組合せ）の払出枚数（図19～図22参照）を規定する払出枚数データテーブル（不図示）のアドレスをHLレジスタにセットする（S762）。次いで、メインCPU101は、払出枚数テーブル数（例えば、本実施形態では「4」）を入賞検索カウンタの初期値とし、該初期値をBレジスタにセットする（S763）。

【0911】

次いで、メインCPU101は、HLレジスタにセットされたアドレスに基づいて、メダルの払出枚数（本実施形態では、1枚、2枚、5枚及び8枚のいずれか）のデータをCレジスタにセットし、判定対象データをAレジスタにセットし、HLレジスタにセットされているアドレスに「2」を加算（+2更新）する（S764）。なお、払出枚数データテーブルにおいて、メダルの払出枚数のデータは、例えば「払出枚数（1, 2, 5又は8）×2+0」と規定される。また、以下では、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数のデータ「払出枚数（1, 2, 5又は8）×2+0」内のデータ「0」を「判定ビット」という。この判定ビットは入賞検索の判定対象ブロックであるか否かを示す情報である。

【0912】

次いで、メインCPU101は、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数のデータから判定ビットの値を抽出する（S765）。次いで、メインCPU101は、抽出した判定ビットの値に基づいて、判定対象ブロックであるか否かを判別する（S766）。この処理において、メインCPU101は、抽出した判定ビットの値が「1」である場合に、判定対象ブロックであると判定する。なお、本実施形態では、メダルの払出枚数にかかわらず、判定ビットの値は常に「0」が規定されるようにしているため、S766の処理は必ずNO判定となる。

【0913】

S766において、メインCPU101が、判定対象ブロックでないと判別したとき（S766がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS768の処理を行う。一方、S766において、メインCPU101が、判定対象ブロックであると判別したとき（S766がYES判定の場合）、メインCPU101は、DEレジスタにセットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスを1減算（-1更新）する（S767）。

【0914】

S767の処理後又はS766がNO判定の場合、メインCPU101は、DEレジスタにセットされた入賞作動フラグ格納領域のアドレスで指定される格納領域のデータを判定データとして抽出する（S768）。

【0915】

次いで、メインCPU101は、S764でAレジスタにセットされた判定対象データ

10

20

30

40

50

と、S 7 6 8で抽出した判定データとに基づいて、判定の結果が入賞であるか否かを判別する(S 7 6 9)。この処理において、メインCPU 1 0 1は、S 7 6 4でAレジスタにセットされた判定対象データが、S 7 6 8で抽出した判定データと同じであれば、判定の結果が入賞であると判定する。

【0 9 1 6】

S 7 6 9において、メインCPU 1 0 1が、判定の結果が入賞でないと判別したとき(S 7 6 9がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、後述のS 7 7 6の処理を行う。一方、S 7 6 9において、メインCPU 1 0 1が、判定の結果が入賞であると判別したとき(S 7 6 9がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、現遊技が3枚遊技(メダルのベット枚数が3枚である遊技)であるか否かを判別する(S 7 7 0)。

10

【0 9 1 7】

S 7 7 0において、メインCPU 1 0 1が、現遊技が3枚遊技であると判別したとき(S 7 7 0がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、後述のS 7 7 2の処理を行う。一方、S 7 7 0において、メインCPU 1 0 1が、現遊技が3枚遊技でないと判別したとき(S 7 7 0がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、2枚遊技(メダルのベット枚数が2枚である遊技)の払出枚数をCレジスタにセットする(S 7 7 1)。なお、本実施形態では、2枚遊技がないため、S 7 7 0及びS 7 7 1の処理は不要となる。

【0 9 1 8】

S 7 7 1の処理後又はS 7 7 0がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、払出枚数の更新処理を行う(S 7 7 2)。具体的には、メインCPU 1 0 1は、現在の入賞枚数カウンタの値に、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数を加算し、加算後の値を払出枚数にセットする。

20

【0 9 1 9】

次いで、メインCPU 1 0 1は、払出枚数の値が最大払出枚数「15」未満であるか否かを判別する(S 7 7 3)。

【0 9 2 0】

S 7 7 3において、メインCPU 1 0 1が、払出枚数の値が最大払出枚数「15」未満であると判別したとき(S 7 7 3がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、後述のS 7 7 5の処理を行う。一方、S 7 7 3において、メインCPU 1 0 1が、払出枚数の値が最大払出枚数「15」未満でないと判別したとき(S 7 7 3がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、払出枚数に最大払出枚数「15」をセットする(S 7 7 4)。

30

【0 9 2 1】

S 7 7 4の処理後又はS 7 7 3がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、払出枚数を入賞枚数カウンタに保存する(S 7 7 5)。

【0 9 2 2】

S 7 7 5の処理後又はS 7 6 9がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、他の入賞があるか否かを判別する(S 7 7 6)。S 7 7 6において、メインCPU 1 0 1が、他の入賞があると判別したとき(S 7 7 6がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、処理をS 7 6 9の処理に戻し、S 7 6 9以降の処理を繰り返す。

【0 9 2 3】

一方、S 7 7 6において、メインCPU 1 0 1が、他の入賞がないと判別したとき(S 7 7 6がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、入賞検索カウンタの値を1減算(-1更新)する(S 7 7 7)。なお、例えば、有効ラインが1本である場合には、複数の小役が重複して入賞することがないので、S 7 7 6の判定処理は必ずNO判定となる。

40

【0 9 2 4】

次いで、メインCPU 1 0 1は、入賞検索カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S 7 7 8)。

【0 9 2 5】

S 7 7 8において、メインCPU 1 0 1が、入賞検索カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S 7 7 8がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、処理をS 7 6 4の処

50

理に戻し、S 7 6 4 以降の処理を繰り返す。一方、S 7 7 8 において、メインCPU 1 0 1 が、入賞検索カウンタの値が「0」であると判別したとき（S 7 7 8 がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1 は、入賞検索処理を終了し、処理をメインフロー（図5 6 参照）中のS 2 1 5 の処理に移す。

【0 9 2 6】

〔イリーガルヒットチェック処理〕

次に、図7 4 を参照して、メインフロー（図5 6 参照）中のS 2 1 5 で行うイリーガルヒットチェック処理について説明する。なお、図7 4 は、イリーガルヒットチェック処理の手順を示すフローチャートである。なお、イリーガルヒットとは、内部抽籤処理（図6 4 参照）で抽籤され、図柄設定処理（図6 5 参照）で当籤番号格納領域に格納された特賞当籤番号及び小役当籤番号（内部当籤役）に基づいて、左リール3 L、中リール3 C 及び右リール3 R が、成立しえない図柄の組合せで有効ライン上に停止（図柄組合せ不成立）したことを示す用語である。

【0 9 2 7】

まず、メインCPU 1 0 1 は、入賞作動フラグ格納領域（図2 5 参照）のアドレスをセットする（S 7 8 1）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、入賞作動フラグ格納領域のサイズ（バイト数、本実施形態では「9」）を、チェックカウンタの値にセットする（S 7 8 2）。

【0 9 2 8】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、現在セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスに基づいて、該アドレスに対応する当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）内の格納領域に格納された内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）を取得する（S 7 8 3）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、現在セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスに格納された入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）と、内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）とを合成する（S 7 8 4）。

【0 9 2 9】

なお、この合成処理では、まず、メインCPU 1 0 1 は、入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）と内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）との排他的論理和を求める。次いで、メインCPU 1 0 1 は、求められた排他的論理和の算出結果と入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）との論理積を求め、論理積の算出結果を合成結果とする。なお、イリーガルヒットエラーが発生していない場合、この合成結果の値は「0」となる。

【0 9 3 0】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、S 7 8 4 の合成処理の結果に基づいて、イリーガルヒットエラーが発生しているか否かを判別する（S 7 8 5）。

【0 9 3 1】

S 7 8 5 において、メインCPU 1 0 1 が、イリーガルヒットエラーが発生していないと判別したとき（S 7 8 5 がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1 は、参照する入賞作動フラグ格納領域のアドレスを+ 1 更新する（S 7 8 6）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、チェックカウンタの値を1 減算する（S 7 8 7）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、チェックカウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S 7 8 8）。

【0 9 3 2】

S 7 8 8 において、メインCPU 1 0 1 が、チェックカウンタの値が「0」でないと判別したとき（S 7 8 8 がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1 は、処理をS 7 8 3 の処理に戻し、S 7 8 3 以降の処理を繰り返す。一方、S 7 8 8 において、メインCPU 1 0 1 が、チェックカウンタの値が「0」であると判別したとき（S 7 8 8 がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1 は、イリーガルヒットチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図5 6 参照）中のS 2 1 6 の処理に移す。

【0 9 3 3】

ここで再度、S 7 8 5 の処理に戻って、S 7 8 5 において、メインCPU 1 0 1 が、イリーガルヒットエラーが発生していると判別したとき（S 7 8 5 がYES判定の場合）、

10

20

30

40

50

メインCPU101は、図62で説明したエラー処理を行う(S789)。この処理により、情報表示器6に含まれる2桁の7セグLED(払出枚数表示用及びエラー表示用兼用)に、イリーガルヒットエラーの発生を示す2文字「EE」をエラー情報として表示するためのエラー表示データが出力される。なお、イリーガルヒットエラーの発生状態(エラー状態)は、リセットスイッチ76(図6参照)を押下することにより解除される。

【0934】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値及び当り要求フラグ格納領域のデータをクリアする(S790)。そして、S790の処理後、メインCPU101は、イリーガルヒットチェック処理を終了し、処理をメインフロー(図56参照)中のS216の処理に移す。

10

【0935】

なお、本実施形態では、図25に示すように、入賞作動フラグ格納領域(表示役格納領域)の構成が当り要求フラグ格納領域(内部当籤役格納領域)のそれと同じであるので、入賞作動フラグ格納領域の役と内部当籤役との合成処理時にメインRAM103に配置される当り要求フラグ格納領域と入賞作動フラグ格納領域とを同一構成にすることができる。それゆえ、本実施形態のイリーガルヒットチェック処理におけるS784の演算結果(入賞役のデータと内部当籤役のデータとを合成結果)は、入賞役のデータと内部当籤役のデータとを単純に論理積(例えば、「AND」命令で実行する)することにより求められる。その結果、本実施形態では、イリーガルヒットチェック処理を効率化及び簡略化することができ、主制御プログラムの空き容量を確保する(増やす)ことができ、増えた空き容量を使用して遊技性を高めることが可能になる。

20

【0936】

[入賞チェック・メダル払出処理]

次に、図75を参照して、メインフロー(図56参照)中のS216で行う入賞チェック・メダル払出処理について説明する。なお、図75は、入賞チェック・メダル払出処理の手順を示すフローチャートである。

【0937】

まず、メインCPU101は、入賞作動コマンド生成処理を行う(S801)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する入賞作動コマンドに含まれる、種別データおよび各種通信パラメータを生成する。なお、入賞作動コマンドは、入賞作動フラグ(表示役)等を特定するパラメータを含んで構成される。

30

【0938】

次いで、メインCPU101は、図50で説明した通信データ格納処理を行う(S802)。この処理により、入賞作動コマンドデータがメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存される。なお、入賞作動コマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。

【0939】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S803)。S803において、メインCPU101が、入賞枚数カウンタの値が「0」であると判別したとき(S803がYES判定の場合)、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー(図56参照)中のS217の処理に移す。

40

【0940】

一方、S803において、メインCPU101が、入賞枚数カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S803がNO判定の場合)、メインCPU101は、メダルのクレジット枚数(貯留枚数)がその上限枚数(本実施形態では50枚)以上であるか否かを判別する(S804)。

【0941】

S804において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数がその上限枚数以上でないと判別したとき(S804がNO判定の場合)、メインCPU101は、クレジ

50

ットカウンタの値に「1」を加算（+1更新）する（S805）。加算されたクレジットカウンタの値は、情報表示器6に含まれる貯留枚数表示用の2桁の7セグLED（不図示）により表示される。次いで、メインCPU101は、メダル払出枚数チェック処理を行う（S806）。なお、メダル払出枚数チェック処理の詳細については、後述の図76を参照しながら後で説明する。

【0942】

次いで、メインCPU101は、メダルの払い出しが終了したか否かを判別する（S807）。S807において、メインCPU101が、メダルの払い出しが終了したと判別したとき（S807がYES判定の場合）、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）中のS217の処理に移す。

10

【0943】

一方、S807において、メインCPU101が、メダルの払い出しが終了していないと判別したとき（S807がNO判定の場合）、メインCPU101は、払出間隔待機処理を行う（S808）。この処理では、メインCPU101は、予め設定されたメダル払出間隔時間（本実施形態では60.33msc：後述の図79で説明する割込処理（1.1172msc周期）の54周期分）が経過するまでウェイトする。そして、S808の処理後、メインCPU101は、処理をS803の処理に戻し、S803以降の処理を繰り返す。

【0944】

ここで再度、S804の処理に戻って、S804において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数がその上限枚数（50枚）以上であると判別したとき（S804がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダルの払出処理を行う（S809）。この処理により、クレジット枚数として貯留されなかった分のメダルが払い出される。なお、S809の処理においても、メダルの払い出しが終了するまで、メダルが1枚払い出される度にS806～806の処理が繰り返されるようにすればよい。そして、S809の処理後、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）中のS217の処理に移す。

20

【0945】

[メダル払出枚数チェック処理]

次に、図76を参照して、入賞チェック・メダル払出処理（図75参照）中のS806で行うメダル払出枚数チェック処理について説明する。なお、図76は、メダル払出枚数チェック処理の手順を示すフローチャートである。

30

【0946】

まず、メインCPU101は、メダルOUTカウンタの値に「1」を加算（+1更新）する（S811）。なお、メダルOUTカウンタは、メダルの払出回数を計数するためのカウンタである。次いで、メインCPU101は、払出枚数カウンタの値に「1」を加算（+1更新）する（S812）。なお、払出枚数カウンタは、メダルの払出枚数を計数するためのカウンタである。

【0947】

次いで、メインCPU101は、払出枚数7SEG表示処理を行う（S813）。この処理では、メインCPU101は、払出枚数カウンタの値を、情報表示器6に含まれる払出枚数表示用の2桁の7セグLED（不図示）により表示させる制御処理を行う。

40

【0948】

次いで、メインCPU101は、役連終了枚数カウンタの更新処理を行う（S814）。なお、役連終了枚数カウンタは、ボーナス役が入賞する（コンビネーション「C__赤同色BB」、「C__青同色BB」、「C__赤異色BB」又は「C__青異色BB」の図柄組合せが揃う）ことで、ボーナス遊技が開始する時にボーナス遊技で払い出すことが可能な払出枚数がセットされ（後述の図77参照）、ボーナス遊技中のメダルの払出枚数の残り枚数を計数し、ボーナス遊技の終了を判断する（後述の図77のS822参照）ためのカウンタである。この処理では、メインCPU101は、役連終了枚数カウンタの値とその下

50

限值「0」とを比較し、役連終了枚数カウンタの値が下限値「0」より大きい場合には、役連終了枚数カウンタの値を1減算（-1更新）し、役連終了枚数カウンタの値が下限値「0」以下である場合には、役連終了枚数カウンタの値を「0」に保持する。なお、役連終了枚数カウンタにセットされる払出枚数は、実際に遊技者に払い出される枚数となる訳ではない、例えば、役連終了枚数カウンタに240枚がセットされ、役連終了枚数カウンタが240となった状態で、15枚のメダルが払い出された場合、実際の払い出される払出枚数は255枚となる。役連終了枚数カウンタは240枚払い出された後「0」となり、以降、役連終了枚数カウンタの値の下限値「0」が維持される。

【0949】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値を1減算（-1更新）する（S815）。 10

【0950】

次いで、メインCPU101は、クレジット情報コマンド生成処理を行う（S816）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するクレジット情報コマンドに含まれる、種別データ及び各種通信パラメータを生成する。なお、クレジット情報コマンドは、メダルのクレジット枚数を特定するパラメータを含んで構成される。

【0951】

次いで、メインCPU101は、図50で説明した通信データ格納処理を行う（S817）。この処理により、クレジット情報コマンドデータがメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存される。なお、クレジット情報コマンドは、後述の図80で説明する通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。そして、S817の処理後、メインCPU101は、メダル払出枚数チェック処理を終了し、処理を入賞チェック・メダル払出処理（図75参照）中のS807の処理に移す。 20

【0952】

[BBチェック処理]

次に、図77を参照して、メインフロー（図56参照）中のS217で行うBBチェック処理について説明する。なお、図77は、BBチェック処理の手順を示すフローチャートである。

【0953】

まず、メインCPU101は、現在の遊技状態がボーナス状態であるか否かを判別する（S821）。S821において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態でないと判別したとき（S821がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS831の処理を行う。 30

【0954】

一方、S821において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態であると判別したとき（S821がYES判定の場合）、メインCPU101は、役連終了枚数カウンタの値が「0」以下であるか否かを判別する（S822）。S822において、メインCPU101が、役連終了枚数カウンタの値が「0」以下でないと判別したとき（S822がNO判定の場合）、メインCPU101は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）中のS218の処理に移す。 40

【0955】

一方、S822において、メインCPU101が、役連終了枚数カウンタの値が「0」以下であると判別したとき（S822がYES判定の場合）、メインCPU101は、ボーナス終了時処理を行う（S823）。この処理では、メインCPU101は、ボーナス状態中の各種情報をクリアする。次いで、メインCPU101は、RT4状態フラグをオン状態にセットする（S824）。この処理では、メインCPU101は、ボーナス状態終了後のRT状態をRT4状態とする。そして、S824の処理後、メインCPU101は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図56参照）中のS218の処理に移す。

【0956】

ここで再度、S 8 2 1 の処理に戻って、S 8 2 1 が N O 判定の場合、メイン C P U 1 0 1 は、B B 役に係る図柄組合せ（コンビネーション「C __ 赤同色 B B」、「C __ 青同色 B B」、「C __ 赤異色 B B」又は「C __ 青異色 B B」の図柄組合せ）が表示されたか否かを判別する（S 8 2 5）。S 8 2 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、B B 役に係る図柄組合せが表示されなかったと判別したとき（S 8 2 5 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、B B チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 8 の処理に移す。

【 0 9 5 7 】

一方、S 8 2 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、B B 役に係る図柄組合せが表示されたと判別したとき（S 8 2 5 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、ボーナス作動時処理を行う（S 8 2 6）。この処理では、次遊技の遊技状態にボーナス状態をセットするなどのボーナスの作動開始に必要な各種処理を行う。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、役連終了枚数カウンタの値に所定値（ボーナス終了契機となる払出枚数：本実施形態では、B B 1 及び B B 2 において「2 4 0」、B B 3 及び B B 4 において「1 6 5」）をセットする（S 8 2 7）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、R T 5 状態フラグをオフ状態にセットする（S 8 2 8）。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、ボーナス状態開始前の R T 状態をクリアする。そして、S 8 2 8 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、B B チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 8 の処理に移す。

【 0 9 5 8 】

[R T チェック処理]

次に、図 7 8 を参照して、メインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 8 で行う R T チェック処理について説明する。なお、図 7 8 は、R T チェック処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 9 5 9 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、現在の遊技状態がボーナス状態中であるか否かを判別する（S 8 3 1）。S 8 3 1 において、メイン C P U 1 0 1 が、現在の遊技状態がボーナス状態中であると判別したとき（S 8 3 1 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 0 】

一方、S 8 3 1 において、メイン C P U 1 0 1 が、現在の遊技状態がボーナス状態中ではないと判別したとき（S 8 3 1 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T 状態が R T 5 状態（フラグ間状態）であるか否かを判別する（S 8 3 2）。S 8 3 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 状態が R T 5 状態であると判別したとき（S 8 3 2 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 1 】

一方、S 8 3 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 状態が R T 5 状態でないと判別したとき（S 8 3 2 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T 状態が R T 3 状態であるか否かを判別する（S 8 3 3）。S 8 3 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 状態が R T 3 状態でないと判別したとき（S 8 3 3 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、S 8 3 7 の処理に移す。

【 0 9 6 2 】

一方、S 8 3 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 状態が R T 3 状態であると判別したとき（S 8 3 3 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T 遊技数カウンタを 1 減算する（S 8 3 4）。すなわち、メイン C P U 1 0 1 は、R T 3 状態の遊技期間を管理する。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、R T 遊技数カウンタは 0 となったか否かを判別する（S 8 3 5）。S 8 3 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 遊技数カウンタは 0 となっていないと判別したとき（S 8 3 5 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 9 の処理に

移す。

【 0 9 6 3 】

一方、S 8 3 5 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 遊技数カウンタは 0 となったと判別したとき (S 8 3 5 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 0 状態フラグをオン状態にセットし、RT 3 状態フラグをオフ状態にセット (クリア) する (S 8 3 6)。この処理により、RT 状態が RT 0 状態となる。そして、S 8 3 6 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 参照) 中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 4 】

S 8 3 3 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 状態が RT 3 状態でないと判別したとき (S 8 3 3 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 3 移行目に係る図柄の組合せ (コンビネーション「 S _ RT 3 移行目 」) が表示されたか否かを判別する (S 8 3 7)。S 8 3 7 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 3 移行目に係る図柄の組合せが表示されたか否かを判別したとき (S 8 3 7 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 3 状態フラグをオン状態にセットし、RT 遊技数カウンタに 8 をセットする (S 8 3 8)。なお、この場合、他の RT 状態フラグはオフ状態にセットされる。この処理により、RT 状態が RT 3 状態となる。そして、S 8 3 8 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 参照) 中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 5 】

一方、S 8 3 7 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 3 移行目に係る図柄の組合せが表示されなかったと判別したとき (S 8 3 7 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 1 移行目に係る図柄の組合せ (コンビネーション「 R _ RT 1 移行目 」の図柄組合せ) が表示されたか否かを判別する (S 8 3 9)。S 8 3 9 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 1 移行目に係る図柄の組合せが表示されなかったと判別したとき (S 8 3 9 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 1 移行リブに係る図柄の組合せ (コンビネーション「 S _ RT 1 移行リブ 」の図柄組合せ) が表示されたか否かを判別する (S 8 4 0)。

【 0 9 6 6 】

S 8 3 9 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 1 移行目に係る図柄の組合せが表示されたか否かを判別したとき (S 8 3 9 が Y E S 判定の場合)、及び S 8 4 0 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 1 移行リブに係る図柄の組合せが表示されたか否かを判別したとき (S 8 4 0 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 1 状態フラグをオン状態にセットする (S 8 4 1)。なお、この場合、他の RT 状態フラグはオフ状態にセットされる。この処理により、RT 状態が RT 1 状態となる。そして、S 8 4 1 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 参照) 中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 7 】

一方、S 8 4 0 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 1 移行リブに係る図柄の組合せが表示されなかったと判別したとき (S 8 4 0 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 2 移行リブに係る図柄の組合せ (コンビネーション「 S _ RT 2 移行リブ 」の図柄の組合せ) が表示されたか否かを判別する (S 8 4 2)。S 8 4 2 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 2 移行リブに係る図柄の組合せが表示されたか否かを判別したとき (S 8 4 2 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、RT 2 状態フラグをオン状態にセットする (S 8 4 3)。なお、この場合、他の RT 状態フラグはオフ状態にセットされる。この処理により、RT 状態が RT 2 状態となる。そして、S 8 4 3 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー (図 5 6 照) 中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 0 9 6 8 】

一方、S 8 4 2 において、メインCPU 1 0 1 が、RT 2 移行リブに係る図柄の組合せが表示されなかったと判別したとき (S 8 4 2 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1

は、R T 0 移行リブに係る図柄の組合せ（コンビネーション「S __ R T 0 移行リブ」の図柄の組合せ）が表示されたか否かを判別する（S 8 4 4）。S 8 4 4 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 0 移行リブに係る図柄の組合せが表示されたと判別したとき（S 8 4 4 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T 0 状態フラグをオン状態にセットする（S 8 4 5）。なお、この場合、他の R T 状態フラグはオフ状態にセットされる。この処理により、R T 状態が R T 0 状態となる。そして、S 8 4 5 の処理後、メイン C P U 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。一方、S 8 4 4 において、メイン C P U 1 0 1 が、R T 0 移行リブに係る図柄の組合せが表示されなかったと判別したとき（S 8 4 4 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 5 6 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

10

【 0 9 6 9 】

[メイン C P U の制御による割込処理（1 . 1 1 7 2 m s e c）] 次に、図 7 9 を参照して、1 . 1 1 7 2 m s e c 周期で、メイン C P U 1 0 1 が行う割込処理について説明する。なお、図 7 9 は、割込処理の手順を示すフローチャートである。1 . 1 1 7 2 m s e c 周期で繰り返し実行される割込処理は、タイマー回路 1 1 3（P T C）の初期化处理（図 4 6 中の S 2 参照）で設定されたタイマー回路 1 1 3 のタイムアウト信号の出力タイミングに基づいて発生する割込みコントローラ 1 1 2 からの割込要求信号がメイン C P U 1 0 1 に入力された際に実行される処理である。

20

【 0 9 7 0 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、レジスタの退避処理を行う（S 9 0 1）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、入力ポートチェック処理を行う（S 9 0 2）。この処理では、外部バスインターフェース 1 0 4 を介して接続されたスタートスイッチ 7 9、ストップスイッチ等の各種スイッチや、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R の各々に設けられたインデックスセンサ（不図示）等の各種センサから入力される信号がチェックされる。本実施形態では、キャビネット側中継基板 4 4、ドア中継端子板 6 8、及びリール中継端子板 7 4 等を経由し、これらの各種スイッチや各種センサが、外部バスインターフェース 1 0 4 を介して入力ポート用 I C（不図示）の出力端子に接続された入力用の I C の入力端子に接続されている。また、メイン R A M 1 0 3 には、メイン C P U 1 0 1 が、外部バスインターフェース 1 0 4 に接続された入力ポート用 I C（本実施形態では、単に「入力ポート」という）の状態を格納するための入力ポート格納領域（不図示）が割り当てられている。ここで、入力ポート格納領域は、例えば、入力ポートの現在の状態を格納するための入力ポート格納領域 1 と、入力ポートの 1 割込処理前の状態を格納するための入力ポート格納領域 2 とで構成される。そして、メイン C P U 1 0 1 は、この処理において、まず、入力ポート格納領域 1 に格納された各種情報を入力ポート格納領域 2 に保存し、次いで、入力ポートから読み込んだ各種情報を入力ポート格納領域 1 に格納する。なお、各種スイッチや各種センサの接続構成や入力ポート格納領域の構成は、上述したものに限られない。すなわち、メイン C P U 1 0 1 側で、各種スイッチや各種センサのオン / オフ状態を認識可能な構成であればよい。

30

【 0 9 7 1 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、リール制御処理を行う（S 9 0 3）。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、全リールの回転開始が要求されたときに、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R の回転を開始し、その後、各リールが一定速度で回転するように、3 つのステッピングモータを駆動制御する。また、滑り駒数が決定されたときは、メイン C P U 1 0 1 は、該当するリールの図柄カウンタを滑り駒数分だけ更新する。そして、メイン C P U 1 0 1 は、更新された図柄カウンタが停止予定位置に対応する値に一致する（停止予定位置の図柄が表示窓の有効ライン上の領域に到達する）のを待って、該当するリールの回転の減速及び停止が行われるように、対応するステッピングモータを駆動制御する。

40

【 0 9 7 2 】

50

次いで、メインCPU101は、通信データ送信処理を行う(S904)。この処理では、主に、通信データ格納領域に格納された各種コマンドを主制御回路90の第1シリアル通信回路114(図8参照)を介して副制御回路200に送信する。なお、通信データ送信処理の詳細については、後述の図80を参照しながら後で説明する。

【0973】

次いで、メインCPU101は、投入メダル通過チェック処理を行う(S905)。この処理では、メインCPU101は、各メダルセンサ(図5参照)の検出結果(メダルセンサ入力状態)に基づいて、投入メダルがセクタ66を通過したか否かのチェック処理を行う。

【0974】

次いで、メインCPU101は、7セグLED駆動処理を行う(S906)。この処理では、メインCPU101は、情報表示器6に含まれる各種7セグLEDを駆動制御して、例えば、メダルの払出枚数やクレジット枚数、ストップボタンの押し順データなどを表示する。なお、7セグLED駆動処理の詳細については、後述の図82を参照しながら後で説明する。

【0975】

次いで、メインCPU101は、タイマー更新処理を行う(S907)。この処理では、メインCPU101は、セットされた各種タイマーのカウント(減算)処理を行う。なお、タイマー更新処理の詳細については、後述の図84を参照しながら後で説明する。

【0976】

次いで、メインCPU101は、エラー検知処理を行う(S908)。次いで、メインCPU101は、ドア開閉チェック処理を行う(S909)。ドア開閉チェック処理では、メインCPU101は、ドア開閉監視スイッチ67のオン(ドア閉)/オフ(ドア開)状態をチェックすることにより、フロントドア2b(図2参照)の開閉状態をチェックする。

【0977】

次いで、メインCPU101は、試射試験信号制御処理を行う(S910)。この処理では、第2インターフェースポート等を介して試験機に各種試験信号の出力する際の制御処理が行われる。また、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域(図11C参照)を用いて実行される。なお、本実施形態では、この処理は、試射試験時以外のとき(パチスロ1が遊技店に設置された後)にも行われるが、この時には、主制御基板71が第2インターフェースポート等を介して試験機に接続されていないので、各種試験信号は生成されても出力はされない。

【0978】

次いで、メインCPU101は、レジスタの復帰処理を行う(S911)。そして、S912の処理後、メインCPU101は、割込処理を終了する。

【0979】

[通信データ送信処理]

次に、図80を参照して、割込処理(図79参照)中のS904で行う通信データ送信処理について説明する。なお、図80は、通信データ送信処理の手順を示すフローチャートである。

【0980】

まず、メインCPU101は、WDT設定処理を行う(S961)。この処理では、メインCPU101は、リセットコントローラ106内のWDTをリスタートさせる処理などを行う。なお、WDT設定処理の詳細については、後述の図81を参照しながら後で説明する。

【0981】

次いで、メインCPU101は、コマンド送信開始タイマはカウントアップしたか否かを判別する(S962)。すなわち、メインCPU101は、通信データの送信の遅延中であるか否かを判別する。S962において、メインCPU101が、コマンド送信開始

10

20

30

40

50

タイマはカウントアップしていないと判別したとき（Ｓ９６２がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、通信データ送信処理を終了し、処理を割込処理（図７９参照）中のＳ９０５の処理に移す。

【０９８２】

一方、Ｓ９６２において、メインＣＰＵ１０１が、コマンド送信開始タイマはカウントアップしたと判別したとき（Ｓ９６２がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、通信データは送信完了しているか否かを判別する（Ｓ９６３）。具体的には、メインＣＰＵ１０１は、第１シリアル通信回路１１４（ＳＣＵ１）のコマンドステータスレジスタ（不図示）に格納されているデータを参照し、送信完了を示すデータが格納されていれば、通信データは送信完了していると判別し、送信完了を示すデータが格納されていなければ、通信データは送信完了していないと判別する。

10

【０９８３】

Ｓ９６３において、メインＣＰＵ１０１が、通信データは送信完了していないと判別したとき（Ｓ９６３がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、通信データ送信処理を終了し、処理を割込処理（図７９参照）中のＳ９０５の処理に移す。一方、Ｓ９６３において、メインＣＰＵ１０１が、通信データは送信完了していると判別したとき（Ｓ９６３がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、通信データ取得処理を行う（Ｓ９６４）。この処理では、メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域から通信データ（コマンドデータ）を取得する処理を行う。

【０９８４】

20

次いで、メインＣＰＵ１０１は、取得した通信データの中に未送信データがあるか否かを判別する（Ｓ９６５）。Ｓ９６５において、メインＣＰＵ１０１が、取得した通信データの中に未送信データがあると判別したとき（Ｓ９６５がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、後述のＳ９６９の処理を行う。

【０９８５】

一方、Ｓ９６５において、メインＣＰＵ１０１が、取得した通信データの中に未送信データがないと判別したとき（Ｓ９６５がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、無操作コマンドデータを各レジスタにセットする（Ｓ９６６）。無操作コマンドデータは、遊技者の遊技操作（例えば、遊技を進行させるための操作としての、投入操作、開始操作、及び停止操作など）に関連する情報（例えば、これらの操作が行われたことを示す情報、あるいは、例えば、開始操作に基づき決定された内部当籤役を示す情報など）を含まないように各パラメータが設定されている。なお、無操作コマンドデータの各パラメータには、例えば、パチスロ１における、各スイッチのオン状態／オフ状態を示すパラメータや、各センサのオン状態／オフ状態を示すパラメータ（例えば、入力ポート格納領域１及び入力ポート格納領域２に格納された情報）が設定されるようにすればよい。これにより、副制御回路２００側でこれらのスイッチやセンサなどの誤作動や故障などの可能性が判定されるようにしてもよい。

30

【０９８６】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、通信データ格納処理（図５０参照）を行う（Ｓ９６７）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、Ｓ９６６で生成された無操作コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する処理を行う。次いで、メインＣＰＵ１０１は、通信データ取得処理を行う（Ｓ９６８）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、Ｓ９６７で通信データ格納領域に格納された無操作コマンドデータを取得する処理を行う。

40

【０９８７】

このように、本実施形態では、主制御回路９０から副制御回路２００に送信する通信データがない場合であっても、割込処理（図７９参照）毎に、少なくとも無操作コマンドが送信されるようになっている。したがって、主制御回路９０から副制御回路２００に送信する通信データがないことに起因して、外部から不正な通信データが送信されてしまうことを防止することが可能となる。なお、このような観点より、無操作コマンドデータは、遊技者の遊技操作に関連する情報を含まないものとしているが、設定される各パラメータ

50

の内容はこれに限られるものではなく、適宜変更可能である。

【0988】

S968の処理後又はS965がYES判定の場合、メインCPU101は、1パケット分のバッファサイズを送信カウンタにセットする(S969)。なお、本実施形態では、1パケット分の送信データは8バイトであることから、1パケット分のバッファサイズも同様に8バイトで構成されている。また、本実施形態では、通信データ格納領域に複数の通信データ(コマンドデータ)が格納されている場合には、格納された順序で(格納が古いものから先に)送信される(FIFO形式)。

【0989】

次いで、メインCPU101は、通信バッファから送信データを取得して送信データレジスタにセットする(S970)。具体的には、メインCPU101は、第1シリアル通信回路114(SCU1)の送信データレジスタ(不図示)に送信データを1バイト単位でセットする。これにより、セットされた送信データは、第1シリアル通信回路114(SCU1)の送信シフトレジスタ(不図示)に転送され、1パケット分ずつ送信される。

【0990】

次いで、メインCPU101は、通信バッファのアドレスを「1」更新(+1)する(S971)。次いで、メインCPU101は、送信カウンタを「1」減算する(S972)。次いで、メインCPU101は、送信カウンタは「0」であるか否かを判別する(S973)。すなわち、メインCPU101は、1パケット分の送信データの送信が完了したか否かを判別する。S973において、メインCPU101が、送信カウンタは「0」でないと判別したとき(S973がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS970の処理に戻し、S970以降の処理を繰り返す。

【0991】

一方、S973において、メインCPU101が、送信カウンタは「0」とであると判別したとき(S973がYES判定の場合)、メインCPU101は、通信データポインタ更新処理(例えば、図51参照)を行う(S974)。そして、S974の処理後、メインCPU101は、通信データ送信処理を終了し、処理を割込処理(図79参照)中のS905の処理に移す。

【0992】

[WDT設定処理]

次に、図81を参照して、通信データ送信処理(図80参照)中のS961で行うWDT設定処理について説明する。なお、図81は、WDT設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0993】

まず、メインCPU101は、リセットコントローラ106内のWDTにおけるWDTクリアレジスタ(不図示)のアドレスをセットする(S981)。次いで、メインCPU101は、セットしたアドレスにクリアデータ(例えば、「55H」)をセットする(S982)。次いで、メインCPU101は、セットしたアドレスにリスタートデータ(例えば、「AAH」)をセットする(S983)。

【0994】

次いで、メインCPU101は、コマンド送信開始タイマとその下限値「0」とを比較し、コマンド送信開始タイマが下限値「0」より大きい場合には、コマンド送信開始タイマを1減算(-1更新)し、コマンド送信開始タイマが下限値「0」以下である場合には、コマンド送信開始タイマを「0」に保持する(S984)。そして、S984の処理後、メインCPU101は、WDT設定処理を終了し、処理を通信データ送信処理(図80参照)のS962の処理に移す。

【0995】

上述したように、本実施形態では、WDTのリセット設定及び管理情報(WDTの許可/禁止、基準クロック、タイムアウト時間(例えば、419.4ms)など)がプログラム管理エリアに記憶されており、S982及びS983の処理が行われることにより、設

10

20

30

40

50

定されているタイムアウト時間が再計測される。なお、タイムアウトによりリセット信号が出力されてメインCPU101が再起動される場合には、電断時（外部）処理（図52参照）が実行されることなく再起動するため、チェックサム生成処理（図53参照）によって算出されるサム値がメインRAM103（サム値格納領域）に格納されない。したがって、この場合、電源投入時処理（図46のS11参照）におけるサムチェック判定結果は正常とならず（すなわち、「RAM異常」として）、情報表示器6（7セグLED表示器）に、エラー発生を意味する文字列「88」が表示される。

【0996】

[7セグLED駆動処理]

次に、図82を参照して、割込処理（図79参照）中のS906で行う7セグLED駆動処理について説明する。なお、図82は、7セグLED駆動処理の手順を示すフローチャートである。

【0997】

まず、メインCPU101は、割込カウンタの値に「1」を加算（+1更新）する（S921）。次いで、メインCPU101は、割込カウンタの値が奇数であるか否かを判別する（S922）。

【0998】

S922において、メインCPU101が、割込カウンタの値が奇数でないと判別したとき（S922がNO判定の場合）、メインCPU101は、7セグLED駆動処理を終了し、処理を割込処理（図79参照）中のS907の処理に移す。すなわち、本実施形態では、2回の割込周期毎に、7セグLED駆動処理が行われる。なお、本実施形態では、7セグLED駆動処理を割込みカウンタの値が偶数の場合に実行する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、割込みカウンタの値が奇数の場合に7セグLED駆動処理を実行してもよいし、また、任意の整数で割込みカウンタの値を除算したときの商又は余りを用いて、7セグLED駆動処理の実行タイミングを決定してもよい。

【0999】

一方、S922において、メインCPU101が、割込カウンタの値が奇数であると判別したとき（S922がYES判定の場合）、メインCPU101は、ナビデータ格納領域からナビデータを取得する（S923）。次いで、メインCPU101は、7セグLEDの各カソードに出力される押し順表示データを格納するための押し順表示データ格納領域のアドレスをセットする（S924）。

【1000】

次いで、メインCPU101は、7セグ表示データ生成処理を行う（S925）。この処理では、メインCPU101は、ナビデータに基づいて、押し順表示データ（7セグ表示データ）を作成し、生成された押し順表示データを押し順表示データ格納領域に格納する。なお、7セグ表示データ生成処理の詳細については、後述の図83を参照しながら後で説明する。

【1001】

次いで、メインCPU101は、クレジットカウンタの値を取得する（S926）。次いで、メインCPU101は、7セグLEDの各カソードに出力されるクレジット表示データを格納するためのクレジット表示データ格納領域のアドレスをセットする（S927）。

【1002】

次いで、メインCPU101は、7セグ表示データ生成処理を行う（S928）。この処理では、メインCPU101は、クレジットカウンタの値に基づいて、クレジット表示データ（7セグ表示データ）を生成し、生成されたクレジット表示データをクレジット表示データ格納領域に格納する。なお、7セグ表示データ生成処理の詳細については、後述の図83を参照しながら後で説明する。

【1003】

次いで、メインCPU101は、後述の7セグコモンカウンタの値を格納するための7

10

20

30

40

50

セグコモンカウンタ格納領域のアドレスをセットする（Ｓ９２９）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグコモンカウンタの値に「１」を加算（＋１更新）する（Ｓ９３０）。なお、この処理において、更新後の７セグコモンカウンタの値が「８」となった場合には、メインＣＰＵ１０１は、７セグコモンカウンタの値に「０」をセットする。本実施形態では、７セグＬＥＤをダイナミック制御するため、８回周期で７セグコモンカウンタの値が更新される。

【１００４】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグコモンカウンタの値に基づいて、コモン選択データを作成し、対象のカソードデータ格納領域（押し順表示データ格納領域又はクレジット表示データ格納領域内の対象格納領域）のアドレスをセットする（Ｓ９３１）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグＬＥＤのカソードにクリアデータを出力する（Ｓ９３２）。この処理は、７セグＬＥＤを一旦消灯して、残像の影響を無くすために行われる。

【１００５】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、対象のカソードデータ格納領域から７セグカソード出力データを取得してセットする（Ｓ９３３）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグコモンバックアップデータとコモン選択データとから、７セグコモン出力データを生成する（Ｓ９３４）。

【１００６】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグコモンバックアップデータ及び７セグカソードバックアップデータにそれぞれ７セグコモン出力データ及び７セグカソード出力データを保存する（Ｓ９３５）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、７セグカソード出力データ及び７セグコモン出力データを出力する（Ｓ９３６）。そして、Ｓ９３６の処理後、メインＣＰＵ１０１は、７セグＬＥＤ駆動処理を終了し、処理を割込処理（図７９参照）中のＳ９０７の処理に移す。

【１００７】

[７セグ表示データ生成処理]

次に、図８３を参照して、７セグＬＥＤ駆動処理（図８２参照）中のＳ９２５及びＳ９２８で行う７セグ表示データ生成処理について説明する。なお、図８３は、７セグ表示データ生成処理の手順を示すフローチャートである。

【１００８】

なお、７セグＬＥＤ駆動処理（図８２参照）中のＳ９２５で行われる７セグ表示データ生成処理で生成される後述の「表示データ」は押し順表示データに対応し、７セグＬＥＤ駆動処理（図８２参照）中のＳ９２８で行われる７セグ表示データ生成処理で生成される後述の「表示データ」はクレジット表示データに対応する。

【１００９】

まず、メインＣＰＵ１０１は、カソードデータ格納領域にセットされた表示データを「１０」で除算し、その除算結果の商の値を、２桁の７セグＬＥＤの上位桁の表示データとして取得し、除算結果の余の値を下位桁の表示データとして取得する（Ｓ９４１）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、取得した上位桁の表示データに基づいて、上位桁表示を行うか否かを判別する（Ｓ９４２）。

【１０１０】

Ｓ９４２において、メインＣＰＵ１０１が、上位桁表示を行うと判別したとき（Ｓ９４２がＹＥＳ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、後述のＳ９４４の処理を行う。一方、Ｓ９４２において、メインＣＰＵ１０１が、上位桁表示を行わないと判別したとき（Ｓ９４２がＮＯ判定の場合）、メインＣＰＵ１０１は、上位桁の表示無しをセットする（Ｓ９４３）。

【１０１１】

Ｓ９４３の処理後又はＳ９４２がＹＥＳ判定の場合、メインＣＰＵ１０１は、７セグカソードテーブル（不図示）を参照して、上位桁の表示データを取得する（Ｓ９４４）。次いで、メインＣＰＵ１０１は、上位桁の表示データ格納領域（不図示）に取得した上位桁

10

20

30

40

50

の表示データを保存する（S 9 4 5）。

【1 0 1 2】

次いで、メインCPU 1 0 1は、7セグカソードテーブル（不図示）を参照して、下位桁の表示データを取得する（S 9 4 6）。次いで、メインCPU 1 0 1は、下位桁の表示データ格納領域（不図示）に取得した下位桁の表示データを保存する（S 9 4 7）。

【1 0 1 3】

そして、S 9 4 7の処理後、メインCPU 1 0 1は、7セグ表示データ生成処理を終了する。この際、実行した7セグ表示データ生成処理が7セグLED駆動処理（図8 2参照）中のS 9 2 5の処理である場合には、メインCPU 1 0 1は、処理を7セグLED駆動処理中のS 9 2 6の処理に移す。一方、実行した7セグ表示データ生成処理が7セグLED駆動処理（図8 2参照）中のS 9 2 8の処理である場合には、メインCPU 1 0 1は、処理を7セグLED駆動処理中のS 9 2 9の処理に移す。

【1 0 1 4】

[タイマー更新処理]

次に、図8 4を参照して、割込処理（図7 9参照）中のS 9 0 7で行うタイマー更新処理について説明する。なお、図8 4は、タイマー更新処理の手順を示すフローチャートである。

【1 0 1 5】

まず、メインCPU 1 0 1は、HLレジスタに2バイトタイマー格納領域（不図示）の更新開始アドレスをセットし、Bレジスタに2バイトタイマー数をセットする（S 9 5 1）。2バイトタイマー格納領域は、2 8 6 m s（2 5 6 × 1 . 1 1 7 2 m s）以上の時間（すなわち、1バイトを超えるタイマ値）を管理するために用いられる。

【1 0 1 6】

次いで、メインCPU 1 0 1は、2バイトタイマー数とその下限値「0」とを比較し、2バイトタイマー数が下限値「0」より大きい場合には、2バイトタイマー数を1減算（- 1更新）し、2バイトタイマー数が下限値「0」以下である場合には、2バイトタイマー数を「0」に保持する（S 9 5 2）。さらに、S 9 5 2の処理では、メインCPU 1 0 1は、HLレジスタにセットされている2バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスを2減算（- 2更新）する。なお、例えば、コマンド送信開始タイマも2バイトタイマあることから、この処理においてその更新が行われるようにしてもよい（図8 1参照）。

【1 0 1 7】

次いで、メインCPU 1 0 1は、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数を1減算（- 1更新）する（S 9 5 3）。次いで、メインCPU 1 0 1は、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」であるか否かを判別する（S 9 5 4）。

【1 0 1 8】

S 9 5 4において、メインCPU 1 0 1が、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」でないと判別したとき（S 9 5 4がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、処理をS 9 5 2の処理に戻し、S 9 5 2以降の処理を繰り返す。

【1 0 1 9】

一方、S 9 5 4において、メインCPU 1 0 1が、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」であると判別したとき（S 9 5 4がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、HLレジスタに1バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスをセットし、Bレジスタに1バイトタイマー数をセットする（S 9 5 5）。1バイトタイマー格納領域は、2 8 6 m s（2 5 6 × 1 . 1 1 7 2 m s）未満の時間（すなわち、1バイトを超えないタイマ値）を管理するために用いられる。例えば、メダル監視タイマなどは1バイトタイマとしてその更新が行われる。

【1 0 2 0】

次いで、メインCPU 1 0 1は、1バイトタイマー数とその下限値「0」とを比較し、1バイトタイマー数が下限値「0」より大きい場合には、1バイトタイマー数を1減算（- 1更新）し、1バイトタイマー数が下限値「0」以下である場合には、1バイトタイマ

10

20

30

40

50

一数を「0」に保持する(S956)。さらに、S956の処理では、メインCPU101は、HLレジスタにセットされている1バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスを1減算(-1更新)する。

【1021】

次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数を1減算(-1更新)する(S957)。次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」であるか否かを判別する(S958)。

【1022】

S958において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」でないと判別したとき(S958がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS956の処理に戻し、S956以降の処理を繰り返す。

10

【1023】

一方、S958において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」であると判別したとき(S958がYES判定の場合)、メインCPU101は、電磁カウンタ制御処理を行う(S959)。この処理では、メダルのIN/OUTを示す信号を外部集中端子板47に出力する際の出力制御処理が行われる。そして、S959の処理後、メインCPU101は、タイマー更新処理を終了し、処理を割込処理(図79参照)中のS908の処理に移す。

【1024】

<電源投入時の動作説明>

20

次に、図85を参照しながら、本発明の一実施形態に係るパチスロの電源投入時の動作について説明する。図85は、パチスロ1の電源投入時の動作の例を示すタイミングチャートである。

【1025】

なお、図85中、「MainCPU」は、メインCPU101(主制御回路90)を示し、「SubCPU」は、サブCPU201(副制御回路200)を示している。

【1026】

また、図85中、「MainCPU」の動作状態「セキュリティモード」は、上述したセキュリティモード中である状態を示し、「MainCPU」の動作状態「起動遅延期間」は、セキュリティモードの終了後、上述したコマンド送信開始タイマがセットされ、セットされたコマンド送信開始タイマが「0」となるまでの期間(すなわち、設定変更は可能であるが、通信データの送信を遅延させている期間)を示し、「MainCPU」の動作状態「通常動作期間」は、通信データの送信の遅延が終了し、サブCPU201(副制御回路200)に対して通信データの送信が可能となった状態を示している。

30

【1027】

また、図85中、「SubCPU」の動作状態「初期化」は、サブCPU201(副制御回路200)の電源投入時の初期化(起動)処理(ハード起動時間、バイオス(ドライバ)初期化、カーネル(OS)起動など)中である状態(すなわち、メインCPU101(主制御回路90)から送信される通信データの受信が可能でない状態)を示し、「SubCPU」の動作状態「通常動作期間」は、電源投入時の初期化(起動)処理が終了し、メインCPU101(主制御回路90)から送信される通信データの受信が可能となった状態を示している。

40

【1028】

また、図85中、「設定動作A」は、「起動遅延期間」において設定変更が開始され(例えば、設定用鍵型スイッチ54がオン状態でパチスロ1の電源が投入され)、その後、「通常動作期間」において設定変更が終了された場合の動作を示し、「送信態様A」は、「設定動作A」の場合の、設定変更コマンド(設定変更/設定確認開始)(COM1)、及び設定変更コマンド(設定変更/設定確認終了)(COM2)の送信タイミングを示している。また、「送信態様A」の下「MainCPU設定変更処理」は、「送信態様A」の場合の、メインCPU101による設定変更確認処理(図48参照)内において、設

50

定変更コマンドがメインRAM103の通信データ格納領域に格納（登録）されるタイミング（図49の設定変更コマンド生成格納処理及び図50の通信データ格納処理も参照）を示している。

【1029】

また、図85中、「設定動作B」は、「起動遅延期間」において設定変更が開始され（例えば、設定用鍵型スイッチ54がオン状態でパチスロ1の電源が投入され）、その後、当該「起動遅延期間」において設定変更が終了された場合の動作を示し、「送信態様B」は、「設定動作B」の場合の、設定変更コマンド（設定変更／設定確認開始）（COM1）、及び設定変更コマンド（設定変更／設定確認終了）（COM2）の送信タイミングを示している。また、「送信態様B」の下に「MainCPU設定変更処理」は、「送信態様B」の場合の、メインCPU101による設定変更確認処理（図48参照）内において、設定変更コマンドがメインRAM103の通信データ格納領域に格納（登録）されるタイミング（図49の設定変更コマンド生成格納処理及び図50の通信データ格納処理も参照）を示している。

10

【1030】

パチスロ1の電源が投入されリセット信号が入力されると、マイクロプロセッサ91のセキュリティ部（不図示）によってセキュリティモードの動作状態に制御される。メインCPU101は、セキュリティモード中においては、セキュリティ設定エリア記憶された設定に応じた期間、起動が遅延させられる。セキュリティモードが終了すると、メインCPU101は、所定期間、通信データの送信を遅延させる。なお、メインCPU101は、通信データの送信を遅延させている場合であっても、設定変更を可能としている。

20

【1031】

ここで、「設定動作A」に示すように、通信データの送信の遅延中に設定変更が開始され、通信データの送信の遅延が終了した後に設定変更が終了された場合、メインCPU101は、通信データの送信の遅延が終了したときに、設定変更コマンド（設定変更／設定確認開始）（COM1）を副制御回路200に対して送信し、設定変更が終了されたときに、設定変更コマンド（設定変更／設定確認終了）（COM2）を副制御回路200に対して送信する。

【1032】

一方、「設定動作B」に示すように、通信データの送信の遅延中に設定変更が開始され、同じく通信データの送信の遅延中に設定変更が終了された場合、メインCPU101は、通信データの送信の遅延が終了したときに、設定変更コマンド（設定変更／設定確認開始）（COM1）、及び設定変更コマンド（設定変更／設定確認終了）（COM2）を副制御回路200に対して順次送信する。すなわち、通信データの送信の遅延が終了したときに、通信データ格納領域に設定変更コマンド（設定変更／設定確認開始）（COM1）、及び設定変更コマンド（設定変更／設定確認終了）（COM2）が登録されている場合には、これらの通信データを登録された順序で送信する。

30

【1033】

このように、本実施形態のパチスロ1によれば、パチスロ1の電源投入時にメインCPU101の起動を遅延させることで、主制御回路90を安定的に起動させることができる。とともに、メインCPU101の起動の遅延が終了した後、通信データの送信を遅延させることで、副制御回路200の起動に要する時間を確保して副制御回路200も安定的に起動させることができる。

40

【1034】

そして、メインCPU101の起動の遅延が終了した後は、通信データの送信の遅延が終了する前であっても設定変更を可能としたことから、例えば、遊技店における開店作業を行う際に、パチスロ1の電源を投入した場合（すなわち、これにともなってリセット信号が入力された場合）には、副制御回路200の起動完了を待つことなく先立って設定変更を行うことができるため、電源投入時における作業効率を向上させることが可能となる。

50

【 1 0 3 5 】

さらに、通信データの送信の遅延が終了する前に設定変更が行われた場合には、設定変更の開始時や設定変更の終了時にこれらを示す通信データが登録され、通信データの送信の遅延が終了したときに、これらの通信データが登録された順序で送信されるようになっていることから、副制御回路 200 の起動完了を待つことなく先立って設定変更を行った場合であっても、それによって主制御回路 90 と副制御回路 200 との間に保有する情報に齟齬が生じることを防止することができる。また、例えば、副制御回路 200 において、主制御回路 90 から送信される通信データの順序によって不正行為やエラー等の判定が行われるように構成される場合であっても、このような判定の結果に影響を及ぼさず、正確な判定を行わせることが可能となる。

10

【 1 0 3 6 】

また、本実施形態のパチスロ 1 によれば、通信データの送信処理が行われる際に、通信データが登録されていない場合であっても、少なくとも無操作コマンドデータが送信されるようにしたことから、例えば、主制御回路 90 と副制御回路 200 との間の接続線に不正にアクセスする等、不正の手段によって外部から通信データが送信されてしまうことを防止することが可能となる。また、通信データの送信の遅延が終了する前は、当該無操作コマンドデータの登録・送信を行わないようにしたことから、パチスロ 1 の電源投入時の制御負担を軽減することが可能となる。なお、不正行為防止を主目的とする観点より、当該無操作コマンドデータは、遊技者の遊技操作に関連する情報を含まないようにすればよい。

20

【 1 0 3 7 】

また、本実施形態のパチスロ 1 によれば、メイン CPU 101 の起動の遅延期間が、固定期間及び可変期間で構成され、また、これらの期間（あるいはその範囲）を適宜選択して設定可能としたことから、主制御回路 90 や副制御回路 200 のスペックに応じて、適切な遅延時間を設定することが可能となる。なお、設定変更が可能となるまでの期間をより短くするという観点より、可変期間として必ず 0 が決定される所定の期間の範囲（例えば、ランダム延長期間における「設定なし」）を設定可能である場合には、当該所定の期間の範囲が設定されるものとすればよい。

【 1 0 3 8 】

なお、本実施形態では、セキュリティモードの終了後、通信データの送信を遅延させている期間（「起動遅延期間」）において、設定値の設定操作（設定変更操作）を可能とした例について説明しているが、通信データの送信を遅延させている期間（「起動遅延期間」）において実行可能とする操作はこれに限られるものではない。例えば、設定用鍵型スイッチ 54 がオフ状態でパチスロ 1 の電源が投入され、通信データの送信を遅延させている期間（「起動遅延期間」）において設定用鍵型スイッチ 54 がオン状態となった場合、当該期間において設定値の確認操作（設定確認操作）を可能とするようにしてもよい。これにより、例えば、遊技店における開店作業を行う際に、設定変更は行わないが現在の設定値を確認したい等の場合においても、副制御回路 200 の起動完了を待つことなく先立って設定確認を行うことができるため、電源投入時における作業効率を向上させることが可能となる。

30

40

【 1 0 3 9 】

<メダル投入時の動作説明>

次に、図 86 を参照しながら、本発明の一実施形態に係るパチスロのメダル投入時の動作について説明する。図 86 は、パチスロ 1 のメダル投入時の動作の例を示すタイミングチャートである。

【 1 0 4 0 】

なお、図 86 中、「スタートスイッチ」は、スタートスイッチ 79 を示し、「メダルセンサ」は、上流側メダルセンサ（第 1 メダルセンサ）806 及び下流側メダルセンサ（第 2 メダルセンサ）807 の検知状態（メダルセンサ入力状態）を示し、「メダル受付信号」は、オン状態（「ON」）がメダルの受付が許可されている状態（メダル受付許可）を

50

示し、オフ状態（「OFF」）がメダルの受付が禁止されている状態（メダル受付禁止）を示している（図57及び図58参照）。

【1041】

また、図86中、「ソレノイド」は、セクタ66のソレノイド（セレクトプレート804をガイド位置又は排出位置に変移させる駆動源）を示し、「監視タイマ」は、メダル監視タイマを示し（図57及び図58参照）、「動作状態」は、パチスロ1における、開始操作後の遊技の進行を可能とする状態（「遊技中」）と、開始操作後の遊技の進行を可能としない状態（「遊技待」）と、を示している。

【1042】

メインCPU101は、遊技開始可能枚数（本実施形態では3枚）のメダルが投入されると、スタートレバー16に対する開始操作を受付可能とする。なお、図86に示すように、この状態において、クレジット枚数としてメダルを貯留可能であれば（クレジットが50枚未満であれば）、スタートレバー16に対する開始操作が行われるまで（スタートスイッチ79により開始操作が検出されるまで）、メダルの受付が許可されている状態（メダル受付信号が「ON」である状態）が継続する。なお、図示は省略しているが、この状態において、クレジット枚数としてメダルを貯留可能でなければ（クレジットが50枚であれば）、メダルの受付が禁止されている状態（メダル受付信号が「OFF」である状態）に変移している。

【1043】

メインCPU101は、遊技開始可能枚数（本実施形態では3枚）のメダルが投入され、クレジット枚数としてメダルを貯留可能な状態において、スタートスイッチ79により開始操作（図86中、左側の1回目の開始操作（スタートスイッチ79の「OFF」から「ON」への変移）を「開始操作A」とする）が検出されると、メダルの受付が許可されている状態（メダル受付信号が「ON」である状態）からメダルの受付が禁止されている状態（メダル受付信号が「OFF」である状態）に変移させ、セクタ66のソレノイドを消磁状態に変移させることを開始し、メダル監視タイマによる監視（計測）を開始する。また、このとき、上述したスタートレバーONフラグをオン状態とする。

【1044】

メインCPU101は、メダル監視タイマによる監視（計測）中に（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了となる前に）、メダルが投入された場合（各メダルセンサのメダルセンサ入力状態に基づきメダルが投入されたと判別される場合）には、励磁状態から消磁状態に変移途中であったセクタ66のソレノイドを再度励磁状態に変移させるようにして、投入されたメダルが計数され、ホッパー装置51内に案内されるようにする。また、この場合、スタートスイッチ79により「開始操作A」は検出されているが、当該検出に基づいて、動作状態を開始操作後の遊技の進行を可能とする状態（「遊技中」）には変移させない。また、このとき、上述したスタートレバーONフラグをオフ状態とする。すなわち、この場合には、「開始操作A」を無効とする。

【1045】

なお、メインCPU101は、メダル監視タイマによる監視（計測）中に（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了となる前に）、メダルが投入された場合（各メダルセンサのメダルセンサ入力状態に基づきメダルが投入されたと判別される場合）には、さらに、メダルの受付が禁止されている状態（メダル受付信号が「OFF」である状態）からメダルの受付が許可されている状態（メダル受付信号が「ON」である状態）に変移させるようにしてもよい。

【1046】

その後、メインCPU101は、再度スタートスイッチ79により開始操作（図86中、右側の2回目の開始操作（スタートスイッチ79の「OFF」から「ON」への変移）を「開始操作B」とする）が検出されると、再度セクタ66のソレノイドを励磁状態から消磁状態に変移させ、再度メダル監視タイマによる監視（計測）を開始する。また、このとき、再度上述したスタートレバーONフラグをオン状態とする。

【 1 0 4 7 】

そして、メインCPU101は、メダル監視タイマによる監視（計測）中に（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了となる前に）、メダルが投入されなかった場合（各メダルセンサのメダルセンサ入力状態に基づきメダルが投入されたと判別されない場合）には、メダル監視タイマによる監視（計測）終了後（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了後）に、動作状態を開始操作後の遊技の進行を可能とする状態（「遊技中」）に変移させ、遊技を進行させることを可能とする（すなわち、メダル受付・スタートチェック処理（図57及び図58参照）以後の処理を実行可能とする）。

【 1 0 4 8 】

なお、図示は省略しているが、メインCPU101は、スタートスイッチ79により「開始操作A」が検出され、メダルの受付が許可されている状態（メダル受付信号が「ON」である状態）からメダルの受付が禁止されている状態（メダル受付信号が「OFF」である状態）に変移し、セクタ66のソレノイドを消磁状態に変移させることを開始し、メダル監視タイマによる監視（計測）を開始した後、メダル監視タイマによる監視（計測）中に（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了となる前に）、メダルが投入されなかった場合（各メダルセンサのメダルセンサ入力状態に基づきメダルが投入されたと判別されない場合）にも、スタートスイッチ79により「開始操作B」が検出された場合と同様、メダル監視タイマによる監視（計測）終了後（すなわち、セクタ66のソレノイドが励磁状態から消磁状態に変移完了後）に、動作状態を開始操作後の遊技の進行を可能とする状態（「遊技中」）に変移させ、遊技を進行させることを可能とする（すなわち、メダル受付・スタートチェック処理（図57及び図58参照）以後の処理を実行可能とする）。

【 1 0 4 9 】

このように、本実施形態のパチスロ1によれば、遊技者の開始操作にともなって遊技が開始される場合に、例えば、メダルの「飲込み」などの発生を防止するためのメダル監視タイマがセットされる。このメダル監視タイマにより、セクタ66において、投入されたメダルが遊技機内部に貯留される状態（ソレノイドが励磁状態であることによりセレクトプレート804がガイド位置にある状態）から遊技機外部に排出される状態（ソレノイドが消磁状態であることによりセレクトプレート804が排出位置にある状態）に物理的に変移するまでの時間が確保される。

【 1 0 5 0 】

そして、メダル監視タイマによる監視（計測）中にメダルが投入された場合には、そのもととなった開始操作は無効とされ、また、セクタ66においては、投入されたメダルが遊技機内部に貯留される状態に戻る。したがって、メダルの「飲込み」などの発生を防止して、投入されたメダルを適切に処理することが可能となる。

【 1 0 5 1 】

また、本実施形態のパチスロ1によれば、メダル監視タイマによる監視（計測）中にメダルが投入された場合であっても、そのメダルが計数されるようにしたことから、投入されたメダルの計数漏れを防止でき、投入されたメダルをより適切に処理することが可能となる。

【 1 0 5 2 】

また、本実施形態のパチスロ1によれば、メダル監視タイマのタイマ値（例えば、「72」）を、投入されたメダルが遊技機内部に貯留される状態から遊技機外部に排出される状態に物理的に変移するまでの期間（例えば、80ms）以上の期間（例えば、「72」×1.1172ms）に設定するようにしたことから、メダルの「飲込み」などの発生を確実に防止して、投入されたメダルをより適切に処理することが可能となる。なお、本実施形態のように、駆動部がソレノイドである場合には、このような効果はより顕著となる。

【 1 0 5 3 】

< 本実施形態で実行可能なその他の演出 >

次に、図 8 7 ~ 図 9 1 を参照しながら、上述した演出の他に、本実施形態で実行可能なその他の演出の一例について説明する。なお、以下では、その他の演出の一例として、ボーナス役に当籤しているか否かを報知するためのボーナス役当籤報知演出が実行可能であることについて説明しているが、その用途はボーナス役に当籤しているか否かを報知するものに限定されない。

【 1 0 5 4 】

例えば、非有利区間及び通常有利区間において、有利区間に移行することが決定されているか否かを報知するために実行されるものであってもよいし、有利区間のラインバトル状態において、有利区間が継続することが決定されているか否かを報知するために実行されるものであってもよい。また、有利区間の権利獲得抽籤状態において、権利獲得状態に移行することが決定されているか否かを報知するために実行されるものであってもよいし、有利区間の権利獲得状態において、権利を付与することが決定されているか否かを報知するために実行されるものであってもよい。すなわち、遊技者に特典が付与されるか否かを報知するために実行される演出として用いることができる。

【 1 0 5 5 】

(ボーナス役当籤報知演出の演出例 (その 1))

まず、図 8 7 及び図 8 8 を参照して、ボーナス役当籤報知演出の演出例 (その 1) について説明する。図 8 7 及び図 8 8 は、例えば、ボーナス役の (同時) 当籤を期待させる内部当籤役 (例えば、「チャンス目」) が決定された場合に、所定確率で表示装置 1 1 に表示され得るボーナス役当籤報知演出の演出例 (その 1) を示している。なお、図 8 7 では、ボーナス役に当籤していない場合 (ボーナス役非当籤の場合) の表示例を示し、図 8 8 では、ボーナス役に当籤している場合 (ボーナス役当籤の場合) の表示例を示している。

【 1 0 5 6 】

図 8 7 及び図 8 8 に示すように、ボーナス役当籤報知演出の演出例 (その 1) では、「間違い探し演出」と題した演出が行われるようになっている。この「間違い探し演出」は、例えば、パチスロ 1 のモチーフとして使用されている、漫画、アニメーション、あるいはゲームなどの原作品がある場合に、当該原作品における所定の画像と同一又は近似の画像をベース画像とし、当該ベース画像に対して異なっている点 (すなわち、間違い) があるか否かを遊技者に探させる演出となっている。この場合、所定の画像は、原作品のままの (すなわち、同一の) 画像であってもよいし、原作品の画像に対して、A / D 変換し、アスペクト比を変更し、解像度を変更し、あるいはリマスターした (すなわち、近似の) 画像であってもよい。また、あくまでも原作品に依拠した画像であるが、パチスロ 1 の演出に用いるために新たに制作された画像であってもよい。

【 1 0 5 7 】

なお、ベース画像は、上述したものに限られず、適宜設定することができる。例えば、原作品がない場合 (例えば、オリジナルのモチーフである場合) であっても、パチスロ 1 における他の演出において表示され得る画像と同一又は近似の画像を設定するようにしてもよい。また、例えば、パチスロ 1 の仕様を説明するために遊技店で配布される小冊子内に印刷された画像と同一又は近似の画像を設定するようにしてもよい。また、例えば、ベース画像は静止画でなくともよく、動画であってもよいし、静止画がスライド形式で順次表示されるものであってもよい。

【 1 0 5 8 】

図 8 7 の上段には、「全員集合！」という文字とともに、5 体のキャラクタが表示された画像が表示されている。当該画像は、ベース画像と同じ画像となっている。また、当該画像の下方には、「知っている画像と違う箇所があったらカーソルを合わせて決定してね！」といったように、ベース画像と相違する点を指摘すべきことを促すメッセージとカーソルとが表示される。

【 1 0 5 9 】

このとき、遊技者は、タッチセンサ 1 9 が設けられたサブ表示装置 1 8 の表示面上の所

定領域を指でなぞるなどしてカーソルを所望の箇所まで移動させ（選択操作を行い）、同じくサブ表示装置 18 の表示面上に表示された決定ボタン（不図示）をタッチ操作し（決定操作を行い）、自身が間違いだと思ふ箇所を指定する。

【1060】

なお、遊技者の選択操作や決定操作などの演出に係る各種操作を検出する手段は、サブ表示装置 18 に限られるものではない。例えば、表示装置 11 が、液晶表示装置のような表示装置である場合には、表示装置 11 の少なくとも一部（例えば、図 87 の上段の表示が行われる箇所）にタッチセンサを設けるようにし、当該タッチセンサが、遊技者の指の移動を検出した場合（選択操作が行われた場合）にはそれに応じてカーソルを移動させ、また、当該タッチセンサが設けられた箇所に表示された決定ボタン（不図示）が押下操作された場合（決定操作が行われた場合）にはそれに応じて結果を報知する演出が行われるようにしてもよい。また、例えば、選択操作や決定操作などの演出に係る各種操作が検出可能な物理的操作手段（例えば、十字キー及び演出ボタン、ジョグダイヤルなど）が設けられる場合には、このような物理的操作手段によって選択操作や決定操作が検出されるようにしてもよい。すなわち、遊技者の演出に係る各種操作を検出可能な手段であれば、どのような手段であっても適用することが可能である。

【1061】

ここで、例えば、図 87 の上段に表示された画像において、右端のキャラクタが表示されている部分を遊技者が指定したとする。そうすると、図 87 の上段に表示された画像にはベース画像と異なる部分はないため、図 87 の下段に示すように、「間違い探し演出」における間違い探しの結果が失敗であったことを報知するための「はずれ～残念」というメッセージが表示される。

【1062】

一方、図 88 の上段には、「全員集合！」という文字とともに、4 体のキャラクタが表示された画像が表示されている。当該画像は、ベース画像とは右端のキャラクタが表示されていない部分において異なる画像となっている。また、当該画像の下方には、図 87 と同様に、「知っている画像と違う箇所があったらカーソルを合わせて決定してね！」といったように、ベース画像と相違する点を指摘すべきことを促すメッセージとカーソルとが表示される。

【1063】

ここで、例えば、図 88 の上段に表示された画像において、右端のキャラクタが表示されていない部分を遊技者が指定したとする。この場合、当該指定された部分は、ベース画像と異なる部分であるため、図 88 の下段に示すように、「間違い探し演出」における間違い探しの結果が成功であったことを報知するための「あたり～」というメッセージとともに、ボーナス役に当籤していることを報知するための「ボーナス確定！」というメッセージが表示される。

【1064】

これに対し、例えば、図 88 の上段に表示された画像において、左端のキャラクタが表示されている部分を遊技者が指定したとする。この場合、当該指定された部分は、ベース画像と異なる部分ではないため、図 87 の下段と同様に、「間違い探し演出」における間違い探しの結果が失敗であったことを報知するための「はずれ～残念」というメッセージが表示され、ボーナス役に当籤している場合であってもボーナス役に当籤していることは報知されない。

【1065】

なお、図 87 及び図 88 に示した演出態様は、「間違い探し演出」における演出態様の一例を示すものであり、例えば、以下に示すような演出態様を採用することもできる。

【1066】

例えば、ベース画像が、原作品における所定のテーマ（例えば、原作品における第 1 話）に基づくものであり、複数（例えば、5 枚）の画像（例えば、ダイジェスト画像）がスライド形式で表示されるものであるとする。そして、ボーナス役に当籤していない場合に

は、そのスライド画像がそのまま順次表示された後、そのスライドの各画像がサムネイル状に表示される。一方、ボーナス役に当籤している場合には、そのスライド画像のうち一部の画像が異なるスライド画像が順次表示された後、そのスライドの各画像がサムネイル状に表示される。

【1067】

遊技者は、サムネイル状に表示された各画像において、所定のテーマとは異なるテーマ（例えば、原作品における第1話とは異なる話数）に基づくものが含まれているかどうかを検索し、所定のテーマとは異なるテーマの画像であると思ったものに対し、選択操作及び決定操作を行う。そして、所定のテーマとは異なるテーマの画像が含まれている場合であって、遊技者が当該画像を指定した場合には、「間違い探し演出」における間違い探しの結果が成功となるようにすればよい。具体的には、例えば、原作品における第1話においては、キャラクタA及びキャラクタBしか登場しないにもかかわらず、ボーナス役に当籤した場合に表示されるスライド画像では、原作品における第3話以降にしか登場しないキャラクタCが表示された画像が含まれるようにすればよい。このようにすれば、例えば、原作品に愛着のある遊技者は、特に思い入れをもって「間違い探し演出」を行うことができるため、演出に関する興趣をより向上させることが可能となる。

【1068】

また、上述のように、「間違い探し演出」においてベース画像と少なくとも一部が異なる画像を表示する場合、ベース画像と異なる部分は1箇所のみである必要はなく、複数箇所が異なってもよい。この場合、例えば、当籤したボーナス役の種類に応じて、異なる箇所の数が異なる場合があるようにしてもよい。例えば、ベース画像と異なる部分が1箇所である場合、BB3又はBB4に当籤している可能性が高く、ベース画像と異なる部分が複数箇所である場合、BB1又はBB2に当籤している可能性が高くなるようにしてもよい。このようにすれば、当籤しているボーナス役の種類まで示唆することができる。

【1069】

また、「間違い探し演出」における間違い探しの結果が失敗であったことを報知する場合、例えば、「???」などのメッセージを表示して、間違い探しの結果が失敗であったことを明示しないようにしてもよい。

【1070】

また、ベース画像を複数種類設けるようにし、例えば、「チャンス目」に当籤した場合、これらの複数種類のベース画像のうちの1つのベース画像を決定し、その後、ボーナス役に当籤しているか否かに応じて、ベース画像のまま表示するか、あるいは、少なくとも一部は異なる部分を有する画像として表示するかが決定されるようにしてもよい。また、この場合、決定されるベース画像の種類に応じて、間違い探しの難易度が異なるようにしてもよい。

【1071】

このように、本実施形態では、遊技者に有利なボーナス状態に制御可能となる所定の有利条件（例えば、ボーナス役に当籤したこと）が成立したか否かを報知するため、所定の有利条件が成立している場合には、第1特定画像（例えば、ベース画像と一部が異なる画像）が表示され、所定の有利条件が成立していない場合には第2特定画像（例えば、ベース画像と同じ画像）が表示されることが可能となっており、第1特定画像が表示された場合に、遊技者が第2特定画像と異なる部分を指定する操作を行った場合には、所定の有利条件が成立していることを報知する特別画像（例えば、「ボーナス確定!」のメッセージ）が表示されることが可能となっている。

【1072】

これにより、遊技者の所定の操作も関与させた新規な演出態様によって、所定の有利条件が成立したか否かを報知することができるため、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【1073】

また、本実施形態では、第2特定画像が、遊技機のモチーフとして使用された原作品に

おける所定の画像と同一又は近似の画像となっている。これにより、原作品に愛着のある遊技者は、所定の有利条件が成立したか否かを認識しやすくなるため、遊技意欲を高めることができるとともに、演出に関する興趣をより高めることができる。

【1074】

(ボーナス役当籤報知演出の演出例(その2))

次に、図89及び図90を参照して、ボーナス役当籤報知演出の演出例(その2)について説明する。図89は、例えば、ボーナス役の(同時)当籤を期待させる内部当籤役(例えば、「チャンス目」)が決定された場合に、所定確率で表示装置11に表示され得るボーナス役当籤報知演出の演出例(その2)のタイミングチャートを示し、図90は、ボーナス役当籤報知演出の演出例(その2)の表示例を示している。なお、ボーナス役当籤報知演出の演出例(その2)では、表示装置11によって演出が実行される例を挙げて説明しているが、これに限られず、その他演出装置(例えば、スピーカ群84やLED群85)によって演出が実行されるようにすることもできる。

【1075】

図89及び図90に示すように、ボーナス役当籤報知演出の演出例(その2)では、「長押し演出」と題した演出が行われるようになっている。この「長押し演出」は、例えば、第3停止操作における停止操作が、以下に示すような態様で長押しされた場合、長押しされない場合とは異なる演出が行われるようになっているものである。

【1076】

なお、本実施形態では、「長押し」の対象となる操作手段を、第3停止操作におけるストップボタン(左ストップボタン17L、中ストップボタン17C及び右ストップボタン17Rのいずれか)としているが、これに限られるものではない。例えば、第1停止操作におけるストップボタン(左ストップボタン17L、中ストップボタン17C及び右ストップボタン17Rのいずれか)としてもよいし、第2停止操作におけるストップボタン(左ストップボタン17L、中ストップボタン17C及び右ストップボタン17Rのいずれか)としてもよい。また、停止操作と直接関連しないタイミングで操作されたストップボタンとしてもよい。すなわち、いずれかのストップボタンが操作されたときに、「長押し演出」が行われ得るようにすることができる。

【1077】

また、例えば、「長押し」の対象となる操作手段は、ベットボタン(MAXベットボタン15a又は1ベットボタン15b)であってもよいし、スタートレバー16であってもよい。この場合、ベットボタンについて、メダルの投入操作のタイミングで操作されたときを「長押し」の対象とすることもできるし、メダルの投入操作のタイミングとは異なるタイミングで操作されたときを「長押し」の対象とすることもできる。また、この場合、スタートレバー16について、開始操作のタイミングで操作されたときを「長押し」の対象とすることもできるし、開始操作のタイミングとは異なるタイミングで操作されたときを「長押し」の対象とすることもできる。

【1078】

また、例えば、「長押し」の対象となる操作手段は、上述した遊技に関する操作を行うための操作手段に限られず、演出に関する操作を行うための操作手段であってもよい。例えば、タッチセンサ19が設けられたサブ表示装置18、上述した少なくとも一部にタッチセンサが設けられた表示装置11、あるいは、上述した物理的操作手段であってもよい。

【1079】

図89に示すように、例えば、「長押し演出」が実行されることが決定されている場合に、第3停止操作におけるストップボタンの押下を開始され、ストップスイッチがオン状態(オンエッジ)となった状態で3秒間経過したとき(長押し時)、「演出1」が実行され、その後、第3停止操作におけるストップボタンの押下が終了し、ストップスイッチがオフ状態(オフエッジ)となったとき、「演出2」が実行される。すなわち、第3停止操作におけるストップボタンが所定期間(3秒間)長押しされた場合には、「演出1」及び

「演出 2」が実行される。なお、「演出 1」の実行中に、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となったときには、中途であっても「演出 1」の実行が終了され、「演出 2」の実行が開始される。

【1080】

一方、例えば、「長押し演出」が実行されることが決定されている場合に、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始されたが、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過する前に、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下が終了し、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となったとき（短押し時）には、「演出 1」は実行されず、「演出 2」のみが実行される。

【1081】

なお、「長押し演出」の演出パターンは上述したものに限られない。例えば、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始され、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過したとき（長押し時）、「演出 1」とそれに続いて「演出 2」と実行される演出パターンを有していてもよい。すなわち、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始され、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過したとき（長押し時）には、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となるか否かにかかわらず、「演出 1」及び「演出 2」が実行される演出パターンを有していてもよい。また、例えば、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始され、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過したとき（長押し時）、「演出 2」のみが実行される演出パターンを有していてもよい。

【1082】

また、例えば、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始されたが、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過する前に、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下が終了し、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となったとき（短押し時）、「演出 1」とそれに続いて「演出 2」と実行される演出パターンを有していてもよい。すなわち、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過する前であっても、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となった場合には、「演出 1」及び「演出 2」が実行される演出パターンを有していてもよい。また、例えば、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過する前であっても、ストップスイッチがオフ状態（オフエッジ）となった場合には、「演出 1」のみが実行される演出パターンを有していてもよい。

【1083】

なお、このように複数の演出パターンを有する場合には、例えば、ボーナス役に当籤しているか否かによって異なる選択確率で、これらの複数の演出パターンのうちいずれかの演出パターンが選択されるようにすればよい。また、このような場合、第 3 停止操作におけるストップボタンの押下を開始され、ストップスイッチがオン状態（オンエッジ）となった状態で 3 秒間経過したときであっても、「演出 2」が既に実行されている場合には、「演出 1」は実行されないようにすればよい。

【1084】

図 89 に示した「演出 1」及び「演出 2」が実行される態様の一例を、図 90 を参照しながら説明する。なお、図 90 では、ボーナス役に当籤している場合の、長押し時及び短押し時それぞれの表示例について説明する。

【1085】

まず、「長押し演出」が実行されることが決定されている場合、まず、少なくとも第 3 停止操作の停止操作が行われる前の所定のタイミングで、例えば、「押し続けて～」といったようなメッセージが表示され、第 3 停止操作の停止操作時においてはストップボタンを長押しすべきであることを促す演出が実行される。

【1086】

その後、第 3 停止操作の停止操作時において、遊技者がストップボタンを 3 秒以上押し続けた場合には、例えば、「STEP 1」～「STEP 3」といったような表示が順次

10

20

30

40

50

行われる「演出１」が実行される。そして、遊技者がストップボタンの押下を終了させた場合には、例えば、「WIN!」といった表示によりボーナス役に当籤していることを報知するための「演出２」が実行される。なお、ボーナス役に当籤していない場合には、「演出２」において、ボーナス役に当籤していないことが報知される、例えば、「LOSE」といった表示がなされるようにすればよい。また、「演出１」では、例えば、ボーナス役に当籤していることの期待度が報知されるようにすればよい。この場合、例えば、「STEP１」まで表示される演出パターンと、「STEP２」まで表示される演出パターンと、「STEP３」まで表示される演出パターンと、を有し、ボーナス役に当籤している場合には、「STEP３」まで表示される演出パターンが選択されやすく、ボーナス役に当籤していない場合には、「STEP３」まで表示される演出パターンが選択されにくくすればよい。このようにすれば、長押しにすることによってボーナス役に当籤している期待度が報知されるようになるため、遊技者の操作に応じてその内容が変化する演出に関する興趣をより向上させることができる。

10

【１０８７】

一方、第３停止操作の停止操作時において、遊技者がストップボタンを３秒以上押下し続けなかった場合には、例えば、上述したようなボーナス役に当籤している期待度が報知される「演出１」は実行されず、ボーナス役に当籤しているか否かが報知される「演出２」のみが実行される。

【１０８８】

なお、サブＣＰＵ２０１（副制御回路２００側）で、ストップボタンの押下時間を認識させる手法は種々の手法を採用することができる。例えば、リール停止制御処理（図７２参照）において、有効なストップボタンが押下されたことをストップスイッチが検出する度に、メインＣＰＵ１０１がリール停止コマンドを送信するようにした場合、サブＣＰＵ２０１は、第３停止操作のストップボタンが押下されたことに基づくリール停止コマンドを受信したときに、計時を開始し、計時時間が３秒となった場合には「演出１」を実行し、第３停止操作のストップボタンの押下が終了して、メインＣＰＵ１０１から送信された入賞作動コマンドを受信したときに、「演出２」を実行するようにすればよい。また、サブＣＰＵ２０１は、メインＣＰＵ１０１から送信された無操作コマンドに含まれるストップスイッチのオン状態／オフ状態を示すパラメータに基づいて、「演出１」を実行するか否か、及び「演出２」の実行タイミングの制御を行うようにしてもよい。このようにすれば、メインＣＰＵ１０１（主制御回路９０側）では、ストップボタンの押下時間を計時する必要がなくなることから、遊技者の操作に応じてその内容が変化する演出に関する制御負荷を軽減することができる。

20

30

【１０８９】

なお、サブＣＰＵ２０１（副制御回路２００側）によって制御される、例えば、上述したタッチパネルや物理的操作手段などに対する操作時間によって「長押し演出」が制御される場合には、サブＣＰＵ２０１は独立して操作手段が操作されている時間を計時し、その計時結果に応じて演出内容を制御することが可能となる。ここで、本実施形態で説明しているような遊技機では、主制御回路９０側では容量の制限があるが、副制御回路２００側では特段の制限がないのが一般的であるため、少なくともサブＣＰＵ２０１によってこのような演出が制御されるようにすれば、演出に関する制御負荷の軽減を図ることができる。

40

【１０９０】

また、「演出２」を実行する制御が行われるための所定条件は、操作手段への操作が終了したことに限られず、適宜設定することが可能である。例えば、対象となる操作手段とは異なる操作手段に対する操作が行われたことを所定条件とすることもできるし、対象となる操作手段への操作回数が所定回数未満である場合には、「演出１」、「演出２」の順に演出を発生させ、対象となる操作手段への操作回数が所定回数となった場合には、所定条件を成立させ、「演出１」を発生させずに「演出２」を発生させるようにしてもよい。

【１０９１】

50

このように、本実施形態では、特定の操作手段の操作（例えば、オンエッジ）を検出したときに、計時を開始し、当該計時の開始から所定時間（例えば、3秒）が経過した場合に「演出1」を実行する制御を行い、所定条件が成立したとき（例えば、オフエッジを検出したとき）に、「演出2」を実行する制御を行い、計時の開始から所定時間が経過するよりも前に所定条件が成立した場合は、「演出1」を実行する制御を行わないことが可能となっている。

【1092】

これにより、特定の操作手段の操作態様によって演出を変化させる場合であっても、当該演出に関する制御負荷の軽減を図ることができる。

【1093】

（ボーナス役当籤報知演出の演出例（その3））

次に、図91を参照して、ボーナス役当籤報知演出の演出例（その3）について説明する。図90は、例えば、ボーナス役の（同時）当籤を期待させる内部当籤役（例えば、「スイカ2」）が決定された場合であって、ボーナス役にも当籤した場合に、所定確率で表示装置11に表示され得るボーナス役当籤報知演出の演出例（その3）の表示例を示している。なお、ボーナス役当籤報知演出の演出例（その3）では、表示装置11によって演出が実行される例を挙げて説明しているが、これに限られず、その他演出装置（例えば、情報表示器6、LED82、又は指示モニタ（指示表示器））によって演出が実行されるようにすることもできる。

【1094】

例えば、図91に示す遊技価値表示部（VL）は、表示装置11において、小役が成立した場合にその払出枚数が表示され得る所定の領域（払出枚数表示部）に表示されてもよいし、有利区間であれば有利区間中の払出枚数の累計枚数が表示され得る所定の領域（獲得枚数表示部）に表示されてもよいし、これら払出枚数表示部や獲得枚数表示部とは異なる領域の所定の領域に表示されてもよい。また、上述したように、主制御回路90側で制御される情報表示器6などの7セグ表示器が、当該演出が実行されるときに、遊技価値表示部（VL）として機能するようにすればよい。

【1095】

図91に示すように、ボーナス役当籤報知演出の演出例（その3）では、「枚数先表示演出」と題した演出が行われるようになっている。この「枚数先表示演出」は、例えば、ボーナス状態において払い出され得るメダルの枚数（獲得予定枚数）が、ボーナス状態の作動が開始する前に報知されることで、遊技者にボーナス役に当籤したことが報知される演出となっている。

【1096】

なお、以下では、「枚数先表示演出」において報知される獲得予定枚数として、役連終了枚数カウンタの値が表示される例を挙げて説明しているが、「枚数先表示演出」において報知される獲得予定枚数の態様はこれに限られない。例えば、BB3状態又はBB4状態において、役連終了枚数カウンタの値は「165」枚であるが、仮にボーナス状態中の毎遊技で全て「15枚」のメダルが払い出されるとしたならば、BB3状態又はBB4状態では「12回」の遊技が行えることになり、実際の払出枚数は「180」枚となる。したがって、この実際の払出枚数である「180」枚を獲得予定回数として表示するようにしてもよい。また、BB3状態又はBB4状態においても、3枚のメダルを投入して遊技を行う必要があるため、役連終了枚数カウンタの値が「165」枚の場合、仮にボーナス状態中の毎遊技で全て「15枚」のメダルが払い出されるとしたならば、毎遊技の純増枚数は「15 - 3 = 12枚」となる。したがって、役連終了枚数カウンタの値に合わせたかたちで、純増枚数の累計予定枚数を「12枚」×「11回」=「132」枚とし、この「132」枚を獲得予定回数として表示するようにしてもよい。また、上述したように、実際には「12回」の遊技が行えるため、実際に遊技が行える回数に合わせたかたちで、純増枚数の累計予定枚数を「12枚」×「12回」=「144」枚とし、この「144」枚を獲得予定回数として表示するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【 1 0 9 7 】

また、本実施形態では、B B 1 ~ B B 4 状態において、押し順小役が当籤するようになっているため、この押し順小役の当籤時に押し順が正解したか否かによって遊技毎に払い出されるメダルの枚数も変動する（「 1 5 枚」又は「 6 枚」。図 2 3 参照）ようになっている。また、非有利区間及び通常有利区間においてボーナス役に当籤した場合には、当該ボーナス役に基づくボーナス状態においては押し順報知は行われず、有利区間においてボーナス役に当籤した場合には、当該ボーナス役に基づくボーナス状態においては押し順報知が行われるようになっている。

【 1 0 9 8 】

したがって、例えば、有利区間においてボーナス役（例えば、「 F __ B B 3 」）に当籤した場合には、上述した「 1 4 4 」枚（投入枚数を考慮しない場合には、「 1 8 0 」枚）を獲得予定回数として表示し、非有利区間及び通常有利区間においてボーナス役（例えば、「 F __ B B 3 」）に当籤した場合であって、ボーナス状態において押し順報知が行われない場合に「 1 5 枚」のメダルが払い出される確率を仮に 5 0 % とした場合には、（「 1 2 枚」×「 8 回」= 9 6 枚）+（「 3 枚」×「 8 回」= 2 4 枚）=「 1 2 0 」枚（投入枚数を考慮しない場合には、（「 1 5 枚」×「 8 回」= 1 2 0 枚）+（「 6 枚」×「 8 回」= 4 8 枚）=「 1 6 8 」枚）を獲得予定枚数として表示するようにしてもよい。すなわち、「枚数先表示演出」において報知される獲得予定枚数は、ボーナス状態における払出枚数（あるいは、純増枚数）の期待値であってもよい。

【 1 0 9 9 】

図 9 1 に示すように、例えば、ボーナス役を含む所定の内部当籤役（例えば、「 F __ B B 3 + F __ スイカ 2 」）が決定された場合であって、「枚数先表示演出」が実行されることが決定されている場合には、全てのリールの回転が停止するとき（すなわち、第 3 停止後）に、遊技価値表示部（V L）には獲得予定枚数「 1 6 5 」が表示される。これによって、遊技者に、ボーナス役（図 9 1 に示す例では、「 F __ B B 3 」又は「 F __ B B 4 」）に当籤したことが報知される。なお、本実施形態では、ボーナス役に係る図柄の組合せよりも小役やリプレイ役に係る図柄の組合せが優先的に停止制御されるため、基本的に、このボーナス役に当籤した遊技（ボーナス役当籤ゲーム）では、小役やリプレイ役に係る図柄の組合せ（図 9 1 に示す例では、「 C __ スイカ」）が表示され、ボーナス役に係る図柄の組合せ（図 9 1 に示す例では、「 C __ 赤異色 B B 」）は表示されない。もっとも、ボ

ーナス役当籤ゲームにおいて、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示され得るようにすることもできるが、この場合には、「枚数先表示演出」が実行されないようにしてもよいし、後述するように、遊技価値表示部（V L）を、ボーナス状態において払い出され得るメダルの残り枚数（あるいは、実際に払い出されたメダルの枚数そのもの）を表示するものとして、「枚数先表示演出」が実行されるようにすることもできる。

【 1 1 0 0 】

その後、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されるまで（ボーナス役成立まで）、この遊技価値表示部（V L）における獲得予定枚数「 1 6 5 」の表示は継続される。そして、ボーナス状態の作動が開始されてもこの遊技価値表示部（V L）における獲得予定枚数「 1 6 5 」の表示は継続し、例えば、ボーナス状態において小役に係る図柄の組合せ（図 9 1 に示す例では、「ベル + J A C A : 1 5 枚」）が表示されると（ボーナス状態中入賞発生）、この遊技価値表示部（V L）において表示されている枚数が適宜減算更新されて表示されるようになる。すなわち、遊技価値表示部（V L）は、ボーナス状態が開始される前には、ボーナス状態において払い出され得るメダルの予定枚数を表示し、ボーナス状態においては、実際に払い出されたメダルの枚数に応じて、ボーナス状態において払い出され得るメダルの残り枚数（あるいは、実際に払い出されたメダルの枚数そのもの）を表示するものとなっている。

【 1 1 0 1 】

なお、本実施形態では、ボーナス役に当籤したときに、有利区間に移行することが決定される場合があるようになっている。したがって、例えば、ボーナス役に当籤したときに

、有利区間に移行することが決定された場合には、この有利区間における獲得予定枚数（概ねの期待値であればよい。例えば、ラインバトル状態が平均40ゲーム継続するものであり、ラインバトル状態では1ゲーム平均1枚のメダルが純増するものであれば、「40」枚）をボーナス状態の獲得予定枚数に付加して（加算して）、遊技価値表示部（VL）に表示するようにしてもよい。

【1102】

このように、本実施形態では、有利状態（例えば、ボーナス状態）の発生を許容する権利が付与する旨が決定された（例えば、ボーナス役に当籤した）場合に、当該決定がされたことを報知する特定報知演出（例えば、「枚数先表示演出」）を実行可能であり、この特定報知演出では、付与することが決定された権利に基づいて発生する有利状態において獲得し得る遊技価値に関する所定値（例えば、獲得予定枚数としての役連終了枚数カウンタの値）を表示することが可能となっている。

10

【1103】

これにより、遊技者が得た権利（当籤内容）の価値を具体的に報知する演出を行うことができるため、演出に関する興味を高めるとともに、遊技に関する興味を高めることができる。

【1104】

また、本実施形態では、特定報知演出において所定値を表示した場合、少なくともその後の有利状態の発生まで所定値の表示を継続し、有利状態において遊技価値が獲得された場合に、当該獲得された遊技価値の値に基づいて、所定値の表示を更新するようになっている。

20

【1105】

これにより、有利状態の発生の前後において、価値を報知するための一連の演出を適切に行うことができるため、さらに演出に関する興味を高めることができる。

【1106】

<変形例等>

以上、本実施形態に係る発明の遊技機の構成及び動作について、その作用効果も含めて説明した。しかしながら、本実施形態に係る発明は、上述した実施形態に限定されるものではなく、本実施形態に係る発明の要旨を逸脱しない限り、種々の変形を行うことができる。

30

【1107】

[変形例]

本実施形態では、少なくとも非有利区間において、各設定値間で異なる当籤確率となっている「F__BB3 + F__スイカ2」及び「F__BB4 + F__スイカ2」が当籤した場合には、有利区間に移行させるか否かを決定しない（ART抽籤を行わない）ようになっているが、各設定値間で異なる当籤確率となっている「F__BB3 + F__スイカ2」及び「F__BB4 + F__スイカ2」が当籤した場合にも、各設定値間で同じ当籤確率となっているボーナス役を含むその他の内部当籤役と同様に、有利区間に移行させるか否かを決定する（ART抽籤を行う）ようにしてもよい。この場合、ART抽籤において、有利区間に移行させることが決定される確率は、各設定値間で同じ当籤確率となるようにすればよい。すなわち、各設定値間で異なる当籤確率となっているボーナス役を規定することで、各設定値間で、有利区間に移行させることが決定される確率が変動されるようにしてもよい。

40

【1108】

また、本実施形態では、通常有利区間においても遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得るようになっているが、通常有利区間は、有利区間に移行させるか否かが決定される確率は非有利区間よりも優遇されているが、遊技者に有利な停止操作の情報は報知されない区間として構成することもできる。この場合には、非有利区間から通常有利区間に移行した場合に、状態表示器の点灯を開始させず、有利区間に移行した場合にのみ、状態表示器の点灯が開始されるようにすればよい。

50

【 1 1 0 9 】

なお、遊技者に有利な停止操作の情報が報知されるか否かにかかわらず、通常有利区間は、全体として遊技者のメダルが減少する期間（すなわち、出玉率が「1」未満となる期間）であればよく、有利区間は、全体として遊技者のメダルが増加する期間（すなわち、出玉率が「1」を上回る期間）であればよい。また、有利区間において、一部遊技者のメダルが減少する期間（例えば、上述した各準備状態）があるとしても、当該期間は有利区間に含まれるようにすればよい。

【 1 1 1 0 】

すなわち、遊技の区間を、非有利区間と有利区間とに大別する場合、有利区間は、遊技者の期待感を高めるが出玉の増加は見込めない演出区間（例えば、本実施形態の「通常有利区間」と、実際に出玉の増加が見込める増加区間（例えば、本実施形態の「有利区間」と、を含んで構成されるようにしてもよい。

10

【 1 1 1 1 】

また、本実施形態では、例えば、有利区間中の R T 2 状態において、押し順報知が行われたにもかかわらず、遊技者の押し順ミスによって R T 1 状態に移行（転落）してしまった場合にも、有利区間の遊技期間は進行する（更新される）ものとしているが、この場合には、R T 2 状態に移行（復帰）するまで、有利区間の遊技期間は進行しない（更新されない）ようにすることもできる。また、この場合、例えば、R T 1 状態に転落してから R T 2 状態に復帰するまでに要したゲーム数のうちの一部（例えば、R T 1 状態に転落してから R T 2 状態に復帰するまでに要したゲーム数が 10 ゲームである場合、1 / 2 の 5 ゲーム分。あるいは、R T 1 状態に転落してから R T 2 状態に復帰するまでに要したゲーム数にかかわらず一律 2 ゲーム分）のみ、有利区間の遊技期間を進行させる（更新する）ようにしてもよい。

20

【 1 1 1 2 】

また、本実施形態では、例えば、「チャンス目」が内部当籤役として決定された場合、直接的には有利区間に移行させるか否かを決定しない（A R T 抽籤を行わない）ようになっていたが、A R T 抽籤が行われる内部当籤役や条件は、適宜変形して設定することができる。例えば、「チャンス目」が内部当籤役として決定された場合、「チャンス役」が成立した場合には A R T 抽籤を行わず、「チャンス役」を取りこぼして「R T 3 移行目」が成立した場合（この場合、R T 3 状態に移行するか否かを問わない）には A R T 抽籤が行われるようにしてもよい。すなわち、特定の内部当籤役が当籤したときに、入賞が発生した場合には A R T 抽籤を行わず、取りこぼして入賞が発生しなかった場合には A R T 抽籤が行われるようにしてもよい。

30

【 1 1 1 3 】

また、例えば、メダルの投入枚数（例えば、3 枚）以下のメダルの払い出しとなる小役が高確率で内部当籤役として決定され、フラグ間状態では原則としてボーナス役が成立しないようにし、遊技の基本的な遊技状態をフラグ間状態として遊技を行わせるような仕様を採用することもできる。また、この場合、ボーナス状態は、獲得しているメダルが減少、あるいは維持される状態として構成するようにしてもよい。

【 1 1 1 4 】

また、本実施形態では、規制監視期間に対応する遊技回数が「1500 回」に設定されていたが、規制監視期間に対応する遊技回数はそれ以下であってもよいし、それ以上であってもよい。また、遊技の状況に応じて、規制監視期間を変動させるようにしてもよい。例えば、規制監視期間をメダルの純増枚数（あるいは、払出枚数）によって定めるようにし、遊技店の所定の営業日中に、所定のパチスロ 1 において、純減枚数（すなわち、遊技者がメダルを投入したが、払い出しによって遊技者に還元されなかった、遊技店側の利益となるメダルの枚数）（あるいは、単に投入枚数）が「500 枚」であれば、予め定められた規制監視期間に対応するメダルの枚数「1500 枚」にその「500 枚」を加算し、一連の有利区間において「2000 枚」のメダルを獲得するまでは、当該有利区間が強制的に終了させないようにすることもできる。

40

50

【 1 1 1 5 】

[本実施形態で実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例]

続いて、図 9 2 ~ 図 1 2 0 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（すなわち、遊技仕様）の他の例について説明する。本実施形態では、遊技状態として、ボーナスが作動することで遊技者に有利な遊技期間となるボーナス状態（特別遊技状態）、及び当該ボーナス状態でないことで相対的に遊技者に不利な遊技期間となる非ボーナス状態（通常遊技状態）があり、さらに、当該非ボーナス状態の中でも再遊技（リプレイ）役の当籤確率が異なる複数の R T 状態があることで遊技者の有利度合いを変動させることについて説明した（図 1 3 参照）。また、本実施形態では、遊技区間として、遊技者に停止操作の情報が報知されることで遊技者に有利な遊技区間となる有利区間（有利状態）、及び当該有利区間でないことで相対的に遊技者に不利な遊技区間となる非有利区間（通常状態）があることについて説明した（図 1 4 参照）。そして、これらの遊技状態や遊技区間の開始・継続・終了などの各種の条件やその内容については種々の変形を行うことが可能である。なお、特に示す場合を除き、以下に示す遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 ~ その 1 3）では、本実施形態における、遊技状態、遊技区間、内部当籤役、図柄の組合せなどの遊技要素を適宜用いることができる。

10

【 1 1 1 6 】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1）]

まず、図 9 2 及び図 9 3 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1）について説明する。図 9 2 は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1）における遊技の流れを概念的に説明する図であり、図 9 3 は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1）における遊技価値の付与期待値の一例を示す図である。

20

【 1 1 1 7 】

図 9 2 及び図 9 3 に示すように、遊技者は通常、（ A ）非有利区間から遊技を開始する。（ A ）非有利区間では、遊技者に停止操作の情報が報知されないことに起因して遊技価値量は減少していくことになる。すなわち、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値（傾斜値）は負の値となり、下り傾斜となる。

【 1 1 1 8 】

（ A ）非有利区間において、（ 1 ）有利区間の開始条件が成立すると、（ A ）非有利区間から（ B ）有利区間に移行する。（ B ）有利区間では、遊技者に停止操作の情報が報知されることに起因して遊技価値量は増加していく（少なくとも減少していかない）ことになる。すなわち、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値（傾斜値）は正の値となり（少なくとも負の値とならず）、上り傾斜となる（少なくとも下り傾斜とはならない）。なお、説明の便宜上、本例では準備状態などにおける付与期待値やボーナス状態における付与期待値は考慮していない。

30

【 1 1 1 9 】

なお、付与期待値は、以下のように算出（設計）することができる。例えば、押し順（例えば、5 択）正解だと 1 5 枚のメダルの払い出しがあり、押し順（例えば、5 択）不正解だとメダルの払い出しがない押し順小役の当籤確率が $1/2$ （ $32768/65536$ ）である場合であって、原則 1 回の遊技に 3 枚のメダルをベットすることが必要である場合、1 0 回の遊技の間に必要なメダルは 3 0 枚となる。そして、（ A ）非有利区間である場合、1 0 回の遊技の間に押し順小役に当籤したときに押し順正解となって 1 5 枚のメダルの払い出しを受けることができるのは $1/10$ （ $1/2 \times 1/5$ ）であることから、確率通りであれば、1 0 回の遊技の間にメダルの量が - 1 5 枚（ $15 - 30$ ）となるため、付与期待値は 1 回の遊技あたり「 - 1 . 5 枚」となる。一方、（ B ）有利区間である場合、押し順小役について全て停止操作の情報が報知されて遊技者がそれにしたがって停止操作を行えば、1 0 回の遊技の間に押し順小役に当籤したときに押し順正解となって 1 5 枚のメダルの払い出しを受けることができるのは $1/2$ であることから、確率通りであれば、1 0 回の遊技の間にメダルの量が + 4 5 枚（ $75 - 30$ ）となるため、付与期待値は 1

40

50

回の遊技あたり「+4.5枚」となる。もっとも、これらは説明の便宜上の一例であり、リプレイ役の当籤確率やボーナス役の当籤確率（及びボーナス状態中の付与期待値）も加味して、付与期待値を算出（設計）することも可能である。

【1120】

本例では、(B)有利区間において、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値（傾斜値）が第1の期待値（期待値）となる(B-1)有利区間1と、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値（傾斜値）が第1の期待値（期待値）とは異なる第2の期待値（期待値）となる(B-2)有利区間2と、が設けられ、(2)期待値変動条件が成立すると、(B-1)有利区間1から(B-2)有利区間2に移行する。なお、本例では、(1)有利区間の開始条件が成立すると、まず(A)非有利区間から(B-1)有利区間1に移行し、(B-1)有利区間1において(2)期待値変動条件が成立すると、(B-2)有利区間2に移行するようにしているが、これに限られず、例えば、(1)有利区間の開始条件が成立すると、まず(A)非有利区間から(B-2)有利区間2に移行し、(B-2)有利区間2において(2)期待値変動条件が成立すると、(B-1)有利区間2に移行するようにしてもよい。

10

【1121】

また、例えば、(1)有利区間の開始条件が成立したときに、(B-1)有利区間1又は(B-2)有利区間2のいずれに移行させるかを決定するようにしてもよいし、(1)有利区間の開始条件について、(B-1)有利区間1の開始条件(1-1)と、(B-2)有利区間2の開始条件(1-2)とをそれぞれ定め、(A)非有利区間において、いずれの開始条件(1-1又は1-2)が成立したかに応じて、(B-1)有利区間1又は(B-2)有利区間2に移行させるようにしてもよい。

20

【1122】

そして、(B)有利区間((B-1)有利区間1及び(B-2)有利区間2)において、(3)有利区間の終了条件が成立すると、(B)有利区間から(A)非有利区間に移行する（すなわち、有利区間が終了する）。本例では、このようにして(A)非有利区間及び(B)有利区間の移行制御がなされるものとしている。

【1123】

ここで、本例では、(B-1)有利区間1中の期待値が、(B-2)有利区間2中の期待値よりも大きくなるように構成される（すなわち、(B-2)有利区間2中の期待値が、(B-1)有利区間1中の期待値よりも小さくなるように構成される）。具体的には、例えば上述の例を用いた場合、(B-1)有利区間1においては押し順小役の当籤時に停止操作の情報が報知される確率（報知確率）を100%（すなわち、5回の当籤中5回報知）とすることで、期待値は「+4.5枚」とする一方、(B-2)有利区間2においては押し順小役の当籤時に停止操作の情報が報知される確率（報知確率）を40%（すなわち、5回の当籤中2回報知）とすることで、期待値は「+-0枚」とする。

30

【1124】

なお、この期待値及び期待値は任意に設定することができる。例えば、(B-1)有利区間1が、少なくとも(A)非有利区間よりも遊技者にとって有利な有利状態となっているのであれば、有利区間1における報知確率を1~100%のうちの任意の報知確率に設定可能である。また、例えば、(B-2)有利区間2が、少なくとも(A)非有利区間よりも遊技者にとって有利な有利状態となっており、(B-1)有利区間1よりも低い報知確率となっているのであれば、有利区間2における報知確率を1~100%のうちの任意の報知確率に設定可能である。

40

【1125】

また、有利区間1における報知確率及び有利区間2における報知確率のそれぞれは、予め定められた確率であってもよいし、遊技価値の付与状況に応じて変動するものであってもよい。例えば、期待値及び期待値が、それぞれ「+3.0枚」及び「+1.0枚」と設定されている場合に、(B-1)有利区間1及び(B-2)有利区間2のそれぞれにおいて、所定の遊技回数（例えば、10回）ごとに付与期待値を算出し、算出された付与

50

期待値が、それぞれの期待値 及び期待値 よりも所定の閾値（例えば、プラスマイナス 1 枚）を超えて乖離していた場合には、その後の遊技において適宜報知確率を変動させるようにして、（B - 1）有利区間 1 及び（B - 2）有利区間 2 のそれぞれの期間における最終的な付与期待値が、期待値 及び期待値 となる（に近似する）ようにすればよい。

【1126】

また、この期待値 及び期待値 の設定手法も上述した報知確率を変動させる手法に限られない。例えば、（B - 1）有利区間 1 をリプレイ役の当籤確率の高い状態（高 R T 状態）とし、（B - 2）有利区間 2 をリプレイ役の当籤確率の低い状態（低 R T 状態）とし、リプレイ役の当籤確率（入賞確率）を異ならせることで、期待値 が期待値 よりも小さくなるように設定してもよい（この場合、付与期待値はリプレイ役の当籤確率が加味される。また、報知確率は変動させてもよいし、変動させなくともよい）。すなわち、（B - 1）有利区間 1 と（B - 2）有利区間 2 とを異なる R T 状態に制御することで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい。

【1127】

また、例えば、（B - 1）有利区間 1 をボーナス（ボーナス状態）が作動することを困難としない状態とし、（B - 2）有利区間 2 をボーナスが作動することを困難とする状態とし、ボーナスの作動確率（入賞確率）を異ならせることで、期待値 が期待値 よりも小さくなるように設定してもよい（この場合、付与期待値はボーナスの作動確率及びボーナス状態中の付与期待値が加味される。また、報知確率は変動させてもよいし、変動させなくともよい）。すなわち、ボーナスの作動に関し、（B - 1）有利区間 1 と（B - 2）有利区間 2 とを異なる制御状態に制御することで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい。なお、ボーナスが作動することを困難としない状態、あるいは困難とする状態は、内部当籤役（持越役を含む）の種別、遊技状態の種別、それらに応じた停止制御の制御内容、あるいは停止操作の情報の報知内容などを複合的に加味して適宜創出することができる（一例は、後述の図 9 4 ~ 図 9 9 の説明を参照）。

【1128】

また、例えば、上述の例の押し順小役について、所定の態様で停止操作が行われた場合には 15 枚のメダルが払い出され、上記所定の態様とは異なる特定の態様で停止操作が行われた場合には 6 枚のメダルが払い出されるものとし、（B - 1）有利区間 1 において押し順小役が当籤したときには上記所定の態様を示す停止操作の情報が報知されるものとし、（B - 2）有利区間 2 において押し順小役が当籤したときには上記特定の態様を示す停止操作の情報が報知されるものとし、払出枚数を異ならせることで、期待値 が期待値 よりも小さくなるように設定してもよい（この場合、報知確率は変動させてもよいし、変動させなくともよい）。

【1129】

また、例えば、上述の例の押し順小役を複数種類（例えば、押し順小役 A と押し順小役 B）設けるようにし、押し順小役 B の当籤確率は押し順小役 A の当籤確率よりも低く設定されるようにし、（B - 1）有利区間 1 において押し順小役 A が当籤したときには停止操作の情報が報知される一方、押し順小役 B が当籤したときには停止操作の情報が報知されず（もっとも、停止操作の情報が報知されるようにしてもよい）、（B - 2）有利区間 2 において押し順小役 B が当籤したときには停止操作の情報が報知される一方、押し順小役 A が当籤したときには停止操作の情報が報知されないようにして、期待値 が期待値 よりも小さくなるように設定してもよい。すなわち、（B - 1）有利区間 1 と（B - 2）有利区間 2 とで報知対象役を異ならせることで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい。なお、押し順小役 A と押し順小役 B の当籤確率は同一（あるいは略同一）であるが、押し順正解時の払出枚数を、上述の如く 15 枚と 6 枚のように異ならせることで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい。

【1130】

また、例えば、内部当籤役として、押し順小役（例えば、6 択）と押し順リプレイ（例えば、6 択）とを有するとともに、遊技状態として、高 R T 状態と低 R T 状態とを有し、

押し順リプレイに当籤したときに、押し順正解である場合には、低 R T 状態であれば高 R T 状態に移行し、高 R T 状態であれば高 R T 状態が維持される図柄の組合せが表示される一方、押し順不正解である場合には、低 R T 状態であれば低 R T 状態が維持され、高 R T 状態であれば低 R T 状態に移行するようにし（例えば、図 23 参照）、（B - 1）有利区間 1 においては、押し順小役及び押し順リプレイのいずれに当籤したときにも正解となる押し順が報知されることで、押し順小役に当籤したときにはメダルが増加し、押し順リプレイに当籤したときには高 R T 状態に移行し、あるいは高 R T 状態が維持されるようにして期待値 が設定され、（B - 2）有利区間 2 においては、これらのいずれか一方について正解となる押し順が報知されないことで、期待値 が設定されるようにしてもよい。

【1131】

この場合、（B - 2）有利区間 2 を、押し順小役については正解となる押し順が報知され、押し順リプレイについては正解となる押し順が報知されない状態とした場合には、高 R T 状態に移行させ、あるいは高 R T 状態を維持することが困難となる（低 R T 状態の滞在率が高くなる）ものの、押し順小役に当籤したときにメダルを増加させることは容易となるという状態を創出することができる。また、（B - 2）有利区間 2 を、押し順リプレイについては正解となる押し順が報知され、押し順小役については正解となる押し順が報知されない状態とした場合には、高 R T 状態に移行させ、あるいは高 R T 状態を維持することは容易となる（高 R T 状態の滞在率が高くなる）ものの、押し順小役に当籤したときはメダルを増加させるが困難となるという状態を創出することができる。すなわち、（B - 1）有利区間 1 と（B - 2）有利区間 2 とで報知対象となる内部当籤役の種別を異ならせることで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい（この場合、報知確率は変動させてもよいし、変動させなくともよい）。なお、（B - 2）有利区間 2 においては、押し順小役及び押し順リプレイのいずれに当籤したときにも正解となる押し順が報知されないようにすることで、期待値 が設定されるようにすることもできる。

【1132】

また、例えば、押し順小役（例えば、6 択）について、（B - 1）有利区間 1 にあっては、少なくとも第 1 停止操作及び第 2 停止操作について正解となる押し順（すなわち、正解押し順の全て）が報知されることで期待値 が設定され、（B - 2）有利区間 2 にあっては、第 1 停止操作のみについて正解となる押し順（すなわち、正解押し順の一部）が報知されることで期待値 が設定されるようにしてもよい。具体的には、例えば、第 1 停止操作が「左」、第 2 停止操作が「中」、第 3 停止操作が「右」のときに押し順正解となる押し順小役に当籤したとき、（B - 1）有利区間 1 であれば「左 中 右」という押し順が報知されることで、報知にしたがって停止操作を行えば 100% の確率でメダルを増加させることができる一方、（B - 2）有利区間 2 であれば「左 ? ?」という押し順が報知されることで、報知にしたがって停止操作を行っても、残りの 2 択は遊技者自身で正解する必要があるため、50% の確率でしかメダルを増加させることができなくなる。すなわち、（B - 1）有利区間 1 と（B - 2）有利区間 2 とで停止操作の情報の報知内容（択数）を異ならせることで、期待値 及び期待値 を変動させるようにしてもよい（この場合、報知確率は変動させてもよいし、変動させなくともよい）。

【1133】

また、例えば、（B）有利区間を、停止操作の情報が必ず報知され、期待値は「+10.0 枚」と高純増であるが 1 回の継続期間は比較的短い（例えば、8 ゲーム間）増加区間（特別有利区間）として構成し、（B - 1）有利区間 1 及び（B - 2）有利区間 2 を、停止操作の情報は報知されない（あるいは特別有利区間よりも少ない所定確率で報知されるものとしてもよい）が、上記特別有利区間への移行に関してそれぞれ期待値が異なる演出区間（通常有利区間）として構成し、特別有利区間と通常有利区間との間で相互に移行可能に構成する。そして、（B - 1）有利区間 1 では特別有利区間への移行抽籤（A T 抽籤）が行われ、当該抽籤においては、例えば、約 1 / 5 の確率で特別有利区間に移行することが決定される（A T 抽籤に当籤する）ように移行確率が設定される（すなわち、増加区間における遊技媒体の増加率と当該増加区間への移行確率とによって期待値 が設定され

10

20

30

40

50

る)一方、(B-2)有利区間2でもAT抽籤が行われるが、当該抽籤においては、例えば、約1/20の確率でAT抽籤に当籤するように移行確率が設定される(すなわち、増加区間における遊技媒体の増加率と当該増加区間への移行確率とによって期待値よりも小さい期待値が設定される)ようにしてもよい。

【1134】

すなわち、(B-1)有利区間1と(B-2)有利区間2とで増加区間(特別有利区間)への移行確率を異ならせることで、期待値及び期待値を変動させるようにしてもよい。なお、上記で述べた移行確率は適宜設定することができる。また、(B-2)有利区間2ではAT抽籤が行われないようにしてもよく、この場合には、(B-2)有利区間2において、例えば、約1/20の確率で(B-1)有利区間1に移行させるか否かが抽籤され、当該抽籤に当籤した場合に(B-2)有利区間2から(B-1)有利区間1に移行されるものとすればよい。また、(B-1)有利区間1から(B-2)有利区間2に移行される条件も適宜設定することができる。この場合、例えば、(B-1)有利区間1において、AT抽籤に当籤することなく所定期間(例えば、5ゲームの間)遊技が行われたこと、AT抽籤が非当籤の場合に行われる転落抽籤に当籤したこと、増加区間(特別有利区間)への連続移行回数が所定回数(例えば、5回)となったこと、増加区間(特別有利区間)での獲得枚数が所定枚数(例えば、400枚を超える)となったこと、などを採用することができる。このように、(B-1)有利区間1と(B-2)有利区間2との移行仕様によって、さらに遊技性を多様化することも可能である。

【1135】

なお、本例では、異なる付与期待値が設定される状態として、期待値が設定される(B-1)有利区間1、及び期待値が設定される(B-2)有利区間2の2つの状態を有することを例に挙げて説明しているが、異なる付与期待値が設定される状態は3つ以上であってもよく、適宜設定可能である。例えば、さらに、期待値が設定される(B-3)有利区間3を有していてもよい。この場合、付与期待値は、
となるように設定することもできるし、
となるように設定することもできる。すなわち、(B-1)有利区間1と(B-2)有利区間2との間に中間の付与期待値となる(B-3)有利区間3を設定したり、(B-2)有利区間2よりも付与期待値が小さい(B-3)有利区間3を設定したりし、順次変動条件が成立するごとに段階的に付与期待値を変動させることで、より細分化した付与期待値の調整を可能とするようにしてもよい。

【1136】

(遊技性(遊技仕様)の他の例(その1)における第1の態様)

続いて、上述した遊技性(遊技仕様)の他の例(その1)を前提とした遊技仕様の第1の態様について説明する。この第1の態様では、例えば、期待値が「+3.0枚」、期待値が「+2.0枚」に設定される。もっとも、上述のとおり、付与期待値は任意に設定可能である。

【1137】

この第1の態様では、(A)非有利区間において、(1)有利区間の開始条件が成立すると、(B-1)有利区間1に移行する。なお、(1)有利区間の開始条件については、本実施形態で説明した各種の条件(例えば、ARTに移行させることが決定される条件)を採用することができるし、また、内部当籤役の種別に基づく(あるいは基づかない専用の)移行抽籤の抽籤結果などを採用することもできる。

【1138】

(B-1)有利区間1に移行すると、少なくとも所定期間(予め定められた任意の遊技期間とすることができる。例えば、50ゲーム間)は、付与期待値が期待値(例えば、「+3.0枚」となる(B-1)有利区間1が継続する。また、(B-1)有利区間1においては、有利区間を継続するか否かが決定される。有利区間を継続することが決定される条件については、本実施形態で説明した各種の条件(例えば、ARTを継続させることが決定される条件)を採用することができるし、また、内部当籤役の種別に基づく(あるいは基づかない専用の)移行抽籤の抽籤結果などを採用することもできる。

【 1 1 3 9 】

(B - 1) 有利区間 1 において上記所定期間の遊技が行われたとき、有利区間を継続することが決定されている場合には、(2) 期待値変動条件が成立し、(B - 2) 有利区間 2 に移行する。(B - 2) 有利区間 2 に移行すると、少なくとも特定期間(予め定められた任意の遊技期間とすることができ。例えば、100 ゲーム間) は、付与期待値が期待値 (例えば、「+ 2 . 0 枚」) となる(B - 2) 有利区間 2 が継続する。なお、(B - 2) 有利区間 2 においては、さらに、有利区間を継続するか否かは決定されない。(B - 2) 有利区間 2 において上記特定期間の遊技が行われたとき、(3) 有利区間の終了条件が成立し、(A) 非有利区間に移行する。

【 1 1 4 0 】

一方、(B - 1) 有利区間 1 において上記所定期間の遊技が行われたとき、有利区間を継続することが決定されていない場合にも、(3) 有利区間の終了条件が成立し、(A) 非有利区間に移行する。

【 1 1 4 1 】

なお、(B - 1) 有利区間 1 において上記所定期間の遊技が行われたとき、有利区間を継続することが決定されている場合には、(2) 期待値変動条件が成立するが、この場合、一度(B - 1) 有利区間 1 から(A) 非有利区間に移行させ、(A) 非有利区間において所定の待機期間(例えば、4 ~ 3 2 ゲーム間の任意の前兆状態) が経過した後、(A) 非有利区間から(B - 2) 有利区間 2 に移行させて、有利区間を継続させるようにしてもよい。

【 1 1 4 2 】

また、この第 1 の態様では、(B - 2) 有利区間 2 が上記特定期間継続するものとしているが、この特定期間を予め定められた任意の遊技期間とせず、例えば、(B - 1) 有利区間 1 及び(B - 2) 有利区間 2 を含む(B) 有利区間全体において、付与期待値が期待値 (例えば、「+ 2 . 0 枚」) となるまでの期間としてもよい。すなわち、有利区間の序盤(B - 1) においては期待値 によって付与期待値を大きくし、その後の有利区間(B - 2) においては期待値 によって付与期待値を(小さく) 調整するようにしてもよい。なお、この場合、上記所定の待機期間は、期待値 によって付与期待値が調整される上で、(B) 有利区間全体に含まれるものとしてもよいし、(B) 有利区間全体には含まれないものとしてもよい。

【 1 1 4 3 】

具体的には、例えば、(B - 1) 有利区間 1 において期待値 通りの遊技価値が付与された場合、(B - 1) 有利区間 1 における遊技価値の付与量は 3 枚 × 50 ゲームで「150 枚」となる。その後、(B - 2) 有利区間 2 において一定の基準(例えば、上記所定期間と同様 50 ゲーム間でもよいし、それより長いゲーム間、あるいはそれより短いゲーム間でもよいし、実際の遊技時間でもよい。また、その他の基準も適宜採用できる) にしたが、(B) 有利区間全体の付与期待値が期待値 となるように適宜報知確率が調整される。例えば、(B) 有利区間全体を 100 ゲームとした場合、(B - 1) 有利区間 1 において「150 枚」の遊技価値が付与されているので、残りの有利区間である(B - 2) 有利区間 2 においては 50 ゲーム間で「50 枚」の遊技価値が付与されるように報知確率が調整され、(B) 有利区間全体で「200 枚」の遊技価値が付与されるものとすればよい。

【 1 1 4 4 】

この第 1 の態様の遊技機によれば、有利状態((B) 有利区間) が開始されてから所定期間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態(期待値 が設定される(B - 1) 有利区間 1) で遊技を行うことが可能となり、有利状態が継続されてから特定期間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態(期待値 が設定される(B - 2) 有利区間 2) で遊技を行うことが可能となる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【 1 1 4 5 】

なお、この第1の態様の遊技機において、有利状態が継続されてから特定期間（（B - 2）有利区間2）は、有利状態を継続させることを決定しないようにしてもよい。このようにすれば、より適切に出玉率を管理することができる。

【1146】

また、この第1の態様の遊技機において、有利状態中に有利状態を継続させることを決定した場合であっても、当該有利状態を一旦終了させ、所定の待機期間が経過した後に、有利状態を継続させる（再開させる）ようにしてもよい。このようにすれば、より適切に出玉率を管理することができるのみならず、有利状態が継続するか否かに関し、遊技の興趣を向上させることができる。

【1147】

10

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その1）における第2の態様）

続いて、上述した遊技性（遊技仕様）の他の例（その1）を前提とした遊技仕様の第2の態様について説明する。この第2の態様では、例えば、期待値が「+7.5枚」、期待値が「+ - 0枚」に設定される。もっとも、上述のとおり、付与期待値は任意に設定可能である。

【1148】

この第2の態様では、（A）非有利区間において、（1）有利区間の開始条件が成立すると、（B - 1）有利区間1に移行する。なお、（1）有利区間の開始条件については、本実施形態で説明した各種の条件（例えば、ARTに移行させることが決定される条件）を採用することができるし、また、内部当籤役の種別に基づく（あるいは基づかない専用の）移行抽籤の抽籤結果などを採用することもできる。

20

【1149】

（B - 1）有利区間1に移行すると、少なくとも所定期間（予め定められた任意の遊技期間とすることができる。例えば、100ゲーム間）は、付与期待値が期待値（例えば、「+7.5枚」となる（B - 1）有利区間1が継続する。なお、この所定期間は、例えば、（B - 1）有利区間1が開始されてから付与された遊技価値が所定量（例えば、1000枚）となるまで（あるいは、超えるまで）の期間としてもよいし、（B - 1）有利区間1が開始されてからの遊技時間が所定時間（例えば、0.25時間）となるまで（あるいは、超えるまで）の期間としてもよい。

【1150】

30

（B - 1）有利区間1において上記所定期間の遊技が行われたとき、（2）期待値変動条件が成立し、（B - 2）有利区間2に移行する。（B - 2）有利区間2に移行すると、（3）有利区間の終了条件が成立するまで、付与期待値が期待値（例えば、「+ - 0枚」となる（B - 2）有利区間2が継続する。この第2の態様では、（3）有利区間の終了条件を、例えば、（B）有利区間が開始されてから特定期間（例えば、1500回の遊技の間）遊技が行われたこと、又は（B）有利区間が開始されてから付与された遊技価値が特定量（例えば、純増3000枚）となったこと、として定めることができる（有利区間のこのような終了処理は、上述あるいは後述のリミット処理参照）。さらに、このようにして定めた終了条件が成立する前（例えば、リミット処理が実行される前）であっても、ボーナス役に入賞（ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されてボーナス状態が作動）した場合には、（B - 1）有利区間1であるか（B - 2）有利区間2であるかにかかわらず、（B）有利区間が終了し、（B）有利区間から（A）非有利区間に移行する。すなわち、（B）有利区間において、ボーナス状態への移行を可能とするボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることは、（3）有利区間の終了条件の1つとなる。

40

【1151】

なお、（3）有利区間の終了条件については、本実施形態で説明した各種の条件（例えば、ARTに終了させることが決定される条件）を採用することができるし、また、内部当籤役の種別に基づく（あるいは基づかない専用の）移行抽籤の抽籤結果などを採用することもできる。また、（B - 2）有利区間2においては、例えば、（3）有利区間の終了条件が成立するまでは、所定の単位（例えば、1セットの50ゲーム）ごとに有利区間（

50

(B-2) 有利区間 2) を継続するか否かが決定され、有利区間を継続することが決定された場合に、この所定の単位分有利区間を継続させ、有利区間を継続することが決定されない場合には、(3) 有利区間の終了条件が成立する前でも有利区間を終了させるようにしてもよい。この場合、有利区間を継続することが決定される条件については、本実施形態で説明した各種の条件(例えば、ARTを継続させることが決定される条件)を採用することができるし、また、内部当籤役の種別に基づく(あるいは基づかない専用の)移行抽籤の抽籤結果などを採用することもできる。

【1152】

また、この第2の態様では、(B) 有利区間において、例えば、表示装置 11 などを用いて特定報知を実行することが可能となっている。この特定報知は、ボーナス役に当籤していること(持ち越されていること)を遊技者に対して示唆するための報知演出となっている。もっとも、この第2の態様では、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されると有利区間が終了するようになっていことから、この特定報知は、(ボーナス役に係る図柄の組合せを表示させて) 有利区間を終了させること、あるいは(ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることを回避させて) 有利区間を継続させること、のいずれかを遊技者が選択できるようにする情報を示唆するための報知演出であるとも言い得る。また、単に、ボーナス役に係る図柄の組合せを表示させればボーナス状態に移行可能であることを示唆するための報知演出であるとしてもよいし、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることを回避させれば有利区間を継続可能であることを示唆するための報知演出であるとしてもよい。

【1153】

例えば、この第2の態様では、(B) 有利区間において、ボーナス役に当籤した場合(あるいは、持ち越されている場合)であって、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることが可能な遊技である場合には、上記特定報知が実行されるように構成することができる。なお、本実施形態では、ボーナス役よりもリプレイ役又は小役を優先的に成立させる停止制御が行われるため、ボーナス役とリプレイ役又は小役が重複して当籤した場合(あるいは、ボーナス役が持ち越されている場合にリプレイ役又は小役が重複して当籤した場合)には、原則としてボーナス役に係る図柄の組合せが表示されない。すなわち、「ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることが可能な遊技」とはこのような状況でなく、遊技者の停止操作のタイミングが適切であれば、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示され得る遊技であることを意味する。

【1154】

上述のように上記特定報知が実行されるように構成した場合、遊技者は、(3) 有利区間の終了条件が成立するまで(例えば、有利区間のリミット処理が実行されるまで)の遊技期間の範囲内において、ボーナス状態への移行を回避することで有利区間を継続させることができる。なお、このような観点からは、必ずしも(B) 有利区間を(B-1) 有利区間 1 と(B-2) 有利区間 2 とに区分けする必要はなく(すなわち、付与期待値を期待値と期待値とで異ならせる必要はなく)、(B) 有利区間における付与期待値が一定の付与期待値(例えば、「+1.5枚」となるようにしてもよい。

【1155】

また、例えば、この第2の態様では、(B-1) 有利区間 1 において、ボーナス役に当籤した場合(あるいは、持ち越されている場合)に、(2) 期待値変動条件が成立した場合には、(2) 期待値変動条件が成立したときに上記特定報知が実行されるように構成することができる。なお、この場合、上記と同様、上記特定報知が実行可能となった以後の遊技において、「ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることが可能な遊技」である場合に、上記特定報知が実行されるように構成してもよい。また、(2) 期待値変動条件が成立した後、(3) 有利区間の終了条件が成立する前に、(B-2) 有利区間 2 において、ボーナス役に当籤した場合には、このときに上記特定報知が実行されるように構成することができる。なお、この場合、上記と同様、上記特定報知が実行可能となった以後の遊技において、「ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることが可能な遊技」である

場合に、上記特定報知が実行されるように構成してもよい。また、このように構成した上で、さらに（Ｂ－１）有利区間１において、ボーナス役に当籤した場合（あるいは、持ち越されている場合）に、「ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることが可能な遊技」であれば、上記特定報知が実行されるように構成してもよい。

【１１５６】

上述のように上記特定報知が実行されるように構成した場合、遊技者は、（３）有利区間の終了条件が成立するまで（例えば、有利区間のリミット処理が実行されるまで）の遊技期間の範囲内において、例えば、（Ｂ－１）有利区間１の遊技期間では、期待値が設定されることで遊技価値が飛躍的に増加するので、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることを回避させて有利区間を継続させ、（Ｂ－２）有利区間２の遊技期間では、期待値が設定されることで遊技価値が飛躍的に増加することはないので、ボーナス役に係る図柄の組合せを表示させて有利区間を終了させ、その後の遊技で再度（１）有利区間の開始条件を成立させて（Ｂ－１）有利区間１に移行させようとすることを選択することもできるし、時間の余裕が無いなどの場合にはそのまま遊技を終了することを選択することもできる。一方、（Ｂ－２）有利区間２の遊技期間では、期待値が設定されることで遊技価値が飛躍的に増加することはないが、（Ａ）非有利区間よりも遊技者に有利であることにかわりはないため、遊技を楽しむべく、ボーナス役に係る図柄の組合せが表示されることを回避させて有利区間を継続させることを選択することもできる。

【１１５７】

また、この第２の態様では、ボーナス役に係る図柄の組合せを表示させて（Ｂ）有利区間を終了させた場合、例えば、表示装置１１などを用いて特殊特典を付与することが可能となっている。この特殊特典は、遊技者に付与される各種特典のうち、遊技価値の付与に関連しない（すなわち、出玉率に影響を与えない）特典となっている。なお、特殊特典を、遊技価値の付与に関連する（すなわち、出玉率に影響を与える）特典（例えば、有利区間の移行条件を成立させるための権利、あるいはボーナス状態中に停止操作の情報が報知される権利など）とすることを妨げるものではないが、射幸性の適正化などの観点からは、遊技価値の付与に関連しない（すなわち、出玉率に影響を与えない）特典とすることが望ましい。

【１１５８】

特殊特典の具体例としては、例えば、通常は実行される確率が低い特別演出（例えば、上述した各種エンディング演出やその他のプレミア演出）の実行、遊技者にとって有益な情報が報知される特別報知（例えば、設定値の示唆報知、演出内容ごとの期待度報知、ボーナス役の当籤確率や有利区間の移行確率などの履歴報知）の実行、遊技者の携帯端末を用いインターネットを介して提供される情報提供サービス上の得点付与や特定条件の解放などを挙げることができる。

【１１５９】

上述のように上記特殊特典されるように構成した場合、遊技者は、遊技価値の付与といった直接的な特典を享受することはないものの、遊技を楽しむ上では関心度の高い間接的な特典を享受することができるため、特に、（Ｂ－２）有利区間２のように、期待値が設定されることで遊技価値が飛躍的に増加することはない状態においては、有利区間を早期に終了させるインセンティブを与えることもできる。

【１１６０】

この第２の態様の遊技機によれば、有利状態（（Ｂ）有利区間）は、所定の終了条件（（３）有利区間の終了条件）が成立した場合、又は所定の終了条件が成立する前に特別遊技状態（ボーナス状態）に移行した場合に終了する。そして、有利状態では、特別遊技状態への移行が可能となっている場合、その旨を示す特定報知が実行される。したがって、遊技者は、規定された所定の終了条件の範囲内であれば、特別遊技状態への移行を回避することで有利状態を継続させることができる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【１１６１】

10

20

30

40

50

また、この第2の態様の遊技機において、所定の終了条件は、遊技者に一定の特典が付与されたとき（あるいは、付与されたと仮定されるとき）に（例えば、上述あるいは後述のリミット処理によって）終了されるようにしてもよい。このようにすれば、簡易な構成でより適切に出玉率を管理することができる。

【1162】

また、この第2の態様の遊技機によれば、有利状態（（B）有利区間）が開始されてから特定の変動条件（（2）期待値変動条件）が成立するまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態（期待値が設定される（B-1）有利区間1）で遊技を行うことが可能となり、特定の変動条件が成立してから有利状態が終了されるまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態（期待値が設定される（B-2）有利区間2）で遊技を行うことが可能となる。また、有利状態は、所定の終了条件が成立する前であっても、特別遊技状態への移行を契機として終了させることが可能である。すなわち、遊技者は、例えば、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、所定の終了条件が成立するまで有利状態を継続させることもできるし、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させ、再度遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行う機会を得ようとすることもできる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【1163】

また、この第2の態様の遊技機によれば、有利状態（（B）有利区間）が開始されてから特定の変動条件（（2）期待値変動条件）が成立するまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態（期待値が設定される（B-1）有利区間1）で遊技を行うことが可能となり、特定の変動条件が成立してから有利状態が終了されるまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態（期待値が設定される（B-2）有利区間2）で遊技を行うことが可能となる。また、有利状態は、所定の終了条件が成立する前であっても、特別遊技状態への移行を契機として終了させることが可能である。さらに、有利状態が特別遊技状態への移行を契機として終了した場合、遊技価値の付与に関連しない特殊特典を付与することが可能である。すなわち、遊技者は、例えば、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、所定の終了条件が成立するまで有利状態を継続させることもできるし、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させ、再度遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行う機会を得ようとすることもできる。また、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させる場合には、所定の終了条件が成立して有利状態を終了させた場合には付与されない特殊特典が付与されるため、遊技者に有利状態を早期に終了させるインセンティブを与えることもできる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【1164】

なお、この第2の態様の遊技機において、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、特別遊技状態への移行が可能となっている場合には、その旨を示す特定報知が実行されるようにしてもよい。このようにすれば、遊技者に、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を継続させない選択肢があることを明示することができ、さらに遊技の興趣を維持することができる。

【1165】

また、この第2の態様の遊技機において、有利状態中の遊技価値の付与期待値は、有利状態中に遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率（報知確率）によって調整されるようにしてもよい。このようにすれば、簡易な構成でより適切に出玉率を管理することができる。

【1166】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その2）]

続いて、図94を参照して、本実施形態に係るパチスロ1において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その2）について説明する。図94は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その2）における遊技の流れを概念的に説明する図である。

【 1 1 6 7 】

図 9 4 に示すように、本例では、一般遊技状態（C Z 状態）、（A）B B 1 状態、（B）B B 2 状態、及び（C）B B 3 状態の遊技状態がある。一般遊技状態（C Z 状態）は、再遊技（リプレイ）役の当籤確率も低く、有利区間への移行も発生しない遊技状態であり、この遊技状態自体は遊技者に有利な遊技状態ではないが、（B）B B 2 状態又は（C）B B 3 状態に移行可能な点において、（A）B B 1 状態よりも有利な遊技状態（チャンスゾーン。特賞連荘状態）として位置付けられる。また、一般遊技状態（C Z 状態）、（B）B B 2 状態、及び（C）B B 3 状態は、後述の一連の増加区間として位置付けられる。なお、一般遊技状態（C Z）においても、（A）B B 1 状態と同様、特定の報知条件が成立した場合には有利区間が特定期間発生するように構成することもできる。

10

【 1 1 6 8 】

一般遊技状態（C Z 状態）において、B B 1（例えば、本実施形態における B B 1 及び B B 2）に当籤し、B B 1 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（1）B B 1 開始条件が成立し、一般遊技状態（C Z 状態）から（A）B B 1 状態に移行する。後述するように、これは、遊技者にとって相対的に不利な遊技状態の移行として位置付けられる。また、一般遊技状態（C Z 状態）において、B B 2（例えば、本実施形態における B B 3）に当籤し、B B 2 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（3）B B 2 開始条件が成立し、一般遊技状態（C Z 状態）から（B）B B 2 状態に移行する。また、一般遊技状態（C Z 状態）において、B B 3（例えば、本実施形態における B B 4）に当籤し、B B 3 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（5）B B 3 開始条件が成立し、一般遊技状態（C Z 状態）から（C）B B 2 状態に移行する。後述するように、これらは、遊技者にとって相対的に有利な遊技状態の移行として位置付けられる。

20

【 1 1 6 9 】

ここで、一般遊技状態（C Z 状態）において、B B 1 に一旦当籤すると、B B 1 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されるまで当該 B B 1 は持ち越される（B B 1 に係る図柄の組合せの表示が許可される B B 1 許可状態が継続する）ため、当該一般遊技状態（C Z 状態）では B B 2 及び B B 3 に当籤することがない。また、一般遊技状態（C Z 状態）において、B B 2 又は B B 3 に一旦当籤すると、B B 2 又は B B 3 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されるまで当該 B B 2 又は B B 3 は持ち越される（B B 2 又は B B 3 に係る図柄の組合せの表示が許可される B B 2 許可状態又は B B 3 許可状態が継続する）ため、当該一般遊技状態（C Z 状態）では B B 1 に当籤することがない。すなわち、一般遊技状態（C Z 状態）では、いずれかのボーナス役（B B 1 ~ B B 3）に当籤した場合、当籤したボーナス役に応じたボーナス状態が終了して再度一般遊技状態（C Z 状態）に移行しない限り、他のボーナス役に当籤しないように構成される。

30

【 1 1 7 0 】

なお、本例において、B B 2 に係る図柄の組合せは、例えば「赤 7 - 赤 7 - 赤 7」といった図柄の組合せとして構成され、B B 3 に係る図柄の組合せは、例えば「青 7 - 青 7 - 青 7」といった図柄の組合せとして構成される。また、B B 1 に係る図柄の組合せは、例えば「赤 7 - 赤 7 - チェリー 1」及び「青 7 - 青 7 - チェリー 1」といった図柄の組合せとして構成される（図 1 5 参照）。本例では、このように構成した上で、一般遊技状態（C Z 状態）においていずれかのボーナス役（B B 1 ~ B B 3）に当籤した場合に、ボーナス役に当籤した旨が示唆される当籤報知が行われるようにしてもよい。具体的には、「7 を狙え！」などの表示がなされ、遊技者に「赤 7」図柄あるいは「青 7」図柄を狙うべきことが示されるようにすればよい。この場合、例えば、遊技者が「赤 7」図柄を狙って目押ししたとき、B B 2 に当籤している場合には「赤 7」揃いとなって B B 2 状態に移行し、B B 3 に当籤している場合には「赤 7」揃いとならず、かつ B B 1 に係る図柄の組合せも表示されず、B B 3 に当籤していることが認識され、B B 1 に当籤している場合には B B 1 に係る図柄の組合せが表示されて B B 1 状態に移行することとなる。このようにすれば、本例の遊技性において、報知に関する興趣をさらに向上させることが可能となる。ま

40

50

た、上記のような当籤報知は、一般遊技状態（ＣＺ状態）においていずれかのボーナス役（ＢＢ１～ＢＢ３）に当籤した場合には無条件で行われるようにしてもよいし、例えば、一般遊技状態（ＣＺ状態）において有利区間を発生可能とした場合には、当該有利区間中にのみ行われるようにしてもよい。

【１１７１】

（Ａ）ＢＢ１状態は、（Ａ－１）ＢＢ１一般中、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中、及び（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中から構成される。なお、（Ａ）ＢＢ１状態においては、ＢＢ１～ＢＢ３が新たに抽籤されることはなく、したがって、（Ａ）ＢＢ１状態が継続する限り、一般遊技状態（ＣＺ状態）、（Ｂ）ＢＢ２状態、及び（Ｃ）ＢＢ３状態に移行する場合はない。

10

【１１７２】

（Ａ－１）ＢＢ１一般中では、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が低く（あるいは、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が「０」に（すなわち、再遊技（リプレイ）が抽籤されないように））設定される。また、押し順小役（例えば、６択の押し順正解で９枚のメダル払出、押し順不正解だが停止操作のタイミングが適切なら１枚のメダル払出、押し順不正解で停止操作のタイミングも不適切ならメダル払出無し、など）、非作動状態と比べていずれかの小役の当籤確率が向上するＲＢ状態を作動させるためのＲＢ、及び（Ａ）ＢＢ１状態を有利区間とするか否かの決定がなされる有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。

【１１７３】

20

（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中では、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が低く（あるいは、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が「０」に（すなわち、再遊技（リプレイ）が抽籤されないように））設定される。また、上記押し順小役、及び上記有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。なお、押し順小役の基本構成（１／６で押し順正解、５／６で押し順不正解）は、（Ａ－１）ＢＢ１一般中と同様である。また、ＲＢは持ち越されているため、新たに抽籤されることはないが、当籤状態（許可状態）は継続している。また、（Ａ－１）ＢＢ１一般中と（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中とでは、再遊技（リプレイ）役の当籤確率は同じであってもよいし、異なってもよい。

【１１７４】

30

（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中では、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が低く（あるいは、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が「０」に（すなわち、再遊技（リプレイ）が抽籤されないように））設定される。また、上記押し順小役、及び上記有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。なお、押し順小役の基本構成（１／６で押し順正解、５／６で押し順不正解）は、（Ａ－１）ＢＢ１一般中と同様である。また、（Ａ－１）ＢＢ１一般中及び（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中と（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中とでは、上記押し順小役及び上記有利区間抽籤役のそれぞれの当籤確率は同じであってもよいし、異なってもよい。あるいは、（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中では、上記押し順小役及び上記有利区間抽籤役とは異なる種類の内部当籤役として、それぞれ同様の役割を担う押し順小役及び有利区間抽籤役が当籤するようにしてもよい。また、（Ａ－１）ＢＢ１一般中と（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中と（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中とでは、それぞれ再遊技（リプレイ）役の当籤確率は同じであってもよいし、異なってもよい。

40

【１１７５】

一般遊技状態（ＣＺ状態）において、（１）ＢＢ１開始条件が成立すると、まず（Ａ－１）ＢＢ１一般中に移行する。（Ａ－１）ＢＢ１一般中において、上記ＲＢが内部当籤役として決定されると、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中に移行し、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中は、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されるまで継続する（ＲＢに係る図柄の組合せの表示が許可される許可状態が継続する）。（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中において、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中に移行する。（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中において、ＲＢ状態の終了条

50

件（例えば、８回以下の任意の所定回数の入賞があったこと、あるいは１２回以下の任意の所定回数の遊技が行われたこと）が成立すると、（Ａ－１）ＢＢ１一般中に移行する。なお、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中において、ボーナス役（ＲＢ）よりもリプレイ役又は小役を優先的に成立させる停止制御が行われることで、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されにくく（あるいは、停止表示されないように）し、結果として（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中に移行することが困難となる（あるいは、移行されない）ようにしてもよい。

【１１７６】

（Ａ－１）ＢＢ１一般中、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中、及び（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中のいずれの状態においても、（Ａ）ＢＢ１状態におけるメダルの払出枚数が規定数となった場合（例えば、２８５枚を超えた場合）、（２）ＢＢ１の終了条件が成立し、（Ａ）ＢＢ１状態から一般遊技状態（ＣＺ状態）に移行する。

【１１７７】

（Ａ－１）ＢＢ１一般中、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中、及び（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中のいずれの状態においても、上記有利区間抽籤役に当籤した場合、非有利区間であれば有利区間に移行させるか否かが決定され、有利区間であれば当該有利区間を延長するかが決定される。この場合、一度の当籤で、例えば、３０ゲームの有利区間が付与あるいは延長される。なお、有利区間の付与あるいは延長が決定される契機やその期間は、上述したものに限られない。例えば、有利区間抽籤役に当籤したときの当否抽籤の結果のみならず、他の内部当籤役に当籤したときの当否抽籤の結果や、内部当籤役に基づかない当否抽籤の結果などに応じて、有利区間の付与あるいは延長が決定されうるようにしてもよい。また、有利区間の付与あるいは延長が決定されるときに、有利区間の継続期間が別途抽籤などによって決定されうるようにしてもよい。また、（Ａ）ＢＢ１状態が開始される前の任意のタイミング（例えば、ＢＢ１に当籤したとき、あるいは、ＢＢ１当籤後の一般遊技状態（ＣＺ状態）において有利区間抽籤役に当籤したとき）において、当該ＢＢ１状態の全期間（あるいは、一部の期間）を有利区間とするか否かが決定されうるようにしてもよい。

【１１７８】

（Ａ－１）ＢＢ１一般中、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中、及び（Ａ－３）ＢＢ１ＲＢ中のいずれの状態においても、有利区間である場合には、例えば、上記押し順小役に当籤した遊技で（押し順正解となる）停止操作の情報が報知され、当該報知にしたがって停止操作が行われる結果、当該有利区間は遊技価値が増加する（あるいは、少なくとも減少しない）増加期間となる。一方、非有利区間である場合には、例えば、上記押し順小役に当籤した遊技で（押し順正解となる）停止操作の情報が報知されない結果、当該非有利区間は遊技価値が減少する減少期間となる。

【１１７９】

上述したように、本例において、（Ａ）ＢＢ１状態は、当該ＢＢ１状態中のメダルの払出枚数が「２８５枚」を超えるまで終了しないものとなっている。したがって、例えば、リプレイ役やその他の小役などに当籤した場合を考慮せず、また、上記押し順小役において１枚の払出がある場合を考慮せず、上記押し順小役の合計当籤確率を約 $1/2$ （ $32768/65536$ ）とした場合、（Ａ）ＢＢ１状態を終了させるのに必要な９枚の払出回数は「３２回」（ $32回 \times 9枚 = 288枚$ ）となり、上記押し順小役が確率どおり当籤した場合、（Ａ）ＢＢ１状態を終了させることができる最短の遊技回数は「６４回」（ $32回 \div 1/2$ ）となる。したがって、（Ａ）ＢＢ１状態中が全て有利区間である場合、「６４回」の遊技を行えば、その遊技期間中に遊技価値が増加しつつ、早期に（Ａ）ＢＢ１状態を終了させて一般遊技状態（ＣＺ状態）に移行させることができる。一方、（Ａ）ＢＢ１状態中が全て非有利区間である場合、基本的には上記押し順小役が当籤した遊技で９枚の払出がある確率は $1/6$ に低下するため、（Ａ）ＢＢ１状態を終了させることができる目安の遊技回数は「３８４回」（ $64回 \div 1/6$ ）となり、その遊技期間中は遊技価値も減少していくことになる。

【 1 1 8 0 】

(B) B B 2 状態は、(B - 1) B B 2 一般中、(B - 2) B B 2 R B フラグ間中、及び(B - 3) B B 2 R B 中から構成される。なお、(B) B B 2 状態においては、B B 1 ~ B B 3 が新たに抽籤されることはなく、したがって、(B) B B 2 状態が継続する限り、一般遊技状態(C Z 状態)、(A) B B 1 状態、及び(C) B B 3 状態に移行する場合はない。

【 1 1 8 1 】

(B - 1) B B 2 一般中では、再遊技(リプレイ)役の当籤確率が低く(あるいは、再遊技(リプレイ)役の当籤確率が相対的には高いが、(B - 2) B B 2 R B フラグ間中よりも低く)設定される。また、押し順小役(例えば、6 択の押し順正解で9 枚のメダル払出、押し順不正解だが停止操作のタイミングが適切なら1 枚のメダル払出、押し順不正解で停止操作のタイミングも不適切ならメダル払出無し、など)、非作動状態と比べていずれかの小役の当籤確率が向上するR B 状態を作動させるためのR B、及び(B) B B 2 状態終了後に一般遊技状態(C Z 状態)を経由して(A) B B 1 状態に移行した場合に、当該(A) B B 1 状態を有利区間とするか否かの決定がなされる有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。

【 1 1 8 2 】

(B - 2) B B 2 R B フラグ間中では、再遊技(リプレイ)役の当籤確率が高く設定される。また、上記押し順小役、及び上記有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。なお、押し順小役の基本構成は、(B - 1) B B 2 一般中とは異なり、いずれの押し順で停止操作が行われたとしても9 枚の払出があるように(すなわち、不正解となる押し順が存在しないように)制御変更される。また、R B は持ち越されているため、新たに抽籤されることはないが、当籤状態(許可状態)は継続している。

【 1 1 8 3 】

(B - 3) B B 2 R B 中では、再遊技(リプレイ)が抽籤されないように設定される。また、上記押し順小役が高確率で当籤するように設定されるとともに、上記有利区間抽籤役などがそれぞれ任意の所定確率で当籤するように設定される。なお、押し順小役の基本構成は、(B - 1) B B 2 一般中とは異なり、いずれの押し順で停止操作が行われたとしても9 枚の払出があるように(すなわち、不正解となる押し順が存在しないように)制御変更される。あるいは、(B - 3) B B 2 R B 中では、上記押し順小役及び上記有利区間抽籤役とは異なる種類の内部当籤役として、それぞれ同様の役割を担うR B 中小役及び有利区間抽籤役が当籤するようにしてもよい。

【 1 1 8 4 】

もっとも、(B) B B 2 状態では、(B - 2) B B 2 R B フラグ間中が最も有利となるように、(B - 3) B B 2 R B 中では、押し順小役の基本構成を、(B - 1) B B 2 一般中と同様の構成(1 / 6 で押し順正解、5 / 6 で押し順不正解)としてもよい。すなわち、(B) B B 2 状態では、停止操作の情報が報知されないことを前提に、(B - 1) B B 2 一般中及び(B - 3) B B 2 R B 中を相対的に不利な期間(減少期間)とし、(B - 2) B B 2 R B フラグ間中を有利な期間(増加期間)として構成してもよい。このようにすれば、(B - 1) B B 2 一般中では早期にR B を当籤させて(B - 2) B B 2 R B フラグ間中に移行させ、その後は(B - 3) B B 2 R B 中に移行させないように停止操作を行えば(あるいは、そのような停止制御が行われることにより)、遊技者は最も有利な状態で遊技を行うことができるため、遊技者に有利な状態における遊技性をさらに多様化させ、遊技が単調となることなくその興趣を向上させることができる。また、必要以上に増加期間となる遊技状態を増やさないことで、出玉設計を簡易にし、また、射幸性を適度なものとすることもできる。

【 1 1 8 5 】

また、上述のように、(B) B B 2 状態において、(B - 2) B B 2 R B フラグ間中が最も有利となるように構成する場合、R B が当籤した遊技、及びそれ以降でR B に係る図柄の組合せが表示可能な遊技では、R B が当籤したこと、あるいはR B に係る図柄の組合

10

20

30

40

50

せが表示可能であることが報知されるようにしてもよい。当該報知により、遊技者はＲＢに係る図柄の組合せを表示させないように停止操作を行うことができるようになる。なお、当該報知は、端的にＲＢに係る図柄の組合せを表示させるべきでないことを指示しないし示唆するものであってもよい。

【１１８６】

このように、特別役（例えば、第一種特別役物に係る役物連続作動装置であるＢＢ）に当籤し、当該特別役に対応する図柄の組合せの表示により作動する特別遊技状態において、特定役（例えば、第一種特別役物であるＲＢ）の非当籤状態である第１遊技状態と、当該特定役の当籤状態（持越状態）である第２遊技状態と、当該特定役に対応する図柄の組合せの表示により作動する第３遊技状態（特定遊技状態）とを有し、第２遊技状態では、所定役（例えば、押し順小役）の停止制御が遊技者にとって有利となるように制御変更され、かつ、遊技者の停止操作あるいは内部的な制御によって第２遊技状態を維持することを可能とした仕様は、もちろん本実施形態や本例以外の遊技性（遊技仕様）の他の例で説明したボーナス状態（あるいは、その他の増加期間（増加区間））にも適用することができる。なお、以下では、説明の便宜上、このようなボーナス状態の仕様を「特殊ボーナス状態」と呼ぶ。

【１１８７】

一般遊技状態（ＣＺ状態）において、（３）ＢＢ２開始条件が成立すると、まず（Ｂ－１）ＢＢ２一般中に移行する。（Ｂ－１）ＢＢ２一般中において、上記ＲＢが内部当籤役として決定されると、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中に移行し、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中は、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されるまで継続する（ＲＢに係る図柄の組合せの表示が許可される許可状態が継続する）。（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中において、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中に移行する。（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中において、ＲＢ状態の終了条件（例えば、８回以下の任意の所定回数の入賞があったこと、あるいは１２回以下の任意の所定回数の遊技が行われたこと）が成立すると、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中に移行する。なお、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中において、ボーナス役（ＲＢ）よりもリプレイ役又は小役を優先的に成立させる停止制御が行われることで、ＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されにくく（あるいは、停止表示されないように）し、結果として（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中に移行することが困難となる（あるいは、移行されない）ようにしてもよい。

【１１８８】

（Ｂ－１）ＢＢ２一般中、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中、及び（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中のいずれの状態においても、（Ｂ）ＢＢ２状態におけるメダルの払出枚数が規定数となった場合（例えば、１５０枚を超えた場合）、（４）ＢＢ２の終了条件が成立し、（Ｂ）ＢＢ２状態から一般遊技状態（ＣＺ状態）に移行する。

【１１８９】

なお、本例では、（Ａ－１）ＢＢ１一般中において当籤するＲＢと、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中において当籤するＲＢと、を特に分けて説明していないが、例えば、（Ａ－１）ＢＢ１一般中において当籤するＲＢを「ＲＢ１」（対応する図柄の組合せを「ＲＢ１に係る図柄の組合せ」、対応するＲＢ状態（Ａ－３）を「ＲＢ１状態」とし、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中において当籤するＲＢを「ＲＢ２」（対応する図柄の組合せを「ＲＢ２に係る図柄の組合せ」、対応するＲＢ状態（Ｂ－３）を「ＲＢ２状態」とし、異なるＲＢ役を当籤可能に構成することで、（Ａ－２）ＢＢ１ＲＢフラグ間中（「ＲＢ１許可状態」）にあっては、押し順小役の基本構成が（Ａ－１）ＢＢ１一般中と同様になるようにし、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中（「ＲＢ２許可状態」）にあっては、押し順小役の基本構成が（Ｂ－１）ＢＢ２一般中とは異なるように構成するようにしてもよい。

【１１９０】

（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中、及び（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中では、上記押し順小役に当籤した遊技においていずれの押し順で停止操作が行われた場合であっても９枚の払出

10

20

30

40

50

が行われる結果、当該期間は遊技価値が増加（あるいは、少なくとも減少しない）増加期間となる。一方、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中では、上記押し順小役に当籤した遊技で正解となる押し順で停止操作が行われた場合には９枚の払出が行われる一方、正解とならない押し順で停止操作が行われた場合には９枚の払出が行われない結果、当該期間は遊技価値が減少する減少期間となる。もっとも、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中から（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中にはＲＢの当籤をもって移行するため、（Ｂ）ＢＢ２状態全体をみれば、当該期間は遊技価値が増加する増加期間として位置付けられる。

【１１９１】

なお、（Ｂ）ＢＢ２状態全体を遊技者にとって有利な期間（増加期間）とする手法は、上述したものに限られない。例えば、（３）ＢＢ２開始条件が成立してから（４）ＢＢ２終了条件が成立するまで、常にＲＢ状態に制御されるものとし、当該ＲＢ状態では、いずれの押し順で停止操作が行われたとしても９枚（あるいは、１５枚までの範囲であればそれ以上であってもよい）の払出が発生するＲＢ中小役が極めて高い確率で当籤するように構成してもよい。あるいは、押し順小役の基本構成を制御変更することなく、（３）ＢＢ２開始条件が成立してから（４）ＢＢ２終了条件が成立するまで、常に有利区間に制御されるようにし、押し順小役の当籤時には必ず、又は少なくとも付与期待値がプラスとなるような所定確率で正解の押し順が報知されることで増加期間となるように構成してもよい。

10

【１１９２】

（Ｂ－１）ＢＢ２一般中、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中、及び（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中のいずれの状態においても、上記有利区間抽籤役に当籤した場合、（４）ＢＢ２終了条件が成立して移行した一般遊技状態（ＣＺ状態）においてＢＢ１に当籤し、（１）ＢＢ１開始条件が成立して移行した（Ａ）ＢＢ１状態を有利区間とする権利（例えば、セット数やストックなど）を付与する否かが決定される。この場合、一度の当籤で、例えば、３０ゲーム間を有利区間とする権利が付与される。なお、当該権利の付与が決定される契機やその期間は、上述したものに限られない。例えば、有利区間抽籤役に当籤したときの当否抽籤の結果のみならず、他の内部当籤役に当籤したときの当否抽籤の結果や、内部当籤役に基づかない当否抽籤の結果などに応じて、当該権利の付与が決定されうるようにしてもよい。また、当該権利の付与が決定されるときに、有利区間の継続期間が別途抽籤などによって決定されうるようにしてもよい。また、（３）ＢＢ２開始条件が成立するときから（４）ＢＢ２終了条件が成立するまでの間の任意のタイミング（例えば、ＢＢ２が入賞したとき、あるいは、ＢＢ２が終了したとき）において、ＢＢ１状態の全期間（あるいは、一部の期間）を有利区間とする権利を付与するか否かが決定されうるようにしてもよい。

20

30

【１１９３】

（Ｃ）ＢＢ３状態は、（Ｃ－１）ＢＢ３一般中、（Ｃ－２）ＢＢ３ＲＢフラグ間中、及び（Ｃ－３）ＢＢ３ＲＢ中から構成される。なお、（Ｃ－１）ＢＢ３一般中、（Ｃ－２）ＢＢ３ＲＢフラグ間中、（Ｃ－３）ＢＢ３ＲＢ中、（５）ＢＢ３の開始条件のそれぞれは、ＢＢ２をＢＢ３と置き換えれば、（Ｂ－１）ＢＢ２一般中、（Ｂ－２）ＢＢ２ＲＢフラグ間中、（Ｂ－３）ＢＢ２ＲＢ中、（３）ＢＢ２の開始条件のそれぞれと同様となるため、ここでの説明は省略する。また、（６）ＢＢ２の終了条件は、（Ｃ）ＢＢ３状態におけるメダルの払出枚数が規定数となった場合（例えば、６０枚を超えた場合）に成立する。

40

【１１９４】

かかる前提の下、本例における遊技の流れについて説明する。本例では、非有利区間である（Ａ）ＢＢ１状態が遊技者にとって有利でない通常遊技中として位置付けられているため、遊技者は通常、非有利区間である（Ａ）ＢＢ１状態から遊技を開始する。

【１１９５】

（Ａ）ＢＢ１状態においては、（２）ＢＢ１の終了条件が成立するまで他の遊技状態に移行することがない。ここで、（Ａ）ＢＢ１状態中が有利区間であれば、当該区間は増加期間として機能するため、遊技価値を増加させることができるのみならず、払出を受ける

50

機会が増加することで早期に(2)BB1の終了条件を成立させることが可能となる(すなわち、一般遊技状態(CZ状態)に移行するまでの遊技期間を短縮させることができる)。一方、(A)BB1状態中が非有利区間であれば、当該区間は減少期間として機能するため、遊技価値は減少していき、また、払出を受ける機会は増加しないことで早期に(2)BB1の終了条件を成立させることは可能とならない(すなわち、一般遊技状態(CZ状態)に移行するまでの遊技期間を短縮させることはできない)。

【1196】

(A)BB1状態において、(2)BB1の終了条件が成立すると、一般遊技状態(CZ状態)に移行する。一般遊技状態(CZ状態)は、BB1に当籤する前にBB2又はBB3を当籤させることができれば、一般遊技状態(CZ状態)(B)BB2状態(又は(C)BB3状態)一般遊技状態(CZ状態)(B)BB2状態(又は(C)BB3状態)・・・といったように、遊技者に有利なボーナス状態を繰り返し作動させることが可能な状態(一連の増加区間)として構成されるが、BB2又はBB3に当籤する前にBB1に当籤してしまうと、遊技者に有利なボーナス状態を繰り返し作動させることは不可能となり、一連の増加区間は終了する。再度一連の増加区間に移行させるためには、有利区間とならなければ減少期間となってしまう(A)BB1状態を終了させる必要がある。

【1197】

すなわち、遊技者は、(A)BB1状態にあつては、有利区間に移行、あるいは有利区間が継続することを望み、実際に有利区間に移行、あるいは有利区間が継続すれば、遊技価値を増加させつつ、一般遊技状態(CZ状態)に移行するまでの遊技期間を短縮することができる。また、一般遊技状態(CZ状態)にあつては、BB1に当籤する前にBB2又はBB3に当籤することを望み、実際にBB2又はBB3に当籤することができれば、(B)BB2状態又は(C)BB3状態において遊技価値を増加させることができる。これらの遊技状態が終了して再度一般遊技状態(CZ状態)に戻った場合も同様である。なお、(B)BB2状態又は(C)BB3状態にあつては、(A)BB1状態を有利区間とする権利が付与されることを望む。本例では、例えば、ボーナス役(BB1～BB3)に当籤する合算確率において、BB1の当籤確率は50%程度、BB2の当籤確率は25%程度、BB3の当籤確率は25%程度となっていることから、一般遊技状態(CZ状態)において必ずしもBB2又はBB3が当籤し続けるわけではない。しかし、(A)BB1状態を有利区間とする権利が予め付与されていれば、BB2又はBB3に当籤する前にBB1に当籤したとしても、(A)BB1状態が増加期間となっていれば、遊技価値が増加し、しかも一般遊技状態(CZ状態)に早期に復帰させることができる。本例では、このような遊技性によって、遊技の興趣を向上させることを可能としている。

【1198】

本例の遊技機によれば、通常遊技状態(一般遊技状態(CZ状態))において、第1特別役(BB1)に当籤する前に第2特別役(BB2又はBB3)に当籤した場合、第2特別遊技状態((B)BB2状態又は(C)BB3状態)に移行し、当該第2特別遊技状態は遊技価値が増加する増加期間として機能する。一方、通常遊技状態において、第2特別役に当籤する前に第1特別役に当籤した場合、第1特別遊技状態((A)BB1状態)に移行し、当該第1特別遊技状態において停止操作に関する操作情報が報知されない場合(非有利区間である場合)、当該第1特別遊技状態は遊技価値が減少する減少期間として機能する。

【1199】

したがって、通常遊技状態においては、第1特別遊技状態に移行することなく第2特別遊技状態への移行が繰り返されることで、遊技者は有利な遊技期間を継続させることができるが、第1特別遊技状態に移行した場合には、当該第1特別遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させなければ、遊技者は有利な遊技期間を継続させることができない。

【1200】

ここで、本例の遊技機によれば、特定の報知条件が成立した場合(例えば、有利区間に移行することが決定された場合、あるいは有利区間とする権利が付与されることが決定さ

10

20

30

40

50

れている場合)、第1特別遊技状態において、所定役(押し順小役)に当籤した場合に所定数(例えば、9枚)の遊技価値が付与される停止操作に関する操作情報が報知されるようになる。第1特別遊技状態は、規定数(例えば、285枚超)の遊技価値が付与された場合に終了するものであるから、このような情報が報知されることで、第1特別遊技状態の終了時期を早めることができる。すなわち、第1特別遊技状態において停止操作に関する操作情報が報知される否かによって、第2特別遊技状態に移行可能な通常遊技状態となるまでの期間を変動させることができる。それゆえ、有利状態に移行な状態となるまでの期間を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとするすることができる。

【1201】

なお、本例の遊技機において、第1特別遊技状態において停止操作に関する操作情報が報知される期間も増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、有利状態に移行な状態となるまでの期間中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【1202】

また、本例の遊技機において、第1特別遊技状態では、さらに第1特定許可状態((A-2)BB1RBフラグ間中)に移行可能とし、第2特別遊技状態では、さらに第2特定許可状態((B-2)BB2RBフラグ間中又は(C-2)BB3RBフラグ間中)に移行可能とし、第1特別遊技状態では、第1特定許可状態であるか否かにかかわらず、停止操作に関する操作情報が報知されない期間を減少期間として機能させ、第2特別遊技状態では、第2特定許可状態である期間を増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1203】

[遊技性(遊技仕様)の他の例(その3)]

続いて、図95を参照して、本実施形態に係るパチスロ1において実装可能な遊技性(遊技仕様)の他の例(その3)について説明する。図95は、遊技性(遊技仕様)の他の例(その3)における遊技の流れを概念的に説明する図である。

【1204】

図95に示すように、本例では、(A)RT0状態、(B)BB状態、及び(C)RT1状態の遊技状態がある。(A)RT0状態は、再遊技(リプレイ)役の当籤確率が(C)RT1状態よりも低く、(B)BB状態、及び(C)RT1状態のいずれにも移行可能な遊技状態である。(A)RT0状態において、有利区間に制御されていない場合には、(A-1)通常(非有利区間)となって遊技価値が減少する減少期間となり、有利区間に制御されている場合には、(A-2)有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となる。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性(遊技仕様)の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

【1205】

(A)RT0状態において、BB(ボーナス役)に当籤した場合、BBに係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されるまでBBが持ち越されるBBフラグ間(BB許可状態)に制御される。BBフラグ間では、後述のベルこぼし目が有効ライン上に停止表示されても(C)RT1状態には移行しない。なお、本例では、BBは、いずれかの小役(例えば、いわゆるレア役と呼ばれる当籤確率が相対的に低い役。リプレイ役であってもよい)と重複当籤し、単独で当籤しないようになっており、かつ、本実施形態では、ボーナス役よりもリプレイ役又は小役を優先的に成立させる停止制御が行われるため、BBに当籤した遊技ではBBに係る図柄の組合せが表示されることがなく、BBは次回遊技以降に持ち越されることになる。そして、BBに係る図柄の組合せは、BBフラグ間において内部抽籤結果が「ハズレ」となった遊技(すなわち、他にいずれのリプレイ役及び小役にも当籤しなかった遊技)において、停止操作のタイミングが適切な場合に表示されること(入賞すること)が可能となる。本例では、(A)RT0状態における「ハズレ」確率を「1/12」程度と定める。もっとも、「ハズレ」が発生可能である限り、この「ハズレ」確

10

20

30

40

50

率は任意の値とすることができる。また、B Bが単独で当籤する場合があってもよく、この場合には、B Bに当籤した遊技においてB Bに係る図柄の組合せが表示可能であるものとする。

【1206】

(A) R T 0 状態において、B B フラグ間となり、内部抽籤結果が「ハズレ」となった遊技において、B B に係る図柄の組合せが表示されると、(1) B B 開始条件が成立し、(A) R T 0 状態から(B) B B 状態に移行する。(B) B B 状態は、(C) R T 1 状態には移行しない遊技状態であり、遊技価値が増加する増加期間となる遊技状態である。なお、(B) B B 状態を増加期間とする手法は、例えば、上述の「特殊ボーナス状態」など、本実施形態や本例以外の遊技性(遊技仕様)の他の例で説明した種々の手法を採用することができる。(B) B B 状態において、規定数(例えば、140枚超)の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(2) B B 終了条件が成立し、(B) B B 状態から(A) R T 0 状態に移行する。

10

【1207】

(A) R T 0 状態において、B B フラグ間となる前に(すなわち、B B 非フラグ間である場合に)、(3) ベルこぼし目が有効ライン上に停止表示されると、(C) R T 1 状態に移行する。ベルこぼし目は、例えば、本実施形態における「R __ R T 1 移行目」と同様の図柄の組合せであり、押し順小役に当籤した遊技において、押し順が不正解であり、停止操作のタイミングも適切でない場合に表示される図柄の組合せである。したがって、(A) R T 0 状態が、(A - 2) 有利区間であれば、正解となる押し順が報知されるため、当該報知に当たって停止操作が行われる限り表示されることはないが、(A - 1) 通常(非有利区間)であれば、正解となる押し順が報知されないため、表示される可能性は高くなる。なお、本例では、例えば、B B の当籤確率は $1/20$ (3276/65536)程度であるとすれば、押し順小役の合算当籤確率はそれよりも高い $1/3$ (21845/65536)程度に設計されるものとすればよい。押し順小役については、本実施形態や本例以外の遊技性(遊技仕様)の他の例で説明した種々の仕様を採用することができるが、例えば、押し順(例えば、6 択)に正解した場合、9 枚の払出となり、ベルこぼし目は表示されず、押し順に正解しない場合、停止操作のタイミングが適切であれば1枚の払出となり、ベルこぼし目は表示されず、停止操作のタイミングが適切でなければ0枚の払出となり、ベルこぼし目が表示される仕様を採用することができる。

20

30

【1208】

(C) R T 1 状態は、再遊技(リプレイ)役の当籤確率が(A) R T 0 状態よりも高く、(B) B B 状態には移行しない遊技状態である。(C) R T 1 状態においても、(A) R T 0 状態と同様に、有利区間に制御されていない場合には、(C - 1) 通常(非有利区間)となって遊技価値が減少する減少期間となり、有利区間に制御されている場合には、(C - 2) 有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となる。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性(遊技仕様)の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

【1209】

(C) R T 1 状態においても、B B (ボーナス役)に当籤した場合、(A) R T 0 状態と同様に、B B フラグ間(B B 許可状態)に制御される。ただし、(C) R T 1 状態では、(A) R T 0 状態の「ハズレ」確率「 $1/12$ 」の分だけ再遊技(リプレイ)役の当籤確率が高まっており、「ハズレ」確率は「0」と(すなわち、「ハズレ」が発生しないように)なっている。したがって、たとえB B フラグ間であったとしても、(C) R T 1 状態においてB B に係る図柄の組合せが表示可能となる場合はない。もっとも、極めて低い確率(例えば、 $1/8192$)で「ハズレ」が発生するようにし、B B フラグ間で「ハズレ」が発生した遊技では、B B に係る図柄の組合せが表示可能となるようにしてもよい(すなわち、(C) R T 1 状態を、(A) R T 0 状態よりもB B に係る図柄の組合せの表示を困難とする状態として構成してもよい)。

40

【1210】

50

なお、(C)RT1状態においても「ハズレ」の発生を可能とした場合、「ハズレ」が発生した単位遊技でBBに係る図柄の組合せが表示できなかった場合には、(B)BB状態に移行させることができず、次ゲーム以降も(C)RT1状態が継続するため、当該「ハズレ」が発生した単位遊技でBBに係る図柄の組合せが表示できない態様で停止操作を行ってしまうと遊技者の損失は極めて大きくなってしまいます。したがって、このような損失の発生を抑制するため、(C)RT1状態において「ハズレ」が発生した単位遊技では、開始操作後から停止操作が有効となるまでの間にBBに係る図柄の組合せの表示が許容された旨を示唆する演出や、BBに係る図柄の組合せを狙うべき旨を報知する演出や、開始操作後に各リールの回転開始を遅延させるフリーズ演出や停止操作有効までに要する時間を通常よりも長い時間とする停止操作無効化演出など、いずれか又は複数の演出を実行可能として、遊技者がBBに係る図柄の組合せを表示させやすいように配慮した仕様とすることが望ましい。

10

20

30

40

50

【1211】

(C)RT1状態において、(4)規定数(例えば、500ゲーム)の遊技を消化すると、(C)RT1状態から(A)RT0状態に移行する。すなわち、(C)RT1状態が終了し、BBフラグ間である場合には「ハズレ」発生時にBBに係る図柄の組合せが表示可能となる。なお、(C)RT1状態から(A)RT0状態に移行した場合であってもBB非フラグ間であるときには、再度(C)RT1状態に転落してしまう可能性がある。したがって、このような場合には、(A)RT0状態においてBBフラグ間となるまで(すなわち、BBに当籤するまで)、(A-2)有利区間を継続させるようにし、遊技者の救済を図るようにしてもよい。

【1212】

本例の遊技機によれば、特別役(BB)に当籤した場合には特別許可状態(BB許可状態)となり、通常遊技状態((A)RT0状態)であれば、特別図柄の組合せ(BBに係る図柄の組合せ)を表示させて特別遊技状態((B)BB状態)に移行させることを可能とする一方、特定遊技状態((C)RT1状態)であれば、当該特定遊技状態が終了するまで特別図柄の組合せを表示させて特別遊技状態に移行させることを可能としない。また、特定遊技状態には、特別許可状態でない通常遊技状態において特定役(押し順小役)に当籤した場合に、特定の態様(押し順正解となる態様)で停止操作が行われずに特定図柄の組合せ(ベルこぼし目)が表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び特定遊技状態における特定期間(有利区間)では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、特定数(例えば、9枚)の遊技価値が付与される。

【1213】

ここで、本例の遊技機によれば、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態への移行を繰り返す(すなわち、遊技者に有利な遊技期間を継続させる)ことが可能となるのみならず、特定役に当籤したときに付与される遊技価値も増加することになる。また、特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、特定遊技状態が終了しなければ特別遊技状態に移行させることはできないが、特定役に当籤したときに付与される遊技価値は増加することになる。また、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となっていない場合であっても、特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態への移行を繰り返すことができる場合もある。

【1214】

すなわち、本例の遊技機によれば、通常遊技状態若しくは特定遊技状態であるか、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、又は特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、などに応じて遊技者の有利度合いを多彩に変動させることが可能となる。それゆえ、遊技

意欲や興趣を向上させることができる。

【 1 2 1 5 】

なお、本例の遊技機において、少なくとも特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、特定遊技状態であっても遊技価値が増加する場合があることから、特別遊技状態に移行しない特定遊技状態中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【 1 2 1 6 】

(本例の変形例)

本例では、(A) R T 0 状態、(B) B B 状態、及び(C) R T 1 状態の遊技状態を有し、(A) R T 0 状態において、特別役としての B B が特定役としての押し順小役よりも先に当籤した場合には、(C) R T 1 状態に移行することなく(B) B B 状態に移行し、このような移行が繰り返されることを可能とすることで、一連の増加区間を創出することを可能とした。また、(A) R T 0 状態において、特定役としての押し順小役が特別役としての B B よりも先に当籤した場合に、遊技者の停止操作が適切であれば(C) R T 1 状態には移行しないが、遊技者の停止操作が適切でなければ(C) R T 1 状態に移行し、一連の増加区間が終了するものとした。そして、(C) R T 1 状態では、一定の移行条件(本例では、規定数の遊技の消化)が成立しなければ、(A) R T 0 状態に移行しないものとした。もっとも、このような一連の増加区間を開始、継続、及び終了させる手法は、さらに変形の余地があると考えられるため、以下に説明する。

【 1 2 1 7 】

変形例では、(A) R T 0 状態、(B) B B 状態、及び(C) R T 1 状態の遊技状態を有する点は本例と同じであるが、特定役として M B (第二種特別役物に係る役物連続作動装置) を用い、M B に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示された場合には(D) M B 状態に移行するものとする。B B の当籤確率を $1 / 10$ ($6553 / 65536$) 程度とするとともに、M B の当籤確率も同程度とする。M B は、ボーナス役であり、一度当籤すると、M B に係る図柄の組合せが表示されるまで持ち越されるものとする(M B フラグ間、M B 許可状態)。M B は、必ず複数の特殊小役グループ(例えば、特殊小役グループ 1 ~ 3)のうちいずれかの特殊小役グループと重複当籤し、単独では当籤しないものとする。

【 1 2 1 8 】

(A) R T 0 状態において、M B + 特殊小役グループ 1 が重複当籤した場合、停止操作が予め定義された正解の態様(例えば、リール 3 L に対する停止操作のタイミングが下記第 2 の範囲及び下記第 3 の範囲とは異なる第 1 の範囲である態様、あるいは左第 1 停止で停止操作が行われる態様など)で行われた場合には、M B に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示され、(D) M B 状態に移行する。一方、停止操作が予め定義された正解の態様で行われない場合には、M B に係る図柄の組合せは有効ライン上に停止表示されず、いずれかの特殊小役に係る図柄の組合せ(特定の図柄の組合せ)が有効ライン上に停止表示され、例えば、1 枚のメダルが払い出され、M B フラグ間としての(C) R T 1 状態に移行する。

【 1 2 1 9 】

(A) R T 0 状態において、M B + 特殊小役グループ 2 が重複当籤した場合、停止操作が予め定義された正解の態様(例えば、リール 3 L に対する停止操作のタイミングが上記第 1 の範囲及び下記第 3 の範囲とは異なる第 2 の範囲である態様、あるいは中第 1 停止で停止操作が行われる態様など)で行われた場合には、M B に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示され、(D) M B 状態に移行する。一方、停止操作が予め定義された正解の態様で行われない場合には、M B に係る図柄の組合せは有効ライン上に停止表示されず、いずれかの特殊小役に係る図柄の組合せ(特定の図柄の組合せ)が有効ライン上に停止表示され、例えば、1 枚のメダルが払い出され、M B フラグ間としての(C) R T 1 状態に移行する。

【 1 2 2 0 】

(A) R T 0 状態において、 M B + 特殊小役グループ 3 が重複当籤した場合、停止操作が予め定義された正解の態様 (例えば、リール 3 L に対する停止操作のタイミングが上記第 1 の範囲及び上記第 2 の範囲とは異なる第 3 の範囲である態様、あるいは右第 1 停止で停止操作が行われる態様など) で行われた場合には、 M B に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示され、 (D) M B 状態に移行する。一方、停止操作が予め定義された正解の態様で行われない場合には、 M B に係る図柄の組合せは有効ライン上に停止表示されず、いずれかの特殊小役に係る図柄の組合せ (特定の図柄の組合せ) が有効ライン上に停止表示され、例えば、1 枚のメダルが払い出され、 M B フラグ間としての (C) R T 1 状態に移行する。

10

【 1 2 2 1 】

なお、この変形例では、特定役として複数の M B (例えば、 M B 1、 M B 2、及び M B 3) を用い、いずれかの M B に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示された場合には (D) M B 状態に移行するものとしてもよい。この場合、 M B の合算当籤確率を B B の当籤確率と同程度とすればよい。また、 M B 1、 M B 2、及び M B 3 は、必ず特殊小役グループと重複当籤し、単独では当籤しないものとしてもよい。そして、 M B 1 + 特殊小役グループが重複当籤した場合には、 M B + 特殊小役グループ 1 と同様の制御が行われ、 M B 2 + 特殊小役グループが重複当籤した場合には、 M B + 特殊小役グループ 2 と同様の制御が行われ、 M B 3 + 特殊小役グループが重複当籤した場合には、 M B + 特殊小役グループ 3 と同様の制御が行われるものとするばよい。

20

【 1 2 2 2 】

すなわち、 (A) R T 0 状態において、 M B に当籤した場合、 M B に当籤した遊技で停止操作の態様が適切であれば (例えば、上述した 3 択に正解した場合には)、 (D) M B 状態に移行する。 (D) M B 状態は、例えば、2 枚ベットで必ず 2 枚のメダルが払い出されるボーナス状態であるものとし、規定数 (2 枚を超える) の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、 M B 終了条件が成立し、 (D) M B 状態から (A) R T 0 状態に移行する。ここで、 (D) M B 状態自体は、遊技価値が増加する増加期間ではない (ただし、減少期間でもなく無増減期間) が、終了後は (A) R T 0 状態に移行するため、 (D) M B 状態への移行は、上述した一連の増加区間への移行、あるいは一連の増加区間の継続として位置付けられる。

30

【 1 2 2 3 】

一方、 (A) R T 0 状態において、 M B に当籤した場合、 M B に当籤した遊技で停止操作の態様が適切でなければ (例えば、上述した 3 択に正解しなかった場合には)、 (C) R T 1 状態に移行する。この変形例では、 M B フラグ間である (C) R T 1 状態は、 M B に係る図柄の組合せが表示されるまで終了しない。そして、 (C) R T 1 状態における「ハズレ」確率を「1 / 3 0 0」程度と定める。すなわち、 (C) R T 1 状態を終了させて (A) R T 0 状態に移行させるためには、 (C) R T 1 状態において「ハズレ」が発生した遊技において、 M B に係る図柄の組合せを表示させて (D) M B 状態に移行させ、 (D) M B 状態における遊技を消化する必要がある。なお、 (C) R T 1 状態において上述した特殊小役グループに当籤したときに、上述した 3 択に正解した場合にも M B に係る図柄の組合せを表示させることを可能としてもよい。

40

【 1 2 2 4 】

(本例の変形例の遊技の流れ)

この変形例では、 M B フラグ間である (C) R T 1 状態が遊技者にとって有利でない通常遊技中として位置付けられているため、遊技者は通常、 M B フラグ間である (C) R T 1 状態から遊技を開始する。

【 1 2 2 5 】

(C) R T 1 状態においては、 (D) M B 状態への移行を介さなければ (A) R T 0 状態に移行することがない。遊技者は「ハズレ」が発生することを待って遊技を行う。「ハズレ」が発生した遊技で M B に係る図柄の組合せを表示させることができれば、 (D) M

50

B 状態に移行し、(D) MB 状態に終了後は(A) RT 0 状態に移行する。

【1226】

(A) RT 0 状態において、ボーナス役に当籤したとき、当該ボーナス役が BB である確率は $1/2$ (50%)、MB である確率も $1/2$ (50%) である。(C) RT 1 状態から(A) RT 0 状態に移行して最初に当籤したボーナス役が BB であった場合には、一連の増加区間が開始される。BB の当籤後は MB に当籤することなく(すなわち、(C) RT 1 状態に移行することなく)、BB に係る図柄の組合せが表示されることで(B) BB 状態に移行し、(B) BB 状態において遊技価値を増加させることができる。なお、(B) BB 状態は、例えば、上述の「特殊ボーナス状態」として構成される。(B) BB 状態が終了すると再度(A) RT 0 状態に戻り、再度 50% の確率で MB に当籤する前に BB に当籤させることができれば、一連の増加区間が継続する。すなわち、一連の増加区間は 50% の確率でループ可能な(ループ率 50% の)遊技区間となっている。なお、このループ率は一例であり、ボーナス役の抽籤値(当籤確率)を適宜変動させることで、任意の値に設定することができる。

10

【1227】

一連の増加区間となった(A) RT 0 状態において、BB に当籤する前に MB に当籤した場合、MB に当籤した遊技で MB に係る図柄の組合せを表示させることができた場合には、(D) MB 状態への移行を介して再度(A) RT 0 状態に戻ることができる。この場合にも、一連の増加区間が継続する。一方、MB に当籤した遊技で MB に係る図柄の組合せを表示させることができなかった場合には、(C) RT 1 状態に移行する。この場合には、一連の増加区間が終了する。

20

【1228】

また、(C) RT 1 状態から(A) RT 0 状態に移行して最初に当籤したボーナス役が MB であった場合には、一連の増加区間は開始されない。ただし、上述の如く、MB に当籤した遊技で MB に係る図柄の組合せを表示させることができた場合には、(D) MB 状態への移行を介して再度(A) RT 0 状態に戻ることができる。この場合には、戻った(A) RT 0 状態にて一連の増加区間を開始できる場合がある。一方、MB に当籤した遊技で MB に係る図柄の組合せを表示させることができなかった場合には、(C) RT 1 状態に移行する。この場合には、一連の増加区間を開始できる場合はない。なお、上記の説明では、(C) RT 1 状態から(A) RT 0 状態に移行して最初に当籤したボーナス役が BB であったときを一連の増加区間の始期としているが、(C) RT 1 状態から(A) RT 0 状態に移行したときを一連の増加区間の始期としてもよいし、(C) RT 1 状態から(A) RT 0 状態に移行して最初に当籤したボーナス役が BB であり、当該 BB に係る図柄の組合せが表示されて(B) BB 状態に移行したときを一連の増加区間の始期としてもよい。

30

【1229】

(本例の変形例における有利区間仕様の第 1 の態様)

続いて、これまでに説明した本例の変形例の遊技性(遊技仕様)を採用した場合の、有利区間仕様の第 1 の態様について説明する。この第 1 の態様は、有利区間を設けない仕様である。

40

【1230】

上述したように、本例の変形例の遊技性(遊技仕様)では、(A) RT 0 状態 (B) BB 状態 (A) RT 0 状態 (B) BB 状態・・・といったように、(A) RT 0 状態と(B) BB 状態とが相互に繰り返されることで一連の増加区間を創出することができるため、遊技者に停止操作の情報が報知されなくとも、興趣の高い遊技性を具備することが可能となっている。したがって、この第 1 の態様のように、有利区間を設けなくともできる。

【1231】

なお、この第 1 の態様においても、例えば、(A) RT 0 状態において BB に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができるし、(B) BB 状

50

態において R B に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができる。一方、(A) R T 0 状態において M B に当籤したとき、及び (C) R T 1 状態において M B に係る図柄の組合せが表示可能であるときには、少なくとも M B に係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆は行われなようにすることが望ましい。ここで、「M B に係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」とは、例えば、M B に係る図柄の組合せが表示可能であることを直接的に告知ないし示唆するものに限られず、上述した特殊小役グループが当籤した旨、あるいは当籤した特殊小役グループに係る図柄の組合せを告知ないし示唆するものが含まれる。このような告知ないし示唆によって実質的に (C) R T 1 状態が終了する確率が高まることとなれば、遊技の射幸性が過度に高くなってしまふおそれがあるからである。もっとも、(C) R T 1 状態は少ないとも一連の増加区間に含まれないことから、(C) R T 1 状態において M B に係る図柄の組合せが表示可能であるときには、「M B に係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われるようにしてもよい。

10

【 1 2 3 2 】

(本例の変形例における有利区間仕様の第 2 の態様)

続いて、これまでに説明した本例の変形例の遊技性 (遊技仕様) を採用した場合の、有利区間仕様の第 2 の態様について説明する。この第 2 の態様は、(B) B B 状態中のみ有利区間に移行可能とした仕様である。

【 1 2 3 3 】

20

上述したように、本例の変形例の遊技性 (遊技仕様) では、(B) B B 状態においては押し順小役など、遊技者の停止操作の態様に応じて付与される遊技価値が変動可能な内部当籤役が決定されうするため、(B) B B 状態中を有利区間として遊技者に停止操作の情報が報知されれば、(B) B B 状態中に付与される遊技価値の付与期待値を最大とすることができ、遊技者の興趣の向上のみならず、遊技の公平性の担保や出玉率の管理しやすさにも資することになる。したがって、この第 2 の態様のように、(B) B B 状態中のみ有利区間に移行可能とすることもできる。この場合、(B) B B 状態が開始されるときに有利区間も開始され、(B) B B 状態が終了されるときに有利区間も終了されるようにすればよい。

【 1 2 3 4 】

30

なお、この第 2 の態様においても、上記第 1 の態様と同様に、例えば、(A) R T 0 状態において B B に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができるし、(B) B B 状態において R B に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができる。一方、(A) R T 0 状態において M B に当籤したとき、及び (C) R T 1 状態において M B に係る図柄の組合せが表示可能であるときには、上記第 1 の態様と同様に、少なくとも M B に係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆は行われなようにすることが望ましい。

【 1 2 3 5 】

(本例の変形例における有利区間仕様の第 3 の態様)

続いて、これまでに説明した本例の変形例の遊技性 (遊技仕様) を採用した場合の、有利区間仕様の第 3 の態様について説明する。この第 3 の態様は、(A) R T 0 状態中及び (C) R T 1 状態中において有利区間に移行可能とした仕様である。

40

【 1 2 3 6 】

この第 3 の態様は、基本的に本例で説明したものと同様であり、(A) R T 0 状態中にある場合は、特定の報知条件が成立した場合に、(A - 1) 通常 (非有利区間) から (A - 2) 有利区間に移行させ、当該有利区間の終了条件が成立した場合に、(A - 2) 有利区間から (A - 1) 通常 (非有利区間) に移行させ、また、(C) R T 1 状態中にある場合は、特定の報知条件が成立した場合に、(C - 1) 通常 (非有利区間) から (C - 2) 有利区間に移行させ、当該有利区間の終了条件が成立した場合に、(C - 2) 有利区間から (C - 1) 通常 (非有利区間) に移行させるものである。

50

【 1 2 3 7 】

ただし、本例では、(A) R T 0 状態において (A - 2) 有利区間となった場合には、押し順小役について正解となる押し順が報知されることで、実質的に (C) R T 1 状態への移行が回避可能な情報も報知されるものとなっているが、この第 3 の態様では、(C) R T 1 状態への移行が回避可能な情報は報知されないものとなっている。すなわち、(A - 2) 有利区間では、押し順小役に当籤した場合には、正解となる押し順が報知されることで、(A - 1) 通常 (非有利区間) と比べて多くの遊技価値が付与されるが、M B に当籤した場合には、「M B に係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」は行われず、遊技者が自力で M B に係る図柄の組合せを表示することができた場合には (A) R T 0 状態が維持されるが、遊技者が自力で M B に係る図柄の組合せを表示することができなかった場合には (C) R T 1 状態に移行するようになっている。

10

【 1 2 3 8 】

もっとも、例えば、(A) R T 0 状態において (A - 2) 有利区間となり、有利区間の継続期間として 5 0 ゲームが付与された場合、1 0 ゲーム後 (すなわち、有利区間の継続期間が残り 4 0 ゲーム) に M B に当籤し、M B に係る図柄の組合せが表示されずに (C) R T 1 状態に移行した場合には、継続期間を 4 0 ゲームとする (C - 2) 有利区間に移行するようにしてもよい。すなわち、付与された有利区間の継続期間が、(A) R T 0 状態から (C) R T 1 状態、あるいは (C) R T 1 状態から (A) R T 0 状態に引き継がれるようにしてもよい (なお、後者の場合には、(D) M B 状態の遊技期間は有利区間中に含まれるものとしてもよいし、含まれないものとしてもよい) 。

20

【 1 2 3 9 】

また、(A) R T 0 状態は、一連の増加区間に含まれる遊技期間であることから、(A) R T 0 状態では (A - 2) 有利区間を設けることなく、一連の増加区間に含まれない遊技期間であり、遊技者にとって相対的に不利な (C) R T 1 状態でのみ (C - 2) 有利区間を設けるようにしてもよい。すなわち、この第 3 の態様では、遊技者にとって相対的に不利な遊技期間 ((C) R T 1 状態) で遊技を行う遊技者を救済し、遊技の興趣の低下を防止することを目的として、有利区間 ((C - 2) 有利区間) を設けるようにしてもよい。

【 1 2 4 0 】

なお、この第 3 の態様においても、上記第 1 の態様と同様に、例えば、(A) R T 0 状態において B B に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができるし、(B) B B 状態において R B に当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができる。もっとも、この第 3 の態様のように、有利区間があくまでも入賞に係る内部当籤役 (例えば、小役) について入賞を容易とする遊技区間として位置付けられる場合には、(A) R T 0 状態において B B に当籤したときに、B B に係る図柄の組合せが表示されることを容易にする停止操作の態様 (押し順や停止操作のタイミング) がある場合に、有利区間であることに基づいて当該停止操作の態様が直接的に報知されることは望ましくないが、このような報知が行われるものとしてもよい。

30

【 1 2 4 1 】

この変形例では、上記第 2 の態様と上記第 3 の態様とを別の態様として説明しているが、上記第 2 の態様と上記第 3 の態様とを組み合わせた有利区間の態様を採用することもできる。この場合、B B に当籤した (A) R T 0 状態が、(A - 2) 有利区間であれば、(B) B B 状態においても停止操作の情報が報知され、(A - 1) 通常 (非有利区間) であれば、(B) B B 状態においても停止操作の情報が報知されないようにしてもよい。また、この場合、(A - 2) 有利区間から移行した (B) B B 状態では、有利区間の継続期間が遊技の進行にしたがって順次更新される (すなわち、付与されている有利区間の継続期間が減っていく) ようにしてもよいし、有利区間の継続期間が更新されない (すなわち、付与されている有利区間の継続期間が減らない) ようにしてもよい。

40

【 1 2 4 2 】

(本例の変形例における有利区間仕様の第 4 の態様)

50

続いて、これまでに説明した本例の変形例の遊技性（遊技仕様）を採用した場合の、有利区間仕様の第４の態様について説明する。この第４の態様は、（Ａ）ＲＴ０状態において有利区間に移行可能とした仕様である。

【１２４３】

この第４の態様では、上述の第３の態様とは逆で、（Ａ）ＲＴ０状態において（Ａ－２）有利区間となっている場合、ＭＢに当籤したときには「ＭＢに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われることで、（Ｃ）ＲＴ１状態への移行が回避可能な情報が報知されるが、押し順小役に当籤したときには正解となる押し順は報知されないものである。また、（Ｃ）ＲＴ１状態において（Ｃ－２）有利区間となっている場合、ＭＢに係る図柄の組合せが表示可能であるときには「ＭＢに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われることで、（Ａ）ＲＴ０状態への移行を可能とする情報が報知されるが、押し順小役に当籤した場合には、正解となる押し順は報知されないものである。

10

【１２４４】

なお、この第４の態様では、例えば、有利区間は、（Ａ－２）有利区間のみが設けられ、（Ｃ－２）有利区間は設けられないようにしてもよい。すなわち、有利区間を、一連の増加区間を継続させる（（Ａ）ＲＴ０状態を継続させる）ための機能を担うものとして構成し、（Ｃ）ＲＴ１状態を終了させるための機能を担わないものとして構成してもよい。

【１２４５】

また、この第４の態様では、有利区間を、「ＭＢに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われた回数（ナビ回数）によって管理する手法とすることが好適である。例えば、（Ｃ）ＲＴ１状態においてＭＢに係る図柄の組合せが表示され、（Ｄ）ＭＢ状態に移行し、（Ｄ）ＭＢ状態が終了して（Ａ）ＲＴ０状態に移行するまでの間のいずれか任意のタイミングで、有利区間に移行させるか否かの決定を行い、有利区間に移行させることを決定した場合には、付与するナビ回数を決定する。そして、移行した（Ａ）ＲＴ０状態（（Ａ－２）有利区間）では、決定されたナビ回数分、「ＭＢに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われるようにすればよい。もっとも、（Ａ）ＲＴ０状態では、例えば、ＢＢに当籤し、ＢＢに係る図柄の組合せが表示されて（Ｂ）ＢＢ状態に移行し、（Ｂ）ＢＢ状態が終了して（Ａ）ＲＴ０状態に移行のいずれか任意のタイミングで、有利区間に移行させる（延長させる）か否かの決定を行い、有利区間に移行させる（延長させる）ことを決定した場合には、付与するナビ回数を決定してもよい。なお、ナビ回数による管理を好適として説明したが、その他の管理手法（例えば、ゲーム数による管理など）を採用することを妨げるものではない。

20

30

【１２４６】

なお、この第４の態様においても、上記第１の態様と同様に、例えば、（Ａ）ＲＴ０状態においてＢＢに当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができるし、（Ｂ）ＢＢ状態においてＲＢに当籤したときには、その旨の告知ないし示唆が行われるようにすることができる。もっとも、この第４の態様のように、有利区間があくまでも一連の増加区間の継続を容易とする遊技区間として位置付けられる場合には、（Ａ）ＲＴ０状態においてＢＢに当籤したときに、ＢＢに係る図柄の組合せが表示されることを容易にする停止操作の態様（押し順や停止操作のタイミング）がある場合に、有利区間であることに基づいて当該停止操作の態様が直接的に報知されることは望ましくないが、このような報知が行われるものとしてもよい。

40

【１２４７】

この変形例では、上記第３の態様と上記第４の態様とを別の態様として説明しているが、上記第３の態様と上記第４の態様とを組み合わせた有利区間の態様を採用することもできる。この場合、（Ａ－２）有利区間であれば、押し順小役に当籤したときには正解となる押し順が報知されることで、（Ａ－１）通常（非有利区間）と比べて多くの遊技価値が付与され、ＭＢに当籤したときには「ＭＢに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推

50

測されるような告知ないし示唆」が行われることで、(C)RT1状態への移行が回避可能な情報が報知されるようにすればよい。また、(C-2)有利区間であれば、押し順小役に当籤したときには正解となる押し順が報知されることで、(C-1)通常(非有利区間)と比べて多くの遊技価値が付与され、MBに係る図柄の組合せが表示可能であるときには「MBに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」が行われることで、(A)RT0状態への移行を可能とする情報が報知されるようにすればよい。なお、上述のように、(C-2)有利区間であっても、MBに係る図柄の組合せが表示可能であるときに「MBに係る図柄の組合せが表示される遊技方法が推測されるような告知ないし示唆」は行われないうにしてもよい。

【1248】

10

(本例の変形例における有利区間リミッタ)

続いて、これまでに説明した本例の変形例の遊技性(遊技仕様)を採用し、また、有利区間仕様として、少なくとも上記第3の態様又は上記第4の態様が含まれる有利区間の態様を採用した場合における、有利区間のリミット処理について説明する。

【1249】

本実施形態では、有利区間が長く継続し過ぎることに起因して射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するため、上述のあるいは後述のリミット処理を行うことが可能となっている。例えば、「ゲーム数リミッタ」であれば有利区間が「1500ゲーム」継続した場合、また、「枚数リミッタ」であれば有利区間において「2400枚」のメダルを獲得した場合には、未だ有利区間のゲーム数、セット数、ストック、ナビ回数、差枚数などが残存している場合であっても、リミット処理の実行により強制的に有利区間が終了され非有利区間に移行される。

20

【1250】

しかしながら、本例の変形例の遊技性(遊技仕様)によれば、このようなリミット処理の実行によって有利区間が終了した後も、一連の増加区間が継続する場合も生じうる。すなわち、一連の増加区間により、遊技者に有利となる有利区間の継続に関し一定の制限を設けた意義が失われるおそれがあるという問題がある。そこで、一連の増加区間を設ける場合に、それを考慮した有利区間の制限を行うことができる遊技機を提供するため、以下のような工夫をなすことが望ましい。

【1251】

30

例えば、本例の変形例の遊技性(遊技仕様)においては、一連の増加区間が開始すると同時に、あるいは、一連の増加区間が開始する前に有利区間を開始させる。一の具体例として、一連の増加区間が(A)RT0状態においてBBに当籤したときに開始すると定めた場合には、(A)RT0状態においてBBに当籤したのと同様、あるいは、(A)RT0状態に移行したときなどに有利区間を開始させる。また、他の具体例として、一連の増加区間が(A)RT0状態に移行したときに開始すると定めた場合には、(A)RT0状態に移行したのと同様、あるいは、(D)MB状態に移行したときなどに有利区間を開始させる。なお、ここでいう有利区間の開始とは、リミット処理上(制御上)の有利区間の開始を意味し、必ずしも当該開始時点で有利区間の実質的な継続期間(ゲーム数、セット数、ストック、ナビ回数、差枚数など)が付与されることを意味するものではない。したがって、有利区間の継続期間については、例えば、本実施形態や本例以外の遊技性(遊技仕様)の他の例で説明した種々の条件を採用して、各遊技状態で付与(あるいは延長)の当否決定を行い、当該決定結果に応じて付与(あるいは延長)されるものとすればよい。もっとも、上記開始時点においても有利区間の継続期間付与(あるいは延長)の当否決定が行われるものとしてもよい。

40

【1252】

ここで、「ゲーム数リミッタ」の場合、上限の遊技数は例えば「1500ゲーム」となるが、この「1500」から、一連の増加区間において作動するボーナス状態(例えば、(B)BB状態。複数のボーナス状態がある場合には、そのうちでもっとも長い遊技数の間継続する可能性があるもの)の期待遊技数(平均遊技数)に、ループ率に応じた閾値(

50

ループ率を遊技数に換算するための掛け率として定めた変数)を乗じた値を減じ、それを指示停止遊技数として算出する(あるいは、予め規定する)。例えば、本例の変形例において、ボーナス状態の期待遊技数を「20ゲーム」とし、ループ率50%に応じた閾値を「6」とした場合、指示停止遊技数は、「1500ゲーム - 20ゲーム × 6 = 1380ゲーム」となる。

【1253】

ここで、「枚数リミッタ」の場合、上限の獲得枚数は例えば「2400枚」となるが、この「2400」から、一連の増加区間において作動するボーナス状態(例えば、(B)BB状態。複数のボーナス状態がある場合には、そのうちでもっとも多くのメダルが付与される可能性があるもの)の期待獲得枚数(平均獲得枚数)に、ループ率に応じた閾値(ループ率を獲得枚数に換算するための掛け率として定めた変数)を乗じた値を減じ、それを指示停止獲得枚数として算出する(あるいは、予め規定する)。例えば、本例の変形例において、ボーナス状態の期待獲得枚数を「120枚」とし、ループ率50%に応じた閾値を「6」とした場合、指示停止獲得枚数は、「2400枚 - 120枚 × 6 = 1680枚」となる。

【1254】

そして、「ゲーム数リミッタ」によってリミット処理が行われるように構成した場合、上記開始時点において開始された有利区間がそのまま継続して遊技数が「1380ゲーム」(指示停止遊技数)に到達した際には、有利区間の継続期間が残存していれば(制御上は)有利区間は継続するものの、以降の遊技においては、停止操作の情報が報知されないようになる(すなわち、指示機能が停止する)。

【1255】

また、「枚数リミッタ」によってリミット処理が行われるように構成した場合、上記開始時点において開始された有利区間がそのまま継続して獲得枚数が「1680枚」(指示停止獲得枚数)に到達した際には、有利区間の継続期間が残存していれば(制御上は)有利区間は継続するものの、以降の遊技においては、停止操作の情報が報知されないようになる(すなわち、指示機能が停止する)。

【1256】

また、指示停止遊技数又は指示停止獲得枚数に到達したことに基づいて指示機能が停止した後の処理であるが、リミット処理が実行される前に、一連の増加区間が終了した場合には、それと同時に、あるいは、その終了後に有利区間を終了させる。一の具体例として、一連の増加区間が(A)RT0状態においてMBに当籤し、MBに係る図柄の組合せが表示されずに(C)RT1状態に移行したときに終了すると定めた場合には、(C)RT1状態に移行したのと同時、あるいは、(C)RT1状態に移行した遊技の次回遊技が開始されるときなどに有利区間を終了させる。なお、(A)RT0状態や(B)BB状態では、一連の増加区間が未だ継続する可能性があることから、(制御上)有利区間を終了させる処理を行うのは、少なくとも(C)RT1状態中とすることが望ましい。もっとも、リミット処理の実行によって有利区間を終了させる場合には、この限りではない。すなわち、(A)RT0状態や(B)BB状態において、「ゲーム数リミッタ」の場合には「1500ゲーム」に到達したとき、「枚数リミッタ」の場合には「2400枚」に到達したときには、リミット処理の実行によって有利区間を終了させることを可能としてもよい。

【1257】

なお、有利区間が継続して指示停止遊技数又は指示停止獲得枚数に到達したときには、指示機能が停止するため、実質的には有利区間が終了するのと同義である。したがって、上述した「ゲーム数リミッタ」の「1500ゲーム」や、「枚数リミッタ」の「2400枚」は、あくまでも遊技店に設置可能な遊技機の規制値として定められる値とし、本例の変形例の遊技性(遊技仕様)のような一連の増加区間が搭載される遊技機にあっては、当該規制値から上述したように指示停止遊技数又は指示停止獲得枚数を算出し、算出した指示停止遊技数や指示停止獲得枚数の値を、「ゲーム数リミッタ」や「枚数リミッタ」の値として予め定め、リミット処理が実行されるようにしてもよい。すなわち、一連の増加区

間が搭載されることにより、遊技価値が増加する増加期間が、予定した出玉設計や予め定められた規制値の範囲から大きくはみ出してしまう可能性がある場合に、このはみ出してしまう部分を加味した上で、（前倒しで）有利区間の規制することができる手法であれば、どのような手法を採用することもできる。

【 1 2 5 8 】

また、本例の変形例で説明した遊技性（遊技仕様）、本例の変形例における有利区間仕様の第 1 ～ 第 4 の態様、本例の変形例における有利区間リミッタに関する技術思想は、本例の変形例に係る遊技機を一例として説明したものであり、本例の変形例に係る遊技機に限って適用されるものではない。すなわち、本実施形態、本例、及び本例以外の遊技性（遊技仕様）の他の例で説明した遊技機においても適宜変形して適用可能である。

10

【 1 2 5 9 】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その 4）]

続いて、図 9 6 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その 4）について説明する。図 9 6 は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 4）における遊技の流れを概念的に説明する図である。

【 1 2 6 0 】

図 9 6 に示すように、本例では、（ A ） R T 0 状態、（ B ） R T 1 状態非フラグ間、（ C ） R T 1 状態 M B フラグ間、（ D ） R T 2 状態 B B フラグ間、（ E ） B B 状態、及び（ F ） M B 状態の遊技状態がある。なお、（ A ） R T 0 状態及び（ E ） B B 状態は、上述の一連の増加区間として位置付けられる。

20

【 1 2 6 1 】

（ A ） R T 0 状態は、再遊技（リプレイ）役の当籤確率が少なくとも（ B ）（ C ） R T 1 状態よりも低く、（ B ） R T 1 状態非フラグ間、（ D ） R T 2 状態 B B フラグ間、及び（ F ） M B 状態に移行可能な遊技状態である。なお、B B、M B、押し順小役、ベルこぼし目などについては、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 3）（変形例を含む）などにおいて説明したものと同様であるため、ここでの説明は省略する。もっとも、本例では、M B は、いずれかの小役又はリプレイ役（例えば、上述のレア役）と重複当籤し、単独で当籤しないようにし、M B に当籤した遊技では M B に係る図柄の組合せが表示されることがなく、M B フラグ間において内部抽籤結果が「ハズレ」となった遊技においては、押し順や停止操作のタイミング（すなわち、停止操作の態様）にかかわらず、必ず M B に係る図柄の組合せが表示されるように構成されるが、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 3）の変形例で説明したのと同様に、遊技者の停止操作の態様などに応じて、M B に当籤した遊技で M B に係る図柄の組合せが表示される場合があるように構成することもできる。

30

【 1 2 6 2 】

（ A ） R T 0 状態において、有利区間に制御されていない場合には、（ A - 1 ）通常（非有利区間）となって遊技価値が減少する減少期間となり、有利区間に制御されている場合には、（ A - 2 ）有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となる。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性（遊技仕様）の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

【 1 2 6 3 】

40

（ A ） R T 0 状態において、（ 1 ） B B に当籤した場合、B B 許可状態としての（ D ） R T 2 状態 B B フラグ間に移行する。また、（ A ） R T 0 状態において、M B に当籤した場合、M B 許可状態としての M B フラグ間に移行するが、R T 状態は変動しない。また、（ A ） R T 0 状態の M B フラグ間では、ベルこぼし目が有効ライン上に停止表示されても（ C ） R T 1 状態 M B フラグ間には移行しない。また、（ A ） R T 0 状態では、「ハズレ」確率が少なくとも（ B ）（ C ） R T 1 状態よりも高く（例えば、「1 / 6」に）設定されているため、M B に係る図柄の組合せが表示されて、（ 4 ） M B 開始条件が成立することが容易となっている。また、（ A ） R T 0 状態において、（ D ） R T 2 状態 B B フラグ間に移行する前、あるいは M B フラグ間となる前に（すなわち、非フラグ間である場合に）、（ 5 ）ベルこぼし目が有効ライン上に停止表示されると、（ C ） R T 1 状態非フラグ

50

間に移行する。

【 1 2 6 4 】

(B) R T 1 状態非フラグ間は、再遊技 (リプレイ) 役の当籤確率が少なくとも (A) R T 0 状態よりも高く、(A) R T 0 状態、(C) R T 1 状態 M B フラグ間、及び (D) R T 2 状態 B B フラグ間に移行可能な遊技状態である。(B) R T 1 状態非フラグ間において、有利区間に制御されていない場合には、(B - 1) 通常 (非有利区間) となって遊技価値が減少する減少期間となり、有利区間に制御されている場合には、(B - 2) 有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となる。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性 (遊技仕様) の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

10

【 1 2 6 5 】

(B) R T 1 状態非フラグ間において、(1) B B に当籤した場合、B B 許可状態としての (D) R T 2 状態 B B フラグ間に移行する。また、(B) R T 1 状態非フラグ間において、(6) M B に当籤した場合、M B 許可状態としての (C) R T 1 状態 M B フラグ間に移行する (R T 状態は変動しない)。なお、本例では、M B に当籤した遊技では M B に係る図柄の組合せが表示されることがないように構成しているため、(B) R T 1 状態非フラグ間から (F) M B 状態に移行しないものとなっているが、上述のように、(B) R T 1 状態非フラグ間から (F) M B 状態に移行する場合があるように構成することもできる。なお、(B) R T 1 状態非フラグ間と (C) R T 1 状態 M B フラグ間とは、基本的に同じ R T 状態 (R T 1 状態) であり、(B) (C) いずれの R T 1 状態であっても、(9) R T 1 状態中の遊技数が規定ゲーム数 (例えば、1 5 0 0 ゲーム) となった場合 (すなわち、1 5 0 0 ゲームを消化した場合)、(A) R T 0 状態に移行する。このとき、(B) R T 1 状態非フラグ間であれば (A) R T 0 状態の非フラグ間に移行し、(C) R T 1 状態 M B フラグ間であれば (A) R T 0 状態の M B フラグ間に移行する。

20

【 1 2 6 6 】

(C) R T 1 状態 M B フラグ間は、再遊技 (リプレイ) 役の当籤確率が少なくとも (A) R T 0 状態よりも高く、(A) R T 0 状態、及び (F) M B 状態に移行可能な遊技状態である。(C) R T 1 状態 M B フラグ間において、有利区間に制御されていない場合には、(C - 1) 通常 (非有利区間) となって遊技価値が減少する減少期間となり、有利区間に制御されている場合には、(C - 2) 有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となる。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性 (遊技仕様) の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

30

【 1 2 6 7 】

(C) R T 1 状態 M B フラグ間では、「ハズレ」確率が少なくとも (A) R T 0 状態よりも極めて低く (例えば、「1 / 8 1 9 2」に) 設定されているため、M B に係る図柄の組合せが表示されて、(7) M B 開始条件が成立することが困難となっている。なお、(C) R T 1 状態 M B フラグ間は、M B 許可状態であることから、新たに M B に当籤したり、B B に当籤したりする場合はない。

【 1 2 6 8 】

(D) R T 2 状態 B B フラグ間は、再遊技 (リプレイ) 役の当籤確率が少なくとも (B) (C) R T 1 状態よりも低く、(E) B B 状態に移行可能な遊技状態である。(D) R T 2 状態 B B フラグ間において、B B に係る図柄の組合せが表示されると、(2) B B 開始条件が成立し、(E) B B 状態に移行する。また、(D) R T 2 状態 B B フラグ間では、「ハズレ」確率が少なくとも (B) (C) R T 1 状態よりも高く (例えば、「1 / 1 2」に) 設定されているため、B B に係る図柄の組合せが表示されて、(2) B B 開始条件が成立することが容易となっている。なお、(C) R T 2 状態 B B フラグ間は、B B 許可状態であることから、新たに B B に当籤したり、M B に当籤したりする場合はない。

40

【 1 2 6 9 】

(E) B B 状態は、例えば、上述した「特殊ボーナス状態」で構成され、遊技価値が増加する増加期間となる遊技状態である。(E) B B 状態において、規定数 (例えば、1 4

50

0枚超)の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(3)BB終了条件が成立し、(B)BB状態から(A)RT0状態に移行する。

【1270】

(F)MB状態は、通常のボーナス状態として構成され、遊技価値が増加する増加期間となる遊技状態である。なお、遊技性(遊技仕様)の他の例(その3)の変形例で説明したのと同様に、無増減期間として構成することもできる。(F)MB状態において、規定数(例えば、13枚超)の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(8)MB終了条件が成立し、(A)RT0状態から移行していた場合には(F)MB状態から(A)RT0状態に移行し、(C)RT1状態MBフラグ間から移行していた場合には(F)MB状態から(B)RT1状態非フラグ間に移行する。

10

【1271】

すなわち、(F)MB状態は、その作動あるいは終了によってRT状態が変動しない(より詳細には、(B)(C)RT1状態が、(F)MB状態を貫通して作動する)ものとなっている。ここで、(B)(C)RT1状態は、開始されてから規定ゲーム数(例えば、1500ゲーム)の間は終了しないものとなっている。したがって、(F)MB状態の作動あるいは終了は、この規定ゲーム数にも影響を与えないものとなっている。もっとも、(F)MB状態中の期間は、その規定ゲーム数の計数対象として算入されてもよいし、その規定ゲーム数の計数が中断される(算入されない)ものとしてもよい。

【1272】

なお、(F)MB状態と(B)(C)RT1状態の間の移行制御は、上述したものに限られない。例えば、(F)MB状態が終了した場合、それが(C)RT1状態MBフラグ間から移行していたものであっても、(A)RT0状態に移行させるようにしてもよい。すなわち、MB状態が作動したこと、あるいは終了したことを契機として、RT1状態を終了させるようにしてもよい。本例では、(C)RT1状態MBフラグ間に移行した場合、規定ゲーム数を消化して(A)RT0状態のMBフラグ間に移行させ、(F)MB状態を作動させて(A)RT0状態の非フラグ間に移行させるか、あるいは(F)MB状態を作動させて(B)RT1状態非フラグ間に移行させ、そこでBBを当籤させなければ、一連の増加区間には移行しないものとなっているため、(F)MB状態が終了した場合に(A)RT0状態の非フラグ間に移行させるようにすれば、一連の増加区間に移行する頻度を高めることができる。これは、意図する出玉率やその内容などに応じて適宜選択されるものとすればよい。

20

30

【1273】

本例の遊技機によれば、特別役(BB)に当籤した場合には特別許可状態(BB許可状態)となって第2特定遊技状態((D)RT2状態)に移行し、特別図柄の組合せ(BBに係る図柄の組合せ)を表示させて特別遊技状態((E)BB状態)に移行させることを困難としない一方、特殊役(MB)に当籤した場合には特殊許可状態(MB許可状態)となるが遊技状態は移行せず、第1特定遊技状態((C)RT1状態MBフラグ間)であれば、当該第1特定遊技状態が終了するまで特殊図柄の組合せ(MBに係る図柄の組合せ)を表示させて特殊遊技状態((F)MB状態)に移行させることを困難とし、その結果として通常遊技状態((A)RT0状態)に移行させることを困難とする。また、第1特定遊技状態には、特別許可状態及び特殊許可状態でない通常遊技状態において特定役(押し順小役)に当籤した場合に、特定の態様(押し順正解となる態様)で停止操作が行われずに特定図柄の組合せ(ベルこぼし目)が表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び第1特定遊技状態における特定期間(有利区間)では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、特定数(例えば、9枚)の遊技価値が付与される。

40

【1274】

ここで、本例の遊技機によれば、通常遊技状態において、特定役に当籤したときに特定図柄の組合せが表示されて第1特定遊技状態に移行する前に、特別役又は特殊役に当籤し

50

て特別許可状態（第2特定遊技状態）又は特殊許可状態となれば、特別遊技状態又は特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。また、第1特定遊技状態であっても、特別役に当籤して特別許可状態（第2特定遊技状態）となれば、特別遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。一方、第1特定遊技状態において、特殊役に当籤して特殊許可状態となると、特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことが困難となる。

【1275】

また、本例の遊技機によれば、特別役（BB）に当籤した場合には特別許可状態（BB許可状態）となって第2特定遊技状態（（D）RT2状態）に移行し、特別図柄の組合せ（BBに係る図柄の組合せ）を表示させて特別遊技状態（（E）BB状態）に移行させることを困難としない一方、特殊役（MB）に当籤した場合には特殊許可状態（MB許可状態）となるが遊技状態は移行せず、第1特定遊技状態（（C）RT1状態MBフラグ間）であれば、規定数（例えば、1500ゲーム）の遊技が行われて当該第1特定遊技状態が終了するまで特殊図柄の組合せ（MBに係る図柄の組合せ）を表示させて特殊遊技状態（（F）MB状態）に移行させることを困難とし、その結果として通常遊技状態（（A）RT0状態）に移行させることを困難とする。また、第1特定遊技状態には、特別許可状態及び特殊許可状態でない通常遊技状態において特定役（押し順小役）に当籤した場合に、特定の態様（押し順正解となる態様）で停止操作が行われずに特定図柄の組合せ（ベルこぼし目）が表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び第1特定遊技状態における特定期間（有利区間）では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、特定数（例えば、9枚）の遊技価値が付与される。

【1276】

ここで、本例の遊技機によれば、通常遊技状態において、特定役に当籤したときに特定図柄の組合せが表示されて第1特定遊技状態に移行する前に、特別役又は特殊役に当籤して特別許可状態（第2特定遊技状態）又は特殊許可状態となれば、特別遊技状態又は特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。また、第1特定遊技状態であっても、特別役に当籤して特別許可状態（第2特定遊技状態）となれば、特別遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。一方、第1特定遊技状態において、特殊役に当籤して特殊許可状態となると、規定数の遊技が行われるまで特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことが困難となる。

【1277】

かかる遊技性の下、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態（あるいは特殊遊技状態）への移行を繰り返す（すなわち、遊技者に有利な遊技期間を継続させる）ことが可能となるのみならず、特定役に当籤したときに付与される遊技価値も増加することになる。また、第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、例えば、特殊許可状態であれば特殊遊技状態を経由して通常遊技状態に移行させることは困難であるものの、特定役に当籤したときに付与される遊技価値は増加することになる。また、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となっていない場合であっても、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態（あるいは特殊遊技状態）への移行を繰り返すことができる場合もある。

【1278】

すなわち、本例の遊技機によれば、通常遊技状態若しくは第1特定遊技状態であるか、通常遊技状態において特別役、特殊役若しくは特定役がどのような順番で当籤するか、第1特定遊技状態において特別役若しくは特殊役がどのような順番で当籤するか、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、又は第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、などに応じて遊技者の有利度合いを多彩に変動させることが可能となる。それゆえ、遊技

意欲や興趣を向上させることができる。

【 1 2 7 9 】

なお、本例の遊技機において、少なくとも第 1 特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、第 1 特定遊技状態であっても遊技価値が増加する場合があることから、通常遊技状態に移行することが困難な特定遊技状態中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【 1 2 8 0 】

[遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 5)]

続いて、図 9 7 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 5) について説明する。図 9 7 は、遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 5) における遊技の流れを概念的に説明する図である。

【 1 2 8 1 】

図 9 7 に示すように、本例では、(A) 一般遊技状態 (非ボーナス状態)、(B) B B 1 状態、(C) B B 1 フラグ間、(D) B B 2 状態、(E) B B 2 フラグ間、(F) B B 3 状態、及び (G) B B 3 フラグ間の遊技状態がある。本例は、一般遊技状態 (通常遊技状態) で当籤したボーナス役の種別、及びボーナス役に当籤した遊技で対応する図柄の組合せが表示されたか否かで遊技性を異ならせようとするものである。

【 1 2 8 2 】

B B 1 に係る図柄の組合せは、例えば本実施形態の「 C __ 赤同色 B B 」(図 2 0 参照) と同様に構成される。B B 2 に係る図柄の組合せは、例えば本実施形態の「 C __ 青同色 B B 」(図 2 0 参照) と同様に構成される。B B 3 に係る図柄の組合せは、例えば「 B A R - B A R - B A R 」(図 1 5 参照) として構成される。このとき、「赤 7」図柄、「青 7」図柄、及び「B A R」図柄が、少なくとも一のリール (全てのリールであってもよい) において等間隔 (あるいは略等間隔) に配置され、当該リールに対して停止操作を行う場合には、「赤 7」図柄が表示されるタイミングと、「青 7」図柄が表示されるタイミングと、「B A R」図柄が表示されているタイミングと、が重複しないように構成する。すなわち、「赤 7」図柄を狙って目押しした場合には、「青 7」及び「B A R」図柄が表示される場合がなく、「青 7」図柄を狙って目押しした場合には、「赤 7」及び「B A R」図柄が表示される場合がなく、「B A R」図柄を狙って目押しした場合には、「赤 7」及び「青 7」図柄が表示される場合がないように構成する。なお、B B 3 に係る図柄の組合せは、例えば本実施形態の「 C __ 赤異色 B B 」若しくは「 C __ 青異色 B B 」(図 2 0 参照) と同様に構成されるようにしてもよい。

【 1 2 8 3 】

(A) 一般遊技状態 (非ボーナス状態) において、例えばボーナス役 (B B 1 ~ B B 3 のいずれか) を所定確率 (例えば、合算で $1 / 45$) で当籤可能とした場合、当籤したボーナス役が B B 1 である確率は「 45 % 」(当籤確率としては「 $1 / 100$ 」) であり、当籤したボーナス役が B B 2 である確率は「 45 % 」(当籤確率としては「 $1 / 100$ 」) であり、当籤したボーナス役が B B 3 である確率は「 10 % 」(当籤確率としては「 $1 / 450$ 」) である。なお、このボーナス当籤比率は、一例を示したものであり、B B 1 ~ B B 3 を同じ当籤確率 (当籤比率) で当籤させてもよいし、上記とは異なる比率で当籤させてもよい。また、(A) 一般遊技状態 (非ボーナス状態) において、B B 1、B B 2、及び B B 3 は、他のリプレイ役や小役と重複として当籤せず、それぞれ単独で当籤するように構成される。なお、当籤した遊技で対応する図柄の組合せが表示可能である限り、他の小役などと重複して当籤するように構成してもよい。

【 1 2 8 4 】

(A) 一般遊技状態 (非ボーナス状態) において、(1 - 1) B B 1 に当籤した場合、(2 - 1) B B 2 に当籤した場合、(3 - 1) B B 3 に当籤した場合、いずれの場合にも当籤した遊技でボーナス当籤報知が行われる。このボーナス当籤報知は、B B 1 ~ B B 3 のいずれかが内部当籤役として決定された旨は報知可能とするが、その種別を報知可能と

10

20

30

40

50

しない所定報知として構成される。この所定報知は、例えば、「大当り！」などの文字を表示したり、WINランプを点灯させたりしてボーナス役に当籤したことは報知されるが、BB1に当籤したのか、BB2に当籤したのか、あるいはBB3に当籤したのかは感得されないものとなっている。

【1285】

(A)一般遊技状態(非ボーナス状態)において、(1-1)BB1に当籤した場合、遊技者が「赤7」図柄の目押しを成功し(停止操作のタイミングが適切であり)、BB1に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できた場合には、(1-2)BB1成立となり、(A)一般遊技状態(非ボーナス状態)から(B)BB1状態に移行する。(B)BB1状態では、他の例と同様、遊技価値が増加する増加期間となり、(B)BB1状態において、規定数(例えば、140枚超)の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(1-4)BB1終了となって、(B)BB1状態から(A)一般遊技状態(非ボーナス状態)に移行する。

10

【1286】

一方、遊技者が「赤7」図柄の目押しを失敗し(停止操作のタイミングが適切でなく)、BB1に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できなかった場合には、(1-3)BB1不成立となり、(A)一般遊技状態(非ボーナス状態)から(C)BB1フラグ間に移行する。

【1287】

本例では、本実施形態や他の例と同様、押し順小役があり、これを、6択の押し順小役1~6として説明する。通常の停止制御では、押し順小役1は、左中右が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)、押し順小役2は、左右中が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)、押し順小役3は、中左右が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)、押し順小役4は、中右左が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)、押し順小役5は、右左中が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)、押し順小役6は、右中左が押し順正解で停止操作のタイミングにかかわらず9枚払出、その他の押し順が押し順不正解で、停止操作のタイミングが適切なら1枚払出、適切でなければ取りこぼし(払出なし)となる。

20

30

【1288】

(C)BB1フラグ間では、(A)一般遊技状態(非ボーナス状態)よりも再遊技(リプレイ)役の当籤確率が高く、「ハズレ」確率が例えば「1/4000」程度に設定される。他の例で説明したのと同様、本例でも(C)BB1フラグ間においては「ハズレ」となった遊技でのみBB1に係る図柄の組合せが表示可能となる。「ハズレ」となった遊技でBB1に係る図柄の組合せを表示させることができれば、(1-2)BB1成立となり、(C)BB1フラグ間から(B)BB1状態に移行する。また、(C)BB1フラグ間では、当籤していたボーナス役がBB1であったこと(すなわち、ボーナス役の種別)が報知されるボーナス種別報知が行われる。このボーナス種別報知は、BB1フラグ間において、BB1に当籤していること(BB1に係る図柄の組合せの表示が許可されていること)を報知する特定報知として構成される。この特定報知は、例えば、「赤7内部当たり中」など文字を表示したり、「赤7」に対応するランプを点灯させたりしてBB1に当籤していることが感得されうるものとなっている。なお、この特定報知は、(C)BB1フラグ間である間は常に行われるようにすることもできるし、(C)BB1フラグ間においてBB1に係る図柄の組合せが表示可能となった遊技で行われるようにすることもできる

40

50

。

【 1 2 8 9 】

また、(C) B B 1 フラグ間では、押し順小役 1 ~ 6 について、停止制御が変更される。具体的には、押し順小役 1、押し順小役 3、押し順小役 5 に当籤した場合には、押し順や停止操作のタイミングにかかわらず（これらの要因を不問として）9 枚払出となり、押し順小役 2、押し順小役 4、押し順小役 6 に当籤した場合には、押し順や停止操作のタイミングにかかわらず（これらの要因を不問として）1 枚払出となるように停止制御が変更される。ここで、押し順小役 1 ~ 6 についてはそれぞれ同じ当籤確率となっていることから、押し順の報知が行われないことを前提とすれば、通常の停止制御が行われる (A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）や後述の (G) B B 3 フラグ間よりも当該 (C) B B 1 フラグ間のほうが遊技者に対する還元率が高く構成される。なお、(C) B B 1 フラグ間は、減少期間（ただし、(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）や後述の (G - 1) 非有利区間からみると減少率が低い）として構成してもよいし、増加期間（ただし、後述の (G - 2) 有利区間からみると増加率が低い）として構成してもよい。また、付与期待値上は、無増減期間として構成してもよい。また、付与期待値にはほとんど影響を与えないが、(C) B B 1 フラグ間においても、特定の報知条件にしたがって、例えば (C - 1) 非有利区間と (C - 2) 有利区間との間で移行制御が行われるようにしてもよい。

10

【 1 2 9 0 】

(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）において、(2 - 1) B B 2 に当籤した場合、遊技者が「青 7」図柄の目押しを成功し（停止操作のタイミングが適切であり）、B B 2 に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できた場合には、(2 - 2) B B 2 成立となり、(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）から (D) B B 2 状態に移行する。(D) B B 2 状態では、他の例と同様、遊技価値が増加する増加期間となり、(D) B B 2 状態において、規定数（例えば、1 4 0 枚超）の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(2 - 4) B B 2 終了となって、(D) B B 2 状態から (A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行する。

20

【 1 2 9 1 】

一方、遊技者が「青 7」図柄の目押しを失敗し（停止操作のタイミングが適切でなく）、B B 2 に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できなかった場合には、(2 - 3) B B 2 不成立となり、(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）から (E) B B 2 フラグ間に移行する。なお、(E) B B 2 フラグ間は、B B 1 を B B 2 と置き換え、「赤 7」を「青 7」と置き換えれば、基本的に (C) B B 1 フラグ間と同様となるため、ここでの説明は省略する。また、ボーナス種別報知なども同様である。

30

【 1 2 9 2 】

(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）において、(3 - 1) B B 3 に当籤した場合、遊技者が「BAR」図柄の目押しを成功し（停止操作のタイミングが適切であり）、B B 3 に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できた場合には、(3 - 2) B B 3 成立となり、(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）から (F) B B 3 状態に移行する。(F) B B 3 状態では、他の例と同様、遊技価値が増加する増加期間となり、(F) B B 3 状態において、規定数（例えば、1 4 0 枚超）の遊技価値が付与されると、遊技価値の付与上限となり、(3 - 4) B B 3 終了となって、(F) B B 3 状態から (A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行する。なお、(F) B B 3 状態を、減少期間や無増減期間として構成することもできる。

40

【 1 2 9 3 】

一方、遊技者が「BAR」図柄の目押しを失敗し（停止操作のタイミングが適切でなく）、B B 3 に係る図柄の組合せを有効ライン上に停止表示できなかった場合には、(3 - 3) B B 3 不成立となり、(A) 一般遊技状態（非ボーナス状態）から (G) B B 3 フラグ間に移行する。

【 1 2 9 4 】

(G) B B 3 フラグ間では、(C) B B 1 フラグ間及び (E) B B 2 フラグ間よりも再

50

遊技（リプレイ）役の当籤確率が高く、「ハズレ」確率が例えば「1 / 6 5 5 3 6」程度やあるいは「0」に設定される。すなわち、（G）BB3フラグ間では、BB3に係る図柄の組合せが表示される確率が極めて低いか、あるいはBB3に係る図柄の組合せが表示されないように構成される。なお、「ハズレ」確率の設定はこれに限られず、（C）BB1フラグ間及び（E）BB2フラグ間と同程度に設定してもよいし、これらよりも高い確率に設定してもよい。これは、意図する出玉率やその内容などに応じて適宜選択されるものとすればよい。（G）BB3フラグ間においても同様、「ハズレ」となった遊技でのみBB3に係る図柄の組合せが表示可能となる。「ハズレ」となった遊技でBB3に係る図柄の組合せを表示させることができれば、（3 - 2）BB3成立となり、（G）BB3フラグ間から（F）BB3状態に移行する。なお、ボーナス種別報知は、「赤7」を「BAR」と置き換えれば、基本的に（C）BB1フラグ間と同様となるため、ここでの説明は省略する。

10

【1295】

また、（G）BB3フラグ間では、押し順小役1～6について、停止制御が変更されず、通常の停止制御となる。したがって、押し順の報知が行われないことを前提とすれば、（C）BB1フラグ間及び（E）BB2フラグ間のほうが遊技者に対する還元率が高くなるが、（G）BB3フラグ間では、有利区間に制御されていない場合には、（G - 1）非有利区間となって遊技価値が減少する減少期間となるものの、有利区間に制御されている場合には、（G - 2）有利区間となって遊技価値が増加する増加期間となり、（G - 2）有利区間では、少なくとも押し順小役1～6の当籤時に正解となる押し順が報知される結果、（C）BB1フラグ間及び（E）BB2フラグ間よりも遊技者に対する還元率が高く（付与期待値が高く）構成される。なお、有利区間に制御されうる特定の報知条件は、本実施形態や本例以外の遊技性（遊技仕様）の他の例で説明した種々の条件を採用することができる。

20

【1296】

すなわち、（1 - 1）BB1に当籤し、（1 - 2）BB1成立の場合には、（B）BB1状態となって遊技価値が増加し、（1 - 3）BB1不成立の場合には、（C）BB1フラグ間となって、遊技価値が緩やかに増加し、あるいは緩やかに減少する。（C）BB1フラグ間は、（1 - 2）BB1が成立するまで継続するように構成される。また、（2 - 1）BB2に当籤し、（2 - 2）BB2成立の場合には、（D）BB2状態となって遊技価値が増加し、（2 - 3）BB2不成立の場合には、（E）BB2フラグ間となって、遊技価値が緩やかに増加し、あるいは緩やかに減少する。（E）BB2フラグ間は、（2 - 2）BB2が成立するまで継続するように構成される。

30

【1297】

また、（3 - 1）BB3に当籤し、（3 - 2）BB3成立の場合には、（F）BB3状態となって遊技価値が増加し、（3 - 3）BB3不成立の場合には、（G）BB3フラグ間となって、（G - 1）非有利区間であれば遊技価値が急激に減少する一方で、（G - 2）有利区間であれば遊技価値が急激に増加する。（G）BB3フラグ間は、極めて低い確率で（3 - 2）BB3が成立するまで継続するか、あるいは一旦移行すると基本的には終了しないように構成される。なお、BB1及びBB2のほうがBB3よりも当籤確率が高いため、射幸性を抑制できる期間を十分に確保できる。また、通常は、遊技店に設置された当初は前者の遊技性が提供され、それからしばらく経過したときに後者の遊技性が提供される可能性が高い。もっとも、以下に示すような初期化操作によって遊技性を変動可能とすることが担保されるようにすることもできる。

40

【1298】

例えば、（C）BB1フラグ間、（E）BB2フラグ間、又は（G）BB3フラグ間にあるとき、設定変更操作（遊技状態を初期化するための初期化操作）が行われると、持越役としてのBB1、BB2、又はBB3がクリアされることで、（A）一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行する。すなわち、（G）BB3フラグ間を終了しないように構成する場合、設定変更操作が行われたことに基づいて、持越役としてのBB3がクリアされる

50

ことで（Ａ）一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行するようにしてもよい。もっとも、設定変更操作が行われると、（Ｃ）ＢＢ１フラグ間又は（Ｅ）ＢＢ２フラグ間であれば、持越役としてのＢＢ１又はＢＢ２がクリアされることで（Ａ）一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行するが、（Ｇ）ＢＢ３フラグ間であれば、持越役としてのＢＢ３がクリアされず（Ａ）一般遊技状態（非ボーナス状態）に移行しないようにしてもよい。また、設定変更操作が行われても、持越役としてのＢＢ１、ＢＢ２又はＢＢ３のいずれもがクリアされないように構成することもできる。

【１２９９】

本例の遊技機によれば、第１特別役（ＢＢ１）又は第２特別役（ＢＢ３）に当籤した場合、当該遊技か、あるいは当籤後の第１特別許可状態（ＢＢ１フラグ間）又は第２特別許可状態（ＢＢ３フラグ間）において他の内部当籤役が決定されなかった（いわゆる、ハズレとなった）遊技でなければ第１特別図柄の組合せ（ＢＢ１に係る図柄の組合せ）又は第２特別図柄の組合せ（ＢＢ３に係る図柄の組合せ）を表示できない。また、第１特別許可状態では、第１所定役（押し順小役１，３，５）に当籤した場合、押し順不問で所定数（例えば、９枚）の遊技価値が付与され、第２所定役（押し順小役２，４，６）に当籤した場合、押し順不問で所定数の遊技価値が付与されない。一方、第２特別許可状態では、第１所定役又は第２所定役に当籤した場合に、押し順正解であれば所定数の遊技価値が付与され、押し順不正解であれば所定数の遊技価値は付与されない。そして、少なくとも第２特別許可状態の特定期間では、遊技者の停止操作の情報が報知される有利状態（（Ｇ－２）有利区間）に制御されることが可能である。

【１３００】

すなわち、第１特別役に当籤し、当該遊技で第１特別図柄の組合せが表示されなかった場合には、その後第１特別許可状態が終了するまで第１所定役及び第２所定役は押し順によって利益が変動しないものとなり、遊技者は一定の利益を受けることができる反面、その利益が飛躍的に増加することもないため、たとえ有利状態となったとしてもその遊技価値の増加量を示す傾斜値は相対的に低いものとなる。一方、第２特別役に当籤し、当該遊技で第２特別図柄の組合せが表示されなかった場合には、その後第２特別許可状態が終了するまで第１所定役及び第２所定役は押し順によって利益が変動するものとなり、遊技者は第１特別許可状態よりも不利益を被る可能性がある反面、有利状態となればその利益が飛躍的に増加するようになるため、有利状態における遊技価値の増加量を示す傾斜値は相対的に高いものとなる。それゆえ、有利状態中の遊技価値の増加量を示す傾斜値を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる。

【１３０１】

なお、本例の遊技機において、第１特別役の当籤確率を第２特別役の当籤確率よりも高くするとともに、第１特別許可状態において第１特別図柄の組合せが表示可能な確率を第２特別許可状態において第２特別図柄の組合せが表示可能な確率よりも高くするようにしてもよい。すなわち、第１特別許可状態を、第２特別許可状態よりも移行しやすく終了しやすい状態とし、第２特別許可状態を、第１特別許可状態よりも移行しにくく終了しにくい状態としてもよい。このようにすれば、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【１３０２】

また、本例の遊技機において、第１特別役に係る第１特別図柄の組合せと第２特別役に係る第２特別図柄の組合せは、遊技者が目押しをする場合に、同時には狙えない間隔で配置されるように構成してもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１３０３】

また、本例の遊技機において、第１特別役又は第２特別役に当籤した場合には、いずれかに当籤した旨は報知するが、その種別までは報知せず（ボーナス当籤報知）、第１特別許可状態及び第２特別許可状態においては、その種別が報知される（ボーナス種別報知）ようにしてもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとしつつ、遊技

者の所望する情報を報知することができる。

【 1 3 0 4 】

[遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 6)]

続いて、図 9 8 及び図 9 9 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 6) について説明する。図 9 8 は、遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 6) における遊技の流れを概念的に説明する図であり、図 9 9 は、遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 6) において用いられる内部抽籤テーブルの一例を示した図である。

【 1 3 0 5 】

図 9 8 及び図 9 9 に示すように、本例では、大別して、一般遊技状態 (通常遊技状態) 、及び B B 状態の遊技状態があり、一般遊技状態 (通常遊技状態) において、B B 1 及び B B 2 のいずれのボーナス役にも当籤していない状態を (A) 一般遊技状態 (非フラグ間) と定義し、B B 1 に当籤している状態 (B B 1 が持ち越されている B B 1 許可状態) であって、3 枚のメダルがベットされて (掛けられて) 遊技が行われる状態を (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と定義し、B B 2 に当籤している状態 (B B 2 が持ち越されている B B 2 許可状態) であって、3 枚のメダルがベットされて遊技が行われる状態を (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態と定義し、B B 1 許可状態であって、2 枚のメダルがベットされて遊技が行われる状態を (D) B B 1 フラグ間 2 枚ベット状態と定義し、B B 2 許可状態であって、2 枚のメダルがベットされて遊技が行われる状態を (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態と定義する。また、B B 1 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されて開始されるボーナス状態を (F) B B 1 状態と定義し、B B 2 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されて開始されるボーナス状態を (G) B B 2 状態と定義する。すなわち、一般遊技状態 (通常遊技状態) で当籤する (当籤した) ボーナス役の種別、及びベット枚数 (遊技価値の掛け数) に応じて遊技性を異ならせようとするものである。

【 1 3 0 6 】

なお、図 9 9 に示す内部抽籤テーブルでは、説明の便宜上、(A) 一般遊技状態 (非フラグ間) の 3 枚ベット状態において用いられる各抽籤値 (「非フラグ間 3 枚ベット」の列参照) 、(A) 一般遊技状態 (非フラグ間) の 2 枚ベット状態において用いられる各抽籤値 (「非フラグ間 2 枚ベット」の列参照) 、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態及び (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態において用いられる各抽籤値 (「フラグ間 3 枚ベット」の列参照) 、及び (D) B B 1 フラグ間 2 枚ベット状態及び (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態において用いられる各抽籤値 (「フラグ間 2 枚ベット」の列参照) を各列に表記しているが、これは遊技状態 (R T 状態) が異なることを意味するものではない。すなわち、R T 状態としては共通の R T 状態として制御することが可能である。もっとも、別の R T 状態として制御することもできる。また、少なくとも後述の有利区間付与決定の対象となる内部当籤役については、各設定値間で共通の抽籤値となっているものとする。

【 1 3 0 7 】

(A) 一般遊技状態 (非フラグ間) において、3 枚ベットのとき、B B 1 の当籤を可能とし、B B 2 の当籤を可能としない (図 9 9 の「非フラグ間 3 枚ベット」の列参照) 。一方、2 ベットのとき、B B 2 の当籤を可能とし、B B 1 の当籤を可能としない (図 9 9 の「非フラグ間 2 枚ベット」の列参照) ように構成される。なお、本例では、遊技者は 2 枚のメダルをベットした場合、及び 3 枚のメダルをベットした場合のいずれの場合にも遊技を開始させること (開始操作を行うこと) が可能となっている。また、「ベット」とは、遊技に供するため、遊技者が 2 枚又は 3 枚のメダルをメダル投入口 1 4 に対して投入すること、遊技者がベットボタンを操作してクレジットから 2 枚又は 3 枚分のメダルを掛けること、及びリプレイ役の入賞によって自動的に 2 枚又は 3 枚分のメダルが掛けられること、のいずれをも含む。

【 1 3 0 8 】

(A) 一般遊技状態 (非フラグ間) において、3 枚ベットのとき、B B 1 に当籤した場

合（当籤した遊技でＢＢ１に係る図柄の組合せが表示されずに持ち越された場合であってもよい）には、ＢＢ１フラグ間に移行する。（１－１）ＢＢ１フラグ間において３枚ベットで遊技が行われるとき、（Ｂ）ＢＢ１フラグ間３枚ベット状態となる（図９９の「フラグ間３枚ベット」の列参照）。一方、（２）ＢＢ１フラグ間において２枚ベットで遊技が行われるとき、（Ｄ）ＢＢ１フラグ間２枚ベット状態となる（図９９の「フラグ間２枚ベット」の列参照）。

【１３０９】

（Ｂ）ＢＢ１フラグ間３枚ベット状態では、他の例ですでに説明したのと同様、「ハズレ」となった遊技でＢＢ１に係る図柄の組合せが表示可能となっている（ＢＢ１成立可）。なお、「ハズレ」確率が適宜設定可能であるが、例えば、「１／８．５」程度に設定されるものとする。また、当該状態は、ＢＢ１許可状態であり、ＢＢ１が新たに当籤したり、ＢＢ２に当籤したりすることはない（ＢＢ１・ＢＢ２当籤不可）。また、押し順ベルＡ（図９９のＮｏ．「２０」～「３１」の内部当籤役を参照）に当籤したとき、押し順正解（それぞれ「略称」で表示された押し順）であれば９枚払出となり、押し順不正解であっても停止操作のタイミングが適切であれば（「」）１枚払出となり、押し順不正解であっても停止操作のタイミングが適切でなければ（「×」）０枚払出となる。また、押し順ベルＢ（図９９のＮｏ．「２１」～「４３」の内部当籤役を参照）に当籤したとき、押し順や停止操作のタイミングにかかわらず９枚払出となる。すなわち、（Ｂ）ＢＢ１フラグ間３枚ベット状態は、押し順ベルＢの押し順が不問となる分、有利区間を考慮しなければ、（Ａ）一般遊技状態（非フラグ間）の３枚ベット状態や（Ｃ）ＢＢ２フラグ間３枚ベット状態よりも還元率が高く、遊技者に有利な状態となる。

【１３１０】

また、（Ｂ）ＢＢ１フラグ間３枚ベット状態では、チャンス目（図９９のＮｏ．「７」～「１６」の内部当籤役を参照）に当籤したとき（あるいは、チャンス目に係る図柄の組合せが表示されたときであってもよい）、強ベル（図９９のＮｏ．「１７」及び「１８」の内部当籤役を参照）に当籤したとき、確定役（図９９のＮｏ．「１９」の内部当籤役を参照）に当籤したとき、チェリー（図９９のＮｏ．「４４」の内部当籤役を参照）に当籤したとき、及びスイカ（図９９のＮｏ．「４５」の内部当籤役を参照）に当籤したときには、それぞれ内部当籤役に応じた確率（確定役については１００％の確率）で、有利区間付与決定（有利区間付与抽籤）が行われる。有利区間付与決定の結果、付与されることが決定されると、例えば、１セット５０ゲームの有利区間が付与される（すでに有利区間中であれば、１セット５０ゲーム分延長される）。なお、有利区間付与の態様は一例であり、本実施形態や本例以外の遊技性（遊技仕様）の他の例で説明した種々の態様を採用することができる。

【１３１１】

また、（Ｂ）ＢＢ１フラグ間３枚ベット状態において、ＢＢ１に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、（１－２）ＢＢ１成立となり、（Ｆ）ＢＢ１状態に移行する。（Ｆ）ＢＢ１状態は、例えば、「特殊ボーナス状態」として構成され、遊技価値が増加する増加期間となる遊技状態であり、他の例ですでに説明したのと同様、任意の規定数（例えば、１４０枚）の遊技価値が付与されると、（１－３）ＢＢ１終了となり、（Ｆ）ＢＢ１状態から（Ａ）一般遊技状態（非フラグ間）に移行する。

【１３１２】

（Ｄ）ＢＢ１フラグ間２枚ベット状態では、ＢＢ１フラグ間ではあるものの、ＢＢ１が当籤した遊技とはベット数が異なるため、たとえ「ハズレ」となった遊技であってもＢＢ１に係る図柄の組合せは表示不可能となっている（ＢＢ１成立不可）。また、当該状態は、ＢＢ１許可状態であり、ＢＢ１が新たに当籤したり、ＢＢ２に当籤したりすることはない（ＢＢ１・ＢＢ２当籤不可）。すなわち、当該状態は、ボーナス役に当籤することも入賞することもない遊技状態として構成される。もっとも、ＢＢ１フラグ間であることに鑑み、「ハズレ」となった遊技においてはＢＢ１に係る図柄の組合せが表示可能となるように構成することもできる。

【 1 3 1 3 】

また、(D) B B 1 フラグ間 2 枚ベット状態では、押し順ベル A 及び押し順ベル B のいずれかに当籤したとき、押し順正解であれば 2 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切であれば 1 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切でなければ 0 枚払出となる。もっとも、押し順ベル A 及び押し順ベル B のいずれか、あるいは双方について、押し順不問で 2 枚払出となるように構成することもできるし、付与期待値が (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と同様となるように適宜抽籤値を減らした上で、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と同様の払出が行われるようにすることもできる。なお、(D) B B 1 フラグ間 2 枚ベット状態では、上述した有利区間付与決定は行われない。

10

【 1 3 1 4 】

(A) 一般遊技状態 (非フラグ間) において、2 枚ベットするとき、B B 2 に当籤した場合 (当籤した遊技で B B 2 に係る図柄の組合せが表示されずに持ち越された場合であってもよい) には、B B 2 フラグ間に移行する。(2) B B 2 フラグ間において 3 枚ベットで遊技が行われるとき、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態となる (図 9 9 の「フラグ間 3 枚ベット」の列参照)。一方、(4 - 1) B B 2 フラグ間において 2 枚ベットで遊技が行われるとき、(E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態となる (図 9 9 の「フラグ間 2 枚ベット」の列参照)。

【 1 3 1 5 】

(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態では、B B 2 フラグ間ではあるものの、B B 2 が当籤した遊技とはベット数が異なるため、たとえ「ハズレ」となった遊技であっても B B 2 に係る図柄の組合せは表示不可能となっている (B B 2 成立不可)。また、当該状態は、B B 2 許可状態であり、B B 2 が新たに当籤したり、B B 1 に当籤したりすることはない (B B 1 ・ B B 2 当籤不可)。すなわち、当該状態は、ボーナス役に当籤することも入賞することもない遊技状態として構成される。もっとも、B B 2 フラグ間であることに鑑み、「ハズレ」となった遊技においては B B 2 に係る図柄の組合せが表示可能となるように構成することもできる。

20

【 1 3 1 6 】

また、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態では、押し順ベル A 及び押し順ベル B のいずれかに当籤したとき、押し順正解であれば 9 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切であれば 1 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切でなければ 0 枚払出となる。すなわち、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態は、押し順ベル B の押し順が不問とならない分、有利区間を考慮しなければ、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態よりも還元率が低く、遊技者に不利な状態となる。

30

【 1 3 1 7 】

また、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態では、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と同様、有利区間付与決定 (有利区間付与抽籤) が行われる。ここで、No. 「 4 」の「 F __ リブ B 」に着目すると、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態では、停止操作の態様にかかわらず「通常リブ」が入賞して有利区間付与決定は行われない一方、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態では、停止操作の態様にかかわらず「チャンス目」が入賞して有利区間付与決定が行われるものとなっている。すなわち、(C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態は、「 F __ リブ B 」の内部当籤役が「チャンス目」の内部当籤役に昇格する (変換される) ため、有利区間付与決定の機会を多く得ることができることから、有利区間を考慮すれば、(B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態よりも有利区間付与確率が高く、遊技者に有利な状態となる。

40

【 1 3 1 8 】

(E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態では、他の例ですでに説明したのと同様、「ハズレ」となった遊技で B B 2 に係る図柄の組合せが表示可能となっている (B B 2 成立可)。なお、「ハズレ」確率が適宜設定可能であるが、例えば、「 1 / 8 . 5 」程度に設定されるものとする。また、当該状態は、B B 2 許可状態であり、B B 2 が新たに当籤したり

50

、 B B 1 に当籤したりすることはない (B B 1 ・ B B 2 当籤不可)。

【 1 3 1 9 】

また、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態では、押し順ベル A 及び押し順ベル B のいずれかに当籤したとき、押し順正解であれば 2 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切であれば 1 枚払出となり、押し順不正解であって停止操作のタイミングが適切でなければ 0 枚払出となる。もっとも、押し順ベル A 及び押し順ベル B のいずれか、あるいは双方について、押し順不問で 2 枚払出となるように構成することもできるし、付与期待値が (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態と同様となるように適宜抽籤値を減らした上で、 (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態と同様の払出が行われるようにすることもできる。なお、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態では、上述した有利区間付与決定は行われない。

10

【 1 3 2 0 】

また、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態において、 B B 2 に係る図柄の組合せが有効ライン上に停止表示されると、 (4 - 2) B B 2 成立となり、 (G) B B 2 状態に移行する。 (F) B B 2 状態は、例えば、「特殊ボーナス状態」として構成され、遊技価値が増加する増加期間となる遊技状態であり、他の例ですでに説明したのと同様、任意の規定数 (例えば、 6 0 枚) の遊技価値が付与されると、 (4 - 3) B B 1 終了となり、 (G) B B 2 状態から (A) 一般遊技状態 (非フラグ間) に移行する。なお、 (F) B B 2 状態を無増減期間として構成することもできる。

【 1 3 2 1 】

本例では、 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態とを対比すると、 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態では、押し順ベル B についての押し順が不問となり、また、 (F) B B 1 状態への移行が可能である分、基本的には (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態のほうが、還元率 (ベース値、出玉率と換言してもよい) が高くなるように構成される。一方で、 (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態では、有利区間付与決定の機会を多く得ることができ、また、有利区間となったときの付与期待値も高くなることから、「 F リブ B 」の内部当籤役の当籤確率、チャンス目入賞時の有利区間付与決定確率、及び有利区間付与決定がなされたときに付与される有利区間の継続期間などを適宜調整すれば、 (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態の還元率を、 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態における還元率と同程度、あるいはそれ以上となるように構成することも可能となる。

20

30

【 1 3 2 2 】

また、本例では、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態と (D) B B 1 フラグ間 2 枚ベット状態とを対比すると、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態では、 (G) B B 2 状態への移行が可能である分、基本的には (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態のほうが、還元率が高くなるように構成される。なお、 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態と同様、 (E) B B 2 フラグ間 2 枚ベット状態においても押し順ベル B についての押し順を不問とする制御が行われることで、還元率が高くなるように構成されるようにしてもよい。

【 1 3 2 3 】

遊技者が、例えば、 (A) 一般遊技状態 (非フラグ間) から遊技を開始とした場合、遊技者はまず 3 枚ベットとするか 2 枚ベットとするかを選択することができる。3 枚ベットとして B B 1 に当籤し、当籤した遊技で (F) B B 1 状態に移行しない場合、 (D) B B 1 状態 2 枚ベット状態はメリットがないため、そのまま (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態で遊技を進行させる。 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態では、相対的に還元率が高いため、遊技者はさほど急激に遊技価値を減少させることなく、 (F) B B 1 状態へ移行させて遊技価値を増加させるか、あるいは有利区間付与決定の機会を得て有利区間に移行させて (押し順ベル A について正解となる押し順が報知される結果) 遊技価値を増加させるかを選択することができる。なお、 (B) B B 1 フラグ間 3 枚ベット状態では、 (C) B B 2 フラグ間 3 枚ベット状態と比較すれば、有利区間に移行したとしてもさほど急激に遊技価値が増加するわけではない。

40

50

【 1 3 2 4 】

一方、2枚ベットとしてBB2に当籤し、当籤した遊技で(G)BB2状態に移行しない場合、遊技者は(C)BB2フラグ間3枚ベット状態で遊技を進行させるか、あるいは(E)BB2フラグ間2枚ベット状態で遊技を進行させるかを選択することができる。(C)BB2フラグ間3枚ベット状態では、相対的に還元率が低く、ボーナス状態には移行しないため、急激に遊技価値が減少してしまう可能性はあるものの、有利区間付与決定の機会を得る確率が上昇しており、さらに有利区間に移行させた場合には(押し順ベルA及び押し順ベルBについて正解となる押し順が報知される結果)急激に遊技価値を増加させることができる可能性がある。また、(E)BB2フラグ間2枚ベット状態では、小役での遊技価値の増加は見込めないものの、相対的には還元率が高く、また、(G)BB2状態へ移行させて遊技価値を増加させることができる。本例では、このような遊技性(遊技仕様)を提供することができる。

10

【 1 3 2 5 】

本例の遊技機によれば、ベットされた遊技価値が第1の量(3枚)である場合、第1特別役(BB1)に当籤可能とする一方、第2特別役(BB2)に当籤可能としない。また、ベットされた遊技価値が第2の量(2枚)である場合、第2特別役に当籤可能とする一方、第1特別役に当籤可能としない。また、特定役(「F__リブB」)に当籤した場合、第1特別許可状態(BB1フラグ間)であれば特定図柄の組合せ(チャンス目)を表示可能とせず、第2特別許可状態(BB2フラグ間)であれば特定図柄の組合せを表示可能とする。そして、ベットされた遊技価値が第1の量であるとき、特定役が内部当籤役として決定された場合であって特定図柄の組合せが表示される場合には、有利状態(有利区間)を付与するか否かを決定可能とし(有利区間付与決定)、ベットされた遊技価値が第2の量であるとき、有利状態を付与するか否かを決定可能としない。

20

【 1 3 2 6 】

また、本例の遊技機によれば、ベットされた遊技価値が第1の量である場合、第1特別図柄の組合せ(BB1に係る図柄の組合せ)を表示可能とする一方、第2特別図柄の組合せ(BB2に係る図柄の組合せ)を表示可能としない。また、ベットされた遊技価値が第2の量である場合、第2特別図柄の組合せを表示可能とする一方、第1特別図柄の組合せを表示可能としないようにしてもよい。

【 1 3 2 7 】

30

すなわち、本例の遊技機によれば、遊技が行われる状態として、例えば、第1特別許可状態であって第1の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態((B)BB1フラグ間3枚ベット状態)、第2特別許可状態であって第1の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態((C)BB2フラグ間3枚ベット状態)、第1特別許可状態であって第2の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態((D)BB1フラグ間2枚ベット状態)、及び第2特別許可状態であって第2の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態((E)BB2フラグ間2枚ベット状態)、という複数の状態を創出することができる。

【 1 3 2 8 】

40

そして、本例の遊技機によれば、例えば、第2特別許可状態であって第1の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態を有利状態の付与が優遇される状態とし、第2の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態を有利状態の付与が行われない状態としている。すなわち、有利状態の付与に関し、いずれの量の遊技価値がベットされるか、及びいずれの特別役が当籤しているか、などによって遊技者の有利度合いを変動させることを可能としている。それゆえ、有利状態中の遊技価値の増加量を示す傾斜値を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる。

【 1 3 2 9 】

50

なお、本例の遊技機において、第1所定役(押し順ベルA)に当籤した場合には、いずれの状態であるかにかかわらず、例えば、押し順正解であれば所定数(例えば、9枚)の遊技価値が付与され、押し順不正解であれば所定数の遊技価値は付与されないし、第2所

定役（押し順ベル B）に当籤した場合には、第 1 特別許可状態であって第 1 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態にあつては、例えば、押し順不問で所定数の遊技価値が付与される一方、その他の状態にあつては、第 1 所定役と同様の制御が行われるようにしてもよい。このようにすれば、第 1 特別許可状態であって第 1 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態を所定役当籤時において遊技価値の付与が優遇される状態とすることができるため、遊技性をより変化に富んだものとすることができる。

【1330】

以上、図 92～図 99 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例について説明したが、これらにおいては遊技性（遊技仕様）の要点を主として説明しており、これらにおいて説明が省略され、あるいは簡潔に説明されている点については、本実施形態、当該他の例のそれぞれ、及び変形例で説明した構成を適宜補って適用可能である。また、本実施形態、当該他の例のそれぞれ、及び変形例で説明した構成の一部又は全部を組み合わせることも可能である。

【1331】

[有利区間リミッタの別例（枚数リミッタ）]

続いて、図 100～図 102 を参照して、有利区間のリミット処理に用いるリミッタの別例について説明する。これまで、有利区間のリミッタとして、有利区間中に消化したゲーム数を用いたリミッタ（以下、「ゲーム数リミッタ」）について説明したが、有利区間のリミッタの種類は、ゲーム数リミッタに限るものではない。具体的には、主制御基板 71 は、有利区間中に払い出されたメダルの枚数が所定枚数（例えば、2400 枚）以上に達するとリミット処理を行うこととしてもよい。なお、このような有利区間中に払い出されたメダルの枚数を用いたリミッタを、以下では「枚数リミッタ」と呼ぶ。

【1332】

図 100（A）は、枚数リミッタの概要を示す図である。同図において、縦軸は差枚数（＝払出枚数－投入枚数）であり、純増枚数ともいう。差枚数のプラス及びマイナスは、遊技者から見た値であり、遊技者に対して払い出されたメダルの方が投入されたメダルよりも多い場合（遊技者側のプラス）にはプラス、逆の場合にはマイナスになる。また、横軸はゲーム数であり、右に行くほど有利区間の開始から多くのゲームが消化されたことを意味する。枚数リミッタは、遊技者が一度に極端に多くのメダルを獲得しないように最もメダルが減った時点を起点として、2400 枚のプラスの差枚数が得られたときに有利区間を強制的に終了させるものである。

【1333】

同図では、有利区間開始後、100 枚ほどメダルが減っている。これは、例えば、当該有利区間開始を上述した通常有利区間の開始としたならばその遊技期間や、あるいは上述した有利区間中の準備状態などでメダルが減ったものである。そして有利区間開始から -100 枚となった時点からメダルは増加しつづけ、最終的に +2300 枚ほどまでメダルが増加している。この時点で、遊技者目線では、少なくとも 2400 枚のメダルが手元にあることとなる。そこで、主制御基板 71 は、枚数リミッタを発動し、有利区間を強制的に終了させる。これにより、射幸性を適切に抑制することができる。

【1334】

なお、主制御基板 71 は、ゲーム数リミッタのみを用いて有利区間のリミット処理を行うこととしてもよく、枚数リミッタのみを用いて有利区間のリミット処理を行うこととしてもよく、ゲーム数リミッタと枚数リミッタとの双方を用いて有利区間のリミット処理を行うこととしてもよい。なお、双方のリミッタを用いる場合、主制御基板 71 は、有利区間が開始してから何れか一方のリミッタ発動条件を満たした場合に、有利区間を終了させることが望ましい。なお、本説明においては、ゲーム数リミッタを 1500 ゲーム、枚数リミッタを 2400 枚として説明したが、これは一例であり、これより少ない値又は多い値を遊技仕様に応じて採用して射幸性を適切に制御するものとしてもよい。

【1335】

ここで、ゲーム数リミッタと枚数リミッタとの双方を用いる場合について説明する。よ

10

20

30

40

50

り具体的には、有利区間（ART、ATなど）におけるメダル増加の傾斜値A（1ゲームあたりの純増期待値、ボーナス作動による増加を含む純増期待値）と、ゲーム数リミッタの発動条件となるゲーム数Bと、枚数リミッタの発動条件となる差枚数Cとの関係について説明する。

なお、以下では、説明の便宜上、有利区間におけるメダル増加の傾斜値Aが「3枚」、ゲーム数リミッタの発動条件となるゲーム数Bが「100ゲーム」であるものとする。

【1336】

第1の仕様では、傾斜値A×ゲーム数リミッタのゲーム数B＝枚数リミッタの差枚数Cという関係の仕様（例：A（3枚）×B（100ゲーム）＝C（300枚））が考えられる。このような仕様は最も基本的な仕様であり、有利区間を安定的に制御することができ、射幸性を適切に抑制することができる。

10

【1337】

第2の仕様では、傾斜値A×ゲーム数リミッタのゲーム数B<枚数リミッタの差枚数Cという関係の仕様（例：A（3枚）×B（100ゲーム）<C（400枚））が考えられる。このような仕様の場合、リミッタが発動するケースを考慮すると以下の通りである。

【1338】

100ゲーム消化するよりも前に400枚を超えるメダルが払い出された場合に、枚数リミッタが発動し、400枚を超えるメダルが払い出されるよりも前に100ゲームを消化した場合には、ゲーム数リミッタが発動する。ボーナスを期待値よりも多く引くか、純増枚数の多い押し順役を期待値よりも極端に多く引いた場合に枚数リミッタが作動し、期待値に近い値で遊技が進行した場合は、ゲーム数リミッタが発動する可能性が高くなる。傾斜値が「3枚」であるため、結果として、リミッタが発動する場合は、100G到達によるゲーム数リミッタの方が、枚数リミッタよりも発動しやすくなり、遊技者の意識は差枚数よりもゲーム数に傾くこととなる。

20

【1339】

すなわち、傾斜値が「3枚」であるため、平均して133.3ゲームで400枚のメダルが払い出されることになり、その前にゲーム数リミッタに到達する可能性が高い。したがって、発動のし易さは、ゲーム数リミッタ>枚数リミッタ、となる。差枚数による枚数リミッタの発動をあまり気にさせたくない場合は、このような仕様とすると良い。例えば、ARTを1セット100枚の純増で終了など終了条件（リミッタではない）を差枚数で管理とするタイプの場合はこのようなりミッタ仕様とすると、リミッタの発動頻度を抑制でき、遊技者がリミッタにより有利区間が打ち切られる頻度を低下でき、遊技の興趣の低下を抑制できる。

30

【1340】

第3の仕様では、傾斜値A×ゲーム数リミッタのゲーム数B>枚数リミッタの差枚数Cという関係の仕様（例：A（3枚）×B（100ゲーム）>C（200枚））が考えられる。このような仕様の場合、リミッタが発動するケースを考慮すると以下の通りである。

【1341】

100ゲーム消化するよりも前に200枚を超えるメダルが払い出された場合に、枚数リミッタが発動し、200枚を超えるメダルが払い出されるよりも前に100ゲームを消化した場合には、ゲーム数リミッタが発動する。傾斜値が「3枚」であるため、平均して66.6ゲームほどで200枚のメダルが払い出されることになり、100ゲーム消化の前に枚数リミッタに到達する可能性が高い。したがって、発動のし易さは、ゲーム数リミッタ<枚数リミッタ、となる。ゲーム数消化によるゲーム数リミッタの発動をあまり気にさせたくない場合は、このような仕様とすると良い。例えば、1ゲームあたりの純増枚数0.1～1枚などと比較的低いが長いゲーム数継続するような仕様については、このような仕様とすると、リミッタの発動頻度を抑制でき、遊技者がリミッタにより有利区間が打ち切られる頻度を低下でき、遊技の興趣の低下を抑制できる。

40

【1342】

なお、何れの仕様にしても、リミッタ到達により終了する割合よりも、リミッタ以外の

50

有利区間の終了条件（例えば、ARTの継続可能期間（ARTゲーム数）、セット数やストックがゼロになるなど）により、有利区間が終了する割合が高い出玉設計として、有利区間を消化できる権利がリミッタ発動により消去される事象の発生を抑制することが望ましい。

【1343】

続いて、複数のリミッタを設ける場合に実現可能な遊技性について説明する。

【1344】

（リミッタの種別に応じた有利区間終了時演出）

枚数リミッタの発動時と、ゲーム数リミッタの発動時とで、副制御基板72は、表示装置11などを用いて異なる有利区間終了時演出を実行可能としても良い。それぞれを専用の演出とした場合には、それぞれの演出を一度は見てみようという遊技動機につながる。また、副制御基板72は、リミッタの種別に応じて有利区間終了時に行う演出の振り分けを異ならせるものとしても良い。例えば、枚数リミッタだとゲーム数リミッタ発動時よりも、設定示唆の精度が高い（設定ごとの係数の差が大きい、または特定の設定が確定する演出が出やすいなど）としてもよい。設定示唆など特定の情報が得られる又は専用演出が見られることで、リミッタにより有利区間が打ち切りとなる不快感を低減できる。また、有利区間終了時に行う演出の振り分けを、上述のリミッタの仕様に基づき設定することとしてもよい。例えば、仕様上、発動し易いリミッタよりも、発動し難いリミッタが発動した場合の方が、副制御基板72は、遊技者にとって好ましい（例えば、設定示唆の精度が高い）演出を決定し易いとしてもよい。

【1345】

（リミッタの種別に応じたエンディング演出）

また、副制御基板72は、枚数リミッタの発動が濃厚になった状況となった場合は、エンディング演出Aを、ゲーム数リミッタの発動が濃厚になった状況の場合は、エンディング演出Bを、どちらが発生するか割合に大きな差がないが、少なくともどちらかが発生することが濃厚になった場合には、エンディング演出C（エンディング演出A又はBへの分岐を持つ演出としてもよい）を行うなど、有利区間の終了時にいきなり打ち切りになって違和感を遊技者に与えないように、リミッタ発動前から有利区間終了示唆演出期間（エンディング）を設けることとしてもよい。なお、「枚数リミッタの発動が濃厚になった状況」とは、例えば、ARTを差枚数以外の情報に基づき管理する場合には、これまでの差枚数と、残りのART期間から算出される差枚数（例えば、ゲーム数管理のARTの場合には「残りゲーム数×傾斜値」との和が、閾値（例えば、枚数リミッタが発動する差枚数や、当該差枚数よりも若干少ない値）に達したときであり、また、例えば、ARTを差枚数に基づき管理する場合は、これまでの差枚数と、残り枚数との和が、閾値に達したときである。また、「ゲーム数リミッタの発動が濃厚になった状況」とは、例えば、ARTをゲーム数以外の情報に基づき管理する場合には、これまでに経過したゲーム数と、残りのART期間から算出されるゲーム数（例えば、差枚数管理のARTの場合には「残り差枚数／傾斜値」との和が、閾値（例えば、ゲーム数リミッタが発動するゲーム数や、当該ゲーム数よりも若干少ない値）に達したときであり、また、例えば、ARTをゲーム数に基づき管理する場合は、これまでに経過したゲーム数と、残りゲーム数との和が、閾値に

【1346】

（発動したリミッタの種別を履歴画面において報知ないし示唆）

また、副制御基板72は、発動したリミッタの種別ないしリミッタ種別に対応して発生する演出（上記エンディング演出の種類など）について、遊技者がメニュー画面にて閲覧可能な遊技履歴画面に表示しても良い。この場合は、そもそも多くの出玉を獲得できているため、高設定に期待できるとの遊技意欲を喚起させることができる。

【1347】

（リミッタの種別に応じた外部信号を出力）

また、枚数リミッタと、ゲーム数リミッタのどちらが発動したか、ホール側がホールコ

10

20

30

40

50

ンピュータなどで把握できるように、主制御基板 7 1 は、発動したリミッタに応じた種類の外部信号を出力するとよい。このとき、主制御基板 7 1 は、外部端子板の異なるピンからリミッタ発動の外部信号を出力するものとしてもよい。例えば、本来の出玉仕様であれば主にゲーム数リミッタが発動し、枚数リミッタはあまり発動しない機種において、頻繁に枚数リミッタが発動している場合は、何らかのゴト行為が行われているか、遊技機とホールコンピュータとの接続ミスの可能性をホール店員は察知することができる。

【 1 3 4 8 】

なお、同じ遊技においてで枚数リミッタの発動条件とゲーム数リミッタの発動条件を満たした場合は、主制御基板 7 1 は、予め定めたどちらか一方の信号を出力してもよいし、2 種類の信号を所定の順番で出力してもよい。順番に出力する場合は、確実に受信できるように先に出力する信号の出力完了から、次の信号出力まで所定時間の間を空けるとよい。また、同じ遊技において枚数リミッタの発動条件とゲーム数リミッタの発動条件とを満たした場合は、どちらか一方のリミット処理のみを行い、他方の処理は行わないものとして、メイン（主制御基板 7 1）において余計な処理を発生させないものとしてもよく、この場合には、主制御基板 7 1 は、行われた種別のリミッタに応じた外部信号を出力する。

【 1 3 4 9 】

（リミッタの種別を問わず一の外部信号を出力）

また、メイン（主制御基板 7 1）の容量や、外部信号出力用の端子板のピン数に余裕がある場合は、上述のように異ならせても良いが、リミッタの種別に関わらず同じ外部信号を出力するものとしてもよい。メイン（主制御基板 7 1）の容量を節約することができる。

【 1 3 5 0 】

（リミッタ以外の有利区間終了とリミッタによる終了で同じ外部信号を出力）

また、主制御基板 7 1 は、リミッタ以外の有利区間終了とリミッタによる終了とで同じ外部信号を出力し、有利区間が終了した旨をホールコンピュータなどで察知できるものとしてもよい。この場合は、さらにメイン（主制御基板 7 1）の容量を節約できる。

【 1 3 5 1 】

（ボーナス作動中にリミッタが発動した場合の外部信号出力例（すぐに出力））

また、ボーナス作動中にリミッタが発動した場合は、主制御基板 7 1 は、外部信号の出力を当該遊技又は当該遊技の終了直後に開始してもよい。このようにすることで、例えば一撃の獲得枚数が枚数リミッタの枚数を超えたとしてもリミッタ機能に不備があったわけではなく、偶然枚数リミッタ到達付近でボーナスが作動して出玉を獲得したということをホール側は確認できる。

【 1 3 5 2 】

（ボーナス作動中にリミッタが発動した場合の外部信号出力（ボーナス終了時））

また、ボーナス作動中にリミッタが発動した場合は、主制御基板 7 1 は、外部信号の出力をボーナス終了時ないし終了直後に開始してもよい。実質的に出玉増加する遊技状態の終了を正確に把握させたい場合はこのような仕様としてもよい。

【 1 3 5 3 】

（枚数リミッタ発動の可能性がある遊技で遊技者が小役を取りこぼした場合の演出）

例えば、枚数リミッタが発動するまでの残り枚数が 6 枚の 3 枚掛け遊技で、正解時に 9 枚のメダルが払い出される押し順小役に当籤し、正解の押し順の報知が行われたにも関わらず遊技者が押し順をミスした場合、遊技開始時の状況を見て当該ゲームで枚数リミッタが発動すると想定して、当該遊技の開始時から枚数リミッタ発動時の演出を始めていることがある。このようなケースでは、押し順を間違えた結果、枚数リミッタは発動しないものの、副制御基板 7 2 は、当該遊技の開始時から始めていた枚数リミッタ発動時の演出（例えば、枚数リミッタの発動が予定されている旨の演出）をそのまま継続して実行することとしてもよく、また、枚数リミッタが発動しないと判断したことにより、当該演出を一旦終了ないし中断することとしてもよい。

【 1 3 5 4 】

(発動するリミッタが遊技者の操作により変更される場合の演出)

また、遊技者の操作ミスなどにより発動するリミッタの種類が異なる場合がある。例えば、枚数リミッタが発動するまでの残り枚数が6枚、かつ、ゲーム数リミッタが発動するまでの残りゲーム数が2ゲームの状況において、3枚掛け遊技で正解時に9枚のメダルが払い出される押し順小役に当籤し、正解の押し順の報知が行われたケースが該当する。このようなケースでは、遊技者が報知に従い停止操作を行った場合には当該遊技において枚数リミッタが発動するが、報知に従わずに押し順にミスした場合には次遊技においてゲーム数リミッタが発動する(なお、次遊技で枚数リミッタが発動する可能性もあるが、ここでは、複数のリミッタ発動条件が成立した場合にゲーム数リミッタが優先して発動するものとする)。

10

【1355】

このような場合、副制御基板72は、押し順小役に当籤した遊技において枚数リミッタ発動時の演出を開始して、枚数リミッタの非発動が確定した移行の任意のタイミング(第1停止操作~全リール停止時のうち、取りこぼし乃至少ない枚数の図柄組合せの表示が確定した以降の任意のタイミング)で、ゲーム数リミッタ発動時の演出に切り替えるか、いずれかのリミッタ発動示唆にも対応しない演出に一旦戻すような処理を行って、発動するリミッタと演出との矛盾を回避するように制御することが好ましい。

【1356】

(ボーナス作動中、内部中のリミッタ発動による終了時演出の遅延及びエンディング演出の延長)

20

なお、ここまで説明したリミット処理に関連して行われる演出及び制御についても、前述したボーナス作動中にリミット処理が行われる場合は、リミット処理による有利区間終了に応じた演出の発生タイミングをボーナス終了時又は終了直後まで遅らせる、かつ、エンディング演出などの有利区間中演出をそれまで延長するという手法を用いることで、遊技者の違和感を軽減することができる。

【1357】

[枚数リミッタの制御方法]

続いて、図101(B)を参照して、枚数リミッタの制御方法について説明する。枚数リミッタでは、有利区間の開始時から最もメダルの絶対値が減った地点を最下点(起点)として、直近の最下点からのプラス分を、枚数リミッタの発動契機となる差枚数として用いる。同図では、有利区間開始を1ゲーム目として遊技が進行していきメダルの増減を1~8ゲームで繰り返した後に、増加していき枚数リミッタに到達する例を示している(なお、押し順小役は「打順ベル」と表記している)。

30

【1358】

同図では、有利区間の開始時から最もメダルの絶対値が減った地点が「-9枚」であるため、Nゲーム目に差枚数が「+2391枚」となったタイミングで枚数リミッタが発動している。なお、枚数リミッタの発動に伴い、リミッタ用のカウンタは0にリセットされている。その後N+2ゲーム目に押し順に正解してベルが揃った結果、起点からの差枚数が「+2400枚」を超えているものの、既に枚数リミッタが発動し、有利区間(ART)は終了しているため、一時的なものに過ぎず、問題はない。

40

【1359】

なお、同図では、当該ゲームの払出終了時点の有利区間開始時からの絶対的差枚数を示しているが、説明用の値であり、該当するカウンタは遊技機に搭載する必要がない。もちろん、該当するカウンタを搭載して遊技者に獲得枚数を示すために用いることとしてもよい。

【1360】

また、起点フラグは、現時点の遊技の状況が有利区間開始後の最下点であることを示す情報である。起点フラグを持たずに、単にリミッタに用いるカウンタ(枚数カウンタ)の値が0であることを持って最下点と認識しても良いが、枚数リミッタ発動までの差枚数減算が始まったか否かをサブ(副制御基板72)側で演出する場合など、ON/OFF判定

50

のみで行える起点フラグを参照して、枚数カウンタの値をサブ側に送信せずに演出させることでメイン（主制御基板 7 1）の処理負荷を軽減することができる。なお、その場合は、サブ側はメインから送信される投入枚数、払出枚数の情報を受けて枚数カウンタと同様の処理をサブ側で行い、枚数カウンタの状況として演出（枚数リミッタ発動までの枚数報知など）を行っても良い。

【 1 3 6 1 】

最下点（起点）は、直近の最下点と同じ値又はより少ない値となった場合のいずれかで更新すれば良い。有利区間開始後の 1 ゲーム目終了時に絶対的差枚数が「 - 3 枚」となった後一度増加し、4 ゲーム目終了時に再び絶対的差枚数が「 - 3 枚」となっている。そのため、主制御基板 7 1 は、4 ゲーム目終了時に再び起点フラグを設定している。実際には、その後もメダルが減ったため、有利区間開始後の 8 ゲーム目終了時の絶対的差枚数が「 - 9 枚」が枚数リミッタにおける起点となっている。

【 1 3 6 2 】

なお、同図では、第 1 最下点を、有利区間開始後の 1 ゲーム目終了時としているが、有利区間開始時点の 1 ゲーム消化より前の時点（絶対的差枚数が 0 枚時点）を第 1 最下点として設定し、1 ゲーム終了時を第 2 最下点、マイナス 9 枚となった時点（第 3 最下点として第 3 最下点から 2 4 0 0 枚増加すると枚数リミッタを発動するものとしてもよい。また、同図では、リプレイの入賞時には投入枚数 0 枚、払出枚数 0 枚として枚数カウンタを更新している。これにより再遊技時の差枚数を更新する必要がなくなり処理負荷を軽減することができる。一方で、リプレイの入賞時に投入枚数分の払出枚数を行い、次ゲームにおいて投入枚数が 3 枚として枚数カウンタを更新することとしてもよい。このようにすることで、リプレイが入賞してから次ゲームの開始操作が行われるまでの間の枚数カウンタの値を現実の差枚数挙動と一致させることができ、枚数カウンタの値を実増減枚数として参照して、演出用の枚数表示などに流用し易くなる。

【 1 3 6 3 】

なお、副制御基板 7 2 は、枚数カウンタの値を表示装置 1 1（液晶画面）などで報知して、枚数リミッタ発動までの残り枚数を遊技者に把握可能ないし示唆してもよい。また、副制御基板 7 2 は、枚数リミッタ発動までの残り枚数を直接的に表示せず、枚数リミッタ発動まで残り 2 0 0 0 枚以上なら第 1 演出ステージ、残り 1 0 0 0 ~ 1 9 9 9 枚なら第 2 演出ステージ、残り 9 9 9 枚以下なら第 3 演出ステージのように、背景などの演出ステージを枚数リミッタ発動までの枚数範囲に応じて異ならせて示唆しても良い。

【 1 3 6 4 】

また、主制御基板 7 1 は、枚数カウンタの値を外部信号として出力して、ホールコンピュータやパチスロの上部などに設置される遊技データ閲覧用のデータ表示器などで表示可能としてもよい。なお、主制御基板 7 1 は、起点フラグ及び枚数カウンタの値を、電断時でも消去せず維持することが好ましい。一方で、主制御基板 7 1 は、設定変更時には、起点フラグ及び枚数カウンタの値を消去することとしてもよい。

【 1 3 6 5 】

[枚数リミッタの調整打法]

続いて、図 1 0 2（C）を参照して、枚数リミッタの調整打法について説明する。枚数リミッタを用いて有利区間を強制的に終了させる仕様では、枚数リミッタの発動直前にメダルの増減を調整することで、枚数リミッタの発動を介する方法も考えられる。例えば、押し順小役が内部当籤役として決定された場合に、正解の押し順で停止操作が行われると「9 枚」のメダルが払い出され、不正解の押し順で停止操作が行われるとメダルの払い出しが「0 枚」である仕様では、1 回の遊技において 3 枚のメダルが必要であるため、押し順役の当籤時に正解の押し順で停止操作が行われると、枚数カウンタは「+ 6 枚」され、押し順役の当籤時に不正解の押し順で停止操作が行われると、枚数カウンタは「- 3 枚」される。そのため、例えば、押し順役に 3 回当籤した場合に、押し順に 2 回不正解し、1 回正解すると、枚数カウンタの値は維持され、結果、枚数リミッタが発動することがない。

10

20

30

40

50

【 1 3 6 6 】

このように枚数リミッタを調整することで、枚数リミッタの発動直前に A R T (有利区間) のままボーナスの当籤を待つことなどができる。同図に示す例では、M ゲーム目からこのような調整打法が始まっており、B B (ボーナス) に当籤する X ゲーム目まで調整打法が行われている。その結果、X + 1 0 ゲーム目には、枚数リミッタが発動する + 2 4 0 0 枚を超える + 2 5 1 2 枚のメダルが獲得できている (なお、B B 中の小役 (1 5 枚) を「B B 中ベル」と表記している)。

【 1 3 6 7 】

なお、パチスロ 1 では、意図的に押し順の報知に逆らった方が有利である旨を示唆ないし報知する演出を行って遊技者に最大の利益を得ることのできる打ち方 (打順ナビと異なる停止操作) を促しても良い。なお、このような演出は、副制御基板 7 2 が表示装置 1 1 などを介して行うこととしてもよく、また、主制御基板 7 1 が行うこととしてもよい。

【 1 3 6 8 】

なお、純増 1 5 枚程度かつ比較的当籤確率の高いミニボーナス (ボーナス作動中の 1 5 枚役は取りこぼし不能ないし困難) と、純増 1 2 0 枚のボーナスなど複数種類のボーナス役が存在する場合は、枚数リミッタ到達までの残り差枚数がミニボーナスにおける純増枚数よりも多い枚数のラインで上記調整打法を推奨する演出を行ってもよい。また、押し順役以外の小役については、払出枚数が 3 枚を超える増加役とせず、枚数調整がしやすいもの (例えば、払出枚数が 3 枚) としてもよい。このように打ち方の工夫で出玉率を向上できる遊技性とする事で遊技の興味が高まる。

【 1 3 6 9 】

なお、こうした遊技性の複雑さが初心者に敬遠されるなどのデメリットを重視する場合は、枚数カウンタを実際の純増枚数分だけ加算するのではなく、指示通りに遊技した場合の純増枚数分だけ加算することとしてもよい。例えば、3 枚掛け遊技で、正解時に 9 枚のメダルが払い出される押し順小役に当籤した場合、主制御基板 7 1 は、正解の押し順を報知したことを条件に、遊技者の操作態様や入賞結果を問わずに枚数カウンタに + 6 とする処理を行う。このような仕様として、こうした調整打法を封じる仕様としてもよい。

【 1 3 7 0 】

[調整打法を封じる仕様の遊技性]

続いて、このような調整打法を封じる仕様において実現可能な遊技性について説明する。

【 1 3 7 1 】

(ボーナス非搭載)

そもそもボーナス役を搭載せずに、小役と再遊技のみで内部当籤役を構成すると上記のような複雑な打法を遊技者に求めることがなくなり、遊技性が分かりやすくなる。

【 1 3 7 2 】

(無増減又は減るボーナス搭載)

また、上記の打法を抑制する別の仕様例として、ボーナスは作動中に投入枚数と同枚数の払出が行われる小役しか入賞しない無増減ボーナスとしてもよく、また、ボーナスは作動中に投入枚数よりも少ない枚数の払出が行われる小役しか入賞しない減るボーナスとしてもよい。この場合、ボーナスはメダルが増加しないかわりに有利区間の抽籤において有利な処理をボーナス作動時またはボーナス作動中に行うこととしてもよく、また、有利な処理を行わないものの、遊技店において遊技者が通常の遊技を行う限りリール制御でボーナスの入賞が阻害され、ボーナスが入賞困難な仕様としてもよい。

【 1 3 7 3 】

(ボーナス作動中の純増枚数が 3 枚以下)

3 枚掛け遊技を前提として、ボーナス入賞時には払出がないため、ボーナス入賞ゲームでの差枚数はマイナス 3 枚となる。ボーナスは 3 枚掛け 1 ゲームで終了するとして、ボーナス作動中に発生する最大枚数の入賞は 6 枚役以下とする。このようにすることで、ボーナス作動時からボーナス終了時までの差枚数がプラスの値になることがないため、枚数カウンタの値がボーナス作動により増加することがなくなり、前述のような複雑な打法を遊

10

20

30

40

50

技者は行わずに済む。

【 1 3 7 4 】

[調整打法を認める仕様の遊技性]

続いて、このような調整打法を認める仕様において実現可能な遊技性について説明する。

【 1 3 7 5 】

(ボーナス作動中の小役はずし又は獲得枚数低減)

前述の打法を行える仕様に加えて、ボーナス作動中に枚数リミッタが発動してしまう場合は、あえてボーナスの獲得枚数を減らして、当該ボーナスを終わらせて、ボーナス後は、上述の打法により有利区間を延命しつつ、次のボーナスを待つのが最も有利という場合がある。そこで、ボーナス作動中に、小役を目押しタイミングや押し順で取りこぼせる又は払出枚数の少ない役を入賞させることができるものとする。この場合、払出枚数の少ない役は、ボーナス作動中の投入枚数よりも少ない枚数であることが望ましいが、例えば特定ポイントを目押しすると14枚、それ以外のポイントを目押しすると15枚の払出が受けられるなど、微調整を行うことができる役を設けるというものでも一定の効果を奏することができる。

10

【 1 3 7 6 】

(押し順役以外の通常時の役は再遊技又は投入枚数以下の役のみ)

例えば、ボーナス非作動中3枚掛けと仮定する。押し順小役は9枚とするが、いわゆるスイカ、チェリー、押し順の概念なしのベルなど他の役は再遊技役、又は、払出枚数3枚以下の役として構成する。こうすることで、残り数枚の純増で枚数リミッタが作動する状況で他の小役を引いた場合でも枚数リミッタが作動することなく攻略打法の難易度が低下して遊技しやすくなる。

20

【 1 3 7 7 】

(押し順役のナビと異なる停止操作をした場合に、特定枚数 (1 ~ 2 枚役) が入賞する頻度に遊技者が介入できる)

押し順役のナビと異なる停止操作をした場合は、1枚払出又はとりこぼしとなる仕様がある。この場合、当該ゲームの増減がマイナス2枚、マイナス3枚の2通り生じるため、計算しにくく、遊技していて混乱することがある。そのような仕様と比べて、ナビ無視時は、必ず1~2枚が揃うなど枚数が固定される場合は、ギリギリの枚数の状態でのナビ無視時のマイナス値が例えばマイナス2枚に固定されるため、計算しやすく、遊技者が計算をミスしてあと1回ナビ無視すべきところをナビ通りに打ってしまい打順ベルをとってしまうというケアレスミスが低減する。

30

【 1 3 7 8 】

なお、必ずではなく高い頻度で1枚払出となる又は取りこぼしとなるなど、おおむね安定させるものとしてもある程度の効果は発揮できる。また、ナビ無視のパターンにより、払出枚数が安定するものでもよい。例えば、「1・2・3」(左・中・右が正解打順) の打順ナビ発生時に、1枚役入賞率は「中1st」>「右1st」という関係性を持たせて、3枚減らしたい場合は、右第1停止、2枚減らしたい場合は中第1停止と遊技者が選択できるものでもよい。また、当該ゲームで第1停止正解後に第2停止をミスした場合「1・3・2」の順に停止した場合は、他のナビ無視打順よりも高い確率で又は必ず1枚役が入賞するなど、遊技者が減らし方を打法で選択できるものとするともよい。

40

【 1 3 7 9 】

(ナビ無視すべき場合にナビ態様変化)

ナビにしたがって遊技するのが最適な場合は、副制御基板72は、押し順表示を第1態様 (青数字など) で行い、ナビに逆らって遊技するのが最適な場合は、副制御基板72は、押し順表示を第2態様 (赤数字など) で行う。

【 1 3 8 0 】

(ナビ無視すべき状況が演出で変化)

主制御基板71又は副制御基板72は、BGMや映像、ランプなどの態様をナビ従う状況と、ナビに逆らう状況とで異ならせてもよい。ナビ発生よりも前の時点で、次ゲームで

50

ナビが発生したらナビに逆らうべき状況か否かを事前に把握できるようにすることが望ましい。

【 1 3 8 1 】

(ナビ無視すべき場合にロックやリールフリーズ)

主制御基板 7 1 は、レバーオン直後、リール回転開始後などにリールの回転開始遅延(フリーズやリールアクション)や、ストップボタンの一時操作受付無効化期間を設けることとしてもよい。これにより、遊技者に注意喚起をすることができ、有利区間を誤って終わらせてしまうケースを防止できる。また、主制御基板 7 1 又は副制御基板 7 2 は、合わせて音声や映像などでも注意喚起することが望ましい。

【 1 3 8 2 】

[有利区間リミッタの別例(払出枚数リミッタ)]

ここで、上述の枚数リミッタでは、差枚数(=払出枚数-投入枚数)、すなわち、遊技者に対して払い出されたメダルの枚数から当該遊技において用いられたメダルの枚数を減算した値に基づき、リミット処理を行うこととしているが、これに限られるものではない。主制御基板 7 1 は、遊技者に対して払い出されたメダルの枚数を用いてリミット処理を行うこととしてもよく、このようなリミッタを払出枚数リミッタと呼ぶ。具体的には、主制御基板 7 1 は、有利区間中に所定枚数(例えば、2400枚など)のメダルを払い出したことを契機として、有利区間を終了するリミット処理を行うこととしてもよい。

【 1 3 8 3 】

上述の枚数リミッタでは、払出枚数から投入枚数を差し引いた差枚数を基準としてリミット処理を行っているが、払出枚数リミッタでは、払出枚数から投入枚数を差し引くことなく、払出枚数をそのまま参照して、払出枚数が規定値に達した場合にリミット処理を行う。このような払出枚数リミッタでは、主制御基板 7 1 は、有利区間(この場合、例えば上述した「通常有利区間」を含む)又は増加区間(すなわち、実際にメダルが増加する遊技区間。この場合、例えば上述した「通常有利区間」を含まない)の開始時に払出枚数カウンタを初期化して、小役の入賞により払出が発生するたびに当該払出枚数カウンタを更新する。そして、主制御基板 7 1 は、払出枚数カウンタの値がリミット処理を行う規定値に達すると、有利区間を終了し、また、有利区間に関する各種の処理や値を初期化するというリミット処理を行う。

【 1 3 8 4 】

このような払出枚数リミッタにおいても、リプレイに係る役が入賞した場合の払出枚数カウンタの更新方法は任意であり、3枚の払い出しとしてカウントすることとしてもよく、また、0枚の払い出しとしてカウントすることとしてもよいが、主制御基板 7 1 は、リプレイに係る役が入賞した場合には0枚の払い出しとしてカウントすることが望ましい。このようにすることで、例えば、3BETの遊技において3枚役(入賞したときに3枚のメダルが払い出される役)が入賞した場合と、リプレイに係る役が入賞した場合とで、払出枚数カウンタの値の変化を異ならせることができる。すなわち、3枚役が入賞した場合よりも、リプレイに係る役が入賞した場合の方が払出枚数カウンタのカウントが進まない分、遊技者にお得感を感じさせることができ、実質的に同価値である3枚役とリプレイに係る役との価値に差を持たせることができる。

【 1 3 8 5 】

[有利区間リミッタの別例(ナビ回数リミッタ)]

また、有利区間のリミット処理に用いるリミッタの種類としては、以下に説明するナビ回数リミッタも用いることができる。ナビ回数リミッタを用いる場合、主制御基板 7 1 は、有利区間中に遊技者に対して所定回数(例えば、400回など)の報知(ナビ)を行ったことを契機(すなわち、ナビ回数が規定値に達したことを契機)として、有利区間のリミット処理を行う。ここで、ARTなどの有利区間中に遊技者に対して行うナビの中には、有利区間中にメダルを増加させるためのナビの他、有利区間中にメダルを維持又はメダルの減少を通常区間中に比べて抑制するためのナビがある。前者のナビは、例えば、3BET遊技において正解の停止操作の態様である場合(例えば、押し順正解時)に3枚より

10

20

30

40

50

も多いメダル（例えば、9枚など）が払い出される役の当籤時に正解の停止操作の態様を報知することをいい、後者のナビは、例えば、RT状態を高RTのまま維持するためのナビや、3BET遊技において正解の停止操作の態様である場合に3枚、又は、正解の停止操作の態様である場合に3枚よりも少ないが不正解の停止操作の態様である場合（例えば、押し順不正解時）よりも多いメダルが払い出される役の当籤時に正解の停止操作の態様を報知することをいう。なお、前者のナビの対象となる役は、その役割から有利区間（ART）中にメダルを増加させる増加役と呼ぶことができる。パチスロにおいて、複数の役のうちのどの役を増加役とするかは、遊技仕様の観点から任意に設計することができる。

【1386】

ナビ回数リミッタを用いる場合、主制御基板71は、増加役の当籤時に行ったナビの回数については、ナビ回数リミッタによるリミット処理の発生条件となるナビ回数のカウント対象とする一方で、非増加役の当籤時に行ったナビの回数については、当該ナビ回数のカウント対象から除外することとしてもよく、また、非増加役の当籤時に行ったナビ回数についても、当該ナビ回数のカウント対象に含めることとしてもよい。非増加役の当籤時に行ったナビの回数をカウント対象から除外することで、偶然、非増加役が有利区間（ART）の開始後に多く成立してしまったケースのように、メダルがあまり増えていない場合に、過度な出玉を抑制するというリミッタの趣旨とは関係ない事象で有利区間が終了してしまうことを防止でき、遊技者に不満を与えることがない。

【1387】

このようなナビ回数リミッタでは、主制御基板71は、有利区間又は増加区間の開始時にリミット処理の発生条件となるナビ回数のカウンタ（ナビ回数カウンタ）を初期化して、カウント対象となるナビが発生するたびに当該ナビ回数カウンタの値を更新する。そして、主制御基板71は、ナビ回数カウンタの値がリミット処理を行う規定値に達すると、有利区間を終了し、また、有利区間に関する各種の処理や値を初期化するというリミット処理を行う。なお、これまでに説明した各種のリミッタにおいてカウンタの更新方法は、加算式であってもよく、また、減算式であってもよい。

【1388】

[リミッタ期間の別例]

また、上述の説明では、ゲーム数リミッタ、枚数リミッタ、払出枚数リミッタ、ナビ回数リミッタなどのリミッタを有利区間中にのみ利用する例について説明したが、このようなリミッタは、有利区間中ではなく、任意の期間に採用することができる。例えば、偶発的に有利区間に当たり続けた場合、一回一回の有利区間においては最大でも枚数リミッタ分しかメダルの払い出しが行われないものの、有利区間への移行が複数回行われた結果、総合すると多くのメダルの払い出しが行われてしまう場合があり、射幸心を過度に煽ってしまう恐れがある。そこで、有利区間中のリミッタとは別に、直近の所定ゲーム数分の期間（例えば、直近の6000ゲーム）の増加状況を示す値（例えば、出玉率や差枚数）が予め定められた規定値（例えば、170%又は遊技者から見て+10000枚）を超えた場合に有利区間を終了させる特別リミッタを設けることとしてもよい。このような特別リミッタによれば、主制御基板71は、有利区間中に特別リミッタの発動条件が満たされたときには、たとえ当該有利区間が開始したばかりであり、ゲーム数リミッタや枚数リミッタが全く発動し得る状況でなかったとしても、当該有利区間を強制的に終了する。

【1389】

なお、主制御基板71における有利区間の制御において、現時点で獲得されている有利区間に関する権利（例えば、ARTの継続可能期間（ARTゲーム数）、セット数やストック、獲得可能差枚数など）と出玉率とを参照して、特別リミッタが発動するおそれがある場合に、主制御基板71は、当該規定値に到達するよりも前に上乘せの発生率を低下させるなど特別リミッタの発動可能性を低下させる、又は、特別リミッタ発動時に消去させる増加区間（ART）の権利が低減するように制御することとしてもよい。

【1390】

また、メダルの増加状況を示す値（例えば、出玉率や差枚数）による特別リミッタ発動

の判定に用いられる所定期間は、ゲーム数以外を基準としてもよく、例えば、所定の時間（例えば、１０時間など）や、所定の投入枚数（例えば、投入枚数１８０００枚）など、遊技者が遊技を所定期間にわたって行ったことを判断し得る情報に用いて、特別リミッタを発動する所定期間を決定することとしてもよい。

【１３９１】

このような特別リミッタを用いるパチスロの構成を以下に示す。

遊技価値を用いて遊技可能な遊技機であって、

遊技状態を遊技者にとって有利な有利遊技状態（例えば、パチスロにおける有利区間、増加区間（ＡＴ、ＡＲＴ）であってもよく、パチンコにおける確変状態や時短状態であってもよい）とする権利（パチスロでのＡＴストック、ＡＴゲーム数などであってもよく、また、パチンコにおける確変状態、時短状態などへの移行権利であってもよい）を付与可能な権利付与手段（例えば、主制御基板７１）と、

10

当該権利に基づいて終了条件の成立まで遊技状態を前記有利遊技状態に制御する遊技状態制御手段（例えば、主制御基板７１）と、

前記権利がある場合に前記有利遊技状態を継続させる有利遊技状態継続手段（例えば、主制御基板７１（パチスロでのＡＴストック数がある場合にＡＴ状態を継続などであってもよく、また、パチンコでの確変状態や時短状態の継続であってもよい））、

所定の単位遊技を起点として所定期間の経過までの遊技価値の増加状況を示す値を記憶する増加状況記憶手段（例えば、主制御基板７１が特別リミッタの発動条件を判定するために用いる差枚数や出玉率監視用のカウンタ）と、

20

前記増加状況記憶手段の値が予め定められた規定値となったときに、前記権利がある場合であっても前記有利状態を終了させる特別終了手段（特別リミッタ）と、を備える遊技機。

【１３９２】

また、上述の特別リミッタは、直近の所定期間に限らず、例えば、一日単位のリミッタとしてもよく、また、両者を併用して用いることとしてもよい。なお、主制御基板７１が一日単位を把握する方法は任意である。一例として、主制御基板７１は、所定時間（２時間、４時間など営業時の一時的な電断と区別でき、営業終了に伴う閉店中の電断と推認できる時間値）以上の電断時、又は所定時間以上の電断後の電源投入時を一日の開始時（起点）として、当該起点から（すなわち、前日分の情報をリセットして）、メダルの増加状況を示す値（例えば、出玉率や差枚数）を監視して特別リミッタを制御する。また、主制御基板７１は、電源投入状態で所定時間（１時間など）以上が経過した時を、一日の開始時（起点）として、当該起点から（すなわち、前日分の情報をリセットして）、メダルの増加状況を示す値（例えば、出玉率や差枚数）を監視して特別リミッタを制御することとしてもよい。なお、何れの場合であっても、計時方法は、主制御基板７１にＲＴＣなどの計時手段を搭載することで実現することができる。

30

【１３９３】

[ナビミス時のペナルティ]

また、パチスロ１では、有利区間中に遊技者に対して行った報知に従わずに停止操作を行った場合に、主制御基板７１は、所定のペナルティを付すこととしてもよい。例えば、ＡＲＴ準備中（上述した各準備状態）のように高ＲＴへの移行待ちをしている状態において、ＡＲＴの上乗せ抽籤を行う仕様の場合、高ＲＴへの移行を回避しＡＲＴ準備中を引き延ばすことでＡＲＴ準備中の上乗せ抽籤を多く受けることができる。そこで、主制御基板７１は、遊技者に対して行った報知に従わずに停止操作が行われた場合に、このようなＡＲＴの上乗せ抽籤を行わないこととしてもよい。なお、偶然のミスであるか意図的なミスであるか判別することができないため、例えば、主制御基板７１は、報知に従わない停止操作を行った回数に応じて、ペナルティの度合いを変えることとしてもよい。

40

【１３９４】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）]

まず、図１０３～図１０８を参照して、本実施形態に係るパチスロ１において実装可能

50

な遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）について説明する。図１０３は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）における遊技の流れを概念的に示す図であり、図１０４～図１０６は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）において用いる各種のテーブルを概念的に示す図であり、図１０７は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）と従来の遊技性との比較例を示す図であり、図１０８は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）を実現可能な他の仕様例を概念的に示す図である。

【１３９５】

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その７）の概要）

以下説明する遊技性（その７）は、有利区間の天井制御に関するものである。有利区間と非有利区間（通常区間）とを有するパチスロでは、有利区間として、遊技者にとって有利なＡＲＴなどの有利状態と、この有利状態への移行期待度が非有利区間とは異なるＣＺ（チャンスゾーン）などの遊技状態（通常有利区間）とを有することがある。このようなパチスロでは、非有利区間から有利区間のうちの通常有利区間（ＣＺ）に移行したものの、有利区間のうちの有利状態（ＡＲＴ）に移行できないまま、非有利区間に移行してしまうことがある。

【１３９６】

ここで、従来、ＣＺのスルー回数に天井を設け、ＣＺに所定回数連続して失敗した場合にＡＲＴなどの有利状態に移行可能にするといった特典を付与する天井制御を有するパチスロが知られている。この点、有利区間と非有利区間とを有する近年のパチスロでは、有利区間を終了させる場合に、有利区間に関する全ての情報をリセット（初期化）しなければならないため、有利状態（ＡＲＴ）に移行できなまま終了した有利区間の回数（スルー回数）をカウントすることができず、従来の天井制御のように有利区間のスルー回数に基づく天井制御を行うことが困難になっている。

【１３９７】

そこで、遊技性（その７）では、有利区間のスルー回数（有利状態に移行できなまま終了した有利区間の回数）を、ＲＴ状態に基づき把握することで、有利区間のスルー回数に基づく天井制御を実現可能にしている。

なお、以下の説明では、ＣＺのスルー回数に対して天井を持たせる例について説明するが、遊技性（その７）は、有利区間へのスルー回数に対する天井制御に関するものであり、有利状態に移行しないまま終了した有利区間はＣＺに限るものではない。また、以下の説明では、天井による恩恵を、ＡＲＴへの移行としているが、遊技性（その７）は、有利区間へのスルー回数に基づき天井制御が可能であればよく、天井による恩恵もＡＲＴへの移行に限るものではない。

【１３９８】

< 遊技状態の遷移フロー >

まず、図１０３を参照しながら、パチスロ１の主制御回路９０（メインＣＰＵ１０１）により管理される各種遊技状態及びその遷移フローについて説明する。図１０３（Ａ）は、本仕様例のパチスロ１における基本的な遊技状態の遷移フローであり、図１０３（Ｂ）は、本仕様例のパチスロ１における報知の有無を考慮した遊技状態の遷移フローである。

【１３９９】

（基本的な遊技状態の遷移フロー）

図１０３（Ａ）に示すように、本仕様例のパチスロ１では、リプレイに係る役の種類及びその当籤確率が互いに異なるＲＴ状態として複数段階のＲＴ状態を有する。なお、本仕様例では、複数段階のＲＴ状態として、ＲＴ１～ＲＴ６という６段階のＲＴ状態を有することとしているが、ＲＴ状態の数は６つに限るものではなく、任意である。ＲＴ１～ＲＴ６のうち少なくともＲＴ６は、リプレイに係る役が内部当籤役として決定される確率が高確率となる高ＲＴである。なお、ＲＴ１～ＲＴ５におけるリプレイに係る役が内部当籤役として決定される確率は任意であるが、本仕様例では、ＲＴ１～ＲＴ５は、当該確率が低確率となる低ＲＴとしている。

【１４００】

10

20

30

40

50

主制御回路 90 は、非ボーナス状態においてボーナス状態が開始されると、非ボーナス状態からボーナス状態に遊技状態を移行する。また、主制御回路 90 は、ボーナス状態が終了すると、非ボーナス状態に遊技状態を移行するとともに、RT 状態として RT 1 をセットする。

【1401】

そして、主制御回路 90 は、RT 1 において RT 2 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 2 に移行し、RT 2 において RT 3 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 3 に移行し、RT 3 において RT 4 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 4 に移行し、RT 4 において RT 5 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 5 に移行し、RT 5 において RT 6 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 6 に移行し、RT 6 において RT 1 移行リブに係る図柄の組合せが表示されると、RT 状態を RT 1 に移行する。

【1402】

なお、図 105 において後述するように、RT 2 移行リブは、RT 1 中リブ（「RT 1 中リブ__123」～「RT 1 中リブ__321」）が内部当籤役として決定された場合に、特定の操作態様で停止操作が行われることで表示される図柄の組合せである。また、RT 3 移行リブ～RT 6 移行リブ及び RT 1 移行リブも同様であり、RT 2 中リブ～RT 6 中リブが内部当籤役として決定された場合に、特定の操作態様で停止操作が行われることで表示される図柄の組合せである。

【1403】

このように本仕様例のパチスロ 1 では、複数段階の RT 状態は、RT 1 から 1 つずつ順に RT 6 まで移行する。なお、遊技性（その 7）は、複数段階の RT 状態を有していれば実現可能であり、RT 状態は必ずしも 1 つずつ順に移行するものに限るものではなく、1 つ又は複数の RT 状態を飛ばして移行可能にしてもよく、また、RT 状態が戻るように RT 状態を移行（例えば、RT 3 から RT 2 に移行）可能にしてもよい。

【1404】

（報知の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー）

図 103（B）に示すように、本仕様例のパチスロ 1 において主制御回路 90 は、報知の有無に基づいて通常区間（非有利区間）と有利区間とを区別する。通常区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない（又は報知する頻度が低い）遊技状態であり、基本的には、遊技者にとって不利な遊技状態である。有利区間には、CZ（チャンスゾーン）と ART とが含まれ、CZ は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない（又は報知する頻度が低い）遊技状態であり、ART は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する（又は報知する頻度が高い）遊技状態である。

【1405】

本仕様例において主制御回路 90 は、通常区間において有利区間への移行抽籤を行っており、この移行抽籤に当籤すると、通常区間から有利区間の CZ に遊技状態を移行する。なお、主制御回路 90 は、有利区間への移行抽籤に当籤した場合に、移行先の有利区間の種別を決定するなどして通常区間から ART に直接移行可能にしてもよいが、遊技性（その 7）の説明においては関係がないため、通常区間から ART への移行に関しては省略する。

【1406】

また、主制御回路 90 は、CZ 中に ART に移行するか否かの決定を行っており、ART に移行すると決定すると、CZ から ART に遊技状態を移行する。一方で、主制御回路 90 は、ART に移行すると決定しないまま CZ が終了すると、有利区間を終了して、CZ から通常区間に遊技状態を移行する。

【1407】

ここで、本仕様例のパチスロ 1 では、遊技性（その 7）を実現するために、遊技状態が CZ に移行すると、RT 状態を現在の RT 状態よりも先の段階の RT 状態に移行させる。具体的には、主制御回路 90 は、RT 1～RT 4 において遊技状態が通常区間から CZ に

10

20

30

40

50

移行すると、ＲＴ１中リブ～ＲＴ４中リブが内部当籤役として決定された場合に特定の操作態様を遊技者に対して報知することで、ＲＴ状態をＲＴ２～ＲＴ５に移行させる。

【１４０８】

なお、ＣＺからＡＲＴへの移行条件は、任意の条件を採用することができ、一例として本仕様例では、主制御回路９０は、ＣＺ中に行うＡＲＴへの移行抽籤に当籤した場合に、移行条件を満たしたとして、ＣＺからＡＲＴに遊技状態を移行する。また、ＣＺの終了条件も任意であり、一例として本仕様例では、主制御回路９０は、ＡＲＴへの移行抽籤に当籤しないまま、ＣＺにおいて実行された遊技回数が規定数に達した場合に、終了条件が満たされたとして、有利区間を終了して、ＣＺから通常区間に遊技状態を移行する。このとき、ＣＺにおいて実行された遊技回数の計数開始タイミングは任意であり、例えば、ＲＴ状態を現在のＲＴ状態よりも先の段階のＲＴ状態に移行させてから当該遊技回数を計数し始めることとしてもよく、また、ＣＺに移行したときから当該遊技回数を計数し始めることとしてもよい。

10

【１４０９】

後者のケースでは、先の段階のＲＴ状態に移行させる前に、遊技回数が規定数を超えてしまう場合があるが、本仕様例では、先の段階のＲＴ状態に移行させる前に終了条件が満たされることはない。すなわち、このような場合には、主制御回路９０は、遊技回数が規定数を超えてしまった後に、先の段階のＲＴ状態に移行したことをもって、ＣＺを終了する。言い換えると、主制御回路９０は、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合、ＲＴ２～ＲＴ５に移行した後に所定期間が経過すると（ＣＺ中の遊技回数が規定数を超えると）、有利区間を終了して、ＣＺから通常区間に遊技状態を移行する。

20

【１４１０】

なお、ＲＴ状態を先の段階のＲＴ状態に移行させるために、特定の操作態様を遊技者に対して報知したにもかかわらず、遊技者が当該報知に従わずに停止操作を行った場合、ＲＴ状態は先の段階に移行しないが、このような場合にＣＺを終了するか否かは任意である。すなわち、主制御回路９０は、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合、ＲＴ状態を先の段階のＲＴ状態に移行させた後に終了条件を満たすと（ＣＺ中の遊技回数が規定数を超えると）、有利区間を終了して、ＣＺから通常区間に遊技状態を移行することとしてもよく、また、ＲＴ状態を先の段階のＲＴ状態に移行させるための報知を行った後に終了条件を満たすと（ＣＺ中の遊技回数が規定数を超えると）、有利区間を終了して、ＣＺから通常区間に遊技状態を移行することとしてもよい。

30

【１４１１】

また、主制御回路９０は、ＲＴ５において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合、ＡＲＴへの移行抽籤に当籤しないまま遊技回数が規定数を超えると、ＣＺからＡＲＴに遊技状態を移行する。すなわち、本仕様例では主制御回路９０は、通常区間から有利区間（ＣＺ）に移行する度にＲＴ状態を１段階ずつ進めていき、ＲＴ５まで移行した場合には、ＣＺのスルー回数が天井に到達したとして、ＲＴ５において移行したＣＺが失敗したとしても遊技状態をＡＲＴに移行する。

【１４１２】

なお、ＣＺの終了条件である遊技回数の規定数は、任意の回数であってもよく、例えば、全てのＲＴ状態において共通の値であってもよく、また、個々のＲＴ状態毎に異なる値であってもよい。この点、本仕様例では、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合の規定数を１００回としている。また、ＲＴ５において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合の規定数は、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合の規定数と同じ１００回であってもよく、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合の規定数よりも少ない値であってもよく、本仕様例では、３０回としている。すなわち、本仕様例では、ＲＴ１～ＲＴ４において遊技状態が通常区間からＣＺに移行した場合、ＡＲＴへの移行条件を満たすことなく１００回の遊技が行われると、ＣＺが終了する一方で、ＲＴ５において遊技状態が通常区間から

40

50

C Zに移行した場合、A R Tへの移行条件を満たすことなく30回の遊技が行われると、C Zが終了する。

【1413】

また、主制御回路90は、遊技状態をA R Tに移行した場合、A R T中に応じた所定の制御を行う。遊技性(その7)の説明においてA R T中の制御は関係がないため説明を省略するが、主制御回路90は、遊技状態をA R Tに移行した場合、R T状態を高R T状態に移行させるための報知、及び、R T状態を高R T状態のまま維持するための報知を行うとともに、A R T中に押し順役が内部当籤役として決定されると、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する。また、主制御回路90は、A R T中にA R Tの終了条件を満たした場合に、有利区間を終了して、A R Tから通常区間に遊技状態を移行する。

10

【1414】

(有利区間の天井制御)

続いて、図103(C)を参照して、本仕様例のパチスロ1における遊技の流れを説明することで、遊技性(その7)による有利区間の天井制御について説明する。

図103(C)に示す例では、初期の遊技状態として、通常区間のR T1が設定されている。通常区間のR T1では、通常区間であるため有利区間への移行抽籤が行われ、この移行抽籤に当籤すると、通常区間から有利区間のC Zに移行する結果、通常区間のR T1からC Z(有利区間)のR T1に移行する。

【1415】

C Zでは、R T状態を現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させるため、R T状態がR T1からR T2に移行する結果、C Z(有利区間)のR T1からC Z(有利区間)のR T2に移行する。このC ZがA R Tに移行することなく終了すると(C Zに失敗すると)、有利区間が終了し通常区間に移行する結果、C ZのR T2から通常区間のR T2に移行する。

20

【1416】

ここで、有利区間の終了に伴い、主制御回路90は、有利区間に関する全ての情報をリセット(初期化)するため、通常区間に移行してしまうとC Zに失敗したことを把握することができず、C Zのスルー回数を計数することができない。この点、本仕様例のパチスロ1では、有利区間(C Z)の移行前後においてR T状態を異ならせることで、C Zのスルー回数を間接的に計数することができる。すなわち、主制御回路90は、通常区間のR T1をC Zのスルー回数が「0回」の状態であり、通常区間のR T2をC Zのスルー回数が「1回」の状態であると把握する。言い換えると、主制御回路90は、通常区間のR T1から移行したC ZのR T1を、「1回目」のC Zであると把握する。

30

【1417】

なお、C Zに成功し、C ZからA R Tに移行した場合の遊技の流れについては、詳細な説明を省略するが、主制御回路90は、高R TであるR T6に移行させるための報知、及び、R T状態をR T6のまま維持するための報知を行うとともに、A R Tが終了すると、当該報知を行わなくなる結果、R T状態がR T6からR T1に移行することになる。

【1418】

通常区間のR T2(スルー回数「1回」)に移行した後は同様に、有利区間への移行抽籤に当籤すると、通常区間のR T2からC ZのR T2に移行する。そして、C Zでは、R T状態を現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させるため、C ZのR T2からC ZのR T3に移行する。このC ZがA R Tに移行することなく終了すると(C Zに失敗すると)、有利区間が終了し通常区間に移行する結果、C ZのR T3から通常区間のR T3に移行する。このとき、主制御回路90は、通常区間のR T2から移行したC ZのR T2を「2回目」のC Zであると把握し、また、C Zが終了した後の通常区間のR T3をC Zのスルー回数が「2回」の状態であると把握する。

40

【1419】

その後も同様であり、通常区間のR T3(スルー回数「2回」)において有利区間への移行抽籤に当籤すると、通常区間のR T3からC ZのR T3(「3回目」のC Z)に移行

50

し、続いて、先の段階のＲＴ状態に移行させた結果、ＣＺのＲＴ３からＣＺのＲＴ４に移行する。その後、ＣＺがＡＲＴに移行することなく終了すると（ＣＺに失敗すると）、有利区間が終了し通常区間に移行する結果、ＣＺのＲＴ４から通常区間のＲＴ４（スルー回数「３回」）に移行する。

【１４２０】

また、通常区間のＲＴ４（スルー回数「３回」）において有利区間への移行抽籤に当籤すると、通常区間のＲＴ４からＣＺのＲＴ４（「４回目」のＣＺ）に移行し、続いて、先の段階のＲＴ状態に移行させた結果、ＣＺのＲＴ４からＣＺのＲＴ５に移行する。その後、ＣＺがＡＲＴに移行することなく終了すると（ＣＺに失敗すると）、有利区間が終了し通常区間に移行する結果、ＣＺのＲＴ５から通常区間のＲＴ５（スルー回数「４回」）に移行する。

10

【１４２１】

続いて、通常区間のＲＴ５（スルー回数「４回」）において有利区間への移行抽籤に当籤すると、通常区間のＲＴ５からＣＺのＲＴ５（「５回目」のＣＺ）に移行する。この「５回目」のＣＺでは、主制御回路９０は、ＣＺ中にＲＴ状態を移行することなくＲＴ５のまま維持する。また、この「５回目」のＣＺでは、主制御回路９０は、ＣＺがＡＲＴに移行することなく終了した場合であっても（ＣＺに失敗した場合であっても）、有利区間が終了することなく、ＣＺからＡＲＴに遊技状態を移行する。すなわち、本仕様例のパチスロ１では、「５回目」のＣＺ（スルー回数「４回」）を天井として、当該ＣＺに失敗した場合であっても、天井到達に伴う特典（ＡＲＴへの移行）を付与する。

20

【１４２２】

< 各種データテーブル >

続いて、図１０４～図１０６を参照して、遊技性（その７）を実現するために用いる各種のデータテーブルについて説明する。

【１４２３】

[内部抽籤テーブル]

図１０４（Ａ）は、非ボーナス状態において参照される内部抽籤テーブルである。内部抽籤テーブルは、遊技状態毎に設けられ、複数の役のそれぞれに対して、当該役が内部当籤役として決定されるときに抽籤値を規定する。なお、ＲＴ１中は「ＲＴ１」欄が参照され、ＲＴ２中は「ＲＴ２」欄が参照され、ＲＴ３中は「ＲＴ３」欄が参照され、ＲＴ４中は「ＲＴ４」欄が参照され、ＲＴ５中は「ＲＴ５」欄が参照され、ＲＴ６中は「ＲＴ６」欄が参照される。

30

【１４２４】

同図では、夫々のＲＴ状態毎にリプレイに係る役に関する抽籤値を示し、その他の役に関する抽籤値については省略している。また、同図の「対応する図柄組合せ」欄には、内部当籤役として決定された場合に入賞が許可される図柄の組合せが規定されている。このように夫々の役に対して入賞が許可される図柄の組合せ（表示役）を規定することで、夫々の役と表示役との間に後述の図１０５に示す対応関係を持たせることができる。なお、本仕様例において必要なことは、図１０５に示す対応関係を実現可能にすることであり、図１０４（Ａ）の「対応する図柄組合せ」欄の規定は一例に過ぎず、その他の方法により図１０５に示す対応関係を実現可能にしてもよい。

40

【１４２５】

また、本仕様例において「ＲＴ１中リブ（「ＲＴ１中リブ__１２３」～「ＲＴ１中リブ__３２１」）」とはＲＴ１中に内部当籤役として決定され得るリプレイに係る役をいい、同様に「ＲＴ２中リブ（「ＲＴ２中リブ__１２３」～「ＲＴ２中リブ__３２１」）」～「ＲＴ６中リブ（「ＲＴ６中リブ__１２３」～「ＲＴ６中リブ__３２１」）」とはＲＴ２～ＲＴ６中に内部当籤役として決定され得るリプレイに係る役をいう。

【１４２６】

[図柄組合せテーブル]

続いて、図１０４（Ｂ）を参照して、本仕様例のパチスロ１における入賞等に係る図柄

50

の組合せを規定する図柄組合せテーブルについて説明する。なお、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性の説明において、図柄の組合せを構成する図柄の種類は必要がないため、説明及び図示を省略する。図柄組合せテーブルは、複数の図柄の組合せを予め規定しており、これらの図柄の組合せの種別を示すデータを、表示役（入賞作動フラグ）として規定している。

【 1 4 2 7 】

「図柄組合せ A（名称「C__リプレイ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われる図柄の組合せである。また、「図柄組合せ B（名称「C__RT 2 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 2 に移行する図柄の組合せである。また、「図柄組合せ C（名称「C__RT 3 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 3 に移行する図柄の組合せである。また、「図柄組合せ D（名称「C__RT 4 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 4 に移行する図柄の組合せである。また、「図柄組合せ E（名称「C__RT 5 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 5 に移行する図柄の組合せである。また、「図柄組合せ F（名称「C__RT 6 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 6 に移行する図柄の組合せである。また、「図柄組合せ G（名称「C__RT 1 移行リブ」）」は、有効ラインに沿って表示されると、再遊技（リプレイ）の作動が行われるとともに、RT 状態が RT 1 に移行する図柄の組合せである。

【 1 4 2 8 】

[内部当籤役と停止操作順序（押し順）と表示役との対応関係]

次に、図 1 0 5 は、本仕様例のパチスロ 1 における内部当籤役と停止操作順序（打順）と表示役との対応関係を示す表である。同図では、リプレイに係る役に関する内部当籤役と停止操作順序（押し順）と表示役との対応関係を示し、その他の役に関する対応関係については省略している。

【 1 4 2 9 】

同図に示すように、「RT 1 中リブ」は、押し順に応じて表示される図柄の組合せが異なり、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に「C__RT 2 移行リブ」に係る図柄の組合せが表示され、6 択の押し順のうち特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に「C__リプレイ」に係る図柄の組合せが表示される。なお、「C__RT 2 移行リブ」に係る図柄の組合せが表示された場合、RT 状態が RT 2 に移行するため、「RT 1 中リブ」は、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に RT 状態が RT 1 から RT 2 に移行し、特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に RT 状態が RT 1 のまま維持される。

【 1 4 3 0 】

「RT 2 中リブ」～「RT 5 中リブ」も同様であり、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に「C__RT 3 移行リブ」～「C__RT 6 移行リブ」に係る図柄の組合せが表示され、6 択の押し順のうち特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に「C__リプレイ」に係る図柄の組合せが表示される。すなわち、「RT 2 中リブ」～「RT 5 中リブ」は、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に RT 状態が RT 2 ～ RT 6 に移行し、特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に RT 状態が現在の RT 状態のまま維持される。

【 1 4 3 1 】

同様に「RT 6 中リブ」は、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に「C__RT 1 移行リブ」に係る図柄の組合せが表示され、6 択の押し順のうち特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に「C__リプレイ」に係る図柄の組合せが表示される。すなわち、「RT 6 中リブ」は、6 択の押し順のうち特定の押し順で停止操作が行われた場合に RT 状態が RT 1 に移行し、特定の押し順以外の押し順で停止

操作が行われた場合に R T 状態が現在の R T 状態のまま維持される。なお、「R T 6 中リブ」は、6 択の押し順のうちの特定の押し順で停止操作が行われた場合に「C __リプレイ」に係る図柄の組合せが表示され、6 択の押し順のうちの特定の押し順以外の押し順で停止操作が行われた場合に「C __ R T 1 移行リブ」に係る図柄の組合せが表示されることとしてもよい。

【 1 4 3 2 】

このように本仕様例のパチスロ 1 では、6 択に正解した場合に R T 状態が他の R T 状態に移行することとしているが、R T 状態を移行するための択数は 6 択に限るものではない。すなわち、6 択の押し順では、報知が行われない場合であっても偶然に正解することがあり、このような場合には、C Z への移行に関係なく R T 状態が先の段階の R T 状態に移行してしまう。この点、遊技性（その 7）は、C Z のスルー回数を R T 状態から間接的に把握することで天井制御を実現するものであるが、C Z への移行に関係なく R T 状態が進んでしまうと、スルー回数と R T 状態とがずれてしまう。なお、スルー回数と R T 状態とのずれを許容することで、天井到達時期を変動させることができ好適であるが、以下では、このようなずれを抑制する方法について説明する。

【 1 4 3 3 】

一例として、R T 状態を移行するための択数を 6 択以上の択数にしてもよい。択数を調整する方法としては、本仕様例のように押し順に基づき択数を調整する方法に加え、1 又は全てのリールに対して特定の位置で停止操作を行うこと（目押し）を要求することで択数を調整することもでき、また、これら押し順と目押しとを組み合わせることで択数を調整することができる。

【 1 4 3 4 】

また、R T 状態を移行可能なリプレイに係る役の当籤確率を調整することで、C Z への移行に関係なく R T 状態が先の段階の R T 状態に移行してしまうことを軽減することとしてもよい。すなわち、本仕様例のパチスロ 1 では、例えば、R T 1 中に内部当籤役として決定され得るリプレイに係る役として、R T 2 に移行可能な「R T 1 中リブ」のみを設けているが（図 1 0 4 参照）、R T 2 に移行することのない「通常リブ」も内部当籤役として決定され得るように設定することとしてもよい。このように先の段階の R T 状態に移行可能なリプレイに係る役（「R T 1 中リブ」～「R T 6 中リブ」）の当籤確率を下げることで、C Z への移行に関係なく R T 状態が先の段階の R T 状態に移行してしまうことを軽減することができる。

【 1 4 3 5 】

また、択数と、先の段階の R T 状態に移行可能なリプレイに係る役の当籤確率と、の双方を調整することで、C Z への移行に関係なく R T 状態が先の段階の R T 状態に移行してしまうこと、すなわち、R T 状態が偶然に先の段階に移行してしまうことを軽減することができる。

【 1 4 3 6 】

[通常区間中有利区間移行抽籤テーブル]

続いて、図 1 0 6 (A) を参照して、通常区間中に行う有利区間への移行抽籤に用いる通常区間中有利区間移行抽籤テーブルについて説明する。通常区間中有利区間移行抽籤テーブルは、有利区間への移行抽籤の抽籤結果（非当籤 / 当籤）についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、通常区間中の各遊技において通常区間中有利区間移行抽籤テーブルを用いて有利区間への移行抽籤を行い、この移行抽籤に当籤すると、通常区間から有利区間に遊技状態を移行する。

なお、同図では、内部当籤役に関わらず一律の抽籤を行うこととしているが、本仕様例において通常区間から有利区間への移行方法は特に問うものではなく、例えば、内部当籤役毎に有利区間への移行抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定することとしてもよい。また、有利区間への移行抽籤の抽籤結果として、非当籤と当籤だけでなく、非当籤、C Z への移行、A R T への移行などのように移行先の有利区間の種別を規定することとしてもよい。

10

20

30

40

50

【 1 4 3 7 】

[C Z 中 A R T 移行抽籤テーブル]

続いて、図 1 0 6 (B) を参照して、C Z 中に行う A R T への移行抽籤に用いる C Z 中 A R T 移行抽籤テーブルについて説明する。C Z 中 A R T 移行抽籤テーブルは、A R T への移行抽籤の抽籤結果 (非当籤 / 当籤) についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、C Z 中の各遊技において C Z 中 A R T 移行抽籤テーブルを用いて A R T への移行抽籤を行い、この移行抽籤に当籤すると、C Z から A R T に遊技状態を移行する。また、主制御回路 9 0 は、この移行抽籤に当籤しないまま C Z の終了条件を満たした場合には、有利区間を終了して、C Z から通常区間に遊技状態を移行する。

なお、同図では、内部当籤役に関わらず一律の抽籤を行うこととしているが、本仕様例において C Z から A R T への移行方法は特に問うものではなく、例えば、内部当籤役毎に A R T への移行抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定することとしてもよい。また、A R T への移行抽籤の抽籤結果として、非当籤と当籤だけでなく、非当籤、初期ゲーム数 5 0 の A R T 、初期ゲーム 1 0 0 ゲームの A R T などのように当籤時の A R T の種別を規定することとしてもよい。

【 1 4 3 8 】

< 本仕様例の制御と別制御との比較 >

続いて、図 1 0 7 を参照して、本仕様例の制御と別制御とを比較することで、遊技性 (その 7) の天井制御について説明する。

【 1 4 3 9 】

同図の比較例 1 は、C Z 終了時に有利区間を終了してしまう場合の制御例である。比較例 1 では、一般遊技 (通常区間) において C Z に当籤すると、通常区間から有利区間 (C Z) に遊技状態が移行するが、この C Z に失敗すると、C Z の終了に伴い、有利区間 (C Z) から通常区間 (一般) に遊技状態が移行してしまう。このような制御の場合、有利区間 (C Z) から通常区間 (一般) への移行時に、有利区間に関する情報が全てリセットされてしまう結果、主制御回路 9 0 は、この有利区間において C Z に失敗したか否かを把握することができない。

そのため、主制御回路 9 0 は、通常区間から有利区間 (C Z) に移行する場合、常に、この C Z が一回目の C Z であるとし把握することができず、遊技性 (その 7) のように C Z のスルー回数に基づく天井制御を行うことができない。

【 1 4 4 0 】

続いて、同図の比較例 2 は、C Z 終了時に有利区間を終了することなく、有利区間において一般遊技を行う場合の制御例である。すなわち、比較例 2 では、有利区間の種別として、一般遊技と C Z と A R T とを有している。

【 1 4 4 1 】

比較例 2 では、一般遊技 (通常区間) において C Z に当籤すると、通常区間から有利区間 (C Z) に遊技状態を移行し、その後、この C Z に失敗すると、C Z を終了する一方で遊技状態は有利区間のまま維持する結果、有利区間 (C Z) から有利区間 (一般) に移行する。このとき、有利区間は終了していないため情報のリセットが行われない結果、主制御回路 9 0 は、C Z のスルー回数が「 1 回」である一般遊技 (有利区間) であることを把握することができる。続いて、C Z のスルー回数が「 1 回」である一般遊技 (有利区間) において C Z に当籤すると、一般遊技 (有利区間) から C Z (有利区間) に遊技状態が移行する。このとき、主制御回路 9 0 は、「 2 回目」の C Z であることを把握することができる。

【 1 4 4 2 】

比較例 2 のように、C Z 終了時に有利区間を終了することなく、有利区間において一般遊技を行うことで、C Z のスルー回数を把握することができるため、遊技性 (その 7) のように C Z のスルー回数に基づく天井制御を行うことができる。

【 1 4 4 3 】

しかしながら、比較例 2 では、C Z 終了後の一般遊技中も有利区間になってしまうため

10

20

30

40

50

、天井到達に伴うARTの開始時において有利区間が既に長期間にわたり継続してしまっている。ここで、有利区間にはリミッタ（ゲーム数リミッタ）が設けられていることから、ARTの開始時において有利区間が長期間にわたり継続してしまっている場合、天井到達後のARTの開始直後にリミッタが発動してしまう可能性があり、ARTの期間を十分に確保することができない。また、比較例2では、CZ中に加え、CZ終了後の一般遊技中も有利区間になってしまうため、有利区間比率が著しく高くなってしまい、有利区間比率を閾値未満に抑えなければならないというパチスロ機の仕様を満たすことが困難になってしまう。

【1444】

これに対して、本仕様例の制御（本制御）では、CZ終了時に有利区間を終了するものの、CZの前後においてRT状態を異ならせることでCZのスルー回数を把握可能にして、CZのスルー回数に基づく天井制御を行う。具体的には、本制御では、一般遊技（通常区間）においてCZに当籤すると、通常区間から有利区間（CZ）に遊技状態が移行するが、このCZ中にRT状態を先の段階のRT状態に移行させる。その後、CZに失敗すると、CZの終了に伴い、有利区間（CZ）から通常区間（一般）に遊技状態が移行し、有利区間に関する情報が全てリセットされてしまうが、CZの前後においてRT状態が異なるため、主制御回路90は、CZのスルー回数を把握することができる。

【1445】

一例として、主制御回路90は、RT1の一般遊技（通常区間）をCZのスルー回数が「0回」の状態であると把握し、RT2の一般遊技（通常区間）をCZのスルー回数が「1回」の状態であると把握する。このようにすることで、その後、CZのスルー回数が天井に到達している状態で、通常区間から有利区間（CZ）に遊技状態が移行すると、CZの成否に関係なくARTに移行可能にするなどの天井到達に伴う特典を付与することができる。言い換えると、本制御では、複数段階のRT状態のうちの所定段階目のRT状態（RT1～RT4）において有利区間（CZ）に移行した場合、CZに失敗すると、有利区間を終了し通常区間に移行する一方で、複数段階のRT状態のうちの所定段階目よりも先の特段階目（RT5）において有利区間（CZ）に移行した場合、CZに失敗しても、有利区間を終了することなく、ARTに移行可能にするなどの天井到達に伴う特典を付与することができる。

【1446】

また、本制御では、CZ終了時に有利区間を終了するため、有利区間の継続期間はCZが終了するたびにリセットされる。その結果、天井到達に伴うARTの開始時において有利区間の継続期間は比較的短期間であり、有利区間のリミッタ（ゲーム数リミッタ）の発動まで十分な期間を確保することができ、天井制御によるARTの期間を十分に確保することができる。

【1447】

また、本制御では、CZ終了時に有利区間を終了するとともに、通常区間（一般）において所定の確率で当籤する有利区間への移行抽籤に当籤した場合に、通常区間（一般）から有利区間（CZ）に遊技状態を移行する。これにより、天井制御によるARTが開始されるまでに、通常区間（非有利区間）の期間を十分に確保することができ、有利区間比率を下げることもできる。すなわち、「5回目」のCZを天井とする場合、通常区間（一般）から有利区間（CZ）への移行が「5回」行われる必要があるが、有利区間への移行抽籤に当籤する確率が、例えば本仕様例のように約1/80の確率（図106（A）参照）である場合、通常区間（一般）の期間として約400ゲーム（＝80×5）を確保することができる。その結果、天井到達までの通常区間（非有利区間）の期間を十分に確保することができ、有利区間比率を下げることもできる。

【1448】

すなわち、本制御では、天井到達の直前の有利区間の継続期間を短くすることができ、結果、天井到達の直後にリミッタ（ゲーム数リミッタ）が発動してしまうことを防止できる。また、本制御では、天井到達までの有利区間の総期間を短くすること（天井到達まで

10

20

30

40

50

の非有利区間の総期間を長くすること)ができ、結果、有利区間比率を下げるができる。

【1449】

また、本制御では、天井到達までの遊技回数も十分に確保することができ、早期に天井に到達してしまうことを防止できる。具体的には、CZは、CZ中の遊技回数が規定数(例えば、100ゲーム)を超えると終了するため、天井到達までのCZの期間として一定量(例えば、500ゲーム(=100×5))を確保することができる。また、上述のように、通常区間(一般)の期間として約400ゲームを確保することができるため、天井到達までの遊技回数として約900ゲームを確保することができる。なお、遊技者によっては、有利区間への移行抽籤に想定以上の確率で当籤してしまうことがあり、この場合には天井到達までの通常区間(一般)の期間を十分に確保することができないものの、この場合においても天井到達までに少なくともCZ中の期間は確保することができるため、必要以上に早期に天井到達になってしまうことを防止でき、遊技者の利益/不利益のバランスを調整することができる。

【1450】

(天井短縮制御)

続いて、遊技性(その7)における天井短縮制御の方法について説明する。本仕様例では、CZに移行するとRT状態を1つ先の段階に進めることとしているが、2つ先などのようにRT状態を複数段階の進めることとしてもよい。以下、図108を参照して、CZ移行に伴い、RT状態を複数先の段階まで進めることが可能な制御の一例について説明する。

【1451】

図108(A)は、天井短縮制御の例1を説明するための図である。上述のように本仕様例では、「RT1中リブ」～「RT5中リブ」を、遊技者の停止操作の態様が特定の態様である場合にRT状態を1つ先のRT状態に移行させる図柄の組合せ(「C__RT2移行リブ」～「C__RT6移行リブ」)を表示可能にしている。これに対して、例1では、「RT1中リブ」～「RT5中リブ」として複数種類設けることで、天井短縮制御を実現する。なお、図108(A)では、「RT1中リブ」についてのみ示しているが、その他のリプレイに係る役についても同様である。

【1452】

同図に示すように、例1では、「RT1中リブ」として、A系統(「RT1中リブA__123」～「RT1中リブA__321」)と、B系統(「RT1中リブB__123」～「RT1中リブB__321」)とを有し、A系統の「RT1中リブ」は、遊技者の停止操作の態様が特定の態様である場合にRT状態を1つ先のRT状態に移行させる図柄の組合せを表示可能とし、B系統の「RT1中リブ」は、遊技者の停止操作の態様が特定の態様である場合にRT状態を2つ先のRT状態に移行させる図柄の組合せを表示可能としている。すなわち、A系統の「RT1中リブ」が内部当籤役として決定され、遊技者の停止操作の態様が特定の態様である場合、「C__RT2移行リブ」に係る図柄の組合せが表示され、RT状態がRT1からRT2に移行する。また、B系統の「RT1中リブ」が内部当籤役として決定され、遊技者の停止操作の態様が特定の態様である場合、「C__RT3移行リブ」に係る図柄の組合せが表示され、RT状態がRT1からRT3に移行する。

【1453】

このような構成において、主制御回路90は、CZにおいて「RT1中リブ」が内部当籤役として決定された場合に、一度だけ特定の停止操作の態様を報知する。その結果、A系統の「RT1中リブ」が内部当籤役として決定された場合には、RT状態が1つ先のRT状態に移行(RT1からRT2に移行)するだけだが、B系統の「RT1中リブ」が内部当籤役として決定された場合には、RT状態が2つ先のRT状態に移行(RT1からRT3に移行)し、天井到達までの期間を短縮することができる。

【1454】

続いて、図108(B)は、天井短縮制御の例2を説明するための図である。上述のよ

10

20

30

40

50

うに本仕様例では、通常区間において行う有利区間への移行抽籤において当籤すると、C Zに移行し、このC ZにおいてR T状態を1つ先の段階に移行する。ここで、例2では、通常区間において行う有利区間への移行抽籤の抽籤結果として、R T移行ナビが1回のC Zと、R T移行ナビが2回のC Zとを有することとしている。なお、天井短縮制御を実現するためには、R T移行ナビが複数回のC Zを有していればよく、例2において2回としているのは一例に過ぎず、3回以上の任意の回数C Zであってもよい。

【1455】

このような構成において、主制御回路90は、通常区間において行う有利区間への移行抽籤において、R T移行ナビが1回のC Zに当籤した場合、C ZにおいてR T状態を移行するためのナビ（報知）を1回のみ行う。例えば、R T1において、R T移行ナビが1回のC Zに当籤した場合、通常区間（R T1）からC Z（R T1）に移行した後、R T状態を移行するためのナビ（報知）を1回行う結果、R T状態が1つ先のR T状態に移行（R T1からR T2に移行）する。

【1456】

また、主制御回路90は、通常区間において行う有利区間への移行抽籤において、R T移行ナビが2回のC Zに当籤した場合、C ZにおいてR T状態を移行するためのナビ（報知）を2回行う。例えば、R T1において、R T移行ナビが2回のC Zに当籤した場合、通常区間（R T1）からC Z（R T1）に移行した後、R T状態を移行するためのナビ（報知）を2回行う結果、R T状態が2つ先のR T状態に移行（R T1からR T2に移行した後更にR T2からR T3に移行）し、天井到達までの期間を短縮することができる。

【1457】

（その他の遊技性）

以上説明したように、遊技性（その7）では、通常区間から有利区間（C Z）に移行すると、R T状態を1つ先の段階に進めることで、有利区間への移行回数（C Zのスルー回数）に基づく天井制御を実現可能にしている。この点、通常区間から有利区間（C Z）に移行した場合にR T状態を1つ先の段階に進めることで、遊技性（その7）に加え、更に以下のような遊技性を実現可能である。

【1458】

上述した仕様例では、R T1～R T5においてリプレイに係る役の当籤確率を略同一の確率としているが、それぞれのR T状態において当該当籤確率を異ならせることで、通常区間から有利区間（C Z）に移行するまでの期間の遊技の遊技性を多様化することができる。一例として、R T状態の段階が進むごとにリプレイに係る役の当籤確率を高くすることで、R T状態が進み天井に近づくほどメダルを投入することなく有利区間に移行させることができ、また、特定のR T状態においてリプレイに係る役の当籤確率を高くすることで、天井到達までの期間のうちの特定の段階においてメダルを投入することなく有利区間に移行させることができる。

ここで、通常区間における遊技を「周期中の遊技」とし、通常区間から有利区間（C Z）に移行した回数を「周期回数」として捉えた場合、R T状態毎にリプレイに係る役の当籤確率を異ならせることで、周期回数に応じて周期中の遊技の遊技性を異ならせることができる。

【1459】

また、上述した仕様例では、C Z中に行うA R Tへの移行抽籤について特に規定していないが、C Z中に行うA R Tへの移行抽籤を、R T状態を参照して行うことで、遊技性を多様化することができる。一例として、R T状態の段階が進むごとにA R Tへの移行抽籤に当籤する確率を高くすることで、R T状態が進み天井に近づくほどメダルを投入することなくA R Tに移行し易くすることができる、また、特定のR T状態においてA R Tへの移行抽籤に当籤する確率を高くすることで、天井到達までの期間のうちの特定の段階においてA R Tに移行し易くすることができる。

このようにすることで、周期回数に応じて、周期到達後のC Zの遊技性を異ならせることができる。

10

20

30

40

50

【 1 4 6 0 】

また、上述した仕様例では、C Zに成功した場合の恩恵について特に規定していないが、C Zに成功した場合の恩恵を、R T状態を参照して決定することで、遊技性を多様化することができる。一例として、R T状態の段階が進むごとに恩恵を大きくすることで、R T状態が進み天井に近づくほどC Z成功時の恩恵を大きくすることができ、また、特定のR T状態において恩恵を大きくすることで、天井到達までの期間のうちの特定の段階においてC Zに成功した場合、大きな恩恵を付与することができる。

このようにすることで、周期回数に応じて、周期的に行うC Zの恩恵を異ならせることができる。

【 1 4 6 1 】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ1の遊技性(遊技仕様)の他の例(その7)について説明した。続いて、パチスロ1の遊技性(遊技仕様)の他の例(その7)を発揮する際の主制御回路90及び副制御回路200が有する各種機能について説明する。

【 1 4 6 2 】

主制御回路90は、スタートスイッチ6Sやストップスイッチ7Sと接続され、図1に示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段として機能する。また、リール3L、3C、3R及び表示窓4は、可変表示手段として機能する。

【 1 4 6 3 】

また、主制御回路90は、現在のR T状態から他のR T状態にR T状態を移行可能であり、また、C Z中にR T状態を移行させるために必要な情報、具体的には、R T状態を現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させるために必要な情報を報知可能であるため、主制御回路90は、R T制御手段及び報知手段として機能する。

【 1 4 6 4 】

また、主制御回路90は、通常区間において有利区間への移行抽籤に当籤すると、有利区間のC Zに遊技状態を移行可能であり、また、C ZにおいてA R Tへの移行抽籤に当籤すると、有利区間のA R Tに遊技状態を移行可能、かつ、C Zにおいて現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させた後(又は現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させるための報知がされた後)にC Zの終了条件が満たされると、有利区間を終了して、C Zから通常区間に遊技状態を移行するため、主制御回路90は、第1状態制御手段及び第2状態制御手段として機能する。このとき、主制御回路90は、C Z移行時のR T状態がR T1～R T4である場合には(所定段階目のR T状態におけるC Zでは)、A R Tへの移行条件を満たすことなく終了条件が満たされると、C Zから通常区間に遊技状態を移行する一方で、C Z移行時のR T状態がR T5である場合には(特定段階目のR T状態におけるC Zでは)、A R Tへの移行条件が満たされない場合であっても、天井制御によりC ZからA R Tに遊技状態を移行する。

【 1 4 6 5 】

なお、主制御回路90は、C Z移行時のR T状態がR T1～R T4である場合には(所定段階目のR T状態におけるC Zでは)、C Zにおいて現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させた後(又は現在のR T状態よりも先の段階のR T状態に移行させるための報知がされた後)に所定期間(100ゲーム)が経過すると、C Zから通常区間に遊技状態を移行する一方で、C Z移行時のR T状態がR T5である場合には(特定段階目のR T状態におけるC Zでは)、A R Tへの移行条件が満たされることがなく所定期間(100ゲーム)又は特定期間(30ゲーム)が経過すると、C ZからA R Tに遊技状態を移行する。

【 1 4 6 6 】

また、パチスロ1は、全遊技期間における有利区間の期間(有利区間比率)が所定割合になるように遊技状態が制御され、主制御回路90は、所定確率で当籤する有利区間への移行抽籤に当籤すると、有利区間のC Zに遊技状態を移行する。

【 1 4 6 7 】

〔遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）〕

続いて、図１０９を参照して、本実施形態に係るパチスロ１において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）について説明する。図１０９は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）における制御の概要を示す図である。

【１４６８】

（パチスロの仕様例）

遊技性（その８）を実現可能なパチスロの仕様例では、パチスロ１は、遊技者にとって相対的に不利な通常遊技と遊技者にとって相対的に有利な有利状態とを有する。なお、有利状態の種別は任意であり、例えば、ＡＴやＡＲＴなどを用いることができる。主制御回路９０は、一般状態において有利状態への移行条件を満たすと、遊技状態を一般状態から有利状態に移行する、通常制御による有利状態への移行が可能であるとともに、一般状態において天井に到達した場合に遊技状態を一般状態から有利状態に移行する、天井制御による有利状態への移行が可能である。

10

【１４６９】

なお、本仕様例において通常制御による有利状態への移行方法は任意であり、主制御回路９０は、例えば、一般状態において決定された内部当籤役に基づき有利状態への移行抽籤を行い、この移行抽籤に当籤した場合に、通常制御による有利状態への移行を行うこととしてもよい。また、本仕様例において天井制御による有利状態への移行方法も任意であり、主制御回路９０は、例えば、上述の遊技性（その７）のようにＣＺのスルー回数に基づき天井制御による有利状態への移行を行うこととしてもよく、また、有利状態に移行することなく一般状態のまま行われた遊技回数が所定回数に達した場合に天井制御による有利状態への移行を行うこととしてもよい。すなわち、主制御回路９０は、一般状態に関連して計数される数値情報（例えば、スルー回数やゲーム数）が天井閾値に達すると、遊技状態を有利状態に移行する天井制御を行うことができる。

20

【１４７０】

また、主制御回路９０は、有利状態において有利状態の終了条件を満たすと、有利状態を終了して、遊技状態を有利状態から一般状態に移行する。なお、本仕様例において有利状態の終了条件、言い換えると、有利状態の継続期間を管理する方法は任意であり、例えば、ゲーム数により有利状態の継続期間を管理することとしてもよく、また、ナビ回数や差枚数等により有利状態の継続期間を管理することとしてもよい。すなわち、主制御回路９０は、有利状態の継続期間を定める数値情報（例えば、ゲーム数やナビ回数や差枚数）を計数可能なカウンタを有し、有利状態中の遊技の結果に応じてこの数値情報を更新（例えば、１ゲーム毎にゲーム数を１更新）する。そして、主制御回路９０は、更新の結果、この数値情報が終了閾値（例えば、残りゲーム数が０）に達すると、有利状態の終了条件を満たしたとして、有利状態を終了して、遊技状態を有利状態から一般状態に移行する。

30

【１４７１】

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）の概要）

このような仕様例のパチスロ１において、遊技性（その８）は、天井到達時の恩恵に関するものである。従来のパチスロでは、天井到達時に付与する恩恵を通常時よりも大きくしていたが、天井到達時の恩恵が大きすぎると遊技者が遊技に過度にのめり込んでしまう恐れがあるため、好ましくない。一方で、天井に到達するには、遊技者にとって不利な一般状態において長い期間の遊技を行わなければならないため、せっかく天井まで到達したにもかかわらず早期に有利状態が終了してしまったのでは、遊技者の遊技意欲が削がれてしまう。そこで、遊技性（その８）では、通常制御により移行した有利状態と天井制御により移行した有利状態との間で、有利状態１回当たりの遊技者の利益の期待値は同一（又は略同一）にしつつも、天井到達に伴い大きな恩恵が付与されたと遊技者が感じるように制御する。

40

【１４７２】

ここで、有利状態１回当たりの遊技者の利益の期待値は、有利状態中の単位遊技当たりの利益の期待値（メダル増加の傾斜値）と、有利状態１回当たりの有利状態の継続期間の

50

期待値と、から求めることができる。

有利状態 1 回当たりの利益の期待値 = 単位遊技当たりの利益 × 継続期間の期待値

遊技性（その 8）では、有利状態 1 回当たりの有利状態の継続期間の期待値に着目して以下の制御を行う。なお、以下では、有利状態の継続期間としてゲーム数を用いて説明する。

【 1 4 7 3 】

ゲーム数を有利状態の継続期間として用いる場合、有利状態の継続期間は、有利状態の開始時に決定される初期ゲーム数と、有利状態中に上乗せされる上乗せゲーム数（言い換えると、有利状態中の上乗せ期待度）とにより決まる。なお、上乗せとは、有利状態の継続期間が延長されるように制御することであり、主制御回路 90 は、有利状態において上乗せ条件を満たした場合に、有利状態の継続期間が延長されるように有利状態の継続期間を定める数値情報を更新する。

10

【 1 4 7 4 】

図 109（A）に示すように、遊技性（その 8）では、主制御回路 90 は、通常制御により有利状態（例えば、ART）に移行した場合、同図の「通常 ART」に示すように初期ゲーム数として少ないゲーム数を設定する一方で、有利状態中の上乗せ期待度を高くし、反対に、天井制御により有利状態に移行した場合、同図の「天井 ART」に示すように初期ゲーム数として多いゲーム数を設定する一方で、有利状態中の上乗せ期待度を低くする。このとき、主制御回路 90 は、有利状態 1 回当たりの遊技者の利益の期待値が、通常制御により移行した有利状態と天井制御により移行した有利状態とで同一（又は略同一）となるように、初期ゲーム数の設定及び（又は）上乗せ期待度を制御する。なお、有利状態中の単位遊技当たりの利益の期待値は、通常制御により移行した有利状態と天井制御により移行した有利状態とで同一であるため、有利状態 1 回当たりの遊技者の利益の期待値が同一（又は略同一）とは、通常制御により移行した有利状態の継続期間の期待値と、天井制御により移行した有利状態の継続期間の期待値とが同一（又は略同一）であることと同じである。

20

【 1 4 7 5 】

このようにすることで、有利状態 1 回当たりの遊技者の利益の期待値を通常制御により移行した有利状態と天井制御により移行した有利状態とで略同一としつつも、両者の遊技性を異ならせることができる。例えば、通常制御により移行した有利状態は、初期ゲーム数が少ないため開始後すぐに終了してしまう可能性があるものの、上乗せ期待度が高いため有利状態の継続期間にわたり継続する可能性もある。一方で、天井制御により移行した有利状態は、初期ゲーム数が多いため開始後すぐには終了しないものの、上乗せ期待度が低いため有利状態の継続期間の上振れも小さい。すなわち、通常制御により移行した有利状態は、継続期間の振れ幅が大きく、天井制御により移行した有利状態は反対に、継続期間の振れ幅が小さく、継続期間の長さが安定する。

30

【 1 4 7 6 】

続いて、図 109（B）は、遊技性（その 8）の制御例を示す。図 109（B）では、有利状態中の単位遊技当たりの利益の期待値、言い換えると、有利状態中の 1 ゲーム当たりの純増枚数を「2 枚」としている。本制御例において、通常制御により移行した有利状態は、初期ゲーム数の平均が 50 ゲームであり、かつ、有利状態 1 回当たりの遊技者の利益の期待値が約 500 枚になるように有利状態中の上乗せ期待度が設定されている。

40

【 1 4 7 7 】

このように遊技性（その 8）では、天井制御により有利状態に移行した場合、初期ゲーム数を多くする一方で、上乗せ期待度を下げること、有利状態 1 回当たりの遊技者の利益の期待値を通常制御により移行した有利状態と同一（又は略同一）にする。遊技者にとってみれば、付与される利益の期待値は変わらないものの、天井到達時には安定して一定期間の有利状態を行うことができ、早期に有利状態が終了してしまうことがないため、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。一方で、天井制御により移行した有利状態では上乗せ性能が低下するため、遊技者は敢えて天井を目指す必要はなく、遊技者が遊

50

技に過度にのめり込んでしまうことを防止することができる。すなわち、遊技性（その８）では、天井到達時にあたかも大きな恩恵があるように感じさせることができる一方で、継続期間の初期値に対して上乗せ性能を調整することで、有利状態１回当たりの遊技者の利益の期待値を天井時と通常時とで合わせることができ、過度なめり込みを防止できる。

【１４７８】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ１の遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）について説明した。続いて、パチスロ１の遊技性（遊技仕様）の他の例（その８）を発揮する際の主制御回路９０及び副制御回路２００が有する各種機能について説明する。

10

【１４７９】

主制御回路９０は、スタートスイッチ６Ｓやストップスイッチ７Ｓと接続され、図１に示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段として機能する。また、リール３Ｌ、３Ｃ、３Ｒ及び表示窓４は、可変表示手段として機能する。

【１４８０】

また、主制御回路９０は、一般状態において通常制御又は天井制御による有利状態への移行が可能であるため、主制御回路９０は、状態制御手段として機能する。また、主制御回路９０は、有利状態の継続期間を定める数値情報を計数可能であるとともに、この数値情報を有利状態中の遊技の結果に応じて更新し、更新の結果、この数値情報が終了閾値に達すると、有利状態を終了可能であるため、主制御回路９０は、継続期間計数手段及び終了制御手段として機能する。

20

【１４８１】

また、主制御回路９０は、有利状態に移行する場合に、有利状態の継続期間の初期値を設定可能であるとともに、有利状態中に有利状態の継続期間が延長されるように上乗せ制御が可能であるため、主制御回路９０は、初期期間設定手段及び上乗せ制御手段として機能する。このとき、主制御回路９０は、通常制御により移行した有利状態では、継続期間の初期値を低く設定するとともに、上乗せ期待度が高くなるように制御する一方で、天井制御により移行した有利状態では、継続期間の初期値を高く設定するとともに、上乗せ期待度が低くなるように制御する。特に、主制御回路９０は、通常制御により移行した有利状態１回当たりの継続期間の期待値と、天井制御により移行した有利状態１回当たりの継続期間の期待値とが同一（又は略同一）になるように、継続期間の初期値及び上乗せ期待度を制御する。

30

【１４８２】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その９）]

続いて、図１１０を参照して、本実施形態に係るパチスロ１において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その９）について説明する。図１１０は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その９）における制御の概要を示す図である。

【１４８３】

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その９）の概要）

遊技性（その９）は、ＭＢ状態を貫通するＭＢ貫通型ＲＴとＭＢ状態とを用いた遊技性に関するものである。本仕様例では、ＭＢ状態中の表示役（すなわち、ＭＢ状態において表示される図柄の組合せ）として、３枚のメダルの払い出しが行われる表示役Ａと、９枚のメダルの払い出しが行われる表示役Ｂとを有し、ＭＢ状態中のＲＴ状態に応じて表示結果を異ならせることで、ＭＢ状態の有利度合いをＲＴ状態に応じて異ならせる。なお、本仕様例においてＭＢ貫通型ＲＴとは、ＭＢ状態の前後及びＭＢ状態中にＲＴ状態を移行させることなく現在のＲＴ状態のまま維持するＲＴ制御をいう。

40

【１４８４】

図１１０（Ａ）は、本仕様例のパチスロ１における遊技状態の遷移フローである。図１１０（Ａ）に示すように、本仕様例では、主制御回路９０は、非ＭＢ状態においてＭＢに入賞すると、ＭＢの作動を開始し、ＭＢ状態に遊技状態を移行する（言い換えると、主制

50

御回路 90 は、停止制御の結果、MB 役に応じた結果表示が導出されると、ボーナス遊技を開始する)。また、主制御回路 90 は、MB 状態において終了条件を満たすと、MB の作動を終了して、非 MB 状態に遊技状態を移行する(言い換えると、主制御回路 90 は、ボーナス遊技の終了条件を満たすと、ボーナス遊技を終了する)。なお、MB 状態の終了条件は、規定枚数を超えるメダルが払い出されることである。

【1485】

また、本仕様例のパチスロ 1 では、リプレイに係る役が内部当籤役として決定される確率が異なる RT 状態として、複数の RT 状態を有する。ここで、遊技性(その 9)では、複数の RT 状態として、特定のリプレイ役(後述のリプレイ A 又はリプレイ B)の当籤確率が異なる複数の RT 状態を有していれば足りるものの、本仕様例では、複数の RT 状態として低 RT と高 RT とを有するものとする。

【1486】

図 110(B)に示すように、低 RT は、リプレイに係る役が内部当籤役として決定される確率が高 RT に比較して低い RT 状態であり、かつ、リプレイ A が内部当籤役として決定される確率が高 RT に比較して高く、リプレイ B が内部当籤役として決定される確率が高 RT に対して低い RT 状態である。また、高 RT は、リプレイに係る役が内部当籤役として決定される確率が低 RT に比較して高い RT 状態であり、かつ、リプレイ A が内部当籤役として決定される確率が低 RT に比較して低く、リプレイ B が内部当籤役として決定される確率が低 RT に対して高い RT 状態である。なお、図 110(B)に示す例では、低 RT ではリプレイ A にのみ当籤し、リプレイ B に当籤しないこととしているが、これに限るものではなく、低 RT においてリプレイ B に所定確率で当籤することとしてもよい。同様に、高 RT ではリプレイ B にのみ当籤し、リプレイ A に当籤しないこととしているが、これに限るものではなく、低 RT においてリプレイ A に所定確率で当籤することとしてもよい。

【1487】

図 110(A)に戻り、主制御回路 90 は、非 MB 状態において RT 状態の移行条件を満たすと、RT 状態を低 RT から高 RT (又は高 RT から低 RT)に移行する。なお、本仕様例において RT 状態の移行条件は任意であり、例えば、停止制御の結果として RT 状態を移行する移行図柄が表示されることを移行条件としてもよく、また、RT 状態において所定回数の遊技が行われることを移行条件としてもよい。また、これら移行条件は、複数の RT 状態のそれぞれにおいて異ならせることとしてもよく、また、同一の移行条件としてもよい。ただし、主制御回路 90 は、非 MB 状態において MB に入賞し MB の作動を開始した場合、MB 状態において終了条件を満たし MB の作動を終了した場合、及び MB 状態の最中は、RT 状態を移行させることなく現在の RT 状態のまま維持する(言い換えると、主制御回路 90 は、ボーナス遊技の前後、及びボーナス遊技の最中は RT 状態を移行させることなく現在の RT 状態を維持する一方で、非ボーナス遊技において特定の移行条件を満たした場合に現在の RT 状態から他の RT 状態に RT 状態を移行する)。

【1488】

(MB 状態中の当籤役と停止制御)

続いて、図 110(B)(C)を参照して、MB 状態中の当籤役と停止制御について説明する。本仕様例において、主制御回路 90 は、MB 状態中は、全ての小役を内部当籤役として決定するとともに、リプレイに係る役に関してのみ個別に抽籤しておき、全ての小役を内部当籤役として決定する際に個別に抽籤しておいたリプレイの種別に応じて停止制御を異ならせる。一例として、図 110(B)に示すように、リプレイに係る役として、リプレイ A 及びリプレイ B のみを有しているとすると、MB 状態中は、リプレイ A 及びリプレイ B の何れも内部当籤役として決定されない場合の内部当籤役が「全ての小役」となり、リプレイ A が内部当籤役として決定された場合の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ A」となり、リプレイ B が内部当籤役として決定された場合の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ B」となる。

【1489】

そして、主制御回路 90 は、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ B」である場合（リプレイ B に当籤の場合）には多くのメダルが払い出されることになる図柄の組合せ（表示役 B）が導出されるようにリールの停止制御を行い、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合（リプレイ A 及びリプレイ B の何れも非当籤の場合）及び MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ A」である場合（リプレイ A に当籤の場合）には、少ないメダルが払い出されることになる図柄の組合せ（表示役 A）が導出されるようにリールの停止制御を行う。

【1490】

このようにすることで、図 110（D）に示すように、低 RT 中の MB 状態を現状維持の MB としつつも、高 RT 中の MB 状態をメダルが増加する MB とすることができる。例えば、高 RT 中に遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する ART 機の場合、非 ART 中の MB を現状維持の MB としつつも、ART 中の MB をメダルが増加する MB とすることができる。すなわち、遊技性（その 9）では、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を RT 状態に応じて異ならせることができる。

10

【1491】

なお、遊技性（その 9）は、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を RT 状態に応じて異ならせることができればよく、低 RT 中の MB 状態を現状維持の MB、高 RT 中の MB 状態をメダルが増加する MB とすることに限るものではない。例えば、低 RT 中の MB 状態をメダルが第 1 量増加する MB とし、高 RT 中の MB 状態をメダルが第 1 量よりも多い第 2 量増加する MB とするものであってもよく、また、例えば、低 RT 中の MB 状態をメダルが第 3 量減少する MB とし、高 RT 中の MB 状態をメダルが第 3 量よりも少ない多い第 4 量減少する MB（又は現状維持の MB）とするものであってもよく、任意である。このような制御は、表示役 A 及び表示役 B が導出された場合に払い出すメダルの枚数と、MB 状態中の単位遊技に用いるメダルの枚数との関係により任意に設計することができる。

20

【1492】

そのため、遊技性（その 9）では、主制御回路 90 が、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合（リプレイ A 及びリプレイ B の何れも非当籤の場合）に、今回の遊技に用いたメダルと同数のメダル、又は今回の遊技に用いたメダルよりも少ないメダルが払い出される表示役 A を導出可能であり、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ A」である場合（リプレイ A に当籤の場合）に、今回の遊技に用いたメダルと同数のメダル、又は今回の遊技に用いたメダルよりも少ないメダルが払い出される表示役 A を導出可能であり、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイ B」である場合（リプレイ B に当籤の場合）に、今回の遊技に用いたメダルよりも多いメダルが払い出される表示役 B を導出可能であることを含むものである。

30

【1493】

また、遊技性（その 9）は、MB 状態中のリプレイに係る役の当籤確率を RT 状態に応じて異ならせるとともに、MB 状態中のリプレイに係る役の当否に応じて、リール制御（表示役）及びメダルの払出枚数を異ならせることで、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を RT 状態に応じて異ならせるものであり、上述のリール制御とメダルの払い出し枚数との関係も任意である。すなわち、遊技性（その 9）は、もっとも単純には、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合と、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役 + リプレイに係る役」である場合とで、導出される表示役（結果表示）を異ならせ、結果、メダルの払い出し枚数（すなわち、付与する遊技用価値の数量）を異ならせることとすればよい。このような制御においても、RT 状態に応じてリプレイに係る役の当籤確率が異なるため、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を RT 状態に応じて異ならせることができる。

40

【1494】

また、上述の例では、主制御回路 90 は、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合と、「全ての小役 + リプレイ A」である場合とで同じ表示役 A を導出可能に制御することとしているが、これに限るものではない。すなわち、主制御回路 90 は、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合に、表示役 B を導出可能に制御し、MB 状

50

態中の内部当籤役が「全ての小役＋リプレイ A」である場合に、表示役 A を導出可能に制御することとしてもよく、反対に、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合に、表示役 A を導出可能に制御し、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役＋リプレイ A」である場合に、表示役 B を導出可能に制御することとしてもよい。また、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合と、「全ての小役＋リプレイ A」である場合とで異なる表示役とする場合の表示役も、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役＋リプレイ B」である場合の表示役 B に限られるものではなく、メダルの払い出し枚数が異なる他の表示役を導出可能に制御することとしてもよい。すなわち、遊技性（その 9）のその他制御例として、主制御回路 90 は、MB 状態中の内部当籤役が「全ての小役」である場合と、「全ての小役＋リプレイ A」である場合と、「全ての小役＋リプレイ B」である場合とで、導出される表示役（結果表示）を異ならせ、結果、メダルの払い出し枚数（すなわち、付与する遊技用価値の数量）を異ならせることとしてもよい。この場合において、MB 状態中のメダル増加の傾斜値のパターン数は、2 種類又は 3 種類に限るものではなく、リプレイに係る役として更に多くの種類の役を設けることで、MB 状態中のメダル増加の傾斜値のパターン数も更に増やすことができる。

10

20

30

40

50

【1495】

また、本仕様例では、低 RT と高 RT とで MB 状態中のメダル増加の傾斜値を異ならせる例について説明したが、遊技性（その 9）は、RT 状態に応じて MB 状態中のメダル増加の傾斜値が異なればよいのであり、比較対象の RT 状態は低 RT と高 RT とに限られない。一例として、図 110（E）に示すように、高 RT 1 と高 RT 2 とで MB 状態中のメダル増加の傾斜値を異ならせることとしてもよい。すなわち、高 RT 1 と高 RT 2 との間で、リプレイ A 及びリプレイ B の当籤確率を異ならせることで、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を異ならせることができる。そして、高 RT 1 と高 RT 2 とを行き来するように制御することで、例えば、現状維持の MB が行われる ART（高 RT 1 中の ART）と、メダルが増加する MB が行われる ART（高 RT 2 中の ART）とを、ART 中に行き来することができ、ART 中の遊技性が多様化する。

【1496】

同様に低 RT 1 と低 RT 2 とで MB 状態中のメダル増加の傾斜値を異ならせることとしてもよい。すなわち、低 RT 1 と低 RT 2 との間で、リプレイ A 及びリプレイ B の当籤確率を異ならせる（又は表示役 A 及び表示役 B が導出された場合に払い出すメダルの枚数を調整する）ことで、MB 状態中のメダル増加の傾斜値を異ならせることができる。そして、低 RT 1 と低 RT 2 とを行き来するように制御することで、例えば、現状維持の MB が行われる一般状態（低 RT 1 中の一般状態）と、メダルが増加する MB が行われる一般状態（高 RT 2 中の一般状態）とを、一般状態中に行き来することができ、一般状態中の遊技性が多様化する。

【1497】

また、本仕様例では、低 RT を現状維持の MB が行われる RT 状態とし、高 RT をメダルが増加する MB が行われる RT 状態としているが、これに限るものではなく、低 RT をメダルが増加する MB が行われる RT 状態とし、高 RT を現状維持の MB が行われる RT 状態としてもよい。

なお、リプレイ A 及びリプレイ B の当籤確率を調整することで、低 RT をメダルが増加する MB が行われる RT 状態とすることとしてもよく、また、表示役 A 及び表示役 B が導出された場合に払い出すメダルの枚数を調整することで、低 RT をメダルが増加する MB が行われる RT 状態とすることとしてもよい。

【1498】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 9）について説明した。続いて、パチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 9）を発揮する際の主制御回路 90 及び副制御回路 200 が有する各種機能について説明する。

【1499】

主制御回路 90 は、スタートスイッチ 6 S やストップスイッチ 7 S と接続され、図 1 に示す遊技の進行を制御するため、停止制御手段及び利益付与手段として機能する。なお、主制御回路 90 は、MB 状態においてリプレイ A 及びリプレイ B の何れも内部当籤役として決定されない場合、及びリプレイ A が内部当籤役として決定された場合には、表示役 A の結果表示が導出されるように停止制御を行う結果、今回の遊技に用いたメダルと同数又は今回の遊技に用いたメダルよりも少ないメダルを付与し、MB 状態においてリプレイ B が内部当籤役として決定された場合には、表示役 B の結果表示が導出されるように停止制御を行う結果、今回の遊技に用いたメダルよりも多いメダルを付与する。また、リール 3 L、3 C、3 R 及び表示窓 4 は、可変表示手段として機能する。

【1500】

10

また、主制御回路 90 は、リール停止制御の結果として、MB 役に応じた結果表示が導出されると、MB 状態を開始し、MB 状態の終了条件を満たすと、MB 状態を終了するため、主制御回路 90 は、遊技制御手段として機能する。また、主制御回路 90 は、MB 状態の前後、及び MB 状態の最中は RT 状態を移行させることがなく現在の RT 状態を維持する一方で、RT 状態の移行条件を満たした場合に現在の RT 状態から他の RT 状態に RT 状態を移行するため、主制御回路 90 は、RT 制御手段として機能する。

【1501】

[遊技性(遊技仕様)の他の例(その10)]

続いて、図 111 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性(遊技仕様)の他の例(その10)について説明する。図 111 は、遊技性(遊技仕様)の他の例(その10)における制御の概要を示す図である。

20

【1502】

(パチスロの仕様例)

遊技性(その10)を実現可能なパチスロの仕様例では、パチスロ 1 は、報知状態と非報知状態とを有する。報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する(又は報知する頻度が高い)遊技状態であり、例えば、有利区間中の AT や ART といった遊技状態が該当する。非報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない(又は報知する頻度が低い)遊技状態であり、報知状態以外の遊技状態が該当する。

【1503】

また、パチスロ 1 は、内部当籤役として決定された場合に遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する対象の役である報知対象役を有する。報知対象役は、所定の操作態様で停止操作が行われると、所定の結果表示が導出可能であり(所定の図柄の組合せが表示可能であり)、所定の操作態様とは異なる操作態様で停止操作が行われると、所定の結果表示とは異なる結果表示が導出可能な(所定の図柄の組合せとは異なる図柄の組合せが表示可能な)役であり、例えば、上記実施形態における押し順小役(押し順役)である。なお、パチスロ 1 では、主制御回路 90 は、報知対象役の当籤時に所定の結果表示が導出可能された場合には、所定の結果表示以外の結果表示が導出された場合よりも多くのメダルを払い出す。以下に示す例では、所定の結果表示が導出可能された場合には「9枚」のメダルを払い出し、所定の結果表示以外の結果表示が導出された場合には「0枚」のメダルを払い出す。なお、所定の結果表示以外の結果表示が導出された場合に払い出すメダルの枚数は、「9枚」よりも少なければよく、「0枚」であることに限られない。そのため、報知対象役は、所定の操作態様で停止操作が行われると多くのメダルが払い出され、所定の操作態様以外の操作態様で停止操作が行われると少ないメダル(又は0枚)が払い出される役であるといえる。主制御回路 90 は、報知状態において報知対象役が内部当籤役として決定されると、遊技者にとって有利な停止操作の情報である所定の操作態様を遊技者に対して報知する。

30

40

【1504】

また、主制御回路 90 は、非報知状態において報知状態への移行条件を満たすと、遊技状態を非報知状態から報知状態に移行する。なお、本仕様例において報知状態への移行条件は任意である。そして、主制御回路 90 は、報知状態において報知状態の終了条件を満

50

たすと、遊技状態を報知状態から非報知状態に移行する。

【1505】

ここで、本仕様例において報知状態の終了条件は、報知状態中に払い出されたメダルの枚数に関連するものであり、例えば、報知状態中に払い出されたメダルの枚数が規定値に達すること、又は報知状態中の差枚数（＝払出枚数－投入枚数）が規定値に達することによってよい。なお、本仕様例では、報知状態中に払い出されたメダルの枚数が規定値に達することを終了条件として用いる。そのため、主制御回路90は、報知状態の継続期間を定める数値情報として、報知状態において払い出されたメダルの総数を計数可能なカウンタを有し、報知状態中に払い出されたメダルの枚数に応じてカウンタを更新し、カウンタの値が規定値に達すると、報知状態を終了する。また、主制御回路90は、報知状態中に

10

【1506】

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その10）の概要）

このような仕様例のパチスロ1において、遊技性（その10）は、報知状態の終了時期を遊技者が調整可能にする制御に関するものである。具体的には、遊技性（その10）では、報知状態の終了条件である、報知状態中に払い出されたメダルの枚数の計数方法に特徴を有しており、以下説明する計数方法により、遊技者は、報知状態の終了時期を調整することができる。

【1507】

20

遊技性（その10）では、主制御回路90は、報知状態中に内部当籤役として決定されただけでは払出枚数を更新することなく、メダルの払い出しが実際に行われた場合に、実際に払い出したメダルの枚数に応じて、払出枚数を更新する。すなわち、報知状態中は、基本的には、報知に従い停止操作を行うことで最大の利益を得ることができるため、メダルの払い出しを行う前に払い出されるであろうメダルの枚数を把握することができる。そのため、AT機やART機では、報知状態中に報知対象役が内部当籤役として決定された場合、当該遊技において遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知したことをもって、払出枚数を更新することがある。

【1508】

これに対して、本仕様例のパチスロ1では、主制御回路90は、報知状態中に報知対象役が内部当籤役として決定された場合、当該遊技において遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しただけでは払出枚数を更新することなく、遊技者の停止操作の結果として導出された結果表示に伴い払い出されたメダルの枚数に応じて払出枚数を更新する。すなわち、遊技者が報知に従い停止操作を行った場合には、報知状態中に払い出されたメダルの枚数を「9枚」加算し、遊技者が報知に従わずに停止操作を行った場合には、報知状態中に払い出されたメダルの枚数を「0枚」加算する。

30

【1509】

（遊技性（その10）の制御例）

ここで、図111（A）は、遊技性（その10）の制御例を示す。同図（a）において、報知状態の残り払出枚数は「9枚」であり、当該遊技において報知対象役が内部当籤役として決定された結果、主制御回路90は、遊技者にとって有利な停止操作の情報として「左中右」の押し順を報知している。遊技者が報知に従い停止操作を行うと、同図（b）に示すように、ベルが入賞し「9枚」のメダルが払い出される結果、報知状態の残り払出枚数が「0枚」に更新され、報知状態（ART）が終了してしまう。一方で、遊技者が報知に従わずに停止操作を行うと、同図（c）に示すように、ベルが入賞しないためメダルの払い出しも行われない結果、報知状態の残り払出枚数が「9枚」のまま維持され、報知状態（ART）は終了せずに、次遊技の遊技状態も報知状態（ART）となる。

40

【1510】

このように本仕様例のパチスロ1では、遊技者が報知に従い停止操作を行った場合には、遊技者は多くのメダルを獲得できる一方で、報知状態の終了が早まってしまい、反対に

50

、遊技者が報知に従わずに停止操作を行った場合には、遊技者は当該遊技において用いた分のメダルを減少させてしまうものの、報知状態の終了時期を先延ばしすることができる。なお、主制御回路 90 は、報知状態中に上乗せ制御が可能であるため、報知に逆らって伸ばした期間において上乗せ制御を受けることにより、最終的には多くのメダルの払い出しを受けることができる可能性もあるため、報知に従うか否かについて戦略性を持った遊技性としてすることができる。また、報知に逆らって停止操作を行った場合には、遊技者は当該遊技において損をしてしまうため、損した分の利益を他の部分に振り分けることができる。

【1511】

(上乗せ制御例)

続いて、図 111 (B) は、主制御回路 90 による上乗せ制御の例を示す図である。同図に示すように、遊技性 (その 10) では、報知状態の経過ゲーム数に応じて上乗せ期待度を異ならせることで (所謂、上乗せ期待度が高いゲーム数ゾーンを設けることで)、更に戦略性を高めることができる。一例として、報知状態が開始してから「77 ゲーム目」の遊技が上乗せ期待度が高い遊技である場合について考える。「77 ゲーム目」の 1 ゲーム前の「76 ゲーム目」において、報知状態の残り払出枚数が「9 枚」であり、かつ、報知対象役が内部当籤役として決定された場合、当該遊技において報知に従い停止操作を行うと、次ゲームが上乗せ期待度が高い遊技であるにも関わらず、当該遊技で報知状態が終了してしまう。これに対して、当該遊技において報知に従わないことで、上乗せ期待度が高い「77 ゲーム目」の遊技を行うことができ、次遊技において継続期間の上乗せが行われた場合には、終了してしまった場合よりも遊技者にとって有利になる可能性がある。

【1512】

このように報知状態の終了条件を払出枚数により管理しつつ、報知状態の経過ゲーム数に応じて上乗せ期待度を異ならせることで、戦略性を高めることができ、遊技性が多様化する。なお、上乗せ期待度とは、上乗せ抽籤に当籤する確率 (すなわち、上乗せが行われ易いか否か) であってもよく、また、上乗せが行われる場合の上乗せの大きさであってもよく、両者を組み合わせたものであってもよい。一例として、図 111 (B) に示す例において、報知状態が開始してから「51 ~ 53 ゲーム目」の遊技を上乗せ抽籤に当籤する確率が高く、かつ、上乗せが行われる場合の上乗せの大きさが通常の遊技とし、報知状態が開始してから「77 ゲーム目」の遊技を上乗せ抽籤に当籤する確率が高く、かつ、上乗せが行われる場合の上乗せの大きさも大きい遊技とし、報知状態が開始してから「99 ~ 100 ゲーム目」の遊技を上乗せ抽籤に当籤する確率が通常、かつ、上乗せが行われる場合の上乗せの大きさが大きい遊技としてもよい。このようにすることで、更に戦略性を高めることができ、遊技性が多様化する。

【1513】

なお、遊技性 (その 10) では、報知状態中に払い出されたメダルの枚数 (又は報知状態中の差枚数) が規定値に達することを終了条件として用いることとしている。ここで、主制御回路 90 は、複数の役のうちの一部の役が内部当籤役として決定された遊技においてのみ、終了条件として用いるメダルの枚数 (又は差枚数、以下省略) を更新し、他の役が内部当籤役として決定された遊技では、メダルの払い出しがあったか否かに関係なく、終了条件として用いるメダルの枚数を更新しないこととしてもよい。例えば、内部当籤役として決定されると、遊技者の停止操作に関わらず必ず入賞し (すなわち、停止操作の態様に関わらず必ず所定の結果表示が導出され移され)、特定枚数のメダルが付与される引込 1 の役を有する仕様の場合、このような引込 1 の役に応じて終了条件として用いるメダルの枚数を更新してしまったのでは、遊技者が報知状態の終了時期を調整することができなくなってしまう。この点、このような引込 1 の役を、内部当籤役として決定された場合に終了条件として用いるメダルの枚数を更新しない役とすることで、遊技者は、報知状態の終了時期を調整することができる。なお、終了条件として用いるメダルの枚数を更新する役と、更新しない役とは任意に設定することができるが、報知対象役については、終了条件として用いるメダルの枚数を更新する役とすることが好ましく、また、引込 1 の役は

、終了条件として用いるメダルの枚数を更新しない役とすることが好ましい。また、引込 1 ではない役、すなわち、内部当籤役として決定された場合に遊技者の停止操作に応じて入賞することもある役、入賞しないこともある役（取りこぼすことがある役）は、終了条件として用いるメダルの枚数を更新する役としてもよく、また、更新しない役としてもよい。

【 1 5 1 4 】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 0）について説明した。続いて、パチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 0）を発揮する際の主制御回路 9 0 及び副制御回路 2 0 0 が有する各種機能について説明する。

10

【 1 5 1 5 】

主制御回路 9 0 は、スタートスイッチ 6 S やストップスイッチ 7 S と接続され、図 1 に示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段及び利益付与手段として機能する。また、リール 3 L、3 C、3 R 及び表示窓 4 は、可変表示手段及び変動表示手段として機能する。

【 1 5 1 6 】

また、主制御回路 9 0 は、非報知状態において報知状態への移行条件を満たすと、遊技状態を報知状態に移行可能であるため、主制御回路 9 0 は、状態制御手段として機能する。また、主制御回路 9 0 は、報知状態において報知対象役が内部当籤役として決定されると、指示モニタを介して遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知するため、主制御回路 9 0 は、報知手段として機能する。

20

【 1 5 1 7 】

また、主制御回路 9 0 は、報知状態の継続期間を定める払出枚数などの数値情報を計数可能であるとともに、報知状態中の上乗せ制御により、報知状態の継続期間が延長されるようにこの数値情報を更新可能であるため、主制御回路 9 0 は、継続期間計数手段及び上乗せ制御手段として機能する。また、主制御回路 9 0 は、報知状態中に払い出されたメダルの枚数に応じてこの数値情報を更新可能であり、この数値情報が終了閾値に達すると、報知状態を終了可能であるため、主制御回路 9 0 は、継続期間管理手段として機能する。

【 1 5 1 8 】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 1）]

30

続いて、図 1 1 2 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 1）について説明する。図 1 1 2 は、遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 1）における制御の概要を示す図である。

【 1 5 1 9 】

（パチスロの仕様例）

図 1 1 2（A）に示すように、遊技性（その 1 1）を実現可能なパチスロの仕様例では、パチスロ 1 は、通常区間（一般状態）と有利区間とを有し、有利区間には、非報知状態と非報知状態よりも遊技者にとって有利な報知状態とが含まれる。有利区間の報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する（又は報知する頻度が高い）遊技状態であり、本仕様例においては A R T である。また、有利区間の非報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない（又は報知する頻度が低い）遊技状態であり、本仕様例においては C Z（チャンスゾーン）である。

40

【 1 5 2 0 】

主制御回路 9 0 は、通常区間において有利区間への移行抽籤を行っており、この移行抽籤に当籤すると、通常区間から有利区間の C Z に遊技状態を移行する。なお、主制御回路 9 0 は、有利区間への移行抽籤に当籤した場合に、移行先の有利区間の種別を決定するなどして通常区間から A R T に直接移行可能にしてもよいが、遊技性（その 1 1）の説明においては関係がないため、通常区間から A R T への移行に関しては省略する。

【 1 5 2 1 】

また、主制御回路 9 0 は、C Z 中に A R T への移行条件を満たすと、C Z から A R T に

50

遊技状態を移行する。なお、C Z から A R T への移行条件は任意であるが、本仕様例では、C Z の 1 / 2 では、終了条件を満たすことなく 1 0 ゲーム間継続した場合に A R T に移行し、残り 1 / 2 の C Z では、終了条件を満たすことなく 2 0 ゲーム間継続した場合に A R T に移行する。具体的には、主制御回路 9 0 は、有利区間への移行抽籤において「1 0 ゲーム間の C Z」と「2 0 ゲーム間の C Z」との何れかを決定し、「1 0 ゲーム間の C Z」を決定した場合には、終了条件を満たすことなく 1 0 ゲーム間継続した場合に A R T に移行し、「2 0 ゲーム間の C Z」を決定した場合には、終了条件を満たすことなく 2 0 ゲーム間継続した場合に A R T に移行する。

なお、本仕様例において、「1 0 ゲーム間の C Z」と「2 0 ゲーム間の C Z」との当籤確率には、設定差がないものとする。すなわち、低設定においても高設定においても、「1 0 ゲーム間の C Z」と「2 0 ゲーム間の C Z」との振分確率は同一であるとする。

【1 5 2 2】

また、主制御回路 9 0 は、C Z 中に C Z の終了条件を満たすと、C Z から通常区間に遊技状態を移行する。ここで、本仕様例において C Z の終了条件は、C Z 中に特定の役が内部当籤役として決定されること、より具体的には、C Z 中に M B が内部当籤役として決定されると、C Z の終了条件を満たしたとして、C Z から通常区間に遊技状態を移行する。

【1 5 2 3】

このとき、本仕様例では、複数の設定値の少なくとも一部において他の設定値とは異なる確率で、M B を内部当籤役として決定する。ここで、図 1 1 2 (B) は、非ボーナス状態中に内部当籤役を決定するために用いる一般遊技中内部抽籤テーブルである。同図に示すように、本仕様例では、M B を内部当籤役として決定する確率は、低設定であるほど高く、高設定であるほど低い。

【1 5 2 4】

(遊技性(遊技仕様)の他の例(その 1 1)の概要)

このように A R T への移行契機となる C Z の終了条件である M B の当籤確率を設定値に応じて異ならせることで、遊技性(その 1 1)では、A R T への移行期待度に対して設定差を持たせることができる。すなわち、図 1 1 2 (C) に示すように、M B の当籤確率が高い場合、M B の当籤を終了条件とする C Z の期間は短くなる結果、A R T への移行期待度は低くなる。反対に、M B の当籤確率が低い場合、M B の当籤を終了条件とする C Z の期間は長くなる結果、A R T への移行期待度は高くなる。そのため、本仕様例のパチスロ 1 では、A R T への移行期待度は、低設定であるほど低くなり、高設定であるほど高くなる。このように遊技性(その 1 1)では、A R T への移行抽籤に当籤する確率に設定差を直接設けるのではなく、A R T への移行が期待できる C Z の終了確率に設定差を設けることで、A R T への移行期待度に設定差を設けることができ、A R T への移行に関して従来にない新たな制御が可能になる。

【1 5 2 5】

なお、本仕様例では、C Z の終了条件を M B に当籤することとしているため、C Z が終了してしまい A R T に移行できなかった場合であっても、その後、M B に応じた結果表示が導出されて M B が入賞することで、M B 状態(ボーナス状態)に移行可能である。すなわち、主制御回路 9 0 は、M B に応じた結果表示が導出されると、遊技状態を M B 状態(ボーナス状態)に移行可能である。これにより、A R T への移行期待度が低い低設定であっても、高設定よりも多くの M B 状態(ボーナス状態)を行うことができるため、遊技者が感じる不満を軽減することができる。

【1 5 2 6】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性(遊技仕様)の他の例(その 1 1)について説明した。続いて、パチスロ 1 の遊技性(遊技仕様)の他の例(その 1 1)を発揮する際の主制御回路 9 0 及び副制御回路 2 0 0 が有する各種機能について説明する。

【1 5 2 7】

主制御回路 9 0 は、スタートスイッチ 6 S やストップスイッチ 7 S と接続され、図 1 に

10

20

30

40

50

示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段として機能する。また、リール 3 L、3 C、3 R 及び表示窓 4 は、可変表示手段として機能する。

【 1 5 2 8 】

また、主制御回路 9 0 は、通常区間において有利区間への移行条件を満たすと、遊技状態を有利区間の C Z に移行可能であり、C Z において A R T への移行条件を満たすと、遊技状態を A R T に移行可能であり、また、C Z において M B が内部当籤役として決定されると、遊技状態を通常区間に移行可能であるため、主制御回路 9 0 は、第 1 状態制御手段及び第 2 状態制御手段として機能する。また、主制御回路 9 0 は、M B に応じた結果表示が導出されて M B が入賞すると、M B 状態というボーナス遊技を開始可能であるため、主制御回路 9 0 は、ボーナス開始手段として機能する。

10

【 1 5 2 9 】

[遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 1 2)]

続いて、図 1 1 3 及び図 1 1 4 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 1 2) について説明する。図 1 1 3 及び図 1 1 4 は、遊技性 (遊技仕様) の他の例 (その 1 2) における制御の概要を示す図である。

【 1 5 3 0 】

(パチスロの仕様例)

遊技性 (その 1 2) を実現可能なパチスロの仕様例では、パチスロ 1 は、非ボーナス状態とボーナス状態とを有し、主制御回路 9 0 は、非ボーナス状態においてボーナスの開始条件を満たすと、非ボーナス状態からボーナス状態に遊技状態を移行し、ボーナス状態においてボーナスの終了条件を満たすと、ボーナス状態から非ボーナス状態に遊技状態を移行する。なお、ボーナス状態の開始条件は、ボーナスに係る役が入賞することである。また、ボーナス状態の終了条件は、ボーナス状態中に払い出されたメダルの枚数が規定値に達することであり、詳しくは後述する。

20

【 1 5 3 1 】

また、パチスロ 1 は、リプレイに係る役の種類及びその当籤確率が互いに異なる R T 状態として複数段階の R T 状態を有する。一例として、本仕様例のパチスロ 1 では、R T 状態として低 R T と高 R T とを有する。なお、低 R T 及び高 R T としてそれぞれ 1 つの R T 状態を有するものであってもよく、また、複数の R T 状態を有するものであってもよい (例えば、低 R T 1、低 R T 2、高 R T 1、高 R T 2 など)。主制御回路 9 0 は、非ボーナス状態の低 R T において高 R T への移行条件を満たすと、R T 状態を低 R T から高 R T に移行し、非ボーナス状態の高 R T において低 R T への移行条件を満たすと、R T 状態を高 R T から低 R T に移行する。なお、非ボーナス状態における R T 状態の移行条件は任意である。また、ボーナス状態における R T 状態の移行条件については後述する。また、主制御回路 9 0 は、ボーナス状態が終了し非ボーナス状態に移行した場合、ボーナス状態終了時の R T 状態を維持したまま、非ボーナス状態に移行する。一例として、低 R T の状態でボーナス状態が終了した場合、ボーナス終了後の非ボーナス状態における R T 状態は低 R T のまま維持され、高 R T の状態でボーナス状態が終了した場合、ボーナス終了後の非ボーナス状態における R T 状態は高 R T のまま維持される。

30

【 1 5 3 2 】

また、パチスロ 1 は、非ボーナス状態中の遊技状態として報知状態と非報知状態とを有する。報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する (又は報知する頻度が高い) 遊技状態であり、本仕様例では、有利区間中の A R T が該当する。非報知状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない (又は報知する頻度が低い) 遊技状態であり、報知状態以外の遊技状態が該当する。

40

【 1 5 3 3 】

主制御回路 9 0 は、非報知状態において報知状態への移行条件を満たすと、遊技状態を非報知状態から報知状態に移行する。そして、主制御回路 9 0 は、報知状態において報知状態の終了条件を満たすと、遊技状態を報知状態から非報知状態に移行する。なお、本仕様例において報知状態への移行条件及び報知状態の終了条件は任意であるが、報知状態へ

50

の移行条件については、その一例を後述する。

【 1 5 3 4 】

(遊技性(遊技仕様)の他の例(その12)の概要)

このような仕様例のパチスロ1において、遊技性(その12)は、ボーナス状態中の特典付与に関するものである。なお、遊技性(その12)は、ボーナス状態中に以下に説明する制御により何らかの特典を付与可能なものであり、特典の種別については規定するものではないが、本仕様例のパチスロ1では、ボーナス状態中に報知状態(A R T)に関する特典を付与するものとして、遊技性(その12)について説明する。

【 1 5 3 5 】

図113(A)は、ボーナス状態中の遊技状態の遷移フローを示す図である。本仕様例のパチスロ1では、ボーナス状態として、第一種特別役物と呼ばれるレギュラーボーナス(以下、「RB」と記す)に係る役物連続作動装置であるBBを採用している。同図に示すように、ボーナス状態(BB)は、BB中一般、BB中RB持越及びBB中RBにより構成される。

【 1 5 3 6 】

主制御回路90は、ボーナスに係る役(BB)に入賞しボーナス状態が開始されると、まず、BB中一般に遊技状態を移行する。主制御回路90は、BB中一般において内部当籤役としてRBが決定されると、BB中RB持越に遊技状態を移行する。なお、主制御回路90は、BB中一般において内部当籤役としてRBが決定される前にボーナス状態の終了条件を満たした場合には、ボーナス状態を終了し非ボーナス状態に遊技状態を移行するため、このボーナス状態の終了に伴いBB中一般も終了する。

【 1 5 3 7 】

主制御回路90は、ボーナス状態中にRBを内部当籤役として決定した遊技においてRBに応じた結果表示が導出されない場合(RBが入賞しない場合)、RBに応じた結果表示が導出されるまでRBを内部当籤役として持ち越す。すなわち、ボーナス状態中にRBが内部当籤役として決定されると、RBが入賞するまでボーナス状態中の遊技状態はBB中RB持越となる。なお、RBは、入賞可能な遊技において停止操作のタイミングが適切である場合に入賞し、入賞可能な遊技であっても停止操作のタイミングが適切ではない場合には入賞しない。すなわち、RBを入賞させるか否かは、遊技者がRBを入賞させるように停止操作を行うか否かにより決まり、遊技者はRBを入賞させるか否かを選択することができる。また、主制御回路90は、BB中RB持越において内部当籤役として持ち越しているRBに応じた結果表示が導出されると(RBが入賞すると)、BB中RBに遊技状態を移行する。なお、主制御回路90は、RBが入賞する前にボーナス状態の終了条件を満たした場合には、ボーナス状態を終了し非ボーナス状態に遊技状態を移行するため、このボーナス状態の終了に伴いBB中RB持越も終了する。

【 1 5 3 8 】

また、主制御回路90は、BB中RBにおいて、RBの終了条件(例えば、8回以下の任意の所定回数の入賞があったこと、あるいは12回以下の任意の所定回数の遊技が行われたこと)を満たすと、BB中一般に遊技状態を移行する。なお、主制御回路90は、RBの終了条件を満たす前に、ボーナス状態(BB)の終了条件を満たした場合には、ボーナス状態を終了し非ボーナス状態に遊技状態を移行するため、このボーナス状態の終了に伴いBB中RBも終了する。

【 1 5 3 9 】

また、主制御回路90は、ボーナス状態中にRT状態を移行可能に制御する。具体的には、主制御回路90は、ボーナスに係る役(BB)に入賞しボーナス状態が開始されると、RT状態を低RTに移行し、その後、ボーナス状態においてRBが内部当籤役として決定されると、RT状態を高RTに移行し、その後、内部当籤役として決定された(持ち越されている)RBが入賞すると、RT状態を低RTに移行する。すなわち、同図に示すように、主制御回路90は、ボーナス状態のBB中一般においてはRT状態を低RTとし、ボーナス状態のBB中RB持越においてはRT状態を高RTとし、ボーナス状態のBB中

R BにおいてはR T状態を低R Tとする。なお、上述したように、主制御回路90は、ボーナス状態が終了した場合、ボーナス状態終了時のR T状態を維持したまま、非ボーナス状態に移行するため、B B中一般又はB B中R Bにおいてボーナス状態が終了した場合には、非ボーナス状態のR T状態は低R Tとなり、B B中R B持越においてボーナス状態が終了した場合には、非ボーナス状態のR T状態は高R Tとなる。

【1540】

続いて、図113(B)は、ボーナス状態中に内部当籤役を決定するために用いる内部抽籤テーブルである。なお、同図の「対応する図柄組合せ」欄には、内部当籤役として決定された場合に入賞が許可される図柄の組合せが規定されているが一例に過ぎず、以下説明するように、「押し順ベル__1st」～「押し順ベル__3rd」が押し順小役(押し順役)として機能し、「R B中ベル」が押し順を要求しない役として機能すればよい。

10

【1541】

同図において、「押し順ベル__1st」～「押し順ベル__3rd」は、押し順小役(押し順役)であり、3択の押し順に正解した場合にベルが入賞して「9枚」のメダルが払い出され、3択の押し順に不正解した場合にベルが入賞せずにベル入賞時よりも少ないメダル(又は0枚のメダル)が払い出される。また、「R B中ベル」とは、停止操作の態様が不問のベル(共通ベル)であり、停止操作の態様に関係なく必ずベルが入賞して「9枚」のメダルが払い出される。

【1542】

同図に示すように、B B中一般及びB B中R B持越においては、「押し順ベル__1st」～「押し順ベル__3rd」が当籤し、ベルの入賞に3択の押し順が要求される。一方で、B B中R Bにおいては、「R B中ベル」が当籤し、ベルの入賞に押し順が要求されない。なお、主制御回路90は、B B中一般及びB B中R B持越において、遊技者にとって有利な停止操作の情報(すなわち、正解の押し順)を報知することとしてもよく、また、報知しないこととしてもよい。また、主制御回路90は、報知状態中のB B中一般及びB B中R B持越については、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知し、非報知状態中のB B中一般及びB B中R B持越については、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しないこととしてもよい。なお、本仕様例においては、主制御回路90は、報知状態か否かに関係なく、B B中一般及びB B中R B持越において遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する。

20

30

【1543】

また、同図において「通常リブ」は、リプレイに係る役である。また、同図において「一般中強レア役」は、B B中一般及びB B中R B持越における強レア役であり、「一般中弱レア役」は、B B中一般及びB B中R B持越における弱レア役である。同様に、「R B中強レア役」は、B B中R Bにおける強レア役であり、「R B中弱レア役」は、B B中R Bにおける弱レア役である。

【1544】

B B中一般(低R T)、B B中R B持越(高R T)、及びB B中R B(低R T)では、R T状態が異なるため、「通常リブ」の当籤確率が異なり、B B中R B持越は「通常リブ」の当籤確率が高く、B B中一般及びB B中R Bは「通常リブ」の当籤確率が低い。また、B B中一般、B B中R B持越、及びB B中R Bでは、R B(第一種特別役物)の作動の有無によりメダルの払い出しに係る役(小役)の当籤確率が異なり、B B中一般及びB B中R B持越と、B B中R Bとでは、ベル(「BEL__01」～「BEL__09」)の当籤確率が異なる。なお、本仕様例では、R Bの作動の有無に応じてベルの当籤確率を異ならせる一方で、レア役の当籤確率については同一としているが、レア役の当籤確率についてもR Bの作動の有無に応じて異ならせることとしてもよい。

40

【1545】

ここで、本仕様例のパチスロ1では、B B中一般及びB B中R Bは、低R Tでありリプレイに係る役の当籤確率が低いため、はずれの当籤確率が高く、結果、メダルの払出期待値(すなわち、単位遊技当たりに付与されるメダルの期待値)がB B中R B持越に比べて

50

低い低ベースの遊技状態である。また、ＢＢ中ＲＢ持越は、高ＲＴでありリプレイに係る役の当籤確率が高いため、はずれの当籤確率が低く、結果、メダルの払出期待値がＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢに比べて高い高ベースの遊技状態である。すなわち、メダルの払出期待値という観点から見ると、ＢＢ中ＲＢ持越は、ＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢよりも有利な遊技状態である。

【１５４６】

続いて、図１１３（Ｃ）及び図１１４（Ｄ）は、ボーナス状態中に行うＡＲＴ抽籤に用いる抽籤テーブルであり、図１１３（Ｃ）は、非報知状態においてＡＲＴの初当たり抽籤に用いるＢＢ中ＡＲＴ初当たり抽籤テーブルであり、図１１４（Ｄ）は、報知状態においてＡＲＴの上乗せ抽籤に用いるＢＢ中ＡＲＴ上乗せ抽籤テーブルである。また、図１１４（Ｅ）は、ボーナス状態中に行うＡＲＴ抽籤の抽籤概要を示す図であり、遊技性（その１２）の概要を示すものである。

10

【１５４７】

図１１３（Ｃ）及び図１１４（Ｄ）に示すように、ＡＲＴ抽籤に用いる抽籤テーブルは、遊技状態及び内部当籤役毎にＡＲＴ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。なお、本仕様例では、レア役の当籤時にＡＲＴの初当たり抽籤や上乗せ抽籤を行うこととしているが、他の役の当籤時においても当該抽籤を行うこととしてもよい。

【１５４８】

ここで、図１１４（Ｅ）に示す表は、本仕様例のパチスロ１におけるＡＲＴ抽籤の抽籤概要を示す。同図に示すように、本仕様例のパチスロ１では、ＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢ持越では、特典付与確率が高いものの、特典を付与する場合に付与する特典の大きさが小さい。例えば、図１１３（Ｃ）のＢＢ中ＡＲＴ初当たり抽籤テーブルを参照すると、ＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢ持越では、レア役に応じてＡＲＴの初当たり抽籤に当籤する確率が高いものの、当籤した場合のＡＲＴの初期ゲーム数は「５０ゲーム」と少ない。同様に図１１４（Ｄ）のＢＢ中ＡＲＴ上乗せ抽籤テーブルを参照すると、ＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢ持越では、レア役に応じて必ずＡＲＴの上乗せ抽籤に当籤するものの、当籤した場合の上乗せゲーム数は「１０ゲーム」～「５０ゲーム」と少ない。

20

【１５４９】

一方で、ＢＢ中ＲＢでは、特典付与確率が低いものの、特典を付与する場合に付与する特典の大きさが大きい。例えば、図１１３（Ｃ）のＢＢ中ＡＲＴ初当たり抽籤テーブルを参照すると、ＢＢ中ＲＢでは、レア役に応じてＡＲＴの初当たり抽籤に当籤する確率は低いものの、当籤した場合のＡＲＴの初期ゲーム数として「５０ゲーム」だけでなく「１００ゲーム」や「２００ゲーム」が決定されることがある。同様に図１１４（Ｄ）のＢＢ中ＡＲＴ上乗せ抽籤テーブルを参照すると、ＢＢ中一般及びＢＢ中ＲＢ持越では、レア役に応じてＡＲＴの上乗せ抽籤に当籤する確率は低いものの、当籤した場合の上乗せゲーム数は「５０ゲーム」～「２００ゲーム」と多い。

30

【１５５０】

このように遊技性（その１２）では、特典付与の確率と付与する特典の大きさとをクロスすることで、ボーナス状態中の遊技性を多様化することができる。例えば、図１１４（Ｅ）に示すように、ボーナス状態（ＢＢ）の開始直後であるＢＢ中一般は、特典付与の振れ幅が小さい安定的な状態となる。また、その後ＲＢに当籤しＢＢ中ＲＢ持越に移行した場合も、特典付与の振れ幅が小さい安定的な状態となる。一方で、その後ＲＢに入賞しＢＢ中ＲＢに移行した場合、特典付与の振れ幅が大きい暴れ状態となる。ＲＢを入賞させるか否かは、遊技者が選択することができるため、遊技性（その１２）では、ＲＢの入賞を回避することで特典付与の振れ幅を安定的な状態とするか、ＲＢを入賞させることで特典付与の振れ幅を暴れ状態とするか、遊技者が選択することができる。なお、遊技性（その１２）は、ボーナス状態中の遊技状態間で特典付与の確率と付与する特典の大きさとをクロスすることで実現可能なものであり、どの遊技状態を特典付与の振れ幅が小さい安定的な状態とするか、また、どの遊技状態を特典付与の振れ幅が大きい暴れ状態とするかは任意である。また、特典付与の確率と付与する特典の大きさとをクロスした遊技状態間にお

40

50

いて、特典付与の総合的な期待度は同一（又は略同一）となるように、特典付与の確率と付与する特典の大きさが設定されていることが好ましい。

【 1 5 5 1 】

（遊技例）

続いて、図 1 1 4（F）は、ボーナス状態中の遊技例を示す図であり、遊技例 1 は、特典付与の振れ幅を安定的な状態とする場合の遊技例であり、遊技例 2 は、特典付与の振れ幅を暴れ状態とする場合の遊技例である。

【 1 5 5 2 】

遊技例 1 では、ボーナス状態中に R B に当籤した場合、R B を入賞させることなく B B 中 R B 持越のままボーナス状態中の遊技を行う。R B に当籤するまで（B B 中一般）及び R B を持ち越している間（B B 中 R B 持越）は、特典付与確率が高いものの、特典を付与する場合に付与する特典の大きさが小さいため、特典付与の振れ幅が小さく安定する。

【 1 5 5 3 】

一方、遊技例 2 では、ボーナス状態中に R B に当籤した場合、R B を入賞させて B B 中 R B においてボーナス状態中の遊技を行う。B B 中 R B は、特典付与確率が低いものの、特典を付与する場合に付与する特典の大きさが大きいため、特典付与の振れ幅が大きく暴れる。

【 1 5 5 4 】

また、本仕様例では、ボーナス状態が終了し非ボーナス状態に移行した場合、ボーナス状態終了時の R T 状態を維持したまま、非ボーナス状態に移行する。ここで、報知状態（A R T）中にボーナス状態に移行した場合、ボーナス状態の終了後に再び A R T を行うことになるが、ボーナス状態が高 R T のまま終了した場合には、ボーナス状態の終了後に R T 状態を高 R T へ移行することなくそのまま A R T を開始することができ、ボーナス状態が低 R T のまま終了した場合には、ボーナス状態の終了後に R T 状態を高 R T へ移行させた後に A R T を開始することになる。そのため、遊技例 1 のように R B を入賞させることなく B B 中 R B 持越（高 R T）のままボーナス状態中の遊技を行った場合には、ボーナス状態の終了直後から A R T を開始することができ、遊技例 2 のように B B 中 R B（低 R T）においてボーナス状態を終了した場合には、ボーナス状態の終了後に R T 状態を高 R T へ移行させるための準備期間を経由して、A R T を開始することになる。

【 1 5 5 5 】

また、上述したように R B の入賞を回避している B B 中 R B 持越は、R B を入賞させた場合の B B 中 R B よりもメダルの払出期待値が高い高ベースの遊技状態である。そのため、特典付与の振れ幅が大きい B B 中 R B では、特典付与の確率低下分だけでなく、ボーナス状態終了後の準備期間分、及び出玉のベース低下分も、付与する特典の大きさに振り分けることができる。そのため、遊技者にとってみれば、ボーナス状態中に特典が付与され易いが小さな特典しか付与されないように遊技を行うか（B B 中 R B 持越）、特典が付与され難いが大きな特典が付与されるよう遊技を行う（B B 中 R B）か、選択することができ、戦略性を持った新たな遊技性を実現することができる。

【 1 5 5 6 】

（遊技性（その 1 2）の別例）

以上説明した仕様例のパチスロ 1 では、特典付与の確率と付与する特典の大きさをクロスすることで、ボーナス状態中の遊技性を多様化しているが、遊技性（その 1 2）は、これに限るものではなく、以下のような仕様も含むものである。具体的には、上述のように本仕様例のパチスロ 1 では、B B 中 R B 持越と、B B 中 R B とでは、メダルの払出期待値（すなわち、単位遊技当たりに付与されるメダルの期待値）が異なる。遊技性（その 1 2）は、メダルの払出期待値と、特典の期待値とをクロスさせる仕様を含む。

【 1 5 5 7 】

ここで、上述の説明では、B B 中 R B 持越のメダルの払出期待値と、B B 中 R B のメダルの払出期待値とを、リプレイに係る役の当籤確率（言い換えると、はずれの当籤確率）に応じて異なる点について説明した。この点、B B 中 R B 持越のメダルの払出期待値と、

10

20

30

40

50

BB中RBのメダルの払出期待値とは、ベルの当籤確率に応じて異なるため、以下説明する。

【1558】

図113(B)に示すように、BB中RB持越と、BB中RBとでは、ベル(「BEL__01」~「BEL__09」)の当籤確率が異なる。具体的には、ベルのうちの「BEL__01」~「BEL__09」の夫々が内部当籤役として決定される個々の当籤確率が、BB中RB持越と、BB中RBとで異なるとともに、ベルのうちの「BEL__01」~「BEL__09」の少なくとも何れかが内部当籤役として決定される当籤確率も、BB中RB持越と、BB中RBとで異なる。

【1559】

より具体的には、BB中RB持越では、「押し順ベル1st」~「押し順ベル3rd」に対して「3000」の抽籤値が設定されている結果、「BEL__01」~「BEL__09」の夫々に対して「3000」の抽籤値が設定されている。これに対して、BB中RBでは、「RB中ベル」に対して「3100」の抽籤値が設定されている結果、「BEL__01」~「BEL__09」の夫々に対して「3100」の抽籤値が設定されている。そのため、BB中RB持越と、BB中RBとでは、ベルのうちの「BEL__01」~「BEL__09」の夫々が内部当籤役として決定される個々の当籤確率は、BB中RBの方が高い(3100>3000)。一方で、BB中RB持越では、夫々「3000」の抽籤値が設定された3種類のベル(「押し順ベル1st」~「押し順ベル3rd」)が当籤するのにに対して、BB中RBでは、「3000」の抽籤値が設定された「RB中ベル」の1種類のみが当籤する。そのため、BB中RB持越と、BB中RBとでは、ベルのうちの「BEL__01」~「BEL__09」の少なくとも何れかが当籤役として決定される当籤確率は、BB中RB持越の方が高い(9000>3100)。

【1560】

そのため、本仕様例では、「BEL__01」~「BEL__09」の個々の当籤確率を単独で見ると、BB中RBの方が当籤確率が高いものの、「BEL__01」~「BEL__09」の全体の当籤確率を総合的に見ると、BB中RB持越の方が高くなる。そして、上述したように、主制御回路90は、BB中RB持越において遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知するため、ベルの当籤確率という観点からも、BB中RBと、BB中RB持越とでは、前者の方がメダルの払出期待値が高いことになる。

【1561】

続いて、メダルの払出期待値とクロスする特典の期待値について説明する。特典の期待値には、特典付与の確率と付与する特典の大きさとが含まれ、これらを任意に設定することができる。なお、上述の仕様例では、特典付与の総合的な期待度が同一(又は略同一)となるように、特典付与の確率と付与する特典の大きさを設定することとしているが、別例のように、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスする場合には、特典の期待値が必ずしも同一になる必要はなく、メダルの払出期待値の大小と特典の期待値の大小とを総合した遊技者の有利度合いが同一(又は略同一)となればよい。

【1562】

具体的には、別例では、BB中RBと、BB中RB持越とでは、メダルの払出期待値が低いBB中RBの方が、メダルの払出期待値が高いBB中RB持越よりも、特典の期待値が遊技者にとって有利となるように設定することで、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスする。一例として、BB中RBでは、BB中RB持越よりも、特典付与の確率を高くするとともに、付与する特典の大きさも大きくすることで、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスすることとしてもよく、また、BB中RBでは、BB中RB持越よりも、特典付与の確率を低くする一方で(又は同一の確率とする一方で)、付与する特典の大きさを大きくすることで、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスすることとしてもよく、また、BB中RBでは、BB中RB持越よりも、特典付与の確率を高くする一方で、付与する特典の大きさを小さくする(又は同一にする)ことで、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスすることとしてもよい。

【 1 5 6 3 】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 1）について説明した。続いて、パチスロ 1 の遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 1）を発揮する際の主制御回路 9 0 及び副制御回路 2 0 0 が有する各種機能について説明する。

【 1 5 6 4 】

主制御回路 9 0 は、スタートスイッチ 6 S やストップスイッチ 7 S と接続され、図 1 に示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段として機能する。また、リール 3 L、3 C、3 R 及び表示窓 4 は、可変表示手段として機能する。

【 1 5 6 5 】

また、主制御回路 9 0 は、非ボーナス状態において B B の開始条件を満たすと、ボーナス状態（B B）を開始可能であり、ボーナス状態において B B の終了条件を満たすと、ボーナス状態を終了可能であるため、主制御回路 9 0 は、状態制御手段として機能する。

【 1 5 6 6 】

また、主制御回路 9 0 は、ボーナス状態において R B に対応する結果表示が導出されると、ボーナス状態中の遊技状態を B B 中 R B に移行可能であり、B B 中 R B において B B の終了条件、又は R B の終了条件を満たすと、B B 中 R B を終了可能である。また、主制御回路 9 0 は、ボーナス状態において、R B が内部当籤役として決定された遊技において R B が入賞しない場合に、ボーナス状態の間、R B を内部当籤役として持ち越し可能であるとともに、R B を内部当籤役として持ち越している間のボーナス状態中の遊技状態を B B 中 R B 持越とする。そのため、主制御回路 9 0 は、特定状態制御手段、第 1 特定状態制御手段、第 2 特定状態制御手段及び持越手段として機能する。

【 1 5 6 7 】

また、主制御回路 9 0 は、ボーナス状態中に報知状態（A R T）に関する特典を付与可能であり、特に、B B 中 R B 持越と B B 中 R B とで、特典付与の確率と付与する特典の大きさをクロスするため、主制御回路 9 0 は、特典付与手段として機能する。このとき、主制御回路 9 0 は、B B 中 R B 持越と B B 中 R B とで、特典付与の確率と付与する特典の大きさをクロスするのではなく、B B 中 R B 持越と B B 中 R B とで、メダルの払出期待値と特典の期待値とをクロスすることとしてもよい。

【 1 5 6 8 】

また、主制御回路 9 0 は、ボーナス状態中の B B 中 R B 持越が高 R T となるように R T 状態を制御し、B B 中 R B が低 R T となるように R T 状態を制御するため、主制御回路 9 0 は、R T 制御手段として機能する。

【 1 5 6 9 】

[遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 3）]

続いて、図 1 1 5 ~ 図 1 1 9 を参照して、本実施形態に係るパチスロ 1 において実装可能な遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 3）について説明する。

【 1 5 7 0 】

（遊技性（遊技仕様）の他の例（その 1 3）の概要）

初めに、図 1 1 5 を参照して、遊技性（その 1 3）の概要について説明する。遊技性（その 1 3）では、色択小役と押し順小役とを重複して内部当籤役として決定することで、従来にない新たな遊技性を実現する。上述のように、択数を調整する方法としては、押し順に基づき択数を調整する方法に加え、1 又は全てのリールに対して特定の位置で停止操作を行うこと（目押し）を要求することで択数を調整する方法がある。本仕様例において、色択小役とは、全てのリールに対して特定の位置で停止操作を行うこと（目押し）で入賞する択数小役であり、押し順小役とは、特定の押し順で停止操作を行うことで入賞する択数小役をいう。

【 1 5 7 1 】

本仕様例のパチスロ 1 では、リール 3 L、3 C、3 R のそれぞれを、大きさが同一（又は略同一）の赤領域、青領域及び黄領域の 3 つの領域に分ける。リール配列については省

10

20

30

40

50

略するが、例えば、各リールに図柄位置「0」～「20」の21個の図柄が配置されている場合、各リールの図柄位置「0」～「6」を赤領域とし、図柄位置「7」～「13」を青領域とし、図柄位置「14」～「20」を黄領域とすることで実現することができる。

【1572】

色択小役が内部当籤役として決定された場合、3つのリール3L, 3C, 3Rのそれぞれにおいて、3つの領域のうちの正解の領域において停止操作が行われると、全てのリールに対して特定の位置で停止操作が行われたとして、色択小役が入賞する。すなわち、色択小役は、27択(=3×3×3)に正解した場合に入賞する。なお、詳しくは後述するが、本仕様例においては、色択小役と押し順小役とを重複させるとともに、色択小役よりも押し順小役を優先して引き込む制御としているため、色択小役は、色択小役と押し順小役とが重複して当籤した場合の40.5択に正解した場合に入賞する。

10

【1573】

また、以下の説明において、色択小役の名称には「色択__」に続いて3つの色の名称を付す。これら3つの色の名称が3つのリール3L, 3C, 3Rのそれぞれにおいて正解の領域(目押しタイミング)を意味する。例えば、「色択__赤青黄」は、左リール3Lにおいて正解の領域が赤領域であり、中リール3Cにおいて正解の領域が青領域であり、右リール3Rにおいて正解の領域が黄領域の色択小役である。また、押し順小役の名称には「押し順ベル__」に続いて正解の押し順として「1st」～「3rd」を付す。正解の押し順「1st」は、第1停止操作が左のリール3Lに対するものであり、正解の押し順「2nd」は、第1停止操作が中のリール3Cに対するものであり、正解の押し順「3rd」は、第1停止操作が右のリール3Rに対するものであることを意味する。すなわち、本仕様例においては、押し順小役は、3択の押し順に正解した場合に入賞する。そして、色択小役と押し順ベルとが重複している役の名称を、例えば「色択__赤青黄+押し順ベル__1st」のように表記する。

20

【1574】

図115(A)(B)に示すように、色択小役と押し順小役とが重複して当籤した場合(「色択小役+押し順小役」が内部当籤役として決定された場合)に色択に正解すると色択小役が入賞し、押し順に正解すると押し順小役(ベル)が入賞し、色択及び押し順の何れにも不正解すると、はずれとなる。そして、主制御回路90は、色択小役又は押し順小役が入賞した場合、「色択小役+押し順小役」の当籤時に払い出され得る最大の枚数のメダル(例えば、6枚)を払い出し、はずれの場合、当該最大の枚数よりも少ない枚数のメダル(例えば、1枚又は2枚)又は0枚のメダルを払い出す。また、色択小役が入賞した場合には、主制御回路90は、当該最大の払出枚数のメダルの払い出しに加えて、押し順小役が入賞した場合及びはずれの場合には付与されることのない特典を付与する可能性がある。

30

【1575】

すなわち、押し順よりも正解が困難な色択に正解した場合には、最大のメダルの払出を受けることができるとともに、特典付与を受けることができる一方で、色択よりも正解が容易な押し順に正解した場合には、最大のメダルの払出を受けることができるものの、特典付与を受けることはできない。なお、色択正解時に付与可能な特典の種類は任意であるが、以下においては、報知状態(ATやART)に関する特典を付与するものとする。一例として、主制御回路90は、非報知状態において色択小役が入賞すると、50%の確率で報知状態に関する特典(例えば、ATのストック)を付与する。そして、主制御回路90は、非報知状態において報知状態に関する特典を付与した場合、その後、遊技状態を報知状態に移行する(例えば、50ゲーム間の間ATを行う)。

40

【1576】

続いて、図115(C)に本仕様例のパチスロ1における遊技例を示す。同図(a)に示すように、主制御回路90は、「色択小役+押し順小役」が内部当籤役として決定された場合であっても、非報知状態では停止操作の情報を何も報知しない(すなわち、正解の目押しタイミングも正解の押し順も報知せず、また、はずれとなる停止操作の情報も報知

50

しない)ため、遊技者は、報知状態に移行させるために色択の自力正解を目指して遊技を行う。ここで、色択小役は、択数が多いため入賞させることが困難であるため、「色択小役+押し順小役」の当籤確率は高くすることができる。以下に示すように、本仕様例のパチスロ1では、「色択小役+押し順小役」の当籤確率を約 $1/5$ ($= (162 \times 81) / 65536$) となるように設定している。そのため、遊技性(その13)では、非報知状態において5ゲームに1回の割合で、報知状態に関する特典付与のチャンスが訪れるという遊技性を実現することができる。

【1577】

なお、色択小役の択数は、40.5択(3択の押し順に不正解の場合の27択正解($= 2/3 \times 1/27$))であるため、色択小役の入賞確率は、約 $1/202.5$ ($= 1/5 \times 1/40.5$) であり、色択小役の入賞に伴う特典付与の確率は、約 $1/405$ ($1/202.5 \times 50\%$) である。すなわち、遊技性(その13)では、非報知状態において5ゲームに1回という比較的高い割合で遊技者に対してチャンスを与えることができるものの、実際に報知状態に関する特典が付与される割合は、約405ゲームに1回とすることができるため、遊技者に対して特典付与の機会を多く与えつつも、遊技者に過度な利益与えてしまうことがない。

【1578】

また、同図(b)に示すように、主制御回路90は、報知状態において「色択小役+押し順小役」が内部当籤役として決定されると、押し順小役を入賞させるために必要な停止操作の情報(3択の正解の押し順)を報知する。すなわち、本仕様例のパチスロ1では、報知状態中に「色択小役+押し順小役」が内部当籤役として決定された場合、色択小役ではなく押し順小役の入賞を促す報知を行う。上述したように、色択小役が入賞した場合に払い出されるメダルの枚数と押し順小役が入賞した場合に払い出されるメダルの枚数は同一であるため、「色択小役+押し順小役」の当籤時に押し順小役を入賞させたとしても、払い出されるメダルの枚数に差はない。報知状態中にも色択小役を入賞させるための目押しを必要としたのでは、遊技者にとって煩わしく、所謂取りこぼしが発生してしまう可能性もあるが、押し順に従うだけで最大の枚数の払い出しを受けることができるように制御することで、遊技者は煩わしさを感じることもなく、また、取りこぼしの発生も抑えることができる。

【1579】

このように遊技性(その13)では、非報知状態中は、択数が多く入賞が困難な色択小役に基づき特典を付与することで、遊技者に対して特典付与の機会を多く与えるとともに、遊技者が特典付与の決定結果に関して関与可能な遊技性を実現することができる。また、遊技性(その13)では、報知状態中は、押し順のみで入賞する押し順小役の入賞を促す報知を行うことで、報知状態中は目押しよりも簡易な押し順が正解するように遊技を行えば足りるため、報知状態中の遊技をスムーズに行うことができるという遊技性を実現することができる。

【1580】

(パチスロの仕様例)

続いて、遊技性(その13)を実現可能なパチスロの仕様例について説明する。パチスロ1は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する(又は報知する頻度が高い)報知状態と遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する(又は報知する頻度が高い)非報知状態とを有する。主制御回路90は、非報知状態において報知状態への移行条件を満たすと、遊技状態を非報知状態から報知状態に移行する。具体的には、主制御回路90は、非報知状態において色択小役に応じた結果表示が導出されると(色択小役が入賞すると)、所定の確率(50%)で報知状態に移行すると決定する。また、主制御回路90は、報知状態において報知状態の終了条件を満たすと、遊技状態を報知状態から非報知状態に移行する。なお、本仕様例において報知状態の終了条件は任意である。

【1581】

ここで、図116及び図117は、内部当籤役を決定するために用いる一般遊技中内部

抽籤テーブルである。同図では、「色択小役＋押し順小役」に関する抽籤値を示し、その他の役に関する抽籤値については省略している。また、同図では、「対応する図柄組合せ」欄の表示は省略しているが、本仕様例では、図 1 1 9 に示す対応関係を実現可能になるように内部当籤役として決定された場合に入賞が許可される図柄の組合せが対応付けられている。

【 1 5 8 2 】

同図に示すように、本仕様例のパチスロ 1 では、8 1 種類の「色択小役＋押し順小役」を有し、夫々に対して抽籤値「1 6 2」を規定している。そのため、8 1 種類の「色択小役＋押し順小役」の総抽籤値は「1 3 1 2 2 (= 1 6 2 × 8 1)」であり、「色択小役＋押し順小役」の何れかは、約 1 / 5 (= 1 3 1 2 2 / 6 5 5 3 6) の確率で当籤する。

10

【 1 5 8 3 】

続いて、図 1 1 8 は、本仕様例のパチスロ 1 における入賞等に係る図柄の組合せを規定する図柄組合せテーブルである。なお、本仕様例のパチスロ 1 の遊技性の説明において、図柄の組合せを構成する図柄の種類は必要がないため、説明及び図示を省略する。また、同図では、「色択小役＋押し順小役」に関する図柄の組合せについてのみ示し、その他の図柄の組合せについては省略している。図柄組合せテーブルは、複数の図柄の組合せを予め規定しており、これらの図柄の組合せの種別を示すデータを、表示役（入賞作動フラグ）として規定している。

【 1 5 8 4 】

同図において、「図柄組合せ 1 - 1」～「図柄組合せ 1 - n」は、「C __ 色択 __ 赤赤赤」に係る図柄の組合せであり、内部当籤役として「色択 __ 赤赤赤」が決定され、かつ、色択に正解した場合に表示される可能性のある図柄の組合せである。同様に、「図柄組合せ 2 - 1」～「図柄組合せ 2 - n」乃至「図柄組合せ 2 7 - 1」～「図柄組合せ 2 7 - n」は、「C __ 色択 __ 赤赤青」乃至「C __ 色択 __ 黄黄黄」に係る図柄の組合せであり、内部当籤役として「色択 __ 赤赤赤」乃至「色択 __ 黄黄黄」が決定され、かつ、色択に正解した場合に表示される可能性のある図柄の組合せである。

20

【 1 5 8 5 】

また、「図柄組合せ 2 8 - 1」～「図柄組合せ 2 8 - n」は、「C __ ベル」に係る図柄の組合せであり、内部当籤役として押し順小役の何れかが決定され、かつ、当該押し順小役における正解の押し順で停止操作が行われた場合に表示される可能性のある図柄の組合せである。また、「図柄組合せ 2 9 - 1」～「図柄組合せ 2 9 - n」は、「C __ こぼし目」に係る図柄の組合せであり、内部当籤役として「色択小役＋押し順小役」の何れかが決定され、かつ、色択及び押し順に不正解した場合に表示される可能性のある図柄の組合せである。

30

【 1 5 8 6 】

「色択小役＋押し順小役」の夫々には、「図柄組合せ 1 - 1」～「図柄組合せ 2 9 - n」のうちの複数の図柄の組合せが対応する図柄の組合せとして規定されている結果、本仕様例のパチスロ 1 では、主制御回路 9 0 は、「色択小役＋押し順小役」が内部当籤役として決定された場合に、図 1 1 9 に示す対応関係を有する図柄の組合せが表示されるように、リール制御が可能になる。

40

【 1 5 8 7 】

続いて、図 1 1 9 は、本仕様例のパチスロ 1 における内部当籤役と停止操作（押し順 / 目押し）と表示役との対応関係を示す表である。同図では、「色択小役＋押し順小役」が内部当籤役として決定された場合の停止操作毎の表示役の対応関係を示し、その他の役に関する対応関係については省略している。

【 1 5 8 8 】

同図に示すように「色択 __ 赤赤赤＋押し順ベル __ 1 s t」が内部当籤役として決定された場合、主制御回路 9 0 は、第 1 停止操作として左のリール 3 L に対する停止操作が行われると（左 1 s t ）、「C __ ベル」に係る図柄の組合せが表示されるように（押し順小役が入賞するように）リールの停止制御を行う。また、第 1 停止操作として左のリール 3 L

50

以外のリールに対する停止操作が行われると、主制御回路 90 は、色択に正解している場合には、「C __ 色択 __ 赤赤赤」に係る図柄の組合せが表示されるように（色択小役が入賞するように）リールの停止制御を行い、色択に正解していない場合には、「C __ こぼし目」に係る図柄の組合せが表示されるように、又は、はずれとなるようにリールの停止制御を行う。

【1589】

なお、他の「色択小役 + 押し順小役」における対応関係は省略しているが、主制御回路 90 は、他の「色択小役 + 押し順小役」においても、押し順に正解している場合に押し順小役が入賞するようにリールの停止制御を行い、押し順に不正解で色択に正解している場合に色択小役が入賞するようにリールの停止制御を行い、押し順及び色択の双方に不正解している場合に、「C __ こぼし目」に係る図柄の組合せが表示されるように、又は、はずれとなるようにリールの停止制御を行う。そのため、「色択小役 + 押し順小役」の当籤時には、押し順及び色択の組合せである 81 通りの停止操作の態様のうち、2 通りの態様で色択小役が入賞し、27 通りの態様で押し順小役が入賞し、52 通りの態様でこぼし目又ははずれとなる。

【1590】

このような仕様のパチスロ 1 において、遊技性（その 13）では、非報知状態中に択数が多く入賞が困難な色択小役の入賞に基づき特典を付与する。ここで、本仕様の例においては、色択小役は 1 / 5 の確率で内部当籤役として決定されるため、非報知状態では 5 ゲームに 1 回の割合で報知状態に関する特典付与のチャンスが訪れるという遊技性を実現することができる。なお、色択小役の当籤確率は、択数を増やすほど増やすことができるため、択数を調整することで、特典付与のチャンスが訪れる頻度も調整することができる。例えば、色択小役が入賞する条件として、6 択の停止操作の順序を更に追加することで、色択小役の択数を増やすことができ、また、色択小役が入賞する条件として、全てのリールに対する目押しを要求するのではなく、一部のリールに対する目押しを要求するようにすることで、色択小役の択数を少なくすることができる。

【1591】

一方で、択数を増やすと、報知状態中に要求される停止操作が複雑になり煩わしいが、遊技性（その 13）では、色択小役と押し順小役とを重複させておき、報知状態中は押し順を報知して押し順小役の入賞を促すため、遊技者は煩わしさを感じることもなく、また、取りこぼしの発生も抑えることができる。

【1592】

なお、本仕様の例のパチスロ 1 では、色択及び押し順不正解時のこぼし目を表示させるために、「C __ ベル」に係る図柄の組合せとは別に、「C __ こぼし目」に係る図柄の組合せを設けることとしているが、これに限られるものではない。例えば、有効ラインを、センターライン、トップライン、クロスダウンライン及びクロスアップラインの 4 本（ボトムラインを除く）とし、有効ラインに沿って表示された場合に「2 枚」のメダルが払い出される図柄の組合せとして「A N Y - ベル - A N Y」を設ける。そして、主制御回路 90 は、「色択小役 + 押し順小役」が内部当籤役として決定された遊技において、押し順に正解しているときは、中のリール 3 C の中段に図柄「ベル」を停止表示し、色択及び押し順の双方に不正解しているときは、中のリール 3 C の上段に図柄「ベル」を停止表示するようにリールの停止制御を行うこととしてもよい。押し順正解に伴い中のリール 3 C の中段に図柄「ベル」を停止表示されると、センターライン、クロスダウンライン及びクロスアップラインの 3 本の有効ラインに沿って「A N Y - ベル - A N Y」が表示される結果、「6 枚（= 2 × 3）」のメダルが払い出される。そして、色択及び押し順不正解に伴いリール 3 C の上段に図柄「ベル」を停止表示されると、トップラインの 1 本の有効ラインに沿って「A N Y - ベル - A N Y」が表示される結果、「2 枚（= 2 × 1）」のメダルが払い出される。このようにすることで、リールの図柄配列や役構成の設計が容易になる。

【1593】

また、本仕様の例のパチスロ 1 では、「色択小役 + 押し順小役」の当籤時に、色択に正解

した場合と、押し順に正解した場合との双方において、「色択小役＋押し順小役」の当籤時に払い出され得る最大の枚数のメダルを払い出し、色択及び押し順の何れにも不正解の場合に、当該最大の枚数よりも少ない枚数のメダルを払い出すこととしているが、これに限られるものではない。遊技性（その１３）においては、報知状態中の報知対象である押し順に正解した場合に最大の枚数のメダルを払い出しが可能であればよく、色択の正解時に払い出す枚数については任意である。一例として、主制御回路９０は、「色択小役＋押し順小役」の当籤時に、押し順に正解した場合には最大の枚数のメダルを払い出し、色択に正解した場合と色択及び押し順の何れにも不正解の場合との双方において、当該最大の枚数よりも少ない枚数のメダル（双方において同一の枚数のメダル）を払い出すこととしてもよい。また、主制御回路９０は、色択に正解した場合には、当該最大の枚数よりも少ない第１の枚数のメダルを払い出し、色択及び押し順の何れにも不正解の場合には、当該最大の枚数よりも少なく、かつ、第１の枚数とは異なる（少なくともよく、また、多くてもよい）第２の枚数のメダルを払い出すこととしてもよい。

10

【１５９４】

〔主制御基板及び副制御基板が有する各種機能〕

以上、本仕様例のパチスロ１の遊技性（遊技仕様）の他の例（その１３）について説明した。続いて、パチスロ１の遊技性（遊技仕様）の他の例（その１３）を発揮する際の主制御回路９０及び副制御回路２００が有する各種機能について説明する。

【１５９５】

主制御回路９０は、スタートスイッチ６Ｓやストップスイッチ７Ｓと接続され、図１に示す遊技の進行を制御するため、遊技制御手段として機能する。また、リール３Ｌ、３Ｃ、３Ｒ及び表示窓４は、可変表示手段として機能する。

20

【１５９６】

また、パチスロ１は、報知状態と非報知状態とを有するとともに、押し順正解時に（第２の操作態様で停止操作が行われると）押し順小役が入賞し、押し順不正解かつ色択正解時（第１の操作態様で停止操作が行われると）色択小役が入賞し、押し順及び色択の双方とも不正解時に（第３の操作態様で停止操作が行われると）こぼし目又ははずれとなる「色択小役＋押し順小役」を有する。

【１５９７】

そして、パチスロ１の主制御回路９０は、色択小役の入賞時及び押し順小役の入賞時には「６枚」のメダルを払い出し、こぼし目又ははずれの場合には「６枚」よりも少ないメダル又は０枚のメダルを払い出すため、主制御回路９０は、利益付与手段として機能する。また、主制御回路９０は、非報知状態中の色択小役の入賞時にはメダルの払い出しに加えて、５０％の確率で報知状態に関する特典を付与するため、主制御回路９０は、報知特典付与手段として機能する。

30

【１５９８】

また、主制御回路９０は、色択小役の入賞に基づき報知状態に関する特典が付与されると、非報知状態から報知状態に遊技状態を遷移可能であるため、主制御回路９０は、報知制御手段として機能する。そして、主制御回路９０は、非報知状態において「色択小役＋押し順小役」が内部当籤役として決定されても何らの停止操作の情報も報知しない一方で、報知状態において「色択小役＋押し順小役」が内部当籤役として決定されると、押し順小役に正解の押し順を報知するため、主制御回路９０は、報知手段として機能する。

40

【１５９９】

なお、主制御回路９０は、「色択小役＋押し順小役」が内部当籤役として決定された遊技において、回転しているリールに対する停止操作のタイミングが適切なタイミングで行われた場合に、言い換えると、回転しているリールにおいて、色択小役に正解の領域が表示されているタイミングで、当該リールに対する停止操作が行われた場合に、色択に正解したとして色択小役を入賞可能にリールの停止制御を行い、回転しているリールに対する停止操作が押し順小役において正解の押し順で行われた場合に、押し順に正解したとして押し順小役を入賞可能にリールの停止制御を行う。

50

【 1 6 0 0 】

[その他の変形例]

上述したように、ART（有利区間）の継続期間の管理方法は任意である。例えば、ゲーム数により継続期間を管理することとしてもよく、また、セット数により継続期間を管理することとしてもよく、また、ART中に払い出されるメダルの枚数や差枚数により継続期間を管理することとしてもよく、また、ART中にメダルの払い出しに影響を与える報知を行った回数（ナビ回数）により継続期間を管理することとしてもよく、また、ART中の任意のタイミングで行う継続判定により継続期間を管理することとしてもよく、また、ART中に特定の図柄組合せが表示されるとARTを終了させることとしてもよい。

この場合、上乗せの対象は、ゲーム数、セット数、ナビ回数、差枚数などのようにARTの継続期間の管理方法によって適宜調整される。

10

【 1 6 0 1 】

また、上述のパチスロ1では、報知（ART）機能の作動を、メイン（主制御基板71）側の制御の下に行うこととしているが、これに限られるものではなく、サブ（副制御基板72）側の制御により報知（ART）機能の作動を行うこととしてもよい。

【 1 6 0 2 】

また、設定値は1段階のみとしてもよい。このとき、設定変更処理をのこしても良いし、無くしてしまってもよい。設定変更処理を残す場合には、同一設定への打ち直しのみが可能となるため、実質的にはRAMクリアするための処理となる。設定値を1段階のみとする場合であっても、有利状態（ART状態など）の抽籤（初当たり及び／又は上乗せなど）に関するモードを設け、所定確率で当籤する所定役が当籤した回数を計数し、その回数が規定値に達したときに、このモードを切り替わるようにすることで、出玉に起伏を生じさせることができる。

20

【 1 6 0 3 】

この場合、所定確率の分母と規定値とを掛けた値が一つの出玉の波となる。その値を1日に相当する遊技回数で切り替わるように規定すれば、設定値が1段階であっても、複数設けた遊技機と遜色のないものとする事が出来る。例えば、1日の営業時間を11時間とした場合、 $11\text{h} = 39600\text{sec}$ であるため、1遊技にかかる最短時間を規則に則り4.1秒とすると、1日当たりの最大遊技回数は、 $39600 / 4.1 = \text{約}9659$ 回となる。なお、休憩（食事やトイレ）を一切挟まないというのは現実的ではないため、1日当たりの遊技回数を概ね8000回程度と考える。所定確率を $1/32$ 、規定値を256とすることで、 $32 \times 256 = 8192$ となるため、概ね1日で出玉の波が切り替わるようにすることができる。

30

【 1 6 0 4 】

さらに、所定役が当籤した回数が規定値に達するたびに、遊技者に有利なモードと不利なモードとが交互に切り替わるようにすれば、二日間サイクルで収益が安定するようになるため、遊技店の営業に資することができる。なお、設定値を1段階にした場合の説明を行ったが、1段階には限られず転用が可能である。より具体的には、設定値の数を変えずに採用すれば、設定値の数を増やさずに、出玉の波をより複雑にすることが可能となる。また、設定値の数を減らせば、設定値が減って単調になるところを補うことができる。

40

【 1 6 0 5 】

また、設定値の数を減らすことができた場合、その分のデータ容量を削減することができる。仮に6段階の設定値を1段階の設定値にすることができれば、データを $1/6$ にまで削減することができる。また、各段階で望む出玉率に設計するための開発コストも $1/6$ となる。さらに言えば、遊技機は試験に適合したもののみが、営業に用いることが許可されるものであるところ、試験に要する時間も短縮することが可能となる。

【 1 6 0 6 】

[その他の遊技機への適用]

また、本実施形態では、遊技機としてパチスロ1を例に挙げて説明したが、本実施形態に係る発明が適用可能な遊技機はこれに限定されない。例えば、停止操作に基づくリール

50

停止制御に係る特徴などのパチスロに特有の特徴以外の特徴は、「パチンコ」と呼ばれる遊技機にも適用可能であり、同様の効果が得られる。すなわち、遊技者の遊技動作（操作）に応じて遊技を行う（遊技制御を行う）ことが可能な遊技機であれば、本実施形態に係る発明を適用することができる。

【 1 6 0 7 】

[その他の本実施形態に係る遊技機の拡張性]

本実施形態のパチスロ 1 では、遊技者のメダルの投入操作（すなわち、手持ちのメダルをメダル投入口 1 4 に対して投入する操作、あるいは、クレジットされたメダルを M A X ベットボタン 1 5 a、若しくは 1 ベットボタン 1 5 b を操作して投入する操作）により遊技が開始され、遊技が終了したときにメダルの払い出しがある場合には、ホッパー装置 5 1 が駆動してメダル払出口 2 4 からメダルが払い出され、あるいは、クレジットされる形態について説明したが、これに限られるものではない。

【 1 6 0 8 】

例えば、遊技者によって遊技に必要な遊技媒体が投入され、それに基づいて遊技が行われ、その遊技の結果に基づいて特典が付与（例えば、メダルが払い出される）形態全てについて、本発明を適用することができる。すなわち、物理的な遊技者の動作によって遊技媒体が投入され（掛けられ）、遊技媒体が払い出される形態のみならず、主制御回路 9 0（主制御基板 7 1）自体が、遊技者が保有する遊技媒体を電磁的に管理し、メダルレスで遊技を可能とするものであってもよい。また、遊技者が保有する遊技媒体を電磁的に管理するのは、主制御回路 9 0（主制御基板 7 1）に装着され（接続され）、遊技媒体を管理する遊技媒体管理装置であってもよい。

【 1 6 0 9 】

この場合、遊技媒体管理装置は、R O M 及び R W M（あるいは、R A M）を有して、遊技機に設けられる装置であって、図示しない外部の遊技媒体取扱装置と所定のインターフェースを介して双方向通信可能に接続されるものであり、遊技媒体の貸出動作（すなわち、遊技者が遊技媒体の投入操作を行う上で、必要な遊技媒体を提供する動作）若しくは遊技媒体の払出に係る役に入賞（当該役が成立）した場合の、遊技媒体の払出動作（すなわち、遊技者に対して遊技媒体の払出を行う上で、必要な遊技媒体を獲得させる動作）、又は遊技の用に供する遊技媒体を電磁的に記録する動作を行い得るものとすればよい。また、遊技媒体管理装置は、これら実際の遊技媒体数の管理のみならず、例えば、その遊技媒体数の管理結果に基づいて、パチスロ 1 の前面に、保有する遊技媒体数を表示する保有遊技媒体数表示装置（不図示）を設けることとし、この保有遊技媒体数表示装置に表示される遊技媒体数を管理するものであってもよい。すなわち、遊技媒体管理装置は、遊技者が遊技の用に供することができる遊技媒体の総数を電磁的方法により記録し、表示することができるものとすればよい。

【 1 6 1 0 】

また、この場合、遊技媒体管理装置は、遊技者が、記録された遊技媒体数を示す信号を、外部の遊技媒体取扱装置に対して自由に送信させることのできる性能を有し、また、遊技者が直接操作する場合のほか、記録された遊技媒体数を減ずることができない性能を有し、また、外部の遊技媒体取扱装置との間に外部接続端子板（不図示）が設けられる場合には、その外部接続端子板を介してでなければ、遊技者が、記録された遊技媒体数を示す信号を送信できない性能を有することが望ましい。

【 1 6 1 1 】

遊技機には上記の他、遊技者が操作可能な貸出操作手段、返却（精算）操作手段、外部接続端子板が設けられ、遊技媒体取扱装置には紙幣等の有価価値の投入口、記録媒体（例えば I C カード）の挿入口、携帯端末から電子マネー等の入金を行うための非接触通信アンテナ等、その他貸出操作手段、返却操作手段等各種操作手段、遊技媒体取扱装置側外部接続端子板が設けられるようにしてもよい（いずれも不図示）。

【 1 6 1 2 】

その際の遊技の流れとしては、例えば、遊技者が遊技媒体取扱装置に対しいずれかの方

法で有価価値を入金し、上記いずれかの貸出操作手段の操作に基づいて所定数の有価価値を減算し、遊技媒体取扱装置から遊技媒体管理装置に対し減算した有価価値に対応する遊技媒体を増加させる。そして遊技者は遊技を行い、さらに遊技媒体が必要な場合には上記操作を繰り返し行う。その後遊技の結果所定数の遊技媒体を獲得し、遊技を終了する際にはいずれかの返却操作手段を操作することにより遊技媒体管理装置から遊技媒体取扱装置に対し遊技媒体数を送信し、遊技媒体取扱装置はその遊技媒体数を記録した記録媒体を排出する。遊技媒体管理装置は遊技媒体数を送信したときに自身が記憶する遊技媒体数をクリアする。遊技者は排出された記録媒体を景品交換するために景品カウンター等に持っていくか、又は他の台で記録された遊技媒体に基づいて遊技を行うために遊技台を移動する。

10

【1613】

なお、上記例では全遊技媒体を遊技媒体取扱装置に対して送信したが、遊技機又は遊技媒体取扱装置側で遊技者が所望する遊技媒体数のみを送信し、遊技者が所持する遊技媒体を分割して処理することとしてもよい。また、記録媒体を排出するだけに限らず、現金又は現金等価物を排出するようにしてもよいし、携帯端末等に記憶させるようにしもよい。また、遊技媒体取扱装置は遊技店の会員記録媒体を挿入可能とし、会員記録媒体に貯留して後日再遊技可能とするようにしてもよい。

【1614】

また、遊技機又は遊技媒体取扱装置において、図示しない所定の操作手段を操作することにより遊技媒体取扱装置又は遊技媒体管理装置に対し遊技媒体又は有価価値のデータ通信をロックするロック操作を実行可能としてもよい。その際にはワンタイムパスワード等遊技者にしか知りえない情報を設定することや遊技機又は遊技媒体取扱装置に設けられた撮像手段により遊技者を記憶するようにしてもよい。

20

【1615】

なお、この遊技媒体管理装置は、上述のように、メダルレスでのみ遊技を可能とするものであってもよいし、物理的な遊技者の動作によって遊技媒体が投入され（掛けられ）、遊技媒体が払い出される形態、及びメダルレスで遊技を可能とする形態、双方の形態で遊技を可能とするものであってもよい。この場合には、遊技媒体管理装置が、上述のセレクトタ66やホッパー装置51を直接的に制御する方式を採用することもできるし、これらが主制御回路90（主制御基板71）によって制御され、その制御結果が送信されることに基づいて、遊技者が遊技の用に供することができる遊技媒体の総数を電磁的方法により記録し、表示する制御を行い得る制御を可能とする方式を採用することもできる。

30

【1616】

また、上記では、遊技媒体管理装置を、パチスロ1に適用する場合について説明しているが、上述した遊技球を用いるスロットマシンや封入式遊技機においても同様に遊技媒体管理装置を設け、遊技者の遊技媒体が管理されるようにすることもできる。

【1617】

このように、上述した遊技媒体管理装置を設けることにより、遊技媒体が物理的に遊技に供される場合と比べて、遊技機内部のセレクトタ66やホッパー装置51等を減らすことができ、遊技機の原価及び製造コストを削減できるのみならず、遊技者が直接遊技媒体に接触しないようにすることもでき、遊技環境が改善し、騒音も減らすことができるとともに、装置を減らしたことにより遊技機の消費電力を減らすことにもなる。また、遊技媒体や遊技媒体の投入口や払出口を介した不正行為を防止することができる。すなわち、遊技機をとりまく種々の環境を改善することができる遊技機を提供することが可能となる。

40

【1618】

< 付記（本発明のまとめ） >

[第1～第4の構成の遊技機]

従来の遊技機において、遊技者に有利な有利状態（例えば、ART状態）でない場合に、当該有利状態に移行するか否かの抽籤を行うとともに、当該有利状態である場合に、当該有利状態を継続するか否かの抽籤を行うことを可能にしたものが知られている（例えば

50

、特開 2 0 1 0 - 2 4 0 0 1 7 号公報参照)。

【 1 6 1 9 】

しかしながら、上記に示す遊技機では、当該有利状態を継続するか否かの決定に関して、バリエーションが乏しい点もあり、さらに興趣を高めるための工夫をなすことが求められている。

【 1 6 2 0 】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる遊技機を提供することを目的とする。

【 1 6 2 1 】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第 1 の構成の遊技機を提供することができる。

【 1 6 2 2 】

複数の図柄を複数列に変動表示し、複数の有効ラインが設定された図柄表示手段(例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R 及び図柄表示領域 4)と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 によるリール回転開始処理)と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 による内部抽籤処理)と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 によるリール停止制御処理)と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段(メイン CPU 1 0 1 による入賞チェック・メダル払出処理)と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合(例えば、ART 抽籤に当籤した場合)に、所定期間、遊技者に有利な有利状態(例えば、ラインバトル状態)に制御可能な有利状態制御手段(例えば、メイン CPU 1 0 1)と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段(例えば、メイン CPU 1 0 1)と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記有利状態において、複数の前記有効ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記有効ラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 による味方種別の決定)と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 による敵ステータスの決定)と、を含み、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定する、ことを特徴とする遊技機。

【 1 6 2 3 】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段(例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R)と、

前記図柄表示手段について所定領域を視認可能とし、当該所定領域において一又は複数の有効ラインが設定された図柄表示領域(例えば、図柄表示領域 4)と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 によるリール回転開始処理)と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、メイン CPU 1 0 1 による内部抽籤処理)と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて

10

20

30

40

50

、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（メインＣＰＵ１０１による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ＡＲＴ抽籤に当籤した場合）に、所定期間、遊技者に有利な有利状態（例えば、ラインバトル状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、を備え、

10

前記有利状態継続決定手段は、

前記図柄表示領域に表示される図柄のうち、各列ごとのいずれかの一の図柄を通るように、直線又は折れ線で結んで構成される一又は複数の特別ラインを設定可能な特別ライン設定手段と、

前記有利状態において、前記特別ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記特別ラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による味方種別の決定）と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による敵ステータスの決定）と、を含み、

20

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定する、ことを特徴とする遊技機。

【１６２４】

前記継続度合決定手段は、前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに所定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させることが可能であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

【１６２５】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第２の構成の遊技機を提供することができる。

30

【１６２６】

複数の図柄を複数列に変動表示し、複数の有効ラインが設定された図柄表示手段（例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ及び図柄表示領域４）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール停止制御処理）と、

40

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ＡＲＴ抽籤に当籤した場合）に、所定期間、遊技者に有利な有利状態（例えば、ラインバトル状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記有利状態において、特定の有利条件が成立した場合（例えば、ラインバトル状態において権利獲得抽籤状態に移行することが決定され、権利獲得抽籤状態において権利獲得

50

状態移行抽籤に当籤した場合)に、特定期間、遊技者に有利な特定状態(例えば、権利獲得状態)に制御可能な特定状態制御手段(例えば、メインCPU101)と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段(例えば、メインCPU101)と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記有利状態において、複数の前記有効ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記有効ラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段(例えば、メインCPU101による味方種別の決定)と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段(例えば、メインCPU101による敵ステータスの決定)と、を含み、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定し、

前記特定状態は、特定権利(例えば、永続権利又は限定的権利)が付与されるか否かを決定可能な状態であり、

前記判定ライン決定手段は、付与された前記特定権利に基づいて前記判定ラインを決定することを特徴とする遊技機。

【1627】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、

前記図柄表示手段について所定領域を視認可能とし、当該所定領域において一又は複数の有効ラインが設定された図柄表示領域(例えば、図柄表示領域4)と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段(例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理)と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、メインCPU101による内部抽籤処理)と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段(例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理)と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段(メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理)と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合(例えば、ART抽籤に当籤した場合)に、所定期間、遊技者に有利な有利状態(例えば、ラインバトル状態)に制御可能な有利状態制御手段(例えば、メインCPU101)と、

前記有利状態において、特定の有利条件が成立した場合(例えば、ラインバトル状態において権利獲得抽籤状態に移行することが決定され、権利獲得抽籤状態において権利獲得状態移行抽籤に当籤した場合)に、特定期間、遊技者に有利な特定状態(例えば、権利獲得状態)に制御可能な特定状態制御手段(例えば、メインCPU101)と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段(例えば、メインCPU101)と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記図柄表示領域に表示される図柄のうち、各列ごとのいずれかの一の図柄を通るように、直線又は折れ線で結んで構成される一又は複数の特別ラインを設定可能な特別ライン設定手段と、

前記有利状態において、前記特別ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記特別ラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段(例えば、メインCPU101による味方種別の決定)と、

10

20

30

40

50

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段（例えば、メインCPU 101による敵ステータスの決定）と、を含み、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定し、

前記特定状態は、特定権利（例えば、永続権利又は限定的権利）が付与されるか否かを決定可能な状態であり、

前記判定ライン決定手段は、付与された前記特定権利に基づいて前記判定ラインを決定することを特徴とする遊技機。

10

【1628】

前記特定状態は、前記判定ライン決定手段により前記判定ラインとして決定可能な上限数（例えば、2）を超える数の前記特定権利を付与可能な状態であり、

前記判定ライン決定手段は、前記判定ラインとして決定可能な上限数以上の前記特定権利が付与された場合、当該上限数分の前記特定権利を用いて当該上限数分の前記判定ラインを決定し、

前記継続度合決定手段は、前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに所定の図柄の組合せが表示される場合に、前記特定権利が残存していなければ、前記継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させ、前記特定権利が残存していれば、前記継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させないことが可能であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

20

【1629】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第3の構成の遊技機を提供することができる。

【1630】

複数の図柄を複数列に変動表示し、複数の有効ラインが設定された図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R及び図柄表示領域4）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU 101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU 101による内部抽籤処理）と、

30

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU 101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU 101による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、所定期間、遊技者に有利な有利状態（例えば、ラインバトル状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU 101）と、

40

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段（例えば、メインCPU 101）と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記有利状態において、複数の前記有効ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記有効ラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段（例えば、メインCPU 101による味方種別の決定）と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段（例えば、メインCPU 101による敵ステータスの

50

決定)と、を含み、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合
いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定し、

特別の有利条件が成立した場合(例えば、永続権利獲得抽籤に当籤した場合)に、特別
権利(例えば、永続権利)を付与することを決定可能な特別権利付与手段(例えば、メイ
ンCPU101)をさらに備え、

前記判定ライン決定手段は、

前記特別権利付与手段により前記特別権利が付与されている場合には、複数の前記有効
ラインのうち、いずれかの複数の前記有効ラインを前記判定ラインとして必ず決定し、

前記特別権利付与手段により前記特別権利が付与されていない場合には、前記判定ライ
ンを決定するときに、複数の前記有効ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記有効ラ
インを前記判定ラインとするかを決定可能である、ことを特徴とする遊技機。

【1631】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段(例えば、リール3L, 3C, 3R)
と、

前記図柄表示手段について所定領域を視認可能とし、当該所定領域において一又は複数
の有効ラインが設定された図柄表示領域(例えば、図柄表示領域4)と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始す
る図柄変動手段(例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理)と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、メイ
ンCPU101による内部抽籤処理)と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて
、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段(例えば、メイ
ンCPU101によるリール停止制御処理)と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたと
きに、前記有効ライン上に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段
(メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理)と、を備えた遊技機であっ
て、

所定の有利条件が成立した場合(例えば、ART抽籤に当籤した場合)に、所定期間、
遊技者に有利な有利状態(例えば、ラインバトル状態)に制御可能な有利状態制御手段(
例えば、メインCPU101)と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決
定手段(例えば、メインCPU101)と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記図柄表示領域に表示される図柄のうち、各列ごとのいずれかの一の図柄を通るよう
に、直線又は折れ線で結んで構成される一又は複数の特別ラインを設定可能な特別ライン
設定手段と、

前記有利状態において、前記特別ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記特別ライ
ンを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライ
ン決定手段(例えば、メインCPU101による味方種別の決定)と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに特
定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動さ
せることが可能な継続度合決定手段(例えば、メインCPU101による敵ステータスの
決定)と、を含み、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合
いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定し、

特別の有利条件が成立した場合(例えば、永続権利獲得抽籤に当籤した場合)に、特別
権利(例えば、永続権利)を付与することを決定可能な特別権利付与手段(例えば、メイ
ンCPU101)をさらに備え、

前記判定ライン決定手段は、

10

20

30

40

50

前記特別権利付与手段により前記特別権利が付与されている場合には、複数の前記特別ラインのうち、いずれかの複数の前記特別ラインを前記判定ラインとして必ず決定し、

前記特別権利付与手段により前記特別権利が付与されていない場合には、前記判定ラインを決定するときに、複数の前記特別ラインのうち、一又は複数のいずれかの前記特別ラインを前記判定ラインとするかを決定可能である、ことを特徴とする遊技機。

【1632】

前記継続度合決定手段は、前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに所定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させることが可能であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1633】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第4の構成の遊技機を提供することができる。

【1634】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU101による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、所定期間、遊技者に有利な有利状態（例えば、ラインバトル状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段（例えば、メインCPU101）と、

前記所定の有利条件が成立したことに基づいて、前記有利状態における遊技状態を第1遊技状態（例えば、RT2状態）に変移させることが可能であるとともに、前記有利状態において特別の図柄の組合せ（例えば、RT3移行目）が表示された場合に、前記有利状態における遊技状態を第2遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能な遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101によるRTチェック処理）と、を備え、

前記有利状態継続決定手段は、

前記有利状態において特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記有利状態の継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段（例えば、メインCPU101による敵ステータスの決定）を含み、

前記内部当籤役決定手段が前記特定の図柄の組合せが表示され得る特定の内部当籤役を決定する確率は、前記第1遊技状態よりも前記第2遊技状態のほうが高いことを特徴とする遊技機。

【1635】

前記継続度合決定手段は、前記有利状態において所定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させることが可能であり、

前記内部当籤役決定手段は、前記第1遊技状態において前記所定の図柄の組合せが表示され得る所定の内部当籤役を決定可能とし、前記第2遊技状態において前記所定の内部当籤役を決定可能としないことを特徴とする上記に記載の遊技機。

10

20

30

40

50

【 1 6 3 6 】

上記構成の遊技機によれば、有利状態（例えば、有利区間のラインバトル状態）において、一又は複数のいずれかのライン（有効ラインであるかを問わない）を有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能とし、有利状態において、決定された判定ラインに特定の図柄の組合せ（例えば、「リプレイ」又は「ベル」の図柄揃い）表示される場合に、有利状態の継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることを可能とし、決定された継続度合いに基づいて有利状態を継続させるか否かを決定することが可能となっている。

【 1 6 3 7 】

これにより、判定ラインの決定結果に応じて有利状態の継続度合いを変動させることができるため、遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

10

【 1 6 3 8 】

また、上記構成の遊技機によれば、有利状態において、決定された判定ラインに所定の図柄の組合せ（例えば、「被弾リブ」の図柄の組合せ）が表示される場合に、有利状態の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させることが可能となっている。

【 1 6 3 9 】

これにより、有利状態中における緊張感を高めることができ、有利状態中の遊技が単調とならず、さらに遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

【 1 6 4 0 】

また、上記構成の遊技機によれば、有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインについての決定結果は、特定状態（例えば、権利獲得状態）において権利が付与されたか否かによって変動するようになっている。すなわち、特定状態において付与された権利に基づいて判定ラインを決定することが可能となっている。

20

【 1 6 4 1 】

また、上記構成の遊技機によれば、特定状態において判定ラインの上限数以上の権利が付与された場合には、まず、上限数分の権利を用いて上限数の判定ラインが決定される。そして、有利状態において、決定された判定ラインに、所定の図柄の組合せ（例えば、「被弾リブ」の図柄の組合せ）が表示される場合に、付与された権利が残存していなければ、有利状態の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させ、付与された権利が残存していれば、有利状態の継続度合いを遊技者に不利な度合いに変動させないことが可能となっている。

30

【 1 6 4 2 】

また、上記構成の遊技機によれば、特別権利（例えば、永続権利）が付与されている場合には、複数の判定ラインが必ず決定され、特別権利が付与されていない場合には、判定ラインを決定するときに、一又は複数のいずれかのラインが判定ラインとして決定されるようになっている。

【 1 6 4 3 】

これにより、有利状態中の各遊技状態の役割を多様化させ、また、有利状態が継続する継続度合いを多様に変動させることができるため、遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

40

【 1 6 4 4 】

また、上記構成の遊技機によれば、有利状態（例えば、有利区間のラインバトル状態）における遊技状態を第1遊技状態（例えば、RT2状態）に変移させることが可能であるとともに、特別の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、有利状態における遊技状態を第2遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能となっており、有利状態の継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させる特定の図柄の組合せ（例えば、「中段リブ」の図柄の組合せ）が表示され得る特定の内部当籤役（例えば、「F__中段リブ1」及び「F__中段リブ2」のいずれか）を決定する確率は、RT2状態よりもRT3状態のほうが高くなっている。

【 1 6 4 5 】

50

また、上記構成の遊技機によれば、第1遊技状態においては、有利状態の継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させる所定の図柄の組合せ（例えば、「被弾リブ」の図柄の組合せ）が表示され得る所定の内部当籤役（例えば、「F__被弾リブ」）を決定可能とし、第2遊技状態においては、この所定の内部当籤役を決定可能としないようになっている。

【1646】

これにより、有利状態においては、いずれの遊技状態であるかによって遊技者の有利さの度合いがさらに変動するようになるため、有利状態中の遊技をより多彩なものとし、さらに遊技者に有利な状態の継続に関する興趣の向上を図ることができる。

【1647】

10

[第5の構成の遊技機]

従来の遊技機において、停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する所定の内部当籤役に当籤した場合に、遊技制御回路が、遊技者にとって有利な停止操作の手順が報知される有利状態にあっては、停止操作の手順の報知を可能とする報知可能情報を演出制御回路に対して送信し、遊技者にとって有利な停止操作の手順が報知されない通常遊技にあっては、停止操作の手順の報知を不能とする報知不能情報を演出制御回路に対して送信することを可能にしたものが知られている（例えば、特開2016-144568号公報参照）。

【1648】

しかしながら、上記に示す遊技機では、例えば、所定の内部当籤役が、遊技者にとって有利な停止操作の手順は同じであっても表示される図柄の組合せが異なるといったような複数の内部当籤役を含む場合に、停止操作の手順を報知する演出は行えるものの、表示される図柄の組合せに関連した演出は行えないという問題があった。

20

【1649】

ここで、遊技制御回路が、内部当籤役の種別を詳細に演出制御回路に送信することもあるが、このようにすると、遊技制御回路の制御負担が増大してしまうという問題が生じることとなる。

【1650】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、制御負担を増大させることなく、より適切な演出を行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

30

【1651】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第5の構成の遊技機を提供することができる。

【1652】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU101による内部抽籤処理）と、

40

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、サブCPU201によって制御される表示装置11）と、を備えた遊技機であって、

前記演出実行手段に対して前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に関する所定の情報（例えば、当籤役番号）を送信可能な情報送信手段（例えば、メインCPU

50

101による通信データ送信処理)と、

所定の有利条件が成立した場合(例えば、ART抽籤に当籤した場合)に、所定期間、遊技者に有利な停止操作の手順が報知され得る有利状態(例えば、ラインバトル状態)に制御可能な有利状態制御手段(例えば、メインCPU101)と、を備え、

前記内部当籤役決定手段は、

第1の停止操作の手順(例えば、「打順1」)で停止操作が行われた場合に、前記図柄表示手段における第1のライン(例えば、トップライン)上に特定の図柄の組合せが表示される第1の内部当籤役(例えば、「F__上段左ベル1」)と、

前記第1の停止操作の手順で停止操作が行われた場合に、前記図柄表示手段における第2のライン(例えば、センターライン)上に前記特定の図柄の組合せが表示される第2の内部当籤役(例えば、「F__中段左ベル1」)と、

第2の停止操作の手順(例えば、「打順3」)で停止操作が行われた場合に、前記図柄表示手段における前記第1のライン上に前記特定の図柄の組合せが表示される第3の内部当籤役(例えば、「F__上段中ベル1」)と、

前記第2の停止操作の手順で停止操作が行われた場合に、前記図柄表示手段における前記第2のライン上に前記特定の図柄の組合せが表示される第4の内部当籤役(例えば、「F__中段中ベル1」)と、を内部当籤役として決定可能であり、

前記情報送信手段は、

前記有利状態において、前記内部当籤役決定手段が前記第1の内部当籤役又は前記第3の内部当籤役を決定した場合、前記所定の情報として第1の情報(例えば、当籤役番号として「23」)を送信し、

前記有利状態において、前記内部当籤役決定手段が前記第2の内部当籤役又は前記第4の内部当籤役を決定した場合、前記所定の情報として第2の情報(例えば、当籤役番号として「24」)を送信し、

前記演出実行手段は、前記第1の情報が送信されたときと、前記第2の情報が送信されたときと、で異なる演出を実行可能であることを特徴とする遊技機。

【1653】

前記有利状態において、前記第1のライン及び前記第2のラインを含む複数のラインのうち、一又は複数のいずれかのラインを前記有利状態の継続度合いの変動に関する判定ラインとするかを決定可能な判定ライン決定手段(例えば、メインCPU101による味方種別の決定)と、

前記有利状態において、前記判定ライン決定手段により決定された前記判定ラインに前記特定の図柄の組合せが表示される場合に、前記継続度合いを遊技者に有利な度合いに変動させることが可能な継続度合決定手段(例えば、メインCPU101による敵ステータスの決定)と、

前記所定期間が経過するときに、前記継続度合決定手段により決定された前記継続度合いに基づいて前記有利状態を継続させるか否かを決定する有利状態継続決定手段(例えば、メインCPU101による継続抽籤)と、を備えたことを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1654】

上記構成の遊技機によれば、例えば、「打順1」で停止操作が行われた場合に、トップラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__上段左ベル1」と、「打順1」で停止操作が行われた場合に、センターラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__中段左ベル1」と、「打順3」で停止操作が行われた場合に、トップラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__上段中ベル1」と、「打順3」で停止操作が行われた場合に、センターラインで「ベル」の図柄の組合せが表示される「F__中段中ベル1」と、を少なくとも内部当籤役として決定可能であり、有利状態において、例えば、「F__上段左ベル1」又は「F__上段中ベル1」が決定された場合には、当籤役番号として「23」を送信し、「F__中段左ベル1」又は「F__中段中ベル1」が決定された場合には、当籤役番号として「24」を送信するようになっている。そして、本実施形態では、送信され

た当籤役番号に応じて異なる演出を実行することが可能となっている。

【1655】

これにより、例えば、有利状態（例えば、有利区間のラインバトル状態）において、図柄が表示されるラインによって遊技者の有利さの度合いが変動するような遊技性を有する場合に、表示される図柄の組合せに関連した演出を行うことができるため、制御負担を増大させることなく、より適切な演出を行うことができる。

【1656】

[第6の構成の遊技機]

従来の遊技機において、遊技者に有利な特定遊技状態中に、遊技者に有利な特別遊技状態に移行した回数に応じて実行されるストーリー演出のストーリーを進行させる、すなわち、遊技者に有利な状態が継続した期間に応じて演出内容を変化させることを可能にしたものが知られている（例えば、特開2016-187467号公報参照）。

【1657】

ここで、上記に示すような遊技機では、例えば、遊技者に有利な状態が所定期間継続した場合、通常では見ることのできない特別の演出（例えば、エンディング演出など）を行うことも可能である。

【1658】

ところで、このような特別の演出は、例えば、遊技者への追加的な特典の付与として実行されるものであるが、遊技者の遊技意欲をさらに高め、演出の興趣を向上させるための工夫をなし得る余地があるものと考えられる。

【1659】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技者の遊技意欲を高め、演出の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

【1660】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第6の構成の遊技機を提供することができる。

【1661】

遊技者の開始操作に基づいて図柄を変動表示し、遊技者の停止操作に基づいて図柄を停止表示することで遊技を行う遊技機（例えば、パチスロ1）であって、

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、遊技者に有利な有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、表示装置11）と、を備え、

前記演出実行手段は、

前記有利状態制御手段により前記有利状態に制御されている期間が特別期間（例えば、有利区間の遊技期間が「1200」回以上）となったときに、特別演出（例えば、エンディング2状態におけるエンディング演出）を実行可能であり、

前記所定の有利条件が成立した場合に、所定の実行条件が成立した場合（例えば、エンディング1状態に移行させることが決定された場合）には、前記特別演出の一部の演出が実行される特殊演出（例えば、エンディング1状態におけるエンディング演出）を実行可能である、ことを特徴とする遊技機。

【1662】

前記有利状態において、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段（例えば、メインCPU101による継続抽籤）と、

前記有利状態継続決定手段により前記有利状態を継続させることが決定されない場合に、前記有利状態を終了させる通常終了手段と、

前記有利状態継続決定手段により前記有利状態を継続させることが決定された場合であっても、前記有利状態制御手段により前記有利状態に制御されている期間が前記特別期間を越える特定期間（例えば、規制監視期間が「1500」回）となったときに、前記有利状態を終了させる特定終了手段と、をさらに備え、

前記演出実行手段は、前記有利状態制御手段により前記有利状態に制御されている期間が前記特別期間となったときから前記特定期間となるまで、前記特別演出を実行可能であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1663】

前記演出実行手段は、前記有利状態制御手段により前記有利状態に制御されている期間が前記特定期間となるまで、前記有利状態継続決定手段により前記有利状態を継続させることが決定される度に、前記有利状態制御手段により前記有利状態に制御されている期間の目安を示唆する示唆演出を実行可能であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1664】

上記構成の遊技機によれば、有利状態に制御されている期間が特別期間となったとき（例えば、エンディング2状態となったとき）に、特別演出が実行されることを可能とするとともに、有利状態に制御されることが決定された場合に、所定の実行条件が成立した場合（例えば、エンディング1状態に移行させることが決定された場合）には、特別演出の一部が実行される特殊演出が実行されることを可能としている。

【1665】

すなわち、上記構成の遊技機によれば、通常、遊技者に有利な状態中の遊技の終盤に実行され得るようになっている特別演出の一部である特殊演出が、所定の実行条件が成立した場合には、遊技者に有利な状態中の遊技の序盤において実行され得るようになっている。これにより、遊技者は特別演出を全て見たいと望みながら遊技を行うようになるため、遊技者の遊技意欲を高め、演出の興趣を向上させることができる。

【1666】

また、上記構成の遊技機によれば、有利状態に制御されている期間が特別期間となったときから、有利状態に制御されている期間が特定期間となって、有利状態が終了されるまで、特別演出が実行されることを可能としている。これにより、遊技媒体の獲得を規制する場合であっても、遊技者の興趣が低下してしまうことを軽減することができる。

【1667】

また、上記構成の遊技機によれば、有利状態に制御されている期間が特別期間となるまでは、有利状態を継続させることが決定される度に、有利状態に制御されている期間の目安を示唆する示唆演出を実行可能としている。これにより、特別演出の実行が開始される時期や有利状態が終了する時期などを遊技者が概ね把握できるようになるため、遊技の興趣を高めつつ、遊技者に適切な情報を提供することができる。

【1668】

〔第7～第12の構成の遊技機〕

従来の遊技機において、遊技者に有利な状態（例えば、ボーナス状態）への移行を可能とする特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定されたか否かを報知するための連続演出を行うことを可能にしたものが知られている（例えば、特開2008-79697号公報参照）。

【1669】

しかしながら、特別役が内部当籤役として決定された否かは、連続演出の演出内容のみならず、表示される図柄の組合せなどによっても推測できてしまう場合も少なくないことから、有利な状態に移行するか否かに関する報知や有利な状態の移行態様自体などにはさらに工夫をなし得る余地があるものと考えられる。

【1670】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる遊技機を提供することを目的とする。

【1671】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第7の構成の遊技機を提供することができる。

【1672】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）

10

20

30

40

50

と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

10

特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、所定期間、遊技者に有利な第１有利状態（例えば、通常有利区間）に制御可能であるとともに、所定の有利条件が成立した場合（例えば、ＡＲＴ抽籤に当籤した場合）に、前記第１有利状態よりも遊技者に有利な第２有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記特定役に対応する特定の図柄の組合せ（例えば、「ＲＴ３移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第１通常遊技状態（例えば、ＲＴ３状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第２通常遊技状態（例えば、ＲＴ５状態）に変移させることが可能な通常遊技状態変移制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

20

前記特別役に対応する特別の図柄の組合せ（例えば、ボーナス役に係る図柄の組合せ）が表示される場合に、遊技状態を特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）に変移させることが可能な特別遊技状態変移制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、表示装置１１）と、を備え、

前記内部当籤役決定手段は、

前記停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する複数の所定役（例えば、押し順小役）と、前記特定役と、前記特別役と、を内部当籤役として決定可能であるとともに、前記特別役を内部当籤役として決定した場合、前記特別の図柄の組合せが表示されるまで前記特別役の当籤を持ち越すことが可能であり、

30

前記特別役の当籤が持ち越されていない場合、前記特定役と前記特別役とを同時に内部当籤役として決定可能であり、

前記演出実行手段は、

前記第１有利状態であって前記第１通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行し、前記第１有利状態であって前記第２通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行する、ことを特徴とする遊技機。

40

【１６７３】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第８の構成の遊技機を提供することができる。

【１６７４】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインＣＰＵ１０１によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて

50

、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、所定期間、遊技者に有利な第1有利状態（例えば、通常有利区間）に制御可能であるとともに、所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、前記第1有利状態よりも遊技者に有利な第2有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

10

前記特定役に対応する特定の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第1通常遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第2通常遊技状態（例えば、RT5状態）に変移させることが可能な通常遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記特別役に対応する特別の図柄の組合せ（例えば、ボーナス役に係る図柄の組合せ）が表示される場合に、遊技状態を特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）に変移させることが可能な特別遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、表示装置11）と、を備え、

20

前記特定役は、前記停止操作が特定の態様であった場合に前記特定の図柄の組合せが表示され、前記停止操作が前記特定の態様でなかった場合に前記特定の図柄の組合せが表示されない内部当籤役であり、

前記内部当籤役決定手段は、

前記停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する複数の所定役（例えば、押し順小役）と、前記特定役と、前記特別役と、を内部当籤役として決定可能であるとともに、前記特別役を内部当籤役として決定した場合、前記特別の図柄の組合せが表示されるまで前記特別役の当籤を持ち越すことが可能であり、

前記特別役の当籤が持ち越されていない場合、前記特定役と前記特別役とを同時に内部当籤役として決定可能であり、

30

前記演出実行手段は、

前記第1有利状態であって前記第1通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、前記第1有利状態が終了するまで、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、前記第1有利状態であって前記第2通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、前記第1有利状態が終了するまで、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記第1有利状態であって前記第1通常遊技状態及び前記第2通常遊技状態のいずれの遊技状態でもない場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、所定回数（例えば、1回）に限り、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とする、ことを特徴とする遊技機。

40

【1675】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第9の構成の遊技機を提供することができる。

【1676】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メイン

50

C P U 1 0 1 による内部抽籤処理) と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段 (例えば、メイン C P U 1 0 1 によるリール停止制御処理) と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段 (例えば、メイン C P U 1 0 1 による入賞チェック・メダル払出処理) と、を備えた遊技機であって、

特定役 (例えば、「チャンス目」) が内部当籤役として決定された場合に、所定期間 (例えば、9 ゲーム間)、遊技者に有利な第 1 有利状態 (例えば、通常有利区間の高確 2 状態) に制御可能であるとともに、所定の有利条件が成立した場合 (例えば、A R T 抽籤に当籤した場合) に、前記第 1 有利状態よりも遊技者に有利な第 2 有利状態 (例えば、有利区間) に制御可能な有利状態制御手段 (例えば、メイン C P U 1 0 1) と、

前記特定役に対応する特定の図柄の組合せ (例えば、「R T 3 移行目」) が表示された場合に、遊技状態を第 1 通常遊技状態 (例えば、R T 3 状態) に変移させることが可能であるとともに、特別役 (例えば、ボーナス役) が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第 2 通常遊技状態 (例えば、R T 5 状態) に変移させることが可能な通常遊技状態変移制御手段 (例えば、メイン C P U 1 0 1) と、

前記特別役に対応する特別の図柄の組合せ (例えば、ボーナス役に係る図柄の組合せ) が表示される場合に、遊技状態を特別遊技状態 (例えば、ボーナス状態) に変移させることが可能な特別遊技状態変移制御手段 (例えば、メイン C P U 1 0 1) と、

演出を実行する演出実行手段 (例えば、表示装置 1 1) と、を備え、

前記内部当籤役決定手段は、

前記停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する複数の所定役 (例えば、押し順小役) と、前記特定役と、前記特別役と、を内部当籤役として決定可能であるとともに、前記特別役を内部当籤役として決定した場合、前記特別の図柄の組合せが表示されるまで前記特別役の当籤を持ち越すことが可能であり、

前記特別役の当籤が持ち越されていない場合、前記特定役と前記特別役とを同時に内部当籤役として決定可能であり、

前記演出実行手段は、

前記第 1 有利状態であって前記第 1 通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、前記第 1 有利状態であって前記第 2 通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記有利状態制御手段は、前記特別遊技状態が終了した場合に、

前記所定の有利条件が成立している場合には、前記第 2 有利状態に制御し、

前記所定の有利条件が成立していない場合には、所定期間 (例えば、3 2 ゲーム間)、第 3 有利状態 (例えば、通常有利区間の高確 4 状態) に制御する、ことを特徴とする遊技機。

【 1 6 7 7 】

遊技者の有利の度合いを異ならせるための複数の設定値 (例えば、設定 1 ~ 6) のうち、いずれかの設定値を設定可能であり、

前記特別役は、前記複数の設定値間で当籤確率が異なる第 1 の特別役と、前記複数の設定値間で当籤確率が同じである第 2 の特別役と、を含み、

前記所定の有利条件は、

前記第 1 有利状態及び第 3 有利状態のいずれかの有利状態であるとき、前記第 1 の特別役及び前記第 2 の特別役のいずれの特別役が内部当籤役として決定された場合であっても成立するか否かが決定され、

前記第 1 有利状態及び第 3 有利状態のいずれの有利状態でもないとき、前記第 1 の特別

10

20

30

40

50

役が内部当籤役として決定された場合には成立するか否かが決定されない、ことを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1678】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第10の構成の遊技機を提供することができる。

【1679】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU101による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、所定期間、遊技者に有利な第1有利状態（例えば、通常有利区間）に制御可能であるとともに、所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、前記第1有利状態よりも遊技者に有利な第2有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記特定役に対応する特定の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第1通常遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第2通常遊技状態（例えば、RT5状態）に変移させることが可能な通常遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記特別役に対応する特別の図柄の組合せ（例えば、ボーナス役に係る図柄の組合せ）が表示される場合に、遊技状態を特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）に変移させることが可能な特別遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、表示装置11）と、を備え、

前記内部当籤役決定手段は、

前記停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する複数の所定役（例えば、押し順小役）と、前記特定役と、前記特別役と、を内部当籤役として決定可能であるとともに、前記特別役を内部当籤役として決定した場合、前記特別の図柄の組合せが表示されるまで前記特別役の当籤を持ち越すことが可能であり、

前記特別役の当籤が持ち越されていない場合、前記特定役と前記特別役とを同時に内部当籤役として決定可能であり、

前記有利状態制御手段は、前記第1有利状態において、前記所定の有利条件を成立させるか否かを決定可能であり、

前記演出実行手段は、

前記第1有利状態であって前記第1通常遊技状態及び前記第2通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記第2有利状態において前記特別遊技状態に制御された場合に、当該特別遊技状態において複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記第1有利状態において前記特別遊技状態に制御された場合に、当該特別遊技状態に

10

20

30

40

50

において複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能としない、ことを特徴とする遊技機。

【1680】

上記構成の遊技機によれば、特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、第1有利状態（例えば、通常有利区間）に制御可能であるとともに、所定の有利条件が成立した場合（例えば、ART抽籤に当籤した場合）に、第2有利状態（例えば、有利区間）に制御可能であり、特定の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第1通常遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第2通常遊技状態（例えば、RT5状態）に変移させることが可能となっている。また、特定役と特別役とを同時に内部当籤役として決定可能となっている。そして、第1有利状態であって第1通常遊技状態及び第2通常遊技状態である場合には、所定役（例えば、押し順小役）について、遊技者に有利な停止操作の手順が報知されるようになっている。

10

【1681】

これにより、第1有利状態では、通常遊技であるときよりも付与される遊技媒体数が増加する可能性が高まるとともに、特別遊技状態に遷移するか否かの期待感も高まることから、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【1682】

また、上記構成の遊技機によれば、特定役は、停止操作が特定の態様（例えば、適切なタイミング）で行われた場合に特定の図柄の組合せが表示され、特定の態様で行われなかった場合に特定の図柄の組合せが表示されない内部当籤役であり、第1有利状態であってRT3状態及びRT5状態である場合には、当該第1有利状態が終了するまで、所定役について遊技者に有利な停止操作の手順が報知され、第1有利状態であって第1通常遊技及び第2通常遊技状態でない場合には、所定回数（例えば、1回）に限り、所定役について遊技者に有利な停止操作の手順が報知されるようになっている。

20

【1683】

これにより、特定役が当籤したときに、特別役も同時に内部当籤役として決定されているか否かと、特定の図柄の組合せが表示されたか否かと、によって第1有利状態の有利度合いや内容を変動させることができるため、さらに遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

30

【1684】

また、上記構成の遊技機では、特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）が終了した場合に、所定の有利条件が成立している場合には第2有利状態に移行させ、所定の有利条件が成立していない場合には、特定期間（例えば、32ゲーム間）、第3有利状態（例えば、通常有利区間の高確4状態）に移行させるようになっている。

【1685】

また、上記構成の遊技機では、第1有利状態及び第3有利状態のいずれかの遊技状態であるとき、複数の設定値間で当籤確率が同じである第2特別役（例えば、「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」以外のボーナス役を含む内部当籤役）、及び複数の設定値間で当籤確率が異なる第1特別役（例えば、「F__BB3+F__スイカ2」及び「F__BB4+F__スイカ2」）のいずれに当籤した場合であっても、第2有利状態に移行させるか否かが決定されるが、第1有利状態及び第3有利状態のいずれの遊技状態でもないときに、第1特別役に当籤した場合には、第2有利状態に移行させるか否かが決定されないようになっている。

40

【1686】

これにより、特別役に当籤したときの遊技状態やその種別によって、その後の遊技状態（有利状態）の遷移をより多様なものとすることができるため、さらに遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【1687】

50

また、上記構成の遊技機では、第2有利状態に移行させるか否かを決定可能な第1有利状態の通常遊技状態では、所定役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能であり、第2有利状態において特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）に制御された場合にも所定役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能であるが、第1有利状態において特別遊技状態に制御された場合には所定役について遊技者に有利な停止操作の手順を報知可能としないようになっている。

【1688】

これにより、第2有利状態に移行する期待度が高まるとともに、付与される遊技媒体数が増加する可能性も高まる遊技区間である第1有利状態を設けることができるため、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができるとともに、このような遊技区間を設ける場合であっても、遊技者に付与される利益が過度となってしまうことを抑制し、遊技者の射幸心が過度に煽られることを抑制することもできる。

【1689】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第1の構成の遊技機を提供することができる。

【1690】

複数の図柄を複数列に変動表示する図柄表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、

遊技者の開始操作に基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を開始する図柄変動手段（例えば、メインCPU101によるリール回転開始処理）と、

前記開始操作に基づいて、内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU101による内部抽籤処理）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示を停止する停止制御手段（例えば、メインCPU101によるリール停止制御処理）と、

前記停止制御手段により前記図柄表示手段に表示される図柄の変動表示が停止されたときに、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた利益を付与する利益付与手段（例えば、メインCPU101による入賞チェック・メダル払出処理）と、を備えた遊技機であって、

特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、所定期間、遊技者に有利な有利状態（例えば、通常有利区間の高確2状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記特定役に対応する特定の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第1通常遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第2通常遊技状態（例えば、RT5状態）に変移させることが可能な通常遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記特別役に対応する特別の図柄の組合せ（例えば、ボーナス役に係る図柄の組合せ）が表示される場合に、遊技状態を特別遊技状態（例えば、ボーナス状態）に変移させることが可能な特別遊技状態変移制御手段（例えば、メインCPU101）と、

演出を実行する演出実行手段（例えば、表示装置11）と、を備え、

前記内部当籤役決定手段は、

前記停止操作の手順によって遊技者の有利の度合いが変化する複数の所定役（例えば、押し順小役）と、前記特定役と、前記特別役と、を内部当籤役として決定可能であるとともに、前記特別役を内部当籤役として決定した場合、前記特別の図柄の組合せが表示されるまで前記特別役の当籤を持ち越すことが可能であり、

前記特別役の当籤が持ち越されていない場合、前記特定役と前記特別役とを同時に内部当籤役として決定可能であり、

前記演出実行手段は、

前記有利状態であって前記第1通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれ

10

20

30

40

50

かが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記有利状態であって前記第2通常遊技状態である場合に、複数の前記所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、遊技者に有利な前記停止操作の手順を報知可能な演出を実行可能とし、

前記通常遊技状態変移制御手段は、前記特定役が前記特別役と同時に内部当籤役として決定されなかった場合であって、前記特定の図柄の組合せが表示された場合に、特定期間（例えば、8ゲーム間）、遊技状態を前記第1通常遊技状態に変移させ、

前記所定期間は、前記特定期間よりも長い期間（例えば、9ゲーム間）に設定されていることを特徴とする遊技機。

10

【1691】

上記構成の遊技機によれば、特定役（例えば、「チャンス目」）が内部当籤役として決定された場合に、有利状態（例えば、通常有利区間の高確2状態）に制御可能であり、特定の図柄の組合せ（例えば、「RT3移行目」）が表示された場合に、遊技状態を第1通常遊技状態（例えば、RT3状態）に変移させることが可能であるとともに、特別役（例えば、ボーナス役）が内部当籤役として決定された場合に、遊技状態を第2通常遊技状態（例えば、RT5状態）に変移させることが可能となっている。また、特定役と特別役とを同時に内部当籤役として決定可能となっている。そして、有利状態であって第1通常遊技状態及び第2通常遊技状態である場合には、所定役（例えば、押し順小役）について、遊技者に有利な停止操作の手順が報知可能であり、有利状態が継続可能な期間（例えば、9ゲーム間）が、第1通常遊技状態が継続可能な期間（例えば、8ゲーム間）よりも長い期間に設定されている。

20

【1692】

これにより、特定の遊技状態（第1通常遊技状態）が終了するか否かにかかわらず、遊技者の期待感を維持させることが可能となるため、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【1693】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第12の構成の遊技機を提供することができる。

【1694】

30

所定の有利条件が成立した場合（例えば、ボーナス役に当籤した場合）に、遊技者に有利な有利状態（例えば、ボーナス状態）に制御可能な有利状態制御手段と、

画像を表示可能な表示手段（例えば、表示装置11）と、

遊技者の操作を検出可能な検出手段（例えば、タッチセンサ19）と、を備えた遊技機であって、

前記表示手段は、前記所定の有利条件が成立したか否かを報知するための特定画像を表示可能であり、

前記特定画像は、前記所定の有利条件が成立している場合に表示される第1特定画像（例えば、ベース画像と一部が異なる画像）と、前記所定の有利条件が成立していない場合に表示される第2特定画像（例えば、ベース画像と同じ画像）と、を含み、

40

前記第1特定画像と前記第2特定画像とは、特定部分において異なり、前記特定部分以外の他の部分において共通する画像であり、

前記第1特定画像が表示された場合に、遊技者が前記特定部分を指定する操作を行ったことを前記検出手段が検出した場合には、前記所定の有利条件が成立していることを報知する特別画像（例えば、「ボーナス確定！」のメッセージ）が前記表示手段に表示されることを特徴とする遊技機。

【1695】

前記第2特定画像は、前記遊技機のモチーフとして使用された原作品における所定の画像と同一又は近似の画像であることを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1696】

50

上記構成の遊技機によれば、遊技者に有利な有利状態（例えば、ボーナス状態）に制御可能となる所定の有利条件（例えば、ボーナス役に当籤したこと）が成立したか否かを報知するため、所定の有利条件が成立している場合には、第1特定画像（例えば、ベース画像と一部が異なる画像）が表示され、所定の有利条件が成立していない場合には第2特定画像（例えば、ベース画像と同じ画像）が表示されることが可能となっており、第1特定画像が表示された場合に、遊技者が第2特定画像と異なる部分を指定する操作を行った場合には、所定の有利条件が成立していることを報知する特別画像（例えば、「ボーナス確定！」のメッセージ）が表示されることが可能となっている。

【1697】

これにより、遊技者の所定の操作も関与させた新規な演出態様によって、所定の有利条件が成立したか否かを報知することができるため、遊技者に有利な状態の移行に関する興趣の向上を図ることができる。

【1698】

また、上記構成の遊技機によれば、第2特定画像が、遊技機のモチーフとして使用された原作品における所定の画像と同一又は近似の画像となっている。これにより、原作品に愛着のある遊技者は、所定の有利条件が成立したか否かを認識しやすくなるため、遊技意欲を高めることができるとともに、演出に関する興趣をより高めることができる。

【1699】

[第13の構成の遊技機]

従来の遊技機において、遊技制御装置側で特定の操作手段（例えば、ストップボタン）が押されている時間（オンエッジタイマが計数する時間）を監視し、その時間が演出制御回路側に送られることで、演出内容を変化させることを可能にしたものが知られている（例えば、特開2009-233278号公報参照）。

【1700】

しかしながら、演出の多彩化が求められる昨今の遊技機では多くの演出を搭載する必要があるため、演出の制御負荷を軽減するための工夫をなすことが求められている。

【1701】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、特定の操作手段の操作態様によって演出を変化させる場合であっても、当該演出に関する制御負荷の軽減を図ることができる遊技機を提供することを目的とする。

【1702】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第13の構成の遊技機を提供することができる。

【1703】

遊技者が操作可能な操作手段（例えば、ストップボタン）と、
前記操作手段の操作を検出可能な操作検出手段（例えば、ストップスイッチ）と、
演出を制御する演出制御手段（例えば、サブCPU201）と、を備え、
前記演出制御手段は、

前記操作検出手段が前記操作手段の操作（例えば、オンエッジ）を検出したときに、計時を開始し、当該計時の開始から所定時間（例えば、3秒）が経過した場合に第1演出（例えば、「演出1」）を発生させる制御を行い、

所定条件が成立したときに、第2演出（例えば、「演出2」）を発生させる制御を行い、

前記計時の開始から前記所定時間が経過するよりも前に前記所定条件が成立した場合は、前記第1演出を発生させる制御を行わない、ことを特徴とする遊技機。

【1704】

前記所定条件は、前記操作検出手段が前記操作手段の操作が終了したことを検出したとき（例えば、オフエッジを検出したとき）に成立することを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1705】

10

20

30

40

50

上記構成の遊技機によれば、特定の操作手段の操作（例えば、オンエッジ）を検出したときに、計時を開始し、当該計時の開始から所定時間（例えば、3秒）が経過した場合に第1演出（例えば、「演出1」）を実行する制御を行い、所定条件が成立したとき（例えば、オフエッジを検出したとき）に、第2演出（例えば、「演出2」）を実行する制御を行い、計時の開始から所定時間が経過するよりも前に所定条件が成立した場合は、第1演出を実行する制御を行わないことが可能となっている。

【1706】

これにより、特定の操作手段の操作態様によって演出を変化させる場合であっても、当該演出に関する制御負荷の軽減を図ることができる。

【1707】

[第14の構成の遊技機]

従来の遊技機において、特定の操作手段（例えば、ストップボタン）の発光態様によって内部当籤役を報知するなどの演出を行うことを可能にしたものが知られている（例えば、2010-82034号公報参照）。

【1708】

しかしながら、このような演出については、さらに工夫をなし得る余地があるものと考えられる。

【1709】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、演出に関する興趣を高めるとともに、遊技に関する興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【1710】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第14の構成の遊技機を提供することができる。

【1711】

所定条件の成立に基づいて有利状態（例えば、ボーナス状態）を発生させる状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態の発生より前に、前記有利状態の発生を許容する権利（例えば、ボーナス役の当籤）を付与するか決定可能な事前決定手段（例えば、メインCPU101）と、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（例えば、遊技価値表示部（VL））と、を備えた遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記事前決定手段により前記有利状態の発生を許容する権利が付与する旨が決定された場合に、当該決定がされたことを報知する特定報知演出（例えば、「枚数先表示演出」）を実行可能であり、当該特定報知演出において当該決定により付与される権利に基づいて発生する前記有利状態において獲得し得る遊技価値に関する所定値（例えば、獲得予定枚数としての役連終了枚数カウンタの値）を表示することを特徴とする遊技機。

【1712】

前記特定報知演出において前記演出実行手段が前記所定値を表示した場合、少なくともその後の前記有利状態の発生まで前記所定値の表示を継続し、前記有利状態において遊技価値が獲得された場合に、当該獲得された遊技価値の値に基づいて、前記所定値の表示を更新することを特徴とする上記に記載の遊技機。

【1713】

上記構成の遊技機によれば、有利状態（例えば、ボーナス状態）の発生を許容する権利が付与する旨が決定された（例えば、ボーナス役に当籤した）場合に、当該決定がされたことを報知する特定報知演出（例えば、「枚数先表示演出」）を実行可能であり、この特定報知演出では、付与することが決定された権利に基づいて発生する有利状態において獲得し得る遊技価値に関する所定値（例えば、獲得予定枚数としての役連終了枚数カウンタの値）を表示することが可能となっている。

【1714】

これにより、遊技者が得た権利（当籤内容）の価値を具体的に報知する演出を行うこと

10

20

30

40

50

ができるため、演出に関する興味を高めるとともに、遊技に関する興味を高めることができる。

【 1 7 1 5 】

また、上記構成の遊技機によれば、特定報知演出において所定値を表示した場合、少なくともその後の有利状態の発生まで所定値の表示を継続し、有利状態において遊技価値が獲得された場合に、当該獲得された遊技価値の値に基づいて、所定値の表示を更新するようになっている。

【 1 7 1 6 】

これにより、有利状態の発生の前後において、価値を報知するための一連の演出を適切に行うことができるため、さらに演出に関する興味を高めることができる。

【 1 7 1 7 】

[第 1 5 ~ 第 1 8 の構成の遊技機]

従来の遊技機において、遊技者にとって有利な遊技期間（有利区間）である有利状態（例えば、ART状態）でない場合に、当該有利状態に移行するか否かの抽籤を行うとともに、当該有利状態である場合に、当該有利状態を継続するか否かの抽籤を行うことを可能にしたものが知られている（例えば、特開 2 0 1 0 - 2 4 0 0 1 7 号公報参照）。

【 1 7 1 8 】

このような遊技機によれば、有利状態の移行確率や継続確率の高低などの設定条件によって有利区間となる遊技期間も変動するため、このような設定条件は、遊技の興味を左右する事象となっている。

【 1 7 1 9 】

ところで、このような遊技機では、所定期間における遊技価値の付与量を所定の出玉率の範囲内とするため、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与量（遊技価値の増加量を示す傾斜値）が一定の値となるように設計される。

【 1 7 2 0 】

それゆえ、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与量が比較的高い値に設定された場合に、上記のような設定条件も遊技者に有利となるように設定されてしまうと、遊技の射幸性が過度に高くなってしまいうという問題がある。

【 1 7 2 1 】

一方、遊技の射幸性を抑制するため、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与量を比較的低い値に設定することや、上記のような設定条件を遊技者に不利となるように設定することも考えられるが、この場合には、遊技の興味が著しく低下してしまうという問題がある。

【 1 7 2 2 】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興味を維持することができる遊技機を提供することを目的とする。

【 1 7 2 3 】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第 1 5 の構成の遊技機を提供することができる。

【 1 7 2 4 】

遊技者の開始操作に基づいて図柄の変動表示を開始し、遊技者の停止操作に基づいて図柄の変動表示を停止することで遊技を行う遊技機であって、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を第 1 の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第 1 期待値制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を前記第 1 の期待値よりも小さい第 2 の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第 2 期待値制御手段（例えば、メインCPU101）と、を備え、

前記有利状態制御手段は、

10

20

30

40

50

前記有利状態でない場合に、前記有利状態を開始させるか否かを決定可能な有利状態開始決定手段と、

前記有利状態である場合に、前記有利状態を継続させるか否かを決定可能な有利状態継続決定手段と、を含み、

前記第1期待値制御手段は、少なくとも前記有利状態が開始されてから所定期間、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第1の期待値となるように制御し、

前記第2期待値制御手段は、少なくとも前記有利状態が継続されてから特定期間、前記所定期間を含む前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第2の期待値となるように制御することを特徴とする遊技機。

10

【1725】

前記有利状態継続決定手段は、少なくとも前記有利状態が継続されてから前記特定期間、前記有利状態を継続させることを決定しないことを特徴とする遊技機。

【1726】

前記有利状態継続決定手段が前記有利状態を継続させることを決定した場合、前記有利状態開始決定手段が前記有利状態を開始させることを決定したことに基づいて開始された前記有利状態が終了してから所定の待機期間が経過した後、前記有利状態を継続させることを特徴とする遊技機。

【1727】

上記構成の遊技機によれば、有利状態が開始されてから所定期間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行うことが可能となり、有利状態が継続されてから特定期間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行うことが可能となる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

20

【1728】

なお、上記構成の遊技機において、有利状態が継続されてから特定期間は、有利状態を継続させることを決定しないようにしてもよい。このようにすれば、より適切に出玉率を管理することができる。

【1729】

また、上記構成の遊技機において、有利状態中に有利状態を継続させることを決定した場合であっても、当該有利状態を一旦終了させ、所定の待機期間が経過した後に、有利状態を継続させる（再開させる）ようにしてもよい。このようにすれば、より適切に出玉率を管理することができるのみならず、有利状態が継続するか否かに関し、遊技の興趣を向上させることができる。

30

【1730】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第16の構成の遊技機を提供することができる。

【1731】

遊技者の開始操作に基づいて図柄の変動表示を開始し、遊技者の停止操作に基づいて図柄の変動表示を停止することで遊技を行う遊技機であって、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

40

特別遊技状態への移行を可能とする特別図柄の組合せが表示されることを許可するか否かを決定可能な事前決定手段（例えば、メインCPU101）と、

前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている旨を報知する特定報知を実行可能な特定報知実行手段（例えば、表示装置11）と、を備え、

前記有利状態制御手段は、

所定の開始条件が成立した場合に、前記有利状態を開始させ、

所定の終了条件が成立した場合に、前記有利状態を終了させ、

前記所定の終了条件が成立する前に、前記特別図柄の組合せが表示された場合に、前記有利状態を終了させることが可能であり、

50

前記特定報知実行手段は、前記有利状態において、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている場合、当該遊技において前記特別図柄の組合せが表示されることが可能な場合には、前記特定報知を実行可能であることを特徴とする遊技機。

【1732】

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を第1の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第1期待値制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を前記第1の期待値よりも低い第2の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第2期待値制御手段（例えば、メインCPU101）と、をさらに備え、

前記第1期待値制御手段は、前記有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第1の期待値となるように制御し、

前記第2期待値制御手段は、前記特定の変動条件が成立してから前記有利状態が終了されるまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第2の期待値となるように制御することを特徴とする遊技機。

【1733】

前記所定の終了条件は、前記有利状態が開始されてから所定期間遊技が行われたこと、又は前記有利状態が開始されてから付与された遊技価値が所定量となったこと、に基づいて成立することを特徴とする遊技機。

【1734】

上記構成の遊技機によれば、有利状態は、所定の終了条件が成立した場合、又は所定の終了条件が成立する前に特別遊技状態に移行した場合に終了する。そして、有利状態では、特別遊技状態への移行が可能となっている場合、その旨を示す特定報知が実行される。したがって、遊技者は、規定された所定の終了条件の範囲内であれば、特別遊技状態への移行を回避することで有利状態を継続させることができる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【1735】

なお、上記構成の遊技機において、有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行うことが可能となり、特定の変動条件が成立してから有利状態が終了されるまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行うことが可能となるようにしてもよい。このようにすれば、遊技者は、例えば、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、所定の終了条件が成立するまで有利状態を継続させることもできるし、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させ、再度遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行う機会を得ようとすることもできるため、射幸性をより適度なものとしつつも遊技の興趣を向上させることができる。

【1736】

また、上記構成の遊技機において、所定の終了条件は、遊技者に一定の特典が付与されたとき（あるいは、付与されたと仮定されるとき）に終了されるようにしてもよい。このようにすれば、簡易な構成でより適切に出玉率を管理することができる。

【1737】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第17の構成の遊技機を提供することができる。

【1738】

遊技者の開始操作に基づいて図柄の変動表示を開始し、遊技者の停止操作に基づいて図柄の変動表示を停止することで遊技を行う遊技機であって、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を第1の期待値（例えば、期

10

20

30

40

50

待値) に制御可能な第 1 期待値制御手段 (例えば、メイン CPU 101) と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を前記第 1 の期待値よりも低い第 2 の期待値 (例えば、期待値) に制御可能な第 2 期待値制御手段 (例えば、メイン CPU 101) と、を備え、

前記有利状態制御手段は、

所定の開始条件が成立した場合に、前記有利状態を開始させ、

所定の終了条件が成立した場合に、前記有利状態を終了させ、

前記所定の終了条件が成立する前に、特別遊技状態への移行を可能とする特別図柄の組合せが表示された場合に、前記有利状態を終了させることが可能であり、

前記第 1 期待値制御手段は、前記有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 1 の期待値となるように制御し、

前記第 2 期待値制御手段は、前記特定の変動条件が成立してから前記有利状態が終了されるまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 2 の期待値となるように制御することを特徴とする遊技機。

【 1739 】

前記特別図柄の組合せが表示されることを許可するか否かを決定可能な事前決定手段 (例えば、メイン CPU 101) と、

前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている旨を報知する特定報知を実行可能な特定報知実行手段 (例えば、表示装置 11) と、をさらに備え、

前記特定報知実行手段は、

前記有利状態において、前記有利状態が開始されてから前記特定の変動条件が成立するまでの間に、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている場合には、前記特定の変動条件が成立したときに前記特定報知を実行可能であり、

前記有利状態において、前記特定の変動条件が成立してから前記有利状態が終了されるまでの間に、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可された場合には、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されたときに前記特定報知を実行可能であることを特徴とする遊技機。

【 1740 】

前記第 1 期待値制御手段は、前記有利状態における遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率を第 1 の確率とすることで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 1 の期待値となるように制御し、

前記第 2 期待値制御手段は、前記有利状態における遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率を前記第 1 の確率よりも低い第 2 の確率とすることで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 2 の期待値となるように制御することを特徴とする遊技機。

【 1741 】

上記構成の遊技機によれば、有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行うことが可能となり、特定の変動条件が成立してから有利状態が終了されるまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行うことが可能となる。また、有利状態は、所定の終了条件が成立する前であっても、特別遊技状態への移行を契機として終了させることが可能である。すなわち、遊技者は、例えば、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、所定の終了条件が成立するまで有利状態を継続させることもできるし、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させ、再度遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行う機会を得ようとすることもできる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【 1742 】

なお、上記構成の遊技機において、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を

10

20

30

40

50

行う場合、特別遊技状態への移行が可能となっている場合には、その旨を示す特定報知が実行されるようにしてもよい。このようにすれば、遊技者に、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を継続させない選択肢があることを明示することができ、さらに遊技の興趣を維持することができる。

【 1 7 4 3 】

また、上記構成の遊技機において、有利状態中の遊技価値の付与期待値は、有利状態中に遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率によって調整されるようにしてもよい。このようにすれば、簡易な構成でより適切に出玉率を管理することができる。

【 1 7 4 4 】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような第 1 8 の構成の遊技機を提供することができる。

【 1 7 4 5 】

遊技者の開始操作に基づいて図柄の変動表示を開始し、遊技者の停止操作に基づいて図柄の変動表示を停止することで遊技を行う遊技機であって、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メイン CPU 1 0 1）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を第 1 の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第 1 期待値制御手段（例えば、メイン CPU 1 0 1）と、

前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値を前記第 1 の期待値よりも低い第 2 の期待値（例えば、期待値）に制御可能な第 2 期待値制御手段（例えば、メイン CPU 1 0 1）と、を備え、

前記有利状態制御手段は、

所定の開始条件が成立した場合に、前記有利状態を開始させ、

所定の終了条件が成立した場合に、前記有利状態を終了させ、

前記所定の終了条件が成立する前に、特別遊技状態への移行を可能とする特別図柄の組合せが表示された場合に、前記有利状態を終了させることが可能であり、

前記第 1 期待値制御手段は、前記有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 1 の期待値となるように制御し、

前記第 2 期待値制御手段は、前記特定の変動条件が成立してから前記有利状態が終了されるまで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第 2 の期待値となるように制御し、

前記有利状態が前記特別図柄の組合せが表示されたことに応じて終了した場合に、遊技価値の付与に関連しない特殊特典を付与可能な特殊特典付与手段（例えば、サブ CPU 2 0 1）をさらに備えたことを特徴とする遊技機。

【 1 7 4 6 】

前記特別図柄の組合せが表示されることを許可するか否かを決定可能な事前決定手段（例えば、メイン CPU 1 0 1）と、

前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている旨を報知する特定報知を実行可能な特定報知実行手段（例えば、表示装置 1 1）と、をさらに備え、

前記特定報知実行手段は、

前記有利状態において、前記有利状態が開始されてから前記特定の変動条件が成立するまでの間に、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されている場合には、前記特定の変動条件が成立したときに前記特定報知を実行可能であり、

前記有利状態において、前記特定の変動条件が成立してから前記有利状態が終了されるまでの間に、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可された場合には、前記事前決定手段により前記特別図柄の組合せが表示されることが許可されたときに前記特定報知を実行可能であることを特徴とする遊技機。

【 1 7 4 7 】

前記第１期待値制御手段は、前記有利状態における遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率を第１の確率とすることで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第１の期待値となるように制御し、

前記第２期待値制御手段は、前記有利状態における遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率を前記第１の確率よりも低い第２の確率とすることで、前記有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与期待値が前記第２の期待値となるように制御することを特徴とする遊技機。

【１７４８】

上記構成の遊技機によれば、有利状態が開始されてから特定の変動条件が成立するまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行うことが可能となり、特定の変動条件が成立してから有利状態が終了されるまでの間は、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行うことが可能となる。また、有利状態は、所定の終了条件が成立する前であっても、特別遊技状態への移行を契機として終了させることが可能である。さらに、有利状態が特別遊技状態への移行を契機として終了した場合、遊技価値の付与に関連しない特殊特典を付与することが可能である。すなわち、遊技者は、例えば、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、所定の終了条件が成立するまで有利状態を継続させることもできるし、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させ、再度遊技価値の付与期待値が相対的に高い状態で遊技を行う機会を得ようとすることもできる。また、特別遊技状態に移行させて有利状態を終了させる場合には、所定の終了条件が成立して有利状態を終了させた場合には付与されない特殊特典が付与されるため、遊技者に有利状態を早期に終了させるインセンティブを与えることもできる。それゆえ、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

【１７４９】

なお、上記構成の遊技機において、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を行う場合、特別遊技状態への移行が可能となっている場合には、その旨を示す特定報知が実行されるようにしてもよい。このようにすれば、遊技者に、遊技価値の付与期待値が相対的に低い状態で遊技を継続させない選択肢があることを明示することができ、さらに遊技の興趣を維持することができる。

【１７５０】

また、上記構成の遊技機において、有利状態中の遊技価値の付与期待値は、有利状態中に遊技者の停止操作に関する情報が報知される確率によって調整されるようにしてもよい。このようにすれば、簡易な構成でより適切に出玉率を管理することができる。

【１７５１】

[第１９の構成の遊技機]

従来の遊技機において、所定の遊技回数毎（すなわち、所定の周期毎）に、遊技者に有利な有利状態（例えば、ＡＲＴ状態）に移行可能な状態となるようにしたものが知られている（例えば、特開２０１０－１６７１９７号公報参照）。

【１７５２】

このような遊技機によれば、所定の周期毎に有利状態移行の期待感を高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【１７５３】

しかしながら、このような遊技機では、有利状態に移行可能な状態となるまでの期間は一定であり、遊技性の変化に乏しいという問題があった。

【１７５４】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、有利状態に移行可能な状態となるまでの期間を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【１７５５】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成第１９の遊技機を提供することができる。

【 1 7 5 6 】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R 及び図柄表示領域 4 ）と、

第 1 特別役（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 1 ）、第 2 特別役（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 2 ）、及び所定役（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における押し順小役）を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、を備えた遊技機であって、

前記図柄表示手段に第 1 特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 1 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 1 特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 1 状態）を開始させ、第 1 特別終了条件が成立した場合に当該第 1 特別遊技状態を終了させる制御が可能な第 1 特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記図柄表示手段に第 2 特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 2 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 2 特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 2 状態）を開始させ、第 2 特別終了条件が成立した場合に当該第 2 特別遊技状態を終了させる制御が可能な第 2 特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

遊技者の停止操作に関する操作情報を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタ）と、を備え、

前記第 1 特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せが表示されることが許可される第 1 特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 1 許可状態）を継続させ、

前記第 2 特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せが表示されることが許可される第 2 特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における B B 2 許可状態）を継続させ、

前記内部当籤役決定手段は、

前記第 1 特別許可状態において、前記第 2 特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記第 2 特別許可状態において、前記第 1 特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記第 1 特別許可状態及び前記第 2 特別許可状態のいずれでもない通常遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 2 ）における一般遊技状態（C Z 状態））において、前記第 1 特別役又は前記第 2 特別役を内部当籤役として決定可能とし、

前記第 1 特別終了条件は、前記第 1 特別遊技状態において規定数（例えば、285 枚を超える）の遊技価値が付与された場合に成立し、

前記第 1 特別遊技状態においては、前記所定役が内部当籤役として決定された場合、特定の態様で停止操作が行われた場合には所定数（例えば、9 枚）の遊技価値が付与される一方、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記所定数の遊技価値が付与されず、

少なくとも前記第 1 特別遊技状態において前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知されない期間は、遊技価値が減少する減少期間として機能し、

前記第 2 特別遊技状態は、遊技価値が増加する増加期間として機能し、

特定の報知条件が成立した場合、前記第 1 特別遊技状態における特定期間を、前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間（例えば、有利区間）とすることが可能であることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50

【 1 7 5 7 】

前記第 1 特別遊技状態において前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間は、前記増加期間として機能することを特徴とする遊技機。

【 1 7 5 8 】

前記第 1 特別遊技状態において、前記図柄表示手段に第 1 特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 1 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 1 特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 1 状態）を開始させ、第 1 特定終了条件が成立した場合に当該第 1 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 1 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、

前記第 2 特別遊技状態において、前記図柄表示手段に第 2 特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 2 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 2 特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 2 状態）を開始させ、第 2 特定終了条件が成立した場合に当該第 2 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 2 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、をさらに備え、

前記内部当籤役決定手段は、

前記第 1 特別遊技状態において、第 1 特定役（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 1）を内部当籤役として決定可能であり、

前記第 2 特別遊技状態において、第 2 特定役（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 2）を内部当籤役として決定可能であり、

前記第 1 特別遊技状態において前記第 1 特定役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 1 特定図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 1 特定図柄の組合せが表示されることが許可される第 1 特定許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 1 許可状態）を継続させ、

前記第 2 特別遊技状態において前記第 2 特定役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 2 特定図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 2 特定図柄の組合せが表示されることが許可される第 2 特定許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 2）における R B 2 許可状態）を継続させ、

前記第 1 特別遊技状態では、前記第 1 特定許可状態であるか否かにかかわらず、前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知されない期間が前記減少期間として機能し、

前記第 2 特別遊技状態では、前記第 2 特定許可状態である期間が前記増加期間として機能することを特徴とする遊技機。

【 1 7 5 9 】

上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態において、第 1 特別役に当籤する前に第 2 特別役に当籤した場合、第 2 特別遊技状態に移行し、当該第 2 特別遊技状態は遊技価値が増加する増加期間として機能する。一方、通常遊技状態において、第 2 特別役に当籤する前に第 1 特別役に当籤した場合、第 1 特別遊技状態に移行し、当該第 1 特別遊技状態において停止操作に関する操作情報が報知されない場合、当該第 1 特別遊技状態は遊技価値が減少する減少期間として機能する。

【 1 7 6 0 】

したがって、通常遊技状態においては、第 1 特別遊技状態に移行することなく第 2 特別遊技状態への移行が繰り返されることで、遊技者は有利な遊技期間を継続させることができるが、第 1 特別遊技状態に移行した場合には、当該第 1 特別遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させなければ、遊技者は有利な遊技期間を継続させることができない。

【 1 7 6 1 】

ここで、上記構成の遊技機によれば、特定の報知条件が成立した場合、第 1 特別遊技状態において、所定役に当籤した場合に所定数の遊技価値が付与される停止操作に関する操作情報が報知されるようになる。第 1 特別遊技状態は、規定数の遊技価値が付与された場合に終了するものであるから、このような情報が報知されることで、第 1 特別遊技状態の終了時期を早めることができる。すなわち、第 1 特別遊技状態において停止操作に関する

操作情報が報知される否かによって、第2特別遊技状態に移行可能な通常遊技状態となるまでの期間を変動させることができる。それゆえ、有利状態に移行な状態となるまでの期間を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる。

【1762】

なお、上記構成の遊技機において、第1特別遊技状態において停止操作に関する操作情報が報知される期間も増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、有利状態に移行な状態となるまでの期間中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【1763】

また、上記構成の遊技機において、第1特別遊技状態では、さらに第1特定許可状態に移行可能とし、第2特別遊技状態では、さらに第2特定許可状態に移行可能とし、第1特別遊技状態では、第1特定許可状態であるか否かにかかわらず、停止操作に関する操作情報が報知されない期間を減少期間として機能させ、第2特別遊技状態では、第2特定許可状態である期間を増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1764】

[第20～第22の構成の遊技機]

従来遊の遊技機において、所定の有利条件が成立すると遊技者に有利な有利状態に移行する一方、所定の不利条件が成立すると遊技者に不利な不利状態に移行する所定状態を有し、不利状態へ移行することなく所定状態から有利状態への移行が繰り返されることで、遊技者にとって有利な状態が継続することを可能としたものが知られている（例えば、特開2010-167197号公報参照）。

【1765】

しかしながら、このような遊技機では、所定状態から不利状態に移行した場合、再度所定状態に移行するまで遊技者にとって有利な状態とはならないため、特に、不利状態における遊技意欲や興趣が低下してしまうという問題があった。

【1766】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技意欲や興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

【1767】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第20の遊技機を提供することができる。

【1768】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段（例えば、リール3L、3C、3R及び図柄表示領域4）と、

特別役（例えば、遊技性の他の例（その3）におけるBB）及び特定役（例えば、遊技性の他の例（その3）における押し順小役）を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段（例えば、メインCPU101）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段（例えば、メインCPU101）と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段（例えば、メインCPU101）と、を備えた遊技機であって、

遊技状態として、通常遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その3）におけるRT0状態）、特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その3）におけるBB状態）及び特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その3）におけるRT1状態）を有し、

前記図柄表示手段に特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その3）におけるBBに係る図柄の組合せ）が表示された場合に前記特別遊技状態を開始させ、特別終了条件が成立した場合に前記特別遊技状態を終了させる制御が可能な特別遊技状態制御手段（例えば、メインCPU101）と、

10

20

30

40

50

前記図柄表示手段に特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その３）におけるベルこぼし目）が表示された場合に前記特定遊技状態を開始させ、特定終了条件が成立した場合に前記特定遊技状態を終了させる制御が可能な特定遊技状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

遊技者の停止操作に関する操作情報を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタ）と、を備え、

前記特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されることが許可される特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その３）におけるＢＢ許可状態）を継続させ、

前記特定遊技状態制御手段は、前記特別許可状態でない前記通常遊技状態において、前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せが表示された場合に、前記特定遊技状態を開始させ、

前記特定終了条件は、規定数（例えば、５００ゲーム）の遊技が行われた場合に成立し、

前記停止制御手段は、

前記特別許可状態である前記特定遊技状態においては前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せを表示させることを可能とせず、

前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の態様で停止操作が行われた場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とせず、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記特典付与手段は、前記特定役が内部当籤役として決定された場合、前記特定の態様で停止操作が行われた場合には特定数の遊技価値の付与を可能とし、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記特定数の遊技価値の付与を可能とせず、

特定の報知条件が成立した場合、前記通常遊技状態及び前記特定遊技状態における特定期間を、前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間（例えば、有利区間）とすることが可能であることを特徴とする遊技機。

【１７６９】

少なくとも前記特定遊技状態において前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能することを特徴とする遊技機。

【１７７０】

上記構成の遊技機によれば、特別役に当籤した場合には特別許可状態となり、通常遊技状態であれば、特別図柄の組合せを表示させて特別遊技状態に移行させることを可能とする一方、特定遊技状態であれば、当該特定遊技状態が終了するまで特別図柄の組合せを表示させて特別遊技状態に移行させることを可能としない。また、特定遊技状態には、特別許可状態でない通常遊技状態において特定役に当籤した場合に、特定の態様で停止操作が行われずに特定図柄の組合せが表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び特定遊技状態における特定期間では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、特定数の遊技価値が付与される。

【１７７１】

ここで、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態への移行を繰り返す（すなわち、遊技者に有利な遊技期間を継続させる）ことが可能となるのみならず、特定役に当籤したときに付与される遊技価値も増加することになる。また、特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、特定遊技状態が終了しなければ特別遊技状態に移行させることはできないが、特定役に当籤したときに付与される遊技価値は増加することになる。また、通常遊技状態に

10

20

30

40

50

において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となっていない場合であっても、特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態への移行を繰り返すことができる場合もある。

【 1 7 7 2 】

すなわち、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態若しくは特定遊技状態であるか、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、又は特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、などに応じて遊技者の有利度合いを多彩に変動させることが可能となる。それゆえ、遊技意欲や興趣を向上させることができる。

【 1 7 7 3 】

なお、上記構成の遊技機において、少なくとも特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、特定遊技状態であっても遊技価値が増加する場合があることから、特別遊技状態に移行しない特定遊技状態中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【 1 7 7 4 】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第 2 1 の遊技機を提供することができる。

【 1 7 7 5 】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R 及び図柄表示領域 4 ）と、

特別役（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における B B ）、特殊役（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における M B ）及び特定役（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における押し順小役）を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、を備えた遊技機であって、

遊技状態として、通常遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における R T 0 状態）、特別遊技状態、特殊遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における B B 状態）、第 1 特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における R T 1 状態）及び第 2 特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における R T 2 状態）を有し、

前記図柄表示手段に特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における B B に係る図柄の組合せ）が表示された場合に前記特別遊技状態を開始させ、特別終了条件が成立した場合に前記特別遊技状態を終了させる制御が可能な特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記図柄表示手段に特殊図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）における M B に係る図柄の組合せ）が表示された場合に前記特殊遊技状態を開始させ、特殊終了条件が成立した場合に前記特殊遊技状態を終了させる制御が可能な特殊遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記図柄表示手段に特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4 ）におけるベルこぼし目）が表示された場合に前記第 1 特定遊技状態を開始させ、特定終了条件が成立した場合に前記第 1 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 1 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記特別役が内部当籤役として決定された場合に前記第 2 特定遊技状態を開始させ、前記特別遊技状態が開始される場合に前記第 2 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 2 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

遊技者の停止操作に関する操作情報を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタ）と、

10

20

30

40

50

を備え、

前記特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されることが許可される特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その４）におけるＢＢ許可状態）を継続させ、

前記特殊役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せが表示されることが許可される特殊許可状態（例えば、遊技性の他の例（その４）におけるＭＢ許可状態）を継続させ、

前記内部当籤役決定手段は、

前記特別許可状態において、前記特殊役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記特殊許可状態において、前記特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記特別許可状態及び前記特殊許可状態のいずれでもない前記通常遊技状態及び前記第１特定遊技状態において、前記特別役又は前記特殊役を内部当籤役として決定可能とし、

前記第１特定遊技状態制御手段は、前記特別許可状態及び前記特殊許可状態でない前記通常遊技状態において、前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せが表示された場合に、前記第１特定遊技状態を開始させ、

前記停止制御手段は、

前記特別許可状態である前記第２特定遊技状態においては前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せを表示させることを困難とせず、

前記特殊許可状態である前記第１特定遊技状態においては前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せを表示させることを困難とし、

前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の態様で停止操作が行われた場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とせず、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記特典付与手段は、前記特定役が内部当籤役として決定された場合、前記特定の態様で停止操作が行われた場合には特定数の遊技価値の付与を可能とし、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記特定数の遊技価値の付与を可能とせず、

特定の報知条件が成立した場合、前記通常遊技状態及び前記第１特定遊技状態における特定期間を、前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間（例えば、有利区間）とすることが可能であることを特徴とする遊技機。

【１７７６】

少なくとも前記第１特定遊技状態において前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能することを特徴とする遊技機。

【１７７７】

上記構成の遊技機によれば、特別役に当籤した場合には特別許可状態となって第２特定遊技状態に移行し、特別図柄の組合せを表示させて特別遊技状態に移行させることを困難としない一方、特殊役に当籤した場合には特殊許可状態となるが遊技状態は移行せず、第１特定遊技状態であれば、当該第１特定遊技状態が終了するまで特殊図柄の組合せを表示させて特殊遊技状態に移行させることを困難とし、その結果として通常遊技状態に移行させることを困難とする。また、第１特定遊技状態には、特別許可状態及び特殊許可状態でない通常遊技状態において特定役に当籤した場合に、特定の態様で停止操作が行われずに特定図柄の組合せが表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び第１特定遊技状態における特定期間では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、特定数の遊技価値が付与される。

【１７７８】

ここで、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態において、特定役に当籤したときに

10

20

30

40

50

特定図柄の組合せが表示されて第1特定遊技状態に移行する前に、特別役又は特殊役に当籤して特別許可状態(第2特定遊技状態)又は特殊許可状態となれば、特別遊技状態又は特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。また、第1特定遊技状態であっても、特別役に当籤して特別許可状態(第2特定遊技状態)となれば、特別遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。一方、第1特定遊技状態において、特殊役に当籤して特殊許可状態となると、特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことが困難となる。

【1779】

かかる遊技性の下、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態(あるいは特殊遊技状態)への移行を繰り返す(すなわち、遊技者に有利な遊技期間を継続させる)ことが可能となるのみならず、特定役に当籤したときに付与される遊技価値も増加することになる。また、第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、例えば、特殊許可状態であれば特殊遊技状態を経由して通常遊技状態に移行させることは困難であるものの、特定役に当籤したときに付与される遊技価値は増加することになる。また、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となっていない場合であっても、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態(あるいは特殊遊技状態)への移行を繰り返すことができる場合もある。

【1780】

すなわち、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態若しくは第1特定遊技状態であるか、通常遊技状態において特別役、特殊役若しくは特定役がどのような順番で当籤するか、第1特定遊技状態において特別役若しくは特殊役がどのような順番で当籤するか、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、又は第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、などに応じて遊技者の有利度合いを多彩に変動させることが可能となる。それゆえ、遊技意欲や興趣を向上させることができる。

【1781】

なお、上記構成の遊技機において、少なくとも第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、第1特定遊技状態であっても遊技価値が増加する場合があることから、通常遊技状態に移行することが困難な特定遊技状態中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【1782】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第22の遊技機を提供することができる。

【1783】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段(例えば、リール3L、3C、3R及び図柄表示領域4)と、

特別役(例えば、遊技性の他の例(その4)におけるBB)、特殊役(例えば、遊技性の他の例(その4)におけるMB)及び特定役(例えば、遊技性の他の例(その4)における押し順小役)を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段(例えば、メインCPU101)と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段(例えば、メインCPU101)と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段(例えば、メインCPU101)と、を備えた遊技機であって、

遊技状態として、通常遊技状態(例えば、遊技性の他の例(その4)におけるRT0状態)、特別遊技状態、特殊遊技状態(例えば、遊技性の他の例(その4)におけるBB状態)、第1特定遊技状態(例えば、遊技性の他の例(その4)におけるRT1状態)及び

10

20

30

40

50

第 2 特定遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 4）における R T 2 状態）を有し、

前記図柄表示手段に特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4）における B B に係る図柄の組合せ）が表示された場合に前記特別遊技状態を開始させ、特別終了条件が成立した場合に前記特別遊技状態を終了させる制御が可能な特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、

前記図柄表示手段に特殊図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4）における M B に係る図柄の組合せ）が表示された場合に前記特殊遊技状態を開始させ、特殊終了条件が成立した場合に前記特殊遊技状態を終了させる制御が可能な特殊遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、

前記図柄表示手段に特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 4）におけるベルこぼし目）が表示された場合に前記第 1 特定遊技状態を開始させ、特定終了条件が成立した場合に前記第 1 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 1 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、

前記特別役が内部当籤役として決定された場合に前記第 2 特定遊技状態を開始させ、前記特別遊技状態が開始される場合に前記第 2 特定遊技状態を終了させる制御が可能な第 2 特定遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1）と、

遊技者の停止操作に関する操作情報を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタ）と、を備え、

前記特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せが表示されることが許可される特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 4）における B B 許可状態）を継続させ、

前記特殊役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せが表示されることが許可される特殊許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 4）における M B 許可状態）を継続させ、

前記内部当籤役決定手段は、

前記特別許可状態において、前記特殊役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記特殊許可状態において、前記特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記特別許可状態及び前記特殊許可状態のいずれでもない前記通常遊技状態及び前記第 1 特定遊技状態において、前記特別役又は前記特殊役を内部当籤役として決定可能とし、

前記第 1 特定遊技状態制御手段は、前記特別許可状態及び前記特殊許可状態でない前記通常遊技状態において、前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せが表示された場合に、前記第 1 特定遊技状態を開始させ、

前記特定終了条件は、規定数（例えば、1 5 0 0 ゲーム）の遊技が行われた場合に成立し、前記特殊遊技状態が開始される場合には成立せず、

前記停止制御手段は、

前記特別許可状態である前記第 2 特定遊技状態においては前記図柄表示手段に前記特別図柄の組合せを表示させることを困難とせず、

前記特殊許可状態である前記第 1 特定遊技状態においては前記図柄表示手段に前記特殊図柄の組合せを表示させることを困難とし、

前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の態様で停止操作が行われた場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とせず、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記特典付与手段は、前記特定役が内部当籤役として決定された場合、前記特定の態様で停止操作が行われた場合には特定数の遊技価値の付与を可能とし、前記特定の態様で停止操作が行われなかった場合には前記特定数の遊技価値の付与を可能とせず、

特定の報知条件が成立した場合、前記通常遊技状態及び前記第 1 特定遊技状態における特定期間を、前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間

10

20

30

40

50

(例えば、有利区間)とすることが可能であることを特徴とする遊技機。

【1784】

少なくとも前記第1特定遊技状態において前記報知手段により前記特定の態様に関する前記操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能することを特徴とする遊技機。

【1785】

上記構成の遊技機によれば、特別役に当籤した場合には特別許可状態となって第2特定遊技状態に移行し、特別図柄の組合せを表示させて特別遊技状態に移行させることを困難としない一方、特殊役に当籤した場合には特殊許可状態となるが遊技状態は移行せず、第1特定遊技状態であれば、規定数の遊技が行われて当該第1特定遊技状態が終了するまで特殊図柄の組合せを表示させて特殊遊技状態に移行させることを困難とし、その結果として通常遊技状態に移行させることを困難とする。また、第1特定遊技状態には、特別許可状態及び特殊許可状態でない通常遊技状態において特定役に当籤した場合に、特定の態様で停止操作が行われずに特定図柄の組合せが表示されたことに基づいて移行する。そして、特定の報知条件が成立した場合、通常遊技状態及び第1特定遊技状態における特定期間では、特定役に当籤したときに特定の態様に関する操作情報が報知され、報知にしたがって停止操作が行われれば、特定図柄の組合せは表示されず、規定数の遊技価値が付与される。

【1786】

ここで、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態において、特定役に当籤したときに特定図柄の組合せが表示されて第1特定遊技状態に移行する前に、特別役又は特殊役に当籤して特別許可状態(第2特定遊技状態)又は特殊許可状態となれば、特別遊技状態又は特殊遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。また、第1特定遊技状態であっても、特別役に当籤して特別許可状態(第2特定遊技状態)となれば、特別遊技状態を経由して再度通常遊技状態において遊技を行うことができる。一方、第1特定遊技状態において、特殊役に当籤して特殊許可状態となると、規定数の遊技が行われるまで再度通常遊技状態において遊技を行うことが困難となる。

【1787】

かかる遊技性の下、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態(あるいは特殊遊技状態)への移行を繰り返す(すなわち、遊技者に有利な遊技期間を継続させる)ことが可能となるのみならず、特定役に当籤したときに付与される遊技価値も増加することになる。また、第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となった場合には、例えば、特殊許可状態であれば特殊遊技状態を経由して通常遊技状態に移行させることは困難であるものの、特定役に当籤したときに付与される遊技価値は増加することになる。また、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間となっていない場合であっても、第1特定遊技状態に移行することなく特別遊技状態(あるいは特殊遊技状態)への移行を繰り返すことができる場合もある。

【1788】

すなわち、上記構成の遊技機によれば、通常遊技状態若しくは第1特定遊技状態であるか、通常遊技状態において特別役、特殊役若しくは特定役がどのような順番で当籤するか、第1特定遊技状態において特別役若しくは特殊役がどのような順番で当籤するか、通常遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、又は第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される特定期間であるか否か、などに応じて遊技者の有利度合いを多彩に変動させることが可能となる。それゆえ、遊技意欲や興趣を向上させることができる。

【1789】

なお、上記構成の遊技機において、少なくとも第1特定遊技状態において特定の態様に関する操作情報が報知される期間は、遊技価値が増加する増加期間として機能させるようにしてもよい。このようにすれば、第1特定遊技状態であっても遊技価値が増加する場合

があることから、通常遊技状態に移行することが困難な特定遊技状態中であっても、遊技の興趣を維持させることができる。

【 1 7 9 0 】

[第 2 3 及び第 2 4 の構成の遊技機]

従来の遊技機において、特別役（例えば、ボーナス役）の持ち越し状態中において、特定の条件が満たされた場合に、遊技者に有利な有利状態（例えば、ART 状態）に移行させることを可能にしたものが知られている（例えば、特開 2 0 1 5 - 7 3 8 1 0 号公報参照）。

【 1 7 9 1 】

ところで、このような遊技機では、有利状態中の単位遊技あたりの遊技価値の付与量（遊技価値の増加量を示す傾斜値）は一定の値となるように設計される。このため、遊技性の変化に乏しいという問題があった。

【 1 7 9 2 】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、有利状態中の遊技価値の増加量を示す傾斜値を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【 1 7 9 3 】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第 2 3 の遊技機を提供することができる。

【 1 7 9 4 】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R 及び図柄表示領域 4 ）と、

第 1 特別役（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 1 ）、第 2 特別役（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 3 ）、第 1 所定役（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における押し順小役 1 , 3 , 5 ）及び第 2 所定役（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における押し順小役 2 , 4 , 6 ）を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、を備えた遊技機であって、

前記図柄表示手段に第 1 特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 1 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 1 特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 1 状態）を開始させる制御が可能な第 1 特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

前記図柄表示手段に第 2 特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 3 に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第 2 特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 3 状態）を開始させる制御が可能な第 2 特別遊技状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メイン C P U 1 0 1 ）と、を備え、

前記第 1 特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せが表示されることが許可される第 1 特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 1 フラグ間）を継続させ、

前記第 2 特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せが表示されることが許可される第 2 特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その 5 ）における B B 3 フラグ間）を継続させ、

10

20

30

40

50

前記内部当籤役決定手段は、前記第 1 特別許可状態及び前記第 2 特別許可状態のいずれでもない場合に、前記第 1 特別役及び前記第 2 特別役のそれぞれを、他の内部当籤役と重複することなく内部当籤役として決定可能であり、

前記停止制御手段は、

前記第 1 特別役が内部当籤役として決定された遊技、及び前記第 1 特別許可状態において他の内部当籤役が決定されなかった遊技において、遊技者の停止操作のタイミングが適切である場合に、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記第 2 特別役が内部当籤役として決定された遊技、及び前記第 2 特別許可状態において他の内部当籤役が決定されなかった遊技において、遊技者の停止操作のタイミングが適切である場合に、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記第 1 特別許可状態において、前記第 1 所定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者の停止操作の順序にかかわらず、前記図柄表示手段に所定数（例えば、9 枚）の遊技価値が付与される所定図柄の組合せを表示させ、

前記第 1 特別許可状態において、前記第 2 所定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者の停止操作の順序にかかわらず、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させず、

前記第 2 特別許可状態において、前記第 1 所定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者の停止操作の順序が適切である場合に、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させる一方、遊技者の停止操作の順序が適切でない場合には、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させず、

前記第 2 特別許可状態において、前記第 2 所定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者の停止操作の順序が適切である場合に、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させる一方、遊技者の停止操作の順序が適切でない場合には、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させず、

前記有利状態制御手段は、特定の有利条件が成立した場合、少なくとも前記第 2 特別許可状態における特定期間を、前記有利状態とすることが可能であり、

前記有利状態において、前記第 1 所定役及び前記第 2 所定役のいずれかが内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させるための遊技者の停止操作の順序が報知されることを特徴とする遊技機。

【1795】

前記内部当籤役決定手段は、

前記第 1 特別役を第 1 の確率（例えば、1 / 100）で内部当籤役として決定し、

前記第 2 特別役を前記第 1 の確率よりも低い第 2 の確率（例えば、1 / 450）で内部当籤役として決定し、

前記第 1 特別許可状態において他の内部当籤役が決定されない確率（例えば、1 / 4000）は、前記第 2 特別許可状態において他の内部当籤役が決定されない確率（例えば、1 / 65536）よりも高いことを特徴とする遊技機。

【1796】

前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せを表示させることが可能な遊技者の停止操作のタイミングは、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せを表示させることが可能な遊技者の停止操作のタイミングと重複しないことを特徴とする遊技機。

【1797】

前記第 1 特別役又は前記第 2 特別役が内部当籤役として決定された遊技において、前記第 1 特別役又は前記第 2 特別役のいずれかが内部当籤役として決定された旨は報知可能とするが、その種別を報知可能としない所定報知（例えば、ボーナス当籤報知）を実行可能な所定報知実行手段（例えば、表示装置 11）と、

前記第 1 特別許可状態において、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せが表示されることが許可されている旨を報知可能とし、前記第 2 特別許可状態において、前記図

10

20

30

40

50

柄表示手段に前記第２特別図柄の組合せが表示されることが許可されている旨を報知可能とする特定報知（例えば、ボーナス種別報知）を実行可能な特定報知実行手段（例えば、表示装置１１）と、をさらに備えたことを特徴とする遊技機。

【１７９８】

上記構成の遊技機によれば、第１特別役又は第２特別役に当籤した場合、当該遊技か、あるいは当籤後の第１特別許可状態又は第２特別許可状態において他の内部当籤役が決定されなかった（いわゆる、ハズレとなった）遊技でなければ第１特別図柄の組合せ又は第２特別図柄の組合せを表示できない。また、第１特別許可状態では、第１所定役に当籤した場合、押し順不問で所定数の遊技価値が付与され、第２所定役に当籤した場合、押し順不問で所定数の遊技価値が付与されない。一方、第２特別許可状態では、第１所定役又は第２所定役に当籤した場合に、押し順正解であれば所定数の遊技価値が付与され、押し順不正解であれば所定数の遊技価値は付与されない。そして、少なくとも第２特別許可状態の特定期間では、遊技者の停止操作の情報が報知される有利状態に制御されることが可能である。

10

【１７９９】

すなわち、第１特別役に当籤し、当該遊技で第１特別図柄の組合せが表示されなかった場合には、その後第１特別許可状態が終了するまで第１所定役及び第２所定役は押し順によって利益が変動しないものとなり、遊技者は一定の利益を受けることができる反面、その利益が飛躍的に増加することもないため、たとえ有利状態となったとしてもその遊技価値の増加量を示す傾斜値は相対的に低いものとなる。一方、第２特別役に当籤し、当該遊技で第２特別図柄の組合せが表示されなかった場合には、その後第２特別許可状態が終了するまで第１所定役及び第２所定役は押し順によって利益が変動するものとなり、遊技者は第１特別許可状態よりも不利益を被る可能性がある反面、有利状態となればその利益が飛躍的に増加するようになるため、有利状態における遊技価値の増加量を示す傾斜値は相対的に高いものとなる。それゆえ、有利状態中の遊技価値の増加量を示す傾斜値を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとすることができる。

20

【１８００】

なお、上記構成の遊技機において、第１特別役の当籤確率を第２特別役の当籤確率よりも高くするとともに、第１特別許可状態において第１特別図柄の組合せが表示可能な確率を第２特別許可状態において第２特別図柄の組合せが表示可能な確率よりも高くするようにしてもよい。すなわち、第１特別許可状態を、第２特別許可状態よりも移行しやすく終了しやすい状態とし、第２特別許可状態を、第１特別許可状態よりも移行しにくく終了しにくい状態としてもよい。このようにすれば、射幸性を適度なものとしつつも遊技の興趣を維持することができる。

30

【１８０１】

また、上記構成の遊技機において、第１特別役に係る第１特別図柄の組合せと第２特別役に係る第２特別図柄の組合せは、遊技者が目押しをする場合に、同時には狙えない間隔で配置されるように構成してもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１８０２】

また、上記構成の遊技機において、第１特別役又は第２特別役に当籤した場合には、いずれかに当籤した旨は報知するが、その種別までは報知せず、第１特別許可状態及び第２特別許可状態においては、その種別が報知されるようにしてもよい。このようにすれば、遊技性をさらに変化に富んだものとしつつ、遊技者の所望する情報を報知することができる。

40

【１８０３】

また、上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第２４の遊技機を提供することができる。

【１８０４】

複数の図柄を複数列に変動表示可能な図柄表示手段（例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ

50

及び図柄表示領域４）と、

第１特別役（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ１）、第２特別役（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ２）、及び特定役（例えば、遊技性の他の例（その６）における「Ｆ__リプＢ」）を含む複数の役の中から内部当籤役を決定可能な内部当籤役決定手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づいて、図柄の変動表示を停止可能な停止制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記停止制御手段により図柄の変動表示が停止された場合に、前記図柄表示手段に表示された図柄の組合せに応じた特典を付与可能な特典付与手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、を備えた遊技機であって、

前記図柄表示手段に第１特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ１に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第１特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ１状態）を開始させる制御が可能な第１特別遊技状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

前記図柄表示手段に第２特別図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ２に係る図柄の組合せ）が表示された場合に第２特別遊技状態（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ２状態）を開始させる制御が可能な第２特別遊技状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、

遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、有利区間）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ１０１）と、を備え、

前記第１特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第１特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第１特別図柄の組合せが表示されることが許可される第１特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ１フラグ間）を継続させ、

前記第２特別役が内部当籤役として決定された場合、前記図柄表示手段に前記第２特別図柄の組合せが表示されるまで、前記図柄表示手段に前記第２特別図柄の組合せが表示されることが許可される第２特別許可状態（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるＢＢ２フラグ間）を継続させ、

前記内部当籤役決定手段は、

前記第１特別許可状態及び前記第２特別許可状態のいずれでもない場合であって、ベットされた遊技価値が第１の量（例えば、３枚）であるとき、前記第１特別役を内部当籤役として決定可能とし、ベットされた遊技価値が第２の量（例えば、２枚）であるとき、前記第１特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記第１特別許可状態及び前記第２特別許可状態のいずれでもない場合であって、ベットされた遊技価値が前記第２の量であるとき、前記第２特別役を内部当籤役として決定可能とし、ベットされた遊技価値が前記第１の量であるとき、前記第２特別役を内部当籤役として決定可能とせず、

前記停止制御手段は、

前記特定役が内部当籤役として決定された場合、前記第１特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に特定図柄の組合せ（例えば、遊技性の他の例（その６）におけるチャンス目）を表示させることを可能とせず、前記第２特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せを表示させることを可能とし、

前記有利状態制御手段は、

ベットされた遊技価値が前記第１の量であるとき、少なくとも前記特定役が内部当籤役として決定された場合であって前記図柄表示手段に前記特定図柄の組合せが表示される場合に、前記有利状態を付与するか否かを決定可能とし、

ベットされた遊技価値が前記第２の量であるとき、前記有利状態を付与するか否かを決定可能としないことを特徴とする遊技機。

【１８０５】

前記停止制御手段は、

10

20

30

40

50

ベットされた遊技価値が前記第 1 の量であるとき、前記第 1 特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せを表示させることを可能とし、前記第 2 特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せを表示させることを可能とせず、

ベットされた遊技価値が前記第 2 の量であるとき、前記第 2 特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に前記第 2 特別図柄の組合せを表示させることを可能とし、前記第 1 特別許可状態である場合には、前記図柄表示手段に前記第 1 特別図柄の組合せを表示させることを可能としないことを特徴とする遊技機。

【1806】

前記内部当籤役決定手段は、さらに第 1 所定役（例えば、遊技性の他の例（その 6）における押し順ベル A）及び第 2 所定役（例えば、遊技性の他の例（その 6）における押し順ベル B）を内部当籤役として決定可能であり、

前記停止制御手段は、

前記第 1 所定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者の停止操作の態様が適切であれば、前記図柄表示手段に所定数の遊技価値が付与される所定図柄の組合せを表示させる一方、遊技者の停止操作の態様が適切でなければ、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させず、

前記第 2 所定役が内部当籤役として決定された場合、ベットされた遊技価値が前記第 1 の量であって前記第 1 特別許可状態である場合には、遊技者の停止操作の態様にかかわらず、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させ、ベットされた遊技価値が前記第 1 の量であって前記第 2 特別許可状態である場合、及びベットされた遊技価値が前記第 2 の量である場合には、遊技者の停止操作の態様が適切であれば、前記所定図柄の組合せを表示させる一方、遊技者の停止操作の態様が適切でなければ、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させず、

前記有利状態においては、前記図柄表示手段に前記所定図柄の組合せを表示させるための遊技者の停止操作の態様を示す情報が報知されることを特徴とする遊技機。

【1807】

上記構成の遊技機によれば、ベットされた遊技価値が第 1 の量である場合、第 1 特別役に当籤可能とする一方、第 2 特別役に当籤可能としない。また、ベットされた遊技価値が第 2 の量である場合、第 2 特別役に当籤可能とする一方、第 1 特別役に当籤可能としない。また、特定役に当籤した場合、第 1 特別許可状態であれば特定図柄の組合せを表示可能とせず、第 2 特別許可状態であれば特定図柄の組合せを表示可能とする。そして、ベットされた遊技価値が第 1 の量であるとき、特定役が内部当籤役として決定された場合であって特定図柄の組合せが表示される場合には、有利状態を付与するか否かを決定可能とし、ベットされた遊技価値が第 2 の量であるとき、有利状態を付与するか否かを決定可能としない。

【1808】

また、上記構成の遊技機によれば、ベットされた遊技価値が第 1 の量である場合、第 1 特別図柄の組合せを表示可能とする一方、第 2 特別図柄の組合せを表示可能としない。また、ベットされた遊技価値が第 2 の量である場合、第 2 特別図柄の組合せを表示可能とする一方、第 1 特別図柄の組合せを表示可能としないようにしてもよい。

【1809】

すなわち、上記構成の遊技機によれば、遊技が行われる状態として、例えば、第 1 特別許可状態であって第 1 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態、第 2 特別許可状態であって第 1 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態、第 1 特別許可状態であって第 2 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態、及び第 2 特別許可状態であって第 2 の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態、という複数の状態を創出することができる。

【1810】

そして、上記構成の遊技機によれば、例えば、第 2 特別許可状態であって第 1 の量の遊

技価値がベットされて遊技が行われる状態を有利状態の付与が優遇される状態とし、第2の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態を有利状態の付与が行われない状態としている。すなわち、有利状態の付与に関し、いずれの量の遊技価値がベットされるか、及びいずれの特別役が当籤しているか、などによって遊技者の有利度合いを変動させることを可能としている。それゆえ、有利状態中の遊技価値の増加量を示す傾斜値を変動可能とすることで、遊技性を変化に富んだものとするができる。

【1811】

なお、上記構成の遊技機において、第1所定役に当籤した場合には、いずれの状態であるかにかかわらず、例えば、押し順正解であれば所定数の遊技価値が付与され、押し順不正解であれば所定数の遊技価値は付与されないし、第2所定役に当籤した場合には、第1特別許可状態であって第1の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態にあっては、例えば、押し順不問で所定数の遊技価値が付与される一方、その他の状態にあっては、第1所定役と同様の制御が行われるようにしてもよい。このようにすれば、第1特別許可状態であって第1の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる状態を所定役当籤時において遊技価値の付与が優遇される状態とすることができるため、遊技性をより変化に富んだものとすることができる。

【1812】

[第25の構成の遊技機]

A T機能を有する遊技機において、長期間にわたってA T機能が発動しない場合には、遊技者は著しく不利な状況に陥り、遊技に対する興味を失ってしまう。そこで、A T機能が発動しないまま一定期間が経過した場合に、救済措置としてA T抽籤の結果に関係なくA T機能を発動する遊技機（所謂、天井）が知られており、例えば、特開2017-064539号公報には、天井に到達するまでの期間を固定せず変化をつけることで、稼働の向上を狙った遊技機が記載されている。

【1813】

このような救済措置としての天井を発動させる場合、天井に到達するまでの期間は任意に設定することができ、例えば、所定回数の遊技が行われた場合に天井を発動させるゲーム数天井や、A T抽籤が優遇されるチャンスゾーン（C Z）を所定回数行ったにもかかわらずA T機能が発動しない場合に天井を発動させるスルー回数天井といった方法などが知られている。

【1814】

ところで、近年の遊技機では、通常区間よりも遊技者にとって有利な状態（所謂、有利区間）を終了させる場合、終了させる有利な状態に関する全ての情報をリセット（初期化）しなければならず、このような遊技機では、有利区間（C Z）をスルーした回数を把握することができず、従来のスルー回数天井のような有利区間のスルー回数に基づく天井制御が困難になってしまうという問題があった。

【1815】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、終了時に関連する情報がリセットされてしまう状態が複数回終了した場合に救済措置としての天井を発動可能な遊技機を提供することを目的とする。

【1816】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第25の遊技機を提供することができる。

【1817】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備える遊技機であって、再遊技役が当籤役として決定される確率が異なるR T状態として複数段階のR T状態（例えば、R T1～R T6）を有するとともに、遊技に関する遊技状態として、通常状態（例えば、通常区間）と、第1所定状態（例えば、有利区間中のC Z）及び当

該第 1 所定状態よりも遊技者にとって有利な第 2 所定状態（例えば、有利区間中の A R T）とを少なくとも含む所定状態（例えば、有利区間）と、を有し、現在の R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行可能な R T 制御手段（例えば、主制御回路 9 0）と、R T 状態を移行させるために必要な情報を報知可能な報知手段（例えば、主制御回路 9 0）と、前記通常状態において第 1 条件（例えば、有利区間への移行抽籤に当籤）が満たされると、前記第 1 所定状態に遊技状態を移行可能な第 1 状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0）と、を更に備え、前記報知手段は、前記第 1 状態制御手段により前記遊技状態が前記第 1 所定状態に移行すると、R T 状態を現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な情報を報知可能であり、前記第 1 所定状態において第 2 条件（例えば、A R T への移行抽籤に当籤）が満たされると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行可能、かつ、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行可能な第 2 状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0）、を更に備え、前記第 2 状態制御手段は、所定段階目の R T 状態（例えば、R T 1 ~ R T 4）における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記終了条件が満たされると、前記通常状態に遊技状態を移行する一方で、所定段階目よりも先の特定段階目の R T 状態（例えば、R T 5）における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされない場合であっても、前記通常状態に遊技状態を移行することなく、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行することの特徴とする。

10

【1818】

20

このような遊技機によれば、通常状態から第 1 所定状態（例えば、C Z）に移行すると、R T 状態が先の段階に進むため、第 2 所定状態への移行条件（第 2 条件）を満たすことなく第 1 所定状態が終了した場合であっても、第 1 所定状態の前後において R T 状態が異なる（先の段階に進む）ことになる。ここで通常の遊技機では、第 1 所定状態の終了時に、所定状態に関する情報を初期化した場合、第 2 所定状態に移行することなく終了した第 1 所定状態の回数（スルー回数）を把握することができないものの、本発明に係る遊技機では、第 1 所定状態の前後において R T 状態を異ならせることで、所定状態とは別の R T 状態に関する情報（R T 状態の段階）から第 1 所定状態のスルー回数を把握することができる。そして、本発明に係る遊技機では、特定段階目の R T 状態において第 1 所定状態に移行した場合には、第 2 所定条件への移行条件（第 2 条件）の成立の有無に関係なく、遊技状態を第 2 所定状態（例えば、A R T）へ移行することで、第 1 所定状態のスルー回数に基づき、第 2 所定状態の天井を発動することができる。

30

【1819】

また、本発明に係る遊技機において、前記第 2 状態制御手段は、前記所定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 1 所定状態において前記報知手段により現在の R T 状態よりも先の段階の R T 状態に移行させるために必要な前記情報が報知された後に所定期間（例えば、100 回の遊技）が経過すると、前記終了条件が満たされたとして、前記通常状態に遊技状態を移行し、前記特定段階目の R T 状態における前記第 1 所定状態では、前記第 2 条件が満たされることなく前記所定期間又は前記所定期間よりも短い特定期間（例えば、30 回の遊技）が経過すると、前記第 2 所定状態に遊技状態を移行することの特徴とする。

40

【1820】

このような遊技機によれば、天井到達前の第 1 所定状態では、第 1 所定状態を所定期間継続させた後に通常状態に遊技状態を移行させるため、天井到達までに要する遊技期間を一定量（＝所定期間×スルー回数（R T 状態の段階数））確保することができる。その結果、通常状態から第 1 所定状態への移行が運良く高頻度で行われてしまった場合であっても、天井到達までには必ず一定期間以上の遊技が行われることになるため、必要以上に早期に天井到達になってしまうことを防止でき、遊技者の利益／不利益のバランスを調整することができる。

【1821】

50

また、本発明に係る遊技機は、全遊技期間における前記所定状態中の期間が所定割合になるように遊技状態が制御される遊技機であって、前記第1状態制御手段は、前記通常状態において、遊技状態を前記第1所定状態に移行すると所定の確率で決定すると、前記第1条件が満たされたとして、前記第1所定状態に遊技状態を移行することを特徴とする。

【1822】

近年の遊技機では、遊技者に過度な利益を付与してしまうことを防止するため、全遊技期間における所定状態中の期間が所定割合になるように遊技状態を制御することが求められている。この点、本発明に係る遊技機では、天井到達までに要する所定状態以外（通常状態）の遊技期間を一定量（＝所定の確率に当籤するまでに要する期間×スルー回数（RT状態の段階数））確保することができる。その結果、天井到達後に継続可能な第2所定状態の期間を十分に確保しつつ、全遊技期間における所定状態中の期間を所定割合に収めることができる。

【1823】

[第26の構成の遊技機]

AT機能を有する遊技機において、長期間にわたってAT機能が発動しない場合には、遊技者は著しく不利な状況に陥り、遊技に対する興味を失ってしまう。そこで、AT機能が発動しないまま一定期間が経過した場合に、救済措置としてAT抽籤の結果に関係なくAT機能を発動する遊技機（所謂、天井）が知られており、例えば、特開2017-064539号公報には、天井に到達するまでの期間を固定せず変化をつけることで、稼働の向上を狙った遊技機が記載されている。

【1824】

ところで、このような天井機能を有する遊技機として、天井到達時に付与する特典を、通常時の特典よりも大きくする遊技機も知られているが、天井到達時の特典が大きすぎると遊技者が遊技に過度にのめり込んでしまう恐れがあるため、好ましくない。一方で、せっかく天井まで到達したにもかかわらず早期にATが終了してしまったのでは、遊技者の遊技意欲が削がれてしまい、稼働の低下を招いてしまう。

【1825】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、過度なめり込みを防止しつつ、遊技意欲の低下を抑制可能な遊技機を提供することを目的とする。

【1826】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第26の遊技機を提供することができる。

【1827】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備える遊技機であって、遊技に関する遊技状態として、第1状態（例えば、一般状態）と第2状態（例えば、有利状態）とを有し、前記第1状態において所定条件を満たすと、遊技状態を前記第2状態に移行する通常移行制御を実行可能であるとともに、前記第1状態に関連して計数される第1数値情報が天井閾値に達すると、遊技状態を前記第2状態に移行する天井移行制御を実行可能な状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記第2状態の継続期間を定める第2数値情報を計数可能な継続期間計数手段（例えば、主制御回路90）と、前記第2状態における遊技の結果に応じて、前記継続期間計数手段が計数する前記第2数値情報を更新可能であるとともに、更新の結果、前記第2数値情報が終了閾値に達すると、前記第2状態を終了可能な終了制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記状態制御手段が遊技状態を前記第2状態に移行する場合に、移行する前記第2状態の継続期間を定める前記第2数値情報の初期値を設定可能な初期期間設定手段（例えば、主制御回路90）と、前記第2状態において、前記第2状態の継続期間が延長されるように前記第2数値情報を更新する上乗せ制御を実行可能な上乗せ制御手段（例えば、主制御回路90）と、を更に備え、前記初期期間設定手段は、前記通常移行制御により前記第2状態に移行

した場合、第 1 初期値を設定する一方で、前記天井移行制御により前記第 2 状態に移行した場合、前記第 1 初期値よりも前記第 2 状態の継続期間が長い第 2 初期値を設定し、前記上乗せ制御手段は、前記通常移行制御により移行した前記第 2 状態においては、前記第 2 状態の継続期間の延長に関する期待度が第 1 期待度の前記上乗せ制御を実行し、前記天井移行制御により移行した前記第 2 状態においては、前記第 1 期待度よりも前記第 2 状態の継続期間の延長に関する期待度が低い第 2 期待度の前記上乗せ制御を実行することを特徴とする。

【 1 8 2 8 】

このような遊技機によれば、通常移行制御により移行した第 2 状態は、継続期間の初期値が少ない一方で、継続期間の上乗せ期待度が高く、反対に、天井移行制御により移行した第 2 状態は、継続期間の初期値が多い一方で、継続期間の上乗せ期待度が低い。このように継続期間の初期値を、天井移行制御により移行した第 2 状態において多くすることで、天井到達時に早期に第 2 状態が終了してしまうことがなく、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。一方で、天井移行制御により移行した第 2 状態では上乗せ性能が低下するため、遊技者は敢えて天井を目指す必要はなく、遊技者が遊技に過度にのめり込んでしまうことを防止することができる。すなわち、本発明に係る遊技機では、天井到達時にあたかも大きな恩恵があるように感じさせることができる一方で、継続期間の初期値に対して上乗せ性能を調整することで、第 2 状態の 1 回あたりの期待値を天井時と通常時とで合わせることができ、過度なめり込みを防止できる。

【 1 8 2 9 】

また、本発明に係る遊技機において、前記初期期間設定手段、及び / 又は前記上乗せ制御手段は、前記通常移行制御により移行した前記第 2 状態の継続期間の期待値と、前記天井移行制御により移行した前記第 2 状態の継続期間の期待値とが略同一となるように、前記初期値の設定、及び / 又は前記上乗せ制御を実行することを特徴とする。

【 1 8 3 0 】

このような遊技機によっても、上述の遊技機と同様に過度なめり込みを防止しつつ、遊技意欲の低下を抑制することができる。

【 1 8 3 1 】

[第 2 7 の構成の遊技機]

A T 機能を有する遊技機では、遊技者に付与する利益が過度になり過ぎてしまうことを防止するための工夫が様々なされており、例えば、特開 2 0 1 7 - 1 5 3 7 2 4 号公報には、報知期間 (A T) が長期間にわたり継続すると (例えば、1 5 0 0 回)、残りのゲーム数に関わらず強制的に報知期間を終了させるリミット処理を行う遊技機が開示されている。

【 1 8 3 2 】

ところで、従来の遊技機では、遊技者に付与する利益を抑えることで、めり込みを防止することとしているが、射幸性を適切に抑制するためには、遊技者に付与する利益だけでなく、遊技者が受ける不利益も適切に調整し、利益 / 不利益のバランスを図る必要がある。

【 1 8 3 3 】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、遊技者が受ける利益 / 不利益のバランスを適切に調整可能な遊技機を提供することを目的とする。

【 1 8 3 4 】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第 2 7 の遊技機を提供することができる。

【 1 8 3 5 】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段 (例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R) と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段の変動表示を停止させることで結果表示を導出可能な停止制御手段 (例えば、主制御回路 9 0) と、導出された結果表示に応じて利益を付与する利益付与手段 (例えば、主制御回

10

20

30

40

50

路 90) と、を備える遊技機であって、再遊技役が当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として、第 1 R T 状態と第 2 R T 状態とを有し、前記停止制御手段により前記可変表示手段の変動表示が停止された結果、特定役 (例えば、M B 役) に応じた結果表示が導出されると、ボーナス遊技 (例えば、M B 状態) を開始し、前記ボーナス遊技の終了条件を満たすと、前記ボーナス遊技を終了する遊技制御手段 (例えば、主制御回路 90) と、前記ボーナス遊技の前後、及び前記ボーナス遊技の最中は R T 状態を移行させることなく現在の R T 状態を維持する一方で、特定の移行条件を満たした場合に現在の R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行する R T 制御手段 (例えば、主制御回路 90) と、を更に備え、前記停止制御手段は、前記ボーナス遊技において前記再遊技役が当籤役として決定されない場合 (例えば、「全ての小役」に当籤) には、第 1 の結果表示を導出可能であり、前記ボーナス遊技において前記再遊技役が当籤役として決定された場合 (例えば、「全ての小役 + リプレイ」に当籤) には、前記第 1 の結果表示とは異なる第 2 の結果表示を導出可能であり、前記利益付与手段は、前記第 1 の結果表示が導出された場合と、前記第 2 の結果表示が導出された場合とで、異なる数量の遊技用価値を付与可能であることを特徴とする遊技機。

10

【1836】

このような遊技機によれば、ボーナス遊技では、再遊技役の当籤の有無に応じて導出される結果表示が異なり、結果、付与される遊技用価値の数量が異なる。ここで、再遊技役は、当籤役として決定される確率が R T 状態に応じて異なり、また、R T 状態は、ボーナス遊技の前後及び最中には移行することがない。そのため、再遊技役が当籤役として決定される確率が高い R T 状態中にボーナス遊技が開始された場合と、再遊技役が当籤役として決定される確率が低い R T 状態中にボーナス遊技が開始された場合とで、そのボーナス遊技の有利度合いを異ならせることができる。これにより、本発明に係る遊技機では、遊技者が受ける利益 / 不利益のバランスを適切に調整することができる。

20

【1837】

また、本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段 (例えば、リール 3 L, 3 C, 3 R) と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段の変動表示を停止させることで結果表示を導出可能な停止制御手段 (例えば、主制御回路 90) と、導出された結果表示に応じて利益を付与する利益付与手段 (例えば、主制御回路 90) と、を備える遊技機であって、再遊技役が当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として、第 1 再遊技役 (例えば、リプレイ A) が当籤役として決定される確率が高く、第 2 再遊技役 (例えば、リプレイ B) が当籤役として決定される確率が低い第 1 R T 状態と、前記第 1 再遊技役が当籤役として決定される確率が低く、前記第 2 再遊技役が当籤役として決定される確率が高い第 2 R T 状態とを有し、前記停止制御手段により前記可変表示手段の変動表示が停止された結果、特定役 (例えば、M B 役) に応じた結果表示が導出されると、ボーナス遊技 (例えば、M B 状態) を開始し、前記ボーナス遊技の終了条件を満たすと、前記ボーナス遊技を終了する遊技制御手段 (例えば、主制御回路 90) と、前記ボーナス遊技の前後、及び前記ボーナス遊技の最中は R T 状態を移行させることなく現在の R T 状態を維持する一方で、特定の移行条件を満たした場合に現在の R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行する R T 制御手段 (例えば、主制御回路 90) と、を更に備え、前記停止制御手段は、前記ボーナス遊技において前記第 1 再遊技役及び前記第 2 再遊技役の何れも当籤役として決定されない場合 (例えば、「全ての小役」に当籤) には、第 1 の結果表示 (例えば、表示役 A) を導出可能であり、また、前記ボーナス遊技において前記第 1 再遊技役が当籤役として決定された場合 (例えば、「全ての小役 + リプレイ A」に当籤) には、前記第 1 の結果表示を導出可能であり、また、前記ボーナス遊技において前記第 1 再遊技役が当籤役として決定された場合 (例えば、「全ての小役 + リプレイ B」に当籤) には、前記第 1 の結果表示とは異なる第 2 の結果表示 (例えば、表示役 B) を導出可能であり、前記利益付与手段は、前記第 1 の結果表示が導出された場合には、今回の遊技に用いた遊技用価値以下の数量の遊技用価値を付与可能であり、前記第 2 の結果表示が導出された場合には、今回の遊技に用いた遊技用価値よりも多い数量の遊

30

40

50

技用価値を付与可能であることを特徴とする。

【 1 8 3 8 】

このような遊技機によれば、ボーナス遊技において第2再遊技役が当籤役として決定された場合には、今回の遊技に用いた遊技用価値よりも多くの遊技用価値が付与される一方で、ボーナス遊技において第2再遊技役が当籤役として決定されない場合には、今回の遊技に用いた遊技用価値以下の遊技用価値が付与される。そして、第2再遊技役は、当籤役として決定される確率がRT状態に応じて異なり、また、RT状態は、ボーナス遊技の前後及び最中には移行することがない。そのため、第2再遊技役が当籤役として決定される確率が高い第2RT状態中にボーナス遊技が開始された場合には、そのボーナス遊技を遊技者にとって有利な状態とすることができ、反対に、第2再遊技役が当籤役として決定される確率が低い第1RT状態中にボーナス遊技が開始された場合には、そのボーナス遊技を遊技者にとって現状維持又は不利な状態とすることができる。このようにボーナス遊技の有利度合いをRT状態に応じて異ならせることで、ボーナス遊技中に遊技者に付与する利益を抑えることができる。一方で、第1RT状態中のボーナス遊技であっても、遊技者には、一定量の遊技用価値が付与されるため、相対的に不利なボーナス遊技であったとしても遊技者が受ける不利益を抑えることができる。そのため、本発明に係る遊技機では、遊技者が受ける利益／不利益のバランスを適切に調整することができる。

10

【 1 8 3 9 】

また、本発明に係る遊技機において、前記第1RT状態は、前記再遊技役が当籤役として決定される確率が低い低RT状態であり、前記第2RT状態は、前記再遊技役が当籤役として決定される確率が高い高RT状態であることを特徴とする。

20

【 1 8 4 0 】

このようにすることで、高RT状態中のボーナス遊技を遊技者にとって有利な状態とすることができ、また、低RT状態中のボーナス遊技を遊技者にとって現状維持又は不利な状態とすることができる。

【 1 8 4 1 】

[第 2 8 の 構 成 の 遊 技 機]

AT機能を搭載した遊技機によれば、ナビを行うか否かを制御することで遊技者に払い出す遊技媒体の数が制御されるため、遊技者は、ATを継続するATゲーム数（ナビゲーム数）が増加することを望むことになる。ATゲーム数を増加させるための工夫はこれまで様々な観点からなされてきており、例えば、特開2010-057732号公報には、内部当籤役としてスイカやチェリーなどの特定の役が決定されるとATゲーム数を増加させる（ATゲーム数を上乘せさせる）遊技機が開示されている。

30

【 1 8 4 2 】

ところで、従来の遊技機では、今回の遊技において決定された当籤役に応じてATなどの有利な状態の継続期間を延長させるだけであり、有利な状態の継続期間の長さに関して遊技者が介入する余地が少なかった。

【 1 8 4 3 】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、有利な状態の継続期間の長さに関して遊技者が介入可能な遊技機を提供することを目的とする。

40

【 1 8 4 4 】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第28の遊技機を提供することができる。

【 1 8 4 5 】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール3L、3C、3R）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備える遊技機であって、当籤役として決定された場合に、所定の操作態様で停止操作が行われると第1の結果表示を導出可能、かつ、前記所定の操作態様とは異なる操作態様で停止操作が行われると第2の結果表示を導出可能な報知対象役を有し、遊技に関する遊技状態として

50

、第 1 状態（例えば、非報知状態）と第 2 状態（例えば、報知状態）とを有し、前記第 1 状態において所定条件を満たすと、遊技状態を前記第 2 状態に移行可能な状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、前記報知対象役が当籤役として決定された遊技において前記第 1 の結果表示が導出されると、所定数量の遊技用価値を付与可能である一方で、当該遊技において前記第 2 の結果表示が導出されると、前記所定数量よりも少ない遊技用価値を付与可能な利益付与手段（例えば、主制御回路 90）と、前記第 2 状態において前記報知対象役が当籤役として決定されると、前記第 1 の結果表示を導出するために必要な前記所定の操作態様を報知可能な報知手段（例えば、主制御回路 90）と、前記第 2 状態の継続期間を定める数値情報である、前記第 2 状態において前記利益付与手段により付与された遊技用価値の総数を計数可能な継続期間計数手段（例えば、主制御回路 90）と、前記第 2 状態において前記利益付与手段により付与された遊技用価値の数量に応じて前記数値情報を更新可能であるとともに、更新の結果、前記数値情報が終了閾値に達すると、前記第 2 状態を終了可能な継続期間管理手段（例えば、主制御回路 90）と、前記第 2 状態において、前記第 2 状態の継続期間が延長されるように前記数値情報を更新する上乗せ制御を実行可能な上乗せ制御手段（例えば、主制御回路 90）と、を更に備え、前記継続期間管理手段は、前記第 2 状態の前記報知対象役が当籤役として決定された遊技において前記報知手段が前記所定の操作態様を報知した場合であっても、遊技者の停止操作の結果として前記第 2 の結果表示が導出された場合には、導出された前記第 2 の結果表示に応じて付与される遊技用価値の数量に応じて、前記数値情報を更新することの特徴とする。

10

20

30

40

50

【1846】

このような遊技機によれば、報知対象役が当籤役として決定された際に所定の操作態様を報知可能な第 2 状態（有利な状態）は、第 2 状態において付与された遊技用価値の総数（数値情報）が終了閾値に達すると終了するため、所謂、有利な状態を当該状態中の差枚数又は獲得枚数により管理することができる。このとき、本発明に係る遊技機では、第 2 状態中に報知対象役に応じた報知を行っただけでは、数値情報（差枚数や獲得枚数）を更新せず、停止操作の結果として停止した結果表示に伴い実際に付与された遊技用価値の数量に応じて数値情報を更新する。遊技者にとってみれば、報知に従い停止操作を行うことで、多くの遊技用価値を獲得できる一方で有利な状態（第 2 状態）の終了が早まってしまう、反対に、報知に逆らって停止操作を行うことで、遊技用価値の獲得は減るものの有利な状態を継続させることができるため、有利な状態の継続期間の長さに関して遊技者が介入することができる。また、本発明に係る遊技機では、第 2 状態において、継続期間を延長する上乗せ制御を実行可能であるため、報知に逆らい有利な状態を継続させることで、一時的には遊技用価値の獲得を減らしてしまうものの、報知に逆らって伸ばした期間において上乗せ制御を受けることにより、最終的には多くの遊技用価値を獲得する可能性もあるため、従来にない戦略性を持った遊技性を実現することができる。

【1847】

また、本発明に係る遊技機において、当籤役として決定されると、停止操作の態様に関わらず前記利益付与手段により特定数量の遊技用価値が付与される第 3 の結果表示を導出可能な特定役（例えば、引込 1 の役）を更に有し、継続期間管理手段は、複数の役のうちの前記特定役が当籤役として決定されたことに応じて前記利益付与手段により遊技用価値が付与された場合には、前記数値情報を更新しないことを特徴とする。

【1848】

このような遊技機によれば、上述と同様に、報知に逆らい有利な状態を継続させることで、一時的には遊技用価値の獲得を減らしてしまうものの、報知に逆らって伸ばした期間において上乗せ制御を受けることにより、最終的には多くの遊技用価値を獲得する可能性もあるため、従来にない戦略性を持った遊技性を実現することができる。

【1849】

[第 29 の構成の遊技機]

特開 2016 - 104425 号公報には、内部当籤役に決定された役を取りこぼすことがないように、内部当籤役を成立させるための情報など、遊技者にとって有利な情報を、

遊技者に対して報知する遊技機が開示されている。なお、このように遊技者が有利となるような情報を報知することを、一般にナビする（ナビを行う）などといい、ナビが行われる期間をＡＴ（assist time）といい、ＡＴ機能を備える遊技機をＡＴ機やＡＲＴ機と呼ぶ。ＡＴ（ＡＲＴ）機によると、内部当籤役の抽籤確率だけでなく、報知の有無に応じて利益に差が生じることになるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【１８５０】

このようなＡＴ機能を備える遊技機では、通常の状態から有利な状態（ＡＴ）に移行させるまでの制御に様々な工夫がなされており、例えば、有利な状態への移行確率を定めるモードを複数備え、現在のモード毎に移行期待度を異ならせる制御も知られているが、このような制御は多くの遊技機において採用されており、単にモードを設けるだけでは遊技が単調になり、有利な状態への移行に関して更なる改善が求められている。

10

【１８５１】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、有利な状態への移行に関して従来にない新たな制御が可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１８５２】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第２の遊技機を提供することができる。

【１８５３】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）と、複数の役の中から決定された当籤役に依拠して前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路９０）と、を備える遊技機であって、遊技に関する遊技状態として、通常状態（例えば、通常区間）と、第１所定状態（例えば、ＣＺ）及び当該第１所定状態よりも遊技者にとって有利な第２所定状態（例えば、ＡＲＴ）とを少なくとも含む所定状態（例えば、有利区間）と、を有し、前記通常状態において第１条件が満たされると、前記第１所定状態に遊技状態を移行可能な第１状態制御手段（例えば、主制御回路９０）と、前記第１所定状態において第２条件が満たされると、前記第２所定状態に遊技状態を移行可能、かつ、前記第１所定状態において特定役（例えば、ＭＢ）が当籤役として決定されると、前記通常状態に遊技状態を移行可能な第２状態制御手段（例えば、主制御回路９０）と、を更に備え、前記遊技制御手段は、複数の設定値の少なくとも一部において他の設定値とは異なる確率で、前記特定役を当籤役として決定することを特徴とする。

20

30

【１８５４】

このような遊技機によれば、第１所定状態において第２条件が満たされると、有利な状態である第２所定状態に移行可能である一方で、第１所定状態において特定役が当籤役として決定されると、通常状態に移行してしまう。すなわち、遊技者は、第１所定状態において、特定役に当籤する前に（第１所定状態が終了する前に）、第２所定状態への移行条件（第２条件）が満たされることを望んで遊技を行うことになる。このとき、第１所定状態の終了条件である特定役は、設定値に応じて当籤確率が異なるため、第２所定状態（有利な状態）への移行が期待できる第１所定状態も、設定値に応じて終了確率が異なることになる。このように本発明に係る遊技機では、例えば、有利な状態（第２所定状態）への移行抽籤に当籤する確率に設定差を直接設けるのではなく、有利な状態への移行が期待できる第１所定状態の終了確率に設定差を設けることで、有利な状態への移行確率に設定差を設けるため、有利な状態への移行に関して従来にない新たな制御が可能になる。

40

【１８５５】

また、本発明に係る遊技機において、前記所定状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知可能な報知状態であり、遊技の結果として前記特定役に依拠した結果表示が導出されると、ボーナス遊技を開始するボーナス開始手段（例えば、主制御回路９０）を更に備えることを特徴とする。

【１８５６】

このような遊技機によれば、第１所定状態において特定役に当籤することなく第２条件

50

を満たすことができた場合には、遊技者にとって有利な報知状態（第2所定状態）に移行することができる一方で、第2条件を満たすことなく特定役に当籤してしまった場合であっても、ボーナス遊技が開始されるため、遊技者が感じる不満を軽減することができる。

【1857】

また、本発明に係る遊技機において、前記遊技制御手段は、複数の設定値のうち遊技者にとって不利な設定値である低設定値である場合ほど高い確率で前記特定役に当籤役として決定することを特徴とする。

【1858】

このような遊技機によれば、遊技者にとって不利な低設定であるほど、特定役が当籤役として決定され易いため、低設定であるほど、報知状態（第2所定状態）への移行が期待できる第1所定状態も終了し易く、結果、報知状態に移行し難い。しかしながら、遊技の結果として特定役に応じた結果表示が導出された場合には、ボーナス遊技が開始されるため、有利な状態に移行し難い低設定である場合には、高設定よりも多くのボーナス遊技を行うことができ、遊技者が感じる不満を軽減することができる。

【1859】

[第30の構成の遊技機]

A T機能を搭載した遊技機によれば、ナビを行うか否かを制御することで遊技者に払い出す遊技媒体の数が制御されるため、遊技者は、A Tを継続するA Tゲーム数（ナビゲーム数）が増加することを望むことになる。A Tゲーム数を増加させるための工夫はこれまで様々な観点からなされてきており、例えば、特開2010-057732号公報には、内部当籤役としてスイカやチェリーなどの特定の役が決定されるとA Tゲーム数を増加させる（A Tゲーム数を上乘せさせる）遊技機が開示されている。

【1860】

しかしながら、上述の遊技機では、A T期間に関する特典が付与されるか否か、及び付与される特典の大きさが、予め役毎に対応付けられているため、遊技者からすると当籤役として決定された役の種別から、特典が付与されるか否か、及び付与される特典の大きさを把握できてしまい、遊技が単調になってしまう可能性があった。

【1861】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、特典付与の決定結果に関して従来にない遊技性を有する遊技機を提供することを目的とする。

【1862】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第30の遊技機を提供することができる。

【1863】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール3L、3C、3R）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備える遊技機であって、停止操作の態様を報知可能な報知状態を有するとともに、遊技に関する遊技状態として、所定状態（例えば、非ボーナス状態）と、第1特定状態（例えば、BB中RB）及び第2特定状態（例えば、BB中RB持越）を含む特定状態（例えば、ボーナス状態）と、を有し、前記所定状態において開始条件（例えば、ボーナス状態の開始条件）を満たすと、前記特定状態を開始可能であり、前記特定状態において終了条件（例えば、ボーナス状態の終了条件）を満たすと、前記特定状態を終了可能な状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記特定状態において第1の条件（例えば、RBの入賞）を満たすと、前記第1特定状態に遊技状態を制御可能であり、前記特定状態において第2の条件（例えば、RBを当籤役として持ち越す）を満たすと、前記第2特定状態に遊技状態を制御可能な特定状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記特定状態において、前記報知状態に関する特典を付与可能な特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、を更に備え、前記特典付与手段は、前記特定状態の前記第1特定状態と、前記特定状態の前記第2特定状態とにおいて、前記報知状態に関する特典を異なる確率で付与可能である一方で

、前記報知状態に関する特典を付与する場合、前記特定状態の前記第1特定状態と、前記特定状態の前記第2特定状態とのうち、前記確率が低い状態の方が大きな特典を付与可能であることを特徴とする。

【1864】

このような遊技機によれば、第1特定状態と第2特定状態とでは、報知状態に関する特典を異なる確率が異なるとともに、特典を付与する場合に付与する特典の大きさが、特典を付与する確率が低いほど大きな特典を付与する。すなわち、本発明に係る遊技機では、特定状態中の第1特定状態と第2特定状態とで、報知状態に関する特典を付与する確率と大きさがクロスする。遊技者にとってみれば、特定状態中に特典が付与され易いが小さな特典しか付与されないように遊技を行うか、特典が付与され難いが大きな特典が付与されるよう遊技を行うか、選択することができるため、本発明に係る遊技機によれば、特典付与の決定結果に関して戦略性を持った新たな遊技性を実現することができる。

10

【1865】

また、本発明に係る遊技機において、再遊技役が当籤役として決定される確率が異なるRT状態として、当該確率が低い低RT状態と、高RT状態とを有し、前記特定状態制御手段は、前記特定状態において特定役（例えば、RB）に対応する特定の結果表示が導出されると、前記第1の条件を満たしたとして、前記特定状態の前記第1特定状態を開始可能な第1特定状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記特定状態において前記特定役が当籤役として決定されると、前記第2の条件を満たしたとして、前記特定状態の前記第2特定状態を開始可能であり、前記特定の結果表示が導出されると、前記第2特定状態を終了可能な第2特定状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記特定状態の前記特定役が当籤役として決定された単位遊技において前記特定の結果表示が導出されない場合に、前記特定の結果表示が導出されるまで、前記特定役を当籤役として持ち越し可能な持越手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記特定状態において前記特定役が当籤役として決定されると、RT状態を前記高RT状態に移行し、前記特定状態において前記特定役に対応する前記特定の結果表示が導出されると、RT状態を前記低RT状態に移行するRT制御手段（例えば、主制御回路90）、を更に備え、前記特典付与手段は、前記特定状態の前記第1特定状態では、前記特定状態の前記第2特定状態に比べて低い確率で、前記報知状態に関する特典を付与可能である一方で、前記特定状態の前記第1特定状態において前記報知状態に関する特典を付与する場合、前記特定状態の前記第2特定状態において前記報知状態に関する特典を付与する場合に比べて大きな特典を付与することを特徴とする。

20

30

【1866】

このような遊技機によれば、特定役に応じた結果表示の導出を避けて、特定役を持ち越した状態（第2特定状態）で遊技を行うことで、付与される特典は小さいものの、特典が付与され易い状態で遊技を行うことができる。このとき、特定状態において特定役が持ち越されている間は高RT状態であるため、その後、報知状態（所謂、ART）に移行するとき、RT状態を高RT状態に移行させるための準備期間を持たせる必要がない。そのため、第2特定状態で遊技を行うことで、報知状態に移行し易く、かつ、準備期間を経ることなく直ちに報知状態を開始可能になる。一方で、特定役に応じた結果表示が導出された状態（第1特定状態）で遊技を行うことで、特典が付与され難いものの、付与される特典が大きい状態で遊技を行うことができる。このとき、特定状態において特定役に応じた結果表示が導出されると低RT状態に移行するため、高RT状態である場合に比べて出玉率のベースが下がることになる。その結果、第1特定状態中は、特典付与の確率低下分だけでなく、低RT状態による出玉率のベース低下分も、付与する特典の大きさに振り分けることができる。そのため、遊技者にとってみれば、特定状態中に特典が付与され易いが小さな特典しか付与されないように遊技を行うか（特定役を入賞又は持ち越す）、特典が付与され難いが大きな特典が付与されるよう遊技を行うか、選択することができ、戦略性を持った新たな遊技性を実現することができる。

40

【1867】

50

また、本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な可変表示手段（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R ）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、を備える遊技機であって、停止操作の態様を報知可能な報知状態を有するとともに、遊技に関する遊技状態として、所定状態（例えば、非ボーナス状態）と、第 1 特定状態（例えば、B B 中 R B ）及び第 2 特定状態（例えば、B B 中 R B 持越）を含む特定状態（例えば、ボーナス状態）と、を有し、前記所定状態において開始条件（例えば、ボーナス状態の開始条件）を満たすと、前記特定状態を開始可能であり、前記特定状態において終了条件（例えば、ボーナス状態の終了条件）を満たすと、前記特定状態を終了可能な状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記特定状態において第 1 の条件（例えば、R B の入賞）を満たすと、前記第 1 特定状態に遊技状態を制御可能であり、前記特定状態において第 2 の条件（例えば、R B を当籤役として持ち越す）を満たすと、前記第 2 特定状態に遊技状態を制御可能な特定状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記特定状態において、前記報知状態に関する特典を付与可能な特典付与手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、を更に備え、前記特定状態の前記第 1 特定状態の単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値と、前記特定状態の前記第 2 特定状態の単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値とでは、前記特定状態の前記第 2 特定状態の単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値の方が高く、前記特定状態の前記第 1 特定状態における特典の期待値と、前記特定状態の前記第 2 特定状態における特典の期待値とでは、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値が低い前記特定状態の前記第 1 特定状態の方が特典の期待値が高いことを特徴とする。

【 1 8 6 8 】

このような遊技機によれば、第 1 特定状態と第 2 特定状態とでは、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値が異なるとともに、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値が低いほど、報知状態に関する特典の期待値が高い。すなわち、本発明に係る遊技機では、特定状態中の第 1 特定状態と第 2 特定状態とで、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値と、報知状態に関する特典の期待値とがクロスする。遊技者にとってみれば、特典が付与され難いが遊技用価値の付与を多く受けるように遊技を行うか、特典が付与され易いが遊技用価値の付与が少ない遊技を行うかを選択することができるため、本発明に係る遊技機によれば、特典付与に関して戦略性を持った新たな遊技性を実現することができる。

【 1 8 6 9 】

また、本発明に係る遊技機において、前記複数の役には、入賞すると所定数の遊技用価値が付与される所定役が複数種類（例えば、B E L _ 0 1 ~ 0 9 ）含まれ、前記特定状態の前記第 1 特定状態と、前記特定状態の前記第 2 特定状態とでは、複数種類の前記所定役のうちの夫々が当籤役として決定される複数種類の前記所定役の個々の当籤確率は、前記第 1 特定状態の方が高いものの、複数種類の前記所定役の少なくとも何れかが当籤役として決定される当籤確率は、前記第 2 特定状態の方が高いことを特徴とする。

【 1 8 7 0 】

このような遊技機によれば、第 1 特定状態では、複数種類の所定役の個々の当籤確率は上げつつも、複数種類の所定役の少なくとも何れかが当籤役として決定される確率は下がるため、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値を、第 2 特定状態よりも低くすることができる。そのため、上述と同様に、単位遊技当たりに付与される遊技用価値の期待値と、報知状態に関する特典の期待値とをクロスすることができる。

【 1 8 7 1 】

[第 3 1 の構成の遊技機]

こうした A T 機能を搭載した遊技機によれば、ナビを行うか否かを制御することで遊技者に払い出す遊技媒体の数が制御されるため、遊技者は、A T を継続する A T ゲーム数（ナビゲーム数）が増加することを望むことになる。A T ゲーム数を増加させるための工夫はこれまで様々な観点からなされてきており、例えば、特開 2 0 1 0 - 0 5 7 7 3 2 号公

10

20

30

40

50

報には、内部当籤役としてスイカやチェリーなどの特定の役が決定されるとＡＴゲーム数を増加させる（ＡＴゲーム数を上乘せさせる）遊技機が開示されている。

【１８７２】

しかしながら、上述の遊技機では、ＡＴ期間に関する特典が付与されるか否か、及び付与される特典の大きさが、予め役毎に対応付けられているため、遊技者からすると当籤役として決定された役の種別から、特典が付与されるか否か、及び付与される特典の大きさを把握できてしまい、遊技が単調になってしまう可能性があった。

【１８７３】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、特典付与の決定結果に関して従来にはない遊技性を有する遊技機を提供することを目的とする。

【１８７４】

上記目的を達成するために、本実施形態の遊技機によれば、以下のような構成の第３１の遊技機を提供することができる。

【１８７５】

本発明に係る遊技機は、複数の識別表示を変動表示可能な複数の可変表示手段（例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路９０）と、を備える遊技機であって、停止操作の態様を報知可能な報知状態を有するとともに、当籤役として決定された場合に、第１の操作態様で停止操作（例えば、色択に正解の停止操作）が行われると第１の結果表示（例えば、色択小役の入賞）を導出可能、第２の操作態様で停止操作（例えば、押し順に正解の停止操作）が行われると第２の結果表示（例えば、押し順小役の入賞）を導出可能、かつ、前記第１の操作態様及び前記第２の操作態様の何れでもない第３の操作態様で停止操作が行われると第３の結果表示（例えば、こぼし目又ははずれ）を導出可能な特定役（例えば、「色択小役＋押し順小役」）を有し、前記第１の結果表示又は前記第２の結果表示が導出されると、所定量の遊技用価値を付与可能、かつ、前記第３の結果表示が導出されると、前記所定量よりも少ない量の遊技用価値を付与可能な利益付与手段（例えば、主制御回路９０）と、非報知状態において前記第１の結果表示が導出されると、前記報知状態に関する特典を付与可能な報知特典付与手段（例えば、主制御回路９０）と、前記報知特典付与手段により前記特典が付与されたことに応じて、前記報知状態に遷移可能な報知制御手段（例えば、主制御回路９０）と、遊技者に対して所定の操作態様を報知可能な報知手段（例えば、主制御回路９０）と、を更に備え、前記報知手段は、非報知状態において前記特定役が当籤役として決定されると、前記第１の操作態様、前記第２の操作態様及び前記第３の操作態様の何れも報知することなく、前記報知状態において前記特定役が当籤役として決定されると、前記第２の操作態様を報知可能であることを特徴とする。

【１８７６】

このような遊技機によれば、非報知状態において特定役が当籤役として決定された場合に、第１の操作態様で停止操作を行い第１の結果表示が導出されると、報知状態に関する特典が付与される。一方で、第２の操作態様で停止操作を行い第２の結果表示が導出された場合には、第１の結果表示が導出された場合と同量の所定量の遊技用価値が付与されるものの、報知状態に関する特典は付与されず、また、第３の操作態様で停止操作を行った場合には、所定量よりも少ない量の遊技用価値しか付与されず、かつ、報知状態に関する特典も付与されない。このように本発明に係る遊技機によれば、特典付与の決定結果に関して、遊技者が関与可能な遊技性を実現することができる。

また、本発明に係る遊技機では、報知状態中に報知対象となる役を、操作態様の種別に応じて特典を付与可能な特定役として用いている。ここで、利益バランスを考慮すると、複数の操作態様のうち最も利益が大きい第１の操作態様は、成立し難い操作態様であることが好ましいが、報知状態中に遊技用価値を付与するために報知する操作態様を第１の操作態様としてしまったのでは、特定役（報知対象役）の当籤時に成立し難い第１の操作態様を要求することになり、遊技者の停止操作が煩雑になってしまう。そこで、本発明に係

10

20

30

40

50

る遊技機では、報知状態中は、報知状態に関する特典を付与可能な第1の操作態様と同量の遊技用価値が付与される第2の操作態様を報知し、第1の操作態様は報知しない。これにより、利益バランスを考慮して第1の操作態様を煩雑な操作態様とした場合であっても、報知状態中はより簡易な第2の操作態様で遊技を行えば足りるため、報知状態中の遊技をスムーズに行うことができる。

【1877】

また、本発明に係る遊技機において、前記遊技制御手段は、前記特定役が当籤役として決定された遊技において、変動表示している前記可変表示手段に対する停止操作が所定のタイミングで行われた場合に、前記第1の操作態様で停止操作が行われたとして、前記第1の結果表示を導出し、当該遊技において、変動表示している複数の前記可変表示手段に対する停止操作が所定の順序で行われた場合に、前記第2の操作態様で停止操作が行われたとして、前記第2の結果表示を導出することを特徴とする。

10

【1878】

このような遊技機によれば、報知状態に関する特典を受けるためには、遊技者は適切なタイミングで停止操作を行う必要があるが、単に所定量の遊技用価値を得るだけであれば、遊技者は適切な順序で停止操作を行えば足りる。その結果、非報知状態中に報知状態に関する特典を受けるための第1の操作態様は成立困難にしつつも、報知状態中は煩雑な操作態様を必要とすることなく、スムーズに遊技を行うことができる。

【1879】

また、本発明に係る遊技機において、複数の識別表示を変動表示可能な複数の可変表示手段（例えば、リール3L、3C、3R）と、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記可変表示手段を用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備える遊技機であって、停止操作の態様を報知可能な報知状態を有するとともに、当籤役として決定された場合に、第1の操作態様で停止操作（例えば、色択に正解の停止操作）が行われると第1の結果表示（例えば、色択小役の入賞）を導出可能、第2の操作態様で停止操作（例えば、押し順に正解の停止操作）が行われると第2の結果表示（例えば、押し順小役の入賞）を導出可能、かつ、前記第1の操作態様及び前記第2の操作態様の何れでもない第3の操作態様で停止操作が行われると第3の結果表示（例えば、こぼし目又ははずれ）を導出可能な特定役（例えば、「色択小役＋押し順小役」）を有し、前記第1の結果表示又は前記第2の結果表示の何れかが導出されると、所定量の遊技用価値を付与可能な利益付与手段（例えば、主制御回路90）と、非報知状態において前記第1の結果表示が導出されると、前記報知状態に関する特典を付与可能な報知特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、前記報知特典付与手段により前記特典が付与されたことに応じて、前記報知状態に遷移可能な報知制御手段（例えば、主制御回路90）と、遊技者に対して所定の操作態様を報知可能な報知手段（例えば、主制御回路90）と、を更に備え、前記報知手段は、非報知状態において前記特定役が当籤役として決定されると、前記第1の操作態様、前記第2の操作態様及び前記第3の操作態様の何れも報知することなく、前記報知状態において前記特定役が当籤役として決定されると、前記第2の操作態様を報知可能であり、前記遊技制御手段は、前記特定役が当籤役として決定された遊技において、変動表示している複数の前記可変表示手段に対する停止操作が所定の順序で行われた場合に、前記第2の操作態様で停止操作が行われたとして、前記第2の結果表示を導出し、変動表示している複数の前記可変表示手段に対する停止操作が前記所定の順序ではない特定の順序で行われた場合であって、停止操作が所定のタイミングで行われた場合に、前記第1の操作態様で停止操作が行われたとして、前記第1の結果表示を導出し、変動表示している複数の前記可変表示手段に対する停止操作が前記特定の順序で行われた場合であって、停止操作が前記所定のタイミングではない特定のタイミングで行われた場合に、前記第3の操作態様で停止操作が行われたとして、前記第3の結果表示を導出することを特徴とする。

20

30

40

【1880】

このような遊技機によれば、上述と同様に、特典付与の決定結果に関して、遊技者が関

50

与可能な遊技性を実現することができるとともに、報知状態中の遊技をスムーズに行うことができる。

【 1 8 8 1 】

また、本発明に係る遊技機において、前記特定役が当籤役として決定された遊技において遊技者が無作為に停止操作を行った場合、前記第１の操作態様、前記第２の操作態様及び前記第３の操作態様のうち、前記第１の操作態様が成立する割合が最も低いことを特徴とする。

【 1 8 8 2 】

このような遊技機によれば、利益バランスを考慮して第１の操作態様を煩雑な操作態様としつつも、報知状態中の遊技をスムーズに行うことができる。また、第１の操作態様は成立し難い操作態様であるため、特定役の当籤確率を高めたとしても、遊技者に過度な利益（報知状態に関する特典）を付与してしまいうことがない。そのため、本発明に係る遊技機では、特定役の当籤確率を高めることができ、結果、遊技者に対して、報知状態に関する特典が付与される機会を多く与えることができる。

【符号の説明】

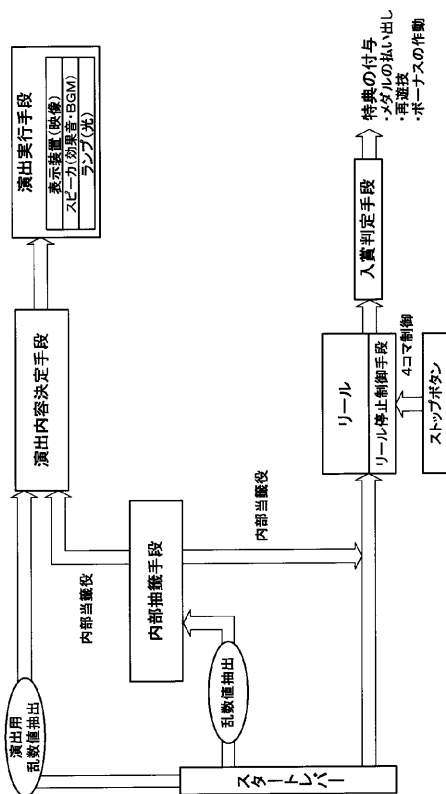
【 1 8 8 3 】

１ ... パチスロ、３Ｌ、３Ｃ、３Ｒ ... リール、４ ... リール表示窓、６ ... 情報表示器、１１ ... 表示装置、１７Ｌ、１７Ｃ、１７Ｒ ... ストップボタン、１８ ... サブ表示装置、７１ ... 主制御基板、７２ ... 副制御基板、９０ ... 主制御回路、９１ ... マイクロプロセッサ、１０１ ... メインＣＰＵ、１０２ ... メインＲＯＭ、１０３ ... メインＲＡＭ、１０７ ... 演算回路、１１４ ... 第１シリアル通信回路、１１５ ... 第２シリアル通信回路、２００ ... 副制御回路、２０１ ... サブＣＰＵ ２０１、３０１ ... 第１インターフェースボード、３０２ ... 第２インターフェースボード

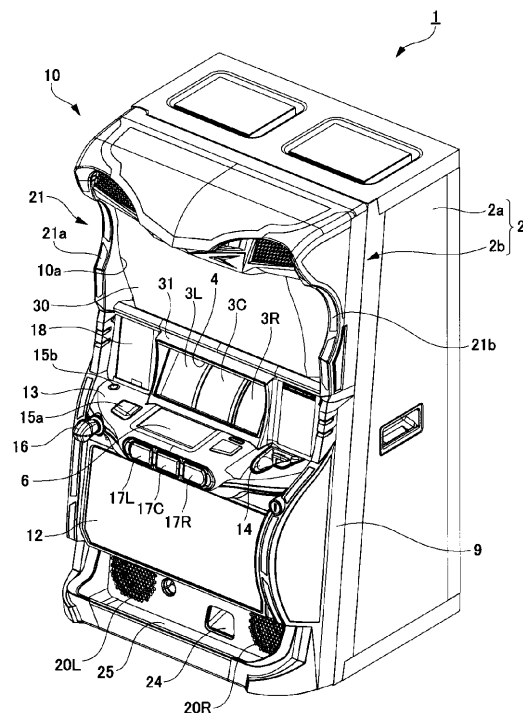
10

20

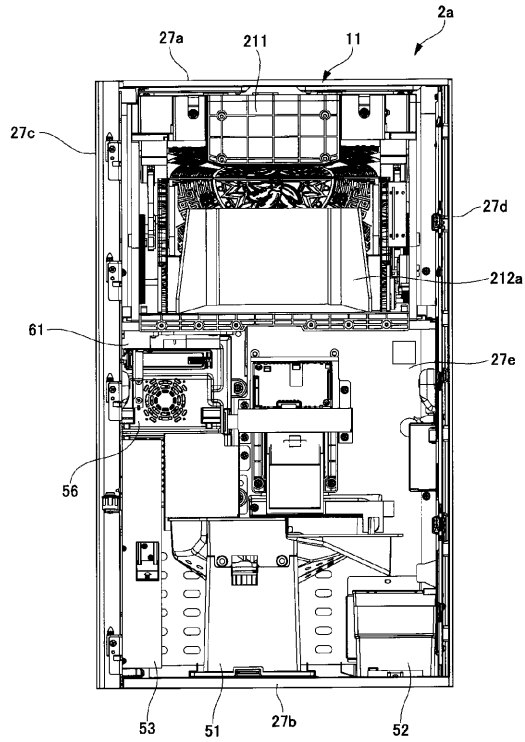
【 図 1 】



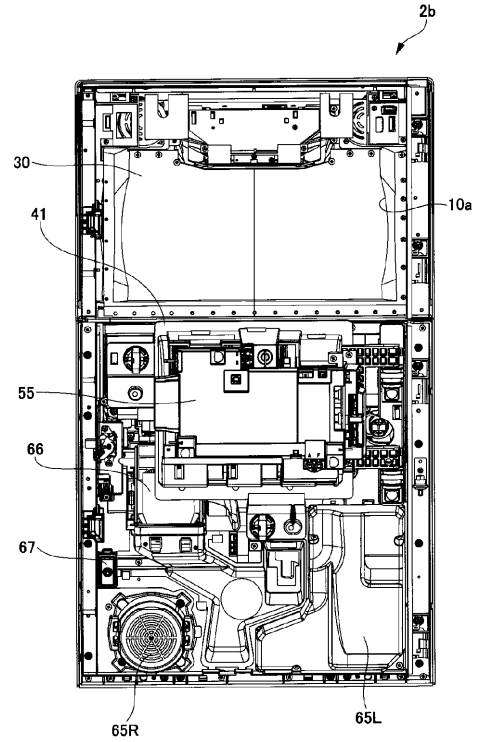
【圖 2】



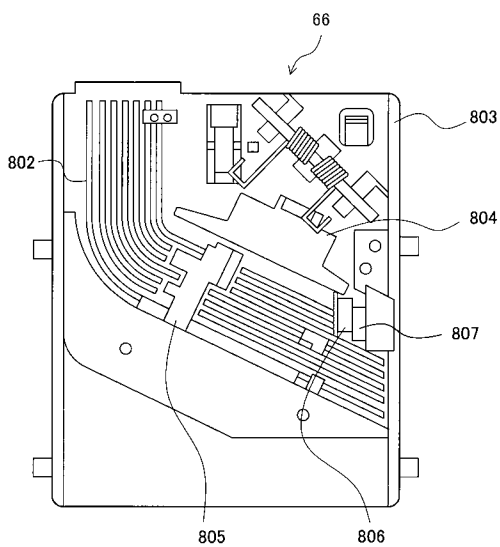
【図 3】



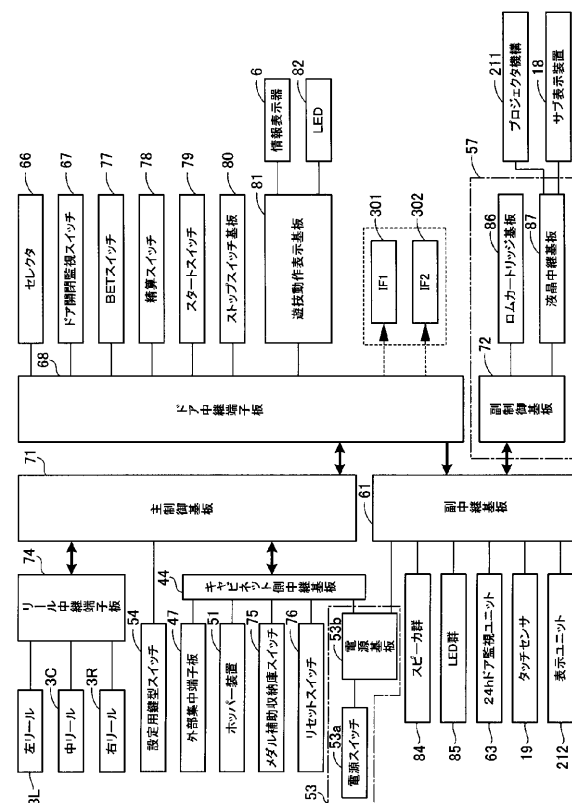
【図 4】



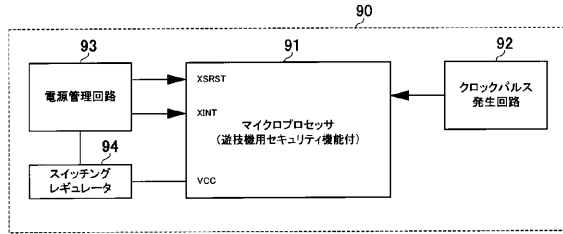
【図 5】



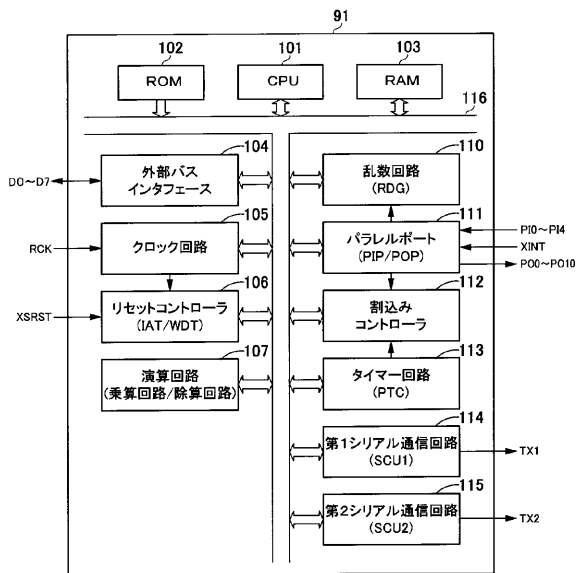
【図 6】



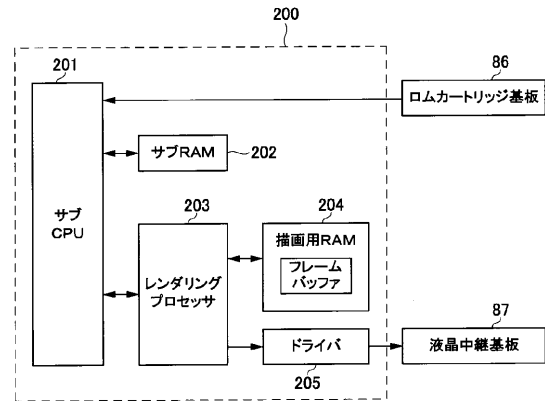
【 図 7 】



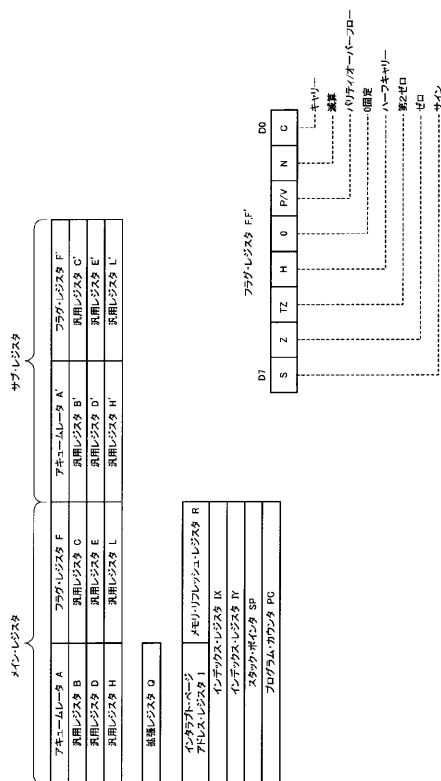
【 図 8 】



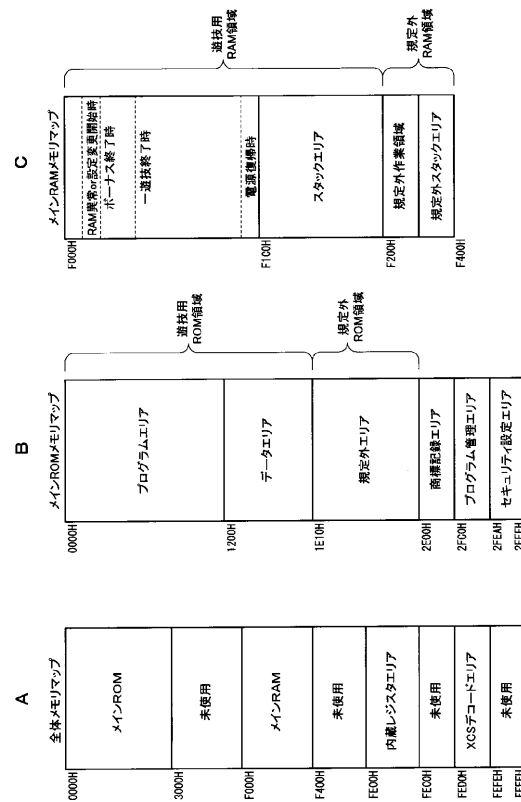
【 図 9 】



【 図 1 0 】



【 図 1 1 】



【 図 1 2 】

セキュリティモードの説明

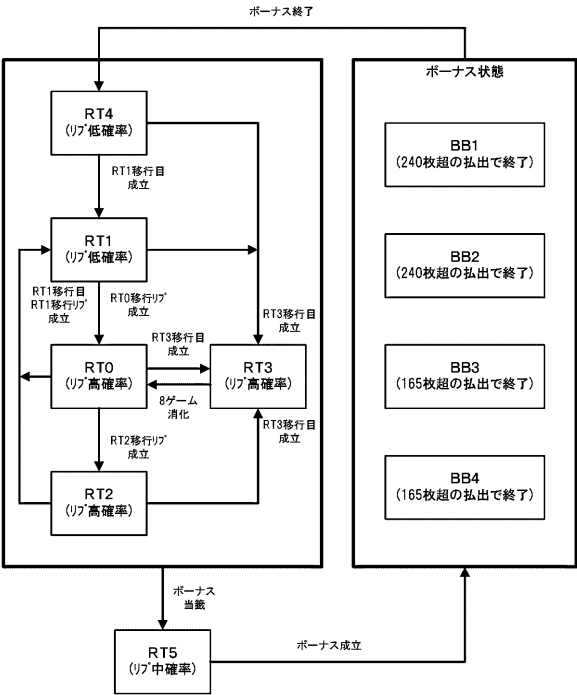
<固定延長時間(固定期間)>

モード	固定延長時間
モード1	約0.3秒(300ms)
モード2	約1秒(1000ms)
モード3	約2秒(2000ms)
モード4	約4秒(4000ms)
モード5	約8秒(8000ms)
モード6	約16秒(16000ms)
モード7	約32秒(32000ms)
モード8	約64秒(64000ms)

<ランダム延長時間(可変期間)>

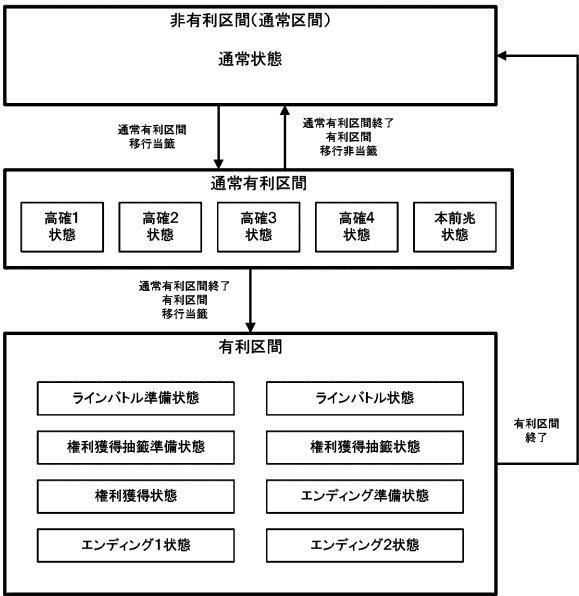
モード	ランダム延長時間
モード1	設定なし
モード2	0~5ms
モード3	0~50ms
モード4	0~500ms

【 図 1 3 】



※ 設定変更・初期化条件成立は、RT0に移行

【 図 1 4 】



【 図 1 5 】

左リール		中リール		右リール	
図柄位置	図柄	図柄位置	図柄	図柄位置	図柄
19	青7	19	青7	19	青7
18	チェリー1	18	スイカ	18	チェリー1
17	スイカ	17	ベル	17	リプレイ
16	ベル	16	リプレイ	16	ベル
15	リプレイ	15	チェリー1	15	スイカ
14	BAR	14	ブランク	14	BAR
13	チェリー2	13	スイカ	13	チェリー1
12	スイカ	12	ベル	12	リプレイ
11	ベル	11	リプレイ	11	ベル
10	リプレイ	10	チェリー1	10	スイカ
9	赤7	9	赤7	9	赤7
8	チェリー1	8	スイカ	8	チェリー1
7	スイカ	7	ベル	7	リプレイ
6	ベル	6	リプレイ	6	ベル
5	リプレイ	5	チェリー1	5	スイカ
4	ブランク	4	BAR	4	ブランク
3	チェリー1	3	スイカ	3	チェリー1
2	スイカ	2	ベル	2	リプレイ
1	ベル	1	リプレイ	1	ベル
0	リプレイ	0	チェリー1	0	スイカ

図柄コード	内容	
	図柄	データ
1	赤7	00000001
2	青7	00000010
3	BAR	00000011
4	チェリー1	00000100
5	チェリー2	00000101
6	ベル	00000110
7	スイカ	00000111
8	リプレイ	00001000
9	ブランク	00001001

【図 16】

一般選抜中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	RT0	RT1	RT2	RT3	RT4	RT5	対応する図柄組合せ
0	はずれ	0	39673	0	10922	39677	22289	—
1	F BB1 + F 確定リブ	6	6	6	6	6	0	BB 01+REP 01~09
2	F BB1 + F チャンス目A1	6	6	6	6	6	0	BB 01+NML 14+22+26+30
3	F BB1 + F チャンス目A2	6	6	6	6	6	0	BB 01+NML 15+23+27+30
4	F BB1 + F チャンス目A3	6	6	6	6	6	0	BB 01+NML 16+24+28+30
5	F BB1 + F チャンス目A4	6	6	6	6	6	0	BB 01+NML 17+25+29+30
6	F BB1 + F チャンス目B1	9	9	9	9	9	0	BB 01+NML 14+18+26
7	F BB1 + F チャンス目B2	9	9	9	9	9	0	BB 01+NML 15+19+27
8	F BB1 + F チャンス目B3	9	9	9	9	9	0	BB 01+NML 16+20+28
9	F BB1 + F チャンス目B4	9	9	9	9	9	0	BB 01+NML 17+21+29
10	F BB1 + F 確定足	4	4	4	4	4	0	BB 01+NML 31~33
11	F BB2 + F 確定リブ	6	6	6	6	6	0	BB 02+REP 01~09
12	F BB2 + F チャンス目A1	6	6	6	6	6	0	BB 02+NML 14+22+26+30
13	F BB2 + F チャンス目A2	6	6	6	6	6	0	BB 02+NML 15+23+27+30
14	F BB2 + F チャンス目A3	6	6	6	6	6	0	BB 02+NML 16+24+28+30
15	F BB2 + F チャンス目A4	6	6	6	6	6	0	BB 02+NML 17+25+29+30
16	F BB2 + F チャンス目B1	9	9	9	9	9	0	BB 02+NML 14+18+26
17	F BB2 + F チャンス目B2	9	9	9	9	9	0	BB 02+NML 15+19+27
18	F BB2 + F チャンス目B3	9	9	9	9	9	0	BB 02+NML 16+20+28
19	F BB2 + F チャンス目B4	9	9	9	9	9	0	BB 02+NML 17+21+29
20	F BB2 + F 確定足	4	4	4	4	4	0	BB 02+NML 31~33
21	F BB3 + F スイッチ (※1)	22	22	22	22	22	0	BB 03+NML 30+35
22	F BB3 + F チャンス目A1	7	7	7	7	7	0	BB 03+NML 14+22+26+30
23	F BB3 + F チャンス目A2	7	7	7	7	7	0	BB 03+NML 15+23+27+30
24	F BB3 + F チャンス目A3	7	7	7	7	7	0	BB 03+NML 16+24+28+30
25	F BB3 + F チャンス目A4	7	7	7	7	7	0	BB 03+NML 17+25+29+30
26	F BB3 + F チャンス目B1	11	11	11	11	11	0	BB 03+NML 14+18+26
27	F BB3 + F チャンス目B2	11	11	11	11	11	0	BB 03+NML 15+19+27
28	F BB3 + F チャンス目B3	11	11	11	11	11	0	BB 03+NML 16+20+28
29	F BB3 + F チャンス目B4	11	11	11	11	11	0	BB 03+NML 17+21+29
30	F BB4 + F スイッチ (※1)	22	22	22	22	22	0	BB 04+NML 30+35
31	F BB4 + F チャンス目A1	7	7	7	7	7	0	BB 04+NML 14+22+26+30
32	F BB4 + F チャンス目A2	7	7	7	7	7	0	BB 04+NML 15+23+27+30
33	F BB4 + F チャンス目A3	7	7	7	7	7	0	BB 04+NML 16+24+28+30
34	F BB4 + F チャンス目A4	7	7	7	7	7	0	BB 04+NML 17+25+29+30
35	F BB4 + F チャンス目B1	11	11	11	11	11	0	BB 04+NML 14+18+26
36	F BB4 + F チャンス目B2	11	11	11	11	11	0	BB 04+NML 15+19+27
37	F BB4 + F チャンス目B3	11	11	11	11	11	0	BB 04+NML 16+20+28
38	F BB4 + F チャンス目B4	11	11	11	11	11	0	BB 04+NML 17+21+29
39	F 維持リブ (※2)	1273	0	16273	4953	8966	5053	REP 02
40	F RT0中リブ1	4750	0	0	0	0	0	REP 08+08
41	F RT0中リブ2	4750	0	0	0	0	0	REP 01+08+09
42	F RT0中リブ3	4750	0	0	0	0	0	REP 02+08+09
43	F RT0中リブ4	4750	0	0	0	0	0	REP 01+02+08+09
44	F RT0中リブ5	4750	0	0	0	0	0	REP 07+09
45	F RT0中リブ6	4750	0	0	0	0	0	REP 01+07+09
46	F RT1中リブ1	0	1495	0	0	0	0	REP 01+05+07+08
47	F RT1中リブ2	0	1495	0	0	0	0	REP 01+03+05+07+08
48	F RT1中リブ3	0	1495	0	0	0	0	REP 01+04+05+07+08
49	F RT1中リブ4	0	1495	0	0	0	0	REP 01+02+07+08
50	F RT1中リブ5	0	1495	0	0	0	0	REP 01+04+07+08
51	F RT1中リブ6	0	1495	0	0	0	0	REP 01+02+04+07+08
52	F RT2中リブ1	0	0	4500	0	0	0	REP 02+08
53	F RT2中リブ2	0	0	4500	0	0	0	REP 02+03+08
54	F RT2中リブ3	0	0	4500	0	0	0	REP 02+07+08
55	F 上段リブ	2450	0	2450	0	0	0	REP 01+04
56	F 中段リブ1	5000	0	5000	0	0	0	REP 01+07+08
57	F 中段リブ2	0	0	0	32768	0	8992	REP 01+05
58	F 中段リブ3	0	0	0	0	11735	REP 01+06	
59	F 下段リブ	2450	0	2450	0	0	180	REP 01+03+04
60	F 被覆リブ	8970	0	8970	0	0	0	REP 03

(※1) 設定値が異なるほど当選確率(抽籤値)が増加する。

(※2) 設定値に応じて当選確率(抽籤値)が減少する。

【図 17】

一般選抜中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	RT0	RT1	RT2	RT3	RT4	RT5	対応する図柄組合せ
61	F チャンス目A1	97	97	97	97	97	123	NML 14+22+26+30
62	F チャンス目A2	97	97	97	97	97	123	NML 15+23+27+30
63	F チャンス目A3	97	97	97	97	97	123	NML 16+24+28+30
64	F チャンス目A4	97	97	97	97	97	123	NML 17+25+29+30
65	F チャンス目B1	150	150	150	150	150	190	NML 14+18+26
66	F チャンス目B2	150	150	150	150	150	190	NML 15+19+27
67	F チャンス目B3	150	150	150	150	150	190	NML 16+20+28
68	F チャンス目B4	150	150	150	150	150	190	NML 17+21+29
69	F 弱リブ役A	404	404	404	404	404	404	NML 14~17+22~30
70	F 弱リブ役B	624	624	624	624	624	624	NML 14~17+22~29
71	F スイッチ	422	422	422	422	422	422	NML 35
72	F スイッチ	422	422	422	422	422	466	NML 30+35
73	F 確定足	0	0	0	0	0	9	NML 31~33
74	F 特殊ベル	(※3)	745	745	745	745	745	NML 34
75	F 上段共通ベル	300	300	300	300	300	300	NML 01
76	F 中段共通ベル	820	820	820	820	820	820	NML 01+29
77	F 上段左ベル1	735	735	735	735	735	735	NML 01+02+04+06+07+10+11
78	F 上段左ベル2	735	735	735	735	735	735	NML 01+04+05+08+09+12+13
79	F 上段左ベル3	245	245	245	245	245	245	NML 01+02+04+06+07+10+11
80	F 上段左ベル4	245	245	245	245	245	245	NML 01+03+05+08+09+12+13
81	F 上段右左ベル1	245	245	245	245	245	245	NML 01+02+05~07+10+11
82	F 上段右左ベル2	245	245	245	245	245	245	NML 01+03+04+08+09+12+13
83	F 上段右中ベル1	245	245	245	245	245	245	NML 01+03+04+08+10+11
84	F 上段右中ベル2	245	245	245	245	245	245	NML 01+04+05+07+09+12+13
85	F 中段左ベル1	745	745	745	745	745	745	NML 01+03+04+07+10+12
86	F 中段左ベル2	745	745	745	745	745	745	NML 01+04+05+08+09+11+13
87	F 中段中ベル1	695	695	695	695	695	695	NML 01+03+06+07+10+13
88	F 中段中ベル2	695	695	695	695	695	695	NML 01+04+05+08+09+11+12
89	F 中段右左ベル1	695	695	695	695	695	695	NML 01+03+06+08+10+12
90	F 中段右左ベル2	695	695	695	695	695	695	NML 01+04+05+07+09+11+13
91	F 中段右中ベル1	695	695	695	695	695	695	NML 01+02+04+06+08+10+11
92	F 中段右中ベル2	695	695	695	695	695	695	NML 01+03+05+07+09+12+13
93	F 下段中ベル1	540	540	540	540	540	540	NML 01+02+05+06+08+10+12
94	F 下段中ベル2	540	540	540	540	540	540	NML 01+03+04+07+09+11+13
95	F 下段右左ベル1	540	540	540	540	540	540	NML 01+02+05+06+08+10+13
96	F 下段右左ベル2	540	540	540	540	540	540	NML 01+03+04+07+09+11+12
97	F 下段右中ベル1	540	540	540	540	540	540	NML 01+02+05~07+10+12
98	F 下段右中ベル2	540	540	540	540	540	540	NML 01+03+04+08+09+11+13

(※3) 設定値に応じて当選確率(抽籤値)が増加する。

【図 18】

RB中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	RB (BB1~BB4)	対応する図柄組合せ
0	はずれ	0	—
1	F JAC1.1	10589	NML 01~17+22~40
2	F JAC1.2	10589	NML 01~17+19~21+26~40
3	F JAC1.3	10589	NML 01~18+20+21+26~40
4	F JAC1.4	10589	NML 01~19+21+26~40
5	F JAC1.5	10589	NML 01~20+26~40
6	F JAC1.6	10589	NML 01~17+26~40
7	F JAC2	2002	NML 01~40

【図 20】

図柄組合せテーブル

図柄の組合せ			表示役			
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称
赤7	赤7	赤7	2	00000001	BB01	0(BB1) C 赤同色BB
青7	青7	青7		00000010	BB02	0(BB2) C 青同色BB
赤7	赤7	青7		00000100	BB03	0(BB3) C 赤黄色BB
青7	青7	赤7		00001000	BB04	0(BB4) C 青黄色BB
—	—	—		00010000	—	—
—	—	—		00100000	—	—
—	—	—		01000000	—	—
—	—	—		10000000	—	—
—	—	—		—	—	—
—	—	—		—	—	—

【図 19】

図柄組合せテーブル

図柄の組合せ			表示役			
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称
チェリー1/チェリー2	チェリー1	チェリー1	1	00000001	HZ01	0 S RT3移行目
リプレイ	スイカ	ベル		00000010	HZ02	0 R RT1移行目
—	—	—		00000100	—	—
—	—	—		00010000	—	—
—	—	—		00010000	—	—
—	—	—		00100000	—	—
—	—	—		01000000	—	—
—	—	—		10000000	—	—
—	—	—		—	—	—
—	—	—		—	—	—

【図 21】

図柄組合せテーブル

図柄の組合せ			表示役				
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	払出	名称
リプレイ	リプレイ	リプレイ	3	00000001	REP01	0(再遊技)	C リブ
赤7/青7/ BAR/ フランク	リプレイ	チェリー1		00000010	REP02	0(再遊技)	S XDIリブ
リプレイ	リプレイ	ベル		00000100	REP03	0(再遊技)	C 折れリブ
チェリー1/ チェリー2	赤7/青7/ BAR/ フランク	スイカ		00001000	REP04	0(再遊技)	S 特殊リブ
リプレイ	赤7/青7/ BAR/ フランク	BAR		00010000	REP05	0(再遊技)	S n-リブ1
赤7/青7/ BAR/ フランク	赤7/青7/ BAR/ フランク	BAR/ チェリー1		00100000	REP06	0(再遊技)	S n-リブ2
ベル	スイカ	赤7/青7/ BAR/ フランク		01000000	REP07	0(再遊技)	S RT0移行リブ
赤7/青7/ BAR/ フランク	リプレイ	リプレイ		10000000	REP08	0(再遊技)	S RT1移行リブ
チェリー1/ チェリー2	チェリー1	スイカ	4	00000001	REP09	0(再遊技)	S RT2移行リブ
—	—	—		00000010	—	—	—
—	—	—		00000100	—	—	—
—	—	—		00001000	—	—	—
—	—	—		00010000	—	—	—
—	—	—		00100000	—	—	—
—	—	—		01000000	—	—	—
—	—	—		10000000	—	—	—

【 図 2 2 】

試験組合せテーブル		試験の組合せ		試験領域		表示役		名簿	
左リール	中央リール	右リール	ゲーム	内容	払出	C	S	名簿	
ベル	ベル	赤7	00000001	赤7 / ベル		8	C	5	
リプレイ	スイカ	赤7	00000010	NAL.02		1	C	打戻役1	
リプレイ	スイカ	青7	00000100	NAL.03		1	C	打戻役2	
リプレイ	スイカ	BAR	00001000	NAL.04		1	C	打戻役3	
リプレイ	スイカ	ブランク	00010000	NAL.05		1	C	打戻役4	
リプレイ	赤7	ベル	00100000	NAL.06		1	C	打戻役5	
リプレイ	赤7	ベル	01000000	NAL.07		1	C	打戻役6	
リプレイ	BAR	ベル	10000000	NAL.08		1	C	打戻役7	
リプレイ	ブランク	ベル	00000001	NAL.09		1	C	打戻役8	
赤7	スイカ	ベル	00000010	NAL.10		1	C	打戻役9	
青7	スイカ	ベル	00000100	NAL.11		1	C	打戻役10	
BAR	スイカ	ベル	00001000	NAL.12		1	C	打戻役11	
ブランク	スイカ	ベル	00010000	NAL.13		1	C	打戻役12	
チェリー1 / チェリー2	チェリー1	赤7	00100000	NAL.14		1	S	チャイス役A1	
チェリー1 / チェリー2	チェリー1	赤7	01000000	NAL.15		1	S	チャイス役A2	
チェリー1 / チェリー2	チェリー1	BAR	10000000	NAL.16		1	S	チャイス役A3	
チェリー1 / チェリー2	チェリー1	ブランク	00000001	NAL.17		1	S	チャイス役A4	
リプレイ	赤7	スイカ	00000010	NAL.18		1	C	チャイス役B1	
リプレイ	赤7	スイカ	00000100	NAL.19		1	C	チャイス役B2	
リプレイ	BAR	スイカ	00001000	NAL.20		1	C	チャイス役B3	
リプレイ	ブランク	スイカ	00010000	NAL.21		1	C	チャイス役B4	
ベル	赤7	赤7 / 青7 / BAR / ベル / ブランク	00100000	NAL.22		1	S	チャイス役C1	
ベル	青7	赤7 / 青7 / BAR / ベル / ブランク	01000000	NAL.23		1	S	チャイス役C2	
ベル	BAR	赤7 / 青7 / BAR / ベル / ブランク	10000000	NAL.24		1	S	チャイス役C3	
ベル	ブランク	赤7 / 青7 / BAR / ベル / ブランク	00000001	NAL.25		1	S	チャイス役C4	
赤7	チェリー1	チェリー1	00000010	NAL.26		1	C	チャイス役D1	
青7	チェリー1	チェリー1	00000100	NAL.27		1	C	チャイス役D2	
BAR	チェリー1	チェリー1	00001000	NAL.28		1	C	チャイス役D3	
ブランク	チェリー1	チェリー1	00010000	NAL.29		1	C	チャイス役D4	
スイカ	チェリー1	赤7 / 青7 / BAR / ブランク	00100000	NAL.30		1	S	チャイス制御役	
赤7 / 青7 / BAR / ブランク	スイカ	リプレイ	01000000	NAL.31		5	S	特殊役1	
リプレイ	赤7 / 青7 / BAR / ブランク	チェリー1	10000000	NAL.32		5	S	特殊役2	
ベル	チェリー1	赤7 / 青7 / BAR / ブランク	00000001	NAL.33		5	S	特殊役3	
ベル	スイカ	チェリー1	00000010	NAL.34		8	C	XDベル	
スイカ	スイカ	スイカ	00000100	NAL.35		5	C	役4	
リプレイ	リプレイ	スイカ	00001000	NAL.36		8	C	JACAI	
チェリー1 / チェリー2	赤7 / 青7 / BAR / ブランク	チェリー1	00010000	NAL.37		8	S	JACAI2	
チェリー1 / チェリー2	スイカ	ベル	00100000	NAL.38		2	S	JACB1	
スイカ	ベル	スイカ	01000000	NAL.39		2	S	JACB2	
ベル	リプレイ	赤7 / 青7 / BAR / ブランク	10000000	NAL.40		2	S	JACB3	

【 図 2 3 】

[illegible]

【 図 2 4 】

[illegible]

【 図 2 5 】

当り要求フラグ格納領域・入賞作動フラグ格納領域						
格納領域	データ		コンビネーション(左・中・右)			内容
当り要求フラグ格納領域3・入賞作動フラグ格納領域3	B7	0/1	ベル	リプレイ	赤7/青7/ BAR/ プラंक	NML40
	B6	0/1	スイカ	ベル	スイカ	NML39
	B5	0/1	チェリー1/ チェリー2	スイカ	ベル	NML38
	B4	0/1	チェリー1/ チェリー2	赤7/青7/ BAR/ プラंक	チェリー1	NML37
	B3	0/1	リプレイ	リプレイ	スイカ	NML36
	B2	0/1	スイカ	スイカ	スイカ	NML35
	B1	0/1	ベル	スイカ	チェリー1	NML34
	B0	0/1	ベル	チェリー1	赤7/青7/ BAR/ プラंक	NML33

当り要求フラグ格納領域1・入賞作動フラグ格納領域1	B7	0	—	—	—	—
	B6	0	—	—	—	—
	B5	0	—	—	—	—
	B4	0	—	—	—	—
	B3	0	—	—	—	—
	B2	0	—	—	—	—
	B1	0/1	リプレイ	スイカ	ベル	HZR02
	B0	0/1	チェリー1/ チェリー2	チェリー1	チェリー1	HZR01

※B0～B7:ビット0～ビット7、F0(1):F0又はF1

※B0~B7:ビット0~ビット7, 「0/1」:「0」又は「1」

【図 26】

持越役格納領域			
格納領域	データ		内容
持越役格納領域	ビット7	0	未使用
	ビット6	0	未使用
	ビット5	0	未使用
	ビット4	0	未使用
	ビット3	0 or 1	BB4
	ビット2	0 or 1	BB3
	ビット1	0 or 1	BB2
	ビット0	0 or 1	BB1

【図 27】

遊技状態フラグ格納領域			
格納領域	データ		内容
遊技状態フラグ格納領域2	ビット7	0	未使用
	ビット6	0	未使用
	ビット5	0	未使用
	ビット4	0	未使用
	ビット3	0	未使用
	ビット2	0 or 1	RT5状態
	ビット1	0 or 1	RT4状態
	ビット0	0 or 1	RT3状態
遊技状態フラグ格納領域1	ビット7	0 or 1	RT2状態
	ビット6	0 or 1	RT1状態
	ビット5	0 or 1	RT0状態
	ビット4	0 or 1	RB状態
	ビット3	0 or 1	BB4状態
	ビット2	0 or 1	BB3状態
	ビット1	0 or 1	BB2状態
	ビット0	0 or 1	BB1状態

【図 30】

図柄コード格納領域					
格納領域	データ		コンビネーション(左・中・右)		内容
図柄コード格納領域9	B7	0/1	ベル	リプレイ	赤7/青7/ BAR/ フランク
	B6	0/1	スイカ	ベル	スイカ
	B5	0/1	チェリー1/ チェリー2	スイカ	ベル
	B4	0/1	チェリー1/ チェリー2	赤7/青7/ BAR/ フランク	チェリー1
	B3	0/1	リプレイ	リプレイ	スイカ
	B2	0/1	スイカ	スイカ	スイカ
	B1	0/1	ベル	スイカ	チェリー1
	B0	0/1	ベル	チェリー1	赤7/青7/ BAR/ フランク
・	・	・	・	・	・
図柄コード格納領域1	B7	0	—	—	—
	B6	0	—	—	—
	B5	0	—	—	—
	B4	0	—	—	—
	B3	0	—	—	—
	B2	0	—	—	—
	B1	0/1	リプレイ	スイカ	ベル
	B0	0/1	チェリー1/ チェリー2	チェリー1	チェリー1

※B0～B7:ビット0～ビット7,「0/1」:「0」又は「1」

【図 28】

作動ストップボタン格納領域		
データ	内容	
ビット7	0	未使用
ビット6	0 or 1	右ストップボタン操作有効
ビット5	0 or 1	中ストップボタン操作有効
ビット4	0 or 1	左ストップボタン操作有効
ビット3	0	未使用
ビット2	0 or 1	右ストップボタン操作
ビット1	0 or 1	中ストップボタン操作
ビット0	0 or 1	左ストップボタン操作

※ビット0～2は、「0」で操作なし「1」で操作あり

※ビット4～6は、「0」で無効「1」で有効

【図 29】

押下順序格納領域		
データ	内容	
ビット7	0	未使用
ビット6	0	未使用
ビット5	0 or 1	右→中→左
ビット4	0 or 1	右→左→中
ビット3	0 or 1	中→右→左
ビット2	0 or 1	中→左→右
ビット1	0 or 1	左→右→中
ビット0	0 or 1	左→中→右

※ビット0～5は、「0」で無効「1」で有効

【図 31】

内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係

略称	抽籤番号	当籤役番号	
		通常	有利
F.BB1 + F.確定/リブ	13	28	28
F.BB1 + F.チャンス目A1	13	29	29
F.BB1 + F.チャンス目A2	13	29	29
F.BB1 + F.チャンス目A3	13	29	29
F.BB1 + F.チャンス目A4	13	29	29
F.BB1 + F.チャンス目B1	13	30	30
F.BB1 + F.チャンス目B2	13	30	30
F.BB1 + F.チャンス目B3	13	30	30
F.BB1 + F.チャンス目B4	13	30	30
F.BB1 + F.確定役	13	31	31
F.BB2 + F.確定/リブ	13	32	32
F.BB2 + F.チャンス目A1	13	33	33
F.BB2 + F.チャンス目A2	13	33	33
F.BB2 + F.チャンス目A3	13	33	33
F.BB2 + F.チャンス目A4	13	33	33
F.BB2 + F.チャンス目B1	13	34	34
F.BB2 + F.チャンス目B2	13	34	34
F.BB2 + F.チャンス目B3	13	34	34
F.BB2 + F.チャンス目B4	13	34	34
F.BB2 + F.確定役	13	35	35

略称	抽籤番号	当籤役番号	
		通常	有利
F.BB3 + F.スイカ2	0	36	36
F.BB3 + F.チャンス目A1	13	37	37
F.BB3 + F.チャンス目A2	13	37	37
F.BB3 + F.チャンス目A3	13	37	37
F.BB3 + F.チャンス目A4	13	37	37
F.BB3 + F.チャンス目B1	13	38	38
F.BB3 + F.チャンス目B2	13	38	38
F.BB3 + F.チャンス目B3	13	38	38
F.BB3 + F.チャンス目B4	13	38	38
F.BB4 + F.スイカ2	0	39	39
F.BB4 + F.チャンス目A1	13	40	40
F.BB4 + F.チャンス目A2	13	40	40
F.BB4 + F.チャンス目A3	13	40	40
F.BB4 + F.チャンス目A4	13	40	40
F.BB4 + F.チャンス目B1	13	41	41
F.BB4 + F.チャンス目B2	13	41	41
F.BB4 + F.チャンス目B3	13	41	41
F.BB4 + F.チャンス目B4	13	41	41

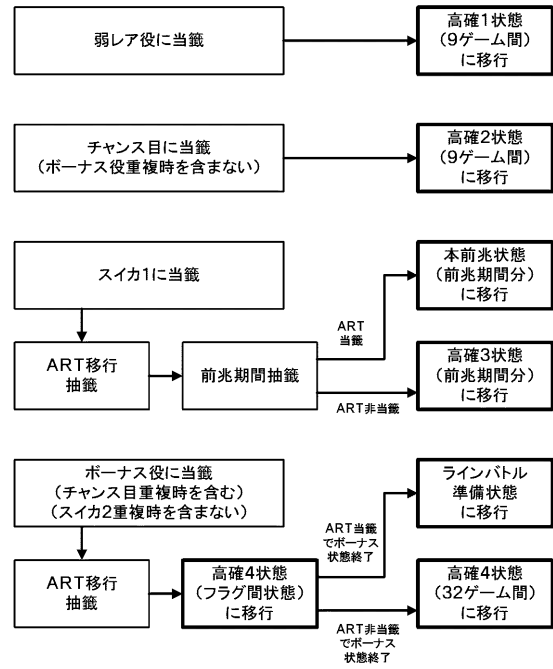
【図 3 2】

内部当籤役と抽籤番号と当籤役番号との対応関係

略称	抽籤番号	当籤役番号		略称	抽籤番号	当籤役番号	
		通常	有利			通常	有利
はずれ	0	0	0	F 確定役	0	18	18
F 維持ゾ	0	1	1	F 特殊ベル	0	19	19
F.R10中ワレ1	1	2	2	F 上段共通ベル	10	20	20
F.R10中ワレ2	1	2	2	F 中段共通ベル	11	21	21
F.R10中ワレ3	1	2	2	F 上段左ベル1	10	22	23
F.R10中ワレ4	1	2	2	F 上段左ベル2	10	22	23
F.R10中ワレ5	1	2	2	F 上段中ベル1	10	22	23
F.R10中ワレ6	1	2	2	F 上段中ベル2	10	22	23
F.R11中ワレ1	5	3	3	F 上段右左ベル1	10	22	23
F.R11中ワレ2	5	3	3	F 上段右左ベル2	10	22	23
F.R11中ワレ3	5	3	3	F 上段右中ベル1	10	22	23
F.R11中ワレ4	5	3	3	F 上段右中ベル2	10	22	23
F.R11中ワレ5	5	3	3	F 中段左ベル1	11	22	24
F.R11中ワレ6	5	3	3	F 中段左ベル2	11	22	24
F.R12中ワレ1	1	4	4	F 中段中ベル1	11	22	24
F.R12中ワレ2	1	4	4	F 中段中ベル2	11	22	24
F.R12中ワレ3	1	4	4	F 中段右左ベル1	11	22	24
F 確定ゾ	0	5	5	F 中段右左ベル2	11	22	24
F 上段ゾ	2	6	6	F 中段右中ベル1	11	22	24
F 中段ゾ1	3	7	7	F 中段右中ベル2	11	22	24
F 中段ゾ2	3	8	8	F 中段中ベル1	12	22	25
F 中段ゾ3	3	9	9	F 中段中ベル2	12	22	25
F 下段ゾ	4	10	10	F 下段右左ベル1	12	22	25
F 被弾ゾ	5	11	11	F 下段右左ベル2	12	22	25
F.チャンス目A1	6	12	12	F 下段右中ベル1	12	22	25
F.チャンス目A2	6	12	12	F 下段右中ベル2	12	22	25
F.チャンス目A3	6	12	12	F.JAC1 1	0	26	26
F.チャンス目A4	6	12	12	F.JAC1 2	0	26	26
F.チャンス目B1	6	13	13	F.JAC1 3	0	26	26
F.チャンス目B2	6	13	13	F.JAC1 4	0	26	26
F.チャンス目B3	6	13	13	F.JAC1 5	0	26	26
F.チャンス目B4	6	13	13	F.JAC1 6	0	26	26
F 弱レゾ役A	7	14	14	F.JAC2	0	27	27
F 弱レゾ役B	7	15	15				
F.スライ1	8	16	16				
F.スライ2	9	17	17				

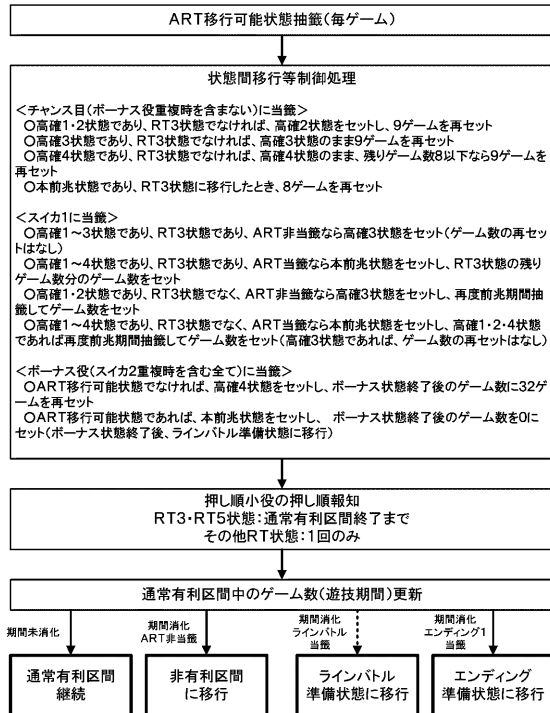
【図 3 3】

・非有利区間(通常状態)の遊技の流れ



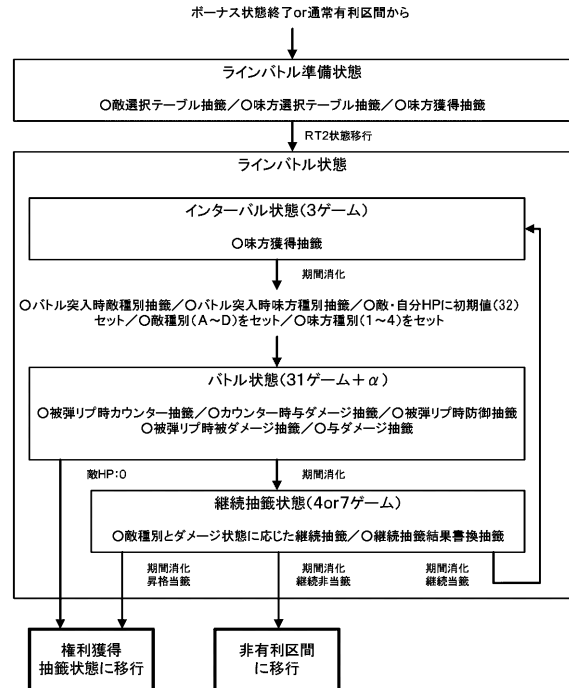
【図 3 4】

・通常有利区間(高確1～4状態 本前兆状態)の遊技の流れ



【図 3 5】

・ラインバトル状態の遊技の流れ



【図 3 6】

敵選択テーブル抽選テーブル(確率分母:256)									
敵選択 テーブル	0	1	2	3	4	5	6	7	抽選率
1	中	低	中	低	中	低	中	低	120
2	高	中	低	中	低	中	低	中	48
3	高	高	中	低	中	低	中	低	24
4	高	高	高	中	低	中	低	中	12
5	高	高	高	高	中	低	中	低	12
6	高	高	高	高	高	中	低	中	4
7	高	高	高	高	高	高	中	低	4
8	高	高	高	高	高	高	高	中	32

味方選択テーブル抽選テーブル(確率分母:256)									
味方選択 テーブル	0	1	2	3	4	5	6	7	抽選率
1	中	低	低	低	低	激低	激低	激低	84
2	中	中	中	中	低	激低	激低	激低	32
3	中	中	中	中	低	激低	激低	中	24
4	中	低	低	低	低	激低	激低	中	24
5	高	高	高	高	高	低	低	低	20
6	高	高	高	高	高	低	低	低	8
7	高	中	高	中	高	中	高	中	8
8	高	高	高	高	高	高	高	高	32

カウンター特化ダメージ抽選テーブル(確率分母:256)		抽選率
0		
1	192	
2	32	
3	32	
4	0	
5	0	
6	0	
7	0	
8	0	

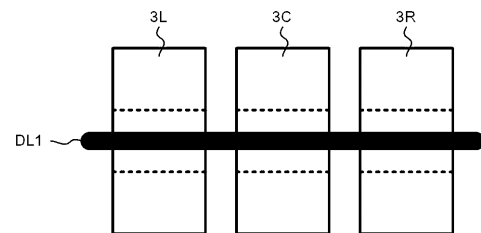
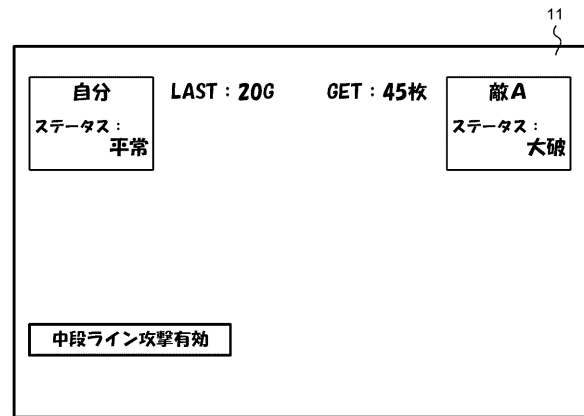
通常リブ補償ダメージ抽選テーブル(確率分母:256)				
補ダメージ	A	B	C	D
0	0	0	0	0
1	0	0	70	24
2	0	64	20	32
3	0	32	40	100
4	64	48	78	100
5	64	48	78	0
6	128	64	0	0

ダメージ抽選テーブル(確率分母:256)					
補ダメージ	中敵 リブレベル	上段 リブレベル	下段 リブレベル	スエカ	その他
0	0	0	0	0	256
1	192	222	222	0	0
2	38	24	26	218	0
3	26	8	8	16	0
4	0	0	0	12	0
5	0	0	0	6	0
6	0	0	0	4	0
7	0	0	0	0	0

総戦結果テーブル(確率分母:256)					
抽戦結果	敵種別	自分:平常 敵:平常	自分:平常 敵:小破	自分:大破 敵:平常	自分:大破 敵:大破
40勝北	A	70	45	180	0
40勝北		0	6	0	0
40勝北		120	113	40	240
70勝北		32	80	24	0
40勝北		12	12	4	16
70勝北	D	16	20	8	0
40勝北		70	33	80	0
40勝北		0	0	0	0
40勝北		148	173	192	252
70勝北		32	32	9	0
40勝北		2	2	2	4
70勝北		3	3	3	0

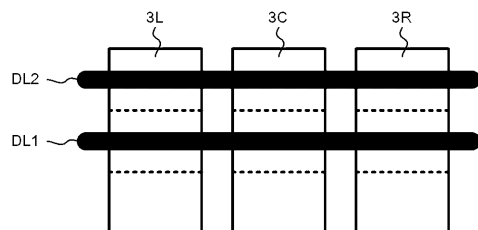
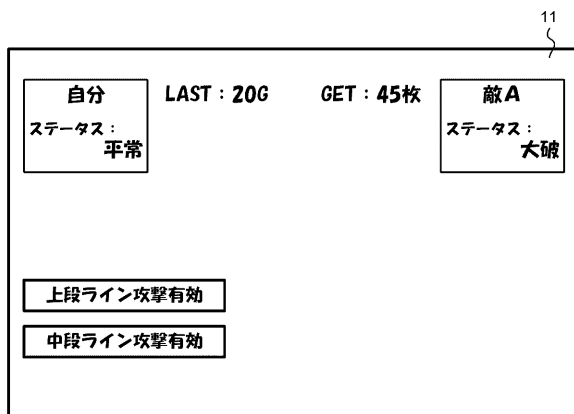
【図 3 7】

<ラインバトル状態:味方なしの場合の表示例>



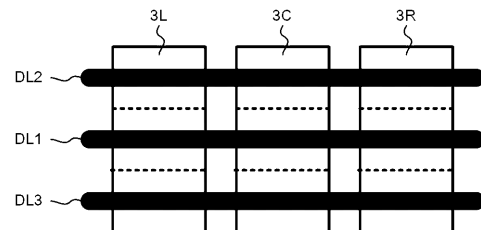
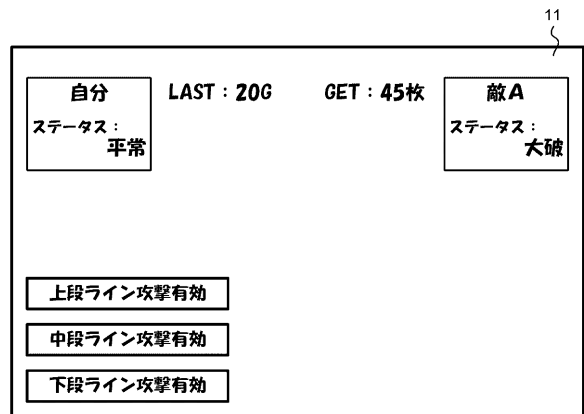
【図 3 8】

<ラインバトル状態:味方1獲得の場合の表示例>



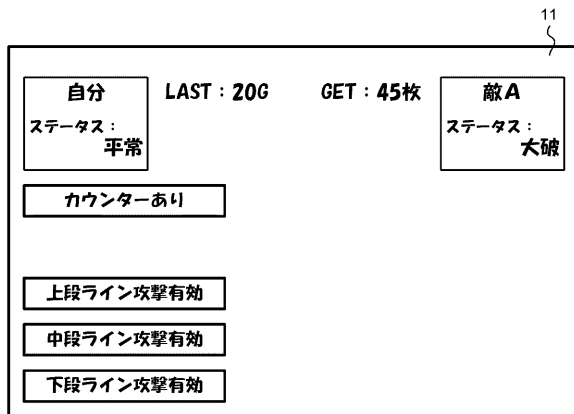
【図 3 9】

<ラインバトル状態:味方1・2獲得の場合の表示例>



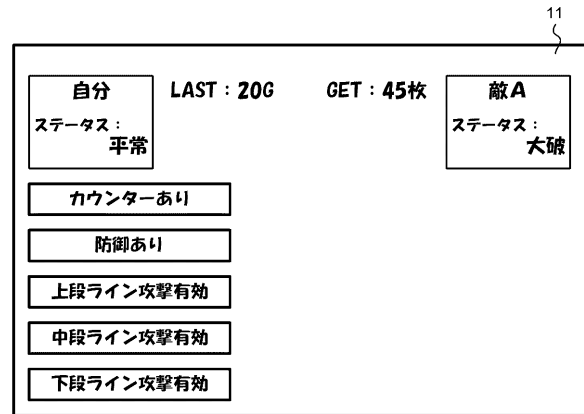
【図 40】

<ラインバトル状態:味方1〜3獲得の場合の表示例>



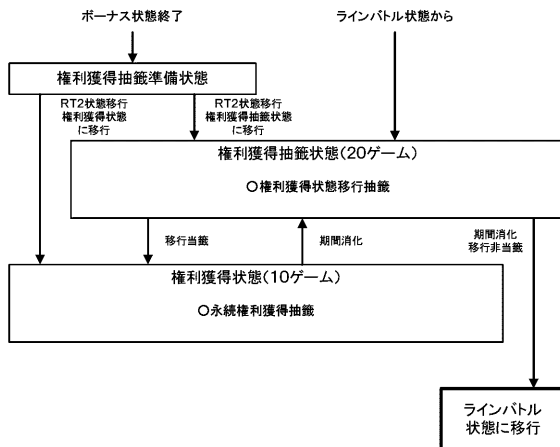
【図 41】

<ラインバトル状態:味方1〜4獲得の場合の表示例>



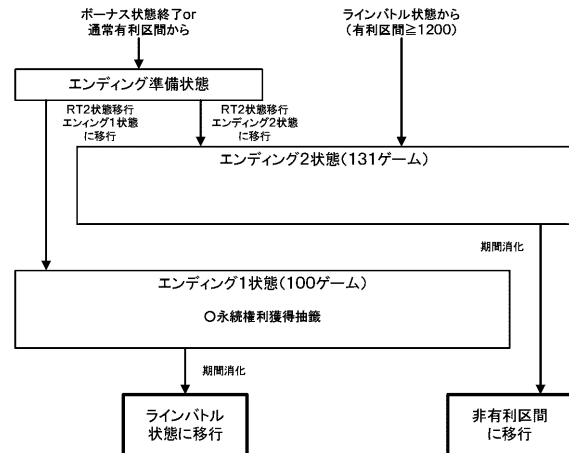
【図 42】

・権利獲得抽籤状態及び権利獲得状態の遊技の流れ



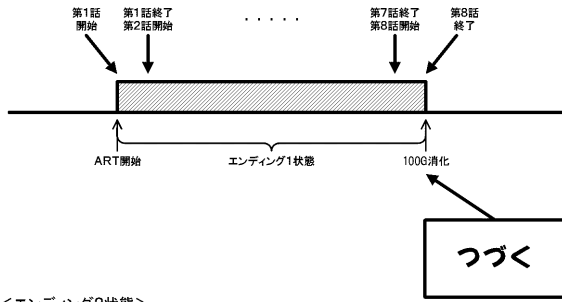
【図 43】

・エンディング1状態及びエンディング2状態の遊技の流れ

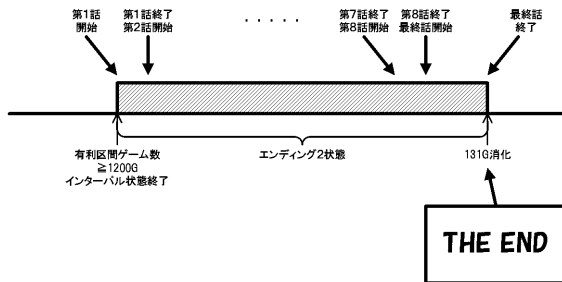


【図 4 4】

<エンディング1状態>



<エンディング2状態>



【図 4 5】

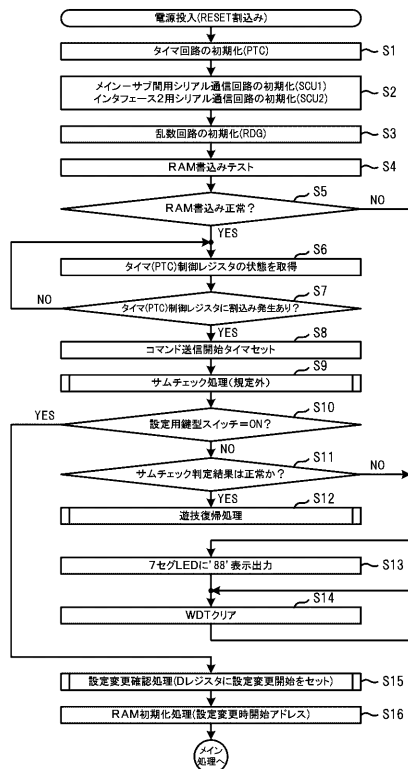
各遊技状態と内部当籤役とナビデータとの対応関係

略称	遊技状態				
	内部当籤役	非有利区間の各遊技状態	通常有利区間のボーナス非当籤状態	通常有利区間のフラグ間状態	通常有利区間のボーナス状態
F.RT0中リプレイ1	0	0	0	—	1
F.RT0中リプレイ2	0	0	0	—	2
F.RT0中リプレイ3	0	0	0	—	3
F.RT0中リプレイ4	0	0	0	—	4
F.RT0中リプレイ5	0	0	0	—	5
F.RT0中リプレイ6	0	0	0	—	6
F.RT1中リプレイ1	0	0	0	—	1
F.RT1中リプレイ2	0	0	0	—	2
F.RT1中リプレイ3	0	0	0	—	3
F.RT1中リプレイ4	0	0	0	—	4
F.RT1中リプレイ5	0	0	0	—	5
F.RT1中リプレイ6	0	0	0	—	6
F.RT2中リプレイ1	0	0	0	—	1or2
F.RT2中リプレイ2	0	0	0	—	3or4
F.RT2中リプレイ3	0	0	0	—	5or6
F.JAC1.1	0	—	—	0	1
F.JAC1.2	0	—	—	0	2
F.JAC1.3	0	—	—	0	3
F.JAC1.4	0	—	—	0	4
F.JAC1.5	0	—	—	0	5
F.JAC1.6	0	—	—	0	6
F.上段左ベル1	0	1	1	—	1
F.上段左ベル2	0	2	2	—	2
F.上段中ベル1	0	3	3	—	3
F.上段中ベル2	0	4	4	—	4
F.上段右ベル1	0	5	5	—	5
F.上段右ベル2	0	5	5	—	5
F.上段右中ベル1	0	6	6	—	6
F.上段右中ベル2	0	6	6	—	6
F.中段左ベル1	0	1	1	—	1
F.中段左ベル2	0	2	2	—	2
F.中段中ベル1	0	3	3	—	3
F.中段中ベル2	0	4	4	—	4
F.中段右ベル1	0	5	5	—	5
F.中段右ベル2	0	5	5	—	5
F.中段右中ベル1	0	6	6	—	6
F.中段右中ベル2	0	6	6	—	6
F.下段中ベル1	0	3	3	—	3
F.下段中ベル2	0	4	4	—	4
F.下段右中ベル1	0	5	5	—	5
F.下段右中ベル2	0	5	5	—	5
F.下段右中ベル1	0	6	6	—	6
F.下段右中ベル2	0	6	6	—	6

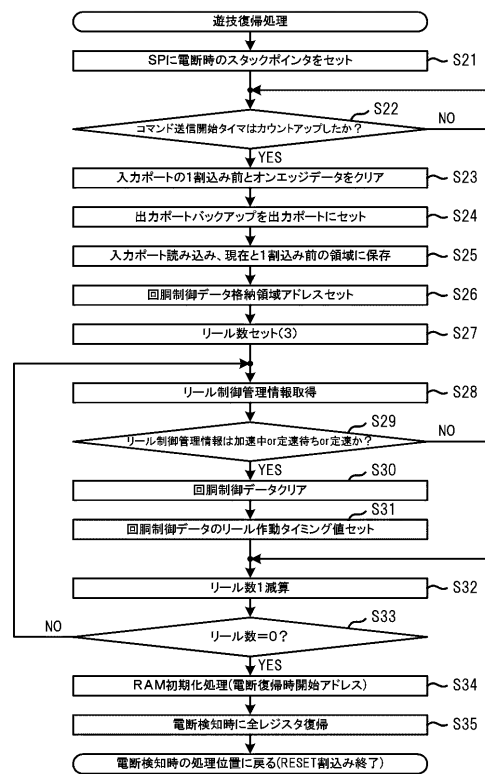
※ナビデータ:0は、押し順報なしに対応

※ナビデータ:1〜6は、打順1〜6報知ありに対応

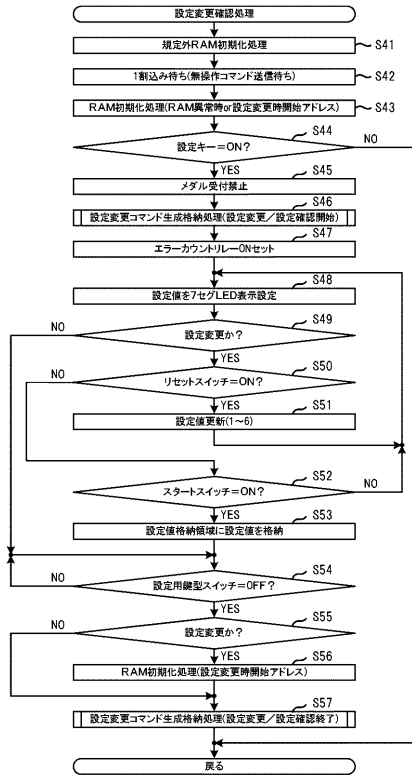
【図 4 6】



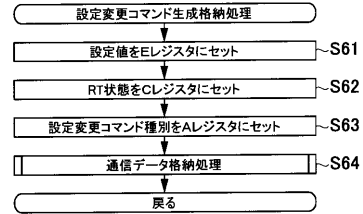
【図 4 7】



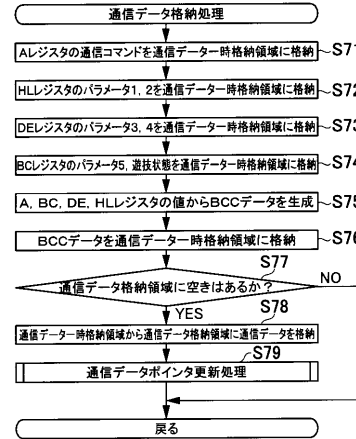
【図 48】



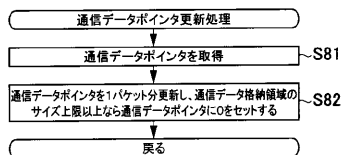
【図 49】



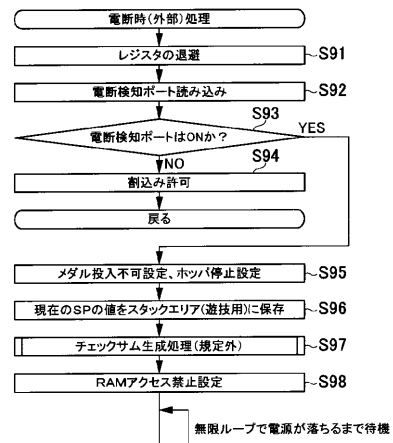
【図 50】



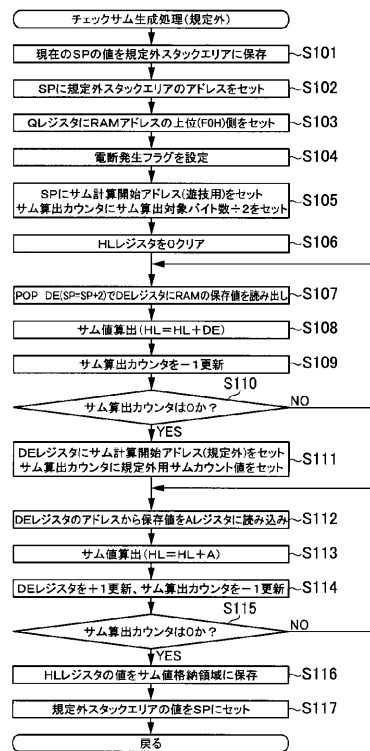
【図 51】



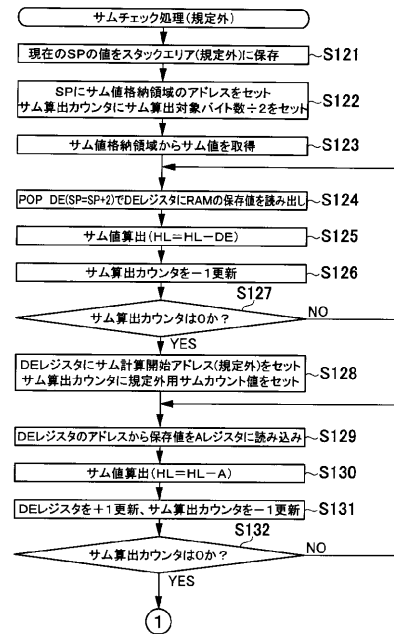
【図 52】



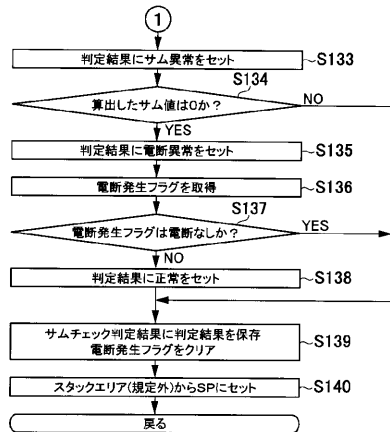
【図 5 3】



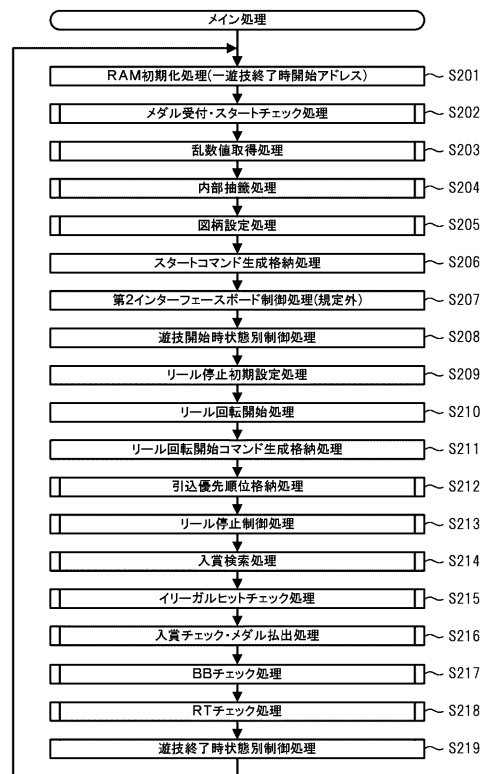
【図 5 4】



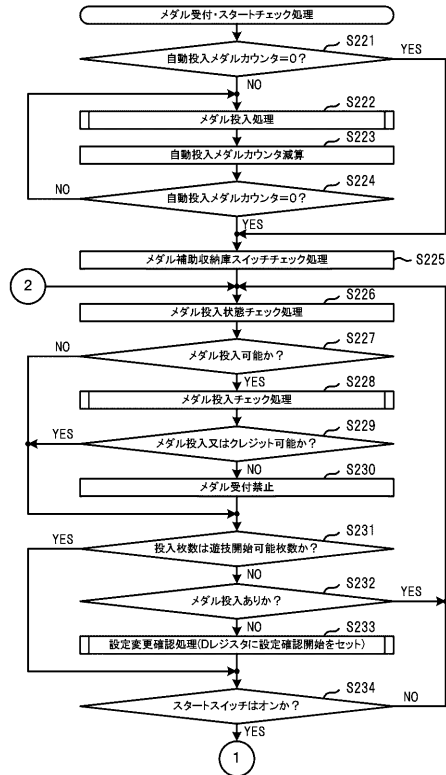
【図 5 5】



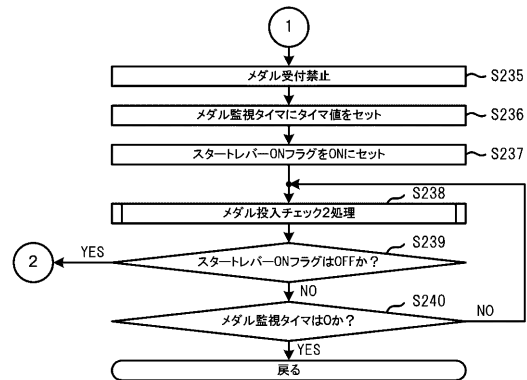
【図 5 6】



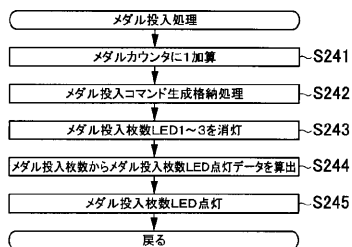
【 図 5 7 】



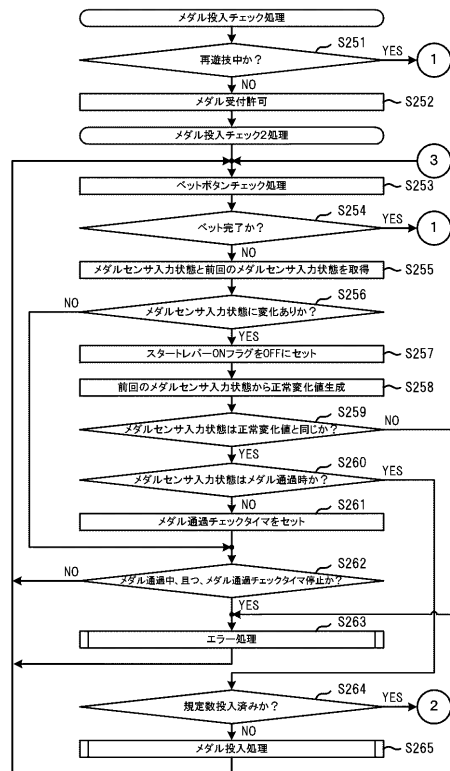
【 図 5 8 】



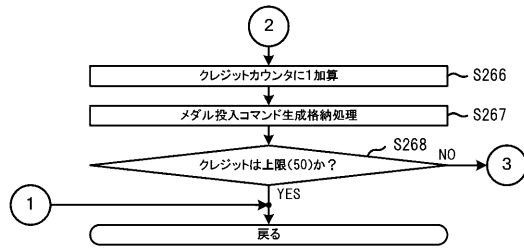
【 図 5 9 】



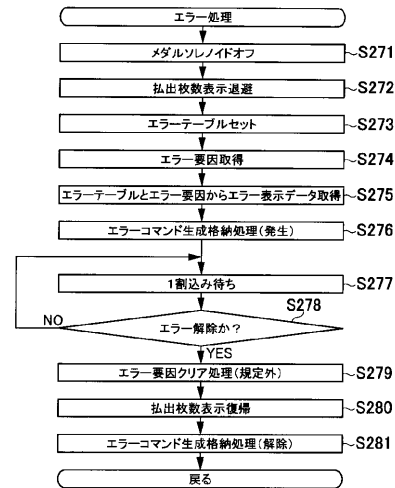
【 図 6 0 】



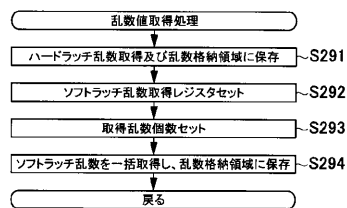
【図 6 1】



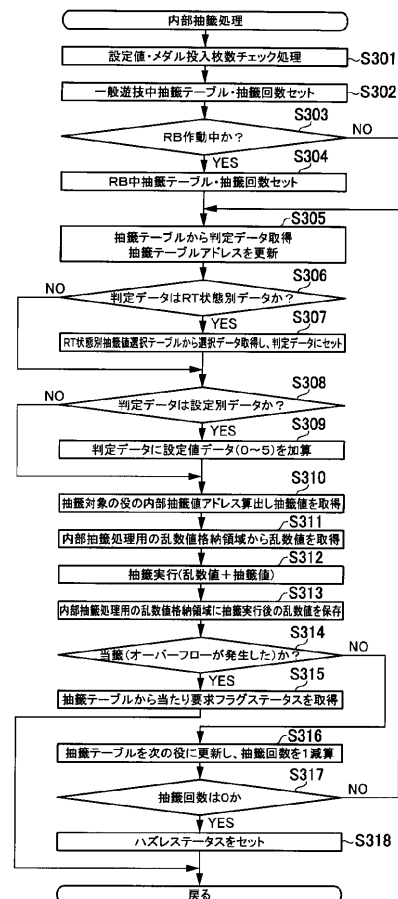
【図 6 2】



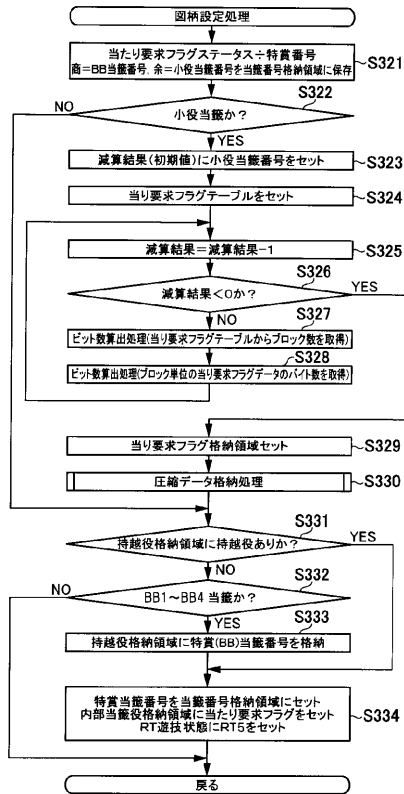
【図 6 3】



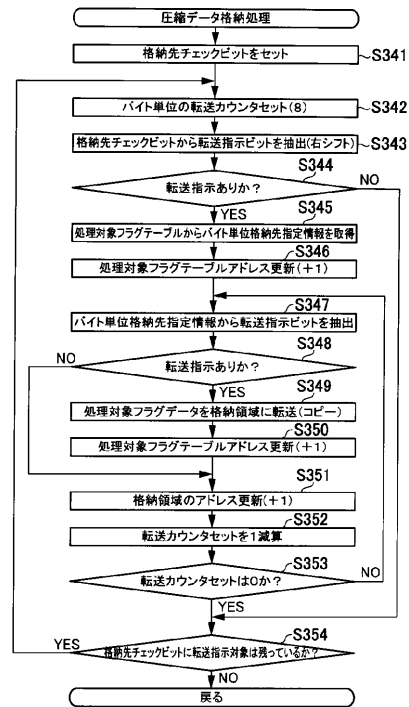
【図 6 4】



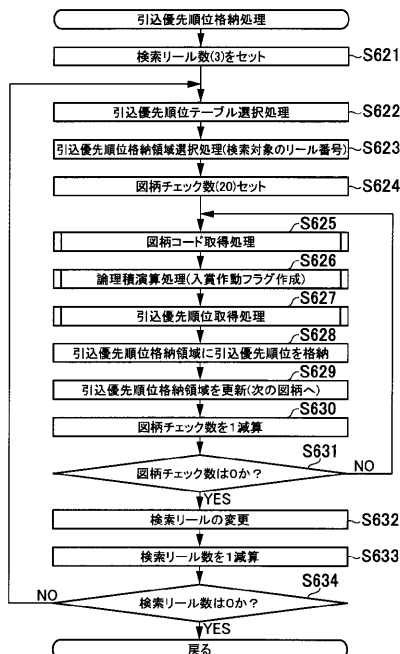
【図 65】



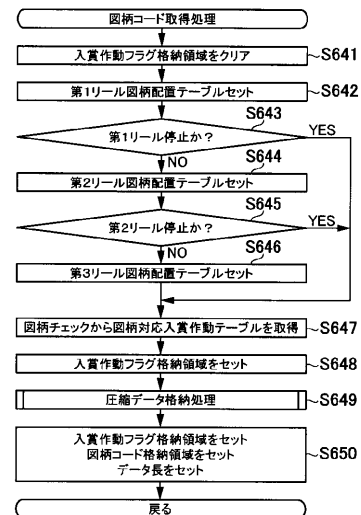
【図 66】



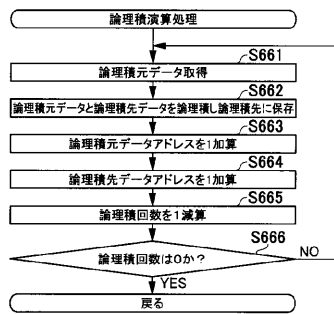
【図 67】



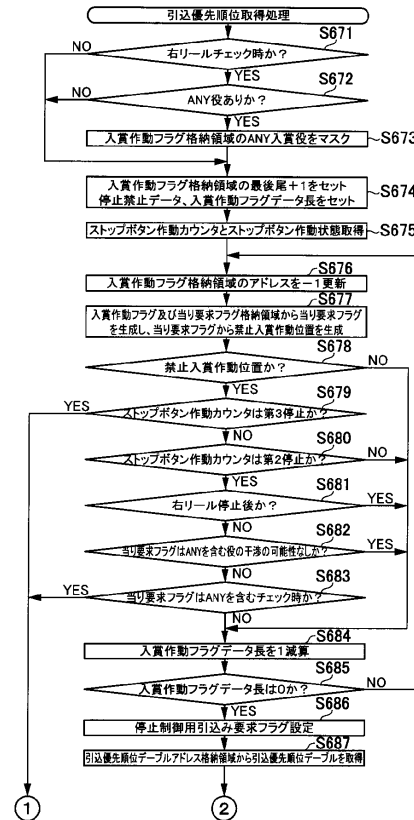
【図 68】



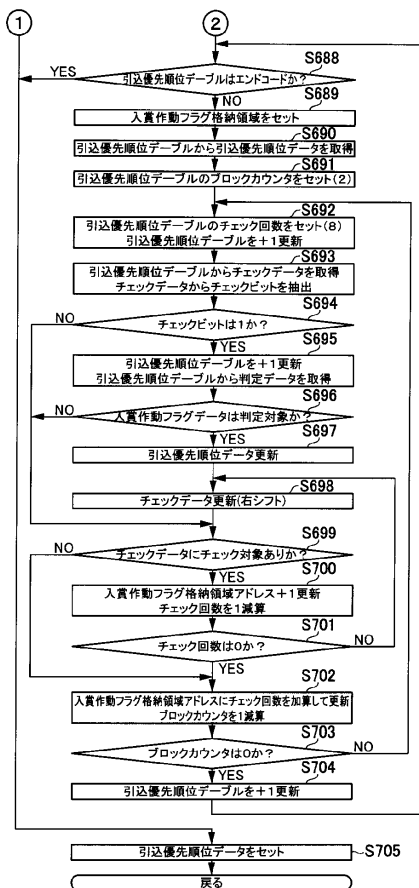
【図 69】



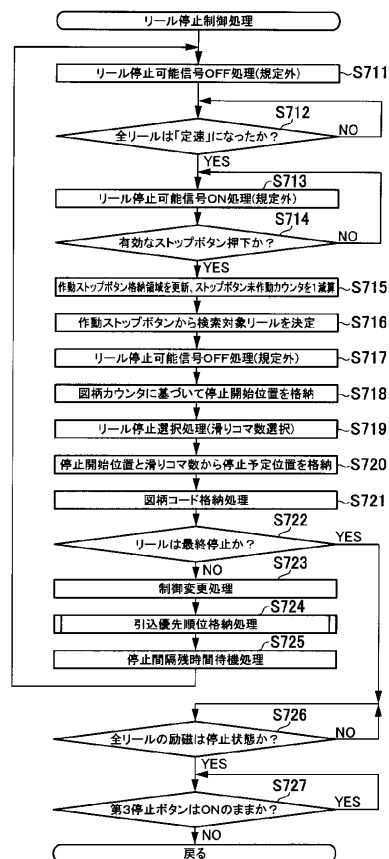
【図 70】



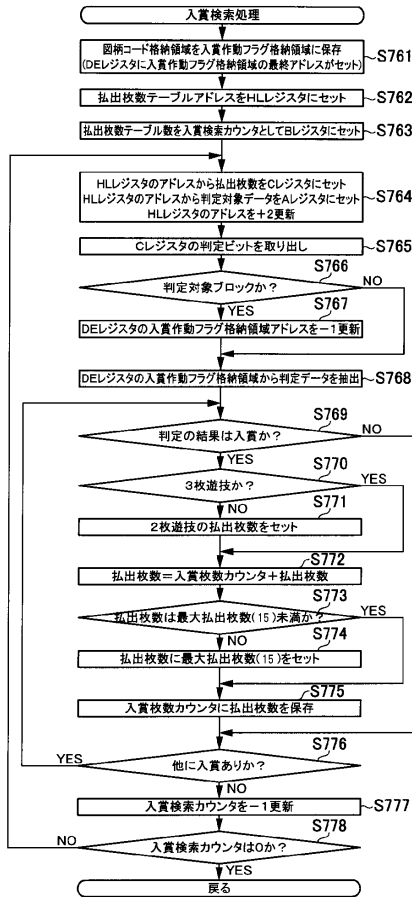
【図 71】



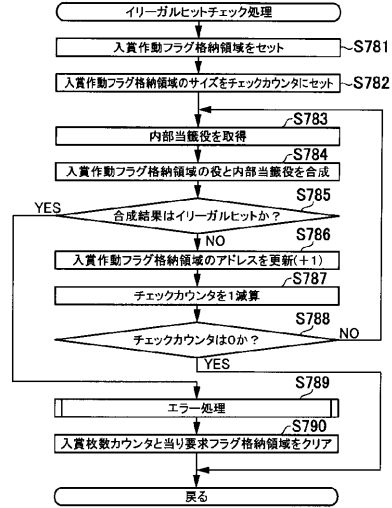
【図 72】



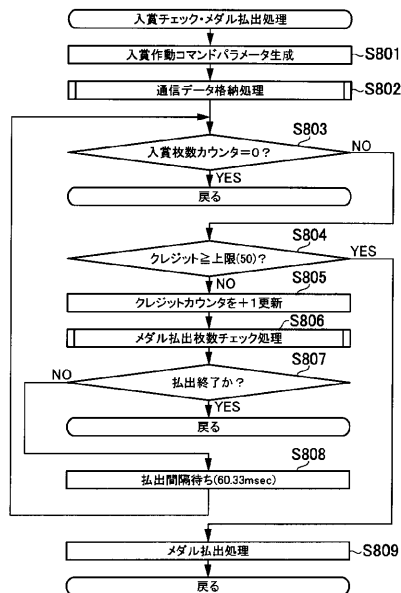
【図 7 3】



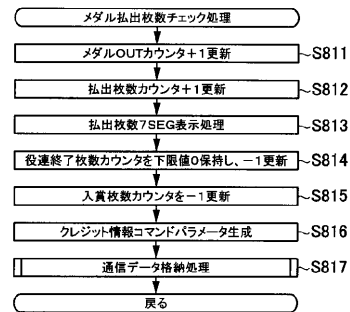
【図 7 4】



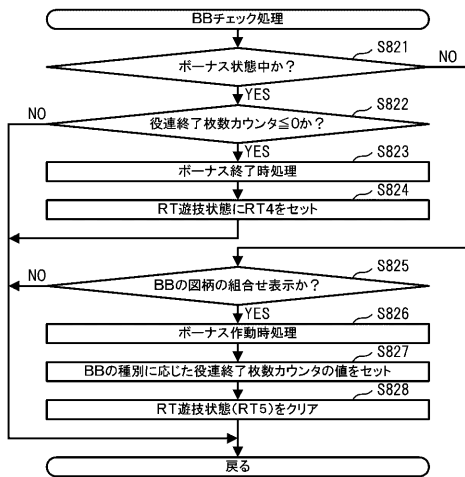
【図 7 5】



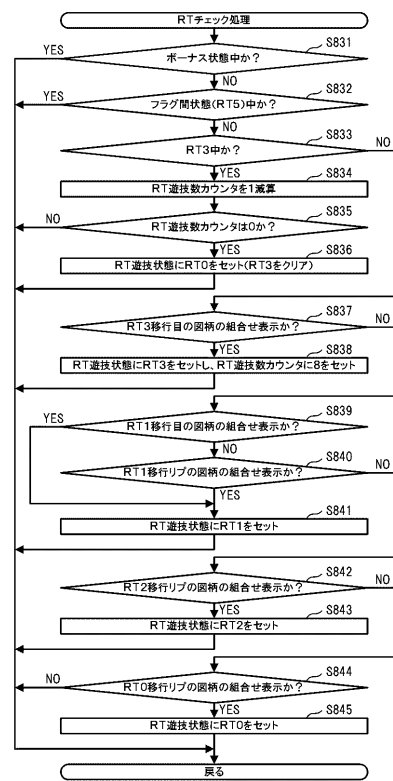
【図 7 6】



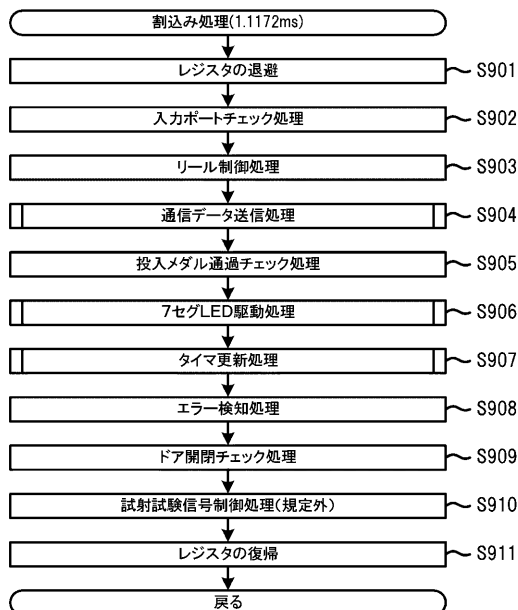
【図 77】



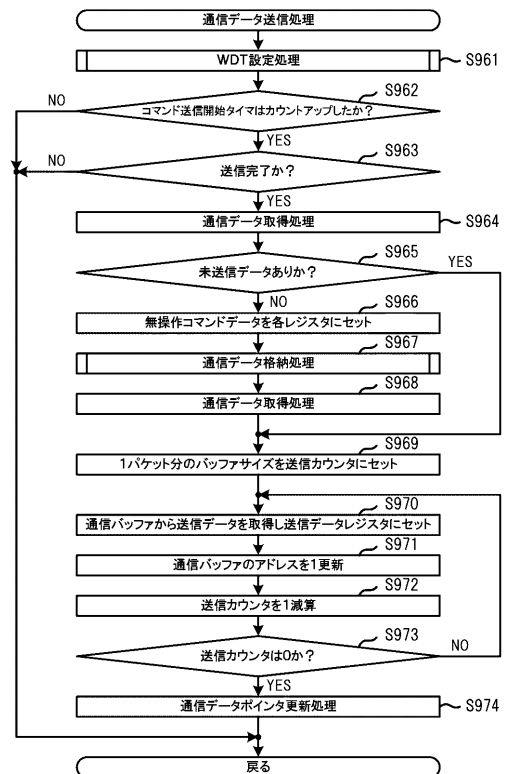
【図 78】



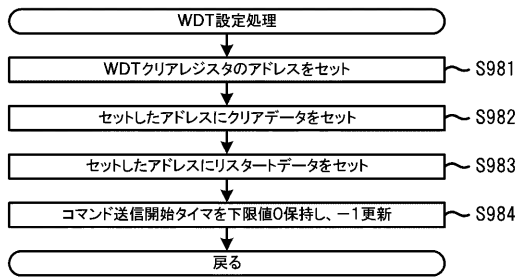
【図 79】



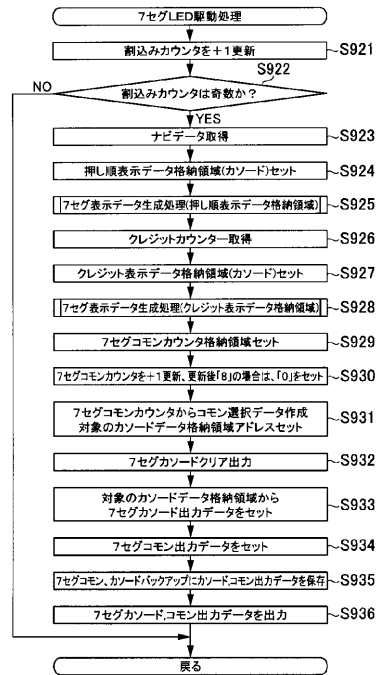
【図 80】



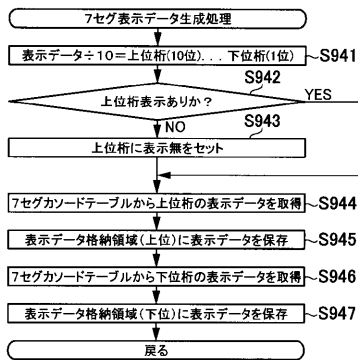
【図 8 1】



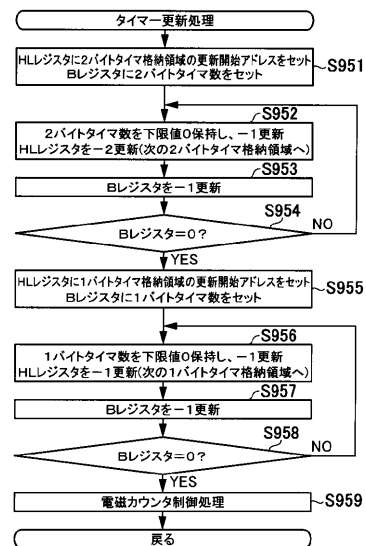
【図 8 2】



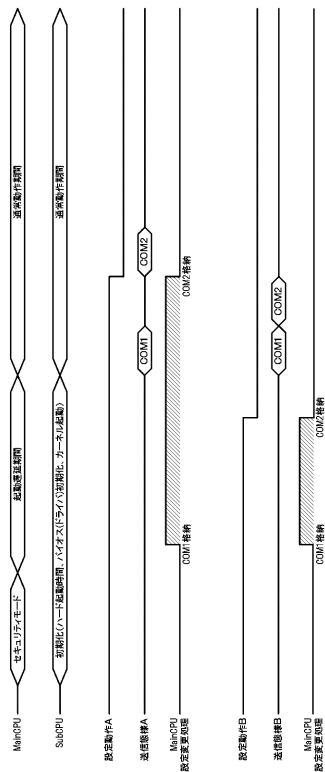
【図 8 3】



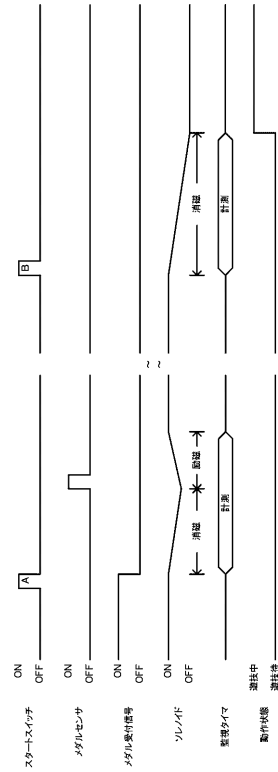
【図 8 4】



【図 85】

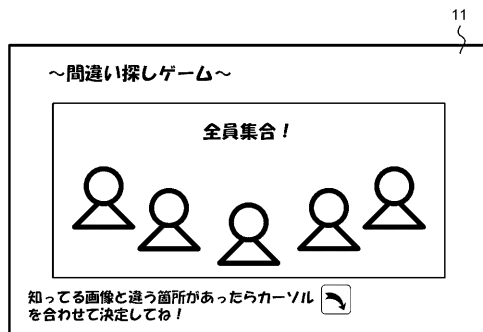


【図 86】

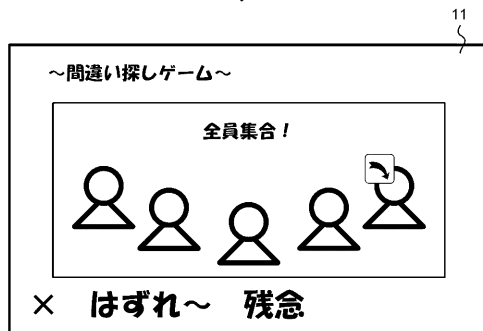


【図 87】

<ボーナス役当籤報知演出(その1):間違ひ探し演出(ボーナス役非当籤の場合)>

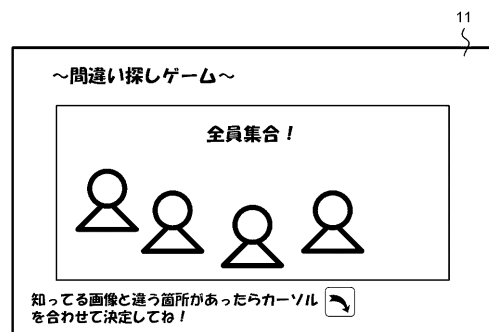


選択・決定操作

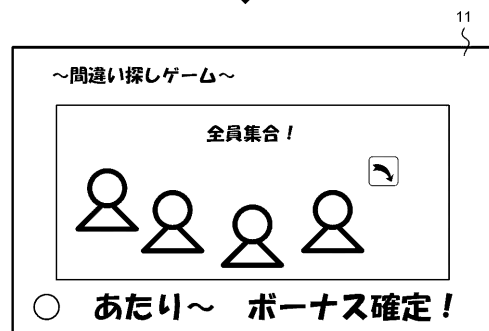


【図 88】

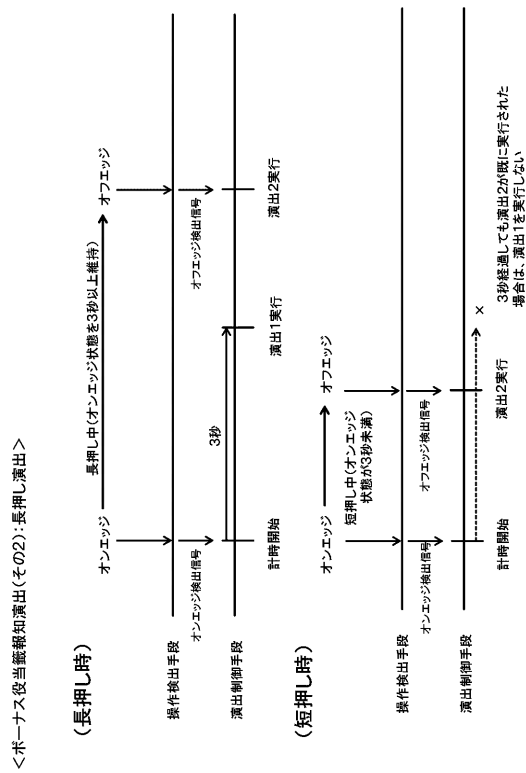
<ボーナス役当籤報知演出(その1):間違ひ探し演出(ボーナス役当籤の場合)>



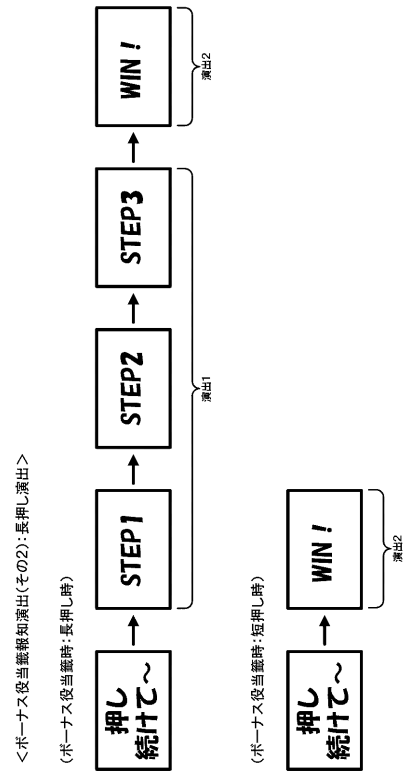
選択・決定操作



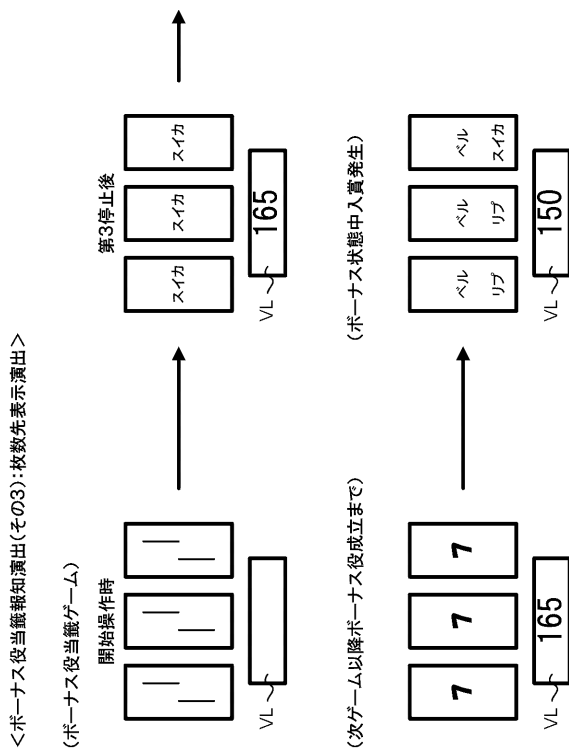
【図 89】



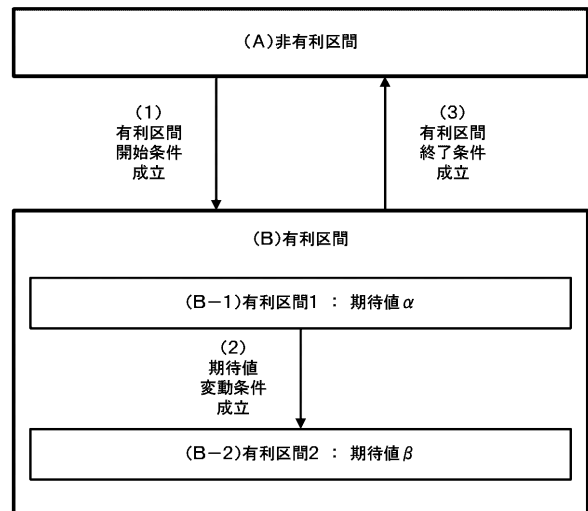
【図 90】



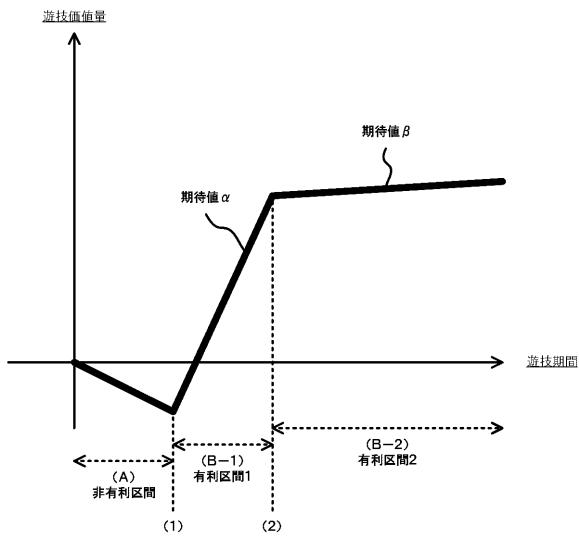
【図 91】



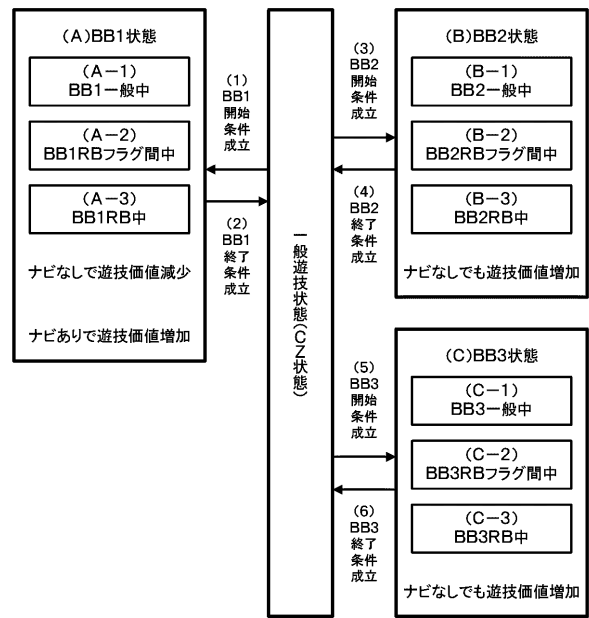
【図 92】



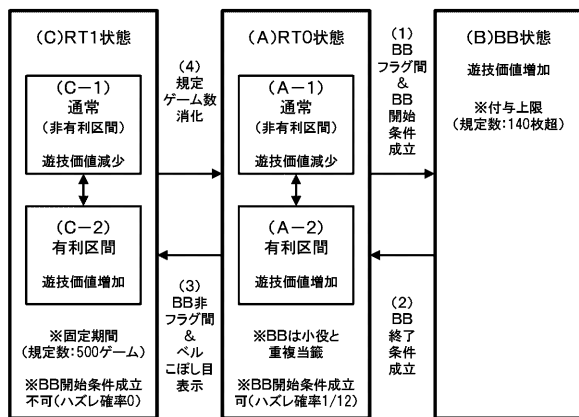
【図 9 3】



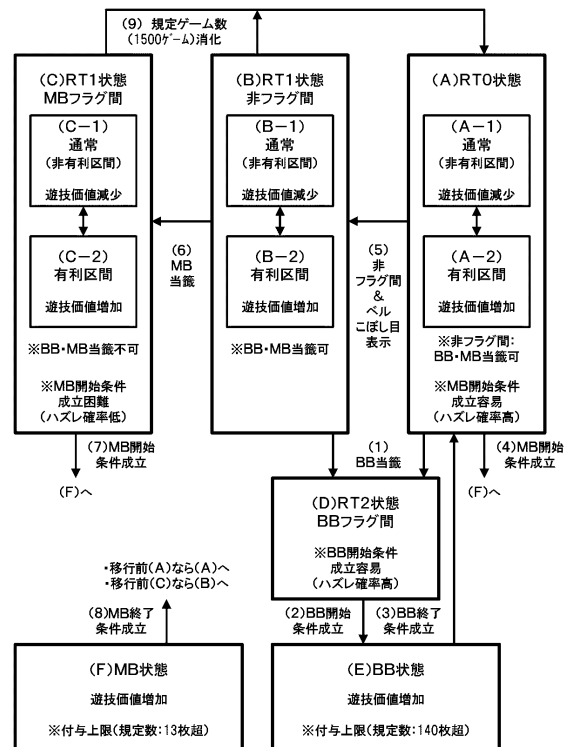
【図 9 4】



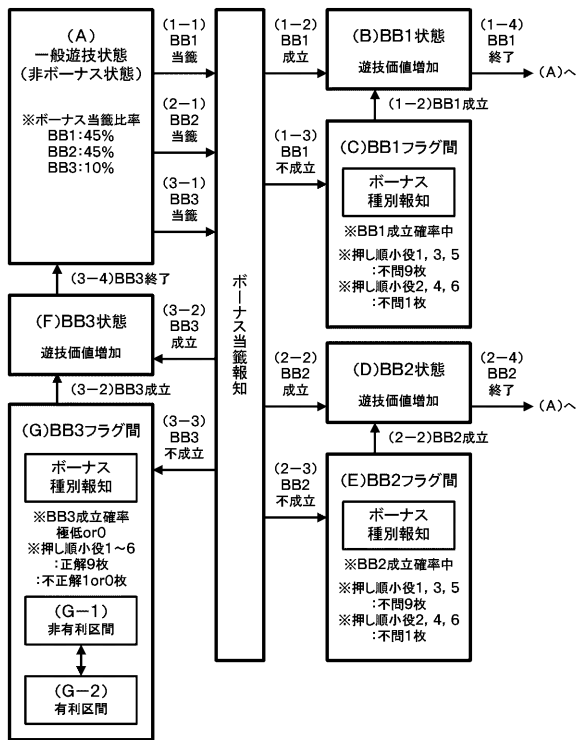
【図 9 5】



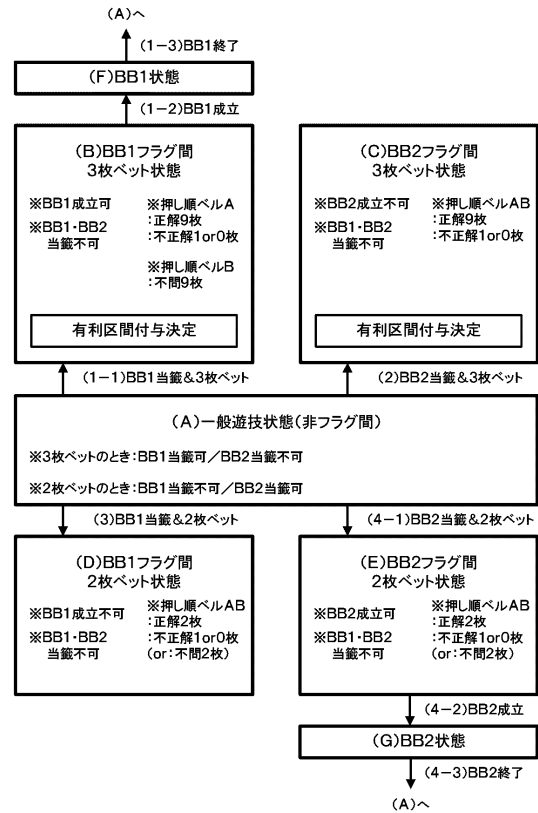
【図 9 6】



【図 97】



【図 98】



【図 99】

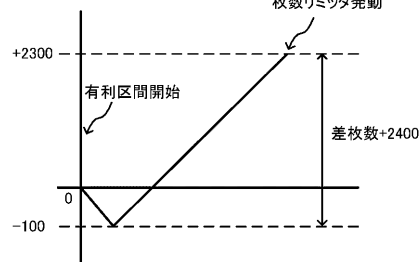
内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:55536)

No.	略称	非フラグ間 3枚ベット	非フラグ間 2枚ベット	フラグ間 3枚ベット	フラグ間 2枚ベット	種別	有利区間 付与決定	備考
0	はずれ	0	0	7702	7702	—	—	—
1	F 3B5	7702	0	0	0	ボーナス	—	BB1
2	F 2B5	0	7702	0	0	ボーナス	—	BB2
3	F 17A	5903	5903	5903	5903	普通技	—	通常JIP
4	F 17B	770	770	770	770	普通技	○	非フラグ間-BB1フラグ間:通常JIP BB2フラグ間:チャンス目
5	F ヘルプA	988	988	988	988	普通技	—	ベルリブ
6	F ヘルプB	656	656	656	656	普通技	—	ベルリブ
7	F チャンス目A	148	148	148	148	普通技	○	チャンス目
8	F チャンス目B	148	148	148	148	普通技	○	チャンス目
9	F チャンス目C	148	148	148	148	普通技	○	チャンス目
10	F チャンス目D	63	63	63	63	普通技	○	チャンス目
11	F チャンス目E	63	63	63	63	普通技	○	チャンス目
12	F チャンス目F	4	4	4	4	普通技	○	チャンス目
13	F チャンス目G	4	4	4	4	普通技	○	チャンス目
14	F チャンス目H	4	4	4	4	普通技	○	チャンス目
15	F チャンス目I	4	4	4	4	普通技	○	チャンス目
16	F チャンス目J	4	4	4	4	普通技	○	チャンス目
17	F 確率A	63	63	63	63	普通技	○	確率A
18	F 確率B	4	4	4	4	普通技	○	確率B
19	F 確定フィー	4	4	4	4	普通技	○	確定フィー
20	F 左中右へA01	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
21	F 左中右へA02	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
22	F 左中右へA03	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
23	F 左中右へA04	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
24	F 左中右へA05	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
25	F 左中右へA06	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
26	F 左中右へA07	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
27	F 左中右へA08	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
28	F 左中右へA09	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
29	F 左中右へA10	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
30	F 左中右へA11	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
31	F 左中右へA12	3592	3592	3592	3592	小役	—	—
32	F 左中右へB01	370	370	370	370	小役	—	—
33	F 左中右へB02	370	370	370	370	小役	—	—
34	F 左中右へB03	370	370	370	370	小役	—	—
35	F 左中右へB04	370	370	370	370	小役	—	—
36	F 左中右へB05	370	370	370	370	小役	—	—
37	F 左中右へB06	370	370	370	370	小役	—	—
38	F 左中右へB07	370	370	370	370	小役	—	—
39	F 左中右へB08	370	370	370	370	小役	—	—
40	F 左中右へB09	370	370	370	370	小役	—	—
41	F 左中右へB10	370	370	370	370	小役	—	—
42	F 左中右へB11	370	370	370	370	小役	—	—
43	F 左中右へB12	370	370	370	370	小役	—	—
44	F チェリー	656	656	656	656	小役	○	チェリー ○3枚ベット(タイミング○):3枚 ○2枚ベット(タイミング○):2枚
45	F スイカ	656	656	656	656	小役	○	スイカ ○3枚ベット(タイミング○):3枚 ○2枚ベット(タイミング○):2枚

【図 100】

変形例 (有利区間リミットの別例)

(A) 枚数リミットの概要



【図 105】

内部当籤役と停止操作順序(押し順)と表示役との対応関係

略称	押し順					
	左中右	左右中	中左右	中右左	右左中	右中左
はずれ	-	-	-	-	-	-
通常リフ	C.リフレイ					
RT1中リフ 123	C.RT2移行リフ			C.リフレイ		
RT1中リフ 132	C.リフレイ	C.RT2移行リフ		C.リフレイ		
RT1中リフ 213	C.リフレイ	C.RT2移行リフ	C.RT2移行リフ	C.リフレイ		
RT1中リフ 231	C.リフレイ		C.RT2移行リフ	C.リフレイ		
RT1中リフ 312		C.リフレイ	C.RT2移行リフ	C.RT2移行リフ	C.リフレイ	
RT1中リフ 321		C.リフレイ			C.RT2移行リフ	
RT2中リフ 123	C.RT3移行リフ			C.リフレイ		
RT2中リフ 132	C.リフレイ	C.RT3移行リフ		C.リフレイ		
RT2中リフ 213	C.リフレイ	C.RT3移行リフ	C.RT3移行リフ	C.リフレイ		
RT2中リフ 231	C.リフレイ		C.RT3移行リフ	C.リフレイ		
RT2中リフ 312		C.リフレイ	C.RT3移行リフ	C.RT3移行リフ	C.リフレイ	
RT2中リフ 321		C.リフレイ			C.RT3移行リフ	
RT3中リフ 123	C.RT4移行リフ			C.リフレイ		
RT3中リフ 132	C.リフレイ	C.RT4移行リフ		C.リフレイ		
RT3中リフ 213	C.リフレイ	C.RT4移行リフ	C.RT4移行リフ	C.リフレイ		
RT3中リフ 231	C.リフレイ		C.RT4移行リフ	C.リフレイ		
RT3中リフ 312		C.リフレイ	C.RT4移行リフ	C.RT4移行リフ	C.リフレイ	
RT3中リフ 321		C.リフレイ			C.RT4移行リフ	
RT4中リフ 123	C.RT5移行リフ			C.リフレイ		
RT4中リフ 132	C.リフレイ	C.RT5移行リフ		C.リフレイ		
RT4中リフ 213	C.リフレイ	C.RT5移行リフ	C.RT5移行リフ	C.リフレイ		
RT4中リフ 231	C.リフレイ		C.RT5移行リフ	C.リフレイ		
RT4中リフ 312		C.リフレイ	C.RT5移行リフ	C.RT5移行リフ	C.リフレイ	
RT4中リフ 321		C.リフレイ			C.RT5移行リフ	
RT5中リフ 123	C.RT6移行リフ			C.リフレイ		
RT5中リフ 132	C.リフレイ	C.RT6移行リフ		C.リフレイ		
RT5中リフ 213	C.リフレイ	C.RT6移行リフ	C.RT6移行リフ	C.リフレイ		
RT5中リフ 231	C.リフレイ		C.RT6移行リフ	C.リフレイ		
RT5中リフ 312		C.リフレイ	C.RT6移行リフ	C.RT6移行リフ	C.リフレイ	
RT5中リフ 321		C.リフレイ			C.RT6移行リフ	
RT6中リフ 123	C.RT1移行リフ			C.リフレイ		
RT6中リフ 132	C.リフレイ	C.RT1移行リフ		C.リフレイ		
RT6中リフ 213	C.リフレイ	C.RT1移行リフ	C.RT1移行リフ	C.リフレイ		
RT6中リフ 231	C.リフレイ		C.RT1移行リフ	C.リフレイ		
RT6中リフ 312		C.リフレイ	C.RT1移行リフ	C.RT1移行リフ	C.リフレイ	
RT6中リフ 321		C.リフレイ			C.RT1移行リフ	
	省略					

【図 106】

(A) 通常区間中有利区間移行抽籤テーブル(確率分母:256)

結果	抽籤値
非当籤	0 252
当籤	1 4

※ 当籤時は、CZへ移行
一律抽籤であつてもよく、内部当籤役に応じた抽籤であつてもよい

(B) CZ中ART移行抽籤テーブル(確率分母:256)

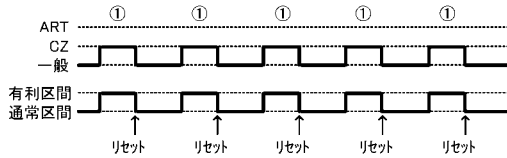
結果	抽籤値
非当籤	0 224
当籤	1 32

※ 当籤時は、ARTへ移行
一律抽籤であつてもよく、内部当籤役に応じた抽籤であつてもよい

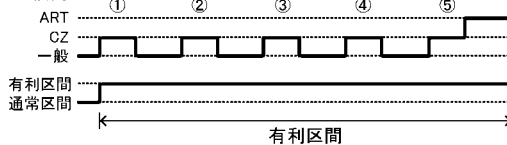
【図 107】

制御の比較

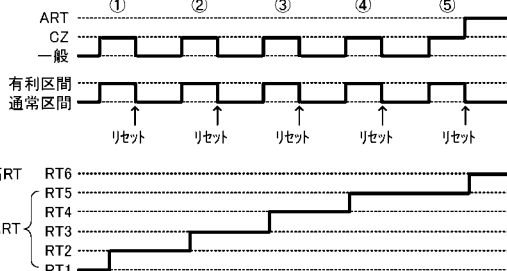
比較例1



比較例2



本制御



【図 108】

天井短縮制御

(A) 天井短縮制御の例1

内部当籤役と停止操作順序(押し順)と表示役との対応関係

略称	押し順					
	左中右	左右中	中左右	中右左	右左中	右中左
RT1中リフ A.123	C.RT2移行リフ			維持リフ		
RT1中リフ A.132	維持リフ	C.RT2移行リフ		維持リフ		
RT1中リフ A.213	維持リフ	C.RT2移行リフ	C.RT2移行リフ	維持リフ		
RT1中リフ A.231	維持リフ		C.RT2移行リフ	維持リフ		
RT1中リフ A.312		維持リフ	C.RT2移行リフ	C.RT2移行リフ	維持リフ	
RT1中リフ A.321		維持リフ			C.RT2移行リフ	
RT1中リフ B.123	C.RT3移行リフ			維持リフ		
RT1中リフ B.132	維持リフ	C.RT3移行リフ		維持リフ		
RT1中リフ B.213	維持リフ	C.RT3移行リフ	C.RT3移行リフ	維持リフ		
RT1中リフ B.231	維持リフ		C.RT3移行リフ	維持リフ		
RT1中リフ B.312		維持リフ	C.RT3移行リフ	C.RT3移行リフ	維持リフ	
RT1中リフ B.321		維持リフ			C.RT3移行リフ	
	省略					

(B) 天井短縮制御の例2

通常区間中有利区間移行抽籤テーブル(確率分母:256)

結果	抽籤値
非当籤	0 252
当籤(RT移行ナド1回)	1 3
当籤(RT移行ナド2回)	2 1

【図 1 0 9】

天井到達時の恩恵

(A) 制御概要

種別	1回当りの期待値	=	初期G数	×	上乗せ期待度
通常ART	期待値 α	=	少ない	×	高い
天井ART	期待値 α	=	多い	×	低い

(B) 制御例(1G当りの純増2枚のART)

通常ART 初期平均:50G 上乗せ:あり
ART1回当りの期待値:約500枚

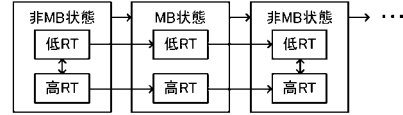


天井ART 初期:250G 上乗せなし
ART1回当りの期待値:約500枚

【図 1 1 0】

貫通型RTとMB状態とを用いた制御

(A) 遷移フロー



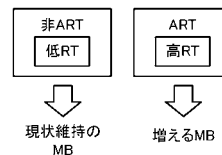
(B) MB中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	低RT	高RT
0	はずれ	39673	0
1	リプレイA	8970	0
2	リプレイB	0	48643
省略			

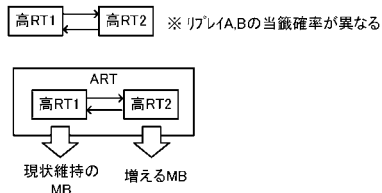
(C) MB中の停止制御

当籤役	表示役	払出
全小役	表示役A	3枚
全小役+リプレイA	表示役A	3枚
全小役+リプレイB	表示役B	9枚

(D) 制御例



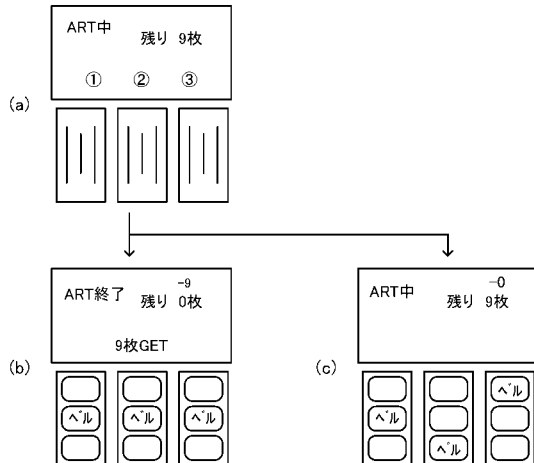
(E) 別の制御例



【図 1 1 1】

報知状態の終了時期の調整

(A) 制御例



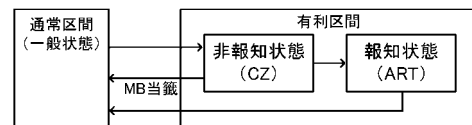
(B) 上乗せ例

上乗せ期待度(経過ゲーム数)						
0~50	51~53	54~76	77	78~98	99~100	...
低	中	低	高	低	高	...

【図 1 1 2】

有利区間の転落制御

(A) 報知状態(有利区間)の遷移フロー



(B) 一般遊技中内部抽籤テーブル(確率分母:65536)

No.	略称	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	はずれ	32768	32968	33268	33768	34268	34768
1	MB	6000	5800	5500	5000	4500	4000
省略							

(C) MBの当籤確率とART期待度

MBの確率 高い ← → 低い

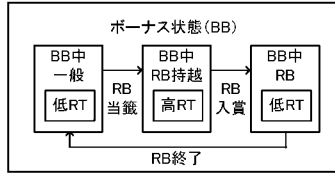
CZ期間 短い ← → 長い

ART期待度 低い ← → 高い

【図 1 1 3】

ボーナス状態中の特典付与制御

(A) ボーナス状態(BB)中の遷移フロー



(B) 内部抽籤テーブル(確率分母:65536)

No.	略称	BB中一般	BB中RB持越	対応する図柄組合せ
0	はずれ	17673	3843	-
1	通常リ	8970	45000	REP 01
2	押し順 Δ 1st	3000	3000	BEL 01 \sim 03 α
3	押し順 Δ 2nd	3000	3000	BEL 04 \sim 06 α
4	押し順 Δ 3rd	3000	3000	BEL 07 \sim 09 α
5	一般中強リ役	404	404	NML 01
6	一般中弱リ役	624	624	NML 02
7	RB (JAC)	22000	0	JAC 01

省略

No.	略称	BB中RB	対応する図柄組合せ
0	はずれ	39673	-
1	通常リ	8970	REP 01
2	RB中 Δ	3100	BEL 01 \sim 09 α
3	RB中強リ役	404	NML 01
4	RB中弱リ役	624	NML 02

省略

(C) BB中ART初当たり抽籤テーブル(確率分母:256)

結果	BB中一般or BB中RB持越		BB中RB	
	強リ役	弱リ役	強リ役	弱リ役
非当籤	32	128	96	224
当籤(初期50G)	224	128	150	30
当籤(初期100G)	0	0	5	1
当籤(初期200G)	0	0	5	1

【図 1 1 4】

(D) BB中ART上乗せ抽籤テーブル(確率分母:256)

結果	BB中一般or BB中RB持越		BB中RB	
	強リ役	弱リ役	強リ役	弱リ役
非当籤	0	0	64	128
当籤(上乗せ10G)	0	128	0	0
当籤(上乗せ20G)	128	96	0	0
当籤(上乗せ30G)	96	32	0	0
当籤(上乗せ50G)	32	0	128	96
当籤(上乗せ100G)	0	0	32	16
当籤(上乗せ200G)	0	0	32	16

(E) BB中のART抽籤概要

特典付与確率	BB中一般or BB中RB持越		BB中RB	
	高い	低い	高い	低い
特典の大きさ	小さい	大きい	小さい	大きい

※ 確率と大きさがクロス

	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G	8G
BB中一般								
BB中RB持越								
BB中RB								

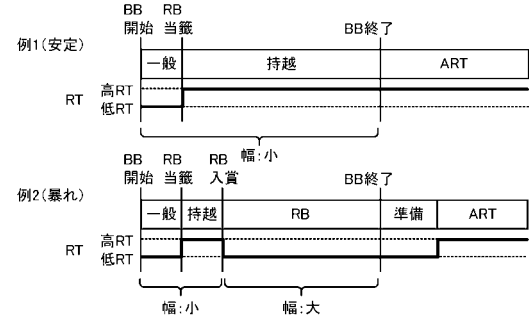
確率 高い
低い

大きさ 大きい
小さい

BB開始 RB当籤 RB入賞

幅:小 (安定) 幅:大 (暴れ)

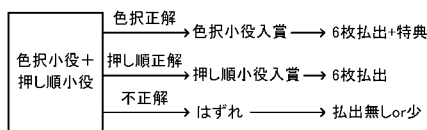
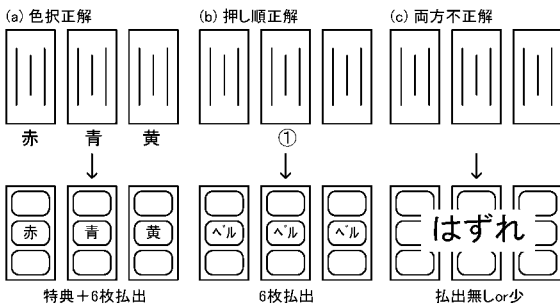
(F) BB中の遊技例



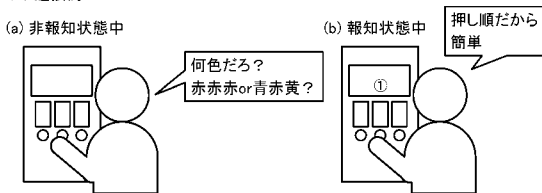
【図 1 1 5】

択当てによる特典制御

(A) 制御概要

(B) 停止制御例(色沢赤青黄+押し順 Δ 2nd)

(C) 遊技例



【図 1 1 6】

一般遊技中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	RT1	...	対応する図柄組合せ
0	はずれ	省略	...	省略
1	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
2	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
3	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
4	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
5	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
6	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
7	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
8	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
9	色沢 赤赤赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
10	色沢 赤赤青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
11	色沢 赤赤青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
12	色沢 赤赤青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
13	色沢 赤赤青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
14	色沢 赤赤青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
15	色沢 赤赤青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
16	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 1st	162	...	省略
17	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
18	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
19	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 1st	162	...	省略
20	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
21	色沢 赤赤黄+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
22	色沢 赤黄青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
23	色沢 赤黄青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
24	色沢 赤黄青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
25	色沢 赤黄青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
26	色沢 赤黄青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
27	色沢 赤黄青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
28	色沢 青赤赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
29	色沢 青赤赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
30	色沢 青赤赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
31	色沢 青赤青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
32	色沢 青赤青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
33	色沢 青赤青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
34	色沢 青赤黄+押し順 Δ 1st	162	...	省略
35	色沢 青赤黄+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
36	色沢 青赤黄+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
37	色沢 青黄青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
38	色沢 青黄青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
39	色沢 青黄青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
40	色沢 青黄青+押し順 Δ 1st	162	...	省略
41	色沢 青黄青+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
42	色沢 青黄青+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
43	色沢 青黄黄+押し順 Δ 1st	162	...	省略
44	色沢 青黄黄+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
45	色沢 青黄黄+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
46	色沢 青黄赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
47	色沢 青黄赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
48	色沢 青黄赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
49	色沢 青黄赤+押し順 Δ 1st	162	...	省略
50	色沢 青黄赤+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
51	色沢 青黄赤+押し順 Δ 3rd	162	...	省略
52	色沢 青黄黄+押し順 Δ 1st	162	...	省略
53	色沢 青黄黄+押し順 Δ 2nd	162	...	省略
54	色沢 青黄黄+押し順 Δ 3rd	162	...	省略

【図 1 1 7】

一般遊技中内部抽籤テーブル(設定値:1/確率分母:65536)

No.	略称	RT1	...	対応する図柄組合せ
55	色折 黄赤赤+押し順△ # 1st	162	...	省略
56	色折 黄赤赤+押し順△ # 2nd	162	...	省略
57	色折 黄赤赤+押し順△ # 3rd	162	...	省略
58	色折 黄赤青+押し順△ # 1st	162	...	省略
59	色折 黄赤青+押し順△ # 2nd	162	...	省略
60	色折 黄赤青+押し順△ # 3rd	162	...	省略
61	色折 黄赤黄+押し順△ # 1st	162	...	省略
62	色折 黄赤黄+押し順△ # 2nd	162	...	省略
63	色折 黄赤黄+押し順△ # 3rd	162	...	省略
64	色折 黄青赤+押し順△ # 1st	162	...	省略
65	色折 黄青赤+押し順△ # 2nd	162	...	省略
66	色折 黄青赤+押し順△ # 3rd	162	...	省略
67	色折 黄青黄+押し順△ # 1st	162	...	省略
68	色折 黄青黄+押し順△ # 2nd	162	...	省略
69	色折 黄青黄+押し順△ # 3rd	162	...	省略
70	色折 黄青青+押し順△ # 1st	162	...	省略
71	色折 黄青青+押し順△ # 2nd	162	...	省略
72	色折 黄青青+押し順△ # 3rd	162	...	省略
73	色折 黄黄赤+押し順△ # 1st	162	...	省略
74	色折 黄黄赤+押し順△ # 2nd	162	...	省略
75	色折 黄黄赤+押し順△ # 3rd	162	...	省略
76	色折 黄黄青+押し順△ # 1st	162	...	省略
77	色折 黄黄青+押し順△ # 2nd	162	...	省略
78	色折 黄黄青+押し順△ # 3rd	162	...	省略
79	色折 黄黄黄+押し順△ # 1st	162	...	省略
80	色折 黄黄黄+押し順△ # 2nd	162	...	省略
81	色折 黄黄黄+押し順△ # 3rd	162	...	省略

省略

【図 1 1 8】

表示役	名称	抽出
図柄の組合せ	図柄組合せ28-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ28-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ29-1	2
図柄の組合せ	図柄組合せ29-n	2

省略

図柄組合せテーブル

表示役	名称	抽出
図柄の組合せ	図柄組合せ19-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ19-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ20-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ20-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ21-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ21-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ22-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ22-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ23-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ23-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ24-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ24-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ25-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ25-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ26-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ26-n	6
図柄の組合せ	図柄組合せ27-1	6
図柄の組合せ	図柄組合せ27-n	6

【図 1 1 9】

内部当籤役と停止操作(押し順/目押し)と表示役との対応関係

略称	押し順	表示役
色折	色折	
左1st (1st)	赤赤赤 赤赤青 赤赤黄 赤青赤 赤青青 赤青黄 赤黄赤 赤黄青 赤黄黄	左1st
C.ベル		
左1st (1st)	青赤赤 青赤青 青赤黄 青青赤 青青青 青青黄 青黄赤 青黄青 青黄黄	左1st
C.ベル		
左1st (1st)	黄赤赤 黄赤青 黄赤黄 黄青赤 黄青青 黄青黄 黄黄赤 黄黄青 黄黄黄	左1st
C.ベル		
中1st (2nd)	赤赤赤 赤赤青 赤赤黄 赤青赤 赤青青 赤青黄 赤黄赤 赤黄青 赤黄黄	中1st
C.色折		
赤赤赤	C.ごぼし目又ははずれ	
中1st (2nd)	青赤赤 青赤青 青赤黄 青青赤 青青青 青青黄 青黄赤 青黄青 青黄黄	中1st
C.ごぼし目又ははずれ		
中1st (2nd)	黄赤赤 黄赤青 黄赤黄 黄青赤 黄青青 黄青黄 黄黄赤 黄黄青 黄黄黄	中1st
C.ごぼし目又ははずれ		
右1st (3rd)	赤赤赤 赤赤青 赤赤黄 赤青赤 赤青青 赤青黄 赤黄赤 赤黄青 赤黄黄	右1st
C.色折		
赤赤赤	C.ごぼし目又ははずれ	
右1st (3rd)	青赤赤 青赤青 青赤黄 青青赤 青青青 青青黄 青黄赤 青黄青 青黄黄	右1st
C.ごぼし目又ははずれ		
右1st (3rd)	黄赤赤 黄赤青 黄赤黄 黄青赤 黄青青 黄青黄 黄黄赤 黄黄青 黄黄黄	右1st
C.ごぼし目又ははずれ		
省略		

